教　育　要　項

――― 履修の手引き ―――

2025 年 4 月～2026 年 3 月

第 1 学年～第 6 学年

東京科学大学医学部医学科

医学部医学科 ※2025年度改正予定

教育理念

疾患の治療と予防及び健康の保持・増進を研究し、その成果を広く医療・福祉に応用する医学の発展を担う指導者を育成する。

教育目標

1. 幅広い教養と豊かな感性を備え、広い視野と高い倫理観をもつ人間性を培う。
2. 自ら問題を提起して解決し、医学のフロンティアを切り開く創造能力を修得する。
3. 世界的規模で働く国際人としての意識を持ち、世界に貢献できる医師・医学研究者を養成する。

求める学生像

1. 医学・医療に深い関心を有する。
2. 協調性とコミュニケーション能力に優れている。
3. 創造性とチャレンジ精神に富んでいる。
4. 高い倫理性を備えている。

カリキュラムポリシー

東京医科歯科大学の教育理念、および医学部医学科の教育理念に基づき「疾患の治療と予防及び健康の保持・増進を研究し、その成果を広く医療・福祉に応用する医学の発展を担う指導者を育成する」を見据え、ディプロマ・ポリシーを実現するためのカリキュラムの策定方針を以下の通り定める。

1.幅広い教養と豊かな感性を備え、広い視野と高い倫理観をもつ人間性を培う。専門教育に併走する形で教養教育および医療倫理教育を実施し、時間をかけて幅広い教養と感性を磨くと共に、医学医療に求められる高い倫理観の醸成をはかる。また、歯学科、保健衛生学科、口腔保健学科と共に学ぶ機会を設け、医療における広い視野を獲得する機会を与える。

2.自ら問題を提起して解決し、医学のフロンティアを切り開く創造能力を修得する。関連基礎医学分野の講義実習を一体的に実施(モジュール化)し、基礎的知識の統合的理解を促す。さらに、モジュールの配置はマクロからミクロへ基礎医学から臨床医学へと順次性にも配慮し、段階的な理解の深化をはかる。

また、臨床医学教育においては、臓器別に講義・演習・実習を集約し、関

連する基礎医学知識の確認、臨床医学の基本的知識を学ぶ講義とその知識の応用演習を通じて、臨床医学に関する基本的知識の深い理解を促す。

以上の教育に関連する医学英語および医学医療統計の講義・演習が行われ、医学・医療情報の批判的吟味能力を養成する。加えて、自由選択研究において研究面での問題提起、解決能力の基礎を固めるとともに、臨床導入実習および臨床実習においても少人数による演習を通じて臨床上の問題発見、解決能力の強化をはかる。

3.世界的規模で働く国際人としての意識を持ち、世界に貢献できる医師・医学研究者を養成する。入学当初に国際医療に関する学習機会を設定する他、その後も継続して医学を英語で学ぶ機会を設け、さらに海外の提携大学を中心とした単位互換の短期留学機会を設定し、国際人としての意識を高めるよう配慮する。

ディプロマ・ポリシー

医学部医学科では、全学共通科目の一部、研究実践プログラムおよび地域医療学習プログラムを除き全ての科目が必修科目であり、学年ごとに設定された進級要件（東京医科歯科大学全学共通科目履修規則及び東京医科歯科大学専門科目履修規則）を満たし、卒業までに、所定の単位を修得し、以下の要件を満たしている者に学位を授与する。

1.幅広い教養と豊かな感性

自然科学から人文科学に至る全学共通科目を履修するとともに、医学科専門科目においては生命科学に関する基本的な知識を修得し、実習を通じてその概念への理解を深めることが不可欠となる。さらに、医歯学融合教育科目においては、医歯学の隣接領域の学　習を通じて多職種が連携する医学医療への認識を深めることが必要となる。

2.問題提起、解決能力

全教育課程を通じてその涵養を目指すが、殊に自由選択学習（プロジェクトセメスター）は、自ら設定した課題を探究し成果を報告する貴重な機会であり、その履修は必須となる。

3.国際性

全学共通科目と医歯学基盤教育を通じて医学を英語で学ぶ基盤を確固たるものとするとともに、海外実習にも積極的に参加することが求められる。

上記の要件を満たし、さらに臨床実習の修了と卒業試験の合格が必須となる。卒業生が修得した学術的・臨床的知識を基盤として、研究意欲に富み、すぐれた人格と洞察力を持つ医療人となり、国内・世界の人々に貢献していくことを本学は強く望んでいる。

2025（令和7）年度医学部医学科授業計画

第1学年			第2学年			第3学年			第4学年			第5学年			第6学年		
区分		期間	区分		期間	区分		期間	区分		期間	区分		期間	区分		期間
前期授業	16W	2025（令和7）年 4.9（水）～7.29（火）	前期授業	16W	2025（令和7）年 4.1（火）～7.30（水）	前期授業	17W	2025（令和7）年 4.1（火）～8.6（水）	前期授業	17W	2025（令和7）年 4.1（火）～8.1（金）	臨床実習総論	1W	2025（令和7）年 3.31（月）～4.4（金）	臨床実習	4W	2025（令和7）年 4.7（月）～5.2（金）
夏季休業		7.30（水）～8.29（金）	夏季休業		7.31（木）～8.22（金）	夏季休業		8.7（木）～8.22（金）				臨床実習	4W	4.7（月）～5.2（金）	臨時休業		5.5（月）～5.9（金）
前期授業	2W	9.1（月）～9.12（金）	前期授業	4W	8.25（月）～9.19（金）	前期授業	4W	8.25（月）～9.19（金）				臨時休業		5.5（月）～5.9（金）	臨床実習	6W	5.12（月）～6.20（金）
									＊夏季休業		8.4（月）～8.15（金） ＊学生により異なる	臨床実習	32W	5.12（月）～12.19（金）	包括医療	2W	6.23（月）～7.4（金）
後期授業	14W	9.16（火）～12.19（金）	後期授業	13W	9.22（月）～12.19（金）	後期授業	14W	9.22（月）～12.19（金） ※12.22（月）～26（金）定期試験期間	後期授業	10W	8.18（月）～10.31（金）				臨床実習	12W	7.7（月）～9.26（金）
									PCC	8W	11.4（火）～12.26（金）				卒業試験		10.6（月）～10.24（金）
									冬季休業		12.29（月）～2026.1.2（金）						
冬季休業		12.22（月）～2026.1.2（金）	冬季休業		12.22（月）～2026.1.5（月）	冬季休業		12.29（月）～2026.1.2（金）	PCC	3W	2026（令和8）年 1.5（月）～1.23（金）				Post-CC OSCE		10.25（土）
												冬季休業		12.22（月）～2026.1.2（金）	臨時休業		10.27（月）～ 11.3（月）
後期授業	8W	2026（令和8）年 1.5（月）～2.27（金）	後期授業	8W	2026（令和8）年 1.6（火）～3.6（金）	後期授業	10W	2026（令和8）年 1.5（月）～2.20（金）	臨時休業		1.26（月）～2.13（金）	臨床実習	12W	2026（令和8）年 1.5（月）～3.27（金）	卒試再試験		11.4（火）～11.21（金）
									CBT		2.3（火）（予定）				臨時休業		11.24（月）～12.19（金）
									Pre-CC OSCE		2.14（土）・15（日）（予定）				冬季休業		12.22（月）～2026.1.2（金）
									CBT・Pre-CCOSCE再試験	2W	2.23（月）～3.8（日）				臨時休業		2026（令和8）年 1.5（月）～3.24（火）
臨時休業		2026.3.2（月）～	臨時休業		2026.3.9（月）～	臨時休業		2026.3.9（月）～	臨時休業		2026.3.9（月）～				卒業式		3.25（水）（予定）

主な行事
（2025年度）

入学式	2025.4.2（水）
M2・3・4合同オリエンテーション	2025.3.31（月）
M4プロジェクトセメスター開始	2025.5.26（月）
健康診断	2025.5月下旬：予定
実験動物慰霊式	2025.9.22（月）：予定
M4臨床実習前研修プログラム	2025.10.31（金）：予定
解剖体追悼式	2025.10.23（木）：予定
プロジェクトセメスター発表会	2025.10.31（金）：予定
医学系教員FD	2026.1.10（土）：予定
ご遺骨返還式	2026.2.20（金）：予定

２０２５（令和７）年度　授業時間割　第１学年

日付		8:50～10:20	10:45～12:15	13:30～15:00	15:25～16:55	17:15～18:45
3/31	月					
4/1	火					
4/2	水	入学式　※大岡山地区				
4/3	木	新入生健康診断、抗体検査、情報システム説明会　※湯島地区				
4/4	金	国府台ガイダンス				

4/7	月	大岡山Day
4/8	火	多職種連携Ⅰ　※湯島地区
4/9	水	国府台キャンパス講義
4/10	木	TOEFL、生物学プレースメントテスト、立志プロジェクトオンデマンド講義
4/11	金	国府台キャンパス講義

4/14	月	大岡山Day
4/15	火	国府台キャンパス講義
4/16	水	
4/17	木	
4/18	金	

4/21	月	大岡山Day
4/22	火	国府台キャンパス講義
4/23	水	
4/24	木	
4/25	金	

4/28	月	大岡山Day
4/29	火	昭和の日
4/30	水	国府台キャンパス講義
5/1	木	
5/2	金	

5/5	月	こどもの日
5/6	火	振替休日（みどりの日）
5/7	水	国府台キャンパス講義
5/8	木	
5/9	金	

5/12	月	大岡山Day
5/13	火	国府台キャンパス講義
5/14	水	
5/15	木	
5/16	金	

5/19	月	大岡山Day
5/20	火	国府台キャンパス講義
5/21	水	
5/22	木	
5/23	金	

5/26	月	大岡山Day
5/27	火	国府台キャンパス講義
5/28	水	
5/29	木	
5/30	金	

6/2	月	大岡山Day（立志プロジェクト予備日）
6/3	火	国府台キャンパス講義
6/4	水	
6/5	木	
6/6	金	

6/9	月	国府台キャンパス講義
6/10	火	
6/11	水	
6/12	木	
6/13	金	

日付		8:50～10:20	10:45～12:15	13:30～15:00	15:25～16:55	17:15～18:45
6/16	月	国府台キャンパス講義				
6/17	火					
6/18	水					
6/19	木					
6/20	金					

6/23	月	国府台キャンパス講義
6/24	火	
6/25	水	
6/26	木	
6/27	金	

6/30	月	国府台キャンパス講義
7/1	火	
7/2	水	
7/3	木	
7/4	金	

7/7	月	国府台キャンパス講義
7/8	火	
7/9	水	
7/10	木	
7/11	金	

7/14	月	国府台キャンパス講義
7/15	火	
7/16	水	
7/17	木	
7/18	金	

7/21	月	海の日
7/22	火	国府台キャンパス講義
7/23	水	
7/24	木	
7/25	金	

7/28	月	国府台キャンパス講義
7/29	火	
7/30	水	夏季休業
7/31	木	
8/1	金	

夏季休業：7月30日（水）～8月29日（金）

8/25	月	夏季休業
8/26	火	
8/27	水	
8/28	木	
8/29	金	

9/1	月	国府台キャンパス試験・補講
9/2	火	
9/3	水	
9/4	木	
9/5	金	

9/8	月	国府台キャンパス試験・補講
9/9	火	
9/10	水	
9/11	木	
9/12	金	

9/15	月	敬老の日			
9/16	火	医学導入 1			
9/17	水	英語教養基礎セミナー			
9/18	木	教養科目			
9/19	金	細胞生物学 1	匠講話1	自習・補講	自習・補講

9/22	月	細胞生物学 2	匠講話2	自習・補講	自習・補講
9/23	火	秋分の日			
9/24	水	英語教養基礎セミナー			
9/25	木	教養科目			
9/26	金	細胞生物学 3	匠講話3	自習・補講	自習・補講

日付		8:50～10:20	10:45～12:15	13:30～15:00	15:25～16:55	17:15～18:45
9/29	月	細胞生物学 4	匠講話4	自習・補講	自習・補講	
9/30	火	医学導入2				
10/1	水	英語教養基礎セミナー		CS/SC養成教育		
10/2	木	教養科目				
10/3	金	細胞生物学5	匠講話5	自習・補講	自習・補講	

10/6	月	細胞生物学6	匠講話6	自習・補講	自習・補講	
10/7	火	医学導入 3				
10/8	水	英語教養基礎セミナー		CS/SC養成教育		
10/9	木	教養科目				
10/10	金	細胞生物学7	匠講話7	自習・補講	自習・補講	

10/13	月	スポーツの日				
10/14	火	医学導入 4				
10/15	水	英語教養基礎セミナー		CS/SC養成教育		
10/16	木	教養科目				
10/17	金	細胞生物学8	匠講話8	自習・補講	自習・補講	

学園祭:10月18日（土）～10月19日（日）予定

10/20	月	臨時休業				
10/21	火	医学導入5				
10/22	水	英語教養基礎セミナー		CS/SC養成教育		
10/23	木	教養科目				
10/24	金	自習・補講	匠講話9	細胞生物学9	自習・補講	

10/27	月	細胞生物学10	匠講話10	自習・補講	自習・補講	
10/28	火	医学導入6				
10/29	水	英語教養基礎セミナー		CS/SC養成教育		
10/30	木	教養科目				
10/31	金	細胞生物学11	匠講話11	自習・補講	自習・補講	

11/3	月	文化の日				
11/4	火	医学導入7				
11/5	水	英語教養基礎セミナー		CS/SC養成教育		
11/6	木	教養科目				
11/7	金	細胞生物学12	自習・補講	自習・補講	自習・補講	

11/10	月	自習・補講	自習・補講	人体構造総論1	自習・補講	
11/11	火	医学導入 8				
11/12	水	英語教養基礎セミナー		CS/SC養成教育		
11/13	木	教養科目				
11/14	金	人体構造総論2	医学導入 9	自習・補講	自習・補講	

11/17	月	人体構造総論3	匠講話12	自習・補講	自習・補講	
11/18	火	匠講話13	医学導入 9			
11/19	水	英語教養基礎セミナー		CS/SC養成教育		
11/20	木	教養科目				
11/21	金	人体構造総論4	医学導入 11	人体構造総論5	自習・補講	

11/24	月	振替休日（11/23・勤労感謝の日）				
11/25	火	医学導入10				
11/26	水	英語教養基礎セミナー		CS/SC養成教育		
11/27	木	教養科目				
11/28	金	人体構造総論6	匠講話14	人体構造総論7	自習・補講	

12/1	月	人体構造総論8	自習・補講	人体構造総論9	医学導入 11	
12/2	火	自習・補講	匠講話15	医学導入 11	医学導入 11	
12/3	水	英語教養基礎セミナー		CS/SC養成教育		
12/4	木	教養科目				
12/5	金	人体構造総論10	人体構造総論11	自習・補講	自習・補講	

12/8	月	人体構造総論12	人体構造総論13	自習・補講	自習・補講	
12/9	火	医学導入 12				
12/10	水	英語教養基礎セミナー		CS/SC養成教育		
12/11	木	教養科目				
12/12	金	人体構造総論14	人体構造総論15	自習・補講	医学導入15時～17時	

日付		8:50～10:20	10:45～12:15	13:30～15:00	15:25～16:55	17:15～18:45
12/15	月	人体構造総論16	人体構造総論17	自習・補講	自習・補講	
12/16	火	医学導入 13				
12/17	水	英語教養基礎セミナー		CS/SC養成教育		
12/18	木	教養科目				
12/19	金	人体構造総論18	人体構造総論19	自習・補講	医学導入15時～17時	

冬季休業：12月22日（月）～2026年1月4日（日）

12/22	月	冬季休業
12/23	火	
12/24	水	
12/25	木	
12/26	金	

1/5	月	人体構造総論20	人体構造総論21	自習・補講	自習・補講	
1/6	火	医学導入 14				
1/7	水	英語教養基礎セミナー		CS/SC養成教育		
1/8	木	教養科目				
1/9	金	人体構造総論22	人体構造総論23	自習・補講	自習・補講	

医学系教員FD:1月10日（土）（予定）

1/12	月	成人の日				
1/13	火	医学導入 15				
1/14	水	CS/SC養成教育				
1/15	木	教養科目				
1/16	金	自習・補講	自習・補講	人体構造総論24	自習・補講	

1/19	月	自習・補講	自習・補講	自習・補講	自習・補講	
1/20	火	医学導入 16				
1/21	水	CS/SC養成教育				
1/22	木	教養科目				
1/23	金	自習・補講	自習・補講	自習・補講	細胞生物学	

1/26	月	自習・補講	自習・補講	自習・補講	自習・補講	
1/27	火	医学導入 17				
1/28	水	自習・補講	自習・補講	自習・補講	自習・補講	
1/29	木	教養科目				
1/30	金	自習・補講	自習・補講	自習・補講	人体構造総論	

2/2	月	自習・補講	自習・補講	自習・補講	自習・補講	
2/3	火	自習・補講	自習・補講	自習・補講	自習・補講	
2/4	水	（教養）定期試験／補講	（教養）定期試験／補講	（教養）定期試験／補講	（教養）定期試験／補講	
2/5	木	（教養）定期試験／補講	（教養）定期試験／補講	（教養）定期試験／補講	（教養）定期試験／補講	
2/6	金	自習・補講	自習・補講	自習・補講	自習・補講	

2/9	月	再試験期間
2/10	火	
2/11	水	建国記念の日
2/12	木	再試験期間
2/13	金	

2/16	月	再試験期間
2/17	火	
2/18	水	
2/19	木	
2/20	金	

2/23	月	天皇誕生日
2/24	火	再試験期間
2/25	水	
2/26	木	
2/27	金	

3/2	月	春季休業
3/3	火	
3/4	水	
3/5	木	
3/6	金	

２０２５（令和７）年度　授業時間割　第２学年

日付		8:50～10:20	10:45～12:15	13:30～15:00	15:25～16:55	17:15～18:45
3/31	月	合同ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	合同ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	（編）人体構造総論1	（編）人体構造総論2	（編）人体構造総論3
4/1	火	（編）人体構造総論4	（編）人体構造総論5	（編）人体構造総論6	（編）人体構造総論7	（編）人体構造総論8
4/2	水	入学式　※大岡山地区		CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）1		（編）人体構造総論9
4/3	木	（編）人体構造総論10	（編）人体構造総論11	（編）人体構造総論12	（編）人体構造総論13	（編）人体構造総論14
4/4	金	（編）人体構造総論15	（編）人体構造総論16	（編）人体構造総論17	（編）人体構造総論18	（編）人体構造総論19
4/7	月	（編）人体構造総論20	（編）人体構造総論21	（編）人体構造総論22	（編）人体構造総論	（編）細胞生物学 1
4/8	火	組織学 1	組織学　2	（編）細胞生物学 2	（編）細胞生物学 3	（編）細胞生物学 4
4/9	水	生理学　1	生理学　2	人体解剖学 1	（編）細胞生物学 5	（編）細胞生物学6
4/10	木	共通枠		人体解剖学 2	人体解剖学 3	（編）細胞生物学7
4/11	金	人体解剖学 4	人体解剖学実習1	人体解剖学実習2	人体解剖学実習3	（編）細胞生物学8
4/14	月	組織学 3	組織学実習1	組織学実習2	組織学実習3	（編）細胞生物学9
4/15	火	解剖実習説明会	人体解剖学実習4	人体解剖学実習5	人体解剖学実習6	（編）細胞生物学10
4/16	水	生理学　3	生理学　4	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）2		（編）細胞生物学11
4/17	木	共通枠		人体解剖学5		（編）細胞生物学12
4/18	金	人体解剖学 6	人体解剖学実習7	人体解剖学実習8	人体解剖学実習9	
4/21	月	組織学 4	組織学実習4	組織学実習5	組織学実習6	（編）細胞生物学
4/22	火	人体解剖学 7	人体解剖学実習10	人体解剖学実習11	人体解剖学実習12	
4/23	水	生理学　5	生理学　6	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）3		
4/24	木	2限に医療とAI・ビッグデータ応用1,2		人体解剖学 8	組織学 5	
4/25	金	人体解剖学 9	人体解剖学実習13	人体解剖学実習14	人体解剖学実習15	
4/28	月	人体解剖学 10	人体解剖学実習16	人体解剖学実習17	人体解剖学実習18	
4/29	火	昭和の日				
4/30	水	生理学　7	生理学　8	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）4		
5/1	木	人体解剖学 11	人体解剖学実習19	人体解剖学実習20	人体解剖学実習21	
5/2	金	人体解剖学 12	人体解剖学実習22	人体解剖学実習23	人体解剖学実習24	
5/5	月	こどもの日				
5/6	火	振替休日（みどりの日）				
5/7	水	生理学　9	生理学　10	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）5		
5/8	木	2限に医療とAI・ビッグデータ応用3,4		人体解剖学13		
5/9	金	人体解剖学 14	人体解剖学実習25	人体解剖学実習26	人体解剖学実習27	
5/12	月	組織学 6	組織学実習7	組織学実習8	組織学実習9	
5/13	火	人体解剖学 15	人体解剖学実習28	人体解剖学実習29	人体解剖学実習30	
5/14	水	生理学　11	生理学　12	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）6		
5/15	木	2限に医療とAI・ビッグデータ応用5,6				
5/16	金	人体解剖学 16	人体解剖学実習31	人体解剖学実習32	人体解剖学実習33	
5/19	月	組織学 7	組織学実習10	組織学実習11	組織学実習12	
5/20	火	人体解剖学 17	人体解剖学実習34	人体解剖学実習35	人体解剖学実習36	
5/21	水	生理学　13	生理学　14	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）7		
5/22	木	共通枠		人体解剖学 18	組織学 8	
5/23	金	人体解剖学 19	人体解剖学実習37	人体解剖学実習38	人体解剖学実習39	
5/26	月	組織学 9	組織学実習13	組織学実習14	組織学実習15	
5/27	火	人体解剖学 20	人体解剖学実習40	人体解剖学実習41	人体解剖学実習42	
5/28	水	生理学　15	生理学　16	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）8		
5/29	木	2限に医療とAI・ビッグデータ応用7,8		人体解剖学 21	人体解剖学22	
5/30	金	人体解剖学 23	人体解剖学実習43	人体解剖学実習44	人体解剖学実習45	
6/2	月	組織学 10	組織学実習16	組織学実習17	組織学実習18	
6/3	火	人体解剖学 24	人体解剖学実習46	人体解剖学実習47	人体解剖学実習48	
6/4	水	生理学　17	生理学　18	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）9		
6/5	木	共通枠		人体解剖学 25	組織学 11	
6/6	金	人体解剖学 26	人体解剖学実習49	人体解剖学実習50	人体解剖学実習51	
6/9	月	組織学 12	組織学実習19	組織学実習20	組織学実習21	
6/10	火	人体解剖学 27	人体解剖学実習52	人体解剖学実習53	人体解剖学実習54	
6/11	水	生理学　19	生理学　20	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）10		
6/12	木	共通枠		人体解剖学 28		
6/13	金	人体解剖学 29	人体解剖学実習55	人体解剖学実習56	自習・補講	

日付		8:50～10:20	10:45～12:15	13:30～15:00	15:25～16:55	17:15～18:45
6/16	月	組織学 13	組織学実習22	組織学実習23	組織学実習24	
6/17	火	納棺式	納棺式	納棺式	自習・補講	
6/18	水	生理学　21	生理学　22	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）11		
6/19	木	2限に医療とAI・ビッグデータ応用9,10		自習・補講	自習・補講	
6/20	金	自習・補講	生理学　23	組織学 14	組織学 15	
6/23	月		組織学実習			
6/24	火					
6/25	水		組織学	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）12		
6/26	木	共通枠				
6/27	金		生理学			
6/30	月		人体解剖学			
7/1	火	神経解剖学　1	神経解剖学　2	薬理学　1		
7/2	水	薬理学　2	薬理学　3	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）13		
7/3	木	2限に医療とAI・ビッグデータ応用11,12		分子遺伝学　1	分子遺伝学　2	
7/4	金	生化学　1	生化学　2	生化学　3		
7/7	月			神経解剖学実習　1		
7/8	火	薬理学　4	薬理学　5	生化学　4		
7/9	水	薬理学　6	薬理学　7	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）14		
7/10	木	2限に医療とAI・ビッグデータ応用13,14		分子遺伝学　3	分子遺伝学　4	
7/11	金	薬理学　8	薬理学　9	生化学　5	生化学　6	
7/14	月	神経解剖学　3	神経解剖学　4	薬理学　10	薬理学　11	
7/15	火	生化学　7	生化学　8	分子遺伝学　5	分子遺伝学　6	
7/16	水	薬理学　12	薬理学　13	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）15		
7/17	木	2限に医療とAI・ビッグデータ応用15,16				
7/18	金	神経解剖学実習　2				
7/21	月	海の日				
7/22	火	生化学　9	生化学　10	生化学　11		
7/23	水	生化学　12	生化学　13	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）16		
7/24	木			分子遺伝学　7	分子遺伝学　8	
7/25	金	生化学　14	生化学　15	薬理学　14	薬理学　15	
7/28	月					
7/29	火					
7/30	水			CS/SC養成教育（予備日）		
7/31	木	夏季休業				
8/1	金					
8/25	月		生化学			
8/26	火					
8/27	水		薬理学			
8/28	木	共通枠				
8/29	金		分子遺伝学			
9/1	月	神経解剖学　5	神経解剖学　6			
9/2	火	神経科学　1	神経科学　2	神経科学　3	神経科学　4	
9/3	水	神経科学　5	神経科学　6			
9/4	木	共通枠		神経科学　7	神経科学　8	
9/5	金			神経解剖学実習　3		
9/8	月	神経解剖学　7	神経解剖学　8	神経解剖学　9		
9/9	火	神経科学　9	神経科学　10	神経科学　11	神経科学　12	
9/10	水	神経科学　13	神経科学　14			
9/11	木	共通枠		神経科学　15	神経科学　16	
9/12	金			神経解剖学実習　4		
9/15	月	敬老の日				
9/16	火	神経解剖学　10	神経解剖学　11			
9/17	水	神経科学　17	神経科学　18	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）17		
9/18	木	共通枠		神経科学　19	神経科学　20	
9/19	金	神経解剖学実習　5				
9/22	月	神経解剖学　12	神経解剖学　13	実験動物慰霊式（未定）		
9/23	火	秋分の日				
9/24	水	神経科学　21	神経科学　22	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）18		
9/25	木	共通枠		神経科学　23	神経科学　24	
9/26	金	神経解剖学実習　6				

日付		8:50～10:20	10:45～12:15	13:30～15:00	15:25～16:55	17:15～18:45
9/29	月	神経解剖学　14	神経解剖学　15			
9/30	火					
10/1	水	神経科学　25	神経科学　26	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）19		
10/2	木	共通枠		神経科学　27		
10/3	金			神経解剖学実習　7		
10/6	月	神経解剖学　16	神経解剖学　17			
10/7	火					
10/8	水	神経解剖学　18	神経解剖学　19	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）20		
10/9	木	共通枠				
10/10	金			神経解剖学実習　8		
10/13	月	スポーツの日				
10/14	火		神経解剖学			
10/15	水			CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）21		
10/16	木	共通枠				
10/17	金		神経科学			
10/20	月	臨時休業				
10/21	火	感染・基礎　1	感染・基礎　2			
10/22	水	感染・基礎　3	感染・基礎　4	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）22		
10/23	木	解剖体追悼式（予定）				
10/24	金	免疫学　1	免疫学　2	免疫学　3	免疫学　4	
10/27	月	免疫学　5	免疫学　6	感染・基礎　5	感染・基礎　6	
10/28	火	免疫学　7	免疫学　8	免疫学　9	免疫学　10	
10/29	水	免疫学　11	免疫学　12	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）23		
10/30	木	共通枠				
10/31	金	免疫学　13	免疫学　14	感染・基礎　7	感染・基礎　8	
11/3	月	文化の日				
11/4	火	免疫学　15	免疫学　16	感染・基礎　9	感染・基礎　10	
11/5	水	免疫学　17	免疫学　18	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）24		
11/6	木	共通枠		免疫学　19		
11/7	金	医動物学　1	医動物学　2	感染・基礎　11		
11/10	月	医動物学　3	医動物学　4			
11/11	火	医動物学　5	医動物学　6	医動物学　7		
11/12	水	感染・基礎　12	感染・基礎　13	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）25		
11/13	木	共通枠		感染・基礎　14	感染・基礎　15	
11/14	金	医動物学　8	医動物学　9	医動物学実習　1	医動物学実習　2	
11/17	月	医動物学実習　3	医動物学実習　4	医動物学実習　5	医動物学実習　6	
11/18	火	医動物学実習　7	医動物学実習　8	医動物学実習　9	医動物学実習　10	
11/19	水	医動物学実習　11	医動物学実習　12	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）26		
11/20	木	共通枠		免疫学		
11/21	金		感染・基礎			
11/24	月	振替休日（11/23・勤労感謝の日）				
11/25	火					
11/26	水			CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）27		
11/27	木	共通枠				
11/28	金		医動物学			
12/1	月		医動物学実習			
12/2	火	病理学総論1	病理学総論2	病理学総論3		
12/3	水	病理学総論4	病理学総論5	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）28		
12/4	木	共通枠		病理学総論6	病理学総論7	
12/5	金	病理学総論8	病理学総論9	病理学総論10		
12/8	月					
12/9	火	腫瘍学1	腫瘍学2	腫瘍学3		
12/10	水	腫瘍学4	腫瘍学5	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）29		
12/11	木	共通枠		腫瘍学6	腫瘍学7	
12/12	金	腫瘍学8	腫瘍学9	腫瘍学10		

日付		8:50～10:20	10:45～12:15	13:30～15:00	15:25～16:55	17:15～18:45
12/15	月	基礎医学実習1	基礎医学実習2	基礎医学実習3	基礎医学実習4	
12/16	火	基礎医学実習5	基礎医学実習6	基礎医学実習7	基礎医学実習8	
12/17	水	基礎医学実習9	基礎医学実習10	CS/SC養成教育（予備日）		
12/18	木	共通枠		基礎医学実習11	基礎医学実習12	
12/19	金	基礎医学実習13	基礎医学実習14	基礎医学実習15	基礎医学実習16	
12/22	月	冬季休業				
12/23	火					
12/24	水					
12/25	木					
12/26	金					
		冬季休業：12月22日（月）～2026年1月5日（月）				
1/5	月	冬季休業				
1/6	火	基礎医学実習17	基礎医学実習18	基礎医学実習19	基礎医学実習20	基礎医学実習21
1/7	水	基礎医学実習22	基礎医学実習23	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）30		
1/8	木	共通枠		基礎医学実習24	基礎医学実習25	基礎医学実習26
1/9	金	基礎医学実習27	基礎医学実習28	基礎医学実習29	基礎医学実習30	基礎医学実習31
		学園祭:10月18日（土）～10月19日（日）予定			医学系教員FD:1月10日（土）（予定）	
1/12	月	成人の日				
1/13	火	基礎医学実習32	基礎医学実習33	基礎医学実習34	基礎医学実習35	基礎医学実習36
1/14	水	基礎医学実習37	基礎医学実習38	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）31		
1/15	木	共通枠		基礎医学実習39	基礎医学実習40	基礎医学実習41
1/16	金	基礎医学実習42	基礎医学実習43	基礎医学実習44	基礎医学実習45	基礎医学実習46
1/19	月	臨床医学導入1	臨床医学導入2	臨床医学導入3		
1/20	火	臨床医学導入4	臨床医学導入5	臨床医学導入6		
1/21	水	臨床医学導入7	臨床医学導入8	CS/SC養成教育（4限に教養セミナー）32		
1/22	木	共通枠		循環器1	循環器2	
1/23	金	循環器3	循環器4	循環器5		
1/26	月	循環器6	循環器7	循環器8		
1/27	火	循環器9	循環器10	循環器11		
1/28	水	循環器12	循環器13			
1/29	木	共通枠		循環器14	循環器15	
1/30	金	循環器16	循環器17	循環器18		
2/2	月					
2/3	火	循環器19	循環器20	循環器21		
2/4	水	循環器22	循環器23			
2/5	木	共通枠		病理学		
2/6	金					
2/9	月		腫瘍学 臨床医学導入（臨床検査医学）	臨床医学導入（放射線）		
2/10	火					
2/11	水	建国記念の日				
2/12	木	共通枠				
2/13	金		循環器			
2/16	月					
2/17	火					
2/18	水					
2/19	木	共通枠				
2/20	金	ご遺骨返還式及び感謝状贈呈式（未定）				
2/23	月	天皇誕生日				
2/24	火					
2/25	水	再試験期間				
2/26	木					
2/27	金					
3/2	月					
3/3	火					
3/4	水	再試験期間				
3/5	木					
3/6	金					

２０２５（令和７）年度　授業時間割　第３学年

日付		8:50～10:20	10:45～12:15	13:30～15:00	15:25～16:55	17:15～18:45
3/31	月	合同ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	合同ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ			
4/1	火			CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）1		
4/2	水	消化器1	消化器2			
4/3	木	消化器3	消化器4			
4/4	金	消化器5	消化器6			
4/7	月	消化器7	消化器8			
4/8	火	消化器9	消化器10	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）2		
4/9	水	消化器11	消化器12			
4/10	木	共通枠		消化器13	消化器14	
4/11	金	消化器15	消化器16			
4/14	月	消化器17	消化器18			
4/15	火	消化器19	消化器20	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）3		
4/16	水	消化器21	消化器22			
4/17	木	共通枠		消化器23		
4/18	金	腎臓・泌尿器1	腎臓・泌尿器2			
4/21	月	腎臓・泌尿器3	腎臓・泌尿器4			
4/22	火	腎臓・泌尿器5	腎臓・泌尿器6	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）4		
4/23	水	腎臓・泌尿器7	腎臓・泌尿器8			
4/24	木	共通枠（2限生命倫理）		腎臓・泌尿器9	腎臓・泌尿器10	
4/25	金	腎臓・泌尿器11	腎臓・泌尿器12			
4/28	月	腎臓・泌尿器13	腎臓・泌尿器14			
4/29	火	昭和の日				
4/30	水	腎臓・泌尿器15	腎臓・泌尿器16			
5/1	木			腎臓・泌尿器17	腎臓・泌尿器18	
5/2	金	腎臓・泌尿器19	腎臓・泌尿器20			
5/5	月	こどもの日				
5/6	火	振替休日（みどりの日）				
5/7	水	腎臓・泌尿器21	腎臓・泌尿器22	腎臓・泌尿器23		
5/8	木	共通枠（2限生命倫理）				
5/9	金					
5/12	月		消化器			
5/13	火			CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）5		
5/14	水		腎臓・泌尿器（腎臓内科）			
5/15	木	共通枠（2限生命倫理）				
5/16	金		腎臓・泌尿器（泌尿器科）			
5/19	月	一般外科1	一般外科2	一般外科3		
5/20	火	一般外科4	一般外科5	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）6		
5/21	水	一般外科6	一般外科7	一般外科8		
5/22	木	共通枠				
5/23	金	多職種連携 II				
5/26	月	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学1）	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学2）	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学3）		
5/27	火	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学4）	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学5）	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）7		
5/28	水	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学6）	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学7）	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学8）		
5/29	木	共通枠（2限生命倫理）				
5/30	金					
6/2	月		一般外科			
6/3	火			CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）8		
6/4	水					
6/5	木	共通枠（2限生命倫理）				
6/6	金					
6/9	月	呼吸器1	呼吸器2			
6/10	火	呼吸器3	呼吸器4	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）9		
6/11	水	呼吸器5	呼吸器6			
6/12	木	共通枠（2限生命倫理）		呼吸器7		
6/13	金	呼吸器8	呼吸器9	呼吸器10		
6/16	月	呼吸器11	呼吸器12	呼吸器13		
6/17	火	呼吸器14	呼吸器15	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）10		
6/18	水	神経科学・臨床1	神経科学・臨床2			
6/19	木	共通枠（2限生命倫理）				
6/20	金	神経科学・臨床3	神経科学・臨床4			

日付		8:50～10:20	10:45～12:15	13:30～15:00	15:25～16:55	17:15～18:45
6/23	月	神経科学・臨床5	神経科学・臨床6			
6/24	火	神経科学・臨床7	神経科学・臨床8	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）11		
6/25	水	神経科学・臨床9	神経科学・臨床10			
6/26	木	共通枠（2限生命倫理）		神経科学・臨床11	神経科学・臨床12	
6/27	金	神経科学・臨床13	神経科学・臨床14			
6/30	月	神経科学・臨床15	神経科学・臨床16			
7/1	火	神経科学・臨床17	神経科学・臨床18	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）12		
7/2	水	神経科学・臨床19	神経科学・臨床20			
7/3	木	共通枠（2限生命倫理）				
7/4	金	神経科学・臨床21	神経科学・臨床22			
7/7	月	神経科学・臨床23	神経科学・臨床24			
7/8	火	神経科学・臨床25	神経科学・臨床26	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）13		
7/9	水	神経科学・臨床27	神経科学・臨床28			
7/10	木	共通枠（2限生命倫理）				
7/11	金	神経科学・臨床29	神経科学・臨床30			
7/14	月	血液・腫瘍1	血液・腫瘍2			
7/15	火	血液・腫瘍3	血液・腫瘍4	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）14		
7/16	水	血液・腫瘍5	血液・腫瘍6			
7/17	木	共通枠（2限生命倫理（到達度評価））				
7/18	金	血液・腫瘍7	血液・腫瘍8			
7/21	月	海の日				
7/22	火	血液・腫瘍9	血液・腫瘍10	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）15		
7/23	水	血液・腫瘍11	血液・腫瘍12			
7/24	木	共通枠		血液・腫瘍13		
7/25	金	血液・腫瘍14	血液・腫瘍15			
7/28	月		呼吸器			
7/29	火		神経科学・臨床（精神科）	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）16		
7/30	水		神経科学・臨床（脳神経外科）			
7/31	木					
8/1	金					
8/4	月		神経科学・臨床（脳神経内科）			
8/5	火					
8/6	水			血液・腫瘍		
8/7	木					
8/8	金					
8/25	月	感染・臨床1	感染・臨床2			
8/26	火	感染・臨床3	感染・臨床4	CS/SC養成教育（予備枠）		
8/27	水	感染・臨床5	感染・臨床6			
8/28	木	共通枠（2限生命倫理）				
8/29	金	感染・臨床7	感染・臨床8			
9/1	月	骨・関節・脊椎1	骨・関節・脊椎2			
9/2	火	骨・関節・脊椎3	骨・関節・脊椎4	CS/SC養成教育（予備枠）		
9/3	水	骨・関節・脊椎5	骨・関節・脊椎6			
9/4	木	共通枠（2限生命倫理）		骨・関節・脊椎7		
9/5	金	骨・関節・脊椎8	骨・関節・脊椎9			
9/8	月	骨・関節・脊椎10	骨・関節・脊椎11			
9/9	火	骨・関節・脊椎12	骨・関節・脊椎13	CS/SC養成教育（予備枠）		
9/10	水	骨・関節・脊椎14	骨・関節・脊椎15			
9/11	木	共通枠（2限生命倫理）		内分泌・代謝1	内分泌・代謝2	
9/12	金	内分泌・代謝3	内分泌・代謝4			
9/15	月	敬老の日				
9/16	火	内分泌・代謝5	内分泌・代謝6	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）17		
9/17	水	内分泌・代謝7	内分泌・代謝8	内分泌・代謝9		
9/18	木	共通枠（2限生命倫理）		内分泌・代謝10	内分泌・代謝11	
9/19	金	内分泌・代謝12	内分泌・代謝13			
9/22	月	内分泌・代謝14	内分泌・代謝15			
9/23	火	秋分の日				
9/24	水	医学、皮膚・アレルギー（皮膚・アレルギー1）	医学、皮膚・アレルギー（皮膚・アレルギー2）	医学、皮膚・アレルギー（皮膚・アレルギー3）	医学、皮膚・アレルギー（皮膚・アレルギー4）	
9/25	木	共通枠（2限生命倫理）			医学、皮膚・アレルギー（皮膚・アレルギー5）	
9/26	金	医学、皮膚・アレルギー（皮膚・アレルギー6）	医学、皮膚・アレルギー（皮膚・アレルギー7）	医学、皮膚・アレルギー（皮膚・アレルギー8）		

日付		8:50～10:20	10:45～12:15	13:30～15:00	15:25～16:55	17:15～18:45
9/29	月	腎臓系、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・アレルギー（腎臓系）1	腎臓系、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・アレルギー（腎臓系）2			
9/30	火			CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）18		
10/1	水	腎臓系、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・アレルギー（腎臓系）3	腎臓系、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・アレルギー（腎臓系）4	腎臓系、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・アレルギー（腎臓系）5		
10/2	木	共通枠（2限生命倫理）		自習・補講		
10/3	金	腎臓系、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・アレルギー（腎臓系）7	腎臓系、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・アレルギー（腎臓系）8			
10/6	月		感染・臨床			
10/7	火		骨・関節・脊椎	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）19		
10/8	水		内分泌・代謝			
10/9	木	共通枠（2限生命倫理）				
10/10	金	皮膚・アレルギー	膠原病			
10/13	月	スポーツの日				
10/14	火			CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）20		
10/15	水	頭頸部・臨床1	頭頸部・臨床2			
10/16	木	共通枠（2限生命倫理）		頭頸部・臨床3	頭頸部・臨床4	
10/17	金	頭頸部・臨床5	頭頸部・臨床6			
学園祭:10月18日（土）～10月19日（日）予定						
10/20	月	臨時休業				
10/21	火	頭頸部・臨床7	頭頸部・臨床8	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）21		
10/22	水	頭頸部・臨床9	頭頸部・臨床（頭頸部外科）			
10/23	木	共通枠（2限生命倫理）		頭頸部・臨床10	頭頸部・臨床11	
10/24	金	頭頸部・臨床12	頭頸部・臨床13	頭頸部・臨床14	頭頸部・臨床15	
10/27	月	頭頸部・臨床16	頭頸部・臨床（耳鼻咽喉科）			
10/28	火	頭頸部・臨床17	頭頸部・臨床18	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）22		
10/29	水	頭頸部・臨床19	頭頸部・臨床20			
10/30	木	共通枠（2限生命倫理）		頭頸部・臨床21	頭頸部・臨床22	
10/31	金	頭頸部・臨床23	頭頸部・臨床（形成外科）			
11/3	月	文化の日				
11/4	火	頭頸部・臨床24	頭頸部・臨床25	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）23		
11/5	水	頭頸部・臨床26	頭頸部・臨床27	頭頸部・臨床28	頭頸部・臨床29	
11/6	木	共通枠（2限生命倫理）		頭頸部・臨床30	頭頸部・臨床（眼科）	
11/7	金	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学1）	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学2）	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学3）		
11/10	月	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学4）	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学5）			
11/11	火	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学6）	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学7）	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）24		
11/12	水	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学8）	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学9）	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学10）		
11/13	木	共通枠（2限生命倫理）		医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学11）	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学12）	
11/14	金	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学13）	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学14）			
11/17	月	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学15）	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学16）	医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学17）		
11/18	火			CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）25		
11/19	水					
11/20	木	共通枠（2限生命倫理）				
11/21	金		総合診療・地域医療・東洋医学			
11/24	月	振替休日（11/23・勤労感謝の日）				
11/25	火	生殖・発達1	生殖・発達2	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）26		
11/26	水	生殖・発達3	生殖・発達4	生殖・発達5	生殖・発達6	
11/27	木	共通枠（2限生命倫理）		生殖・発達7		
11/28	金	生殖・発達8	生殖・発達9	生殖・発達10		
12/1	月	生殖・発達11	生殖・発達12	生殖・発達13		
12/2	火	生殖・発達14	生殖・発達15	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）27		
12/3	水	生殖・発達16	生殖・発達17	生殖・発達18		
12/4	木	共通枠（2限生命倫理（到達度評価））		生殖・発達19		
12/5	金	生殖・発達20	生殖・発達21	生殖・発達22		
12/8	月	生殖・発達23	生殖・発達24	生殖・発達25		
12/9	火	生殖・発達26	生殖・発達27	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）28		
12/10	水	生殖・発達28	生殖・発達29	生殖・発達30		
12/11	木	共通枠（2限生命倫理（到達度評価））		救急・麻酔・集中治療1	救急・麻酔・集中治療2	
12/12	金	救急・麻酔・集中治療3	救急・麻酔・集中治療4	救急・麻酔・集中治療5		

日付		8:50～10:20	10:45～12:15	13:30～15:00	15:25～16:55	17:15～18:45
12/15	月	救急・麻酔・集中治療6	救急・麻酔・集中治療7	救急・麻酔・集中治療8		
12/16	火	救急・麻酔・集中治療9	救急・麻酔・集中治療10	CS／SC養成教育（予備日）		
12/17	水	救急・麻酔・集中治療11	救急・麻酔・集中治療12	救急・麻酔・集中治療13		
12/18	木	共通枠				
12/19	金	救急・麻酔・集中治療14	救急・麻酔・集中治療15			
12/22	月		生殖・発達（産婦人科）			
12/23	火		生殖・発達（小児科）			
12/24	水		救急・麻酔・集中治療（救急）			
12/25	木	共通枠				
12/26	金		救急・麻酔・集中治療（麻酔・集中治療）			
冬季休業：12月29日（月）～1月2日（金）						
1/5	月	公衆衛生学 1	公衆衛生学 2	公衆衛生学 3		
1/6	火	生物統計学 1	生物統計学 2	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）29		
1/7	水	法医学 1	法医学 2			
1/8	木	共通枠		法医学 3	法医学 4	
1/9	金	自習・補講	自習・補講	行動科学 1	行動科学 2	
医学系教員FD:1月10日（土）（予定）						
1/12	月	成人の日				
1/13	火	生物統計学 3	生物統計学 4	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）30		
1/14	水	公衆衛生学 4	公衆衛生学 5	公衆衛生学 6		
1/15	木	共通枠		法医学 5	法医学 6	
1/16	金	行動科学 3	行動科学 4			
1/19	月	生物統計学 5	生物統計学 6	衛生学 1	衛生学 2	
1/20	火	公衆衛生学 7	公衆衛生学 8	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）31		
1/21	水	行動科学 5	行動科学 6	衛生学 3	衛生学 4	
1/22	木	共通枠		衛生学 5	衛生学 6	
1/23	金	法医学 7	法医学 8			
1/26	月	生物統計学 7	生物統計学 8			
1/27	火	行動科学 7	行動科学 8	CS／SC養成教育（4限に教養セミナーII）32		
1/28	水	公衆衛生学 9	公衆衛生学 10	公衆衛生学 11	公衆衛生学 12	
1/29	木	共通枠		衛生学 7	衛生学 8	
1/30	金					
2/2	月	選択社会科学系実習（法医学実習/公衆衛生学実習）				
2/3	火					
2/4	水					
2/5	木	共通枠				
2/6	金					
2/9	月		衛生学			
2/10	火					
2/11	水	建国記念の日				
2/12	木	共通枠		行動科学		
2/13	金		法医学			
2/16	月	自習・補講	公衆衛生学	自習・補講	自習・補講	
2/17	火	自習・補講	自習・補講	自習・補講	自習・補講	
2/18	水	自習・補講	生物統計学	自習・補講	自習・補講	
2/19	木	共通枠		自習・補講	自習・補講	
2/20	金	自習・補講	自習・補講	自習・補講	自習・補講	
2/23	月	天皇誕生日				
2/24	火					
2/25	水	再試験期間				
2/26	木					
2/27	金					
3/2	月					
3/3	火					
3/4	水	再試験期間				
3/5	木					
3/6	金					

２０２５年度（令和7）　授業時間割　第４学年

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
3/31	月	合同ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	合同ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ			
4/1	火	生殖・発達ブロック（１週目）				
4/2	水					
4/3	木	医歯学基盤教育				
4/4	金					
4/7	月	生殖・発達ブロック（2週目）				
4/8	火					
4/9	水					
4/10	木	医歯学基盤教育				
4/11	金					
4/14	月	救急・麻酔ブロック（1週目）				
4/15	火					
4/16	水					
4/17	木	医歯学基盤教育				
4/18	金					
4/21	月	救急・麻酔ブロック（2週目）				
4/22	火					
4/23	水					
4/24	木	医歯学基盤教育				
4/25	金					
4/28	月	救急・麻酔ブロック（3週目）				
4/29	火	昭和の日				
4/30	水	救急・麻酔ブロック（3週目）				
5/1	木	医歯学基盤教育				
5/2	金	救急・麻酔ブロック（試験）				
5/5	月	こどもの日				
5/6	火	振替休日（みどりの日）				
5/7	水	生殖・発達ブロック（３週目）				
5/8	木	医歯学基盤教育				
5/9	金					
5/12	月	生殖・発達ブロック（４週目）				
5/13	火					
5/14	水					
5/15	木					
5/16	金	生殖・発達ブロック（試験）				
5/19	月	公衆衛生学実習				
5/20	火					
5/21	水					
5/22	木					
5/23	金					
5/26	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）（１週目）				
5/27	火					
5/28	水					
5/29	木					
5/30	金					
6/2	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）（２週目）				
6/3	火					
6/4	水					
6/5	木					
6/6	金					
6/9	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）（３週目）				
6/10	火					
6/11	水					
6/12	木					
6/13	金					
6/16	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）（４週目）				
6/17	火					
6/18	水					
6/19	木					
6/20	金					

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
6/23	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）（５週目）				
6/24	火					
6/25	水					
6/26	木					
6/27	金					
6/30	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）（６週目）				
7/1	火					
7/2	水					
7/3	木					
7/4	金					
7/7	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）（７週目）				
7/8	火					
7/9	水					
7/10	木					
7/11	金					
7/14	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）（８週目）				
7/15	火					
7/16	水					
7/17	木					
7/18	金					
7/21	月	海の日				
7/22	火	自由選択学習（プロジェクトセメスター）（９週目）				
7/23	水					
7/24	木					
7/25	金					
7/28	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）（１０週目）				
7/29	火					
7/30	水					
7/31	木					
8/1	金					
8/18	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）（１１週目）				
8/19	火					
8/20	水					
8/21	木					
8/22	金					
8/25	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）（１２週目）				
8/26	火					
8/27	水					
8/28	木					
8/29	金					
9/1	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）（１３週目）				
9/2	火					
9/3	水					
9/4	木					
9/5	金					
9/8	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）（１４週目）				
9/9	火					
9/10	水					
9/11	木					
9/12	金					
9/15	月	敬老の日				
9/16	火	自由選択学習（プロジェクトセメスター）（１５週目）				
9/17	水					
9/18	木					
9/19	金					
9/22	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）（１６週目）				
9/23	火	秋分の日				
9/24	水	自由選択学習（プロジェクトセメスター）（１６週目）				
9/25	木					
9/26	金					

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
9/29	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）（１７週目）				
9/30	火					
10/1	水					
10/2	木					
10/3	金					
10/6	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）（１８週目）				
10/7	火					
10/8	水					
10/9	木					
10/10	金					
10/13	月	スポーツの日				
10/14	火	自由選択学習（プロジェクトセメスター）（１９週目）				
10/15	水					
10/16	木					
10/17	金					
10/20	月	臨時休業				
10/21	火	自由選択学習（プロジェクトセメスター）（２０週目）				
10/22	水					
10/23	木					
10/24	金	自由選択学習（プロジェクトセメスター）成果発表会				
10/27	月	再試験期間				
10/28	火					
10/29	水					
10/30	木					
10/31	金	臨床実習前研修プログラム（仮）				
11/3	月	文化の日				
11/4	火	臨床導入実習(１週目)				
11/5	水	総論①				
11/6	木					
11/7	金					
11/10	月	臨床導入実習（２週目）				
11/11	火	総論②				
11/12	水					
11/13	木					
11/14	金					
11/17	月	臨床導入実習(３週目)				
11/18	火	各論①				
11/19	水					
11/20	木					
11/21	金					
11/24	月	振替休日（11/23・勤労感謝の日）				
11/25	火	臨床導入実習(４週目)				
11/26	水	各論②				
11/27	木					
11/28	金					
12/1	月	臨床導入実習（５週目）				
12/2	火	各論③				
12/3	水					
12/4	木					
12/5	金					
12/8	月	臨床導入実習（６週目）				
12/9	火	各論④				
12/10	水					
12/11	木					
12/12	金					

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
12/15	月	臨床導入実習（７週目）				
12/16	火	各論⑤				
12/17	水					
12/18	木					
12/19	金					
12/22	月	臨床導入実習（８週目）				
12/23	火	各論⑥				
12/24	水					
12/25	木					
12/26	金					
1/5	月	臨床導入実習（９週目）				
1/6	火	各論⑦				
1/7	水					
1/8	木					
1/9	金					
1/12	月	成人式				
1/13	火	臨床導入実習（１０週目）				
1/14	水	各論⑧				
1/15	木					
1/16	金					
1/19	月	臨床導入実習（１１週目）				
1/20	火	各論⑨				
1/21	水					
1/22	木					
1/23	金					
1/26	月	臨時休業				
1/27	火					
1/28	水					
1/29	木					
1/30	金					
2/2	月	臨時休業				
2/3	火	**CBT（本試験）**				
2/4	水	臨時休業				
2/5	木					
2/6	金					
2/9	月	臨時休業				
2/10	火					
2/11	水	建国記念日				
2/12	木	臨時休業				
2/13	金					
2/16	月	臨時休業				
2/17	火					
2/18	水					
2/19	木					
2/20	金					
2/23	月	天皇誕生日				
2/24	火	**CBT(追・再試験)**				
2/25	水	臨時休業				
2/26	木					
2/27	金					
3/2	月	臨時休業				
3/3	火					
3/4	水					
3/5	木					
3/6	金					
3/9	月	臨時休業				
3/10	火					
3/11	水					
3/12	木					
3/13	金					

冬季休業：12月29日（月）～2026年（令和6年）1月2日（金）

医学系教員FD:1月10日（土）（予定）

夏季休業：8月4日（月）～8月15日（金）※配属分野による

2月14日（土）・15日（日）臨床実習前OSCE（本試験）

３月8日（日）臨床実習前OSCE（追・再試験）（予定）

お茶の水祭:10月18日（土）～10月19日（日）予定

２０２５年度（令和7）　授業時間割　第５学年

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
3/31	月	臨床実習総論				
4/1	火					
4/2	水					
4/3	木	白衣式／臨床実習総論				
4/4	金	臨床実習総論				
4/7	月	臨床実習（第１クール）				
4/8	火					
4/9	水					
4/10	木					
4/11	金					
4/14	月	臨床実習（第１クール）				
4/15	火					
4/16	水					
4/17	木					
4/18	金					
4/21	月	臨床実習（第１クール）				
4/22	火					
4/23	水					
4/24	木					
4/25	金					
4/28	月	臨床実習（第１クール）				
4/29	火	昭和の日				
4/30	水	臨床実習（第１クール）				
5/1	木					
5/2	金					
5/5	月	こどもの日				
5/6	火	振替休日（みどりの日）				
5/7	水	臨時休業				
5/8	木					
5/9	金					
5/12	月	臨床実習（第２クール）				
5/13	火					
5/14	水					
5/15	木					
5/16	金					
5/19	月	臨床実習（第２クール）				
5/20	火					16：00～17：00　当括統合教育①
5/21	水					
5/22	木					
5/23	金					
5/26	月	臨床実習（第２クール）				
5/27	火					
5/28	水					
5/29	木					
5/30	金					
6/2	月	臨床実習（第２クール）				
6/3	火					
6/4	水					
6/5	木					
6/6	金					
6/9	月	臨床実習（第３クール）				
6/10	火					
6/11	水					
6/12	木					
6/13	金					
6/16	月	臨床実習（第３クール）				
6/17	火					16：00～17：00　当括統合教育①
6/18	水					
6/19	木					
6/20	金					
6/23	月	臨床実習（第３クール）				
6/24	火					
6/25	水					
6/26	木					
6/27	金					

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
6/30	月	臨床実習（第３クール）				
7/1	火					
7/2	水					
7/3	木					
7/4	金					
7/7	月	臨床実習（第４クール）				
7/8	火					
7/9	水					
7/10	木					
7/11	金					
7/14	月	臨床実習（第４クール）				
7/15	火					
7/16	水					16：00～17：00　当括統合教育①
7/17	木					
7/18	金					
7/21	月	海の日				
7/22	火					
7/23	水	臨床実習（第４クール）				
7/24	木					
7/25	金					
7/28	月	臨床実習（第４クール）				
7/29	火					
7/30	水					
7/31	木					
8/1	金					
8/4	月	臨床実習（第５クール）				
8/5	火					
8/6	水					
8/7	木					
8/8	金					
8/11	月	山の日				
8/12	火	臨床実習（第５クール）				
8/13	水					
8/14	木					
8/15	金					
8/18	月	臨床実習（第５クール）				
8/19	火					
8/20	水					
8/21	木					
8/22	金					
8/25	月	臨床実習（第５クール）				
8/26	火					
8/27	水					
8/28	木					
8/29	金					
9/1	月	臨床実習（第６クール）				
9/2	火					
9/3	水					
9/4	木					
9/5	金					
9/8	月	臨床実習（第６クール）				
9/9	火					
9/10	水					
9/11	木					
9/12	金					
9/15	月	敬老の日				
9/16	火	臨床実習（第６クール）				16：00～17：00　当括統合教育①
9/17	水					
9/18	木					
9/19	金					
9/22	月	臨床実習（第６クール）				
9/23	火	秋分の日				
9/24	水	臨床実習（第６クール）				
9/25	木					
9/26	金					

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
9/29	月	臨床実習（第７クール）				
9/30	火					
10/1	水					
10/2	木					
10/3	金					
10/6	月	臨床実習（第７クール）				
10/7	火					
10/8	水					
10/9	木					
10/10	金					
10/13	月	スポーツの日				
10/14	火	臨床実習（第７クール）				
10/15	水					
10/16	木					
10/17	金					
10/20	月	臨床実習（第７クール）				
10/21	火					16：00～17：00　当括統合教育①
10/22	水					
10/23	木					
10/24	金					
10/27	月	臨床実習（第８クール）				
10/28	火					
10/29	水					
10/30	木					
10/31	金					
11/3	月	文化の日				
11/4	火	臨床実習（第８クール）				
11/5	水					
11/6	木					
11/7	金					
11/10	月	臨床実習（第８クール）				
11/11	火					
11/12	水					
11/13	木					
11/14	金					
11/17	月	臨床実習（第８クール）				
11/18	火					
11/19	水					
11/20	木					
11/21	金					
11/24	月	振替休日（11/23・勤労感謝の日）				
11/25	火	臨床実習（第９クール）				
11/26	水					
11/27	木					
11/28	金					
12/1	月	臨床実習（第９クール）				
12/2	火					
12/3	水					
12/4	木					
12/5	金					
12/8	月	臨床実習（第９クール）				
12/9	火					
12/10	水					
12/11	木					
12/12	金					
12/15	月	臨床実習（第９クール）				
12/16	火					16：00～17：00　当括統合教育①
12/17	水					
12/18	木					
12/19	金					
12/22	月	臨時休業				
12/23	火					
12/24	水					
12/25	木					
12/26	金					

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
1/5	月	臨床実習（第１０クール）				
1/6	火					
1/7	水					
1/8	木					
1/9	金					
1/12	月	成人の日				
1/13	火	臨床実習（第１０クール）				
1/14	水					
1/15	木					
1/16	金					
1/19	月	臨床実習（第１０クール）				
1/20	火					16：00～17：00　当括統合教育①
1/21	水					
1/22	木					
1/23	金					
1/26	月	臨床実習（第１０クール）				
1/27	火					
1/28	水					
1/29	木					
1/30	金					
2/2	月	臨床実習（第１１クール）				
2/3	火					
2/4	水					
2/5	木					
2/6	金					
2/9	月	臨床実習（第１１クール）				
2/10	火					
2/11	水	建国記念日				
2/12	木	臨床実習（第１１クール）				
2/13	金					
2/16	月	臨床実習（第１１クール）				
2/17	火					16：00～17：00　当括統合教育①
2/18	水					
2/19	木					
2/20	金					
2/23	月	天皇誕生日				
2/24	火	臨床実習（第１１クール）				
2/25	水					
2/26	木					
2/27	金					
3/2	月	臨床実習（第１２クール）				
3/3	火					
3/4	水					
3/5	木					
3/6	金					
3/9	月	臨床実習（第１２クール）				
3/10	火					
3/11	水					
3/12	木					
3/13	金					
3/16	月	臨床実習（第１２クール）				
3/17	火					
3/18	水					
3/19	木					
3/20	金	春分の日				
3/23	月	臨床実習（第１２クール）				
3/24	火					
3/25	水					
3/26	木					
3/27	金					

医学系教員FD:1月10日（土）（予定）

学園祭:10月18日（土）～10月19日（日）予定

２０２５年度（令和7）　授業時間割　第６学年

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
3/31	月					
4/1	火					
4/2	水	臨時休業				
4/3	木					
4/4	金					
4/7	月					
4/8	火					
4/9	水	臨床実習（第２５クール）				
4/10	木					
4/11	金					
4/14	月					
4/15	火					
4/16	水	臨床実習（第２５クール）				
4/17	木					
4/18	金					
4/21	月					
4/22	火					
4/23	水	臨床実習（第２６クール）				
4/24	木					
4/25	金					
4/28	月	臨床実習（第２６クール）				
4/29	火	昭和の日				
4/30	水					
5/1	木	臨床実習（第２６クール）				
5/2	金					
5/5	月	こどもの日				
5/6	火	振替休日（みどりの日）				
5/7	水					
5/8	木	臨時休業				
5/9	金					
5/12	月					
5/13	火					
5/14	水	臨床実習（第２７クール）				
5/15	木					
5/16	金					
5/19	月					
5/20	火					
5/21	水	臨床実習（第２７クール）				
5/22	木					
5/23	金					
5/26	月					
5/27	火					
5/28	水	臨床実習（第２８クール）				
5/29	木					
5/30	金					
6/2	月					
6/3	火					
6/4	水	臨床実習（第２８クール）				
6/5	木					
6/6	金					
6/9	月					
6/10	火					
6/11	水	臨床実習（第２９クール）				
6/12	木					
6/13	金					
6/16	月					
6/17	火					
6/18	水	臨床実習（第２９クール）				
6/19	木					
6/20	金					
6/23	月	包括医療統合教育②	包括医療統合教育②	包括医療統合教育②	包括医療統合教育②	
6/24	火	チーム医療入門	チーム医療入門	チーム医療入門	チーム医療入門	
6/25	水	チーム医療入門	チーム医療入門	チーム医療入門	チーム医療入門	
6/26	木	包括医療統合教育②	包括医療統合教育②	包括医療統合教育②	包括医療統合教育②	
6/27	金	包括医療統合教育②	包括医療統合教育②	包括医療統合教育②	包括医療統合教育②	

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
6/30	月	包括医療統合教育②	包括医療統合教育②	包括医療統合教育②	包括医療統合教育②	
7/1	火					
7/2	水					
7/3	木					
7/4	金					
7/7	月					
7/8	火					
7/9	水	臨床実習（第３０クール）				
7/10	木					
7/11	金					
7/14	月					
7/15	火					
7/16	水	臨床実習（第３０クール）				
7/17	木					
7/18	金					
7/21	月	海の日				
7/22	火					
7/23	水	臨床実習（第３１クール）				
7/24	木					
7/25	金					
7/28	月					
7/29	火					
7/30	水	臨床実習（第３１クール）				
7/31	木					
8/1	金					
8/4	月					
8/5	火					
8/6	水	臨床実習（第３２クール）				
8/7	木					
8/8	金					
8/11	月	山の日				
8/12	火					
8/13	水	臨床実習（第３２クール）				
8/14	木					
8/15	金					
8/18	月					
8/19	火					
8/20	水	臨床実習（第３３クール）				
8/21	木					
8/22	金					
8/25	月					
8/26	火					
8/27	水	臨床実習（第３３クール）				
8/28	木					
8/29	金					
9/1	月					
9/2	火					
9/3	水	臨床実習（第３４クール）				
9/4	木					
9/5	金					
9/8	月					
9/9	火					
9/10	水	臨床実習（第３４クール）				
9/11	木					
9/12	金					
9/15	月	敬老の日				
9/16	火					
9/17	水	臨床実習（第３５クール）				
9/18	木					
9/19	金					
9/22	月	臨床実習（第３５クール）				
9/23	火	秋分の日				
9/24	水					
9/25	木	臨床実習（第３５クール）				
9/26	金					

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
9/29	月					
9/30	火					
10/1	水	臨時休業				
10/2	木					
10/3	金					
10/6	月					
10/7	火					
10/8	水	卒業試験1W				
10/9	木					
10/10	金					
10/13	月	スポーツの日				
10/14	火					
10/15	水	卒業試験2W				
10/16	木					
10/17	金					
10/20	月					
10/21	火					
10/22	水	卒業試験3W				
10/23	木					
10/24	金					
10/25	土	Post-CC-OSCE（本試験）				
10/27	月					
10/28	火					
10/29	水	臨時休業				
10/30	木					
10/31	金					
11/3	月	文化の日				
11/4	火					
11/5	水	再試験1W				
11/6	木					
11/7	金					
11/10	月					
11/11	火					
11/12	水	再試験2W				
11/13	木					
11/14	金	Post-CC-OSCE（追・再試験日）				
11/17	月					
11/18	火					
11/19	水	再試験3W				
11/20	木					
11/21	金					
11/24	月	振替休日（11/23・勤労感謝の日）				
11/25	火					
11/26	水	臨時休業				
11/27	木					
11/28	金					
	土	Post-CC-OSCE（延長試験日）				
12/1	月					
12/2	火					
12/3	水	臨時休業				
12/4	木					
12/5	金					
12/8	月					
12/9	火					
12/10	水	臨時休業				
12/11	木					
12/12	金					
12/15	月					
12/16	火					
12/17	水	臨時休業				
12/18	木					
12/19	金					
12/22	月					
12/23	火					
12/24	水	冬季休業				
12/25	木					
12/26	金					

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
1/5	月					
1/6	火					
1/7	水	臨時休業				
1/8	木					
1/9	金					
1/12	月	成人の日				
1/13	火					
1/14	水	臨時休業				
1/15	木					
1/16	金					
1/19	月					
1/20	火					
1/21	水	臨時休業				
1/22	木					
1/23	金					
1/26	月					
1/27	火					
1/28	水	臨時休業				
1/29	木					
1/30	金					
2/2	月					
2/3	火					
2/4	水	臨時休業				
2/5	木					
2/6	金					
2/9	月	臨時休業				
2/10	火					
2/11	水	建国記念日				
2/12	木	臨時休業				
2/13	金					
2/16	月					
2/17	火					
2/18	水	臨時休業				
2/19	木					
2/20	金					
2/23	月	天皇誕生日				
2/24	火					
2/25	水	臨時休業				
2/26	木					
2/27	金					

医学系教員FD:1月10日（土）（予定）

学園祭:10月18日（土）～10月19日（日）予定

時間割番号	011200				
科目名	多職種連携 I			**科目 ID**	
担当教員	山脇 正永, 中川 美奈, 山口 久美子, 金子 英司, 沼沢 益行, 土井 理美, 三島 有華[YAMAWAKI Masanaga, NAKAGAWA Mina, YAMAGUCHI Kumiko, KANEKO Eiji, NUMASAWA Mitsuyuki, DOI Satomi, MISHIMA Yuka]				
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	1	**単位数**	0.5
実務経験のある教員による授業	該当する				

多職種連携 I

主な講義場所

MD タワー1F 鈴木章夫記念講堂ほか(状況により変更の可能性あり)

授業の目的、概要等

現代の医療・歯科医療は、様々な専門職種が連携したチームで実施されている。本授業は本学の全学科の学生が参加する多職種連携教育(Inter-Professional Education: IPE)として実施する。医療・歯科医療において協働する保健・医療・福祉の専門職とその役割を相互に理解するとともに、共通する職業倫理や仕事に対する姿勢、多職種連携の重要性を学び、多職種連携の将来像を考察できることを目的とする。また、医療チームの中心である患者・家族の講演を通して医療者のプロフェッショナリズムについて考察しその自覚を持つことも期待される。

チーム医療においてはコミュニケーション及びチームダイナミクスの理解も必須であり、本学の第一学年として、自らの知識や価値観を他学科の学生と共有すること、他学科学生の役割や意見を尊重する態度、チームにおけるリーダーシップやフォロワーシップの理解が求められる。学修方法として演習形式をとり、チームでの協働を実現するために自らの役割を果たすことが求められる。

授業の到達目標

1. 本学初学年の学生として、自らの知識や価値観を、他学科の学生に共有することができる。
2. 本学初学年の学生として、他学科学生の役割や意見を尊重した説明や返答、問いかけができる。
3. 他学科学生との演習活動の中で、協働を実現するために、自らの役割を果たすことができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室
1-4	4/8	08:50-16:55	

授業方法

講義、演習(グループワーク)

医学部歯学部の全学科全専攻の 1 年生が参加し、グループに分かれて討論を行う。

成績評価の方法

成績はグループワークへの参加態度(50%)、レポート等の提出物(50%)により評価する。

出席状況、授業態度を総合評価に加味する。

成績評価の基準

・合計点数が 60%以上のものを合格とする。

参加態度は、司会や書記を務め、積極的に発言しただけではなく、グループメンバーの話しやすい雰囲気を作るなど、聞く姿勢も評価の対象となる。

・期日までに提出された課題を採点対象とし、講演で聞いた内容やグループワークで話し合った内容が含まれているか、自分自身の考えが描かれているかについて授業の到達目標の達成度に応じて採点する。

準備学習等についての具体的な指示

資料の配布、WebClass へのアップロード等があった場合は、各自視聴すること。課題の提出を WebClass にて行うこと。

試験の受験資格

試験は実施しない

・出席を基本とし、演習に参加する。

・演習発表資料などの課題を提示された期限までに提出すること。

・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。

参考書

患者中心の医療の方法／Moira Stewart［ほか］原著 ; 若手医師によるグローバルにプライマリ・ケアを考えるための翻訳研究会訳,Stewart, Moira,Brown, Judith Belle,Weston, W.Wayne,McWhinney, Ian R.,McWilliam, Carol L,Freeman, Thomas R.,葛西, 龍樹,若手医師によるグローバルにプライマリ・ケアを考えるための翻訳研究会,:羊土社, 2021

他科目との関連

多職種連携Ⅱ、多職種連携Ⅲの導入科目である。医療者のプロフェッショナリズムを育成するための科目である。

履修上の注意事項

積極的に参加すること。課題を提出すること。 出席は開始前のカードリーダー及びチューター確認とする。

備考

昨年の学生アンケートの結果を受けて、下記とする。

・教員講演スライドの共有を希望する学生がいたので、講演担当教員に発表スライドの提供を依頼し、参加学生へ共有する。

・グループワークの進め方について分かりにくかった、という意見があったので、改善する。

責任者 山脇正永:myammerd@tmd.ac.jp

実務担当教員 中川美奈:mnakgast@tmd.ac.jp、山口久美子:yamaguchi.fana@tmd.ac.jp

質問等は、上記教員までメールで随時行うこと。

参照ホームページ

チーム医療. 全日本病院協会. chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.ajha.or.jp/guide/pdf/080821.pdf

連絡先(メールアドレス)

山脇 正永:myamawaki.merd@tmd.ac.jp

金子 英司:eiji.vasc@tmd.ac.jp

山口 久美子:yamaguchi.fana@tmd.ac.jp

沼沢 益行:numaioe@tmd.ac.jp

土井 理美:doi.hlth@tmd.ac.jp

オフィスアワー

山脇 正永:毎週金曜日 12 時～13 時、その他でも随時受け付けます。事前にメールで連絡してください。

金子 英司:毎週火曜日・金曜日 AM.10:00-PM.4:00 1 号館 5 階 502

山口 久美子:メール等でアポイントメントを取ること。

中川 美奈:毎週火曜日 AM.10:00-PM.2:00 1 号館 5 階 ヘルスケア教育機構教員室

授業に関する質問は科目責任者または山脇または中川、山口に行うこと。

時間割番号	011001				
科目名	医学導入			**科目 ID**	
担当教員	山脇　正永[YAMAWAKI Masanaga]				
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	1	**単位数**	6.5
実務経験のある教員による授業	該当する				

英文名:Medical Introductory Course

主な講義場所

基本的に湯島キャンパスでの講義とする。
詳細は授業明細を確認すること。

授業の目的、概要等

医学部医学科のアウトカムである「知と癒しの匠」としての Clinician Scientist, Scientific Clinician を目指すための専門課程への導入として位置付けられる。最先端の医療・医学の現場、医療者及び医学者となるための資質と能力(コンピテンシー)、将来のキャリアの展望、グローバルコミュニケーションについて理解を深めるとともに、 医療現場・研究現場・イノベーションと体験することを目的とする。本授業と匠講話(医療と医学の最前線)とを組み合わせることにより、学生諸君の知的好奇心の拡大を目指す。

以下の A)～D)の項目に分け、到達目標等を記す。

授業の到達目標

A) 医学ー過去、現在、未来
医学の発展の歴史を学び、医学の様々な分野でフロンティアを切り開く創造能力を養う。社会における医師の役割(過去、現在および今後の様々な形)、中核病院医療、地域医療、研究、先進医療、医療行政、新しい医療技術など社会貢献の形を説明でき、将来のキャリアビジョンを描き始める。
B) 症候学導入
これから学習する基礎医学・臨床医学において、臨床症状からの視点を備えるため、チームメンバーと協力し主要な症候と疾患を学ぶ。
C) 世界の医療
国際医療について学び、国際人としての意識、そして広い視野を習得する。
D) 医療の現場
シャドウイングを通して医療の現場を体験し、社会における医療従事者の役割を説明できる。医師というプロフェッションに必要な態度を習得するための基盤を形成する。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PR-04-01)01
GE-01-04)04
GE-02-02)01
GE-02-03)02
LL-01-01)01,02
LL-01-02)01
LL-02-01)01
RE-01-02)02
RE-04-01)01
RE-05-02)01
CS-05-02)01
CM-01-01)01,02,03
CM-01-02)02
CM-03-01)01,02,03
CM-03-02)01,02

IP-02
SO-01-02)03
SO-04-05)01
SO-05-02)01,03

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-C]非専門的(一般的)英語表現・英単語の表記・発音等ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-2-C]専門職にある者としての立場を理解している
[III-6-A]医療における他の専門職との交流に際して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示すことができる
[III-7-C]ラポールについて説明できる
[III-8-C]患者との関係(情報漏洩、親密性、金品授受など)において適切な距離を維持する必要性を説明できる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
[III-12-B]メンタルストレスやその対処法を説明できる
[III-13-B]医学生としての健康管理(予防接種を含む)の重要性を説明できる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-17-B]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動する必要性を理解している
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-21-A]患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-B]フィードバックの意義を説明でき、受容できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[IV-6-B]患者の様々な背景や文化がどれだけ医者-患者間のコミュニケーションに影響するかを説明できる
[IV-7-B]重大で繊細な難しいトピック(sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど)について患者や患者家族と議論する際に、配慮すべき点や重要な点を説明できる
[IV-9-C]患者中心の医療について説明できる
[V-6-B]世界の保健・医療関連事象の推移と地域分布を説明できる
[VI-1-C]E-learning, 文献検索エンジンなどを利用できる
[VI-5-D]情報の信頼性および有用性について、批判的視点を持つ
[VI-8-D]臨床推論にもとづく診断過程を説明できる
[VI-9-D]患者から基本的情報を収集・統合し、病歴の標準書式にまとめることができる
[VI-15-D]正常所見を説明できる
[VII-1-B]医療機関内インフラ(医療情報、医学情報、様々な診療部門、運営/管理業務)を説明できる
[VII-2-D]診療チームを構成するメンバーを同定し、彼らの役割を説明できる
[VII-3-C]病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関の役割を説明できる
[VII-7-C]医療政策形成過程を説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方

							法・その他
1	9/16	08:50–10:20	医学科講義室2	総論	医学を学ぶために	山脇 正永	講義、課題提出
2	9/16	10:45–12:15	医学科講義室2	症候学導入	医療コミュニケーション入門	岡田 英理子	B 講義、課題提出
3	9/16	13:30–15:00	医学科講義室2	症候学導入	医療コミュニケーション実習	岡田 英理子, 山口 久美子	B 実習、課題提出
4	9/16	15:25–16:55	医学科講義室2	医学−過去・現在・未来	デザイン思考入門①	長堀 正和, 沼沢 益行	A 講義、課題提出
5	9/30	08:50–10:20	アクティブラーニング教室	医療の現場	実習オリエンテーション	中川 美奈, 淺香 えみ子	E 講義、課題提出
6	9/30	10:45–12:15	アクティブラーニング教室,遠隔授業(同期型)	医学−過去・現在・未来	未来医療を変えるクリエイティブ研究 −Future of Healthcare2020−	武部 貴則	A 講義、小テスト
7	9/30	13:30–15:00	アクティブラーニング教室	症候学導入	議論の技法	秋田 恵一	講義、課題提出
8	9/30	15:25–16:55	スキルスラボ, アクティブラーニング教室	医学−過去・現在・未来	デザイン思考入門②	長堀 正和, 沼沢 益行	A 講義、グループワーク、課題提出
9–11	10/7	08:50–15:00	スキルスラボ, アクティブラーニング教室	医療の現場	実習	中川 美奈, 山口 久美子, 金子 英司, 岡田 英理子, 鹿島田 彩子	E グループワーク、課題提出
12	10/7	15:25–16:55	アクティブラーニング教室	医療の現場	実習総括	中川 美奈	E グループワーク、課題提出
13–15	10/14	08:50–15:00	その他	医学−過去・現在・未来	デザイン思考入門③: CEATEC2024 （幕張メッセ）	長堀 正和, 沼沢 益行	A 講義、グループワーク、課題提出
16–18	10/21	08:50–15:00	スキルスラボ, アクティブラーニング教室	医療の現場	実習	金子 英司, 中川 美奈, 山口 久美子, 岡田 英理子, 鹿島田 彩子	E グループワーク、課題提出
19	10/21	15:25–16:55	アクティブラーニング教室	症候学導入	オリエンテーション	岡田 英理子	B 講義、グループワーク、課題提出
20–22	10/28	08:50–15:00	スキルスラボ, アクティブラーニング教室	医療の現場	実習	金子 英司, 中川 美奈, 山口 久美子, 岡田 英理子, 鹿島田 彩子	E グループワーク、課題提出

23	10/28	15:25-16:55	アクティブラーニング教室	医学-過去・現在・未来	デザイン思考入門④	長堀 正和, 沼沢 益行	A 講義、グループワーク、課題提出
24-26	11/4	08:50-15:00	スキルスラボ, アクティブラーニング教室	医療の現場	実習	金子 英司, 中川 美奈, 山口 久美子, 岡田 英理子, 鹿島田 彩子	E グループワーク、課題提出
27	11/4	15:25-16:55	アクティブラーニング教室	医療の現場	実習総括	中川 美奈	E 講義、グループワーク
28-29	11/11	08:50-12:15	アクティブラーニング教室	症候学導入	症候学導入① 胸痛	金子 英司	B 講義、グループワーク、課題提出
30	11/11	13:30-15:00	アクティブラーニング教室	世界の医療	英語講義&討論①Medicine in Pakistan and Muslim culture(講者: Najma Zakir)	山口 久美子, JANELLE RENEE MORROSS	A 講義、小テスト
31	11/11	15:25-16:55	アクティブラーニング教室	医学-過去・現在・未来	デザイン思考入門⑤総括	長堀 正和, 沼沢 益行	A 学生発表、講義、課題提出
32	11/14	10:45-12:15	アクティブラーニング教室	医学-過去・現在・未来	がんゲノムで挑む、がん治療の最前線	池田 貞勝	A 講義、小テスト
33	11/18	10:45-12:15	アクティブラーニング教室	医学-過去・現在・未来	ロボット手術	絹笠 祐介	A 講義、小テスト
34	11/18	13:30-15:00	アクティブラーニング教室	世界の医療	英語講義&討論②Planning for Research: What to study and what it takes to be a researcher (講者: Naomi Farouk)	山口 久美子, JANELLE RENEE MORROSS, Farha Naomi Binti Omar Farouk	C 講義、グループ討論、個人テスト
35	11/18	15:25-16:55	アクティブラーニング教室	医学-過去・現在・未来	感染症と危機管理	具 芳明, 矢沢 知子, 武内 寛明	A 講義、小テスト
36-37	11/25	08:50-12:15	アクティブラーニング教室	症候学導入	症候学導入② 腰痛	江川 聡	B 講義、グループワーク、課題提出
38	11/25	13:30-15:00	アクティブラーニング教室	世界の医療	英語講義&討論③Sports Medicine (講者:Daghmehchi F. Sepideh)	山口 久美子, JANELLE RENEE MORROSS	C 講義、グループ討論、個人テスト
39	11/25	15:25-16:55	アクティブラーニング教室	医学-過去・現在・未来	災害医療	植木 穣	A 講義、小テスト
40	12/1	15:25-16:55	アクティブラーニング教室	医学-過去・現在・未来	臓器移植の概要と現況(仮)	土井 庄三郎	

41	12/2	08:50-10:20					予備枠
42	12/2	13:30-15:00	アクティブラーニング教室	世界の医療	英語講義&討論④Introduction to Health Bioethics:Ethical Decision-Making in Medicine(講者:Khairinisa, Safira)	山口 久美子, JANELLE R ENEE MOROSS	C 講義、グループ討論、個人テスト
43	12/2	15:25-16:55	アクティブラーニング教室	医学-過去・現在・未来	地域に根差した医療と介護	和田 忠志	A 講義、小テスト
44-45	12/9	08:50-12:15	アクティブラーニング教室	症候学導入	症候学導入③ 頭痛	沼沢 祥行	B 講義、グループワーク、課題提出
46	12/9	13:30-15:00	アクティブラーニング教室	世界の医療	英語講義&討論⑤An Introduction to Medicine in the Philippines(講者:Ryota Adachi)	山口 久美子, JANELLE R ENEE MOROSS, Ryota ADACHI	C 講義、グループ討論、個人テスト
47	12/9	15:25-16:55	アクティブラーニング教室	医学-過去・現在・未来	災害と倫理:福島からコロナまで	越智 小枝	A 講義、小テスト
48	12/12	15:00-17:00	アクティブラーニング教室,遠隔授業(同期型)	世界の医療	タイ学生とのディスカッション1	秋田 恵一, 山口 久美子	Zoom によるグループワーク
49	12/16	08:50-10:20	アクティブラーニング教室	医学-過去・現在・未来	日本の総合診療のあり方	橋本 正良	A 講義、小テスト
50	12/16	10:45-12:15	アクティブラーニング教室	総論	メンタルヘルスケア	安藤 久美子	B 講義、課題提出
51	12/16	13:30-15:00	アクティブラーニング教室	世界の医療	英語講義&討論⑥Mining and env./systemic effects(講者:Kwofie, Sabina Efua Mensiwah)	山口 久美子, JANELLE R ENEE MOROSS	C 講義、グループ討論、個人テスト
52	12/16	15:25-16:55	アクティブラーニング教室	医学-過去・現在・未来	Society5.0:これからの社会，技術と人工知能	小柴 等	A 講義、小テスト
53	12/19	15:00-17:00	アクティブラーニング教室,遠隔授業(同期型)	世界の医療	タイ学生とのディスカッション2	秋田 恵一, 山口 久美子	Zoom によるグループワーク
54-55	1/6	08:50-12:15	アクティブラーニング教室	症候学導入	症候学導入④ 腹痛	赤石 雄	B 講義、グループワーク、課題提出
56	1/6	13:30-15:00	アクティブラーニング教室	医学-過去・現在・未来	近代医学に至る歩み	秋田 恵一	A 講義、小テスト
57	1/6	15:25-16:55					予備枠

58	1/13	08:50-10:20					予備枠
59	1/13	10:45-12:15	アクティブラーニング教室	世界の医療	地域間の健康格差とその是正	藤原 武男	講義、小テスト
60	1/13	13:30-15:00	アクティブラーニング教室	医学-過去・現在・未来	厚生労働省医系技官という道～国民の健康を制度で支える～	佐野 隆一郎	A 講義、小テスト
61	1/13	15:25-16:55					予備枠
62-63	1/20	08:50-12:15	アクティブラーニング教室	症候学導入	症候学導入⑤ 咳	角 勇樹	B 講義、グループワーク、課題提出
64	1/20	13:30-15:00	医学科講義室2	医学-過去・現在・未来	感動していただけるスポーツ界を目指して	室伏 広治	A 講義、小テスト
65	1/20	15:25-16:55					予備枠
66	1/27	08:50-10:20	アクティブラーニング教室,情報検索室1	症候学導入	試験(TBL)	山口 久美子,岡田 英理子	B 個人テスト、グループテスト
67	1/27	10:45-12:15					予備枠
68	1/27	13:30-15:00					予備枠
69	1/27	15:25-16:55	医学科講義室2	総論	総括/卒業時の獲得資質について	山脇 正永,岡田 英理子	講義、課題提出

授業方法

講義は基本的に対面とする。

A) 医学ー過去、現在、未来
講演、グループ討論、プレゼンテーション
B) 症候学導入
自己学習とプレゼンテーション、グループ討論、講義
C) 世界の医療
講義、グループ討論
D) 医療の現場
シャドウイング・実習、グループ討論

授業内容

A) 医学ー過去、現在、未来
講演(近代医学前史、現代の医療を作り上げた研究、地域中核病院勤務医、アカデミックドクター(基礎、臨床)、医療行政従事者)、グループ発表(新しい医療技術について)
B) 症候学導入
与えられた課題に対し自己学習し小グループにて情報共有する、プレゼンテーション
C) 世界の医療
講演(国際医療従事者)、グループ英語議論を行い、問題提起および考察を行う。
D) 医療の現場
実習(シャドウイング;教員、第5学年学生の臨床実習、看護師、患者、Basic Life Support: BLS)を行う。

成績評価の方法

評価の大部分は提出課題で行うが、一部試験によって行うものもある。

A) 医学ー過去、現在、未来

提出課題、参加態度
B) 症候学導入
提出課題、参加態度、テスト
C) 世界の医療
提出課題、参加態度
D) 医療の現場
提出課題、参加態度

成績評価の基準

細かい配点については WebClass 上に「評価のための資料」として提示する。
提出された各課題は採点され、上記の配点に従って集計される。
60%以上の得点を B とし、点数に応じて評価が決まる。
期日までに十分な質の課題を提出する、自己管理能力が求められる。

準備学習等についての具体的な指示

○ デザイン思考入門ではオリエンテーションで示された課題について事前に自己学習することが求められる。
○ 症候学導入は与えられた課題に対して教科書等を用いて事前に自己学習することが求められる。講義の前の週に予習内容をまとめたスライドの提出・当日のプレゼンテーションが必要になる。

試験の受験資格

1)講義の 2/3 の出席が必要である。
以下2)3)で示されるグループ英語討論と実習を除いたすべてを講義とする。
小テスト・講義中または講義後の課題提出で出席確認をする。

2)6 回あるグループ英語討論のうち 4 回以上の出席が必要である。

3)実習の 3/4 の出席が必要である。
実習の出席に関しては教員が確認する。(詳細は 9/16 オリエンテーションで説明)
実習は 5 回(「シャドウイング①②③④」、「CEATEC2025」)であり、4 回の出席が必要になる。
CC 学生シャドウイングの午後の BLS 開始時にも出席確認があるので必ず開始時間までには集合すること。

試験の受験資格には直接かかわらないが、グループワークを伴う講義は同じグループのメンバーの学習を妨げることになるので必ず求められる予習・課題等の準備をしたうえで参加すること。

教科書

内科學 = ASAKURA Internal Medicine／矢崎義雄 総編集,伊藤貞嘉, 伊藤裕, 岩本愛吉, 岡芳知, 金倉譲, 工藤正俊, 島本和明, 菅野健太郎, 須永眞司, 永井良三, 長谷川好規, 永澤英洋, 山本一彦 編集.:朝倉書店, 2017
標準生理学／小澤瀞司, 福田康一郎 監修,本間研一, 大森治紀, 大橋俊夫, 河合康明, 黒澤美枝子, 鯉淵典之, 伊佐正 編集,小澤, 瀞司, 福田, 康一郎,本間, 研一, 1946-,大森, 治紀, 1950-,大橋, 俊夫, 1949-,:医学書院, 2014
グレイ解剖学／Richard L. Drake, A. Wayne Vogl, Adam W.M. Mitchell [原著] ; 秋田恵一訳,Drake, Richard L. (Richard Lee),Vogl, Wayne,Mitchell, Adam W. M.,秋田, 恵一,Gray, Henry,:エルゼビア・ジャパン, 2019
・ Harrison's Principles of Internal Medicine 20th Edition(McGraw-Hill iPad 版)

・病気がみえるシリーズ (MEDIC MEDIA)

病気がみえる vol.1 消化器 第 6 版 2020 年 4 月発行
病気がみえる vol.2 循環器 第 5 版 2021 年 3 月発行
病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第 5 版 2019 年 3 月発行
病気がみえる vol.4 呼吸器 第 3 版 2018 年 12 月発行
病気がみえる vol.5 血液 第 2 版 2017 年 3 月発行
病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 第 2 版 2018 年 9 月発行
病気がみえる vol.7 脳・神経 第 2 版 2017 年 11 月発行

病気がみえる vol.8　腎・泌尿器　第 3 版　2019 年　10 月発行
病気がみえる vol.9　婦人科・乳腺外科　第 4 版　2018 年　10 月発行
病気がみえる vol.10　産科　第 4 版　2018 年　10 月発行
病気がみえる vol.11　運動器・整形外科　第 1 版　2017 年　7 月発行

参考書

君はどんな医師になりたいのか ：「主治医」を目指して／川越正平 [ほか]著,:医学書院, 2002
知的生活の方法／渡部昇一／著,:講談社, 1984
科学者という仕事 ： 独創性はどのように生まれるか／酒井邦嘉 著,:中央公論新社, 2006
死ぬ瞬間 死とその過程について／エリザベス・キューブラー・ロス 著,鈴木晶 訳:浜松市立中央図書館, 2001
なぜ、国際教養大学で人材は育つのか／中嶋嶺雄 著,:祥伝社, 2010
健康・老化・寿命 ： 人といのちの文化誌／黒木登志夫 著,:中央公論新社, 2007

履修上の注意事項

すべてを通して一つの単位認定とする。単位未取得者は第 2 学年への進級を認められず、コース全体を再履修することが求められる。

備考

2024 年度コース評価からの改善点
・「成績評価の仕方が不明瞭だったため、もっとわかりやすく各授業の配点などを学生に提示するとよかった」という意見が複数見られた。各授業の配点については WebClass に掲示されているが、把握できていない学生が多かったことから、より丁寧に説明することとする。
・症候学導入について、共有時間が短い意見がみられたので時間配分を調整する。また試験についても到達目標達成のため臨床的な形式で出題する
・グループ英語討論は英語の能力別クラスよりも英語レベルを混ぜたクラスにして欲しいという要望があったので、グループ編成を見直すことにした。

時間割番号	011210				
科目名	匠講話:医学・医療の最前線			**科目 ID**	
担当教員	山脇　正永[YAMAWAKI Masanaga]				
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	1	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業	該当する				
英文名(案):Professorial Lecture Series					

主な講義場所

基本的には湯島キャンパスにて講義を行う。一部 Zoom による遠隔授業となる。

授業の目的、概要等

医学部医学科のアウトカムである「知と癒しの匠」としての Clinician Scientist, Scientific Clinician を目指すための専門課程への導入として位置付けられる。本学教授陣がそれぞれの分野(基礎医学・社会医学・臨床医学)で、現在起こっていること、将来どのように変容してゆくか等を紹介することを目的とする。本授業とMICとを組み合わせることにより、学生諸君がこれから何を学び、何を目指すのかの「問い」を自ら提起することを目指す。

授業の到達目標

1)第一線で活躍されている大学院医歯学総合研究科(医学系)を中心とした教授がこれまで行ってきた教育、研究、診療等を理解する。
2)今後履修する基礎医学、社会医学、臨床医学を学んでいくうえでの心構えを醸成する。
3)自身が Clinician Scientist / Scientific Clinician になるためにどのように自ら学び、成長するべきかを知る。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html
PR-01-01)01,02
PR-01-02)01,02
PR-02-01)01,02
PR-02-02)01,02
PR-02-03)01,02
PR-03-01)01,02
LL-01-01)01
LL-01-02)01
RE-01-01)01,02
RE-01-02)01,02
RE-01-01)01

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-1-B]健康/医療/歯科医療に貢献する者として必要な、幅広い教養と豊かな感性を持つ
[I-2-C]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、説明できる
[I-3-C]非専門的(一般的)英語表現・英単語の表記・発音等ができる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-2-C]専門職にある者としての立場を理解している
[III-7-C]ラポールについて説明できる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
[III-12-B]メンタルストレスやその対処法を説明できる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-17-B]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動する必要性を理解している
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる

[Ⅲ-27-B]フィードバックの意義を説明でき、受容できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	9/19	10:45-12:15	共用講義室1	Physician Scientistによる糖尿病の研究	山田 哲也	1)2)3)講義・グループ討論・個人レポート
2	9/22	10:45-12:15	共用講義室1	社会に活かす法医学―知ればハマるその世界	鵜沼 香奈	1)2)3)講義・グループ討論・個人レポート
3	9/26	10:45-12:15	共用講義室1	あなたの心臓を置き換える;移植と人工心臓の未来	藤田 知之	1)2)3)講義・グループ討論・個人レポート
4	9/29	10:45-12:15	アクティブラーニング教室	医工連携で心臓を診る	笹野 哲郎	1)2)3)講義・グループ討論・個人レポート
5	10/3	10:45-12:15	共用講義室1	知らざるを知ると為せ:君たちを待つ新たな学びの舞台	白銀 勇太	1)2)3)講義・グループ討論・個人レポート
6	10/6	10:45-12:15	共用講義室1	東京科学大学の環境科学と呼吸器	宮﨑 泰成	1)2)3)講義・グループ討論・個人レポート
7	10/10	10:45-12:15	共用講義室1	代謝の視点から生命を考えよう	大石 由美子	1)2)3)講義・グループ討論・個人レポート
8	10/17	10:45-12:15	共用講義室1	病理学とはどのような学問か？臨床における役割について	大橋 健一	1)2)3)講義・グループ討論・個人レポート
9	10/24	10:45-12:15	共用講義室1	身体の'屋台骨' 背骨を治す	吉井 俊貴	1)2)3)講義・グループ討論・個人レポート
10	10/27	10:45-12:15	共用講義室1	腸の難病と再生医療	岡本 隆一	1)2)3)講義・グループ討論・個人レポート
11	10/31	10:45-12:15	共用講義室1	名医になるには？～がん治療の最前線～	浜本 康夫	1)2)3)講義・グループ討論・個人レポート
12	11/17	10:45-12:15	共用講義室1	『かたち』の見方とライブイメージング	寺田 純雄	1)2)3)講義・グループ討論・個人レポート
13	11/18	08:50-10:20	アクティブラーニング教室	ゲノム医療の扉を開く:臨床医が紡ぐ未来への挑戦	吉田 雅幸	1)2)3)講義・グループ討論・個人レポート
14	11/28	10:45-12:15	共用講義室1	細胞内酸素濃度イメージング	蒲池 利章	1)2)3)講義・グループ討論・個人レポート
15	12/2	08:50-10:20	共用講義室1	近視って何？	大野 京子	1)2)3)講義・グループ討論・個人

						レポート	

授業方法

講義は基本的に対面授業とする。

約 60 分の講義を聞いたのち、グループ討論を行い、レポートを提出する。

各回約 5 名の担当学生を決める。

教員同席のもとで、司会進行、グループ討論の進行、質疑の対応を行うこととする。

成績評価の方法

課題レポートによる。

成績評価の基準

各講義終了後のレポートを 60 点、シリーズ終了後のレポートを 40 点として 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。

準備学習等についての具体的な指示

講演する教授の研究について、分野のホームページ等で事前に把握して授業に臨むこと。

試験の受験資格

講義の 2/3 には出席して課題を提出する必要がある。

履修上の注意事項

すべてを通して一つの単位認定とする。単位未取得者は第 2 学年への進級を認められず、コース全体を再履修することが求められる

備考

昨年度のコース評価を受けての変更点

講義を聞くだけでなくもう少し積極的に参加したかったという声があったので、授業の運営に学生の積極的な参加を促すこととする。具体的には各回約 5 名の担当学生を決め、教員同席のもとで、司会進行、グループ討論の進行、質疑の対応を行うこととすることを追加した。

連絡先（メールアドレス）

山脇　正永:myamawaki.merd@tmd.ac.jp

オフィスアワー

山脇　正永:毎週金曜日 12 時～13 時、その他でも随時受け付けます。事前にメールで連絡してください。

時間割番号	011220				
科目名	AI・データサイエンスのための数学			**科目 ID**	
担当教員	中林　潤[NAKABAYASHI Jun]				
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	1	**単位数**	2
実務経験のある教員による授業					

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表 2-1).4-2).4-3).4-4).4-5)

主な講義場所

同期型遠隔授業と講義動画のオンデマンド配信

授業の目的、概要等

社会が高度にデジタル化され、様々な階層で大量のデータを AI を使って解析すると言ったことが盛んに行われるようになっている。これらの技術を使用するにあたって、その基礎理論をしっかり理解しておくことが重要であるが、AI・データサイエンスの基礎理論を理解するためには、ある程度の数学的知識が必要である。

この講義は数論など数学の基本から始めて，微積分や代数・行列など基礎数学について学び，AI やデータサイエンスを習得するために必要最低限の数理科学的基礎知識、つまり数理リテラシーを身につけることを目的としている。

授業の到達目標

数論や微積分，代数・行列などを理解し，AI・データサイエンスを習得するのに必要な数学的基礎知識を身につける。

授業方法

授業の前半にスライドを使って講義を行い，後半に課題の演習を行う。

授業内容

数論，微積分，変分，代数，行列，確率，統計

成績評価の方法

出席状況＋授業中の態度＋授業内課題(40%)，最終レポートの点数(60%)を勘案して総合的に評価する。期末試験の筆記試験は行わない。

成績評価の基準

「東京科学大学全学共通科目履修規則」に従う

準備学習等についての具体的な指示

特に準備学習は不要である。授業後半の課題をしっかり行い，毎回の講義内容を身につけることが重要である。授業中に疑問が生じた場合，その場で質問して解消しておく。

試験の受験資格

講義全体の 2/3 以上に出席すること。出席は授業内の課題の提出で確認する。

参考書

Python で体感!医療と AI はじめの一歩 : 糖尿病・乳がん・残存歯のデータ、肺の X 線画像を使って機械学習・深層学習を学ぶ体験型入門書／中林，潤,木下，淳博 (歯学),須藤，毅顕,宮野，悟,中林潤，木下淳博，須藤毅顕編集:羊土社，2024.9

他科目との関連

「医療と AI・ビッグデータ入門」の講義を理解し，実習を行うための基礎知識となる。

連絡先(メールアドレス)

中林　潤:nakab.las@tmd.ac.jp

オフィスアワー

中林　潤:月曜～金曜

A.M.10:00 – P.M. 05:00

国府台キャンパス 4 階　教官研究室—9

時間割番号	011230				
科目名	医療と AI・ビッグデータ入門			**科目 ID**	
担当教員	宮野 悟, 中林 潤, 髙橋 邦彦, 坂内 英夫, 清水 秀幸, 朱 欣, 石丸 美穂, 曹 日丹, 田畑 寛治, 木下 淳博, 森田 久美子, 土田 優美, 河原 智樹, 竹内 康雄, 角 勇樹, 平川 晃弘, 須藤 毅顕, 中山 まどか[MIYANO Satoru, NAKABAYASHI Jun, TAKAHASHI Kunihiko, BANNAI Hideo, SHIMIZU Hideyuki, SHU Kin, ISHIMARU Miho, CAO Ridan, TABATA Kanji, KINOSHITA Atsuhiro, MORITA Kumiko, TSUCHIDA Yumi, KAWAHARA Tomoki, TAKEUCHI Yasuo, SUMI Yuki, HIRAKAWA Akihiro, SUDO Takeaki, NAKAYAMA Madoka]				
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	1	**単位数**	2
実務経験のある教員による授業					

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表 2−1)

主な講義場所

同期型遠隔授業

授業の目的、概要等

今後のデジタル社会の基礎知識として捉えられている数理・データサイエンス・AI の基礎的素養を習得する。

なぜ、数理・データサイエンス・AIを学ぶのか、社会でどのように活用され新たな価値を生んでいるのかという全体像の把握と、健康・医療分野での AI の活用事例を学ぶ。

将来的に保健医療分野における AI 技術研究を自ら進めるもしくは企業等の技術者と共同で AI 技術開発を推進する機会を得た際に必要となる素養を習得する。

授業の到達目標

・社会で起きている変化を理解し、数理・データサイエンス・AI を学ぶことの意義を説明できる。
・AI を活用した新しいビジネス/サービスを説明できる
・どんなデータが集められ、どう活用されているかを説明できる。
・データ・AI を活用するために使われている技術を概説できる。
・データ・AI を活用することによって、どの様な価値が生まれているかを説明できる。
・データ・AI 利活用における最新動向(ビジネスモデル、テクノロジー)を説明できる。
・データ利活用プロセスを体験し、データを解析して考察できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	10/16	10:45−11:30	遠隔授業(同期型)	講義 1:次世代研究者・医療者の環境と姿	次世代研究者・医療者の環境と姿	宮野 悟, 中林 潤, 曹 日丹, 田畑 寛治	次世代の研究者と医療者について説明できる
2	10/16	11:40−12:25	遠隔授業(同期型)	講義 2:生物統計学概論 ～医療における意思決定のために～	生物統計概論	髙橋 邦彦, 曹 日丹, 石丸 美穂, 田畑 寛治	医療における意思決定のために必要な生物統計の知識を得る
3	10/23	10:45−11:30	遠隔授業(同期型)	講義 3 講義 3:AI のこれからと富士通の取り組み	外部講師による AI の利活用について	石丸 美穂, 曹 日丹, 田畑 寛治	AI の社会実装と利活用について知識を得る
4	10/23	11:40−12:25	遠隔授業(同期型)	講義 4:AI 倫理について	AI 倫理	江花 有亮, 石丸 美穂, 曹 日丹, 田畑 寛治	AI 倫理について理解できる
5	10/30	10:45−11:30	遠隔授業(同期型)	講義 5:データ科学アルゴリズム概論	データ科学アルゴリズム概論	坂内 英夫, 曹 日丹, 石	データ科学アルゴリズムについ

						丸 美穂, 田畑 寛治	て説明できる
6	10/30	11:40–12:25	遠隔授業(同期型)	演習 1:python 基礎 1	python の復習	曹 日丹, 石丸 美穂, 田畑 寛治	
7	11/6	10:45–11:30	遠隔授業(同期型)	講義 6:AI を用いた医療画像と信号処理	医療画像・信号処理に適用される AI 技術の基礎と代表的な AI モデルを学ぶ。さらに、実例を用いて AI 技術の学習・開発方法を紹介する。	朱 欣, 石丸 美穂, 曹 日丹, 田畑 寛治	
8	11/6	11:40–12:25	遠隔授業(同期型)	演習 2:python 基礎 2	python の復習	曹 日丹, 石丸 美穂, 田畑 寛治	python のデータ型とリストの概念、制御構文について復習できる
9	11/13	10:45–11:30	遠隔授業(同期型)	講義 7:AI・データサイエンスを学んで次世代の医療を切り開こう	AI・データサイエンスを学んで次世代の医療を切り開こう	清水 秀幸, 曹 日丹, 石丸 美穂, 田畑 寛治	AI・データサイエンスの医療への関わりについて説明できる
10	11/13	11:40–12:25	遠隔授業(同期型)	演習 3:python 基礎 3	関数、モジュール、パッケージ、ライブラリ	曹 日丹, 石丸 美穂, 田畑 寛治	python の関数、モジュール、パッケージ、ライブラリ等の概念について理解できる
11	11/20	10:45–11:30	遠隔授業(同期型)	演習 4:python 基礎 4	配列概念、多次元配列、ファイル操作	曹 日丹, 石丸 美穂, 田畑 寛治	python の numpy ライブラリ、配列概念、多次元配列について理解できる
12	11/20	11:40–12:25	遠隔授業(同期型)	演習 5:python 基礎 5	データ読み込み	曹 日丹, 石丸 美穂, 田畑 寛治	python でデータフレーム(csc ファイル)を読み込める
13	11/27	10:45–11:30	遠隔授業(同期型)	演習 6:python 基礎 6	データフレーム取り扱い	曹 日丹, 石丸 美穂, 田畑 寛治	python で実際にデータクレンジングを行える
14	11/27	11:40–12:25	遠隔授業(同期型)	演習 7:python 基礎 7	データ可視化	曹 日丹, 石丸 美穂, 田畑 寛治	python でデータの可視化を行える
15	12/4	10:45–11:30	遠隔授業(同期型)	演習のための講義 1:機械学習概論 1	機械学習(回帰分析)の概念の解説	清水 秀幸	回帰分析の概念について理解できる
16	12/4	11:40–12:25	遠隔授業(同期型)	演習 8:回帰分析 1	線形回帰分析	石丸 美穂, 曹 日丹, 田畑 寛治	python で実際に線形回帰分析を行える
17	12/11	10:45–11:30	遠隔授業(同期型)	演習 9:回帰分析 2	線形回帰分析	石丸 美穂, 曹 日丹, 田畑 寛治	python で実際に線形回帰分析を行える
18	12/11	11:40–12:25	遠隔授業(同期型)	演習 10:回帰分析 3	ロジスティック回帰分析	石丸 美穂, 曹 日丹, 田	python で実際にロジスティック回

						畑 寛治	帰分析を行える
19	12/18	10:45–11:30	遠隔授業（同期型）	演習 11：回帰分析 4	ロジスティック回帰分析	石丸 美穂, 曹 日丹, 田畑 寛治	python で実際にロジスティック回帰分析を行える
20	12/18	11:40–12:25	遠隔授業（同期型）	演習のための講義 2：機械学習概論 2	機械学習（教師あり学習）の概念の解説	清水 秀幸	教師あり機械学習の概念について理解できる
21	1/8	10:45–11:30	遠隔授業（同期型）	演習 12：教師あり機械学習 1	教師あり学習（サポートベクターマシン）	石丸 美穂, 曹 日丹, 田畑 寛治	python でサポートベクタマシンを行える
22	1/8	11:40–12:25	遠隔授業（同期型）	演習 13：教師あり機械学習 2	教師あり学習（決定木）	石丸 美穂, 曹 日丹, 田畑 寛治	python で決定木分析を行える
23	1/14	10:45–11:30	遠隔授業（同期型）	演習 14：教師あり機械学習 3	教師あり学習（ランダムフォレスト）	石丸 美穂, 曹 日丹, 田畑 寛治	python でランダムフォレストを行える
24	1/14	11:40–12:25	遠隔授業（同期型）	演習のための講義 3：深層学習概論	深層学習の概念の解説	清水 秀幸	深層学習の概念について理解できる
25	1/15	10:45–11:30	遠隔授業（同期型）	演習 15 深層学習 1	深層学習の基礎	石丸 美穂, 曹 日丹, 田畑 寛治	python で深層学習を行う方法を理解する
26	1/15	11:40–12:25	遠隔授業（同期型）	演習 16 深層学習 2	深層学習の結果の可視化	石丸 美穂, 曹 日丹, 田畑 寛治	python で深層学習の結果を可視化する
27	1/21	10:45–11:30	遠隔授業（同期型）	演習 17 深層学習 3	画像の読み込みと前処理	石丸 美穂, 曹 日丹, 田畑 寛治	python で画像の読み込みと前処理を行える
28	1/21	11:40–12:25	遠隔授業（同期型）	演習 18 深層学習 4	深層学習モデルの設計	石丸 美穂, 曹 日丹, 田畑 寛治	python で画像の深層学習モデルを設計できる
29	1/22	08:50–09:35	遠隔授業（同期型）	演習 19 深層学習 5	肺レントゲンでの深層学習	石丸 美穂, 曹 日丹, 田畑 寛治	python で肺レントゲン写真を用いて深層学習を行える
30	1/22	10:45–11:30	遠隔授業（同期型）	まとめの演習	機械学習と深層学習についての課題	石丸 美穂, 曹 日丹, 田畑 寛治	自分で学習モデルを設計することができる
31	1/22	11:40–12:25	遠隔授業（同期型）	まとめの演習	機械学習と深層学習についての課題	石丸 美穂, 曹 日丹, 田畑 寛治	

授業方法

・前半は講義、後半は自分の PC で演習を行う。

授業内容

AI・数理・データサイエンスに関する概論講義、実習

社会におけるデータ・AI 利活用に関する講義：

社会に起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用のための技術、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向など

データ解析実習:
データハンドリング、機械学習など

成績評価の方法

・本科目では試験を実施せず、各講義および演習後の課題によって成績評価を行う。すべての課題を期限内に提出すれば、80 点以上の成績を得ることができます。

・最終回終了時までに、以下の授業評価アンケートに回答していることを成績評価の前提とする。本科目では、学生の授業評価を基に、講義内容や演習内容の見直しを行う。

以前の授業評価にて「動画が WebClass にアップされるので課題をやる際に手順やプログラミングの仕方を忘れてしまっても何度も授業を見返すことが出来たのでよかった。」との意見が複数あったので、授業の録画は、できる限り授業当日のうちにアップロードし、1 週間の学習期間を確実に確保できるようにする。また、「与えられたコードを実行するだけなのは簡単で楽だったけれど、もう少し授業時間内に学生自身がやる作業があったほうがいいと思う。」との意見があったので、一部の演習コードは学生自身が手を動かして書くようにする。

◯医学科の学生:「M1 コース評価アンケート 2025」の「2025 年度「医療と AI・ビッグデータ入門」コース評価」
◯保健衛生学科看護学専攻の学生:「N1 教務係等からのお知らせ 2025」の「N1 2025「医療と AI・ビッグデータ入門」授業評価」
◯保健衛生学科検査技術学専攻の学生:「MT1 教務係等からのお知らせ 2025」の「MT1 2025「医療と AI・ビッグデータ入門」授業評価」
◯歯学科の学生:「歯学科授業評価アンケートコース 2025」の「医療と AI・ビックデータ入門」
◯口腔保健学科口腔保健衛生学専攻の学生:「OH1-4 口腔保健衛生学専攻授業評価アンケートコース 2025」の「医療と AI・ビッグデータ入門」
◯口腔保健学科口腔保健工学専攻の学生:「OE1-4 口腔保健工学専攻授業評価アンケートコース 2025」の「医療と AI・ビッグデータ入門」

成績評価の基準

・課題をすべて期限内に提出し、提出課題により本科目の到達目標を全て達成したと判断された場合は、科目の評点を 80 点以上とする。
・課題が提出されない場合は、当該授業を欠席として扱うのみならず、当該課題は 0 点として評価するので注意すること。
・期限内に提出された課題、および期限後に再提出された課題は 100 点満点で、期限後に初めて提出された課題は 79 点満点で評価する。
・WebClass 上で提出された課題のみを評価対象とし、個別メール等で送られた課題は原則受け付けない。

準備学習等についての具体的な指示

・webclass にあげている動画教材を活用して予習・復習に役立てること。

試験の受験資格

・講義のコマは webclass 上の課題の提出をもって出席とみなす。
・演習のコマは授業最後に与える課題の提出をもって出席とみなす。
・webclass の必修 IT 基礎研修のスタートアップ編および情報セキュリティ編を受講しテストに合格していることを単位取得の条件とする。

参考書

Python で体感！ 医療と AI はじめの一歩／宮野 悟,中林 潤,木下 淳博,須藤 毅顕,宮野 悟 監修,中林 潤 編集,木下 淳博 編集,須藤 毅顕 編集:羊土社

参考書

・東京大学のデータサイエンティスト育成講座 : Python で手を動かして学ぶデータ分析／中山浩太郎 監修,塚本邦尊, 山田典一, 大澤文孝 著,中山, 浩太郎,塚本, 邦尊,山田, 典一,大沢, 文孝, 1973-,:マイナビ出版, 2019
・データサイエンスの基礎／濵田悦生著 ; 狩野裕編,濵田, 悦生,狩野, 裕,講談社サイエンティフィク,:講談社, 2019
・Python3 スキルアップ教科書/辻真吾、小林秀幸、鈴木庸氏、細川康博/技術評論社
・みんなの Python 第4版/柴田淳/SB Creative
・新しい人工知能の教科書/多田智史、石井一夫/翔泳社
・いちばんやさしいディープラーニング入門教室/谷岡広樹、廉鑫/ソーテック社
・医療 AI とディープラーニングシリーズ 医用画像ディープラーニング入門 /藤田広志/オーム社

他科目との関連

・情報処理、数学、統計学の授業内容と密接に関わる。

履修上の注意事項

・グループ演習および課題提出を行うので、対面授業の選択学生を含めて参加者は PC 持参を原則とする。

備考

・実習では 1 人 1 台のコンピュータを使用する。

・事前に WebClass の資料『事前資料』に目を通しておくこと

オフィスアワー

中林　潤:月曜～金曜

A.M.10:00 – P.M. 05:00

国府台キャンパス 4 階　教官研究室―9

木下　淳博:金　16:00－17:00　3 号館 5 階　教育メディア開発学分野

曹　日丹:毎週木曜日　AM.10:00–PM.5:00　10 号館 3 階 301 室

須藤　毅顕:毎週火曜日　AM.11:00–PM.5:00　湯島キャンパス 1 号館東 3 階　教育メディア開発学分野研究室

連絡先（メールアドレス）

中林　潤:nakab.las@tmd.ac.jp

木下　淳博:kinoshita-emdv@tmd.ac.jp

曹　日丹:caoemdv@tmd.ac.jp

須藤　毅顕:t-sudo.ioe@tmd.ac.jp

連絡先（メールアドレス）

中林　潤:nakab.las@tmd.ac.jp

曹　日丹:caoemdv@tmd.ac.jp

オフィスアワー

中林　潤:月曜～金曜

A.M.10:00 – P.M. 05:00

国府台キャンパス 4 階　教官研究室―9

曹　日丹:毎週木曜日　AM.10:00–PM.5:00　10 号館 3 階 301 室

時間割番号	011240				
科目名	ｱｶﾃﾞﾐｯｸ･ﾘﾃﾗｼｰ			**科目 ID**	
担当教員	木谷　真紀子[KITANI Makiko]				
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	1	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業					

別表 1-1)言語を通した人間の創造的営みを理解する
別表 1-3)人間の歴史的営みを理解する
別表 1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る
別表 1-6)優れた芸術作品に触れて完成を高める
別表 1-7)人間の心への理解を高める
別表 1-10)現代社会における科学の責任を意識できるようになる
別表 3-2)自らの考えを的確に伝えるための基本的名文章表現能力を身につける

主な講義場所

国府台キャンパスにて対面で実施予定。

授業の目的、概要等

「アカデミック・リテラシー」は、調査力・思考力・表現力・コミュニケーション能力を総合的に向上させ、高校までの学習に対する受動的な意識から、大学生の主体的な学びの意識へと早期に転換させることを目指した取り組みである。「文章表現リテラシー」「情報活用リテラシー」「口頭表現リテラシー」で構成され、大学生活や今後に向け、調査、分析、考察し、論理的文章として書き、またアカデミックプレゼンテーションやディスカッションなどをする能力を身につけることを目標とする。
三つに分けて改めて記す。
1情報活用リテラシー ： レポートや論文などアカデミックな論理的文章の執筆や、発表のために必要で正確な情報を収集し、活用できるようになる。
2文章表現リテラシー ： 複数の文献を用いて 3000 字以上の論理的文章が書けるようになる。
3口頭表現リテラシー ： PPT を用いたアカデミックプレゼンテーションができるようになる。

授業の到達目標

1情報活用リテラシー
・研究倫理の観点から、情報収集のために必要なリテラシーを身につける
・複数の情報を比較して、情報を精査する視点を得ることができるようになる
2文章表現リテラシー
・論理的に展開するための定型に則った文章を書けるようになる
・自ら問いを立て、調査やデータに基いた考察分析ができるようになる
3口頭表現リテラシー
・論理的に展開するためのを身につけることができる
・定型に則った明解なプレゼンテーションができるようになる

授業方法

文章表現、情報活用、口頭表現の三種類の内容で構成し、担当者が講義を行う。受講者には、課題の執筆や口頭発表、ディスカッションなどを課す。アクティブラーニング形式で行うため、出席し、能動的な態度で臨むこと。

授業内容

1. ガイダンス
・リテラシー授業、今後の課題について説明
・自己紹介文執筆、提出(400 字)
・文献検索と引用法について
2. 情報活用Ⅰ、文章表現Ⅰ
書評とディスカッションへの記事提出

優れた自己紹介文の紹介、メールの書き方、論理的文章の型や、レポートの描き方など説明。この授業で書く 3000 字のレポートについての説明。
3. 情報活用Ⅱ、口頭表現Ⅰ、文章表現Ⅱ
ディスカッションで提出した記事について、他紙、全国紙、地方紙などを提出、記事内容の比較分析。情報倫理・研究倫理の要点について Zoom 講義で説明。
ディスカッションについての説明の後、新聞記事に基づいたディスカッション
提出した記事から引用した論理的文章の提出。
4. 情報活用Ⅲ、文章表現Ⅲ
記事の比較分析、ディスカッションを通して考えたことなどを提出。書評記事を提出。
前回の文章の返却。それに基づいた説明。
5. 文章表現Ⅳ、口頭表現Ⅱ
第 4 回で提出した書評を引用し書籍を紹介する文章の提出。
アカデミックプレゼンテーションの型、スライドの作成方法など説明。
ブックトークについての説明。
6. 口頭表現Ⅲ
第 4 回で提出した書籍の、PPT を用いたブックトークの実施。
7. 文章表現Ⅴ、情報活用Ⅳ
この授業で書く 3000 字のレポートについてのテーマの決定。
自分のテーマに基づく、アンケート、インタビューの実施について。
アンケート項目の検討と提出。

成績評価の方法

情報活用の課題 20%、文章表現の課題 50%、口頭表現 20%、
期末コメントシート 10%

成績評価の基準

(授業開始前)授業内容を把握し、学期を通して扱う書評と、ディスカッションのテーマとしたい記事を探し、初回授業で提出する。
(授業開始後)シラバスに則った課題を遅れることなく提出する。

準備学習等についての具体的な指示

与えられた課題に取り組み、〆切を遅れず提出すること。

試験の受験資格

授業内の課題を提出し、3 分の 2 以上の授業に出席していること。

教科書

授業内で指示。

参考書

授業内で指示。

他科目との関連

グローバル教養総合講座「情報活用」。また本講義で学んだアカデミック・リテラシーを、他の授業でいかす。

履修上の注意事項

「アカデミック・リテラシー」そのものを身につける授業であるため、生成 AI などの使用が認められた場合は、厳しく対応する。 課題は遅れることなく提出すること。授業には能動的に臨むこと。

連絡先(メールアドレス)

makiko.las@tmd.ac.jp

オフィスアワー

月、金曜 12:20～13:30 管理研究棟 2 階
※原則的に上記の曜日時間としますが、事前に連絡のある学生には、上記時間外でも対応します。

時間割番号	011002A				
科目名	人体構造総論			**科目ID**	
担当教員	秋田 恵一, 山口 久美子, 原田 理代, 室生 暁[AKITA Keiichi, YAMAGUCHI Kumiko, HARADA Masayo, MURO Satoru]				
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	1	**単位数**	1.5
実務経験のある教員による授業	該当する				

英文名:Introduction to Human Body

授業の目的、概要等

人体構造総論は、人体解剖学の総論・概論ならびに人体発生学の総論・各論からなる。これらには明確な区別がつけられないため、授業はそれらが並行して進むことになる。

人体解剖学の総論・概論は、人体の構造を理解し説明するための基本的事項、ならびに人体の構造の基本について学習する。

人体発生学総論は、発生のメカニズムの基本ならびに、生殖子の形成から出生に至る正常過程ならびにその異常についての概略を学習する。

人体発生学各論は、器官系ならびに器官それぞれの発生過程について学習する。これらにより、人体解剖学の学習の基盤として必要な、器官の配置の必然性について理解することとなる。

人体発生学では、発生過程の理解ということのみならず、先天異常の理解についても学ぶ。先天異常の発生メカニズムを理解するためには、正常発生メカニズムを理解することが必要である。また、人体の複雑な構造は、多くの基本的な発生プロセスの組み合わせによるものであるから、この発生プロセスの基本を理解し様々なところで応用することができれば、解剖学的構造の位置関係を理解するための助けとなる。それによって一般に言われる「解剖学は暗記である」という呪縛を解くことができるはずである。

人体解剖学の講義は、人体構造総論の内容を踏まえたうえで行われることになるので、十分に理解することが求められる。

人体発生学、人体解剖学は非常に古い学問である。そのため、人名のついた用語が多数現れる。国際的通用性の高い人名のついた用語については折に触れて紹介する。また、国家試験等においては、人名は原語の綴りで出題されるため、慣れ親しんでいただきたい。

授業の到達目標

到達目標は、以下のとおりである。

①基本的な発生生物学の基本概念を理解すること。

②基本的な発生過程やそのタイミングを、人体解剖学と関連付けながら理解すること。

③人体の構造の配置を、発生過程から導き出すことができること。

④臨床的に重要な事項との関連を踏まえながら理解すること。

以下のような学習に努めていただきたい。非同期型の授業動画、講義資料、授業の参考資料は、WebClass に提示する。集合セッションでは、シラバスに示された範囲について、非同期型の授業ビデオなどで予習をしてから臨むことが求められる。

教科書「ウォルパート 発生生物学 第4版」の第1章 「発生生物学の歴史と基本概念」で示される基本的な概念を理解する。巻末の「用語解説」にでている用語については、様々な科目とも関連があるので、概ね理解するように務める。

教科書「ラングマン 人体発生学 第 11 版」の太字となっている用語については、理解する。また、本書の図については、解剖学を理解するうえで、非常に助けになるので、理解し、説明できることが必要である。また、『臨床関連事項』については、正常発生を理解するための助けとなり、将来、臨床科目を理解する基礎となるので、発展的学習として学習することが必要である。

教科書「グレイ解剖学 第4版」の第1章ならびに第2～8章の「概観」は、人体発生学を理解する上で、また人体解剖学を理解するための基礎として重要であるので理解する。

「人体構造総論」の講義資料に載せてある重要な用語、人の名前のついた用語や疾患名などは、英語または原語でも理解できるようにすることが必要である。用語の中には、表記にゆれがあるものがあり、本によって異なっている場合もあるが、明らかな間違い以外についてはとくに問題にしない。

分子的制御とシグナル伝達については、講義でとくに強調して触れたところ以外は、「人体構造総論」の科目における到達目標とはしないが、発展的学習として自習することが望ましい。また、「臨床的事項」については、正常構造や正常な発生過程の理解の助けとなるので、発展的学習として自習する。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和４年度改訂版）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-01-02)16,22,23,24,25,26
PS-02-05)01
PS-02-06)01
PS-02-07)01
PS-02-08)01
PS-02-09)01
PS-02-10)01
PS-02-13)01
PS-02-14)01

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-1-B]疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	11/10	13:30-15:00	医学科講義室１	集合セッション1：オリエンテーション、スケッチについて	秋田　恵一, 山口　久美子, 原田　理代, 室生　暁	①②③④授業後に個人課題の提出
2	11/14	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	総論 1-1	秋田　恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
3	11/17	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	総論 1-2	秋田　恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式

						問題に回答
4	11/21	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	総論 2-1	秋田 恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
5	11/21	13:30-15:00	遠隔授業（非同期型）	総論 2-2	秋田 恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
6	11/28	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	総論 2-3	秋田 恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
7	11/28	13:30-15:00	遠隔授業（非同期型）	総論 3	秋田 恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
8	12/1	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	総論 4	秋田 恵一	①②③④グループ討論、グループおよび個人課題の提出
9	12/1	13:30-15:00	医学科講義室 1	集合セッション2：総論	秋田 恵一, 山口 久美子, 原田 理代, 室生 暁	①②③④個人テスト
10	12/5	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	各論 1-1	秋田 恵一, 原田 理代	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
11	12/5	10:45-12:15	遠隔授業（非同期型）	各論 1-2	秋田 恵一, 原田 理代	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
12	12/8	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	各論 2	秋田 恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
13	12/8	10:45-12:15	遠隔授業（非同期型）	各論 3	秋田 恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
14	12/12	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	各論 4-1	秋田 恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
15	12/12	10:45-12:15	遠隔授業（非同期型）	各論 4-2	秋田 恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答

16	12/15	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	各論 4-3	秋田 恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
17	12/15	13:30-15:00	医学科講義室 1	集合セッション3：各論 1-4	秋田 恵一, 山口 久美子, 原田 理代, 室生 暁	①②③④個人テスト
18	12/19	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	各論 5	秋田 恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
19	12/19	10:45-12:15	遠隔授業（非同期型）	各論 6	秋田 恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
20	1/5	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	各論 7-1	秋田 恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
21	1/5	10:45-12:15	遠隔授業（非同期型）	各論 7-2	秋田 恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
22	1/9	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	各論 7-3	秋田 恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
23	1/9	10:45-12:15	遠隔授業（非同期型）	各論 8	秋田 恵一, 原田 理代	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
24	1/16	13:30-15:00	医学科講義室 2	集合セッション4：各論 5-8	秋田 恵一, 山口 久美子, 原田 理代, 室生 暁	①②③④個人テスト
25	1/30	15:25-16:55	医学科講義室 1	試験	秋田 恵一, 山口 久美子, 原田 理代, 室生 暁	①②③④試験

授業方法

● 非同期などの動画授業

指定された動画ならびに講義資料、参考資料を閲覧し、指示にあるように課題に回答する。11 月 10 日・12 月 1 日・12 月 15 日・1 月 16 日に行われる集合セッションでは、その前までに閲覧するように指示された非同期授業の内容を含むため、集合セッション前に当該講義の動画は閲覧し、指示された問題に答えておくこと。

WebClass 上にリアクションペーパーを用意する。これは、感想や質問、コメントを自由に記述してもらうためのものであり、出席管理に使うものではない。人間関係についての問題や、学習法についての質問など自由に書いていただいてよい。内容によっては全員に対してではなく、個人的に答えることもある。コミュニケーションツールとして非常に有効であるので十分に活用してほしい。

重要な質問やコメント、ならびに全体に回答したほうが良いものについては集合セッションの中で答えるか、WebClass 上で答えることに

する。優れた質問が授業内容を深める助けとなることが多い。また、講義資料、教科書等の誤りの指摘が授業の質を高めることに繋がるので、十分に活用してほしい。

授業動画は復習に使用できるよう、WebClass 上に閲覧可能な状態に置いておくので、本年度のみならず高学年になっても活用していただきたい。

● 対面授業 11 月 10 日・12 月 1 日・12 月 15 日・1 月 16 日の集合セッションは、講義室にて行う。

11 月 10 日の集合セッションでは、人体構造総論や人体解剖学の学習方法、評価の方法や基準等について説明する。また、人体解剖実習における形態の観察方法や注意すべきポイントについて、説明する。実際に図の描き方についての実習も行うので、紙やペンなどを用意しておく必要がある。

12 月 1 日・12 月 15 日・1 月 16 日の集合セッションでは、それまで行われた非同期授業の中から重要なポイントについて示す。さらに、最後に自習課題を示すので、学習の参考にする。

授業の動画は復習に使用できるよう、卒業まで、WebClass 上に閲覧可能な状態に置いておくので、活用していただきたい。

授業内容

授業スケジュール参照

成績評価の方法

人体構造総論の評価は、集合セッションで提示される提出課題ならびに個人テスト、1 月 30 日に実施される筆記試験によって行う。

1)提出課題ならびに個人テスト

11 月 10 日 提出課題 10 点

12 月 1 日・15 日・1 月 16 日の個人テスト 10 点×3 回

＊特別な事情なく提出期限を超えたものは未提出として扱う

2)筆記試験

基本多肢選択式問題 10 題 10 点

基本記述式問題 10 題 50 点

基本記述式問題の合格水準については、集合セッションの中で理解できるようにする。

3)筆記試験

応用多肢選択式問題 5 題 10 点

応用記述式問題 3 題 30 点

応用問題については、臨床関連事項、臨床症例を含む範囲から出題される。

成績評価の基準

人体構造総論の評価は、提出課題ならびに筆記試験の結果から、次のように行う。

・1)と2)の合計が 100 点中 60 点以上の場合に合格する。

・これに3)の点数を加えたものを、この科目の評価とする。

準備学習等についての具体的な指示

高校での生物学の履修の有無を考慮にいれないのかという声がしばしば聞かれるが、教養部での半年間に基本的な生物学的な事項についての差は自主的に埋められるはずである。また、これまでの経験上、高校での生物学の履修の有無による成績の差はほとんど見られていない。よって、高校での生物学履修の有無ついては人体構造総論の履修に際しては一切考慮しない。

重要なことを見極められているかについては、集合セッションで判断していただきたい。

他の科目と関連することが多い。重要な関連項目については、講義の中で折に触れて述べるので、とくにそのあたりを意識して理解していただきたい。

試験の受験資格

次のすべてが、1 月 30 日に行われる定期試験ならびに追・再試験を受験する資格となる。

11 月 10 日・12 月 1 日・15 日・1 月 16 日に行われる計 4 回の集合セッションに参加し、提示される問題に解答し、与えられる課題を期限までに提出すること。

集合セッションに参加できない場合には、開始前の連絡を必須とする。

期限内に課題提出ができない場合には、期限前の連絡を必須とする。
いずれも、医学教務グループにメールすることを原則とするが、緊急事態で電話連絡をした場合は後日メールで事情を説明することが必要である。
連絡ができないような特別な事情があったとあとで判断された場合はその限りではない。

教科書

ラングマン人体発生学／T. W. サドラー(T. W. Sadler):メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2024 年
ウォルパート発生生物学／ルイス・ウォルパート, シェリル・ティックル 著,武田洋幸, 田村宏治 監:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2012
グレイ解剖学／Richard L.Drake, A.Wayne Vogl, Adam W.M.Mitchell [著],秋田恵一 訳:エルゼビア・ジャパン, 2019

参考書

体表からわかる人体解剖学 : ポケットチューター／Richard Tunstall, S. Ali Mirjalili [著] ; [大川淳ほか訳],Tunstall, Richard,Mirjalili, S. Ali,大川, 淳,秋田, 恵一,:南江堂, 2021

他科目との関連

「人体構造総論」は、「人体解剖学」と密接な関係があるだけでなく、「組織学」、「生理学」、「神経解剖学」といった他の解剖学の科目、「生理学」のような機能について学ぶ科目とも密接な関係にある。 臨床的な事項との関連を、積極的に意識することで、臨床系の科目を学習する際に有機的につなげていくことができる。様々なところで関連を考えながら学んでいただきたい。

履修上の注意事項

個人課題について、他の学生のものをそのまま提出するようなことはしないこと。そのような事実が発覚した場合には、関係した学生すべてにつき未提出とする。 講義動画、講義資料、参考資料などは著作権の問題があるので、受講登録者以外に公開することを禁ずる。

備考

授業最終日から、行われるコース評価アンケートがWebClassでできるようになっている。アンケートに回答しない場合は、本科目の合否がWebClassに表示されない。

昨年のアンケートよりの改善点
・授業スライドのPDFをひとつひとつダウンロードするのが煩わしいという声が多かったので、いくつかのファイルをまとめてPDFの数を減らすこととする。

連絡先(メールアドルス)

秋田 恵一:akita.fana@tmd.ac.jp
山口 久美子:yamaguchi.fana@tmd.ac.jp
原田 理代:原田 理代:harada.fana@tmd.ac.jp
室生 暁:muro.fana@tmd.ac.jp

オフィスアワー

秋田 恵一:メール等でアポイントメントを取ること。
山口 久美子:メール等でアポイントメントを取ること。
原田 理代:原田 理代:メール等でアポイントメントを取ること。
室生 暁:メール等でアポイントメントを取ること

時間割番号	011003A				
科目名	細胞生物学			**科目ID**	
担当教員	中田 隆夫, 水島 昇, 仁科 博史, 武部 貴則, 有馬 好美, 中林 潤, 瀬川 勝盛, 吉原 壮悟, CHENG LIHONG, 松田 憲之, 藤吉 好則, 浅野 豪文[NAKATA Takao, Noboru Mizushima, NISHINA Hiroshi, TAKEBE Takanori, ARIMA Yoshimi, NAKABAYASHI Jun, SEGAWA Katsumori, YOSHIHARA Shogo, CHENG LIHONG, MATSUDA Noriyuki, FUJIYOSHI Yoshinori, ASANO TOSHIFUMI]				
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	1	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業	該当する				

英文名:Cell Biology

授業の目的、概要等

細胞生物学は細胞を単位として生命や病気を考えるというここ100年来の生物学の哲学を基にし、多様な研究方法を駆使する学問である。実際には1960年代に始まる電子顕微鏡で発見した細胞内の構造と生化学的な機能とをリンクさせる研究から始まっている。そうすると現代生物学の大部分は細胞生物学となり、すでに高校や教養でも或る程度習っていることになる。それらとの重複を避けて、少しだけ進んだ細胞生物学になるようにした。細胞内小器官の構造と機能をやや進んだ観点から学習し、さらに細胞の自己組織化、幹細胞、オートファジー、器官形成、数理モデル化、構造生理学、光遺伝学等をそれぞれ専門の先生にお話いただく。

授業の到達目標

1) 最先端研究を理解して楽しむ。
2) それぞれの先生の問題へのアプローチの違い、ものの見方の違いのようなものを理解する。
3) 現代生物学、医学研究の基本を理解する。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-01-01)03,04,09
PS-01-02)02,03,07,08,09,15,22

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-1-B]疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	9/19	08:50-10:20	共用講義室1	メンブレントラフィック	メンブレントラフィックについて学ぶ	中田 隆夫	【到達目標】1)2)3)【学習方法】対面講義【アクティブラーニング】質疑応答
2	9/22	08:50-10:20	共用講義室1	オートファジー、細胞内分解系	オートファジー、細胞内分解系について学ぶ	水島 昇	【到達目標】1)2)3)【学習方法】対面講義【アクティブラーニング】質疑応答
3	9/26	08:50-10:20	共用講義室1	器官形成の遺伝学（モデル動物としての魚類）	器官形成の遺伝学について学ぶ	仁科 博史	【到達目標】1)2)3)【学習方法】対面講義【アクティブラーニング】質疑応答
4	9/29	08:50-10:20	アクティブラーニング教室	細胞死の分子機構	細胞死の分子機構について学ぶ	瀬川 勝盛	【到達目標】1)2)3)【学習方法】対面講義【アクティブラーニング】質疑応答
5	10/3	08:50-10:20	共用講義室1	Cell biology in English	細胞生物学について英語で学ぶ	CHENG LIH ONG	【到達目標】1)2)3)【学習方法】対面講義【アクティブラーニング】質疑応答
6	10/6	08:50-10:20	共用講義室1	細胞骨格と分子モーター	細胞骨格と分子モーターについて学ぶ	吉原 壮悟	【到達目標】1)2)3)【学習方法】対面講義【アクティブラーニング】質疑応答
7	10/10	08:50-10:20	共用講義室1	構造生理学	構造生理学について学ぶ	藤吉 好則	【到達目標】1)2)3)【学習方法】対面講義【アクティブラーニング】小テスト(ノート閲覧可)
8	10/17	08:50-10:20	共用講義室1	細胞の自己組織化	細胞の自己組織化について学ぶ	武部 貴則	【到達目標】1)2)3)【学習方法】ZOOM使用【アクティブラーニング】質疑応答
9	10/24	13:30-15:00	アクティブラーニング教室	オルガネラ品質管理と神経変性疾患の関連について	オルガネラ品質管理と神経変性疾患の関連について学ぶ	松田 憲之	【到達目標】1)2)3)【学習方法】対面講義【アクティブラーニング】質疑応答
10	10/27	08:50-10:20	共用講義	細胞内シグナル伝達系	細胞内シグナル伝達系の数理モ	中林 潤	【到達目標】1)2)3)

			室1	の数理モデル	デルについて学ぶ		【学習方法】ZOOM使用【アクティブラーニング】質疑応答、レポート課題
11	10/31	08:50-10:20	共用講義室1	腫瘍細胞生物学	腫瘍細胞生物学について学ぶ	有馬 好美	【到達目標】1)2)3)【学習方法】対面講義【アクティブラーニング】質疑応答
12	11/7	08:50-10:20	共用講義室1	筋生物学	筋生物学について学ぶ	浅野 豪文	【到達目標】1)2)3)【学習方法】対面講義【アクティブラーニング】質疑応答
13	1/23	15:25-16:55	医学科講義室1	細胞生物学試験		CHENG LIHONG, 吉原壮悟, 有馬好美	

授業方法

講師により対面授業あるいはZOOMによる同期授業の形式となるので、授業スケジュールの授業明細を確認しておくこと。ZOOMチャット機能やイマキクなどを使った双方向授業、レポート課題といったアクティブラーニングを行う。講義後の質問には、WebClass上に講義毎のリアクションペーパーを用意し、WebClass 上で回答することで対応する。出席は確認しないが、講義中にレポート課題が出されることがある。

授業内容

授業スケジュール参照

成績評価の方法

授業でレポート課題が出た場合、一つにつき10点満点(アンケート形式のものは2点)で採点する。1月23日の筆記試験と合わせて合計100点満点とし、成績評価とする。

成績評価の基準

成績評価100点満点中、60点以上で合格とする。それぞれの講義の内容をその人なりに大まかに理解できているかどうかが合格の基準であり、より深く理解している場合に評価が上がる。

準備学習等についての具体的な指示

教養で学習した細胞生物学関連の内容について復習しておく。教養までの生物学であやふやな点がある者は細胞生物学のごく簡単な教科書でよいから、読んでおくとよい(特に方法)。

試験の受験資格

原則として出席は取らないが、授業中に課されたレポート提出が受験資格となる。

教科書

Molecular biology of the cell, 7th ed／Bruce Alberts ら著:WW Norton & Co, 2022

細胞の分子生物学 原著第6版／Bruce Alberts, Alexander Johnson, Julian Lewis, David Morgan, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter 著, 中村桂子, 松原謙一 監訳:ニュートンプレス, 2017

ESSENTIAL CELL BIOLOGY, 6th Edition／B. Alberts ら著:WW Norton & Co, 2023

Essential 細胞生物学 原著第5版／BRUCE ALBERTS, KAREN HOPKIN, ALEXANDER JOHNSON, DAVID MORGAN, MARTIN RAFF, KEITH ROBERTS, PETER WALTER 著,中村桂子, 松原謙一, 榊佳之, 水島昇 監訳,青山聖子 [ほか] 訳,Alberts, Bruce,Hopkin, Karen,Johnson, Alexander D,Morgan, David Owen, 1958-,Raff, Martin C,Roberts, K. (Keith:南江堂, 2021

参考書

数でとらえる細胞生物学／Ron Milo, Rob Phillips 著,Milo, Ron,Phillips, Rob (Robert Brooks),舟橋, 啓,:羊土社, 2020

各講義で適宜紹介する。

履修上の注意事項

未発表の研究内容も含まれている可能性があること、講義資料などは著作権の問題があることなどから配布された資料は外部に公開することを禁じる。また、その関係からすべての講義で資料は配布されるわけではない。

備考

例年コース評価では最新の研究内容の講義が好評である。講師の入れ替えや講義内容の更新などを行っている。
またレポート課題が出された場合、それを採点し成績評価に加えることにした。

参照ホームページ

iBiology

https://www.ibiology.org/

細胞生物学を含めた生物学各分野の世界の第一人者が 20 分程で自分の研究の話をする(英語)。研究者の人となりも分かるし、英語の聞き取りの勉強にもなる。

時間割番号	011003				
科目名	細胞生物学			**科目ID**	
担当教員	中田 隆夫, 水島 昇, 仁科 博史, 武部 貴則, 中林 潤, 吉原 壮悟, 松田 憲之, CHENG LIHONG, 有馬 好美, 瀬川 勝盛, 藤吉 好則[NAKATA Takao, Noboru Mizushima, NISHINA Hiroshi, TAKEBE Takanori, NAKABAYASHI Jun, YOSHIHARA Shogo, MATSUDA Noriyuki, CHENG LIHONG, ARIMA Yoshimi, SEGAWA Katsumori, FUJIYOSHI Yoshinori]				
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	2	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業	該当する				

英文名:Cell Biology

授業の目的、概要等

細胞生物学は細胞を単位として生命や病気を考えるというここ100年来の生物学の哲学を基にし、多様な研究方法を駆使する学問である。実際には1960年代に始まる電子顕微鏡で発見した細胞内の構造と生化学的な機能とをリンクさせる研究から始まっている。そうすると現代生物学の大部分は細胞生物学となり、すでに高校や教養でも或る程度習っていることになる。それらとの重複を避けて、少しだけ進んだ細胞生物学になるようにした。細胞内小器官の構造と機能をやや進んだ観点から学習し、さらに細胞の自己組織化、幹細胞、オートファジー、器官形成、数理モデル化、構造生理学、光遺伝学等をそれぞれ専門の先生にお話いただく。

授業の到達目標

1) 最先端研究を理解して楽しむ。
2) それぞれの先生の問題へのアプローチの違い、ものの見方の違いのようなものを理解する。
3) 現代生物学、医学研究の基本を理解する。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-01-01)03,04,09
PS-01-02)02,03,07,08,09,15,22

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-1-B]疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/7	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	メンブレントラフィック	WebClass 上の資料と動画で学習する。	中田 隆夫	【到達目標】1)2)3)【学習方法】非同期ビデオ。質問は WebClass 上のリアクションペーパーで受け付ける。
2	4/8	13:30-15:00	遠隔授業（非同期型）	器官形成の遺伝学（モデル動物としての魚類）	WebClass 上の動画で学習する。	仁科 博史	【到達目標】1)2)3)【学習方法】非同期ビデオ。質問は WebClass 上のリアクションペーパーで受け付ける。
3	4/8	15:25-16:55	遠隔授業（非同期型）	オートファジー、細胞内分解系	WebClass 上の資料と動画で学習する。	水島 昇	【到達目標】1)2)3)【学習方法】非同期ビデオ。質問は WebClass 上のリアクションペーパーで受け付ける。
4	4/8	17:15-18:45	遠隔授業（非同期型）	細胞の自己組織化	WebClass 上の動画で学習する。	武部 貴則	【到達目標】1)2)3)【学習方法】非同期ビデオ。質問は WebClass 上のリアクションペーパーで受け付ける。
5	4/9	15:25-16:55	遠隔授業（非同期型）	オルガネラ品質管理と神経変性疾患の関連について	WebClass 上の資料と動画で学習する。	松田 憲之	【到達目標】1)2)3)【学習方法】非同期ビデオ。質問は WebClass 上のリアクションペーパーで受け付ける。
6	4/9	17:15-18:45	遠隔授業（非同期型）	Cell biology in English	WebClass 上の資料と動画で学習する。	CHENG LIH ONG	【到達目標】1)2)3)【学習方法】非同期ビデオ。質問は WebClass 上のリアクションペーパーで受け付ける。
7	4/10	17:15-18:45	遠隔授業（非同期型）	幹細胞を用いた再生医療	WebClass 上の資料と動画で学習する。	難波 大輔	【到達目標】1)2)3)【到達目標】1)2)3)【学習方法】非同期ビデオ。質問は WebClass 上のリアクションペーパーで受け付ける。
8	4/11	17:15-18:45	遠隔授業（非同期型）	細胞死の分子機構	WebClass 上の動画で学習する。	瀬川 勝盛	【到達目標】1)2)3)【学習方法】非同期ビデオ。質問は WebClass 上のリアクションペーパ

							ーで受け付ける。
9	4/14	17:15-18:45	遠隔授業（非同期型）	細胞骨格と分子モーター	WebClass 上の資料と動画で学習する。	吉原 壮悟	【到達目標】1)2)3)【学習方法】非同期ビデオ。質問は WebClass 上のリアクションペーパーで受け付ける。
10	4/15	17:15-18:45	遠隔授業（非同期型）	構造生理学	WebClass 上の資料で学習する。	藤吉 好則	【到達目標】1)2)3)【学習方法】動画が無いため試験の範囲外とする。
11	4/16	17:15-18:45	遠隔授業（非同期型）	細胞内シグナル伝達系の数理モデル	WebClass 上の資料と動画で学習する。	中林 潤	【到達目標】1)2)3)【学習方法】非同期ビデオ。質問は WebClass 上のリアクションペーパーで受け付ける。
12	4/17	17:15-18:45	遠隔授業（非同期型）	腫瘍細胞生物学	WebClass 上の資料と動画で学習する。	有馬 好美	【到達目標】1)2)3)【学習方法】非同期ビデオ。質問は WebClass 上のリアクションペーパーで受け付ける。
13	4/21	17:15-18:45	医学科講義室 1	細胞生物学試験		CHENG LIHONG, 吉原 壮悟, 有馬 好美	

授業方法

講師により対面授業あるいは ZOOM による同期授業の形式となるので、授業スケジュールの授業明細を確認しておくこと。ZOOM チャット機能やイマキクなどを使った双方向授業、レポート課題といったアクティブラーニングを行う。講義後の質問には、WebClass 上に講義毎のリアクションペーパーを用意し、WebClass 上で回答することで対応する。出席は確認しないが、講義中にレポート課題が出されることがある。

授業内容

授業スケジュール参照

成績評価の方法

授業でレポート課題が出た場合、一つにつき 10 点満点（アンケート形式のものは 2 点）で採点する。2025 年 4 月 28 日に実施される筆記試験と合わせて合計 100 点満点とし、成績評価とする。

成績評価の基準

成績評価 100 点満点中、60 点以上で合格とする。それぞれの講義の内容をその人なりに大まかに理解できているかどうかが合格の基準であり、より深く理解している場合に評価が上がる。

準備学習等についての具体的な指示

教養で学習した細胞生物学関連の内容について復習しておく。教養までの生物学であやふやな点がある者は細胞生物学のごく簡単な教科書でよいから、読んでおくとよい（特に方法）。

試験の受験資格

原則として出席は取らないが、授業中に課されたレポート提出が受験資格となる。

教科書

Molecular biology of the cell, 7th ed／Bruce Alberts ら著：WW Norton & Co, 2022

細胞の分子生物学 原著第 6 版／Bruce Alberts, Alexander Johnson, Julian Lewis, David Morgan, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter 著, 中村桂子, 松原謙一 監訳：ニュートンプレス, 2017

ESSENTIAL CELL BIOLOGY, 6th Edition／B. Alberts ら著：WW Norton & Co, 2023

Essential 細胞生物学 原著第5版／BRUCE ALBERTS, KAREN HOPKIN, ALEXANDER JOHNSON, DAVID MORGAN, MARTIN RAFF, KEITH ROBERTS, PETER WALTER 著,中村桂子, 松原謙一, 榊佳之, 水島昇 監訳,青山聖子［ほか］訳,Alberts, Bruce,Hopkin, Karen,Johnson, Alexander D,Morgan, David Owen, 1958-,Raff, Martin C,Roberts, K. (Keith：南江堂, 2021

参考書

数でとらえる細胞生物学／Ron Milo, Rob Phillips 著,Milo, Ron,Phillips, Rob (Robert Brooks),舟橋, 啓,：羊土社, 2020

各講義で適宜紹介する。

履修上の注意事項

未発表の研究内容も含まれている可能性があること、講義資料などは著作権の問題があることなどから配布された資料は外部に公開することを禁じる。また、その関係からすべての講義で資料は配布されるわけではない。

備考

例年コース評価では最新の研究内容の講義が好評である。講師の入れ替えや講義内容の更新などを行っている。

またレポート課題が出された場合、それを採点し成績評価に加えることにした。

参照ホームページ

iBiology

https://www.ibiology.org/

細胞生物学を含めた生物学各分野の世界の第一人者が 20 分程で自分の研究の話をする(英語)。研究者の人となりも分かるし、英語の聞き取りの勉強にもなる。

時間割番号	011002				
科目名	人体構造総論			**科目ID**	
担当教員					
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	2	**単位数**	1.5
実務経験のある教員による授業	該当する				

英文名:Introduction to Human Body

授業の目的、概要等

人体構造総論は、人体解剖学の総論ならびに人体発生学の総論・各論からなる。これらには明確な区別がないため、混在する。

人体解剖学の総論は、人体の構造を理解し説明するための基本的事項、ならびに人体の構造の基本的な成り立ちについての学習する。

人体発生学総論は、生殖子の形成から出生に至る正常過程ならびにその異常についての概略を学習する。また、人体がこのような構造を形成するメカニズムの基本についても学習する。

人体発生学各論は、器官系ならびに器官それぞれの発生過程について学習する。これらは、人体解剖学の学習の基盤として必要な、器官の配置の必然性についての基本ついても学習する。

ここでは、発生過程の理解ということのみならず、先天異常の理解についても学ぶ。先天異常の多くにおいて、その発生のメカニズムを理解するためには、正常発生メカニズムを理解することが必要である。また、人体の複雑な構造は、多くの単純な発生プロセスの組み合わせによるものであるから、この発生プロセスの基本を理解し様々なところで応用することができれば、解剖学的構造の位置関係を理解するための助けとなる。それによって「解剖学は暗記である」ということからの呪縛を解くことができるはずである。

人体解剖学の講義は、人体構造総論の内容を踏まえたうえで行われることになるので、十分な理解が必要である。

人体解剖学、人体発生学は非常に古い学問である。そのため、人名のついた用語が多数現れる。国際的通用性の高い人名のついた用語については折に触れて紹介する。また、国家試験等においては、人名は原語の綴りで出題されるため、慣れ親しんでいただきたい。

授業の到達目標

到達目標は、以下のとおりである。

①基本的な発生生物学の基本概念を理解すること。

②基本的な発生過程やそのタイミングを、人体解剖学と関連付けながら理解すること。

③人体の構造の配置を、発生過程から導き出すことができること。

④臨床的に重要な事項との関連を踏まえながら理解すること。

以下のような学習に努めていただきたい。非同期型の授業ビデオ、講義資料、授業の参考資料は、WebClass にあげる。集合セッションでは、シラバスに示された範囲について、非同期型の授業ビデオなどで予習をしてから臨むことが求められている。

教科書「ウォルパート 発生生物学 第4版」の第1章 「発生生物学の歴史と基本概念」で示される基本的な概念を理解する。巻末の「用語解説」にでている用語については、様々な科目とも関連があるので、概ね理解する。

教科書「ラングマン 人体発生学 第 11 版」の太字となっている用語については、理解する。また、本書の図については、解剖学を理解するうえで、非常に助けになるので、理解し、説明できることが必要である。また、『臨床関連事項』については、正常発生を理解するための助けとなり、将来、臨床科目を理解する基礎となるので、発展的学習として学習することが必要である。

教科書「グレイ解剖学 第4版」の第1章ならびに第2～8章の「概観」は、人体発生学を理解する上で、また人体解剖学を理解するための基礎として重要であるので理解する。

「人体構造総論」の講義資料に載せてある重要な用語、人の名前のついた用語や疾患名などは、英語または原語でも理解できるようにすることが必要である。用語の中には、表記にゆれがあるものがあり、本によって異なっている場合もあるが、明らかな間違い以外についてはとくに問題にしない。

学習するにあたっては、教科書「ラングマン 人体発生学 第 11 版」の各章末にある要約にまず目を通し、内容を簡単に把握した後に詳細を理解するとよい。また、章末の問題についても、用語を適切に使用し、重要な点を文章に簡潔にまとめられるようにする。

分子的制御とシグナル伝達については、講義でとくに強調して触れたところ以外は、「人体構造総論」の科目における到達目標とはしないが、発展的学習として自習することが望ましい。また、「臨床的事項」については、正常構造や正常な発生過程の理解の助けとなるので、発展的学習として自習する。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-01-02)16,22,23,24,25,26
PS-02-05)01
PS-02-06)01
PS-02-07)01
PS-02-08)01
PS-02-09)01
PS-02-10)01
PS-02-13)01
PS-02-14)01

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-1-B]疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	3/31	13:30-15:00	遠隔授業（非同期型）	オリエンテーション、スケッチについて	秋田　恵一	①②③④動画視聴後に課題提出
2	3/31	15:25-16:55	遠隔授業（非同期型）	総論 1-1	秋田　恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
3	3/31	17:15-18:45	遠隔授業（非同期型）	総論 1-2	秋田　恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
4	4/1	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	総論 2-1	秋田　恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式

						問題に回答
5	4/1	10:45-12:15	遠隔授業（非同期型）	総論 2-2	秋田　恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
6	4/1	13:30-15:00	遠隔授業（非同期型）	総論 2-3	秋田　恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
7	4/1	15:25-16:55	遠隔授業（非同期型）	総論 3	秋田　恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
8	4/1	17:15-18:45	遠隔授業（非同期型）	総論 4	秋田　恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
9	4/2	17:15-18:45	遠隔授業（非同期型）	各論 1-1	秋田　恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
10	4/3	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	各論 1-2	原田　理代	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
11	4/3	10:45-12:15	遠隔授業（非同期型）	各論 2	秋田　恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
12	4/3	13:30-15:00	遠隔授業（非同期型）	総論	秋田　恵一	①②③④
13	4/3	15:25-16:55	遠隔授業（非同期型）	各論 3	秋田　恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
14	4/3	17:15-18:45	遠隔授業（非同期型）	各論 4-1	秋田　恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
15	4/4	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	各論 4-2	秋田　恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
16	4/4	10:45-12:15	遠隔授業（非同期型）	各論 4-3	秋田　恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
17	4/4	13:30-15:00	遠隔授業	各論 6	秋田　恵一	①②③④動画視

			(非同期型)			聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
18	4/4	15:25-16:55	遠隔授業(非同期型)	各論 7-1	秋田 恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
19	4/4	17:15-18:45	遠隔授業(非同期型)	各論 7-2	秋田 恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
20	4/7	08:50-10:20	遠隔授業(非同期型)	各論 7-3	秋田 恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
21	4/7	10:45-12:15	遠隔授業(非同期型)	各論 8	秋田 恵一	①②③④動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答
22	4/7	13:30-15:00	遠隔授業(非同期型)	各論 5-8	秋田 恵一	①②③④
23	4/7	15:25-16:55	医学科講義室 1	試験	秋田 恵一, 山口 久美子, 室生 暁 原田 理代	①②③④試験

授業方法

● 動画授業

オリエンテーション(2024 年 11 月 22 日実施)の録画を視聴し、学習方法及びスケッチ課題について理解する。スケッチ課題は定期試験受験時に持参し、試験開始時刻までに教卓に提出すること。

動画は約 100 個用意されている。WebClass 上にセットされている講義資料、参考資料を閲覧し、動画を視聴し、課題(多肢選択式問題)に回答する。WebClass 上にあるリアクションペーパーは、感想や質問、コメントを自由に記述してもらうためのものである。人間関係についての問題や、学習法についての質問など自由に書いていただいてよい。コミュニケーションツールとして非常に有効であるので十分に活用してほしい。

授業動画は復習に使用できるよう、WebClass 上に閲覧可能な状態に置いておくので、本年度のみならず高学年になっても活用していただきたい。

授業内容

授業スケジュール参照

成績評価の方法

人体構造総論の評価は、スケッチ課題ならびに WebClass 上の多肢選択式問題、4 月 7 日に実施される筆記試験によって行う。

1)提出課題ならびに個人テスト

スケッチ課題 10 点

多肢選択式問題 30 点

2)筆記試験

基本多肢選択式問題 10 題 10 点

基本記述式問題 10 題 50 点

3)筆記試験

応用多肢選択式問題 5 題 10 点

応用記述式問題 3 題 30 点

応用問題については、臨床関連事項、臨床症例を含む範囲から出題される。

成績評価の基準

人体構造総論の評価は、提出課題ならびに筆記試験(90 分)の結果から、次のように行う。

・1)と2)の合計が 60 点以上の場合に合格とする。

・3)の点数を加えたものを、この科目の評価とする。

準備学習等についての具体的な指示

高校での生物学の履修の有無を考慮にいれないのかという声がしばしば聞かれるが、教養部での半年間に基本的な生物学的な事項についての差は自主的に埋められるはずである。また、これまでの経験上、高校での生物学の履修の有無による成績の差はほとんど見られていない。よって、高校での生物学履修の有無ついては人体構造総論の履修に際しては一切考慮しない。

他の科目と関連することが多い。重要な関連項目については、講義の中で折に触れて述べるので、とくにそのあたりを意識して理解していただきたい。

試験の受験資格

4 月 7 日に行われる定期試験ならびに追・再試験を受験するためには、オンデマンド授業を視聴し、スケッチ課題を期限までに提出すること。

教科書

ラングマン人体発生学／T.W.サドラー 著,安田峯生, 山田重人 訳:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2016

ウォルパート発生生物学／ルイス・ウォルパート, シェリル・ティックル 著,武田洋幸, 田村宏治 監:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2012

グレイ解剖学／Richard L.Drake, A.Wayne Vogl, Adam W.M.Mitchell [著],秋田恵一 訳:エルゼビア・ジャパン, 2019

参考書

体表からわかる人体解剖学 : ポケットチューター／Richard Tunstall, S. Ali Mirjalili [著] ; [大川淳ほか訳],Tunstall, Richard,Mirjalili, S. Ali,大川, 淳,秋田, 恵一,:南江堂, 2021

他科目との関連

「人体構造総論」は、「人体解剖学」と密接な関係があるだけでなく、「組織学」、「生理学」、「神経解剖学」といった他の解剖学の科目、「生理学」のような機能について学ぶ科目とも密接な関係にある。 臨床的な事項との関連を、積極的に意識することで、臨床系の科目を学習する際に有機的につなげていくことができる。様々なところで関連を考えながら学んでいただきたい。

履修上の注意事項

個人課題について、他の学生のものをそのまま提出するようなことはしないこと。そのような事実が発覚した場合には、関係した学生すべてにつき未提出とする。 講義動画、講義資料、参考資料などは著作権の問題があるので、受講登録者以外に公開することを禁ずる。

備考

授業最終日から、行われるコース評価アンケートがWebClassでできるようになっている。アンケートに回答しない場合は、本科目の合否が WebClass に表示されない。

昨年のアンケートよりの改善点

・編入生のこのコースに対するコース評価がないためアンケートを受けてということではないが、人体解剖学の授業が始まる前に人体構造総論の学習ができるよう、科目の順番を入れ替えた。また、授業期間は 3 月 31 日からであるが、3 月中旬より学習できるようにWebClass のコースを準備している。

時間割番号	011680			
科目名	英語Ⅱ (A)Topical Discussion		**科目ID**	
担当教員	WHITAKER SIMON[WHITAKER SIMON]			
開講時期	2025 年度通年	**対象年次**		
実務経験のある教員による授業				

・曜日・時間:火曜 3 講

・対象:全学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表3－4)

別表4－5)

授業の目的、概要等

A course focused on in-depth discussion of contemporary social topics which affect everyone, from AI and social media to new or growing health and environmental challenges. We will consider a small set of such topics from different angles. You will continuously work on and develop important skills like those of open and impromptu discussion. You will also be building up and consolidating vocabulary, and even your own ideas, as we explore points of connection between these topical debates and the often-overlapping ways they can be approached.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics

多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary

新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively

他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English

完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

To be able to productively engage in activities in a cross-cultural environment by collaborating with people from different cultural backgrounds in English

様々な文化的背景を持つ仲間と協働し、生産的に業務に貢献・遂行できる

To be able to utilize critical thinking skills (including productively making and responding to counterarguments) and lateral thinking skills in English

英語でクリティカルシンキングやラテラルシンキングスキルを活用できる(健全で建設的な反論およびそれへの対応を含む)

To be able to productively engage in academic and professional activities using English in an international setting

国際的な場面で、英語を使い、学問的および専門的な活動に生産的に貢献することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	9/16	13:30-14:15	遠隔授業(同期型)	Class 1	Half-length session. Introduction to course and introducing each other.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar Zoom Meeting ID: 977 5443 9596 Password: 7uUJBD
2-3	9/30	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	Class 2, Class 3	Topic 1. First tutor-led discussion.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar Zoom 同上
4-5	10/7	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	Class 4, Class 5	Further group discussion around topic 1.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar Zoom 同上
6-7	10/14	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	Class 6, Class 7	Topic 2. Second tutor-led discussion.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar Zoom 同上
8-9	10/21	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	Class 8, Class 9	Further group discussion around topic 2.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar Zoom 同上
10-11	10/28	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	Class 10, Class 11	Topic 3. Third tutor-led discussion.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar Zoom 同上
12-13	11/4	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	Class 12, Class 13	Further group discussion around topic 3.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar Zoom 同上
14-15	11/11	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	Class 14, Class 15	Discussion of topics covered + further areas of study/consideration.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar Zoom 同上

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Class 1: Orientation

Classes 2-15: Skills Instruction and Continuous Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

Participation: 50%, Presentations: 30%, Discussion contributions: 20%

再評価: 再評価はありません。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45 分×15 コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。

連絡先(メールアドレス)

WHITAKER SIMON:whitaker.simon@tmd.ac.jp

オフィスアワー

WHITAKER SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時 管理研究棟 3 階 ウィタカー研究室

時間割番号	011250a			
科目名	英語Ⅱ (A)Topical Discussion		**科目ID**	
担当教員	WHITAKER SIMON[WHITAKER SIMON]			
開講時期	2025 年度通年	**対象年次**		
実務経験のある教員による授業				

・曜日・時間:水曜 3 講

・対象:全学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表3－4)

別表4－5)

授業の目的、概要等

A course focused on in-depth discussion of contemporary social topics which affect everyone, from AI and social media to new or growing health and environmental challenges. We will consider a small set of such topics from different angles. You will continuously work on and develop important skills like those of open and impromptu discussion. You will also be building up and consolidating vocabulary, and even your own ideas, as we explore points of connection between these topical debates and the often-overlapping ways they can be approached.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics

多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary

新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively

他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English

完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

To be able to productively engage in activities in a cross-cultural environment by collaborating with people from different cultural backgrounds in English

様々な文化的背景を持つ仲間と協働し、生産的に業務に貢献・遂行できる

To be able to utilize critical thinking skills (including productively making and responding to counterarguments) and lateral thinking skills in English

英語でクリティカルシンキングやラテラルシンキングスキルを活用できる(健全で建設的な反論およびそれへの対応を含む)

To be able to productively engage in academic and professional activities using English in an international setting

国際的な場面で、英語を使い、学問的および専門的な活動に生産的に貢献することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	6/4	13:30-14:15	遠隔授業(同期型)	Class 1	Half-length session. Introduction to course and introducing each other.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar Zoom Meeting ID: 954 9201 1266 Password: a8G8J4
2-3	6/11	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	Class 2, Class 3	Topic 1. First tutor-led discussion.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar Zoom 同上
4-5	6/18	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	Class 4, Class 5	Further group discussion around topic 1.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar Zoom 同上
6-7	6/25	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	Class 6, Class 7	Topic 2. Second tutor-led discussion.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar Zoom 同上
8-9	7/2	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	Class 8, Class 9	Further group discussion around topic 2.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar Zoom 同上
10-11	7/9	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	Class 10, Class 11	Topic 3. Third tutor-led discussion.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar Zoom 同上
12-13	7/16	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	Class 12, Class 13	Further group discussion around topic 3.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar Zoom 同上
14-15	7/23	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	Class 14, Class 15	Discussion of topics covered + further areas of study/consideration.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar Zoom 同上

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Class 1: Orientation

Classes 2-15: Skills Instruction and Continuous Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

Participation: 50%, Presentations: 30%. Discussion contributions: 20%

再評価: 再評価はありません。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45 分×15 コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。

連絡先(メールアドレス)

WHITAKER SIMON:whitaker.simon@tmd.ac.jp

オフィスアワー

WHITAKER SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時 管理研究棟 3 階 ウィタカー研究室

時間割番号	011260				
科目名	英語Ⅱ: Global Connections			**科目ID**	
担当教員	PATRICK FOSS[PATRICK FOSS]				
開講時期	2025 年度通年	**対象年次**	2～6	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業					

・曜日・時間:水曜 3 講

・対象:全学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表3－4)

別表4－5)

授業の目的、概要等

While it is important for medical professionals in Japan to study and understand issues specific to their own country, it is also crucial to remember that we are all part of a global community as well. Learning about problems or innovations in other contexts can lead to greater respect and empathy and may spark ideas concerning ways we can better help others or even ourselves. This course will examine societal and healthcare-related challenges being faced in various countries through the perspectives of people from those countries.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics

多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary

新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively

他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English

完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

To be able to productively engage in activities in a cross-cultural environment by collaborating with people from different cultural backgrounds in English

様々な文化的背景を持つ仲間と協働し、生産的に業務に貢献・遂行できる

To be able to utilize critical thinking skills (including productively making and responding to counterarguments) and lateral thinking skills in English

英語でクリティカルシンキングやラテラルシンキングスキルを活用できる(健全で建設的な反論およびそれへの対応を含む)

To be able to productively engage in academic and professional activities using English in an international setting

国際的な場面で、英語を使い、学問的および専門的な活動に生産的に貢献することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	9/17	13:30-14:15	遠隔授業(同期型)	Orientation	Introduction to course	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom Meeting ID: 953 5579 1316 Passcode: DaXf3P
2-3	9/24	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	Discussion 1	Listening and speaking activities	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom 同上
4-5	10/1	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	Discussion 2	Listening and speaking activities	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom 同上
6-7	10/8	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	Discussion 3	Listening and speaking activities	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom 同上
8-9	10/15	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	Discussion 4	Listening and speaking activities	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom 同上
10-11	10/22	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	Discussion 5	Listening and speaking activities	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom 同上
12-13	10/29	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	Discussion 6	Listening and speaking activities	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom 同上
14-15	11/5	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	Discussion 7	Listening and speaking activities	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom 同上

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Class 1: Orientation

Classes 2-15: Skills Instruction and Continuous Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

Active and thoughtful participation: 80%　Group discussion: 20%

再評価:　再評価はありません。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45 分×15 コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則とし

てその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。

連絡先(メールアドレス)

PATRICK　FOSS:foss.las@tmd.ac.jp

オフィスアワー

PATRICK　FOSS:毎週水曜日 PM.12:30−PM.1:00

管理研究棟　2階　フォス研究室

時間割番号	011690				
科目名	英語Ⅱ(C)Conversation Ⅰ(前期)			**科目ID**	
担当教員	Richard Knobbs[Richard Knobbs]				
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**		**単位数**	1
実務経験のある教員による授業					

・曜日・時間:火曜 3 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

English Ⅱ, "Conversation Ⅰ" is a course for students who want to improve their spoken English skills. The course focuses on practical conversational abilities, and students will engage in interviews, role-playing, and group discussions on a variety of topics. The course prioritizes vocabulary development, effective public speaking, and the development of confidence in expressing opinions, even in imperfect English. The course aims to create an active and supportive learning environment, emphasizing not only the improvement of English skills but also the use of those skills in real-world situations.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/1	13:30-14:15	遠隔授業(同期型)	Class 1	Intro to Conversation I	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom ID: 943 6033 9568 Passcode: SWP8cL

2-3	4/8	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
4-5	4/15	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 4, Class 5	Discussion/Presentation Practice	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
6-7	4/22	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 6, Class 7	Discussion/Presentation Practice	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
8-9	5/13	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 8, Class 9	Discussion/Presentation Practice	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
10-11	5/20	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 10, Class 11	Discussion/Presentation Practice	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
12-13	5/27	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 12, Class 13	Discussion/Presentation Practice	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar Zoom 同上
14-15	6/3	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 14, Class 15	Discussion Test	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar Zoom 同上

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Class 1: Orientation

Classes 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Classes 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

Conversation I 評価: Attendance & Participation: 50% Homework: 10% English Interview: 15%

Discussion Test: 25%

再評価: 再評価はありません。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語Ⅱ」の各科目（1単位）は、45 分×15 コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。

連絡先（メールアドレス）

畔柳 和代:kuroyanagi.las@tmd.ac.jp

オフィスアワー

畔柳 和代:水 12:30-13:00 管理研究棟3階 畔柳研究室

時間割番号	011701		
科目名	英語Ⅱ(D)ConversationⅡ(後期)	**科目ID**	
担当教員	Richard Knobbs[Richard Knobbs]		
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	
実務経験のある教員による授業			

・曜日・時間:火曜 3講

・対象:全学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表3−4)

別表4−5)

授業の目的、概要等

English Ⅱ "Conversation Ⅱ" (Improving Conversational Proficiency) is an advanced course designed for students aiming to refine their spoken English skills. Students will actively engage in extensive discussions, interviews, and group discussion tasks, fostering a higher level of language proficiency, cultural adaptability, and effective communication. The course places a strong emphasis on vocabulary expansion, advanced public speaking techniques, and the continued cultivation of confidence in expressing opinions, even within the complexities of the English language. Evaluation methods include individual interviews, group discussions, and reflective homework assignments. The objective is to create a stimulating and encouraging learning environment, helping students to not only excel in language proficiency but also to develop the application of advanced English skills in diverse real-world contexts.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	11/18	13:30-14:15	遠隔授業(同期型)	Class 1,	Intro to Conversation Ⅱ	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom ID: 998 4022 9987 Passcode:

							DaaC6A
2-3	11/25	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
4-5	12/2	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 4, Class 5	Discussion/Presentation Practice	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
6-7	12/9	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 6, Class 7	Discussion/Presentation Practice	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
8-9	12/16	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 8, Class 9	Discussion/Presentation Practice	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
10-11	1/6	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 10, Class 11	Discussion/Presentation Practice	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
12-13	1/13	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 12, Class 13	Discussion/Presentation Practice	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
14-15	1/20	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 14, Class 15	Discussion Test	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Class 1: Orientation

Classes 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Classes 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

Conversation Ⅱ 評価:Attendance & Participation: 40%　Homework: 10%　English Interview: 25%　Discussion Test: 25%

再評価:　再評価はありません。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語Ⅱ」の各科目（1単位）は、45 分×15 コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。

連絡先（メールアドレス）

畔柳　和代:kuroyanagi.las@tmd.ac.jp

オフィスアワー

畔柳　和代:水　12:30-13:00　管理研究棟3階　畔柳研究室

時間割番号	011691				
科目名	英語Ⅱ(C)Conversation Ⅰ(後期)			**科目ID**	
担当教員	Richard Knobbs[Richard Knobbs]				
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**			
実務経験のある教員による授業					

・曜日・時間:火曜 3 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3−4)
別表4−5)

授業の目的、概要等

English Ⅱ, "Conversation Ⅰ" is a course for students who want to improve their spoken English skills. The course focuses on practical conversational abilities, and students will engage in interviews, role-playing, and group discussions on a variety of topics. The course prioritizes vocabulary development, effective public speaking, and the development of confidence in expressing opinions, even in imperfect English. The course aims to create an active and supportive learning environment, emphasizing not only the improvement of English skills but also the use of those skills in real-world situations.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	9/16	13:30-14:15	遠隔授業(同期型)	Class 1	Intro to Conversation I	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom ID: 940 2154 9948 Passcode: MaQg3t
2-3	9/30	13:30-15:10	遠隔授業	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	Richard Kno	Active Learning,

			(同期型)			bbs	Seminar, Zoom 同上。
4-5	10/7	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 4, Class 5	Discussion/Presentation Practice	Richard Kno bbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上。
6-7	10/14	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 6, Class 7	Discussion/Presentation Practice	Richard Kno bbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上。
8-9	10/21	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 8, Class 9	Discussion/Presentation Practice	Richard Kno bbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上。
10-11	10/28	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 10, Class 11	Discussion/Presentation Practice	Richard Kno bbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上。
12-13	11/4	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 12, Class 13	Discussion/Presentation Practice	Richard Kno bbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上。
14-15	11/11	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 14, Class 15	Discussion Test	Richard Kno bbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上。

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Class 1: Orientation

Classes 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Classes 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

Conversation I 評価: Attendance & Participation: 50% Homework: 10% English Interview: 15%

Discussion Test: 25%

再評価: 再評価はありません。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45 分×15 コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。

連絡先(メールアドレス)

畔柳 和代:kuroyanagi.las@tmd.ac.jp

オフィスアワー

畔柳 和代:水 12:30-13:00 管理研究棟3階 畔柳研究室

時間割番号	011700				
科目名	英語Ⅱ(D)ConversationⅡ(前期)			**科目ID**	
担当教員	Richard Knobbs[Richard Knobbs]				
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**			
実務経験のある教員による授業					

・曜日・時間:火曜 3 講

・対象:全学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表3－4)

別表4－5)

授業の目的、概要等

English Ⅱ "Conversation Ⅱ" (Improving Conversational Proficiency) is an advanced course designed for students aiming to refine their spoken English skills. Students will actively engage in extensive discussions, interviews, and group discussion tasks, fostering a higher level of language proficiency, cultural adaptability, and effective communication. The course places a strong emphasis on vocabulary expansion, advanced public speaking techniques, and the continued cultivation of confidence in expressing opinions, even within the complexities of the English language. Evaluation methods include individual interviews, group discussions, and reflective homework assignments. The objective is to create a stimulating and encouraging learning environment, helping students to not only excel in language proficiency but also to develop the application of advanced English skills in diverse real-world contexts.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	6/10	13:30-14:15	遠隔授業(同期型)	Class 1	Intro to Conversation Ⅱ	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom ID: 945 2743 3874 Passcode: vvvcG1

2-3	6/17	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
4-5	6/24	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 4, Class 5	Discussion/Presentation Practice	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
6-7	7/1	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 6, Class 7	Discussion/Presentation Practice	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
8-9	7/8	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 8, Class 9	Discussion/Presentation Practice	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
10-11	7/15	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 10, Class 11	Discussion/Presentation Practice	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
12-13	7/22	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 12, Class 13	Discussion/Presentation Practice	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
14-15	7/29	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 14, Class 15	Discussion Test	Richard Knobbs	Active Learning, Seminar, Zoom 同上

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Class 1: Orientation

Classes 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Classes 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

Conversation Ⅱ 評価:Attendance & Participation: 40%　Homework: 10%　English Interview: 25%　Discussion Test: 25%

再評価:　再評価はありません。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語Ⅱ」の各科目（1単位）は、45 分×15 コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。

連絡先（メールアドレス）

畔柳　和代:kuroyanagi.las@tmd.ac.jp

オフィスアワー

畔柳　和代:水　12:30-13:00 管理研究棟3階 畔柳研究室

時間割番号	011280				
科目名	英語Ⅱ: Conversation Ⅱ(前期)			**科目ID**	
担当教員	Reed Jesse Ryan[Reed Jesse Ryan]				
開講時期	2025 年度通年	**対象年次**	2～6	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業					

・曜日・時間:水曜 3 講

・対象:全学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表3－4)

別表4－5)

授業の目的、概要等

English Ⅱ "Conversation Ⅱ" (Improving Conversational Proficiency) is an advanced course designed for students aiming to refine their spoken English skills. Students will actively engage in extensive discussions, interviews, and group discussion tasks, fostering a higher level of language proficiency, cultural adaptability, and effective communication. The course places a strong emphasis on vocabulary expansion, advanced public speaking techniques, and the continued cultivation of confidence in expressing opinions, even within the complexities of the English language. Evaluation methods include individual interviews, group discussions, and reflective homework assignments. The objective is to create a stimulating and encouraging learning environment, helping students to not only excel in language proficiency but also to develop the application of advanced English skills in diverse real-world contexts.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	6/4	13:30-14:15	遠隔授業(同期型)	Class 1	Intro to Conversation Ⅱ	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar, Zoom Meeting ID: 964 8984 3696 Passcode:

							E1pyEw
2-3	6/11	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
4-5	6/18	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 4, Class 5	Discussion/Presentation Practice	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
6-7	6/25	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 6, Class 7	Discussion/Presentation Practice	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
8-9	7/2	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 8, Class 9	Discussion/Presentation Practice	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
10-11	7/9	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 10, Class 11	Discussion/Presentation Practice	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
12-13	7/16	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 12, Class 13	Discussion/Presentation Practice	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
14-15	7/23	13:30-15:10	遠隔授業（同期型）	Class 14, Class 15	Discussion Test	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar, Zoom 同上

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Class 1: Orientation

Classes 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Classes 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

Conversation Ⅱ 評価:Attendance & Participation: 40%　Homework: 10%　English Interview: 25%　Discussion Test: 25%

再評価:　再評価はありません。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語Ⅱ」の各科目（1単位）は、45 分×15 コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。

連絡先（メールアドレス）

畔柳　和代:kuroyanagi.las@tmd.ac.jp

オフィスアワー

畔柳　和代:水　12:30-13:00 管理研究棟3階 畔柳研究室

時間割番号	011270				
科目名	英語Ⅱ: Conversation Ⅰ(前期)			**科目ID**	
担当教員	Reed Jesse Ryan[Reed Jesse Ryan]				
開講時期	2025 年度通年	**対象年次**	2～6	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業					

・曜日・時間:水曜 3 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

English Ⅱ, "Conversation Ⅰ" is a course for students who want to improve their spoken English skills. The course focuses on practical conversational abilities, and students will engage in interviews, role-playing, and group discussions on a variety of topics. The course prioritizes vocabulary development, effective public speaking, and the development of confidence in expressing opinions, even in imperfect English. The course aims to create an active and supportive learning environment, emphasizing not only the improvement of English skills but also the use of those skills in real-world situations.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/9	13:30-14:15	遠隔授業(同期型)	Class 1	Intro to Conversation I	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar, Zoom Meeting ID: 996 7533 5624 Passcode: 8yjN7g
2-3	4/16	13:30-15:10	遠隔授業	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	Reed Jesse	Active Learning,

			(同期型)			Ryan	Seminar, Zoom 同上
4-5	4/23	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 4, Class 5	Discussion/Presentation Practice	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
6-7	4/30	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 6, Class 7	Discussion/Presentation Practice	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
8-9	5/7	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 8, Class 9	Discussion/Presentation Practice	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
10-11	5/14	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 10, Class 11	Discussion/Presentation Practice	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar, Zoom 同上
12-13	5/21	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 12, Class 13	Discussion/Presentation Practice	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar Zoom 同上
14-15	5/28	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 14, Class 15	Discussion Test	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar Zoom 同上

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Class 1: Orientation

Classes 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Classes 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

Conversation I 評価: Attendance & Participation: 50% Homework: 10% English Interview: 15%

Discussion Test: 25%

再評価: 再評価はありません。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45 分×15 コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。

連絡先(メールアドレス)

畔柳 和代:kuroyanagi.las@tmd.ac.jp

オフィスアワー

畔柳 和代:水 12:30-13:00 管理研究棟3階 畔柳研究室

時間割番号	011271				
科目名	英語Ⅱ:Conversation Ⅰ (後期)			**科目ID**	
担当教員	Reed Jesse Ryan[Reed Jesse Ryan]				
開講時期	2025 年度通年	**対象年次**	2～6	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業					

・曜日・時間:水曜 3 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

English Ⅱ, "Conversation Ⅰ" is a course for students who want to improve their spoken English skills. The course focuses on practical conversational abilities, and students will engage in interviews, role-playing, and group discussions on a variety of topics. The course prioritizes vocabulary development, effective public speaking, and the development of confidence in expressing opinions, even in imperfect English. The course aims to create an active and supportive learning environment, emphasizing not only the improvement of English skills but also the use of those skills in real-world situations.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	9/17	13:30-14:15	遠隔授業(同期型)	Class 1	Intro to Conversation I	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar, Zoom Meeting ID: 910 7998 5389 Passcode: 8J6NP7
2-3	9/24	13:30-15:10	遠隔授業	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	Reed Jesse	Active Learning,

			(同期型)			Ryan	Seminar, Zoom 同上。
4-5	10/1	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 4, Class 5	Discussion/Presentation Practice	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar, Zoom 同上。
6-7	10/8	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 6, Class 7	Discussion/Presentation Practice	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar, Zoom 同上。
8-9	10/15	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 8, Class 9	Discussion/Presentation Practice	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar, Zoom 同上。
10-11	10/22	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 10, Class 11	Discussion/Presentation Practice	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar, Zoom 同上。
12-13	10/29	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 12, Class 13	Discussion/Presentation Practice	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar, Zoom 同上。
14-15	11/5	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 14, Class 15	Discussion Test	Reed Jesse Ryan	Active Learning, Seminar, Zoom 同上。

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Class 1: Orientation

Classes 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Classes 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

Conversation I 評価: Attendance & Participation: 50% Homework: 10% English Interview: 15%

Discussion Test: 25%

再評価: 再評価はありません。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45 分×15 コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。

連絡先(メールアドレス)

畔柳 和代:kuroyanagi.las@tmd.ac.jp

オフィスアワー

畔柳 和代:水 12:30-13:00 管理研究棟3階 畔柳研究室

時間割番号	011290				
科目名	System-based medical terminology Ⅰ			**科目 ID**	
担当教員					
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	3	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業					

科目コマ数: 15
必要自習時間:30 時間
授業形態:オンデマンド

医学用語は、研究論文や最新の手順を理解するために必要です。このコースでは、基本的な人間の臓器系に関連する医学用語を独学で学習します。

WebClass コースに配信される課題
WebClass の指定のコースにオンデマンドの課題が提供される。当該課題を定められた期間内に履修すること。

Lessons 1 and 2: Basics of Medical Terminology
Lessons 3 and 4: Color, Size, Axis, Regions
Lessons 5 and 6: Cardiovascular System
Lessons 7 and 8: Respiratory System
Lessons 9 and 10: Gastrointestinal System
Lessons 11 and 12: Head and Neck
Lessons 13 and 14: Oncology Terminology
Lesson 15: Final exam

主な講義場所
このコースには講義はありません。学習はすべて WebClass で行われます。

オンデマンド

授業の目的、概要等
オンデマンド教材(読書課題と演習)を通じて英語で医学用語を学び、その後、東京科学大学のイントラネットシステム(WebClass)で提供される語彙クイズでスキルをテストします。これらの演習を通じて、学生は英語と日本語の医学用語の知識と英語の理解力を向上させます。

授業の到達目標
コース終了時には、学生は医学用語の 3 つの主要部分、接頭辞/語源/接尾辞、および対象とするシステムで最も一般的な医学用語を使用する方法を理解します。

医学教育のためのモデルコアカリキュラムの基礎を満たすことを目標としています。
PS: 問題解決
PS-01: 基礎医学
PS-02: 人体のシステム

授業方法
オンデマンドの講義、読書課題、それに続く演習とクイズを東京科学大学のイントラネットシステム WebClass で実施します。

授業内容
医療従事者に必要な基本的な医学用語をオンデマンドで学習します。

各モジュールは 2 週間で構成されています:
1) オンデマンドの読み書き
2) オンデマンドの理解度チェックと語彙クイズ

成績評価の方法

成績は、オンデマンドのコース コンテンツを視聴/読み、期限までに語彙クイズと演習を完了したかどうかに基づいて決定されます。さらに、学習内容の理解度をテストする最終試験が実施されます。

成績評価の基準

セクションクイズ: 40%

期末試験: 60%

学生の成績は、以下に示すように 5 段階評価 (A+、A、B、C、または D) で評価されます。D は不合格となり、単位は付与されません。

A+: 100–90 / 当該科目の到達目標を期待された水準を超えて達成した

A : 89–80 / 当該科目の到達目標を全て達成した

B : 79–70 / 当該科目の到達目標を概ね達成した

C : 69–60 / 当該科目の到達目標のうち最低限を達成した

D : 59–0 / 当該科目の到達目標を達成していない

準備学習等についての具体的な指示

オンデマンドの講義を聴いたり、記事を読んだり、新しい用語を調べて学んだりした後、次の週に演習と理解度テストを行います。最終試験は、コースの最後に Science Tokyo のイントラネット システムで 100 問の多肢選択式テストで、このコースの 7 つの語彙リストにある医学用語の理解度をテストします。

試験の受験資格

期末試験は指定された期間内に WebClass で実施されます。

教科書

WebClass に資料(授業で必要なマテリアル等)を提示する。

備考

各モジュールを期限内に完了するにご注意

東京科学大学学生の懲戒等に関する規程(抜粋)

(定期試験等における不正行為)

第7条 定期試験等における不正行為を行った学生が、当該不正行為を行った学期に受験した定期試験等は全て無効とし、当該学期に履修した授業科目の成績を0点又は不合格とする。ただし、学期又は学年をまたぎ開講される授業科目の取扱いは別に定める。

2 定期試験等における不正行為を行った学生は、当該不正行為を行った学期において、新たに授業科目の履修は認めないものとする。

時間割番号	011300				
科目名	System-based medical terminology Ⅱ			**科目 ID**	
担当教員					
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	3	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業					

科目コマ数: 15
必要自習時間:30 時間
授業形態:オンデマンド

System-based Medical Terminology Ⅰの続きで、人間の臓器系に関連する医学用語をさらに学びます。

WebClass コースに配信される課題
WebClass の指定のコースにオンデマンドの課題が提供される。当該課題を定められた期間内に履修すること。

Lessons 1 and 2: Blood and Bodily Fluids
Lessons 3 and 4: Integumentary System
Lessons 5 and 6: Endocrine System
Lessons 7 and 8: Urinary System
Lessons 9 and 10: Male Reproductive System
Lessons 11 and 12: Female Reproductive System
Lessons 13 and 14: Musculoskeletal System
Lesson 15: Final exam

主な講義場所
このコースには講義はありません。学習はすべて WebClass で行われます。

オンデマンド

授業の目的、概要等
System-based Medical Terminology Ⅰの続編であるこのコースでは、学生はオンデマンド教材(読書課題と演習)を通じてより高度な英語の医学用語を学び、その後、サイエンス東京イントラネットシステム(WebClass)で提供される語彙クイズでスキルをテストします。これらの演習を通じて、学生は英語と日本語の医学用語に関する知識と英語の理解力を向上させます。

授業の到達目標
コース終了時には、学生は医学用語の 3 つの主要部分、接頭辞/語源/接尾辞、および対象とするシステムで最も一般的な医学用語を使用する方法を理解します。
2022 年版日本医学教育モデルコアカリキュラムの基本を満たすことを目的としています。

PS: 問題解決
PS-01: 基礎医学
PS-02: 人体のシステム

授業方法
オンデマンドの講義、読書課題、それに続く演習とクイズを東京科学大学のイントラネットシステム WebClass で実施します。

授業内容
医療従事者に必要な基本的な医学用語をオンデマンドで学習します。

各モジュールは 2 週間で構成されています:
1) オンデマンドの読み書き
2) オンデマンドの理解度チェックと語彙クイズ

成績評価の方法

成績は、オンデマンドのコース コンテンツを視聴/読み、期限までに語彙クイズと演習を完了したかどうかに基づいて決定されます。さらに、学習内容の理解度をテストする最終試験が実施されます。

成績評価の基準

セクションクイズ: 40%

期末試験: 60%

学生の成績は、以下に示すように 5 段階評価 (A+、A、B、C、または D) で評価されます。D は不合格となり、単位は付与されません。

A+: 100–90 / 当該科目の到達目標を期待された水準を超えて達成した

A : 89–80 / 当該科目の到達目標を全て達成した

B : 79–70 / 当該科目の到達目標を概ね達成した

C : 69–60 / 当該科目の到達目標のうち最低限を達成した

D : 59–0 / 当該科目の到達目標を達成していない

準備学習等についての具体的な指示

オンデマンドの講義を聴いたり、記事を読んだり、新しい用語を調べて学んだりした後、次の週に演習と理解度テストを行います。最終試験は、コースの最後に Science Tokyo のイントラネット システムで 100 問の多肢選択式テストで、このコースの 7 つの語彙リストにある医学用語の理解度をテストします。

試験の受験資格

期末試験は指定された期間内に WebClass で実施されます。

教科書

WebClass に資料(授業で必要なマテリアル等)を提示する

他科目との関連

System-based Medical Terminology I の続編である。

履修上の注意事項

選択必修科目の1つである。歯学科は 3-6 年のいずれかの学年(後期)で履修可能である。 各モジュールを期限内に完了するにご注意

備考

用語を、コースのディスカッション、研究、臨床研究で積極的に活用してください。

オンデマンド課題は期間以内でご注意ください。

東京科学大学学生の懲戒等に関する規程(抜粋)

(定期試験等における不正行為)

第7条 定期試験等における不正行為を行った学生が、当該不正行為を行った学期に受験した定期試験等は全て無効とし、当該学期に履修した授業科目の成績を0点又は不合格とする。ただし、学期又は学年をまたぎ開講される授業科目の取扱いは別に定める。

2 定期試験等における不正行為を行った学生は、当該不正行為を行った学期において、新たに授業科目の履修は認めないものとする。

時間割番号	011005				
科目名	生理学			**科目ID**	
担当教員	礒村 宜和, 平 理一郎, 吉田 雅幸, 古川 哲史, 角 勇樹, 池田 賢司, ALAIN ANTONIO RIOS, 金兼 弘和, 蘇原 映誠, 川端 政則[ISOMURA Yoshikazu, HIRA Riichiro, YOSHIDA Masayuki, FURUKAWA Tetsushi, SUMI Yuki, IKEDA Kenji, ALAIN ANTONIO RIOS, KANEGANE Hirokazu, SOHARA Eisei, KAWABATA Masanori]				
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	2	**単位数**	3
実務経験のある教員による授業	該当する				

生理学

授業の目的、概要等

生理学は、ヒトや動物が生存するために必要な身体の正常な仕組みや働きを、分子、細胞、組織、器官、系、個体、社会レベルにわたる階層性を踏まえて理解する学問である。この生理学の授業では、医師や研究者を目指すにあたって、医学・科学の理解に必要な基礎知識を幅広く身につけるとともに、物事を科学的に議論できる力を養うことを目的とする。

授業の到達目標

人体機能の特性とメカニズムを理解する上で必要な以下の能力を身につける。

①医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。

②疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる。

③世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論でき、臨床的あるいは科学的問題提起ができる。

④実習実験を実施して結果を得、それを口頭あるいは書面で明確に説明できる。

⑤本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守し、基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える。

⑥文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる。

⑦記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる。

⑧科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる。

⑨他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる。

⑩時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる。

⑪自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-01-01)02,03,04,09

PS-01-02)01,02,03,04,05,06,07,08,10,11,12,14,19,20,21,27,28,29,30,35,36

PS-01-04)07,12,14

PS-02-14)06

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル

[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる

[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる

[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる

[II-2-B]基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える

[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる

[II-4-B]実習実験を実施して結果を得ることができる

[II-5-B]実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる

[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる

[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる

[III-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる

[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる

[Ⅲ-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[Ⅲ-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[Ⅲ-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[Ⅲ-17-A]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
[Ⅲ-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[Ⅲ-19-B]情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
[Ⅲ-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[Ⅲ-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[Ⅲ-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[Ⅲ-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[Ⅲ-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[Ⅴ-1-B]疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/9	08:50-10:20	医学科講義室1	生理学総論	生理学の考え方と細胞の仕組みと働きを学習する。eラーニングの学修方法を指示をする。	礒村 宜和	①②③⑥⑦⑧ 規則正しい生活習慣を心がけ、同期型授業・非同期型授業ともに可能な限りの出席/視聴に努めること。別途、必ずeラーニングを学修し、期限内に所定の成績を収めておくこと。
2	4/9	10:45-12:15	医学科講義室1	筋収縮(1)	筋収縮の仕組みと働きを細胞・分子レベルで学習する。	礒村 宜和	①②③⑥⑦⑧
3	4/16	08:50-10:20	医学科講義室1	筋収縮(2)	筋収縮の仕組みと働きを細胞・分子レベルで学習する。	礒村 宜和	①②③⑥⑦⑧
4	4/16	10:45-12:15	医学科講義室1	心臓(1)	心臓の生理学を臨床を見据えて学習する。	古川 哲史	①②③⑥⑦⑧
5	4/23	08:50-10:20	医学科講義室1	呼吸生理(1)	呼吸器系の生理学を臨床を見据えて学習する。	角 勇樹	①②③⑥⑦⑧
6	4/23	10:45-12:15	医学科講義室1	心臓(2)	心臓の生理学を臨床を見据えて学習する。	古川 哲史	①②③⑥⑦⑧
7	4/30	08:50-10:20	遠隔授業(非同期型)	腎臓(1)	腎臓・泌尿器系の生理学を臨床を見据えて学習する。	蘇原 映誠	①②③⑥⑦⑧ ※動画視聴
8	4/30	10:45-12:15	医学科講義室1	循環(1)	循環器系の生理学を臨床を見据えて学習する。	吉田 雅幸	①②③⑥⑦⑧
9	5/7	08:50-10:20	遠隔授業(非同期型)	腎臓(2)	腎臓・泌尿器系の生理学を臨床を見据えて学習する。	蘇原 映誠	①②③⑥⑦⑧ ※動画視聴
10	5/7	10:45-12:15	医学科講義室1	血液生理	血液系の生理学を臨床を見据えて学習する。	金兼 弘和	①②③⑥⑦⑧

11	5/14	08:50-10:20	医学科講義室1	呼吸生理(2)	呼吸器系の生理学を臨床を見据えて学習する。	角 勇樹	①②③⑥⑦⑧
12	5/14	10:45-12:15	医学科講義室1	循環(2)	循環器系の生理学を臨床を見据えて学習する。	吉田 雅幸	①②③⑥⑦⑧
13	5/21	08:50-10:20	医学科講義室1	代謝生理	代謝や内分泌の生理学を臨床を見据えて学習する。	池田 賢司	①②③⑥⑦⑧
14	5/21	10:45-12:15	医学科講義室1	体温調節	体温調節の仕組みと働きを学習する。英語授業	ALAIN ANTONIO RIOS	①②③⑥⑦⑧
15	5/28	08:50-10:20	医学科講義室1	内分泌(1)	身体機能や恒常性に必要な内分泌系の仕組みと働きを学習する。	平 理一郎	①②③⑥⑦⑧
16	5/28	10:45-12:15	医学科講義室1	内分泌(2)	身体機能や恒常性に必要な内分泌系の仕組みと働きを学習する。	平 理一郎	①②③⑥⑦⑧
17	6/4	08:50-10:20	医学科講義室1	内分泌(3)	身体機能や恒常性に必要な内分泌系の仕組みと働きを学習する。	平 理一郎	①②③⑥⑦⑧
18	6/4	10:45-12:15	医学科講義室1	消化と吸収(1)	消化と吸収と消化管運動の仕組みと働きを学習する。	川端 政則	①②③⑥⑦⑧
19	6/11	08:50-10:20	遠隔授業(同期型)	生体リズム	生体が示す概日リズムなどの仕組みと働きを学習する。	礒村 宜和	①②③⑥⑦⑧ ※オンライン Zoom 授業(予定)
20	6/11	10:45-12:15	遠隔授業(同期型)	消化と吸収(2)	消化と吸収と消化管運動の仕組みと働きを学習する。	川端 政則	①②③⑥⑦⑧ ※オンライン Zoom 授業(予定)
21	6/18	08:50-10:20	医学科講義室1	生活・性・生と死	さまざまな環境、性と生殖、成長と老化の生理学を学習する。英語授業	ALAIN ANTONIO RIOS	①②③⑥⑦⑧
22	6/18	10:45-12:15	医学科講義室1	アクティブラーニング	生理学の課題を主体的に考えて解決する。	礒村 宜和, 平 理一郎, ALAIN ANTONIO RIOS, 川端 政則	①～⑪(すべて) 生理学の課題を巡ってグループ討論を実施する予定である。全員出席(対面式予定)。
23	6/20	10:45-12:15	医学科講義室1	脳と体(研究紹介)	脳と身体の相互作用を研究例から学習する。	礒村 宜和	①②③⑥⑦⑧
24	6/27	10:45-12:15	医学科講義室1	生理学試験	授業で学んだ内容を中心に出題する。選択肢および記述式問題を予定している。	礒村 宜和	①～⑪(すべて)

授業方法

同期型授業(対面式またはZoomオンライン)または非同期型授業(動画視聴など)の混成とし、本学の生理学(細胞生理学分野)および臨床系の教員が担当する。一部の授業では、応用力を養うためにアクティブ・ラーニング(対面式グループ討論の予定)を導入する。また、国際感覚を養うために英語による授業も一部導入する。授業後の質問や問い合わせは、各授業の担当教員または科目責任者にメールで連絡すること。

各講義とは別に、生理学の理解に必要な基礎的な知識を自己学習で身に付けるために、所定の期限までの e ラーニング(エルゼビア・ジャパン社 ClinicalKey student(CKSJ)生理学)の受講を義務付ける。e ラーニングは自宅学習として取り組み、先取りして進めても構わない。eラーニングの受講は生理学試験の受験資格の一つとし(前述)、成績評価にも使用する(後述)。eラーニングの問題や解説の内容に関する疑問点は、オンライン解説や教科書(推奨:ガイトン生理学※)を参考にして自ら解決すること(質問は受け付けない)。受講方法に関する問い合わせは科目責任者まで、システムに関する問い合わせはエルゼビア・ジャパン社の担当窓口まで連絡すること。

授業内容

授業では、心機能・循環、筋収縮、呼吸、腎機能、血液、消化・吸収、内分泌、代謝などの生理学を中心に扱う。一部に順番が前後したり、

重複したりする項目がある。従って、教育カリキュラムに従うのみではなく、教科書やｅラーニング教材を活用して自主的に学習して、断片的ではない体系化された基礎医学を各自構築されたい。教科書にはガイトン生理学、標準生理学、ギャノング生理学を挙げる。いずれも優れた生理学の教科書であり、購入または図書館の貸出利用を勧める。特にガイトン生理学(原著第13版2018年訳書)は、ｅラーニングと連携して学習できる利点がある。

成績評価の方法

筆記試験(1)の得点(配点70点)とｅラーニング(2)の最高得点(配点30点)の合計(100点満点)で評価する。なお、各授業中に実施した小テストや質疑応答の回答状況は科目責任者に集約され、上記(1)(2)の評価に総合的に加点または減点することがある(最大5点まで)。※ただし、本学医学科以外の履修生に対してはレポート等により個別に成績評価する。

1) 筆記試験(本試験2025年6月27日予定)

生理学試験の受験資格 1)2)を有する履修生に対し、基本的に同期型および非同期型の授業内容および関連事項を中心として、選択肢および記述式問題として出題する(70点)。従って、毎回の授業に出席し、教員が示す重要な項目を良く理解することが肝要である。一部は英語で出題する(日本語による授業の範囲を含む)。

2) ｅラーニング(2025年6月20日17時締切)

ｅラーニング(エルゼビア・ジャパン社ClinicalKey student(CKSJ)生理学)を指定通りに受講し、すべての回(全6回)で所定の正解率(60%)を上回る成績に到達していることが前提である。ｅ ラーニングの問題は基礎レベルの選択肢問題(日本語)を中心とし、各自に異なる問題が毎回10問ずつ出題される(総計60問)。本人自らが取り組む限り、教科書や授業ノートを参考にしてもよいし、同一問題あるいは問題を入れ替えた10問を再設定して何度でも挑戦してもよい。6回分の取り組み順も問わない。各回すべてで所定の正解率(60%)を上回ったうえで、各々の最高得点を合計してｅラーニングの取り組みを評価する。評価点は1問正解につき0.5点を与える。従って、各回の合格点は5点満点中の3点以上となり、ｅラーニング全体の合格点は18点から30点までの範囲となる。締切日までに所定の成績に達していない場合は、理由の如何にかかわらず(接続不良を含む)、生理学試験の受験資格を得られないことになるので注意すること。

成績評価の基準

筆記式の本試験(配点70点)とｅラーニング(配点30点)の合計点(100点満点)を算出し、合計60点を合格(B)の基準点とする。この基準を上回る得点に応じて、(B)より上の評価を与える。ただし、授業中の小テスト等の回答状況に基づき、総合的に加点または減点することがある(最大5点まで)。追試験の評価にはe-ラーニングの実績を含めるが、再試験には含めない。

準備学習等についての具体的な指示

最初の授業で指示する通りに ｅ ラーニングを計画的に受講しておくこと。また、教科書を使って授業の予習や復習をしておくことが望ましい。

試験の受験資格

1)同期型・非同期型授業の受講

同期型／非同期型授業ともに原則として出欠はとらないが、可能な限りの出席／視聴に努めること。ただし、アクティブラーニングを実施する授業では授業開始からの出席を必要とする。やむを得ない理由による場合を除き、アクティブラーニングの欠席者は本試験の受験資格を失うことがある。

※原則として個々の出席回数(視聴履歴)の問い合わせには対応しない。

※大幅な遅刻・早退をしないように規則正しい生活習慣に努め、交通機関の状況やオンライン接続環境の維持に注意を払うこと。

2)ｅラーニングの完了

2025年6月20日(金)17時までに、最初の授業で指示する方法でｅラーニング(エルゼビア・ジャパン社ClinicalKey student(CKSJ)生理学)を自己学習として受講し、全 6 回いずれも所定の正解率を上回る成績に到達していること(成績評価の方法を参照のこと)。各自の受講状況は、当該システム上で科目責任者が確認することができる。

上記の1)2)の条件を満たすことを、生理学試験の受験資格とする。不正が発覚した場合、アンプロフェッショナルな行為として懲戒の対象となるため、受験資格の取り消しも含め厳正に対処する。

教科書

ガイトン生理学／Guyton, Arthur C,Hall, John Edward, 1946-,石川, 義弘,岡村, 康司,尾仲, 達史,金子, 猛, 呼吸器内科学,北村, 義浩,藤乗, 嗣泰,ガイトン [原著],John E.Hall 著,石川義弘, 岡村康司, 尾仲達史, 河野憲二 総監訳,金子猛, 北村義浩, 藤乗嗣泰, 松嶋成志 監訳:エルゼビア・ジャパン, 2018.3

標準生理学／本間, 研一, 1946-,大森, 治紀, 1950-,大橋, 俊夫, 1949-,本間研一 監修,大森治紀, 大橋俊夫 総編集:医学書院, 2019.3
ギャノング生理学／Barrett, Kim E,Barman, Susan M,Boitano, Scott,岡田, 泰伸,佐久間, 康夫, 1946-,岡村, 康司,Kim E.Barrett, Susan M.Barman, Scott Boitano, Heddwen L.Brooks [著],岡田泰伸 監修,佐久間康夫, 岡村康司 監訳:丸善出版, 2017.11

参考書

必要に応じて参考書を紹介する。

他科目との関連

特に解剖学や神経科学基礎などの各科目と密接な関係があるので、幅広く知識を得るように留意して授業を受けること。

履修上の注意事項

対面式授業中は、携帯電話の通話や過度の私語や飲食などを禁ずる。同期型オンライン授業中は、大学の定める受講ルールと端末機器の設定を遵守すること。講義スライド資料の図表類および e ラーニングの問題と解説には著作権の許諾範囲に制限があるものが含まれるので、いかなる媒体を介しても履修者以外に授業資料を公開することを禁ずる。

備考

本学の教育改革と本科目のコース評価に基づき、下記の改善を採り入れた。

・同期型および非同期型の混成授業を可能とした。

・アクティブ・ラーニング授業や英語による授業の実施を明確化した。

・生理学の学修期間中に基礎的な知識を効率よく習得してもらうために、2021 年度より e ラーニング（エルゼビア・ジャパン社 eReview Assessment 生理学）を導入した。（Clinical Key student(CKSJ)生理学に改称）

・コース評価（コメント含む）を担当教員すべてに周知し、授業スライドや口頭説明などの改善に努めた。

・本試験では、英語による問題数が過大にならないように配慮している（専門用語の訳語付記含む）。

連絡先
細胞生理学分野 教授 礒村 宜和(いそむら よしかず)
M&D タワー17 階南西側(必ず事前に訪問予約をとること)
メール:isomura.phy2@tmd.ac.jp
電話:03-5803-5156(研究室)

連絡先(メールアドレス)

礒村 宜和:isomura.phy2@tmd.c.jp
古川 哲史:t_furukawa.bip@mri.tmd.ac.jp M&D・19F
吉田 雅幸: masa.vasc@tmd.ac.jp
角 勇樹:ysumi.pulm@tmd.ac.jp
蘇原 映誠:suchida.kid@tmd.ac.jp

オフィスアワー

礒村 宜和:平日朝10時～夕方6時まで
※授業の内容に関する質問は、各回の担当教員に直接尋ねてください。
※試験・レポートに関することは、なるべく科目責任者（礒村）にまとめて問い合わせ、各担当教員に直接尋ねることは極力避けてください。
吉田 雅幸: オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること。
角 勇樹:毎週 月-金 曜日 AM.9:00-PM.17:00 3 号館 16 階 呼吸器・神経系解析学教授室
(来室の前にメールで予約してください)
蘇原 映誠:リサーチカンファランス:毎週月曜 14:00~17:00:場所は要確認

時間割番号	011013				
科目名	組織学			**科目ID**	
担当教員					
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	2		
実務経験のある教員による授業	該当する				

英文名:Histology

授業の目的、概要等

組織学では、人体の顕微鏡レベルの構造を学ぶ。医学のプロフェッショナルとして、さらには国際人の基盤として人体の組織の名称を英語も含め正しく習得する。講義では、折に触れて、組織学に関わる科学の発展の歴史や最新の細胞生物学的知見についても紹介する。人体解剖学でもそうであるが、形態の記述は慣れていないと難しい。これに慣れること。人体の構造を総論では上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織に分けるが、それらの特徴はどのようなものであるかについて理解する。そして、後半は各器官がそれぞれの組織のどのような組み合わせでできているかについて説明できるようにする。また、これらの基礎となる標本の作製についての知識も重要である。

授業の到達目標

1) 科学者として形態学の研究法を知ること、形態の表現のしかたを学ぶ(見たとおりに述べるだけだが、案外難しい)。
2) 医師、医学生としては、主要な器官、組織について、あるいは標本内の正常組織について、臨床の現場で、教員(あるいは医療チームのだれか)に尋ねられたとき、それについて2−3分、満足のいくコミュニケーションができること。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-01-01)01,02
PS-01-02)10,11,12,13,14

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-2-B]基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[II-4-B]実習実験を実施して結果を得ることができる
[II-5-B]実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-17-A]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-19-B]情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる

[Ⅲ-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-1-B]疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/8	08:50-10:20	遠隔授業(同期型)	組織学・組織学実習の受講の仕方	ZOOMを使用し同期型で説明を行う。	中田 隆夫, CHENG LIHONG, 吉原 壮悟, 有馬 好美	【到達目標】1)2) 【学習方法】Zoom、Teams使用。
2	4/8	10:45-12:15	遠隔授業(非同期型)	組織学序論	Webclass上の資料と動画で学習する。	中田 隆夫	【到達目標】1)2) 【学習方法】非同期ビデオ。質問はWebclass上のリアクションペーパーで受け付ける。
3	4/14	08:50-10:20	遠隔授業(非同期型)	上皮組織、結合組織	Webclass上の資料と動画で学習する。	中田 隆夫	【到達目標】1)2) 【学習方法】非同期ビデオ。質問はWebclass上のリアクションペーパーで受け付ける。
4	4/21	08:50-10:20	遠隔授業(非同期型)	筋組織、神経組織	Webclass上の資料と動画で学習する。	浅野 豪文, 中田 隆夫	【到達目標】1)2) 【学習方法】非同期ビデオ。質問はWebclass上のリアクションペーパーで受け付ける。
5	4/24	15:25-16:55	遠隔授業(同期型)	アクティブラーニング1	同期型授業。アクティブラーニングにより復習を行う。	中田 隆夫, CHENG LIHONG, 吉原 壮悟, 有馬 好美	【到達目標】1)2) 【学習方法】Zoom使用。【アクティブラーニング】双方向授業
6	5/12	08:50-10:20	遠隔授業(非同期型)	血管、軟骨、骨、血液	Webclass上の資料と動画で学習する。	浅野 豪文	【到達目標】1)2) 【学習方法】非同期ビデオ。質問はWebclass上のリアクションペーパーで受け付ける。
7	5/19	08:50-10:20	遠隔授業(非同期型)	リンパ性器官、呼吸器、皮膚	Webclass上の資料と動画で学習する。	中田 隆夫	【到達目標】1)2) 【学習方法】非同期ビデオ。質問はWebclass上のリアクションペーパーで受け付ける。
8	5/22	15:25-16:55	遠隔授業(同期型)	アクティブラーニング2	同期型授業。アクティブラーニングにより復習を行う。	中田 隆夫, CHENG LIHO	【到達目標】1)2) 【学習方法】Zoom

						NG, 吉原 壮悟, 有馬 好美	使用。【アクティブラーニング】双方向授業
9	5/26	08:50-10:20	遠隔授業(非同期型)	消化器、肝胆膵	Webclass 上の資料と動画で学習する。	中田 隆夫	【到達目標】1)2) 【学習方法】非同期ビデオ。質問は Webclass 上のリアクションペーパーで受け付ける。
10	6/2	08:50-10:20	遠隔授業(非同期型)	内分泌器官、泌尿器	Webclass 上の資料と動画で学習する。	中田 隆夫	【到達目標】1)2) 【学習方法】非同期ビデオ。質問は Webclass 上のリアクションペーパーで受け付ける。
11	6/5	15:25-16:55	遠隔授業(同期型)	アクティブラーニング 3	同期型授業。アクティブラーニングにより復習を行う。	中田 隆夫, CHENG LIHONG, 吉原 壮悟, 有馬 好美	【到達目標】1)2) 【学習方法】Zoom 使用。【アクティブラーニング】双方向授業
12	6/9	08:50-10:20	遠隔授業(非同期型)	男性・女性生殖器	Webclass 上の資料と動画で学習する。	中田 隆夫	【到達目標】1)2) 【学習方法】非同期ビデオ。質問は Webclass 上のリアクションペーパーで受け付ける。
13	6/16	08:50-10:20	遠隔授業(非同期型)	眼、耳	Webclass 上の資料と動画で学習する。	中田 隆夫	【到達目標】1)2) 【学習方法】非同期ビデオ。質問は Webclass 上のリアクションペーパーで受け付ける。
14	6/20	13:30-15:00	遠隔授業(同期型)	アクティブラーニング 4	同期型授業。アクティブラーニングにより復習を行う。	中田 隆夫, CHENG LIHONG, 吉原 壮悟, 有馬 好美	【到達目標】1)2) 【学習方法】Zoom 使用。【アクティブラーニング】双方向授業
15	6/20	15:25-16:55	遠隔授業(同期型)	アクティブラーニング 5	同期型授業。アクティブラーニングにより復習を行う。	中田 隆夫, CHENG LIHONG, 吉原 壮悟, 有馬 好美	【到達目標】1)2) 【学習方法】Zoom 使用。【アクティブラーニング】双方向授業
16	6/25	10:45-12:15	医学科講義室 1	組織学試験		CHENG LIHONG, 吉原 壮悟, 有馬 好美	

授業方法

指定された講義資料を閲覧しながら講義動画を視聴する。資料や動画では実習で観察する各組織について概説し、実習のポイントについても解説する。出席(動画視聴)は確認しない。実習当日までに該当する講義資料、動画を閲覧し学習しておく。各実習日の 1 限に非同

期授業が組まれているが、1 コマ内で終わらない回の講義動画もあるため事前に視聴しておく。学生からの質問やコメントは Webclass 上のリアクションペーパーを利用する。これは出席管理に利用するわけではない。回答を要する質問については全員に、内容によっては個人に回答する。追加説明が必要な場合はアクティブラーニングセッションで解説する。動画は一定期間 WebClass 上で閲覧できるようにしておく。

・同期授業

初回は ZOOM で本科目の取り組み方を説明する。また閲覧した非同期授業の内容とそれまでに行われた組織学実習の内容を含む同期型アクティブラーニングセッションを数回行う。提示した課題について個人またはグループで討論して回答する形式で行う。出席は提出された課題により確認する。

授業内容

各回の内容は授業スケジュールに示してある。

成績評価の方法

組織学の評価は、アクティブラーニング、筆記試験によって行う。

アクティブラーニング：出席点・成績点（一回 2 点）

筆記試験：6 月 25 日。アクティブラーニングとの合計で 100 点満点とする。人体解剖学や生理学で習ったことのみの解答は不可。

成績評価の基準

成績評価の方法で書いた点数をこの科目の評価とし、60 点以上で合格とする。「授業の到達目標」に達していれば合格とし、より深く理解している場合に評価が上がる。

準備学習等についての具体的な指示

非同期型授業に関しては、その日のテーマについて組織学の教科書に目を通しておく。

同期授業のアクティブラーニングでは、それまでの講義は学習済みとして課題に取り組むので、動画の視聴を済ませておくことが望ましい。

試験の受験資格

全ての同期型アクティブラーニングセッションに参加し、個人／グループワークに取り組むことが受験資格となる。

特別に勘案すべき事情があるためにアクティブラーニングセッションに参加できない場合は、始まる前に科目責任者および医学教務係にメールで連絡することを必須とする。緊急の場合や連絡ができないような特別な事情があったと判断された場合には、その限りではない。

教科書

標準組織学総論 第 6 版／藤田尚男, 藤田恒夫 原著,藤田, 尚男, 1928-2014,藤田, 恒夫, 1929-2012,岩永, 敏彦, 1954-,岩永, ひろみ,小林, 純子, 1977-,：医学書院, 2022

標準組織学各論 第 6 版／藤田尚男, 藤田恒夫 原著,藤田, 尚男, 1928-2014,藤田, 恒夫, 1929-2012,岩永, 敏彦, 1954-,渡部, 剛, 医学,：医学書院, 2022

Ross 組織学／Wojciech Pawlina 著,内山安男, 相磯貞和 監訳,Pawlina, Wojciech,内山, 安男, 1947-,相磯, 貞和, 1951-,：南江堂, 2019

バーチャルスライド組織学／駒﨑伸二著,駒崎, 伸二,：羊土社, 2020

ウィーター図説で学ぶ機能組織学／Barbara Young［ほか］著 ； 後藤薫, 和栗聡監訳,Wheater, Paul R.,Young, Barbara, PhD,O'Dowd, Geraldine,Woodford, Phillip,後藤, 薫(解剖学),和栗, 聡,：エルゼビア・ジャパン, 2018

参考書

Molecular biology of the cell, 7th ed／Bruce Alberts ら著：WW Norton & Co, 2022

細胞の分子生物学 原著第 6 版／Bruce Alberts［ほか］著 ； 青山聖子［ほか］翻訳,Alberts, Bruce,Johnson, Alexander D.,Lewis, Julian,Morgan, David Owen,Raff, Martin C.,Roberts, K. (Keith),Walter, Peter,青山, 聖子,斉藤, 英裕,滋賀, 陽子,田口, マミ子,滝田, 郁子,中塚, 公子,羽田, 裕子,船田, 晶子,宮下, 悦子,中村, 桂子,松原, 謙一,：ニュートンプレス, 2017

はたらく細胞／清水 茜 著,清水／茜,：講談社

バーチャルスライド口腔組織学 = Oral histology of virtual slides／田畑純, 杉浦真琴著,田畑, 純,杉浦, 真琴,：羊土社, 2021

他科目との関連

人体解剖学や生理学の講義と密接な関連がある。

履修上の注意事項

講義動画、講義資料などは著作権の問題があるので、外部に公開することを禁じる。

備考

講義担当教員の問い合わせ先（後ろに@tmd.ac.jp をつける）

中田隆夫　細胞生物学分野　info.cbio
吉原壮悟　細胞生物学分野　yoshihara.cbio

昨年度のコース評価を受けて、アクティブラーニングではグループ内で討論しやすいような内容を増やす。

参照ホームページ

細胞生物学分野

www.tmd.ac.jp/cbio/index.html

時間割番号	011014			
科目名	組織学実習		**科目ID**	
担当教員				
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	2	
実務経験のある教員による授業	該当する			

英文名:Histology

授業の目的、概要等

組織学(講義)では人体の顕微鏡レベルの構造を学んだが、実習では全身の組織の標本を観察する。標本の中から自分の目で細胞・組織構造を同定し、特徴を理解できることを目的とする。実習をやりぬくことで、忍耐とともに、人体の主な構造については全て見たという達成感と自信を得る。実習では、教員が質問に答えるが、学生がお互いに教えあい議論することも歓迎される。実習の最後には実習試験があり、組織学全体を振り返る機会となっている。

授業の到達目標

講義、実習、試験を通じての目標

1) 科学者として、形態学の研究法を知ること、形態の表現のしかたを学ぶ(見たとおりに述べるだけだが、案外難しい)こと。

2) 医師、医学生としては、主要な器官、組織について、あるいは標本内の正常組織について、臨床の現場で、教員(あるいは医療チームのだれか)に尋ねられたとき、それについて2−3分、満足のいくコミュニケーションができることが目標である。

実習の主な目標

3) 標本の中から典型的な視野を探し出すこと。

4) 形態的特徴を理解すること。

5) 顕微鏡の正しい使い方を知ること。

6) これらのスキルを習得する。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-01-01)01,02

PS-01-02)10,11,12,13,14

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル

[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる

[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる

[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる

[II-2-B]基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える

[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる

[II-4-B]実習実験を実施して結果を得ることができる

[II-5-B]実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる

[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる

[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる

[III-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる

[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる

[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる

[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる

[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる

[III-17-A]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる

[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる

[Ⅲ-19-B]情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
[Ⅲ-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[Ⅲ-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[Ⅲ-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[Ⅲ-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[Ⅲ-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-1-B]疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-3	4/14	10:45-16:55	遠隔授業(同期型)	組織学実習導入、上皮組織、結合組織	WebClass に資料がある。 バーチャルスライド NanoZoomer、Teams の動作確認を行う。	中田 隆夫, CHENG LIHONG, 吉原 壮悟, 有馬 好美	【到達目標】1)2)3)4)6) 【学習方法】Zoom、Teams、NanoZoomer 使用。質問は画面共有により行う。
4-6	4/21	10:45-16:55	遠隔授業(同期型)	筋組織、神経組織	WebClass に資料と説明動画がある。 標本観察はバーチャルスライド NanoZoomer を用いる。	中田 隆夫, CHENG LIHONG, 吉原 壮悟, 有馬 好美	【到達目標】1)2)3)4)6) 【学習方法】Zoom、Teams、NanoZoomer 使用。質問は画面共有により行う。
7-9	5/12	10:45-16:55	遠隔授業(同期型)	血管・軟骨、骨、血液	WebClass に資料と説明動画がある。 標本観察はバーチャルスライド NanoZoomer を用いる。	中田 隆夫, CHENG LIHONG, 吉原 壮悟, 有馬 好美	【到達目標】1)2)3)4)6) 【学習方法】Zoom、Teams、NanoZoomer 使用。質問は画面共有により行う。
10-12	5/19	10:45-16:55	遠隔授業(同期型)	リンパ性器官、呼吸器、皮膚	WebClass に資料と説明動画がある。 標本観察はバーチャルスライド NanoZoomer を用いる。	中田 隆夫, CHENG LIHONG, 吉原 壮悟, 有馬 好美	【到達目標】1)2)3)4)6) 【学習方法】Zoom、Teams、NanoZoomer 使用。質問は画面共有により行う。
13-15	5/26	10:45-16:55	遠隔授業(同期型)	消化器、肝胆膵	WebClass に資料と説明動画がある。 標本観察はバーチャルスライド NanoZoomer を用いる。	中田 隆夫, CHENG LIHONG, 吉原 壮悟, 有馬 好美	【到達目標】1)2)3)4)6) 【学習方法】Zoom、Teams、NanoZoomer 使用。質問は画面共有により行う。
16-18	6/2	10:45-16:55	4 階学生実習室	顕微鏡の使い方、内分泌、泌尿器	WebClass に資料と説明動画がある。 対面実習にて顕微鏡による観察を行う。	中田 隆夫, CHENG LIHONG, 吉原 壮	【到達目標】1)2)3)4)5)6) 【学習方法】Teams、顕微

						悟, 有馬 好美	鏡使用、スケッチを行う。【その他】色鉛筆、講義資料閲覧やTeams利用のためのPC等端末を持参のこと。
19-21	6/9	10:45-16:55	遠隔授業(同期型)	男性生殖器、女性生殖器	WebClassに資料と説明動画がある。 標本観察はバーチャルスライドNanoZoomerを用いる。	中田 隆夫, CHENG LIHONG, 吉原 壮悟, 有馬 好美	【到達目標】1)2)3)4)6) 【学習方法】Zoom、Teams、NanoZoomer使用。質問は画面共有により行う。
22-24	6/16	10:45-16:55	遠隔授業(同期型)	眼、耳	WebClassに資料と説明動画がある。 標本観察はバーチャルスライドNanoZoomerを用いる。	中田 隆夫, CHENG LIHONG, 吉原 壮悟, 有馬 好美	【到達目標】1)2)3)4)6) 【学習方法】Zoom、Teams、NanoZoomer使用。質問は画面共有により行う。
25	6/23	10:45-12:15	情報検索室	組織学実習試験		中田 隆夫, CHENG LIHONG, 吉原 壮悟, 有馬 好美	

授業方法

講義で解説された実習する組織についてのポイントを踏まえて、実習に取り組む。各回の実習標本解説動画を視聴し、実習資料を参考にしながら課題に取り組む。初回は同期授業(ZOOM)で本科目の取り組み方等を説明する。実習は顕微鏡実習以外はZOOMとTeamsを用いた同期型授業で、オンラインのバーチャルスライドを用いて標本を観察し、組織画像を使ったデジタルレポートを作成する。一回は実習室で顕微鏡を用いた標本の観察を行い、スケッチをする。デジタルレポート、スケッチでは指示された標本の課題に全て取り組むことが求められる。各回の実習終了後、翌週月曜日までにレポートを提出する。出席は確認しないが、レポートの進捗状況は毎週チェックする。学生が標本を観察する実習型のアクティブラーニングである。

授業内容

各回の内容は授業スケジュールに示してある。

成績評価の方法

6月23日に実施される実習試験とレポート(スケッチを含む)の提出により評価する(それぞれ50%で合計100点)。実習試験では、情報検索室で組織標本の画像を見て問題に答える。レポートは指示された標本の課題を全て含むこと。レポートの最終提出期限は6月23日(実習試験日)とする。

成績評価の基準

実習試験とレポートの点数の合計をこの科目の評価とし、60点以上で合格とする。「授業の到達目標」に達していれば合格とし、より深く理解している場合に評価が上がる。

準備学習等についての具体的な指示

教科書、アトラス、講義資料に目を通し、観察すべき構造を把握しておく。講義を良く理解することが実習の最も良い準備となる。事前に実習標本解説動画を視聴しておいても良い。

試験の受験資格

原則として出席はとらないが、毎回の実習レポートを全て提出することが受験資格となる。

教科書

標準組織学総論 第6版／藤田尚男, 藤田恒夫 原著,藤田, 尚男, 1928-2014,藤田, 恒夫, 1929-2012,岩永, 敏彦, 1954-,岩永, ひろみ,小林,

純子, 1977–,:医学書院, 2022
標準組織学各論 第6版／藤田尚男, 藤田恒夫 原著,藤田, 尚男, 1928–2014,藤田, 恒夫, 1929–2012,岩永, 敏彦, 1954–,渡部, 剛, 医学,:医学書院, 2022
Ross 組織学／Wojciech Pawlina 著,内山安男, 相磯貞和 監訳,Pawlina, Wojciech,内山, 安男, 1947–,相磯, 貞和, 1951–,:南江堂, 2019
バーチャルスライド組織学／駒﨑伸二著,駒崎, 伸二,:羊土社, 2020
ウィーター図説で学ぶ機能組織学／Barbara Young, Geraldine O'Dowd, Phillip Woodford 著 ; 後藤薫, 和栗聡監訳,Young, Barbara, PhD,O'Dowd, Geraldine,Woodford, Phillip,後藤, 薫(解剖学),和栗, 聡,:エルゼビア・ジャパン, 2018

参考書

Molecular biology of the cell, 7th ed／Bruce Alberts ら著:WW Norton & Co, 2022
細胞の分子生物学 原著第 6 版／Bruce Alberts [ほか] 著 ; 青山聖子 [ほか] 翻訳,Alberts, Bruce,Johnson, Alexander D.,Lewis, Julian,Morgan, David Owen,Raff, Martin C.,Roberts, K. (Keith),Walter, Peter,青山, 聖子,斉藤, 英裕,滋賀, 陽子,田口, マミ子,滝田, 郁子,中塚, 公子,羽田, 裕子,船田, 晶子,宮下, 悦子,中村, 桂子,松原, 謙一,:ニュートンプレス, 2017
はたらく細胞／清水 茜 著,清水／茜,:講談社
バーチャルスライド口腔組織学 = Oral histology of virtual slides／田畑純, 杉浦真琴著,田畑, 純,杉浦, 真琴,:羊土社, 2021

他科目との関連

人体解剖学や生理学の講義と密接な関係がある。

履修上の注意事項

実習方法の詳細については実習初回にガイダンスを行う。スケッチ用の色鉛筆やノートに関してはガイダンスの中で説明するので、初日に準備しておく必要はない。 実習では各自の PC で ZOOM、Teams、バーチャルスライド、レポートスライドなどを開くことになるので、拡張モニターなどがあると便利である。 レポートは他の学生のレポートをコピーして提出しないこと。関係した学生は未提出として扱う。実習標本解説動画、実習資料などは著作権の問題があるので、外部に公開することを禁じる。

備考

講義担当教員の問い合わせ先(後ろに@tmd.ac.jp をつける)
中田隆夫 細胞生物学分野 info.cbio
吉原壮悟 細胞生物学分野 yoshihara.cbio

昨年度のコース評価を受けて、オンライン実習の形式を整備し直した。ZOOM、Nanozoomer、Microsoft Teams、パワーポイントを使用予定である。

参照ホームページ

細胞生物学分野
www.tmd.ac.jp/cbio/index.html

時間割番号	011016			
科目名	人体解剖学		**科目ID**	
担当教員	秋田　恵一, 山口　久美子, 原田　理代, 室生　暁, 二村　昭元[AKITA Keiichi, YAMAGUCHI Kumiko, HARADA Masayo, MURO Satoru, NIMURA Akimoto]			
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	2	
実務経験のある教員による授業	該当する			

英文名:Human Anatomy

授業の目的、概要等

人体解剖学を学習することは、人体構造の名称を覚えるということだけではなく、その周囲の構造との位置関係も理解し、説明することができるということである。そのためには、その器官の発生や、組織構造、その機能なども理解する必要がある。

学生からは、「どこが重要であるのか」という問いがしばしばよせられる。しかし、その構造がなぜ重要であるのかということは、臨床的な意義や重要性まで理解することによって十分に理解できるようになる。講義では、そのような意義や重要性の基盤となる点に注目しながら説明を行うことにする。

人体解剖学は、ある程度の名称や解剖学的構造を知らなくては理解が進まない。その一方で、解剖学用語を暗記するのみでは、無味乾燥でつまらないものになるだけでなく、解剖学的構造や位置関係を理解したことにもならない。教科書やアトラス、講義資料、人体解剖学実習手順などを十分に活用しながら、何が重要なのか考えながら学習するように努めていただきたい。

人体解剖学は非常に古い学問であり、部位によっては、人名のついた用語が多数現れる。国際的通用性の高い用語については折に触れて紹介する。また、国家試験等においては、人名は原語の綴りで出題されるため、慣れ親しんでいただきたい。

授業の到達目標

到達目標は、以下のとおりである。

①基本的な解剖学的構造について、発生過程を念頭に置きながら説明できること。

②基本的な解剖学的事項について、診察・診断・治療などとの関連を意識しながら説明できること。

解剖学用語が多少曖昧であっても、重要な構造とその周辺領域についての理解ができることをめざす。臨床的に応用されるような事項については、小さな構造であっても重要度が高くなることがあるので重要度と構造の大きさにはあまり関係はない。重要度については、友人と一緒に考えながら見極めていくことが必要である。

以下のような内容の学習に努めていただきたい。非同期型の授業動画、講義資料、また授業の参考資料などは、WebClassに掲示する。集合セッションでは、シラバスに示された範囲について、非同期型の授業動画などで予習をしてから臨むことが求められる。

非同期型の授業動画では、人体解剖学実習において重要なところに触れていく。実習手順を十分に把握するためにも、予習する必要がある。「グレイ解剖学」や「人体解剖カラーアトラス」等の教科書を参照し、確認しておくようにする。

授業で扱われている内容は、人体解剖学実習で復習しながらさらに学ぶことができる。さらに、人体解剖学実習では、授業中に扱われた症例についての議論をしながら行うことで、授業で扱われた内容の意義を確認できるとともに、重要な構造についての確認や理解ができる。人体解剖学実習の予習テストのために、予め学んだ解剖学用語を用いて、基本的な構造を説明できるようにし、その領域の骨、筋、臓器と脈管や神経の相互の基本的な位置関係を説明できるようにする。上記の相互の位置関係を作り出すような、発生過程を説明できることも求められる。これらのことは、人体構造総論で学んだことの復習であり、授業のなかでも、しばしばその考え方について触れる。

発展的学習として、教科書「グレイ解剖学」の『臨床的事項』について自主的に学習する。これらの臨床的事項は、臨床科目の学習に密接に関わり、臨床への応用を意識して書かれている。解剖学の学習の中で、なぜこの事項が必要なのかまたは重要なのかということを学ぶときに役立つので、十分に活用していただきたい。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-02-05)01
PS-02-06)01
PS-02-07)01
PS-02-08)01

PS-02-09)01
PS-02-10)01
PS-02-13)01

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-2-B]基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[II-4-B]実習実験を実施して結果を得ることができる
[II-5-B]実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-8-C]患者との関係(情報漏洩、親密性、金品授受など)において適切な距離を維持する必要性を説明できる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-17-A]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-19-B]情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-1-B]疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/9	13:30-15:00	遠隔授業(非同期型)	オンデマンド 01	体幹の骨、上肢の骨	秋田 恵一	①②動画視聴後に多肢選択式問題
2	4/10	13:30-15:00	遠隔授業(非同期型)	オンデマンド 02	下肢の骨、頭蓋骨	秋田 恵一	①②動画視聴後に多肢選択式問題
3	4/10	15:25-16:55	遠隔授業(非同期型)	オンデマンド 03	体表観察(仰臥位) 皮膚 乳腺 胸・腹部(皮下) 頸部(皮下) 下腹部(皮下)	秋田 恵一	①②動画視聴後に多肢選択式問題
4	4/11	08:50-10:20	情報検索室1	集合セッション1	集合セッション1	秋田 恵一, 山口 久美子, 室生 暁, 原田 理代	①②個人テスト
5	4/17	13:30-15:00	遠隔授業(非同期型)	オンデマンド 04	肩部(皮下)・浅胸筋 大腿伸側(皮下・浅層・中層)	秋田 恵一	①②動画視聴後に多肢選択式問題

6	4/18	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	オンデマンド 05	体表観察(腹臥位)　頭部・頸部・背部・腰部(皮下)	秋田 恵一	①②動画視聴後に多肢選択式問題
7	4/22	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	オンデマンド 06	後頭の筋・浅背筋　殿部, 大腿屈側(皮下)　上肢帯近位部　大腿屈側(浅層)　殿部(浅層)	秋田 恵一	①②動画視聴後に多肢選択式問題
8	4/24	13:30-15:00	遠隔授業（非同期型）	オンデマンド 07	固有背筋　脊柱傍筋	秋田 恵一	①②動画視聴後に多肢選択式問題
9	4/25	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	オンデマンド 08	頸部(中層)　腹壁(浅層・深層)・鼠径管　鼠径部の構造	秋田 恵一	①②動画視聴後に多肢選択式問題
10	4/28	08:50-10:20	情報検索室 1	集合セッション2	集合セッション2	秋田 恵一, 山口 久美子, 室生 暁, 原田 理代	①②個人テスト
11	5/1	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	オンデマンド 09	腋窩・腕神経叢、上肢の切離　大腿伸側(深層)・大腿屈側(深層)、下肢の切離	秋田 恵一	①②動画視聴後に多肢選択式問題
12	5/2	08:50-10:20	情報検索室 1	集合セッション3	集合セッション3	秋田 恵一, 山口 久美子, 室生 暁, 原田 理代	①②個人テスト
13	5/8	13:30-15:00	遠隔授業（非同期型）	オンデマンド 10	胸郭　上縦隔・甲状腺	秋田 恵一	①②動画視聴後に多肢選択式問題
14	5/9	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	オンデマンド 11	自律神経系　心臓の神経　後縦隔　心臓・肺	秋田 恵一	①②動画視聴後に多肢選択式問題
15	5/13	08:50-10:20	情報検索室 1	集合セッション4	集合セッション4	秋田 恵一, 山口 久美子, 室生 暁, 原田 理代	①②個人テスト
16	5/16	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	オンデマンド 12	腹膜　大腸　胃の血管　腸管の血管と自律神経　肝門・門脈	秋田 恵一	①②動画視聴後に多肢選択式問題
17	5/20	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	オンデマンド 13	十二指腸と膵臓　膵臓の血管と膵管の分布　肝臓	秋田 恵一	①②動画視聴後に多肢選択式問題
18	5/22	13:30-15:00	遠隔授業（非同期型）	オンデマンド 14	L1 の重要性　消化管　腹膜後器官　横隔膜　後体壁	秋田 恵一	①②動画視聴後に多肢選択式問題
19	5/23	08:50-10:20	情報検索室 1	集合セッション5	集合セッション5	秋田 恵一	①②個人テスト
20	5/27	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	オンデマンド 15	脳神経総論　脊柱管・脊髄　内頭蓋底・頭頸部移行部　咽頭後壁　椎前筋・椎側筋　殿部(深層)　腰神経叢	秋田 恵一, 山口 久美子, 室生 暁, 原田 理代	①②動画視聴後に多肢選択式問題
21	5/29	13:30-15:00	遠隔授業	オンデマンド 16	男性:会陰部　女性:会陰部　寛	室生 暁	①②動画視聴後

			(非同期型)		骨の除去　骨盤出口筋　仙骨神経叢　内腸骨動脈　骨盤神経叢(下下腹神経叢)　骨盤内臓		に多肢選択式問題
22	5/29	15:25-16:55	遠隔授業(非同期型)	オンデマンド 17	顔面(皮下・浅層)　咀嚼筋(浅層)	秋田 恵一	①②動画視聴後に多肢選択式問題
23	5/30	08:50-10:20	情報検索室 1	集合セッション6	集合セッション6	秋田 恵一, 山口 久美子, 室生 暁, 原田 理代	①②個人テスト
24	6/3	08:50-10:20	遠隔授業(非同期型)	オンデマンド 18	肩甲帯　上腕　前腕屈側　手掌	秋田 恵一, 二村 昭元	①②動画視聴後に多肢選択式問題
25	6/5	13:30-15:00	遠隔授業(非同期型)	オンデマンド 19	下顎骨　側頭下窩　顔面(深層)・舌　前腕伸側・手背　肘・手関節	秋田 恵一, 二村 昭元	①②動画視聴後に多肢選択式問題
26	6/6	08:50-10:20	情報検索室 1	集合セッション7	集合セッション7	秋田 恵一, 山口 久美子, 室生 暁, 原田 理代	①②個人テスト
27	6/10	08:50-10:20	遠隔授業(非同期型)	オンデマンド 20	眼窩　外耳・中耳・内耳　下腿伸側・足背　下腿屈側	秋田 恵一, 二村 昭元	①②動画視聴後に多肢選択式問題
28	6/12	13:30-15:00	遠隔授業(非同期型)	オンデマンド 21	鼻腔・副鼻腔・翼口蓋窩　口蓋　咽頭・喉頭　足底　膝・足関節	秋田 恵一, 二村 昭元	①②動画視聴後に多肢選択式問題
29	6/13	08:50-10:20	情報検索室 1	集合セッション8	集合セッション8	秋田 恵一, 山口 久美子, 室生 暁, 原田 理代	①②個人テスト
30	6/30	10:45-12:15	医学科講義室 1	試験		秋田 恵一, 山口 久美子, 室生 暁, 原田 理代, 二村 昭元	①②試験

授業方法

● 非同期授業

指定された動画ならびに講義資料、参考資料を閲覧し、指示にあるように課題に回答する。4 月 11 日、28 日、5 月 2 日、13 日、27 日、30 日、6 月 6 日、13 日の集合セッションでは、その前までに閲覧するように指示された非同期授業の内容ならびにそれまでに行われた人体解剖学実習での内容を含むため、集合セッション前に当該講義の動画は閲覧し、指示された問題に答えておくこと。

WebClass 上にリアクションペーパーを用意する。これは、感想や質問、コメントを自由に記述してもらうためのものであり、出席管理に使うものではない。人間関係についての問題や、学習法、実習で苦労している点 についての質問なども含め、自由に書いていただきたい。内容によっては全員に対してではなく、個人的に答える。コミュニケーションツールとして非常に有効であるので十分に活用してほしい。

すぐに解決できないような質問や、重要な質問やコメント、クラス全員に答えたほうが良いようなことについては集合セッションの中で答えるか、WebClass 上で答える。優れた質問が授業内容を深める助けとなることが多い。また、講義資料、教科書等の誤りの指摘は授業の質を高めることに繋がるので、活用してほしい。

動画は復習に使用できるよう、卒業まで、WebClass 上に閲覧可能な状態に置いておくので、活用していただきたい。

● 対面授業

4 月 11 日、28 日、5 月 2 日、13 日、27 日、30 日、6 月 6 日、13 日の集合セッションは、情報検索室で行われる。

集合セッションでは、それまで行われた非同期授業や事前または当日の人体解剖学実習の中で重要となることについて説明する。最後に示す課題については、自習する。

動画は復習に使用できるよう、卒業まで、WebClass 上に閲覧可能な状態に置いておくので、活用していただきたい。

授業内容

授業スケジュールに各回の授業内容は示してある。

成績評価の方法

人体解剖学の評価は、個人テストならびに 6 月 30 日に実施される筆記試験によって行う。

1)個人テスト

8 回の集合セッションの個人テスト　5点×8回

※集合セッションで行われる解剖学用語試験は人体解剖学実習の成績評価に用いられる

2)筆記試験

基本多肢選択式問題　10 題　10 点

基本記述式問題　10 題　50 点

3)筆記試験

応用多肢選択式問題　5 題　10 点

応用記述式問題　3 題　30 点

成績評価の基準

人体解剖学の評価は、提出課題ならびに筆記試験の結果から、次のように行う。

1)と2)の合計が 60 点以上の場合に合格とする。

これに3)の点数を加えたものを、この科目の評価とする。

準備学習等についての具体的な指示

人体構造総論を十分に学習しておくことが求められる。人体解剖学の講義では、人体構造総論で登場したものについては、学習済みのものとして扱う。また、組織学や生理学ですでに授業が行われているものについても、学習済みのものとして扱う。

人体解剖学実習手順は、単に実習の手順が書かれているだけではなく、臨床的に重要となる点についても触れられている。非同期型の講義ビデオを視聴し、人体解剖学実習手順の概要を把握してから「グレイ解剖学」や「人体解剖カラーアトラス」の関連項目を読むことによって、理解すべき点が明確になるはずである。

試験の受験資格

6 月 30 日に行われる定期試験ならびに追・再試験を受験する資格は、次のすべてを満たすものとする。

4 月 11 日、28 日、5 月 2 日、13 日、27 日、30 日、6 月 6 日、13 日の集合セッションの計 8 回に参加し、個人テストに回答すること。

集合セッションに参加できない場合は開始前の連絡を必須とする。

医学教務係にメールすることを原則とするが、緊急事態で電話連絡をした場合は後日メールで事情を説明することが必要である。連絡ができないような特別な事情があったとあとで判断された場合はその限りではない。

教科書

グレイ解剖学／Richard L.Drake, A.Wayne Vogl, Adam W.M.Mitchell [著],秋田恵一　訳:エルゼビア・ジャパン, 2019

人体解剖カラーアトラス(電子書籍付)(原書第 8 版)／佐藤　達夫 翻訳秋田　恵一 翻訳:南江堂, 2021

参考書

体表からわかる人体解剖学 : ポケットチューター／Richard Tunstall, S. Ali Mirjalili [著] ;　[大川淳ほか訳],Tunstall, Richard,Mirjalili, S. Ali,大川, 淳,秋田, 恵一,:南江堂, 2021

他科目との関連

「人体解剖学」は、「人体構造総論」と密接な関係があるだけでなく、「組織学」、「生理学」、「神経解剖学」といった、他の解剖学の科目とも密

接な関係にある。また、1 年生の「医学導入(MIC)」とくにその中の「症候学導入」とも関連が深く、その時には十分理解出来なかった症候のメカニズムを確認する機会とすることが必要である。　また、臨床各科と関連し集合セッション中に提示する症例や、教科書「グレイ解剖学」の臨床的事項や臨床症例ならびに「人体解剖学カラーアトラス」の臨床関連事項は、臨床との関連を十分に意識できる機会であるから、十分に活用していただきたい。

履修上の注意事項

講義動画、講義資料、参考資料などは著作権の問題があるので、受講登録者以外に公開することを禁ずる。

備考

授業最終日から、コース評価アンケートが WebClass でできるようになっている。アンケートに回答しない場合は、本科目の合否が WebClass に表示されない。

昨年度のコース評価を受けての変更点

最終回の内容が重く、定期試験までの日数が少なかったため十分に勉強できなかったという声が多くあった。各回の内容の配分と日程を可能な範囲で調整した。

連絡先(メールアドレス)

秋田　恵一:akita.fana@tmd.ac.jp
山口　久美子:yamaguchi.fana@tmd.ac.jp
原田　理代:原田　理代:harada.fana@tmd.ac.jp
室生　暁muro.fana@tmd.ac.jp

オフィスアワー

秋田　恵一:メール等でアポイントメントを取ること。
山口　久美子:メール等でアポイントメントを取ること。
原田　理代:原田　理代:メール等でアポイントメントを取ること。
室生　暁メール等でアポイントメントを取ること

時間割番号	011017			
科目名	人体解剖学実習		**科目ID**	
担当教員	秋田　恵一, 山口　久美子, 原田　理代, 室生　暁, 藤代　瞳, 二村　昭元, 中澤正孝, 太田　正人[AKITA Keiichi, YAMAGUCHI Kumiko, HARADA Masayo, MURO Satoru, FUJISHIRO Hitomi, NIMURA Akimoto, Masataka Nakazawa, OOTA Masato]			
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	2	
実務経験のある教員による授業	該当する			

英文名:Human Anatomy

授業の目的、概要等

人体解剖学(講義)で学んだ内容を、解剖実習体を自分の手で解剖し、自分の目で観察し、見出した構造を同定して、説明できることを目指す。

人体解剖実習は、人体に初めて直接触れる実習である。解剖実習体には十分に敬意を払って接することが必要である。献体について、解剖実習に臨むにあたっての注意については、解剖実習説明会の時に話す。敬意を表現するためにも、十分な予習をした上で参加することが求められる。

授業の到達目標

人体解剖学実習に参加し、解剖実習体を人体解剖学実習手順にしたがって
①自分の手で解剖し、
②自分の目で観察し、
③剖出した構造を同定する。

人体を理解するためには、構造の名称をある程度知らなくては理解できないし、構造のもつ意味も理解できない。また、解剖学にかかわらず、すべての科目の教科書や論文等を読む時には、基本的な解剖学用語を知らずに内容の理解は覚束ない。そのため、人体解剖学実習の中で、基本的な解剖学用語を日本語と英語で覚えることを求めている。

人体解剖学実習手順にあるチェックリストは、実習の進行が適切に行われているかを判断ために用いる。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-02-02)01
PS-02-03)01
PS-02-05)01
PS-02-06)01
PS-02-07)01
PS-02-08)01,05
PS-02-09)01
PS-02-10)01
PS-02-13)01

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-2-B]基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[II-4-B]実習実験を実施して結果を得ることができる
[II-5-B]実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる

[Ⅲ-8-C]患者との関係(情報漏洩、親密性、金品授受など)において適切な距離を維持する必要性を説明できる
[Ⅲ-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[Ⅲ-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
[Ⅲ-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[Ⅲ-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[Ⅲ-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[Ⅲ-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[Ⅲ-17-A]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
[Ⅲ-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[Ⅲ-19-B]情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
[Ⅲ-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[Ⅲ-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[Ⅲ-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[Ⅲ-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[Ⅲ-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-1-B]疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/11	10:45-12:15	6階学生実習室	第1回	骨学実習(体幹、上肢、下肢、頭蓋骨)	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 奥原 滋	①②③実習
2	4/11	13:30-15:00	6階学生実習室	第1回	骨学実習(体幹、上肢、下肢、頭蓋骨)	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 奥原 滋	①②③実習
3	4/11	15:25-16:55	6階学生実習室	第1回	骨学実習(体幹、上肢、下肢、頭蓋骨)	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 奥原 滋	①②③実習
4	4/15	08:50-10:20	医学科講義室1	第2回	解剖実習説明会	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝	
5	4/15	10:45-12:15	解剖学実習室	第2回	体表観察(仰臥位) 皮膚 乳腺 胸・腹部(皮下) 頸部(皮下) 下腹部(皮下)	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子,	①②③実習

						室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝	
6	4/15	13:30-15:00	解剖学実習室	第2回	体表観察(仰臥位) 皮膚 乳腺 胸・腹部(皮下) 頸部(皮下) 下腹部(皮下)	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝	①②③実習
7	4/15	15:25-16:55	解剖学実習室	第2回	体表観察(仰臥位) 皮膚 乳腺 胸・腹部(皮下) 頸部(皮下) 下腹部(皮下)	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝	①②③実習
8	4/18	10:45-12:15	解剖学実習室	第3回	肩部(皮下)・浅胸筋 大腿伸側(皮下・浅層・中層)	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝, 太田 正人	①②③実習
9	4/18	13:30-15:00	解剖学実習室	第3回	肩部(皮下)・浅胸筋 大腿伸側(皮下・浅層・中層)	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝, 太田 正人	①②③実習
10	4/18	15:25-16:55	解剖学実習室	第3回	肩部(皮下)・浅胸筋 大腿伸側(皮下・浅層・中層)	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝, 太田 正人	①②③実習
11	4/22	10:45-12:15	解剖学実習室	第4回	体表観察(腹臥位) 頭部・頸部・背部・腰部(皮下)	秋田 恵一, 原田 理代,	①②③実習

						山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝	
12	4/22	13:30-15:00	解剖学実習室	第4回	体表観察(腹臥位) 頭部・頸部・背部・腰部(皮下)	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝	①②③実習
13	4/22	15:25-16:55	解剖学実習室	第4回	体表観察(腹臥位) 頭部・頸部・背部・腰部(皮下)	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝	①②③実習
14	4/25	10:45-12:15	解剖学実習室	第5回	後頭の筋・浅背筋 殿部, 大腿屈側(皮下) 上肢帯近位部 大腿屈側(浅層) 殿部(浅層)	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝, 太田 正人	①②③実習
15	4/25	13:30-15:00	解剖学実習室	第5回	後頭の筋・浅背筋 殿部, 大腿屈側(皮下) 上肢帯近位部 大腿屈側(浅層) 殿部(浅層)	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝, 太田 正人	①②③実習
16	4/25	15:25-16:55	解剖学実習室	第5回	後頭の筋・浅背筋 殿部, 大腿屈側(皮下) 上肢帯近位部 大腿屈側(浅層) 殿部(浅層)	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝, 太田 正人	①②③実習
17	4/28	10:45-12:15	解剖学実	第6回	固有背筋 固有背筋(外側系)	秋田 恵一,	①②③実習

			習室		固有背筋(内側系)　脊柱傍筋	原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋	
18	4/28	13:30-15:00	解剖学実習室	第6回	固有背筋　固有背筋(外側系) 固有背筋(内側系)　脊柱傍筋	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋	①②③実習
19	4/28	15:25-16:55	解剖学実習室	第6回	固有背筋　固有背筋(外側系) 固有背筋(内側系)　脊柱傍筋	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋	①②③実習
20	5/1	10:45-12:15	解剖学実習室	第7回	頸部(中層)　腹壁(浅層・深層)・鼠径管　鼠径部の構造	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤 正孝	①②③実習
21	5/1	13:30-15:00	解剖学実習室	第7回	頸部(中層)　腹壁(浅層・深層)・鼠径管　鼠径部の構造	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤 正孝	①②③実習
22	5/1	15:25-16:55	解剖学実習室	第7回	頸部(中層)　腹壁(浅層・深層)・鼠径管　鼠径部の構造	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤 正孝	①②③実習
23	5/2	10:45-12:15	解剖学実習室	第8回	腋窩・腕神経叢、上肢の切離　大腿伸側(深層)・大腿屈側(深層)、下肢の切離	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子,	①②③実習

						室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝, 太田 正人	
24	5/2	13:30–15:00	解剖学実習室	第8回	腋窩・腕神経叢、上肢の切離　大腿伸側(深層)・大腿屈側(深層)、下肢の切離	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝, 太田 正人	①②③実習
25	5/2	15:25–16:55	解剖学実習室	第8回	腋窩・腕神経叢、上肢の切離　大腿伸側(深層)・大腿屈側(深層)、下肢の切離	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝, 太田 正人	①②③実習
26	5/9	10:45–12:15	解剖学実習室	第9回	胸郭　上縦隔・甲状腺	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝, 太田 正人	①②③実習
27	5/9	13:30–15:00	解剖学実習室	第9回	胸郭　上縦隔・甲状腺	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝, 太田 正人	①②③実習
28	5/9	15:25–16:55	解剖学実習室	第9回	胸郭　上縦隔・甲状腺	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝, 太田	①②③実習

						正人	
29	5/13	10:45-12:15	解剖学実習室	第 10 回	自律神経系　心臓の神経　後縦隔　心臓・肺	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝	①②③実習
30	5/13	13:30-15:00	解剖学実習室	第 10 回	自律神経系　心臓の神経　後縦隔　心臓・肺	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝	①②③実習
31	5/13	15:25-16:55	解剖学実習室	第 10 回	自律神経系　心臓の神経　後縦隔　心臓・肺	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝	①②③実習
32	5/16	10:45-12:15	解剖学実習室	第 11 回	腹膜　大腸　胃の血管　腸管の血管と自律神経　肝門・門脈	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝, 太田 正人	①②③実習
33	5/16	13:30-15:00	解剖学実習室	第 11 回	腹膜　大腸　胃の血管　腸管の血管と自律神経　肝門・門脈	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝, 太田 正人	①②③実習
34	5/16	15:25-16:55	解剖学実習室	第 11 回	腹膜　大腸　胃の血管　腸管の血管と自律神経　肝門・門脈	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤	①②③実習

						正孝, 太田 正人	
35	5/20	10:45-12:15	解剖学実習室	第 12 回	十二指腸と膵臓　膵臓の血管と膵管の分布　肝臓	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝	①②③実習
36	5/20	13:30-15:00	解剖学実習室	第 12 回	十二指腸と膵臓　膵臓の血管と膵管の分布　肝臓	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝	①②③実習
37	5/20	15:25-16:55	解剖学実習室	第 12 回	十二指腸と膵臓　膵臓の血管と膵管の分布　肝臓	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝	①②③実習
38	5/23	10:45-12:15	解剖学実習室	第 13 回	L1 の重要性　消化管　腹膜後器官　横隔膜　後体壁	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝, 太田 正人	①②③実習
39	5/23	13:30-15:00	解剖学実習室	第 13 回	L1 の重要性　消化管　腹膜後器官　横隔膜　後体壁	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝, 太田 正人	①②③実習
40	5/23	15:25-16:55	解剖学実習室	第 13 回	L1 の重要性　消化管　腹膜後器官　横隔膜　後体壁	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村	①②③実習

						昭元, 奥原滋, 中澤正孝, 太田 正人	
41	5/27	10:45-12:15	解剖学実習室	第 14 回	脊柱管･脊髄 内頭蓋底･頭頸部移行部 咽頭後壁 椎前筋･椎側筋 殿部(深層) 腰神経叢	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野恵子, 二村昭元, 奥原滋, 中澤正孝	①②③実習
42	5/27	13:30-15:00	解剖学実習室	第 14 回	脊柱管･脊髄 内頭蓋底･頭頸部移行部 咽頭後壁 椎前筋･椎側筋 殿部(深層) 腰神経叢	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野恵子, 二村昭元, 奥原滋, 中澤正孝	①②③実習
43	5/27	15:25-16:55	解剖学実習室	第 14 回	脊柱管･脊髄 内頭蓋底･頭頸部移行部 咽頭後壁 椎前筋･椎側筋 殿部(深層) 腰神経叢	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野恵子, 二村昭元, 奥原滋, 中澤正孝	①②③実習
44	5/30	10:45-12:15	解剖学実習室	第 15 回	男性:会陰部 女性:会陰部 寛骨の除去 骨盤出口筋 仙骨神経叢 内腸骨動脈 骨盤神経叢(下下腹神経叢) 骨盤内臓	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝, 太田 正人	①②③実習
45	5/30	13:30-15:00	解剖学実習室	第 15 回	男性:会陰部 女性:会陰部 寛骨の除去 骨盤出口筋 仙骨神経叢 内腸骨動脈 骨盤神経叢(下下腹神経叢) 骨盤内臓	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 中澤正孝, 太田 正人	①②③実習
46	5/30	15:25-16:55	解剖学実習室	第 15 回	男性:会陰部 女性:会陰部 寛骨の除去 骨盤出口筋 仙骨神経叢 内腸骨動脈 骨盤神経叢(下下腹神経叢) 骨盤内臓	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野	①②③実習

						恵子, 二村昭元, 奥原滋, 中澤正孝	
47	6/3	10:45-12:15	解剖学実習室	第 16 回	顔面(皮下・浅層)　咀嚼筋(浅層)　肩甲帯　上腕　前腕屈側　手掌	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋	①②③実習
48	6/3	13:30-15:00	解剖学実習室	第 16 回	顔面(皮下・浅層)　咀嚼筋(浅層)　肩甲帯　上腕　前腕屈側　手掌	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋	①②③実習
49	6/3	15:25-16:55	解剖学実習室	第 16 回	顔面(皮下・浅層)　咀嚼筋(浅層)　肩甲帯　上腕　前腕屈側　手掌	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋	①②③実習
50	6/6	10:45-12:15	解剖学実習室	第 17 回	下顎骨　側頭下窩　顔面(深層)・舌　前腕伸側・手背　肘・手関節	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 太田 正人	①②③実習
51	6/6	13:30-15:00	解剖学実習室	第 17 回	下顎骨　側頭下窩　顔面(深層)・舌　前腕伸側・手背　肘・手関節	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 太田 正人	①②③実習
52	6/6	15:25-16:55	解剖学実習室	第 17 回	下顎骨　側頭下窩　顔面(深層)・舌　前腕伸側・手背　肘・手関節	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 太田 正人	①②③実習

53	6/10	10:45–12:15	解剖学実習室	第 18 回	眼窩　外耳・中耳・内耳　下腿伸側・足背　下腿屈側	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋	①②③実習
54	6/10	13:30–15:00	解剖学実習室	第 18 回	眼窩　外耳・中耳・内耳　下腿伸側・足背　下腿屈側	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋	①②③実習
55	6/10	15:25–16:55	解剖学実習室	第 18 回	眼窩　外耳・中耳・内耳　下腿伸側・足背　下腿屈側	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋	①②③実習
56	6/13	10:45–12:15	解剖学実習室	第 19 回	鼻腔・副鼻腔・翼口蓋窩　口蓋　咽頭(外側)　咽頭・喉頭　足底　膝・足関節	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 太田 正人	①②③実習
57	6/13	13:30–15:00	解剖学実習室	第 19 回	鼻腔・副鼻腔・翼口蓋窩　口蓋　咽頭(外側)　咽頭・喉頭　足底　膝・足関節	秋田 恵一, 原田 理代, 山口 久美子, 室生 暁, 藤代 瞳, 吹野 恵子, 二村 昭元, 奥原 滋, 太田 正人	①②③実習

授業方法

人体解剖学実習は、実習を行う前に、人体解剖学用語の予習の程度の確認として、人体解剖学用語試験を行う。ここで人体解剖学用語を理解しておくことで、人体解剖学実習手順や教科書等を読みやすい状態にすることを目指す。

人体解剖実習では、毎回の実習の進度と手順を示した人体解剖実習手順が事前に配布されるので、それにしたがって実習を進める。実習に先立って行われる講義において、重要なポイントや臨床的関連事項などでふれるので、それらを参考にして解剖を進める。

人体解剖実習手順に求められているチェックリストは、解剖が予定通りに行われているかを確認する上での目安となるものである。また、その情報を班員全員で確認することにより、自分の担当しているところ以外についても進度や手順を把握しているか知ることができる。

実習手順を読まないで実習に参加しても、破壊するだけに等しいので、予習をしていないと判断された場合には出席を認めない場合がある。

授業内容

授業スケジュール参照

成績評価の方法

人体解剖学実習の評価は、実習への参加、用語試験(30 分×8 回)ならびに提出されたチェックリストの評価によって行う。

次の 2 つの項目で評価を行う。

1)人体解剖学用語試験

講義・実習を受ける際には、構造の名称がわからないと効率が悪いため、講義・実習の進捗に合わせた範囲の試験を行う。試験範囲は「GRAY'S ANATOMY FOR STUDENT FLASH CARDS 第 5 版」のページ数で試験範囲を示す。ただし、解剖学用語は[日本解剖学会 解剖学用語委員会編「解剖学用語」(改訂 13 版)2007 年 医学書院]に準拠する。FLASH CARDS や本によっては誤りやあいまいなものもあるので、注意してほしい。(間違いのあるところの問題は基本的に使わない)しかしながら慣用的にあいまいに使われている用語については用語試験の採点においてかなり広く認めている。

評価は、日本語:英語=1:3 で採点し、各回 4 割以上、全体で 6 割以上の得点を必須とする。

2)チェックリスト

人体解剖学実習手順にて指示された基準を満たしているかで評価を行う。

人体解剖実習手順の中にあるチェックリストの提出を行う。班ごとの提出となるので、分担した場合も班員全員で確認のうえで提出する。班員をランダムに指名して説明を求めることがあるが、指名された班員が説明できなかった場合は未提出として扱うことになり、程度によっては欠席扱いとなるので注意すること。

成績評価の基準

第一段階として、出席要件を満たすことが必要である。

第二段階として、1)が合格していること。分野内再試験＊による合格も含む。

＊分野内再試験は、7 月 28 日 10 時(予定)より対面で行う。

1:用語試験の総合成績が 6 割未満の学生に対しては全範囲について行う

2:総合成績が 6 割以上でかつ 4 割未満の回がある学生に対してすべての 4 割未満の回の範囲について行う

成績については、

全部の学生は分野内再試験で 6 割以上得点すれば 60%として扱い、

一部の学生は各回 4 割以上得点すれば 40%として再集計する。

なお、正式な定期試験ではなくあくまで分野内試験のため、受験できなかった場合は不合格と判定される。

準備学習等についての具体的な指示

実習の前までに、その範囲についての非同期授業の動画の視聴を行う。人体解剖学実習手順、参考資料、教科書、アトラス、補助教材などを用い、十分に予習をして実習に臨むことを求める。予習が不完全であると、それだけ実習作業に時間がかかり、時間内に終わらないという悪循環になる。解剖実習の進捗が遅くなるのは、多くの場合、わけがわからずに手を動かすということによって起こる。構造について事前に理解し、手順に十分に従うことにより、理解も深まり、進度も速くなる。

毎回手順に書いてある分量をこなさなくては、次回に持ち越すことになってしまうので、次回にその分だけ進捗が遅くなる。

試験の受験資格

4 月 15 日の人体解剖学実習説明会、19 回の人体解剖学実習のすべての参加が必要である。やむを得ない事情で出席できない場合は以下に示す所定の手続きをとること。

人体解剖学実習についての説明は、必ず出席すること。説明内容を理解したことを書面にて確認を行う。この書面が提出されない場合は、人体解剖学実習への参加を認めない。

人体解剖学実習は、班員との共同作業であるので、原則として出席すること。出席は、実習開始時ならびに実習中に確認する。時間内に作業が完了することができるように実習の手順を設定している。そのため、終了時刻を遅らせることはなく、時間厳守とする。作業の中断が長過ぎる場合には、出席の確認を行うことがある。無断欠席や、無断早退があった場合には、出席の要件を満たすとみなされないこ

とがある。同じ班の班員から、作業にほとんど参加しないなどの苦情があった場合には欠席とすることがある。特別に勘案すべき事情がある場合には、その事情とともに、実習開始前までに科目責任者または医学教務係にメール等の日時の記録が残る形で連絡することを必須とする。なお、緊急の場合には電話でもよいが、その後メールはすること。連絡ができないような特別な事情があったとあとで判断された場合には、その限りではない。

これらの十分な対応がおこなわれていたと判断された場合には、事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。

実習の出席要件を満たさない場合は、人体解剖学用語の確認テストを採点対象外(0点)とする。

教科書

グレイ解剖学／Richard L. Drake, A. Wayne Vogl, Adam W.M. Mitchell [原著]；秋田恵一訳:エルゼビア・ジャパン, 2019

人体解剖カラーアトラス(電子書籍付)(原書第 8 版)／佐藤 達夫 翻訳秋田 恵一 翻訳:南江堂, 2021

Gray's Anatomy for Students Flash Cards／Richard Drake, A. Wayne Vogl, Adam W. M. Mitchell:Elsevier, 2023

参考書

体表からわかる人体解剖学：ポケットチューター／Richard Tunstall, S. Ali Mirjalili [著]； [大川淳ほか訳],Tunstall, Richard,Mirjalili, S. Ali,大川, 淳,秋田, 恵一,:南江堂, 2021

他科目との関連

「人体解剖学」は、「人体構造総論」と密接な関係があるだけでなく、「組織学」や「神経解剖学」といった、他の解剖学の科目とも密接な関係にある。また、1 年生の「医学導入(MIC)」とくにその中の「症候学導入」とも関連が深く、その時には十分理解出来なかった症候のメカニズムを確認する機会とすることが必要である。　臨床的な事項との関連は、意識しないとなかなか気付くことができない。講義中に提示する症例や、教科書「グレイ解剖学」の臨床的事項や臨床症例等を活用し、様々なところで関連を考えながら学んでいただきたい。実習中に、講義で提示された症例について班内で議論するなど、関連を考えながら、実習を進めるようにすることが求められる。

履修上の注意事項

解剖学を学ぶということは、解剖学用語を暗記することがゴールではない。人体解剖学も、人体発生学と同様にストーリーで理解することが必要である。何が重要なのかということについては、講義で折に触れて述べているはずなので、意識して理解するように努めていただきたい。　解剖実習体については、十分に敬意を払って接すること。人体解剖実習手順などに従わず、解剖学的な根拠なしに実習を進めようとすることは、死体損壊となることがあるので、十分に気を付けておこなうこと。　人体解剖実習手順、参考資料等、教材は全て著作物であり、著作権の問題があるので、受講登録者以外に公開することを禁ずる。　実習室内にスマートフォンやカメラ等の持ち込みを固く禁ずる。解剖実習に関することを SNS 等に書き込みした場合には、厳しく処分を行う。

備考

実習手順、参考資料等、教材は全て著作物であり、著作権の関係上、外部に流出することのないように十分に気を付けること。

2024 年度のコース評価を受けて:
最終回の単語テストの範囲が広すぎたという指摘があり、見直した。

連絡先(メールアドレス)

秋田　恵一:akita.fana@tmd.ac.jp
藤代　瞳:fujishiro.aps@tmd.ac.jp
山口　久美子:yamaguchi.fana@tmd.ac.jp
原田　理代:原田　理代:harada.fana@tmd.ac.jp
室生　暁:muro.fana@tmd.ac.jp

オフィスアワー

秋田　恵一:メール等でアポイントメントを取ること。
山口　久美子:メール等でアポイントメントを取ること。
原田　理代:原田　理代:メール等でアポイントメントを取ること。
室生　暁:メール等でアポイントメントを取ること

時間割番号	011022				
科目名	薬理学			科目名	薬理学
担当教員					
開講時期	2025 年度前期	開講時期	2025 年度前期	開講時期	2025 年度前期

2025 年 4 月現在準備中

2025 年 5 月以降掲載予定

生化学

時間割番号	011360				
科目名	生化学			**科目 ID**	
担当教員	大石　由美子[OISHI Yumiko]				
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	2	**単位数**	2
実務経験のある教員による授業	該当する				

主な講義場所

3 号館 2 階　医学科講義室1での対面講義と遠隔講義(非同期型)を組み合わせて行う

授業の目的、概要等

人体を構成する蛋白、糖、脂質、核酸などの合成、分解の過程を理解し、その破たんと各種疾病の病態の関係を理解することが目的です。

授業の到達目標

(1)糖、脂質、アミノ酸、核酸、金属、ビタミン、エネルギー代謝の概要を説明できる
(2)それらの破たんがどのような病気につながるかを、自らの言葉で説明できる

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-01-02)27,28,29,30,31,32,33,34,35,36
PS-01-04)07,08,09,10,11,12
PS-02-14)06

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[II-4-B]実習実験を実施して結果を得ることができる
[II-5-B]実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-17-A]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-19-B]情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-1-B]疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	7/4	08:50-10:20	医学科講義室1	代謝総論	代謝総論、酵素について説明する	大石 由美子	【到達目標】(1),(2) 【学習方法】対面講義
2	7/4	10:45-12:15	医学科講義室1	糖代謝	糖の消化、吸収、解糖系	大石 由美子	【到達目標】(1),(2) 【学習方法】対面講義
3	7/4	13:30-15:00	医学科講義室1	糖代謝	糖新生、TCA 回路、ペントースリン酸回路	大石 由美子	【到達目標】(1),(2) 【学習方法】対面講義
4	7/8	13:30-15:00	医学科講義室1	糖代謝	グリコーゲン代謝、グルコース以外の糖の代謝、多糖類	大石 由美子	【到達目標】(1),(2) 【学習方法】対面講義
5	7/11	13:30-15:00	医学科講義室1	脂質代謝	脂肪酸合成、分解、ケトン体、コレステロール代謝	栗木 麻央	【到達目標】(1),(2) 【学習方法】対面講義
6	7/11	15:25-16:55	医学科講義室1	脂質代謝	リン脂質、糖脂質、リポ蛋白、脂質代謝の遺伝子制御	栗木 麻央	【到達目標】(1),(2) 【学習方法】対面講義
7	7/15	08:50-10:20	医学科講義室1	アミノ酸代謝	窒素代謝、尿素回路	小池 博之	【到達目標】(1),(2) 【学習方法】対面講義
8	7/15	10:45-12:15	医学科講義室1	アミノ酸代謝	炭素骨格の代謝、生理活性物質	小池 博之	【到達目標】(1),(2) 【学習方法】対面講義
9	7/22	08:50-10:20	遠隔授業(非同期型)	プリン・ピリミジン代謝	プリンとピリミジンの合成、分解	大石 由美子	【到達目標】(1),(2) 【学習方法】非同期ビデオ
10	7/22	10:45-12:15	遠隔授業(非同期型)	プリン・ピリミジン代謝	プリン・ピリミジン代謝に関係する薬剤	大石 由美子	【到達目標】(1),(2) 【学習方法】非同期ビデオ
11	7/22	13:30-15:00	遠隔授業(非同期型)	エネルギー代謝	電子伝達系、栄養センサー	大石 由美子	【到達目標】(1),(2) 【学習方法】非同期ビデオ
12	7/23	08:50-10:20	遠隔授業(非同期型)	エネルギー代謝	栄養学的側面を論じる	大石 由美子	【到達目標】(1),(2) 【学習方法】非同期ビデオ
13	7/23	10:45-12:15	遠隔授業(非同期型)	金属代謝	ポルフィリン代謝、鉄代謝	大石 由美子	【到達目標】(1),(2) 【学習方法】非同期ビデオ
14	7/25	08:50-10:20	遠隔授業(非同期型)	ビタミン	水溶性ビタミン	大石 由美子	【到達目標】(1),(2) 【学習方法】非同期ビデオ
15	7/25	10:45-12:15	遠隔授業(非同期型)	ビタミン	脂溶性ビタミン	大石 由美子	【到達目標】(1),(2) 【学習方法】非同期ビデオ
16	8/25	10:45-12:15	医学科講義室1	生化学試験		大石 由美子	

授業方法

対面講義と非同期ビデオを組み合わせて実施します。なお、パワーポイントのスライドはあくまで参考にすぎません。標準的な教科書を参照し、書き込みなどしながら受講すると効率がよいと思います。受講直後に間を置かずに該当箇所を通読すると内容が腑に落ちて理解が深まると思います。

授業内容

時間割を参照してください。標準的な生化学教科書の項目に沿っています。授業の進み具合によっては、時間割とずれが生じる可能性があります。

成績評価の方法

筆記試験で行います。

成績評価の基準

100 点満点の試験において 60 点以上をとった場合に合格とします。

準備学習等についての具体的な指示

標準的な生化学の教科書を一冊、所持し、授業の進行に合わせて読了してください。生化学の講義の範囲でなくても医学科学生が知っていて然るべきと思われることは授業中に指摘します。その部分について知識が欠けていると気づいた場合は、自主的に勉強してください。

試験の受験資格

対面講義への出席を基本とします。不定期に出席をチェックすることがあります。
不正行為などがなければ、受験資格ありと判定します。

教科書

イラストレイテッドハーパー・生化学／Rodwell, Victor W,Bender, David A,Botham, Kathleen M,清水, 孝雄, 1947−,Victor W.Rodwell, David A.Bender, Kathleen M.Botham, Peter J.Kennelly, P.Anthony Weil [著],清水孝雄 監訳:丸善出版, 2016.11

ストライヤー生化学 第8版／Jeremy M.Berg, John L.Tymoczko, Lubert Stryer 著,入村達郎, 岡山博人, 清水孝雄 監訳:東京化学同人, 2018

イラストレイテッド生化学／Abali, Emine Ercikan,Cline, Susan D,Franklin, David S,Viselli, Susan,石崎, 泰樹, 1955−,丸山, 敬, 1957−,Emine Ercikan Abali, Susan D.Cline, David S.Franklin, Susan M.Viselli [著],石崎泰樹, 丸山敬 監訳,石崎泰樹 [ほか] [訳]:丸善出版, 2023.11

Essential 細胞生物学／Alberts, Bruce,Hopkin, Karen,Johnson, Alexander D,Morgan, David Owen, 1958−,Raff, Martin C,Roberts, K. (Keith),Walter, Peter,中村, 桂子, 1936−,松原, 謙一, 1934−,楠, 佳之, 1942−,水島, 昇, 1966−,BRUCE ALBERTS, KAREN HOPKIN, ALEXANDER JOHNSON, DAVID MORGAN, MARTIN RA:南江堂, 2021.7

シンプル生化学／林, 典夫, 1936−,広野, 治子, 1932−,野口, 正人,五十嵐, 和彦,林典夫, 廣野治子 監修,野口正人, 五十嵐和彦 編集:南江堂, 2014.3

付記)翻訳教科書は残念ながら値段が高価ですので、最新版でなく1 版古いものを中古本として購入するのでも結構です。

参考書

すべての診療科で役立つ栄養学と食事・栄養療法／曽根博仁 編集,曽根, 博仁, 1965−,:羊土社, 2019

他科目との関連

内科学との関係は深いです。生理学、組織学、薬理学とも重なりがあります。 学内では著明な研究者を講師とするセミナーが頻回に開催されます。「大学院特別講義」と表示されている場合が多いですが、学部学生のうちから積極的に聴講し、基礎・臨床を問わず医学の最先端の話題に触れることを強く推奨します。

履修上の注意事項

授業を聴くだけでなく、成書を読んでください。上記のように生理学、組織学、薬理学などの基礎系科目について十分な知識があることを前提として講義します。ですから、その部分に不足があると感じたならば、自学自習して補ってください。

連絡先(メールアドレス)

大石 由美子:oishi.yumiko@tmd.ac.jp

オフィスアワー

大石 由美子:事前にメールアドレスまでご連絡をお願いいたします

時間割番号	011027				
科目名	分子遺伝学			**科目ID**	
担当教員	淺原 弘嗣, 千葉 朋希, 松島 隆英, 栗本 遼太, 田中 敏博[ASAHARA Hiroshi, CHIBA Tomoki, MATSUSHIMA Takahide, KURIMOTO Ryota, TANAKA Toshihiro]				
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	2	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業	該当する				

英文名:Molecular Genetics

主な講義場所

3 号館 2 階　医学科講義室1での対面講義をメインとする

授業の到達目標

(1)世界的に注目されている医学および健康に関する主たるトピックについて、議論できる
(2)科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
(3)医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
(4)疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-01-01)01,02,03,04,05,06,07,08,09,10,11
PS-01-02)02,03,04,05,08,09,11,15,27,28,29,30,32
PS-01-04)01,02,03,04

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-17-A]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-19-B]情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-1-B]疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員	到達目標・学習方

						法・その他
1	7/3	13:30–15:00	医学科講義室１	ゲノム編集と医学への応用	松島　隆英	【到達目標】(1)-(4) 【学習方法】対面講義 【その他】各回の確認テストによる重要事項の確認
2	7/3	15:25–16:55	医学科講義室１	RNA ワールド		【到達目標】(1)-(4) 【学習方法】対面講義 【その他】各回の確認テストによる重要事項の確認
3	7/10	13:30–15:00	医学科講義室１	DNA 損傷とがん個別化医療	栗本　遼太	【到達目標】(1)-(4) 【学習方法】対面講義 【その他】各回の確認テストによる重要事項の確認
4	7/10	15:25–16:55	医学科講義室１	染色体とヒトゲノムの進化	千葉　朋希	【到達目標】(1)-(4) 【学習方法】対面講義 【その他】各回の確認テストによる重要事項の確認
5	7/15	13:30–15:00	医学科講義室１	遺伝子発現制御	淺原　弘嗣	【到達目標】(1)-(4) 【学習方法】対面講義 【その他】各回の確認テストによる重要事項の確認
6	7/15	15:25–16:55	医学科講義室１	シグナル伝達、幹細胞	淺原　弘嗣	【到達目標】(1)-(4) 【学習方法】対面講義 【その他】各回の確認テストによる重要事項の確認
7	7/24	13:30–15:00	医学科講義室１	ゲノムと医療	田中　敏博	【到達目標】(1)-(4) 【学習方法】対面講義 【その他】各回の確認テストによる重要事項の確認
8	7/24	15:25–16:55	医学科講義室１	遺伝子工学、医学におけるオミックス解析	千葉　朋希	【到達目標】(1)-(4) 【学習方法】対面講義 【その他】各回の確認テストによる重要事項の確認

9	8/29	10:45-12:15	医学科講義室1	分子遺伝学試験	松島　隆英	【到達目標】(1)-(4)	

授業方法

下記の教科書・参考書を用いて予習・復習をする。

1. 講義：対面講義及び模型を使用したアクティブラーニングを行う（詳細は備考を参照）

各回の確認テストによる重要事項の確認を 8 月 8 日（金）までに回答すること

2. 試験：科目終了時に科目修了試験を実施する（教室に集合して試験用紙を用いて行う）

授業内容

全 8 回の講義で分子遺伝学における基礎的な事項及び最新のトピックスについて講義を行う。

事前に教科書を用いて自己学習により予習する。

また、各回の講義終了時に、webclass を用いて全参加学生を対象とした確認テストを実施する。8 月 8 日（金）までに回答すること。

最終日に試験を実施する。

成績評価の方法

以下の項目を反映して成績評価を行う。

1. 各回の確認テストへの参加（基準 B: 8 回中 6 回以上）
2. 科目修了試験（基準 B: 100 点中 60 点以上）

成績評価の基準

上記 1, 2 の基準 B 以上を満たしていることを基準 B とする。

B 以上の基準については科目修了試験の点数を反映することとする。

準備学習等についての具体的な指示

基本的な遺伝子、分子生物学の知識（高校生の生物レベル）は各自、簡単な本を選び自習しておくことが望ましい

試験の受験資格

試験問題は授業の中から出題しますので WebClass に掲載の講義スライドで自習を行い

各回の講義終了時に実施する確認テストでは 8 月 8 日（金）までに 4 分の 3 以上回答してください。

教科書

Molecular biology of the cell／Bruce Alberts, Alexander Johnson, Julian Lewis, David Morgan, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter,with problems by John Wilson, Tim Hunt,Johnson, Alexander D,Lewis, Julian, 1946-2014,Morgan, David Owen, 1958-,Wilson, John, 1944-,Hunt, Tim, 1943-：Garland Science, Taylor and Francis Group, 2015

Essential 細胞生物学／中村桂子, 松原謙一 監訳,Bruce Alberts, Dennis Bray, Karen Hopkin, Alexander Johnson, Julian Lewis, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter 著,中村, 桂子, 1936-,松原, 謙一, 1934-,Alberts, Bruce,Bray, Dennis,Hopkin, Karen,：南江堂, 2016

ヒトの分子遺伝学 第 5 版／戸田達史・井上 聡・松本直通：メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2021-10

参考書

よくわかる分子生物学の基本としくみ／井出利憲 著,井出, 利憲, 1943-,：秀和システム, 2015

他科目との関連

授業内容は生化学、生理学、組織学、薬理学、発生学との重なりがあります。

備考

アクティブラーニングの内容

・各回の確認テストによる重要事項の確認

・確認テストの実施による基礎的事項・重要事項・科目修了試験対象項目の確認

・分子模型を用いたグループワーク

昨年のコース評価を受けて今年度はグループワークを増やし、授業項目の入替を行った。

参照ホームページ

http://www.tmdusystemsbiomedicine.com/

（東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 システム発生・再生医学分野）

連絡先（メールアドレス）

淺原　弘嗣:asahara.syst@tmd.ac.jp

田中　敏博:ttana.brc@tmd.ac.jp

オフィスアワー

淺原　弘嗣:事前に下記アドレスまでご連絡をお願いいたします。

田中　敏博:毎週火曜日 11:00-13:00 M&D タワー8 階　疾患バイオリソースセンター教授室・教員室

時間割番号	011029				
科目名	神経解剖学			**科目ID**	
担当教員	寺田　純雄[TERADA Sumio]				
開講時期	2025 年度通年	**対象年次**	2		
実務経験のある教員による授業	該当する				

英文名：Neuroanatomy

主な講義場所

対面講義とする。

授業の目的、概要等

「神経解剖学」は「神経解剖学実習」と一体の科目です。関連する知識を整理しつつ、ヒト神経系の肉眼標本、組織標本を直接観察し、神経系の構造を深く理解することを目的としています。講義と実習を繰り返しつつ、少しずつその全体像に迫っていきます。用語や三次元的な位置関係の理解に当初は戸惑うことも多いと思いますが、その理解は今後学ぶ様々な科目を学ぶための前提となります。

授業の到達目標

科目履修を通じて身に着けることが期待される能力（到達目標）は以下の通り。

1) 神経系の構造をその機能と関連付けて理解し、適切な専門用語を使用して的確に記述すること。

2) 実習を通じて生命倫理と規範の順守を実践し、バランスのとれた良識を形成すること。

3) 人体の正常機能と疾患、更には最新の神経科学を理解する基礎を確立すること。

4) 実習経験にもとづく思考、教員や同僚との議論、実習経過の記録や報告を通じて、問題の発見、提起からその解決に至る過程に含まれる科学的な方法論を体得すること。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PR-01-02)02

PR-03-01)02

GE-01-05)01

RE-01-01)01,02

RE-01-02)01

PS-01-01)01,02,03,04,05,08,09,10

PS-01-02)01,02,03,04,05,07,08,09,10,11,12,13,15,16,17,18,19,20,23,24,26,29,33,36

PS-01-04)02,05,06,13,14

PS-02-17)01

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	7/1	08:50-10:20	医学科講義室 1	マクロ（1）	イントロダクション、神経系の発生総論	寺田　純雄	1), 3)　対面講義（双方向授業）
2	7/1	10:45-12:15	医学科講義室 1	マクロ（1）	脳の概観, 髄膜と血管, 脳神経の観察	寺田　純雄	1), 3)　対面講義（双方向授業）
3	7/14	08:50-10:20	医学科講義室 1	ミクロ（1）	脊髄の組織学（1）	寺田　純雄	1), 3)　対面講義（双方向授業）
4	7/14	10:45-12:15	医学科講義室 1	ミクロ（1）	脊髄の組織学（2）	寺田　純雄	1), 3)　対面講義（双方向授業）
5	9/1	08:50-10:20	医学科講義室 1	ミクロ（2）・（3）	延髄, 橋の組織学	寺田　純雄	1), 3)　対面講義（双方向授業）
6	9/1	10:45-12:15	医学科講	ミクロ（2）・（3）	中脳の組織学	寺田　純雄	1), 3)　対面講義

			義室1				(双方向授業)
7	9/8	08:50-10:20	医学科講義室1	マクロ(3)	小脳の皮質区分と小脳核, 線維結合の観察	寺田 純雄	1), 3) 対面講義(双方向授業)
8	9/8	10:45-12:15	医学科講義室1	ミクロ(4)	小脳の組織学(1)	寺田 純雄	1), 3) 対面講義(双方向授業)
9	9/8	13:30-15:00	医学科講義室1	ミクロ(4)	小脳の組織学(2)	寺田 純雄	1), 3) 対面講義(双方向授業)
10	9/16	08:50-10:20	医学科講義室1	マクロ(4)	大脳の半切, 大脳皮質(区分), 第三脳室, 視床下部の観察	寺田 純雄	1), 3) 対面講義(双方向授業)
11	9/16	10:45-12:15	医学科講義室1	マクロ(5)	島皮質, 皮質における連合・交連・投射線維, 視放線, 内包, 視床, 基底核等の観察	寺田 純雄	1), 3) 対面講義(双方向授業)
12	9/22	08:50-10:20	医学科講義室1	ミクロ(5)	大脳皮質の組織学, 代表的な神経伝導路のまとめ(1)	寺田 純雄	1), 3) 対面講義(双方向授業)
13	9/22	10:45-12:15	医学科講義室1	ミクロ(5)	大脳皮質の組織学, 代表的な神経伝導路のまとめ(2)	寺田 純雄	1), 3) 対面講義(双方向授業)
14	9/29	08:50-10:20	医学科講義室1	ミクロ(6)	辺縁系と海馬の組織学	寺田 純雄	1), 3) 対面講義(双方向授業)
15	9/29	10:45-12:15	医学科講義室1	ミクロ(6)	視覚伝導路	寺田 純雄	1), 3) 対面講義(双方向授業)
16	10/6	08:50-10:20	医学科講義室1	特別講義	形態学研究概論	寺田 純雄	1), 3) 対面講義(双方向授業)
17	10/6	10:45-12:15	医学科講義室1	特別講義	顕微測光法	寺田 純雄	1), 3) 対面講義(双方向授業)
18	10/8	08:50-10:20	医学科講義室1	マクロ(7)	大脳基底核	寺田 純雄	1), 3) 対面講義(双方向授業)
19	10/8	10:45-12:15	医学科講義室1	マクロ(7)	大脳のスライス標本の観察、まとめ	寺田 純雄	1), 3) 対面講義(双方向授業)
20	10/14	10:45-12:15	医学科講義室1	試験	神経解剖学試験	寺田 純雄	

授業方法

「神経解剖学」、「神経解剖学実習」は、実習講義・実習と特別講義から構成されます。各回の実習に先立って 1 から 2 コマ程度の実習講義を行います。実習では脊髄を除き、まず肉眼解剖学的観察を行い、その直後の時間枠で同じ場所の組織標本を鏡検します。また、実習講義だけでは十分に説明できない話題を取り上げる為、オンライン視聴教材を使用します。講義は原則として双方向授業形式で行います。最終回にはグループワークと課題発表を予定しています。授業・実習中を通じて質問を歓迎します。

授業内容

実習講義により説明を加えつつ、肉眼解剖、組織解剖の順で実習を行います。構造の比較的単純な脊髄から観察を開始し、脳幹、小脳、大脳の順で進めます。別途、実習講義の内容を補足したり、実習講義としては説明の難しい話題を取り上げたりするため、オンライン視聴教材を使用します。また形態学関連の研究の最前線を紹介する時間を設けます。

成績評価の方法

実習出席とスケッチ、筆記試験、場合により試問、レポートをあわせて行います。「神経解剖学(講義)」と「神経解剖学実習」は一体として評価します。実習では実物を見て重要な構造物(実習書に記載されているもの、講義で説明のあったもの)が同定できていること、筆記試験では関連する事項について理解できていることが評価の基準になります。

成績評価の基準

実習スケッチと筆記試験(記述式を主体とする)の評価の割合は 3 対 5 として合算し、成績を判定します。実習の出席状況やスケッチの評価が悪く、筆記試験で実習資料に掲載の参考課題に十分答えられる水準にないと判定される場合には不合格となります。

準備学習等についての具体的な指示

実習前に、事前に配布するマニュアルの該当箇所(実習の手順を記載したもの)と講義資料に目を通し、アトラスや参考書を利用して観察すべき構造物の名称と場所(特にマニュアル中、太字で記載されているもの)について下調べを済ませておいて下さい。各回の実習講義

の際には必ずマニュアルと講義資料を持参して下さい。実習では必要に応じて肉眼解剖標本と組織標本を比較し、標本のオリエンテーション（周辺部との位置関係）の理解に努めることをすすめます。肉眼解剖用の解剖用具は一般の肉眼解剖用に使用したものを再利用し、白衣、前掛け、マスク、ゴム手袋などを適宜使用して下さい。肉眼、組織解剖実習ともに標本のスケッチを課題としますので、A4 版無地ノート（ルーズリーフ等バラバラになるものは不可）を持参して下さい。各回の実習終了後に教員から検印を受け、提出願います。筆記具は特定しませんが、組織解剖の際は特に青色系統の色鉛筆を持参すると便利です。スケッチは実習後の復習に役立つように各自考えながら描くことをすすめます。

試験の受験資格

正当な理由なく実習を欠席した者は試験の受験を認めない。実習出席は実習ノート提出と内容チェックにより確認する。実習は献体された方々の御厚意をもとに用意された貴重な機会であり、真摯な姿勢で取り組むこと。正当な理由のある欠席の場合は、医学教務係宛に正当性を証明する届出を提出し、事後の対応につき科目責任者に相談すること。

教科書

特に指定しません。以下のリストを参考に自分にあうものを選んでください。

（リストに載っているもの以外でも構いません。よい解剖学の教科書は一生もので、かつ教科書にじっくり目を通す時間は学生時代を逃すとなかなか期待できません。高価でも後々の使用に耐える、記述のしっかりした教科書をおすすめします。）

参考書

分冊解剖学アトラス／W.KAHLE, M.Frotscher [著],平田幸男 訳.:文光堂, 2011

神経解剖学 : Core text／カーペンター [著],嶋井和世, 出浦滋之 監訳.:廣川書店, 1996

脳解剖学／万年甫, 原一之 共著,:南江堂, 1994

神経解剖学／岩堀修明 著,:金芳堂, 1998

神経解剖学講義ノート : カラー図解／寺島俊雄 著,:金芳堂, 2011

図説中枢神経系／Rudolf Nieuwenhuys [ほか]著,水野昇 [ほか]訳.:医学書院, 1991

ヒトの脳:神経解剖学・組織学アトラス／平田幸男 著,:文光堂, 2006

脳の分子生物学／Zach W.Hall [著],吉本智信, 石崎泰樹 監訳.:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 1996

参考書 9. The Human Brain and Spinal Cord, 2nd ed., L. Heimer, Springer-Verlag, 1995

参考書 10. The Human Brain: An Introduction to its Functional Anatomy, 7th ed., John Nolte, Mosby, 2020

参考書 11. The Human Nervous System, 3rd ed., J. K. Mai & G. Paxinos (Ed.), Academic Press, 2011

参考書 12. Neuroscience: Exploring the Brain, Enhanced Edtion, 4th ed., M. F. Bear et al., Lippincott Williams & Wilkins, 2020

参考書 13. Neuroscience, 6th ed., D. Purves et al., Sinauer, 2018

参考書 14. Principles of Neural Science, E. R. Kandel et al., 6th ed., McGraw Hill, 2021

参考書 15. Essentials of Neural Science and Behavior, E. R. Kandel et al., Appleton & Lange, 1995

参考書 16. Fundamental Neuroscience, L. R. Squire et al., 4th ed., Academic Press, 2012

参考書 17. Histology of the Nervous System of Man and Vertebrates, Two-Volume Set, S. R. Cajal, Oxford, 1994

参考書 18. The Fine Structure of the Nervous System, A. Peters et al., 3rd ed., Oxford U. P., 1991

参考書 19. GRAY'S ANATOMY, L. H. Bannister et al., Churchill Livingstone, 1995

他科目との関連

神経系の関与する基礎、臨床系科目と広く関連します。

履修上の注意事項

科目の上では別れていますが、「神経解剖学」は「神経解剖学実習」と密接不可分であり、評価は両者を総合して行います。特に実習は、知識や解答そのものよりもむしろこれらに至る過程を学ぶ時間として重視します。献体された方々の御厚意をもとに用意された貴重な機会であることを忘れないように。

備考

神経解剖学の特徴のひとつはその階層性と全体性です。つまり、ある回の講義・実習はそれ以前の講義・実習での説明事項の（一定の）理解を前提として進みますが、一通り全体の勉強を終えないと個々の事項の意義が完全には理解できません。我慢して勉強を続けると、最初から積み上げていった知識が最後の実習時に閉じた環となって完結し、最終的に視界の開ける思いがするはずです。また自学自習が困難な科目なので、教員の説明を聞いて、不明点について質問を重ねつつ、地道に実習に取り組むことを強くすすめます。学習効果をあげるための学生からの有益な提案については歓迎します。

参照ホームページ

最近は解剖学関係でも有用な画像やテキストをネット上で公開している例が増えてきましたが、定評ある教科書を越える出来栄えのところは数少なく、あくまで教科書の二次的資料として位置付けられるのが現況です。また、神経解剖学習時に 3D モデルの概念図は有用ですが、実習時に参考になる様な詳細なものは十分な普及をみません。幾つか実習講義中に補助的に使用する予定ですが、神経系の三

次元的概念は実物をみて理解するのが最も早道です。

(1) 東京都医学研・脳神経病理データベース

http://pathologycenter.jp/index.html

(2) 解剖学電子教科書

https://www.actioforma.net/kokikawa/academic/

(3) Atlas of Microscopic Anatomy: A Functional Approach: Companion to Histology and Neuroanatomy

http://www.anatomyatlases.org/MicroscopicAnatomy/MicroscopicAnatomy.shtml

(4) Digital Anatomist Interactive Atlases

http://da.si.washington.edu/da.html

(5) Homo sapiens dissecatus

http://www.drjastrow.de/HSDprofE.html

(6) The Whole Brain Atlas

http://www.med.harvard.edu/AANLIB/home.html

(7) Neuroanatomy Video Lab: Brain Dissections

https://neurologicexam.med.utah.edu/adult/html/brain-dissections.html

(8) The Human Brain

http://www.thehumanbrain.info/

(ドイツ語だが関連サイトの http://teaching.thehumanbrain.info/も参考になる。)

(9) Brainmaps.org

http://brainmaps.org/index.php

(10) Allen Brain Atlas

http://www.brain-map.org/

(11) Mouse connectome project

http://www.mouseconnectome.org/

(*) 神経機能形態学分野ホームページ

http://www.tmd.ac.jp/cgi-bin/nana/index.cgi

連絡先(メールアドレス)

寺田　純雄:terada.nana@tmd.ac.jp

オフィスアワー

寺田　純雄:特に定めませんが、面会希望の際はメールにより事前に相談願います。

時間割番号	011030			
科目名	神経解剖学実習		**科目ID**	
担当教員	寺田　純雄, 川岸　将彦, 齊藤　健太, 佐藤　啓介[TERADA Sumio, KAWAGISHI Masahiko, SAITO Kenta, SATO Keisuke]			
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	2	
実務経験のある教員による授業	該当する			

英文名:Neuroanatomy

授業の目的、概要等

「神経解剖学」は「神経解剖学実習」と一体の科目です。関連する知識を整理しつつ、ヒト神経系の肉眼標本、組織標本を直接観察し、神経系の構造を深く理解することを目的としています。講義と実習を繰り返しつつ、少しずつその全体像に迫っていきます。用語や三次元的な位置関係の理解に当初は戸惑うことも多いと思いますが、その理解は今後学ぶ様々な科目を学ぶための前提となります。

授業の到達目標

科目履修を通じて身に着けることが期待される能力(到達目標)は以下の通り。

①神経系の構造をその機能と関連付けて理解し、適切な専門用語を使用して的確に記述すること。

②実習を通じて生命倫理と規範の順守を実践し、バランスのとれた良識を形成すること。

③人体の正常機能と疾患、更には最新の神経科学を理解する基礎を確立すること。

④実習経験にもとづく思考、教員や同僚との議論、実習経過の記録や報告を通じて、問題の発見、提起からその解決に至る過程に含まれる科学的な方法論を体得すること。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PR-01-02)02

PR-02-03)02

PR-03-01)02

RE-01-01)01,02

PS-01-01)01,02,03,04

PS-01-02)03,07,08,09,10,11,12,13,16,17,18,23,26

PS-02-17)01

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	7/7	13:30-15:00	解剖学実習室	マクロ(1)	マクロ実習1　脳の概観, 髄膜と血管, 脳神経	寺田　純雄, 川岸　将彦, 齊藤　健太, 佐藤　啓介	1), 2), 3), 4)　実習
2	7/18	08:50-10:20	解剖学実習室, 医学科講義室 1	マクロ(2)	マクロ実習2　脳幹・小脳の分離, 菱形窩(第四脳室), 脳幹スライス標本(集合は講義室、その後実習室へ移動)	寺田　純雄, 川岸　将彦, 齊藤　健太, 佐藤　啓介	1), 2), 3), 4)　実習　演習
3	9/5	13:30-15:00	4 階学生実習室	ミクロ(1)	ミクロ実習1　脊髄・脳幹	寺田　純雄, 川岸　将彦, 齊藤　健太, 佐藤　啓介	1), 2), 3), 4)　実習
4	9/12	13:30-15:00	解剖学実習室	マクロ(3)	マクロ実習3　小脳	寺田　純雄, 川岸　将彦, 齊藤　健太,	1), 2), 3), 4)　実習

						佐藤 啓介	
5	9/19	08:50–10:20	解剖学実習室, 医学科講義室1	マクロ(4)・マクロ(5)	マクロ実習4 大脳の半切, 大脳皮質(区分)、マクロ実習5 島皮質, 皮質における連合・交連・投射線維, 視放線, 内包, 視床, 基底核等(集合は講義室、その後実習室へ移動)	寺田 純雄, 川岸 将彦, 齊藤 健太, 佐藤 啓介	1), 2), 3), 4) 実習
6	9/26	08:50–10:20	解剖学実習室, 医学科講義室1	マクロ(6)	マクロ実習6 側脳室, 海馬と脳弓, 扁桃体, 視床, 基底核等(集合は講義室、その後実習室へ移動)	寺田 純雄, 川岸 将彦, 齊藤 健太, 佐藤 啓介	1), 2), 3), 4) 実習
7	10/3	13:30–15:00	4階学生実習室	ミクロ(2)	ミクロ実習2 小脳 中心前回と後回 海馬・視覚野	寺田 純雄, 川岸 将彦, 齊藤 健太, 佐藤 啓介	1), 2), 3), 4) 実習
8	10/10	13:30–15:00	解剖学実習室	マクロ(7)	マクロ実習7 大脳のスライス標本	寺田 純雄, 川岸 将彦, 齊藤 健太, 佐藤 啓介	1), 2), 3), 4) 実習

授業方法

「神経解剖学」、「神経解剖学実習」は、実習講義・実習と特別講義から構成されます。各回の実習に先立って 1 から 2 コマ程度の実習講義を行います。実習では脊髄を除き、まず肉眼解剖学的観察を行い、その直後の時間枠で同じ場所の組織標本を鏡検します。また、実習講義だけでは十分に説明できない話題を取り上げる為、オンライン視聴教材を使用します。講義は原則として双方向授業形式で行います。最終回にはグループワークと課題発表を予定しています。授業・実習中を通じて質問を歓迎します。

授業内容

実習講義により説明を加えつつ、肉眼解剖、組織解剖の順で実習を行います。構造の比較的単純な脊髄から観察を開始し、脳幹、小脳、大脳の順で進めます。別途、実習講義の内容を補足したり、実習講義としては説明の難しい話題を取り上げたりするため、特別講義を行います。また形態学関連の研究の最前線を紹介する時間を設けます。

成績評価の方法

実習出席とスケッチ、筆記試験、場合により試問、レポートをあわせて行います。「神経解剖学(講義)」と「神経解剖学実習」は一体として評価します。実習では実物を見て重要な構造物(実習書に記載されているもの、講義で説明のあったもの)が同定できていること、筆記試験では関連する事項について理解できていることが評価の基準になります。

成績評価の基準

実習スケッチと筆記試験(記述式を主体とする)の評価の割合は 3 対 5 として合算し、成績を判定します。実習の出席状況やスケッチの評価が悪く、筆記試験で実習資料に掲載の参考課題に十分答えられる水準にないと判定される場合には不合格となります。

準備学習等についての具体的な指示

実習前に、事前に配布するマニュアルの該当箇所(実習の手順を記載したもの)と講義資料に目を通し、アトラスや参考書を利用して観察すべき構造物の名称と場所(特にマニュアル中、太字で記載されているもの)について下調べを済ませておいて下さい。各回の実習講義の際には必ずマニュアルと講義資料を持参して下さい。実習では必要に応じて肉眼解剖標本と組織標本を比較し、標本のオリエンテーション(周辺部との位置関係)の理解に努めることをすすめます。肉眼解剖用の解剖用具は一般の肉眼解剖用に使用したものを再利用し、白衣、前掛け、マスク、ゴム手袋などを適宜使用して下さい。肉眼、組織解剖実習ともに標本のスケッチを課題としますので、A4 版無地ノート(ルーズリーフ等バラバラになるものは不可)を持参して下さい。各回の実習終了後に教員から検印を受け、提出願います。筆記具は特定しませんが、組織解剖の際は特に青色系統の色鉛筆を持参すると便利です。スケッチは実習後の復習に役立つように各自考えながら描くことをすすめます。

試験の受験資格

正当な理由なく実習を欠席した者は試験の受験を認めない。実習出席は実習ノート提出と内容チェックにより確認する。実習は献体された方々の御厚意をもとに用意された貴重な機会であり、真摯な姿勢で取り組むこと。正当な理由のある欠席の場合は、医学教務係宛に正当性を証明する届出を提出し、事後の対応につき科目責任者に相談すること。

教科書

特に指定しません。以下のリストを参考に自分にあうものを選んでください。
(リストに載っているもの以外でも構いません。よい解剖学の教科書は一生もので、かつ教科書にじっくり目を通す時間は学生時代を逃すとなかなか期待できません。高価でも後々の使用に耐える、記述のしっかりした教科書をおすすめします。)

参考書

分冊解剖学アトラス／W.KAHLE, M.Frotscher [著],平田幸男 訳.:文光堂, 2011
神経解剖学 : Core text／カーペンター [著],嶋井和世, 出浦滋之 監訳.:廣川書店, 1996
脳解剖学／万年甫, 原一之 共著,:南江堂, 1994
神経解剖学／岩堀修明 著,:金芳堂, 1998
神経解剖学講義ノート : カラー図解／寺島俊雄 著,:金芳堂, 2011
図説中枢神経系／Rudolf Nieuwenhuys [ほか]著,水野昇 [ほか]訳.:医学書院, 1991
ヒトの脳:神経解剖学・組織学アトラス／平田幸男 著,:文光堂, 2006
脳の分子生物学／Zach W.Hall [著],吉本智信, 石崎泰樹 監訳.:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 1996
参考書 9. The Human Brain and Spinal Cord, 2nd ed., L. Heimer, Springer-Verlag, 1995
参考書 10. The Human Brain: An Introduction to its Functional Anatomy, 7th ed., John Nolte, Mosby, 2020
参考書 11. The Human Nervous System, 3rd ed., J. K. Mai & G. Paxinos (Ed.), Academic Press, 2011
参考書 12. Neuroscience: Exploring the Brain, Enhanced Edtion, 4th ed., M. F. Bear et al., Lippincott Williams & Wilkins, 2020
参考書 13. Neuroscience, 6th ed., D. Purves et al., Sinauer, 2018
参考書 14. Principles of Neural Science, E. R. Kandel et al., 6th ed., McGraw Hill, 2021
参考書 15. Essentials of Neural Science and Behavior, E. R. Kandel et al., Appleton & Lange, 1995
参考書 16. Fundamental Neuroscience, L. R. Squire et al., 4th ed., Academic Press, 2012
参考書 17. Histology of the Nervous System of Man and Vertebrates, Two-Volume Set, S. R. Cajal, Oxford, 1994
参考書 18. The Fine Structure of the Nervous System, A. Peters et al., 3rd ed., Oxford U. P., 1991
参考書 19. GRAY'S ANATOMY, L. H. Bannister et al., Churchill Livingstone, 1995

他科目との関連

神経系の関与する基礎、臨床系科目と広く関連します。

履修上の注意事項

科目の上では別れていますが、「神経解剖学」は「神経解剖学実習」と密接不可分であり、評価は両者を総合して行います。特に実習は、知識や解答そのものよりもむしろこれらに至る過程を学ぶ時間として重視します。献体された方々の御厚意をもとに用意された貴重な機会であることを忘れないように。

備考

神経解剖学の特徴のひとつはその階層性と全体性です。つまり、ある回の講義・実習はそれ以前の講義・実習での説明事項の(一定の)理解を前提として進みますが、一通り全体の勉強を終えないと個々の事項の意義が完全には理解できません。我慢して勉強を続けると、最初から積み上げていった知識が最後の実習時に閉じた環となって完結し、最終的に視界の開ける思いがするはずです。また自学自習が困難な科目なので、教員の説明を聞いて、不明点について質問を重ねつつ、地道に実習に取り組むことを強くすすめます。また初回の実習前に、感染予防やデジタル機器の使用制限等につき、注意喚起を行うので、厳守すること。

参照ホームページ

最近は解剖学関係でも有用な画像やテキストをネット上で公開している例が増えてきましたが、定評ある教科書を越える出来栄えのところは数少なく、あくまで教科書の二次的資料として位置付けられるのが現況です。また、神経解剖学習時に 3D モデルの概念図は有用ですが、実習時に参考になる様な詳細なものは十分な普及をみません。幾つか実習講義中に補助的に使用する予定ですが、神経系の三次元的概念は実物をみて理解するのが最も早道です。

(1) 東京都医学研・脳神経病理データベース
http://pathologycenter.jp/index.html
(2) 解剖学電子教科書
http://www.anatomy.med.keio.ac.jp/funatoka/anatomy.html
(3) Atlas of Microscopic Anatomy: A Functional Approach: Companion to Histology and Neuroanatomy
http://www.anatomyatlases.org/MicroscopicAnatomy/MicroscopicAnatomy.shtml
(4) Digital Anatomist Interactive Atlases
http://www9.biostr.washington.edu/da.html
(5) Homo sapiens dissecatus
http://www.uni-mainz.de/FB/Medizin/Anatomie/workshop/vishuman/Eready.html

(6) The Whole Brain Atlas

http://www.med.harvard.edu/AANLIB/home.html

(7) Neuroanatomy Video Lab: Brain Dissections

https://neurologicexam.med.utah.edu/adult/html/brain-dissections.html

(8) The Human Brain

http://www.thehumanbrain.info/

(ドイツ語だが関連サイトの http://teaching.thehumanbrain.info/も参考になる。)

(9) Brainmaps.org

http://brainmaps.org/index.php

(10) Allen Brain Atlas

http://www.brain-map.org/

(11) Mouse connectome project

http://www.mouseconnectome.org/

(*) 神経機能形態学分野ホームページ

http://www.tmd.ac.jp/cgi-bin/nana/index.cgi

連絡先(メールアドレス)

寺田　純雄:terada.nana@tmd.ac.jp

オフィスアワー

寺田　純雄:特に定めませんが、面会希望の際はメールにより事前に相談願います。

時間割番号	011031				
科目名	免疫学			**科目 ID**	
担当教員	佐藤　荘[SATO Takashi]				
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	2	**単位数**	2
実務経験のある教員による授業					

主な講義場所

基本的には対面による講義を実施するが、場合によっては zoom による講義を実施する。

対面講義の場合は、以下の場所にて実施する。
3号館 医学科講義室 1

授業の目的、概要等

日常生活の中で、私たちの体は、外からは細菌やウイルスなど病原体の侵入、内においてはがん細胞の出現と、絶えず自己免疫の危険にさらされている。しかし実際には、体のなかに免疫システムが備わっているおかげで私たちの生命が守られているのだと実感することはまずない。本科目では、免疫システムがどのような基盤から成り立ち、全体としてどのように制御されて、私たちの身体を守ってくれているのかを基礎研究の観点から理解する。

授業の到達目標

「免疫学」では、まず前半では免疫システムの特徴を把握し、ミエロイド系細胞やリンパ球系細胞をはじめとする免疫担当細胞がどのような相互作用を経て外来異物に対する免疫反応を引きおこすのか、どのような機構によって免疫反応が統御されているのかを分子レベル、細胞レベル、個体レベルで理解することをめざす。後半では、アレルギー疾患や自己免疫疾患、免疫不全などの医療の現場で問題となる病態における免疫システムの関与と治療上の意義を理解する。一方、医療技術の進歩にともない、臓器(細胞)移植や再生医療、抗体医薬など本来免疫システムが想定していなかったような人為的な新しい治療方法が出現してきており、これらの機序や課題についても理解する必要がある。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-01-01)09
PS-01-02)04,05,12,19,21
PS-01-03)02,08,09,11,12,13,15,18,19,20,21,22,23,24,25,26,27,28,29,30
PS-01-04)15,16,17

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	10/24	08:50-10:20	医学科講義室 1	1. 序論「免疫系の役割」	佐藤　荘	双方向性講義。講義内で解決しなかった質問は WebClass のリアクションペーパーにおいて授業日時の 2 日後まで受け付ける。重要な質問・回答は WebClass で共有する。
2	10/24	10:45-12:15	医学科講義室 1	2. 免疫系を構築する細胞と最近の知見	佐藤　荘	双方向性講義。講義内で解決しなかった質問は

						WebClass のリアクションペーパーにおいて授業日時の 2 日後まで受け付ける。重要な質問・回答は WebClass で共有する。	
3	10/24	13:30–15:00	医学科講義室 1	3. 免疫系における細胞死の基礎と疾患	瀬川 勝盛	双方向性講義。講義内で解決しなかった質問は WebClass のリアクションペーパーにおいて授業日時の 2 日後まで受け付ける。重要な質問・回答は WebClass で共有する。	
4	10/24	15:25–16:55	医学科講義室 1	4. 自己免疫疾患	保田 晋助	双方向性講義。講義内で解決しなかった質問は WebClass のリアクションペーパーにおいて授業日時の 2 日後まで受け付ける。重要な質問・回答は WebClass で共有する。	
5	10/27	08:50–10:20	医学科講義室 1	5. T細胞の種類と機能	小松 紀子	双方向性講義。講義内で解決しなかった質問は WebClass のリアクションペーパーにおいて授業日時の 2 日後まで受け付ける。重要な質問・回答は WebClass で共有する。	
6	10/27	10:45–12:15	医学科講義室 1	6. T細胞の抗原認識と抗原提示、発生と分化	小松 紀子	双方向性講義。講義内で解決しなかった質問は WebClass のリアクションペーパーにおいて授業日時の 2 日後まで受け付ける。重要な質問・回答は	

						WebClass で共有する。
7	10/28	08:50-10:20	医学科講義室 1	7.B細胞の機能と役割	安達 貴弘	双方向性講義。講義内で解決しなかった質問は WebClass のリアクションペーパーにおいて授業日時の 2 日後まで受け付ける。重要な質問・回答は WebClass で共有する。
8	10/28	10:45-12:15	医学科講義室 1	8. B細胞の制御と疾患	安達 貴弘	双方向性講義。講義内で解決しなかった質問は WebClass のリアクションペーパーにおいて授業日時の 2 日後まで受け付ける。重要な質問・回答は WebClass で共有する。
9	10/28	13:30-15:00	医学科講義室 1	9. 自然免疫と獲得免疫の相互作用とサイトカイン	金山 剛士	双方向性講義。講義内で解決しなかった質問は WebClass のリアクションペーパーにおいて授業日時の 2 日後まで受け付ける。重要な質問・回答は WebClass で共有する。
10	10/28	15:25-16:55	医学科講義室 1	10. がんと免疫系の攻防	佐藤 荘, 光井 雄一	双方向性講義。講義内で解決しなかった質問は WebClass のリアクションペーパーにおいて授業日時の 2 日後まで受け付ける。重要な質問・回答は WebClass で共有する。
11	10/29	08:50-10:20	遠隔授業（同期型）	11. 自然リンパ球とその役割	本村 泰隆	双方向性講義。講義内で解決しなかった質問は WebClass のリア

						クションペーパーにおいて授業日時の 2 日後まで受け付ける。重要な質問・回答は WebClass で共有する。
12	10/29	10:45–12:15	遠隔授業（同期型）	12. 呼吸器疾患と免疫	岡本 師	双方向性講義。講義内で解決しなかった質問は WebClass のリアクションペーパーにおいて授業日時の 2 日後まで受け付ける。重要な質問・回答は WebClass で共有する。
13	10/31	08:50–10:20	遠隔授業（同期型）	13. 顆粒球の種類とその機能	三宅 健介	双方向性講義。講義内で解決しなかった質問は WebClass のリアクションペーパーにおいて授業日時の 2 日後まで受け付ける。重要な質問・回答は WebClass で共有する。
14	10/31	10:45–12:15	遠隔授業（同期型）	14. NK細胞の機能と自己非自己識別機構	反町 典子	双方向性講義。講義内で解決しなかった質問は WebClass のリアクションペーパーにおいて授業日時の 2 日後まで受け付ける。重要な質問・回答は WebClass で共有する。
15	11/4	08:50–10:20	医学科講義室 1	15. アレルギー	沖山 奈緒子	双方向性講義。講義内で解決しなかった質問は WebClass のリアクションペーパーにおいて授業日時の 2 日後まで受け付ける。重要な質問・回答は WebClass で共有

						する。
16	11/4	10:45–12:15	医学科講義室1	16. 抗原提示細胞の分化と機能	樗木 俊聡	双方向性講義。講義内で解決しなかった質問はWebClassのリアクションペーパーにおいて授業日時の2日後まで受け付ける。重要な質問・回答はWebClassで共有する。
17	11/5	08:50–10:20	医学科講義室1	17. ビッグデータを用いた免疫系の解析	高地 雄太	双方向性講義。講義内で解決しなかった質問はWebClassのリアクションペーパーにおいて授業日時の2日後まで受け付ける。重要な質問・回答はWebClassで共有する。
18	11/5	10:45–12:15				予備日（自習）
19	11/6	13:30–15:00	医学科講義室1	18. 神経免疫	七田 崇	双方向性講義。講義内で解決しなかった質問はWebClassのリアクションペーパーにおいて授業日時の2日後まで受け付ける。重要な質問・回答はWebClassで共有する。
20	11/20	13:30–15:00	医学科講義室1	19. 免疫学試験	佐藤 荘	

授業方法

基本的には同期型の授業で実施されるが、講師の都合によっては非同期型に変更になることがある。その際には医学部教務係から事前に通知がある。

講義内で質問が生じた場合は、WebClass のリアクションペーパーにおいて授業日時の 2 日後まで受け付ける。重要な質問・回答はWebClass で共有する。優れた質問が授業内容を深める助けとなることが多いので、講義中の質問も随時受け付ける。また、講義資料、教科書等の誤りの指摘が授業の質を高めることにつながるので、十分に活用して欲しい。能動的な学習（アクティブラーニング）を奨励します。

授業内容

授業日程表参照

成績評価の方法

免疫学に関して、試験をおこない評価する（すべて正解で100点）。

また、各授業中に理解度を把握するため適宜小テストや講義内容に関するレポートをおこなうことがある。

成績評価の基準

各試験の得点が 100 点中 60 点以上を合格とし、60 点―69 点を C、70 点―79 点を B、80 点―89 点を A とする。

準備学習等についての具体的な指示

「全体を通してこれまでに学習した解剖学・組織学・薬理学・生化学・分子遺伝学などの基礎知識を復習し、しっかり理解しておくこと。

試験の受験資格

すべての学生が、定期試験ならびに追・再試験を受験する資格をもつ。

特別に勘案すべき事情があるために講義に参加できない場合には、その事情とともに医学部教務係にメールの様に日時の記録が残る形で連絡することを必須とする。なお、緊急の場合には電話でもよいが、その後メールはする事。連絡が出来ないような特別な事情があった後で判断された場合には、その限りではない。これらの十分な対応が行われていたと判断された場合には、事情などに応じて対応を行うこととする。

教科書

1. Immunobiology 9th Edition　2016 年発刊、Garland Science 社(日本語訳が南江堂から「免疫生物学」として出ているが原著第 7 版に基づくもの):免疫教科書の定番
2. Cellular and Molecular Immunology 9th Edition (with Student Consult Online Access)　2017 年発刊、Elsevier 社(日本語訳がエルゼビア・ジャパン社から「分子細胞免疫学」として出ているが原著第9版に基づくもの):免疫教科書の定番
3. The Immune System 4th Edition 2014 年発刊、Garland Science 社(日本語訳がメディカル・サイエンス・インターナショナル社から「エッセンシャル免疫学」として出ている)
4. 医系免疫学 改訂 14 版　2016 年発刊、中外医学社

参考書

1. もっとよくわかる！免疫学(実験医学別冊、著者:河本宏)羊土社
2. 新・現代免疫物語 「抗体医薬」と「自然免疫」の驚異 (ブルーバックス、著者:岸本忠三、中嶋彰)講談社

履修上の注意事項

講義中にスクリーンの撮影をすることを禁止する。レポート等の個人課題について、他の学生のもの及びネット上に公開されているものをそのまま提出するようなことはしないこと。そのような事実が確認された場合には、関係した学生全てを未提出とする。　講義動画、講義資料、参考資料などは著作権の問題があるので、受講登録者以外に公開することを禁ずる。

備考

以前の講義評価コメント内で「定期試験の出題範囲の偏りが見られる」という意見があったので、今年度も定期試験は講義内容から幅広く出題を行う予定である。また例年、再試験の代わりレポートによる評価を行ったが、今年度より再試験もテスト形式を実施する。

連絡先(メールアドレス)

佐藤　荘:satoh.mbch@tmd.ac.jp

時間割番号	011034				
科目名	神経科学・基礎			**科目ID**	
担当教員	礒村 宜和, 平 理一郎, ALAIN ANTONIO RIOS, 川端 政則, 七田 崇, 上阪 直史, 髙橋 英彦, 松崎 政紀, 杉原 泉, 柳澤 琢史, 島崎 秀昭[ISOMURA Yoshikazu, HIRA Riichiro, ALAIN ANTONIO RIOS, KAWABATA Masanori, SHICHITA Takashi, UESAKA Naofumi, TAKAHASHI Hidehiko, SUGIHARA Izumi]				
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	2	**単位数**	3.5
実務経験のある教員による授業	該当する				

神経科学・基礎

授業の目的、概要等

神経科学は、ヒトや動物が生存するために必要な中枢神経系や末梢神経系の仕組みを、分子、細胞、組織、器官、系、個体、社会レベルにわたる階層性を踏まえて理解する学際的な学問である。この神経科学・基礎の授業では、医師や研究者を目指すにあたって、医学・科学の理解に必要な基礎知識を幅広く身につけるとともに、物事を科学的に議論できる力を養うことを目的とする。

授業の到達目標

1. 神経生理学・神経薬理学に関しての科学的理論と方法論を説明できる。
2. 疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な神経生理学・神経薬理学の知識を提示できる。
3. 医学・歯学・健康に関して神経生理学的・神経薬理学な問題提起ができる。
4. 神経生理学・神経薬理学の専門用語(日本語・英語)の理解/表記/発音ができる。
5. 各授業参加者の人格を尊重し、敬意を払うことができる。
6. 授業の時間を厳守し、信頼性を示すことができる。
7. 自ら学習目標を設定し、学習活動に取り組むことができる。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

GE-01-05)01
GE-04-02)03
PS-01-01)02,03
PS-01-02)01,02,03,04,05,06,07,08,09,11,13,14,16,17,18,19,20,26,36
PS-01-03)32

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-2-B]基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[II-4-B]実習実験を実施して結果を得ることができる
[II-5-B]実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-17-A]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる

[Ⅲ-19-B]情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
[Ⅲ-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[Ⅲ-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[Ⅲ-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[Ⅲ-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[Ⅲ-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-1-B]疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	9/2	08:50-10:20	医学科講義室1	神経科学序論	神経科学(神経生理学)の考え方を学習する。eラーニングの学修方法を指示をする。	礒村 宜和	授業の到達目標 1～7(すべて) ※出席必須 本科目では規則正しい生活習慣を心がけ、同期型・非同期型授業ともに出席/視聴に努めること。別途、必ずeラーニングを学修し、期限内に所定の成績を収めておくこと。
2	9/2	10:45-12:15	医学科講義室1	神経細胞とグリア細胞	神経細胞とグリア細胞の種類と役割を学習する。	七田 崇	授業の到達目標 1～7(すべて)
3	9/2	13:30-15:00	医学科講義室1	膜興奮性	神経細胞の静止膜電位と活動電位の仕組みを学習する。	平 理一郎	授業の到達目標 1～7(すべて)
4	9/2	15:25-16:55	医学科講義室1	シナプス伝達	シナプス伝達の仕組みを学習する。学外講師	松崎 政紀	授業の到達目標 1～7(すべて) ※出欠確認(学外講師)
5	9/3	08:50-10:20	医学科講義室1	感覚機能:体性感覚	感覚系の種類と役割を理解し、体性感覚の仕組みを学習する。	礒村 宜和	授業の到達目標 1～7(すべて)
6	9/3	10:45-12:15	医学科講義室1	感覚機能:視覚	視覚の仕組みを学習する。	川端 政則	授業の到達目標 1～7(すべて)
7	9/4	13:30-15:00	遠隔授業(非同期型)	脳の発達と可塑性	脳の発達と可塑性の仕組みを学習する。	上阪 直史	授業の到達目標 1～7(すべて)
8	9/4	15:25-16:55	医学科講義室1	感覚機能:聴覚・平衡感覚・嗅覚・味覚	聴覚・平衡感覚・嗅覚・味覚の仕組みを学習する。	川端 政則	授業の到達目標 1～7(すべて)
9	9/9	08:50-10:20	医学科講義室1	運動機能:筋・脊髄・大脳皮質	筋・脊髄・大脳皮質による運動機能の仕組みを学習する。	平 理一郎	授業の到達目標 1～7(すべて)
10	9/9	10:45-12:15	医学科講義室1	運動機能:姿勢・歩行・眼球運動	姿勢・歩行・眼球運動の仕組みを学習する。	平 理一郎	授業の到達目標 1～7(すべて)
11	9/9	13:30-15:00	医学科講義室1	運動機能:大脳基底核・視床	大脳基底核・視床による運動機能の仕組みを学習する。英語授業	ALAIN ANTONIO RIOS	授業の到達目標 1～7(すべて)
12	9/9	15:25-16:55	医学科講	自律神経機能:中枢・末	自律神経機能の仕組みを学習す	礒村 宜和	授業の到達目標

			義室1	梢制御	る。		1～7(すべて)
13	9/10	08:50-10:20	医学科講義室1	運動機能:小脳	小脳による運動機能の仕組みを学習する。学外講師	杉原 泉	授業の到達目標1～7(すべて) ※出欠確認(学外講師)
14	9/10	10:45-12:15	医学科講義室1	生命維持と本能的欲求	生命維持と本条的欲求の仕組みを学習する。	礒村 宜和	授業の到達目標1～7(すべて)
15	9/11	13:30-15:00	医学科講義室1	情動と動機づけ	情動と動機づけの仕組みを学習する。	礒村 宜和	授業の到達目標1～7(すべて)
16	9/11	15:25-16:55	医学科講義室1	記憶と学習	記憶と学習の仕組みを学習する。	礒村 宜和	授業の到達目標1～7(すべて)
17	9/17	08:50-10:20	医学科講義室1	神経薬理学序論	神経科学(神経薬理学)の考え方を学習する。		授業の到達目標1～7(すべて)
18	9/17	10:45-12:15	医学科講義室1	末梢神経薬理	末梢神経薬理学を体系的に学習する。		授業の到達目標1～7(すべて)
19	9/18	13:30-15:00	医学科講義室1	中枢神経薬理	中枢神経薬理学を体系的に学習する。	七田 崇	授業の到達目標1～7(すべて)
20	9/18	15:25-16:55	医学科講義室1	高次脳機能	ヒトの高次脳機能の仕組みと臨床との接点を学習する。	髙橋 英彦	授業の到達目標1～7(すべて)
21	9/24	08:50-10:20	医学科講義室1	精神神経薬理	精神神経薬理学を体系的に学習する。	七田 崇	授業の到達目標1～7(すべて)
22	9/24	10:45-12:15	医学科講義室1	応用脳科学	神経科学の応用的研究の発展を学習する。学外講師	栁澤 琢史	授業の到達目標1～7(すべて) ※出欠確認(学外講師)
23	9/25	13:30-15:00	医学科講義室1	睡眠覚醒・概日リズム	睡眠覚醒・概日リズムの仕組みを学習する。英語授業	ALAIN ANTONIO RIOS	授業の到達目標1～7(すべて)
24	9/25	15:25-16:55	医学科講義室1	理論脳科学	神経科学の理論的研究の概念を学習する。学外講師	島崎 秀昭	授業の到達目標1～7(すべて) ※出欠確認(学外講師)
25	10/1	08:50-10:20	医学科講義室1	運動機能:大脳基底核・視床(補足)	大脳基底核・視床による運動機能の仕組みを学習する。日本語補足	礒村 宜和	授業の到達目標1～7(すべて)
26	10/1	10:45-12:15	医学科講義室1	アクティブ・ラーニング	神経科学の課題を主体的に考えて解決する(グループ討論)。	礒村 宜和, 平 理一郎, ALAIN ANTONIO RIOS, 川端 政則	授業の到達目標1～7(すべて) ※参加必須
27	10/2	13:30-15:00	医学科講義室1	神経科学の最前線	神経科学の研究例に触れて神経科学の発展性と方向性を理解する。	礒村 宜和	授業の到達目標1～7(すべて)
28	10/17	10:45-12:15	医学科講義室1	試験 (生理・薬理)	授業で学んだ内容を中心に出題する。選択肢および記述式問題を予定している。	礒村 宜和	授業の到達目標1～7(すべて)

授業方法

同期型授業(対面式またはZoomオンライン)または非同期型授業(動画視聴など)の混成とし、本学の生理学(細胞生理学分野)の教員を中心に、他の基礎系や臨床系の教員、さらに学外から招聘する学識豊かな非常勤講師数名が担当する。一部の授業では、応用力を養うためにアクティブ・ラーニング(対面式グループ討論の予定)を導入する。また、国際感覚を養うために英語による授業も一部導入する。授業後の質問や問い合わせは、各授業の担当教員または科目責任者にメールで連絡すること。

各講義とは別に、神経生理学の理解に必要な基礎的な知識を自己学習で身に付けるために、所定の期限までの e ラーニング(エルゼビア・ジャパン社 ClinicalKey student(CKSJ)生理学)の受講を義務付ける。e ラーニングは自宅学習として取り組み、先取りして進めても構わない。e ラーニングの受講は神経科学・基礎試験の受験資格の一つとし(前述)、成績評価にも使用する(後述)。e ラーニングの問題や解説の内容に関する疑問点は、オンライン解説や教科書(推奨:ガイトン生理学※)を参考にして自ら解決すること(質問は受け付けない)。受講方法に関する問い合わせは科目責任者まで、システムに関する問い合わせはエルゼビア・ジャパン社の担当窓口まで連絡すること。

授業内容

授業では、脳の各種細胞、シナプス伝達、発達と可塑性、感覚・運動機能、自律神経、生命維持、情動・動機づけ、記憶・学習、高次機能、薬理機序、さらに応用脳科学と理論脳科学などの基礎系の神経科学を中心に扱う。一部に順番が前後したり、重複したりする項目がある。従って、教育カリキュラムに従うのみではなく、教科書や e ラーニング教材を活用して自主的に学習して、断片的ではない体系化された基礎医学を各自構築されたい。神経生理学の教科書には生理学と同じくガイトン生理学、標準生理学、ギャノング生理学を挙げる。いずれも優れた生理学の教科書であり、購入または図書館の貸出利用を勧める。特にガイトン生理学(原著第 13 版 2018 年訳書)は、e ラーニングと連携して学習できる利点がある。神経科学や神経薬理学の教科書も下に挙げておく。

成績評価の方法

筆記試験(1)の得点(配点 80 点)と e ラーニング(2)の最高得点(配点 20 点)の合計(100 点満点)で評価する。合格の基準を 60 点(評価「B」)とし、高得点には「A」以上の評価を与える。なお、学外講師の授業の出欠状況および各授業中に実施した小テストや質疑応答の回答状況は科目責任者に集約され、上記(1)(2)の評価に総合的に加点または減点することがある(最大 5 点まで)。※ただし、本学医学科以外の履修生に対してはレポート等により個別に成績評価する。

1) 筆記試験(本試験 2025 年 10 月 17 日予定)

神経科学・基礎の本試験の受験資格 1)2)を有する履修生に対し、基本的に同期型および非同期型の授業内容および関連事項を中心として、選択肢および記述式問題として出題する(80 点)。従って、毎回の授業に出席し、教員が示す重要な項目を良く理解することが肝要である。一部は英語で出題する(日本語による授業の範囲を含む)。

2) e ラーニング(2025 年 10 月 10 日 17 時締切)

e ラーニング(エルゼビア・ジャパン社 ClinicalKey student(CKSJ)生理学)を指定通りに受講し、すべての回(全 4 回)で所定の正解率(60%)を上回る成績に到達していることが前提である。e ラーニングの問題は基礎レベルの選択肢問題(日本語)を中心とし、各自に異なる問題が毎回 10 問程度ずつ出題される(総計 40 問)。本人自らが取り組む限り、教科書や授業ノートを参考にしてもよいし、同一問題あるいは問題を入れ替えた 10 問を再設定して何度でも挑戦してもよい。4 回分の取り組み順も問わない。各回すべてで所定の正解率(60%)を上回ったうえで、各々の最高得点を合計して e ラーニングの取り組みを評価する。評価点は 1 問正解につき 0.5 点を与える。従って、各回の合格点は 5 点満点中の 3 点以上となり、e ラーニング全体の合格点は 12 点から 20 点までの範囲となる。締切日までに所定の成績に達していない場合は、理由の如何にかかわらず(接続不良を含む)、神経科学・基礎の本試験の受験資格を得られないことになるので注意すること。

成績評価の基準

筆記式の本試験(配点 80 点)と e ラーニング(配点 20 点)の合計点(100 点満点)を算出し、合計 60 点を合格(B)の基準点とする。この基準を上回る得点に応じて、(B)より上の評価を与える。ただし、学外講師の授業の出欠状況および授業中の小テスト等の回答状況に基づき、総合的に加点または減点することがある(最大 5 点まで)。追試験の評価には e-ラーニングの実績を含めるが、再試験には含めない。

準備学習等についての具体的な指示

最初の授業で指示する通りに e ラーニングを計画的に受講しておくこと。また、教科書を使って授業の予習や復習をしておくことが望ましい。

試験の受験資格

1)同期型・非同期型授業の受講

同期型／非同期型授業ともに原則として出欠はとらないが、可能な限りの出席／視聴に努めること。ただし、学外講師の授業では出欠をとり、総合的な成績評価に含めることがある。アクティブラーニングを実施する授業では授業開始からの出席を必要とする。やむを得ない理由による場合を除き、アクティブラーニングの欠席者は本試験の受験資格を失うことがある。

※原則として個々の出席回数(視聴履歴)の問い合わせには対応しない。

※大幅な遅刻・早退をしないように規則正しい生活習慣に努め、交通機関の状況やオンライン接続環境の維持に注意を払うこと。

2)e ラーニングの完了

2025 年 10 月 10 日(金)17 時までに、最初の授業で指示する方法で e ラーニング(エルゼビア・ジャパン社 ClinicalKey student(CKSJ)生理学)を自己学習として受講し、全 4 回いずれも所定の正解率を上回る成績に到達していること(成績評価の方法を参照のこと)。各自の受講

状況は、当該システム上で科目責任者が確認することができる。

上記の1）2）の条件を満たすことを、神経科学・基礎の本試験の受験資格とする。不正が発覚した場合、アンプロフェッショナルな行為として懲戒の対象となるため、受験資格の取り消しも含め厳正に対処する。

教科書

ガイトン生理学／Guyton, Arthur C,Hall, John Edward, 1946–,石川, 義弘,岡村, 康司,尾仲, 達史,金子, 猛, 呼吸器内科学,北村, 義浩,藤乗, 嗣泰,ガイトン [原著],John E.Hall 著,石川義弘, 岡村康司, 尾仲達史, 河野憲二 総監訳,金子猛, 北村義浩, 藤乗嗣泰, 松嶋成志 監訳:エルゼビア・ジャパン, 2018.3

標準生理学／本間, 研一, 1946–,大森, 治紀, 1950–,大橋, 俊夫, 1949–,本間研一 監修,大森治紀, 大橋俊夫 総編集:医学書院, 2019.3

カンデル神経科学／Kandel, Eric R., 1929–,Koester, John,Mack, Sarah,Siegelbaum, Steven,宮下, 保司, 1949–,岡野, 栄之,エリック R.カンデル, John D.Koester, Sarah H.Mack, Steven A.Siegelbaum 編,宮下保司 日本語版監修,岡野栄之 [ほか] 監訳:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2022.9

カールソン神経科学テキスト : 脳と行動／Carlson, Neil R,Birkett, Melissa A., 1979–,中村, 克樹, 1963–,Neil R.Carlson, Melissa A.Birkett 著,中村克樹 監訳:丸善出版, 2022.12

参考書

臨床薬理学 : ハーバード大学講義テキスト／Golan, David E,Tashjian, Armen H., 1932–2009,Armstrong, Ehrin J,渡邉, 裕司,David E.Golan, Armen H.Tashjian,Jr., Ehrin J.Armstrong, April W.Armstrong [執筆],渡邉裕司 監訳:丸善出版, 2015.6

必要に応じて参考書を紹介する。

他科目との関連

神経科学・基礎は神経解剖学、生理学、薬理学、生化学と密接に連関しており、神経系の臨床科目（神経内科、精神科、神経外科、耳鼻科、眼科、麻酔科など）とも連関している。また心理学や工学や情報学などとも幅広く関連する学際的な科目である。

履修上の注意事項

対面式授業中は、携帯電話の通話や過度の私語や飲食などを禁ずる。同期型オンライン授業中は、大学の定める受講ルールと端末機器の設定を遵守すること。講義スライド資料の図表類および e ラーニングの問題と解説には著作権の許諾範囲に制限があるものが含まれるので、いかなる媒体を介しても履修者以外に授業資料を公開することを禁ずる。

備考

本学の教育改革と本科目のコース評価に基づき、下記の改善を採り入れた。

・同期型および非同期型の混成授業を可能とした。

・アクティブ・ラーニング授業や英語による授業の実施を明確化した。

・神経科学・基礎の学修期間中に基礎的な知識を効率よく習得してもらうために、2024 年度より e ラーニング（エルゼビア・ジャパン社 Clinical Key student(CKSJ)生理学）を導入した。

・コース評価（コメント含む）を担当教員すべてに周知し、授業スライドや口頭説明などの改善に努めた。

・本試験では、英語による問題数が過大にならないように配慮している（専門用語の訳語付記含む）。

連絡先

細胞生理学分野 教授 礒村 宜和(いそむら よしかず)

M&D タワー17 階南西側(必ず事前に訪問予約をとること)

メール:isomura.phy2@tmd.ac.jp

電話:03-5803-5156（研究室）

連絡先（メールアドレス）

礒村 宜和:isomura.phy2@tmd.c.jp

七田 崇:shichita-tk@cmn.tmd.ac.jp

髙橋 英彦:hidepsyc@tmd.ac.jp

オフィスアワー

礒村 宜和:平日朝10時～夕方6時まで

※授業の内容に関する質問は、各回の担当教員に直接尋ねてください。

※試験・レポートに関することは、なるべく科目責任者（礒村）にまとめて問い合わせ、各担当教員に直接尋ねることは極力避けてください。

七田　崇:毎週月曜日 P.M.2:00-5:00　M&D タワー22F
髙橋　英彦:3 号館　13 階　適宜　調整する

時間割番号	011380				
科目名	感染・基礎			**科目 ID**	
担当教員					
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	2	**単位数**	2
実務経験のある教員による授業					

主な講義場所

講義は対面で実施する。

授業の目的、概要等

病原体総論では微生物の概念と歴史、細菌の分類、構造、染色、代謝、培養について学ぶ。さらに微生物がなぜ宿主に感染病態をきたすのかについて学ぶ。

1. 細菌学

1)総論的に細菌感染、遺伝学、薬物治療について学び、グラム陽性菌とグラム陰性菌に分けて基礎的事項を学ぶ。2)比較的稀な微生物(クラミジア、リケッチア、嫌気性菌、梅毒トレポネーマ)についても学ぶ。3)抗酸菌の基礎的事項についての講義を通して結核、非定型抗酸菌の全体像を把握する。4)真菌に関しても同様に講義で理解する。

2. ウイルス学

1)ウイルス学総論ではウイルスの一般的性状、構造と分類、増殖、遺伝および進化について学ぶ。2)ウイルスの病原性、ウイルスによる発がん、ウイルス感染症に対する検査・予防・治療法について学ぶ。4)病原因子、宿主因子、感染防御機構などについて学ぶ。5)各論ではRNAウイルス、DNAウイルス、レトロウイルス、人獣共通感染症と新興・再興感染症のウイルス、肝炎ウイルス、急性胃腸炎を起こすウイルス、に分けて、ヒトの病原ウイルスについて詳しく学ぶ。

3. プリオン

蛋白性感染因子であるプリオンの性状と病原性プリオンが起こす疾患について学ぶ。

授業の到達目標

微生物とは肉眼で認めることのできない小さな生物の総称である。微生物は分類的に多種にわたり、その中には細菌、真菌、ウイルスなどが含まれるが、このような生物を研究する科学が微生物学であり、それらによって引き起こされる病態が感染症である。医学の進歩により、多くの病原体による疾病の治療やワクチンによる予防が可能になった。しかし近年、薬剤耐性細菌感染症、結核、新型コロナウイルス感染症、エイズ、インフルエンザ、エボラ出血熱などの新興、再興感染症が大きな問題となっている。

各講義内容の理解が下記項目の達成に繋がる。

(1)微生物に関する基礎的知識と感染症の知識を身につける。
(2)微生物の構造、増殖、機能、遺伝、感染伝播に関する原理を理解する。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-01-01)09

PS-01-03)01,02,03,04,05,06,08,09,10,11,12,14,15,16,17,18

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-13-B]医学生としての健康管理（予防接種を含む）の重要性を説明できる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-1-B]疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる
[VI-25-B]患者隔離の必要な感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる
[VI-26-C]針刺し事故、針刺切創等による感染症感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	10/21	08:50-10:20	医学科講義室１	病原体総論	鈴木　敏彦	【到達目標】(1)、(2)　【学習方法】対面講義 【アクティブラーニング】理解度を測るため必要に応じて小テストを実施する。また、質問、コメントを受け付けて回答する。
2	10/21	10:45-12:15	医学科講義室１	細菌学総論	鈴木　敏彦	【到達目標】(1)、(2)　【学習方法】対面講義 【アクティブラーニング】理解度を測るため必要に応じて小テストを実施する。また、質問、コメントを受け付けて回答する。
3	10/22	08:50-10:20	医学科講義室１	細菌遺伝学	芦田　浩	【到達目標】(1)、(2)　【学習方法】対面講義 【アクティブラーニング】理解度を測

						るため必要に応じて小テストを実施する。また、質問、コメントを受け付けて回答する。	
4	10/22	10:45-12:15	医学科講義室1	細菌感染の治療と予防	芦田 浩	【到達目標】(1)、(2) 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニング】理解度を測るため必要に応じて小テストを実施する。また、質問、コメントを受け付けて回答する。	
5	10/27	13:30-15:00	医学科講義室1	グラム陽性および陰性菌各論1	鈴木 敏彦	【到達目標】(1)、(2) 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニング】理解度を測るため必要に応じて小テストを実施する。また、質問、コメントを受け付けて回答する。	
6	10/27	15:25-16:55	医学科講義室1	グラム陽性および陰性菌各論2	鈴木 敏彦	【到達目標】(1)、(2) 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニング】理解度を測るため必要に応じて小テストを実施する。また、質問、コメントを受け付けて回答する。	
7	10/31	13:30-15:00	医学科講義室1	その他の細菌、真菌および放線菌	鈴木 敏彦	【到達目標】(1)、(2) 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニング】理解度を測るため必要に応じて小テストを実施する。また、質問、コメントを受け付けて回答する。	

8	10/31	15:25-16:55	医学科講義室1	ウイルス学総論	白銀　勇太	【到達目標】(1)、(2)　【学習方法】対面講義 【アクティブラーニング】理解度を測るため必要に応じて小テストを実施する。また、質問、コメントを受け付けて回答する。	
9	11/4	13:30-15:00	医学科講義室1	RNA ウイルス(1)	白銀　勇太	【到達目標】(1)、(2)　【学習方法】対面講義 【アクティブラーニング】理解度を測るため必要に応じて小テストを実施する。また、質問、コメントを受け付けて回答する。	
10	11/4	15:25-16:55	医学科講義室1	RNA ウイルス(2)	助川　明香	【到達目標】(1)、(2)　【学習方法】対面講義 【アクティブラーニング】理解度を測るため必要に応じて小テストを実施する。また、質問、コメントを受け付けて回答する。	
11	11/7	13:30-15:00	医学科講義室1	DNA ウイルス	白銀　勇太	【到達目標】(1)、(2)　【学習方法】対面講義 【アクティブラーニング】理解度を測るため必要に応じて小テストを実施する。また、質問、コメントを受け付けて回答する。	
12	11/12	08:50-10:20	医学科講義室1	レトロウイルス	武内　寛明	【到達目標】(1)、(2)　【学習方法】対面講義 【アクティブラーニング】理解度を測るため必要に応	

						じて小テストを実施する。また、質問、コメントを受け付けて回答する。
13	11/12	10:45-12:15	医学科講義室1	人獣共通感染症と新興・再興ウイルス感染症	武内 寛明	【到達目標】(1)、(2) 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニング】理解度を測るため必要に応じて小テストを実施する。また、質問、コメントを受け付けて回答する。
14	11/13	13:30-15:00	医学科講義室1	肝炎ウイルス、急性胃腸炎を起こすウイルス、プリオン	白銀 勇太	【到達目標】(1)、(2) 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニング】理解度を測るため必要に応じて小テストを実施する。また、質問、コメントを受け付けて回答する。
15	11/13	15:25-16:55	医学科講義室1	特別講義 「感染症基礎研究の最前線(前半)」「微生物学から臨床感染症学へ(後半)」	白銀 勇太, 武内 寛明, 具 芳明, 岡本 耕, 田頭 保彰	【到達目標】(1)、(2) 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニング】理解度を測るため必要に応じて小テストを実施する。また、質問、コメントを受け付けて回答する。
16	11/21	10:45-12:15	医学科講義室1	感染・基礎試験	白銀 勇太	【到達目標】(1)、(2) 【学習方法】講義内容、講義資料をもとに学習すること。

授業方法

講義では基本的な事項を中心に、発展的事項まで幅広く解説する。
講義は対面講義で実施する。
質問については、WebClass で受け付けて回答する。

授業内容

授業スケジュール参照。

成績評価の方法

各講義の最後に小テストを実施する。また、講義内容に関して筆答試験で学習成果を問う。試験内容に関しては「授業の到達目標」を参照する。また試験・小テストの 10%程度は英文により出題される。

成績評価の基準

筆答試験の点数(100 点満点)に、小テストによる加点(提出 1 回につき 1 点)をした点数で評価する。合計が 100 点を超えた場合には一律 100 点とする。

準備学習等についての具体的な指示

アップロードされている講義資料および教科書で講義に該当する部分を読み込んで、疑問点等を整理しておくこと。

試験の受験資格

講義は対面にて実施する。講義には必ず出席すること。

各講義の最後に小テストを出題し、Webclass で提出を求める。小テストの提出 1 回につき、筆答試験の点数に1点を加算する。

教科書

標準微生物学／錫谷, 達夫,松本, 哲哉, 1962-,錫谷達夫, 松本哲哉 編集:医学書院, 2024.2

戸田新細菌学／吉田, 眞一, 1949-,柳, 雄介, 1955-,吉開, 泰信, 1952-,吉田眞一, 柳雄介, 吉開泰信 編集:南山堂, 2013.8

微生物学実習提要／東京大学医科学研究所学友会,東京大学医科学研究所学友会 編:丸善, 1998.4

Principles of virology／Flint, S. Jane,Jane Flint, Vincent R. Racaniello, Glenn F. Rall, Theodora Hatziioannou, Anna Marie Skalka:ASM Press, [2020]

Fields virology.／Howley, Peter M.,Knipe, David M. (David Mahan), 1950-,Whelan, Sean P. J.,editors-in-chief, Peter M. Howley, David M. Knipe,volume associate editor, Sean P.J. Whelan,associate editors, Jeffrey I. Cohen, Lynn Enquist, Blossom Damania, Eric O. Freed.:Wolters Kluwer, [2021]

他科目との関連

感染症は医学のほとんどの科目と深い関係をもっている。特に免疫学、公衆衛生学、病理学、衛生学、医動物学、臨床面では内科学、外科学、小児科学、皮膚科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学等と密接な関係がある。

履修上の注意事項

試験終了後、採点結果の個別開示は行わない。また、再試験の結果により評価は確定する。

備考

質問、コメント等がある場合は、Webclass のリアクションペーパーで連絡してください。

時間割番号	011042				
科目名	病理学			**科目ID**	
担当教員					
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	2	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業	該当する				

主な講義場所

講義:3 号館講義室 1 およびオンデマンド

実習:3 号館 4 階 実習室

授業の目的、概要等

本科目は、1週間に講義(一部はオンデマンド)と実習の全てを集中させた「病理総論ブロック」として授業が行われる。病理学総論の4つの大テーマに関連して教官は講義にて網羅的授業を行う。その後、テーマに関連する標本の顕微鏡実習を行う。講義と実習は必要最小限度にとどめてあり、自習時間を利用した、学生自身の十分な自己学習が求められる。

授業の到達目標

1. 炎症、免疫、循環障害、代謝障害の各分野について基本的な概念を理解する。
2. 今まで学んだ組織学や免疫学などの知識との関連を踏まえ理解する。
3. 非腫瘍性疾患における病態・機序を理解する。

病理学とは、ヒトの疾病の理論を扱う学問であり、主に細胞・組織・臓器の形態像に基づき、各種疾患の原因・進行・転帰を追究していく。ヒトの疾患は大きく腫瘍性疾患と非腫瘍性疾患に分類されるが、腫瘍についての学習は「腫瘍学」に譲り、「病理学総論」においては非腫瘍性疾患に焦点を絞って、主に炎症、免疫、循環障害、代謝障害の概念・病態生理について学ぶ。「腫瘍学」および「病理学総論」にて得られる知識は、全ての疾患を理解するための“縦糸”となり、その後に予定されている授業で学ぶ各臓器の個々の疾患に関する各論的知識を“横糸”として組み合わせることで、ヒトの“病気”の姿が明確に織り成される。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-01-02)10,11,12,13,15
PS-01-03)18,28,29
PS-01-04)05,06,13,14,15,16,17
PS-03-05)02,14

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-2-B]基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[II-4-B]実習実験を実施して結果を得ることができる
[II-5-B]実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる

[Ⅲ-17-A]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
[Ⅲ-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[Ⅲ-19-B]情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
[Ⅲ-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[Ⅲ-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[Ⅲ-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[Ⅲ-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[Ⅲ-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-1-B]疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	12/2	08:50-10:20	医学科講義室1	病理総論概説①	大橋 健一, 加藤 祐己	到達目標 1,2,3
2	12/2	10:45-12:15	医学科講義室1	オンデマンド (炎症)	大西 威一郎	到達目標 1,2,3
3	12/2	13:30-15:00	医学科講義室1	オンデマンド (免疫)	加藤 祐己	到達目標 1,2,3
4	12/3	08:50-10:20	医学科講義室1	病理総論概説②	大橋 健一	到達目標 1,2,3
5	12/3	10:45-12:15	医学科講義室1	オンデマンド(細胞障害)	山本 浩平	到達目標 1,2,3
6	12/4	13:30-15:00	医学科講義室1	オンデマンド(循環障害)	木脇 祐子	到達目標 1,2,3
7	12/5	08:50-10:20	4階学生実習室	実習(炎症)　実習(免疫)	山本 浩平	顕微鏡を用いた実習　到達目標 1,2,3　炎症、免疫について学習したことを踏まえ、病理組織標本を観察して確認する。
8	12/5	10:45-12:15	4階学生実習室	実習(細胞障害)　実習(循環疾患)	加藤 祐己	顕微鏡を用いた実習　到達目標 1,2,3　細胞障害、循環障害について学習したことを踏まえ、病理組織標本を観察して確認する。
9	2/5	10:45-12:15	医学科講義室1	病理学試験	加藤 祐己	

授業方法

本ブロックでは対面およびオンデマンドのハイブリッド形式で授業で行い、オンデマンド授業の受講については各自空いている時間に行ってもらう。
火曜～水曜の講義①、②は対面で行い、概説について教官が講義を行う。
オンデマンドの講義については病理学総論の4つの大テーマそれぞれについての各論に関して教官が講義を行う。

金曜の午前は実習室において、関連する病理組織の検鏡実習を行い、最後に解説を行う。実習時は実習室に教官がいるので、質問等あれば直接聞いてもらう。なお、金曜午後については実習をじっくり見たい人のための予備の時間とする(出欠は取らない)。

授業内容

〇授業のキーワード

細胞障害、循環障害、代謝障害、炎症、免疫病理

授業スケジュール参照

成績評価の方法

筆記試験(80 分)を行う。試験範囲は、講義・実習のすべての内容である。

成績評価の基準

細胞障害、循環障害、炎症、免疫各 25 点ずつ、計 100 点の筆記試験で評価を行い、さらに講義、実習の出席点(最大 20 点相当)も加点する。

60 点以上の場合を合格とする。

準備学習等についての具体的な指示

オンデマンド授業を実習開始日までに受講する。

オンデマンドおよび実習資料はブロック週の前の週末頃に提示予定である。

試験の受験資格

講義と実習から構成される。講義は対面 2 コマ+オンデマンド 4 コマの計 6 コマから構成され、オンデマンドに関しては実習の前までに受講する。また、組織実習室にて対面式で実習が 2 コマ行われる。本年度は講義のうち対面 2 コマと、実習 2 コマについては出席を取り、定期試験ならびに追・再試験を受験する資格となる。なお、対面の講義および実習ともに、出席者には 1 コマあたり出席点 5 点を、試験に加算する(5 点 × 対面 2 コマ・実習 2 コマの計最大 20 点)。

構成ユニット

細胞障害、循環障害、炎症、免疫

参考書

(1)Robbins & Cotran Pathologic Basis of Disease 9th ed. W B Saunders Co.

連携ウェブサイトあり。教科書付属のシリアルナンバー登録により、本文・図表の全てをウェブ上で閲覧可能。

(2)ロビンス基礎病理学　廣川書店

1)の簡約版(Robbins Basic Pathology)の旧版の翻訳。

(3)標準病理学　第 5 版　医学書院

編集協力:北川昌伸。

(4)組織病理学アトラス　第 6 版　文光堂

(5)外科病理学　　文光堂

(6)現代の病理学(総論、各論)金原出版

(7)病理学(総論、各論)文光堂

他科目との関連

病理学はヒトの正常形態・機能を基盤として病的状態を学ぶ学問であるから、あらゆる基礎医学・臨床医学と強く関連している。すなわち病理学は、基礎と臨床を結ぶ学際的分野である。

履修上の注意事項

病理学はこれから臨床医学を学ぶ道程の一里塚であり、病理学講義では病気に関する数多くの医学用語に初めて接するところでもある。以後に続く臨床医学の講義に際しては、病理学総論に登場する医学用語の概念や各種病態を正しく把握しているか否かが、その理解度を大きく左右する。　一方、病理学はヒトの病的なことの理論であるから、その基盤は当然、正常状態にある。従って病理学を学習する際には、常に正常状態との対比を忘れてはならない。

備考

昨年度のコース評価アンケートに基づく改善計画

昨年度まで用意されていた学生発表を廃止し、講義の一部をオンデマンド授業とした。それに伴い実習時間を増加させた。さらに、講義、

実習の出席点を新たに設けた。

時間割番号	011044			
科目名	医動物学		**科目 ID**	
担当教員	石野　智子, 新澤　直明, 馬場　みなみ, 中村　ふくみ, 外川　裕人[ISHINO Tomoko, SHINZAWA Naoaki, BABA Minami, Fukumi Nakamura, KEGAWA Yuto]			
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	2	
実務経験のある教員による授業				

英文名:Medical Zoology

主な講義場所

講義室:3号館　医科学講義室 1

対面講義を基本とするが、状況に応じてオンライン講義を実施することがある。

授業の目的、概要等

病原体としての寄生虫はヒト宿主と同様に真核生物であり、寄生虫症は感染症の中でもユニークな疾患である。講義で対象疾患に関するアウトライン(病原体の形態学、生理・生化学、遺伝学、疫学、生活史、臨床所見、病理、診断、治療、予防など)を教授するので、寄生虫及び寄生虫感染症の医学・生物学的知識と臨床に必要な知識や識別能力を学習した上で、平行して実施する実習において実際の病原体と宿主の病理を観察し、医師として必要な総合的な能力を修得することをめざす。講義用の資料を配布するので、それにより講義内容を理解し、単なる知識の獲得だけではなく、疾病流行の背景にある社会文化、人々の行動／生活習慣なども考察し、流行成立に関わる様々な問題、疑問などについて教員と討議を行う。

授業の到達目標

ここに示す各項目は本試験合格レベルである。各項目に関する重要な点は、講義において説明する。また、本年度より講義コマ数が減少したことによる措置として、時間の制限により説明が及ばない部分については参考書1の該当部分を指示する。

(1) 病原体としての寄生虫および宿主との相互作用の生物学的理解と研究能力の修得

・ 寄生虫の形態、生活史、感染経路などの知識が得られる。

・ 寄生虫に特有の感染防御免疫、免疫回避機構および免疫病因論の理解ができる。

(2)臨床寄生虫病学の基本的知識の修得

・ 寄生虫病の診断、治療、予防についての基本的な臨床的知識が備わる。

・ 診断法、治療法、ワクチンを含む予防法開発など今日の医療イノベーションに関する知識が備わる。

・ 渡航者の安全を向上するための感染予防に関する指導能力が備わる。

(3) 寄生虫感染症の社会医学的意義の修得

・感染症予防の基本である病気の知識と行動変容の重要性を理解する。

・生活環境中の寄生虫汚染の実態を学習し、感染のリスク評価を考察する能力が備わる。

・グローバルな感染症としての寄生虫疾患の理解を通じて国際的視野が備わり、検疫行政や渡航医学等の専門性が獲得できる。

・ 熱帯感染症としての寄生虫症を理解し、国際医療協力に必要とされる知識が備わる。

・ 途上国医療に関係する国際機関や NGO の業務のために必要な基礎知識が修得できる。

a)線虫類によって起きる病気について理解する。

b)食品媒介吸虫症及び輸入吸虫症について理解する。

c)組織寄生条虫類によって起きる病気について理解する。

d)消化管寄生原虫類によって起きる病気について理解する。

e)熱帯輸入原虫症によって起きる病気について理解する。

f) 衛生動物によって引き起こされる／媒介される病気について理解する。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-01-01)05
PS-01-03)06,13,14,15,16,17
S0-05-02)01

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[II-4-B]実習実験を実施して結果を得ることができる
[II-5-B]実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-17-A]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-19-B]情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-1-B]疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	11/7	08:50-10:20	医学科講義室1	医動物学総論	医動物学講義の目的、講義の進め方等に関するイントロダクションと医動物学総論	石野　智子	(到達目標)3 (学習方法)対面講義　(その他)全体で議論を行う中でアクティブラーニングを実施する。
2	11/7	10:45-12:15	医学科講義室1	線虫／吸虫1	腸管寄生線虫症(回虫症、鞭虫症、鉤虫症、糞線虫症など)　幼線虫移行症(アニサキス症、旋尾線虫症、広東住血線虫症など)、旋毛虫症　組織寄生線虫症(リンパ系フィラリア症、オンコセルカ症など)吸虫総論:肝吸虫症、横川吸虫症	石野　智子	(到達目標)1、2 (a)　(学習方法)対面講義　(その他)AL:線虫に関する小テスト
3	11/10	08:50-10:20	医学科講義室1	吸虫2	有害異型吸虫症、棘口吸虫症、ウエステルマン肺吸虫症、肝蛭症、住血吸虫症など	外川　裕人	(到達目標)1、2 (b)　(学習方法)対面講義　(その他)AL:吸虫に関

							する小テスト
4	11/10	10:45–12:15	医学科講義室１	条虫	腸管寄生条虫症（日本海裂頭条虫、クジラ複殖門条虫、孤虫症、無鉤条虫、有鉤条虫など）	馬場 みなみ	(到達目標)1、2 (c) (学習方法) 対面講義 (その他)AL:条虫に関する小テスト
5	11/11	08:50–10:20	医学科講義室１	原虫1	原虫総論:消化管寄生アメーバ、自由生活性アメーバなど	新澤 直明	
6	11/11	10:45–12:15	医学科講義室１	原虫2	組織寄生原虫	新澤 直明	(到達目標)1、2 (b, d, e) (学習方法)対面講義 (その他)AL:原虫に関する小テスト
7	11/11	13:30–15:00	医学科講義室１	原虫3	マラリア原虫	石野 智子	(到達目標)1、2 (e) (学習方法) 対面講義 (その他)AL:マラリアに関する小テスト
8	11/14	08:50–10:20	医学科講義室１	衛生動物	マダニ感染症、ハチ刺傷、ヘビ咬傷 蚊、その他昆虫類による感染症	新澤 直明	(到達目標)1、2 (f) (学習方法)対面講義 (その他) AL:衛生動物に関する小テスト
9	11/14	10:45–12:15	医学科講義室１	特別講義	学外講師による臨床症例と関連づけた医動物学講義	中村 ふくみ	(到達目標)2、3 (学習方法)対面講義 (その他) 臨床症例と関連づけてこれまでの知識を整理することで応用できる知識として定着させる。 AL:特別講義に関する小テスト
10	11/28	10:45–12:15	医学科講義室１	医動物学試験	筆答試験	石野 智子, 新澤 直明, 馬場 みなみ, 外川 裕人	

授業方法

各単元ごとに、事前に資料を web class に掲示しておくので、予習をして対面講義に参加すること。また、非同期型遠隔教材を活用して事前学習を行う。対面講義では、特に重要な寄生虫症について、寄生虫の生活環や、診断方法、治療法などについて解説する。不明な点について質問があれば、全体で議論をしながら理解を深める。時間的な制約により説明できない部分は、参考書1の該当部分を指示するので合わせて学習すること。復習として、小テスト等の AL を Webclass 上に準備するので必ず当日中に受験すること。

授業内容

1)各回の講義の資料をあらかじめ提示しておくので、参考書を参照しながら、その対象となる寄生虫に関する生物学、臨床的側面、社会医学的側面などについて総合的に解説する。

2)講義ごとに、10 分程度の小テストを webclass に掲示する。よく理解しながら、小テストにのぞむように。(講義終了時から当日中まで受験可能とする。)

成績評価の方法

記述試験:講義全般のうち、重要事項について簡潔に文章にまとめて説明する記述形式で行われる。多肢選択式問題が出題されることもある。試験は講義において重要であると説明された部分を中心に出題される。内容に関しては「授業の到達目標」を参照する。一方で、単純な記憶問題でない総合的な問も 10%程度出題されうる。英文により出題される問いもある。

成績評価の基準

「成績評価の方法」に示す各項目の成績の合計により評価を行う。試験では講義の到達目標に達しているかを評価し、本試験にて、60%以上の到達が確認された場合を合格とし、評価(B)となる。また、80%を達成した場合、評価は(A)となる。更に 90%を達成した場合は(A+)の評価となる。また、再試験にて合格した場合には評価(C)となる。

準備学習等についての具体的な指示

講義資料は事前に閲覧できるので、講義予定に沿って、事前に内容を把握する事前学習に努め、講義時間中／後には質問など積極的に発言するように準備すること。特に提示された講義内容のキーワードについては参考図書等で確認してから講義に臨むことが必要である。

試験の受験資格

出席管理は実施しないが Webclass 上の小テストの受講回数が7割(5/7)を超えないものは、試験の受験資格を与えない。なお、小テストの受講期間は、各講義の終了後、当日中とする。

教科書

講義資料を Webclass に載せるので、事前学習を行う。

参考書

図説人体寄生虫学／吉田, 幸雄, 1925-,日本寄生虫学会,吉田幸雄 原著,日本寄生虫学会「図説人体寄生虫学」編集委員会 編:南山堂, 2021.3

標準医動物学 第 2 版／石井明,鎮西康雄,太田伸生,ｲｼｲｱｷﾗ,ﾁﾝｾﾞｲﾔｽｵ,ｵｵﾀﾉﾌﾞｵ,:医学書院, 2009-01-06

寄生虫学テキスト／上村清 [ほか] 著,上村, 清,木村, 英作,金子, 明,丸山, 治彦,所, 正治,大槻, 均,:文光堂, 2019

人獣共通感染症／木村哲, 喜田宏編,木村, 哲,喜田, 宏,:医薬ジャーナル社, 2011

寄生虫のはなし : この素晴らしき, 虫だらけの世界／永宗喜三郎 [ほか] 編,永宗, 喜三郎,脇, 司,常盤, 俊大,島野, 智之,:朝倉書店, 2020

Peters' atlas of tropical medicine and parasitology／Nabarro, Laura,Morris-Jones, Stephen,Moore, David A. J.,Laura Nabarro, Stephen Morris-Jones, David A.J. Moore:Elsevier, c2019

医動物学／吉田, 幸雄, 1925-,有薗, 直樹, 1947-,山田, 稔,吉田幸雄, 有薗直樹, 山田稔 著:南山堂, 2023.2

寄生蟲図鑑 : ふしぎな世界の住人たち／大谷, 智通, 1982-,目黒寄生虫館,佐藤, ダイスケ, 1976-,大谷智通 著,目黒寄生虫館 監,佐藤大介絵:講談社, 2018.1

絵でわかる寄生虫の世界／長谷川, 英男,小川, 和夫, 1949-,長谷川英男 著,小川和夫 監修:講談社, 2016.10

寄生虫ビジュアル図鑑 : 危険度・症状で知る人に寄生する生物／濱田, 篤郎, 1955-,濱田篤郎 監修:誠文堂新光社, 2014.11

Medical Parasitology, E.K. Markel (ed), Saunders (2006)

Diagnostic Meical Parasitology, L. S. Gracia, ASN Press (2001)

Manson's Toropical Diseases, P. E. C. Manson-Bahr & D. R. Bell, Baillierre Tindall

Entomology in Human and Animal Health, Harwood & James

Cases in Human Parasitology, Judith S. Heelan, Am Soc Microbiol, (2004)

他科目との関連

医学科2年生の「感染基礎」と相互に補完するので、総合的に学習、理解に努めること。 「医動物学実習」は、本科目で学んだことをもとに、実際に顕微鏡観察などを通じて知識を深めることを目的として実施する。実習開始までに、講義内容を復習しておくこと。

履修上の注意事項

試験終了後、採点結果の個別開示は行わない。また、再試験の結果により評価は確定する。

備考

対面講義を主に実施するが、状況に応じてオンライン講義を取り入れることもある。オンデマンド教材は Webclass 上に掲示するので、事前学習／復習に活用すること。

コース評価を受けて、オンデマンドの教材を webclass 上に掲載し、事前学習を促進する。

連絡先(メールアドレス)

石野 智子:tishino.vip@tmd.ac.jp

オフィスアワー

石野 智子:メールにて事前に連絡ののち、M&D タワーの 16 階 寄生虫学・熱帯医学分野の教授室にて

時間割番号	011045			
科目名	医動物学実習		**科目ID**	
担当教員	石野 智子, 新澤 直明, 馬場 みなみ, 外川 裕人[ISHINO Tomoko, SHINZAWA Naoaki, BABA Minami, KEGAWA Yuto]			
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	2	
実務経験のある教員による授業				
英文名:Medical Zoology				

主な講義場所

対面授業:3号館5階実習室

授業の目的、概要等

講義で対象疾患に関するアウトライン(病原体の形態学、生理・生化学、遺伝学、疫学、生活史、臨床所見、病理、診断、治療、予防など)を教授するので、実習により実際の病原体と宿主の病理を観察することを通じて、寄生虫疾患の理解を深めることが目的である。

実習は医動物学講義の内容を補完するものであり、講義で得た知識を実習で確認することが重要である。実習では永久標本だけではなく、生標本の供覧にも努めるので、"知識"と"実際"を統合して理解するように努める。

授業の到達目標

(1) 病原寄生虫およびベクター生物を肉眼または顕微鏡で観察し、診断と鑑別の能力を修得する。
(2) 寄生虫感染における宿主病変を観察し、その臨床像と発症機序に関する考察ができるようになる。
(3) 寄生虫の保存標本や生鮮標本に接し、診断のために必要な標本取り扱いや試料処理の実際を経験する。
(4) 顕微鏡の取扱、観察方法を修得する。

a)線虫類の寄生虫の虫卵、成虫の形態を習得する。
b)吸虫類及び条虫類の成虫、虫卵の形態を習得する。
c)消化管寄生原虫類の形態を習得する。
d)マラリア原虫の同定を習得する。
e)組織寄生原虫の形態を習得する。
f)衛生動物の形態を習得する。
g)糞便検査法について習得する。

文部科学省 HP 医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-01-01)01,02
PS-01-03)06,13

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学/歯学/健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[II-4-B]実習実験を実施して結果を得ることができる
[II-5-B]実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる

[Ⅲ-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[Ⅲ-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[Ⅲ-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[Ⅲ-17-A]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
[Ⅲ-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[Ⅲ-19-B]情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
[Ⅲ-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[Ⅲ-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[Ⅲ-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[Ⅲ-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[Ⅲ-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-1-B]疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	11/14	13:30-16:55	5階学生実習室	顕微鏡の使い方・線虫類 顕微鏡の使い方・線虫類	実習の説明、顕微鏡の使い方、蠕虫類の糞便内虫卵の観察、組織病変の観察、魚類寄生線虫の観察	石野 智子, 新澤 直明, 外川 裕人, 馬場 みなみ	(到達目標)1、2、3、4(a,b) (学習方法)グループでの実習 (その他)AL:顕微鏡を使った実技実習・討論、魚類寄生線虫の観察
3-6	11/17	08:50-16:55	5階学生実習室	吸虫類・条虫類	蠕虫類の糞便内虫卵の観察、組織病変の観察、糞便検査法の実技	石野 智子, 新澤 直明, 外川 裕人, 馬場 みなみ	(到達目標)1、2、3、4(c,d,e) (学習方法)グループでの実習 (その他)AL:顕微鏡を使った実技実習・討論、糞便検査法の実技
7-10	11/18	08:50-16:55	5階学生実習室	消化器寄生原虫・マラリア原虫・組織寄生原虫・衛生動物学	消化管寄生原虫の観察、組織寄生原虫の永久標本観察、医学上重要な衛生動物の観察	石野 智子, 新澤 直明, 外川 裕人, 馬場 みなみ	(到達目標)1、2、3、4(c,d,e,f) (学習方法)グループでの実習 (その他)AL:顕微鏡を使った実技実習・討論
11-12	11/19	08:50-12:15	5階学生実習室	寄生虫疾患自主学習発表会	グループごとの自主学習発表会	石野 智子, 新澤 直明, 外川 裕人, 馬場 みなみ	(到達目標)1、2、3、4(g) (学習方法)グループでの実習、学習発表会 (その他)AL:グループによる学習発表
13	12/1	10:45-12:15	5階学生実習室	実習試験		石野 智子, 新澤 直明, 外川 裕人,	

						馬場 みなみ	

授業方法

事前に実習書をアップロードするので、実習内容を確認しておくこと。実習に際しては、WebClass 上に実習内容と観察の要点を解説した動画を上げておくので、予習を行い、指示された標本を観察してスケッチを行う。レポートは帰宅後に期日までに、教員の指示通りに提出を行う。非同期型学習として、デモ標本の動画の視聴やバーチャルスライドによる自主学習も併せて行う。

授業内容

様々な寄生虫症に関する、寄生虫標本・病理標本の観察や課題を行い、病態を理解する。実際に糞便検査等を行うことで、実技を習得する。総合討論会にむけて、班ごとに協力して資料を調べ、発表準備、発表を行う。

成績評価の方法

実習で観察した病原寄生虫、ベクター、宿主病変などに関する識別能力を以下の方法により評価する。

(1)毎回提出する課題(レポート)による評価:15%
(2)総合討論会の発表と質疑応答による評価:5%
(3)各回の実習時に観察した実習試験による評価:80%
＊実習に遅刻した場合、また期限までに提出できなかった場合は、レポート評価を減点する。

成績評価の基準

実習試験:実習で使用した標本を顕微鏡下で観察し、寄生虫名など、質問に応じて回答する。全問正解で80点となり、「成績評価」に示すように結果を最終評価の80%として用いる。

レポート:以下の項目を達成した場合が合格基準である。毎回のレポートを5段階で評価する。「成績評価」に示すように結果を最終評価の15%として用いる。
(1)指示された寄生虫あるいは病変をもれなく観察したか。
(2)寄生虫の形態的特徴を理解して観察したか。
(3)講義をふまえ、寄生虫感染による宿主の病態を理解したか。

総合討論会における、発表および質疑応答への積極的な参加が合わせて評価される:5%

試験レポートを合わせた評価で、60%が達成されれば評価(B)となる。また、80%を達成した場合、評価は(A)となる。更に 90%を達成した場合は(A+)の評価となる。また、再試験にて合格した場合には評価(C)となる。

準備学習等についての具体的な指示

実習項目は講義が先行するので、各回の実習項目について講義資料などで事前に知識を整理しておくこと。実習ではただ単に標本を観察するのではなく、病原寄生虫の生活史や感染経路を意識し、病理標本については発症機序を念頭に置きながら、自らの知識を"確認し整理、定着させる"ことに努める。

試験の受験資格

正当な理由なく、実習を欠席した場合は実習試験の受験資格を与えない。

病気などでやむを得ず欠席／遅刻するときは事前あるいは事後に医師の診断書などを事務に提出すること。

教科書

特に指定しない。WebClass 上に実習書を配付しているので、適宜、授業資料、参考書を確認しながら実習を進めること。

参考書

図説人体寄生虫学／吉田, 幸雄, 1925-,日本寄生虫学会,吉田幸雄 原著,日本寄生虫学会「図説人体寄生虫学」編集委員会 編:南山堂, 2021.3
標準医動物学 第 2 版／石井明,鎮西康雄,太田伸生,ｲｼｲｱｷﾗ,ﾁﾝｾﾞｲﾔｽｵ,ｵｵﾀﾉﾌﾞｵ,:医学書院, 2009-01-06
寄生虫学テキスト／上村清 [ほか] 著,上村, 清,木村, 英作,金子, 明,丸山, 治彦,所, 正治,大槻, 均,:文光堂, 2019
Peters' atlas of tropical medicine and parasitology／Nabarro, Laura,Morris-Jones, Stephen,Moore, David A. J.,Laura Nabarro, Stephen Morris-Jones, David A.J. Moore:Elsevier, c2019
医動物学／吉田, 幸雄, 1925-,有薗, 直樹, 1947-,山田, 稔,吉田幸雄, 有薗直樹, 山田稔 著:南山堂, 2023.2

絵でわかる寄生虫の世界／長谷川, 英男,小川, 和夫, 1949-,長谷川英男 著,小川和夫 監修:講談社, 2016.10

寄生虫ビジュアル図鑑 : 危険度・症状で知る人に寄生する生物／濱田, 篤郎, 1955-,濱田篤郎 監修:誠文堂新光社, 2014.11

Medical Parasitology, E.K. Markel (ed), Saunders (2006)

Diagnostic Meical Parasitology, L. S. Gracia, ASN Press (2001)

Manson's Toropical Diseases, P. E. C. Manson-Bahr & D. R. Bell, Baillierre Tindall

Entomology in Human and Animal Health, Harwood & James

履修上の注意事項

(1)実習開始時に全体説明があるので、必ず開始時間に白衣を着て着席していること。実習中は白衣を着用すること。 (2)実習室では飲食・喫煙は厳禁とする。 (3)飲食物を密閉できない状態で実習室に持ち込まない。実習机の上に置かないこと。 標本を立体的に観察し特徴を捉えることが重要なので、必ず顕微鏡を見ながらスケッチをすること。教科書、授業資料の持ち込みを許可する。

備考

コース評価を受けて、実習時間内でスケッチする量を適切に調整し、自主学習できるよう教材を準備する。実習書のアップロードを余裕を持って行う。

実習終了から試験までの時間が短いという声を受けて、試験の時期を遅らせた。

連絡先(メールアドレス)

石野 智子:tishino.vip@tmd.ac.jp

オフィスアワー

石野 智子:メールにて事前に連絡ののち、M&D タワーの 16 階 寄生虫学・熱帯医学分野の教授室にて

時間割番号	011046Z1				
科目名	腫瘍学			**科目 ID**	
担当教員	大橋　健一, 石川　文彦, 山本　くらら[OHASHI Kenichi, ISHIKAWA Fumihiko, YAMAMOTO Kurara]				
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	2	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業					

主な講義場所

非同期型授業、対面講義および対面実習

授業の目的、概要等

がんは今や国民の 2 人に 1 人が罹患する疾患であり、3 人に 1 人はがんにより死亡する。がんの克服は臨床医のみならず、人類にとっての願いである。腫瘍学ブロックでは、腫瘍とは何かという問題に始まり、腫瘍の特徴を、病理学、分子生物学、疫学など、様々視点から基礎的な概説をすることを目的とする。また、講義に加えて、PBL や病理実習といったアクティブラーニングを通して、グループ内で協力して課題に取り組む姿勢を育みつつ、顕微鏡を用いた観察力を涵養することも目的とする。

診断や治療などの臨床的側面などの各論的内容については、この授業科目では取り扱わず、後に臨床各科や臨床実習等で取り扱われる。

授業の到達目標

1) 腫瘍の発生原因・遺伝子変化について理解する。
2) 腫瘍の良性・悪性、上皮性・非上皮性について理解する。
3) 腫瘍の形態・浸潤・進展様式について理解する。
4) 腫瘍の疫学について理解する。
5) 腫瘍マーカーについて理解する。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-01-04)02,03,19,20,21,22,23
PS-03-04)01,06,07

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-2-B]基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[II-4-B]実習実験を実施して結果を得ることができる
[II-5-B]実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-17-A]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-19-B]情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した

学習活動に取り組むことができる
[Ⅲ-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[Ⅲ-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[Ⅲ-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-1-B]疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	12/9	08:50-10:20	医学科講義室1	腫瘍の形態と組織発生および発育・進展	大橋 健一	到達目標 2,3) 学習方法 対面講義
2	12/9	10:45-12:15	医学科講義室1	PBL1	山本 くらら	到達目標 1-5) 学習方法 グループディスカッション、課題抽出、発表　終了時に小テストあり。 ※資料共有のためノートパソコンないし資料閲覧可能なサイズのタブレットを持参のこと。
3	12/9	13:30-15:00	医学科講義室1	がん宿主相互作用	田中 真二	到達目標 1,3) 学習方法 対面講義
4	12/9	15:25-16:55	遠隔授業（非同期型）	発癌原因〈ウイルスと癌〉	倉田 盛人	到達目標 1)　学習方法 非同期型
5	12/9	17:15-18:45	遠隔授業（非同期型）	癌のエピジェネティックス	秋山 好光	到達目標 1) 学習方法 非同期型
6	12/10	08:50-10:20	医学科講義室1	白血病の病態解析と治療戦略	石川 文彦	到達目標 1,4) 学習方法 対面講義
7	12/10	10:45-12:15	医学科講義室1	PBL2	山本 くらら	到達目標 1-5) 学習方法 グループディスカッション、課題抽出、発表　終了時に小テストあり。 ※資料共有のためノートパソコンないし資料閲覧可能なサイズのタブレットを持参のこと。

8	12/10	17:15-18:45	遠隔授業（非同期型）	遺伝性疾患と腫瘍	島田 周	到達目標 1） 学習方法 非同期型
9-10	12/11	13:30-16:55	4階学生実習室	腫瘍の組織形態	大西 威一郎	病理組織観察をします。 到達目標 2,3） 学習方法 対面講義 終了時に小テストあり。
11	12/11	17:15-18:45	遠隔授業（非同期型）	遺伝子変化と癌	波多野 恵	到達目標 1） 学習方法 非同期型
12-13	12/12	08:50-12:15	4階学生実習室	悪性腫瘍の進展	田村 一洋	病理組織観察をします。 到達目標 2,3） 学習方法 対面講義 終了時に小テストあり。
14	12/12	13:30-15:00	医学科講義室1	PBL まとめ	大西 威一郎	到達目標 1-5） 学習方法 グループディスカッション、課題抽出、発表 終了時に小テストあり。 ※資料共有のためノートパソコンないし資料閲覧可能なサイズのタブレットを持参のこと。
15	12/12	15:25-16:55	遠隔授業（非同期型）	腫瘍マーカー	野上 彩子	到達目標 5） 学習方法 非同期型
16	12/12	17:15-18:45	遠隔授業（非同期型）	発癌原因〈放射線と癌〉	吉村 亮一	到達目標 1,4） 学習方法 非同期型
17	2/9	10:45-12:15	医学科講義室1	本試験	山本 くらら	

授業方法

ブロック期間中3回の PBL を軸とし、講義によって腫瘍全般に関わる基礎知識を、また組織実習によって代表的な腫瘍の観察を補完する。

PBL、講義は対面ないしオンラインで行う。実習は、顕微鏡を用いて組織実習室で行う。

PBL と実習は終了時に小テストを行う。

授業日程表に記載されている対面講義のほか、非同期での講義視聴(メールでの質疑応答可)により学習を行う。PBL でのディスカッションや課題発表、実習での顕微鏡観察等のアクティブラーニングが実施される。非同期オンデマンド講義も含め、これらは全て試験範囲内のものとする。

授業内容

授業は、対面、ZOOM 上で同期および非同期で、以下のように行う。

1） PBL(Problem-based learning):ブロック期間中3回実施される。症例シナリオを班内で討論し、課題抽出、課題発表を行う。抽出した課題

は、次回の PBL 開始時に発表を行う。3 回目の PBL 終了時に、シナリオの解説を行う。PBL を軸として、講義によって腫瘍全般に関わる基礎知識を、病理実習によって代表的な腫瘍の観察を補完する。

2)講義:腫瘍学について重要な分野について、各専門分野の教官より重要な点、トピックス等を解説する。

3)病理実習:腫瘍学について、腫瘍細胞の形態像、組織分類、深達度等を、実際の病理標本を用いて観察する。実習にあたっては、自学で進められるよう手引き書を配布する。実習中は、質問や疑問に対しては、教官が個別に対応する。

成績評価の方法

筆答試験の点数(100 点満点)に、小テストによる加点(提出 1 回につき 2 点)をした点数で評価する。合計が 100 点を超えた場合には一律 100 点とする。試験は、授業中に示した内容またはそれと同レベル程度のものを理解し、そのなかで腫瘍学として重要と思われることを説明できることが必要となる。

成績評価の基準

大学の評価基準に基づく。
GPA 制度評価も参考のこと。

評価	GP	目安	評価基準
A＋	4		当該科目の到達目標を期待された水準を超えて達成した(本試験 90 点以上)
A	3.5		当該科目の到達目標を全て達成した（本試験 80 点以上）
B	3.0	（本試験合格レベル）	当該科目の到達目標を概ね達成した（本試験 60 点以上）
C	2.0	（再試験合格レベル）	当該科目の到達目標のうち最低限を達成した
D	1.0	（不合格）	当該科目の到達目標を達成していない
F	0	（評価不能）	到達目標の達成度を評価できない

準備学習等についての具体的な指示

腫瘍学は正常の組織。器官から生じる腫瘍性変化について深く知る学問であり、これを習得するためにはこれまでに学習した解剖学、組織学、生理学等の基礎系分野の知識が必要不可欠である。そのため、これらの知識を再確認したうえで腫瘍学ブロックに取り組むことが望まれる。

試験の受験資格

本試験では、PBL・講義・実習の内容を問うため、本試験受験にあたってはそれぞれ出席し、理解しておくことが前提となるが、出席の有無は問わない。PBL と実習では終了時に小テストを毎回行い、本試験と併せて加点する。

教科書

腫瘍の基礎的な解説はワインバーグの教科書が詳しいが、通読は負担が大きい。仲野徹の教科書は読み物、入門として読み進めてほしい。その他は病理学総論と臨床各科の教科書の腫瘍部分も参考にされたい。

参考書

がんの生物学／ワインバーグ [著],武藤誠, 青木正博 訳,Weinberg, Robert Allan, 1942-,武藤, 誠,青木, 正博, 1962-,:南江堂, 2017
こわいもの知らずの病理学講義／仲野徹 著,仲野, 徹, 1957-,:晶文社, 2017

標準病理学／北川昌伸, 仁木利郎編集 ; 北川昌伸 [ほか] 執筆,北川, 昌伸,仁木, 利郎,坂本, 穆彦,:医学書院, 2015

ロビンス基礎病理学／Vinay Kumar, Abul K. Abbas, Jon C. Aster 原著,Kumar, Vinay,Abbas, Abul K.,Aster, Jon C.,Robbins, Stanley L. (Stanley Leonard),豊國, 伸哉,高橋, 雅英,:エルゼビア・ジャパン, 2018

外科病理学／深山正久, 森永正二郎編集主幹 ; 小田義直 [ほか] 編集,深山, 正久,森永, 正二郎,小田, 義直,坂元, 亨宇,松野, 吉宏,森谷, 卓也,:文光堂, 2020

他科目との関連

病理学、内科学、外科学など腫瘍を扱う基礎・臨床学全般。

備考

PBL, 病理実習を通じてアクティブラーニングが実施される。

時間割番号	011390				
科目名	基礎医学実習			**科目ID**	
担当教員	礒村 宜和, 大石 由美子, 淺原 弘嗣, 田中 真二, 秋山 好光, 佐藤 荘, 白銀 勇太, ALAIN ANTONIO RIOS, 川端 政則, 三枝 弘尚, 小池 博之, 栗本 遼太, 千葉 朋希, 松島 隆英, 島田 周, 波多野 恵, 國吉 佳奈子, 光井 雄一, 武内 寛明, 助川 明香, 平 理一郎[ISOMURA Yoshikazu, OISHI Yumiko, ASAHARA Hiroshi, TANAKA Shinji, AKIYAMA Yoshimitsu, SATO Takashi, SHIROGANE Yuta, ALAIN ANTONIO RIOS, KAWABATA Masanori, SAEGUSA Hironao, KOIKE Hiroyuki, KURIMOTO Ryota, CHIBA Tomoki, MATSUSHIMA Takahide, SHIMADA Shu, HATANO Megumi, KUNIYOSHI Kanako, MITSUI Yuichi, TAKEUCHI Hiroaki, SUKEGAWA Sayaka, HIRA Riichiro]				
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	2	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業	該当する				

基礎医学実習

主な講義場所

集合および実施場所は実習項目により異なる(3号館医学科学生実習室、各担当分野の研究室など)。必ず事前に配布(WebClass に掲載)する実習テキストで集合場所等を確認しておくこと。毎回
(午前・午後別に)、担当教員またはカードタッチにより出欠や遅刻早退を確認する。

授業の目的、概要等

基礎医学の各科目の授業等で学修した基礎知識を実験解析を通じて横断的に再確認するとともに、自らの実験解析の結果から生体の仕組みと働きを科学的に考察し、発表・討論できる力を養う。また、医学研究に必要となる基本的な実験解析の手技と考え方を習得し、医学研究の最前線の現場を実体験する。ヒト検体や実験動物等を対象とする医学研究における倫理的な理念や規則にも理解も深める。

授業の到達目標

基礎医学科目で学習した知識を確認し、医学研究における基本的な実験手技と考え方を習得する。
①医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。
②医学研究における基本的な実験・解析の手技を示すことができる。
③実習で得た実験・解析の結果を解釈することにより、口述および記述にて基礎医学知識を説明できる。
④医学研究に関連する法律、内規、社会的規範を遵守し、研究倫理に配慮することができる。
⑤他者の貢献、価値観、時間を尊重し、専門職としての協調性、信頼性、率先性を示すことができる。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

RE-01-01-02
RE-01-02-01
RE-01-02-02
RE-02-01-01
RE-03-03-01
RE-03-03-03
RE-03-04-01
RE-04-01-02
RE-05-01-01
RE-05-02-02

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-2-B]基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる

[II-4-B]実習実験を実施して結果を得ることができる
[II-5-B]実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-17-A]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-19-B]情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-1-B]疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	12/15	08:50-16:55	5階学生実習室, 6階学生実習室, 共用講義室2, 各研究室	1.基本実習(共通:安全・細胞)-(1)	実習ガイダンスの後に実習グループに分かれて実習を開始する。	礒村 宜和, 平 理一郎, 三枝 弘尚, ALAIN ANTONIO RIOS, 川端 政則, 淺原 弘嗣, 栗本 遼太, 松島 隆英, 千葉 朋希, 田中 真二, 秋山 好光, 波多野 恵, 島田 周, 大石 由美子, 小池 博之, 仁科 博史, 佐藤 荘, 光井 雄一, 國吉 佳奈子, 永田 将司	基礎医学の研究に共通して必要となる実験解析の手技やルールを習得する。(到達目標①～⑤)
5-8	12/16	08:50-16:55	医学科講義室1, 5階学生実習室, 6階学生実習室, 各研究室	1.基本実習(共通:安全・細胞)-(2)／ 2.基本実習(生理学・薬理学)-(1)	生理学:「心電図・筋電図・脳波」／薬理学:「薬理学シミュレーション」	礒村 宜和, 平 理一郎, 三枝 弘尚, ALAIN ANTONIO RIOS, 川端 政則, 淺原 弘嗣,	基礎系各科目(2～4)で必修の実習を通じて基本的概念の理解をより深める。(到達目標①～⑤)

						栗本 遼太, 松島 隆英, 千葉 朋希, 秋山 好光, 波多野 恵, 島田 周, 大石 由美子, 小池 博之, 仁科 博史, 佐藤 荘, 光井 雄一, 國吉 佳奈子, 永田 将司, 田中 真二	
9-10	12/17	08:50-12:15	医学科講義室 1, 5 階学生実習室, 6 階学生実習室, 各研究室	2.基本実習(生理学・薬理学)-(2)	同	礒村 宜和, 仁科 博史, 平 理一郎, 三枝 弘尚, ALAIN ANTONIO RIOS, 川端 政則, 永田 将司	同(到達目標①～⑤)
11-12	12/18	13:30-16:55	医学科講義室 1, 5 階学生実習室, 6 階学生実習室, 各研究室	3.基本実習(分子遺伝学・衛生学)-(1)(2)	分子遺伝学:「細胞培養」／「遺伝子クローニング、PCR 反応の理解と実践」／「プラスミドの制限酵素処理とアガロースゲル電気泳動」／衛生学:「変異原性物質試験」	淺原 弘嗣, 秋山 好光, 栗本 遼太, 波多野 恵, 島田 周, 松島 隆英, 千葉 朋希, 田中 真二	同(到達目標①～⑤)
13-16	12/19	08:50-16:55	医学科講義室 1, 5 階学生実習室, 6 階学生実習室, 各研究室	4.基本実習(生化学・免疫学)-(1)(2)	生化学:「タンパク質の定量」／免疫学:「細胞培養」／「正常のマウス個体の免疫細胞の解析」	大石 由美子, 小池 博之, 佐藤 荘, 光井 雄一, 國吉 佳奈子	同(到達目標①～⑤)
17-21	1/6	08:50-18:45	5 階学生実習室, 6 階学生実習室, 各研究室	5.応用実習(選択科目)	生理学:「行動解析と脳活動測定」／ 生化学:「実践・バルク RNA シークエンス解析 又は シングルセルトランスクリプトーム解析」(続く)	武内 寛明, 礒村 宜和, 佐藤 荘, 淺原 弘嗣, 田中 真二, 白銀 勇太, 小池 博之, 平 理一郎, 栗本 遼太, 光井 雄一, 松島 隆英, 千葉 朋希, 助川 明香, ALAIN	基礎医学の知識と手技を活かして実際の専門的研究の進め方を体験する(生理学、生化学、分子遺伝学、衛生学、免疫学、ウイルス学のいずれかを選択)。(到達目標①～⑤)

						ANTONIO RIOS, 川端 政則, 國吉 佳奈子, 秋山 好光, 島田 周, 波多野 恵	
22-23	1/7	08:50-12:15	5 階学生実習室, 6 階学生実習室, 各研究室	同	分子遺伝学:「糖尿病薬標的遺伝子のクローニング」／「培養細胞への遺伝子導入と薬剤投与」／「遺伝子発現解析(qPCR 法)」／「タンパク質発現の評価(ウェスタンブロット法)」／「糖尿病関連 RNA シークエンス解析」／「糖尿病疾患モデルマウスの作成及び治療」(続く)	大石 由美子, 武内 寛明, 礒村 宜和, 佐藤 荘, 淺原 弘嗣, 白銀 勇太, 小池 博之, 平理一郎, 栗本 遼太, 光井 雄一, 松島 隆英, 千葉 朋希, 助川 明香, ALAIN ANTONIO RIOS, 川端 政則, 國吉 佳奈子, 田中 真二, 秋山 好光, 波多野 恵, 島田 周	同(到達目標①～⑤)
24-26	1/8	13:30-18:45	5 階学生実習室, 6 階学生実習室, 各研究室	同	衛生学:「微生物を用いた変異原性物質試験」／ 免疫学:「疾患モデルマウスの個体の免疫学的解析」／ ウイルス学	大石 由美子, 武内 寛明, 礒村 宜和, 佐藤 荘, 淺原 弘嗣, 白銀 勇太, 小池 博之, 平理一郎, 栗本 遼太, 光井 雄一, 松島 隆英, 千葉 朋希, 助川 明香, ALAIN ANTONIO RIOS, 川端 政則, 國吉 佳奈子, 秋山 好光, 島田 周, 田中 真二, 波多野 恵	同(到達目標①～⑤)
27-31	1/9	08:50-18:45	5 階学生実習室, 6	同	同	大石 由美子, 武内 寛明,	同(到達目標①～⑤)

			階学生実習室, 各研究室			礒村 宜和, 佐藤 荘, 淺原 弘嗣, 白銀 勇太, 小池 博之, 平理一郎, 栗本遼太, 光井雄一, 松島隆英, 千葉朋希, ALAIN ANTONIO RIOS, 川端 政則, 國吉 佳奈子, 林 隆也, 秋山 好光, 島田 周, 田中 真二, 波多野 恵	
32-36	1/13	08:50-18:45	5階学生実習室, 6階学生実習室, 各研究室	同	同	大石 由美子, 武内 寛明, 礒村 宜和, 佐藤 荘, 淺原 弘嗣, 白銀 勇太, 小池 博之, 平理一郎, 栗本遼太, 光井雄一, 松島隆英, 千葉朋希, 助川明香, ALAIN ANTONIO RIOS, 川端 政則, 國吉 佳奈子, 秋山好光, 島田周, 田中 真二, 波多野恵	同(到達目標①～⑤)
37-38	1/14	08:50-12:15	5階学生実習室, 6階学生実習室, 各研究室	同	同	大石 由美子, 武内 寛明, 礒村 宜和, 佐藤 荘, 淺原 弘嗣, 白銀 勇太, 小池 博之, 平理一郎, 栗本遼太, 光井雄一, 松島隆英, 千葉	同(到達目標①～⑤)

						朋希, 助川 明香, ALAIN ANTONIO RIOS, 川端 政則, 國吉 佳奈子, 秋山 好光, 島田 周, 田中 真二, 波多野 恵	
39-41	1/15	13:30-18:45	5階学生実習室, 6階学生実習室, 各研究室	同	同	大石 由美子, 武内 寛明, 礒村 宜和, 佐藤 荘, 淺原 弘嗣, 白銀 勇太, 小池 博之, 平理一郎, 栗本 遼太, 光井 雄一, 松島 隆英, 千葉 朋希, 助川 明香, ALAIN ANTONIO RIOS, 川端 政則, 國吉 佳奈子, 秋山 好光, 島田 周, 田中 真二, 波多野 恵	同(到達目標①～⑤)
42-46	1/16	08:50-18:45	医学科講義室1, 5階学生実習室, 6階学生実習室, 各研究室	同	実習成果発表	大石 由美子, 武内 寛明, 礒村 宜和, 佐藤 荘, 淺原 弘嗣, 白銀 勇太, 小池 博之, 平理一郎, 栗本 遼太, 光井 雄一, 松島 隆英, 千葉 朋希, 助川 明香, ALAIN ANTONIO RIOS, 川端 政則, 國吉 佳奈子, 秋山 好光, 島田 周, 田中 真	応用実習(選択科目)の成果を実習グループ内の班単位で発表し討論し合う。(到達目標①～⑤)

						二, 波多野恵		

授業方法

実習は3週間にわたり月～金曜日の午前・午後に実施する(9:00 集合～17:00 または 18:30 頃まで:水は午前のみ)。

第 1 週は、1.基本実習(共通:安全・細胞)、2.基本実習(生理学・薬理学)、3.基本実習(分子遺伝学・衛生学)、4.基本実習(生化学・免疫学)の実習項目に参加する。履修者(2年生)を二分し、午前午後の入れ替え制で全員が同一内容を実習する。

第 2 週と第 3 週は、5.応用実習(選択科目)として各担当分野(生理学、薬理学、生化学、分子遺伝学、衛生学、免疫学、ウイルス学)のいずれかを選択し、専門的な実習科目に2週間参加する。最終日には学年全体で応用実習の成果を発表する。選択する実習科目は履修者の希望を優先するが、各分野の受け入れ人数には制約があり担当教員間で協議し調整することになる。そのため希望が通らないことがあるが、指定された実習科目に積極的に参加すること。

※実習時間は 9:00 集合、17:00 または 18:30 頃解散を原則とするが、実習の特性上、解散時間の延長が避けられないことがある。各実習担当者の指示に従うこと。当日は実習直後に旅行やアルバイトなどの予定を入れないように極力配慮すること。
※《重要》研究実践プログラムを履修している者は、本科目の第 2-3 週の応用実習として、研究実践プログラムの受け入れ研究室でプログラムに沿った指導を受けることを推奨する。この時間をぜひ有効活用してほしい。

授業内容

本欄記載の実習内容は変更することがある。最新の実習テキストを必ず確認し、医学教務係や担当教員の指示に従うこと。

1.【基本実習(共通:安全・細胞)】(第 1 週)
基礎医学の研究に共通して必要となる実験解析の手技やルールを習得する。
(例 試料保管、試薬調整、ピペット等操作、器具洗浄、無菌操作、動物取扱い、廃棄方法、研究倫理等) 3 号館実習室(5,6 階)

2.【基本実習(生理学・薬理学)】(第 1 週)
基礎系各科目(2～4)で必修の実習を通じて基本的概念の理解をより深める。
《生理学》3 号館実習室(6 階)
「心電図・筋電図・脳波」ヒト被験者の心電図と筋電図と脳波の測定を実習する。
《薬理学》3 号館実習室(5 階)
「薬理学シミュレーション」薬理学の基本的な項目(用量反応曲線、競合的阻害剤、薬物動態など)についてコンピュータシミュレーションにより学習する。(予定)

3.【基本実習(分子遺伝学・衛生学)】(第 1 週)
《分子遺伝学》3 号館実習室(5 階)
「細胞培養」参加学生全員が培養細胞の観察と継代を行い、細胞を扱う実験の基礎を学ぶ。／「遺伝子クローニング、PCR 反応の理解と実践」PCR 用プライマーの設計、PCR 法の実践を行う。／「プラスミドの制限酵素処理とアガロースゲル電気泳動」制限酵素の理解とプラスミドへの制限酵素処理、ライゲーション反応を通してプラスミドの設計、作成を行う。
《衛生学》3 号館講義室(2 階)
「変異原性物質試験」衛生学に関する変異原性物質とその検出法および統計解析について理解する。講義と実習形式(ソフトなど使用)を予定している。

4.【基本実習(生化学・免疫学)】(第 1 週)
《生化学》3 号館実習室(5 階)
「タンパク質の定量」
《免疫学》3 号館実習室(6 階)
「細胞培養」疾患モデル実施のための細胞の培養の観察と継代を行い、細胞を扱う実験の基礎を学ぶ。／「正常のマウス個体の免疫細胞の解析」正常なマウスから免疫細胞が多く存在している臓器の回収・免疫細胞の調整・flow cytometer による免疫学的解析を実施することにより、免疫細胞の基礎的解析を学ぶ。

5.【応用実習(選択科目)】(第 2～3 週)

基礎医学の知識と手技を活かして実際の専門的研究の進め方を体験する（生理学、生化学、分子遺伝学、衛生学、免疫学、ウイルス学(未定)のいずれかを選択）。研究実践プログラム履修者は当該受け入れ研究室での研究活動を推奨する。最終日に応用実習で学んだ成果を学年全体で発表し合う。

《生理学》M&D タワー17 階 細胞生理学分野
「行動解析と脳活動測定」マウス/ラット（またはヒト被験者）の行動解析や脳活動測定を試み、脳機能（運動発現、記憶学習、行動選択など）に関与する大脳皮質や大脳基底核などの神経活動を測定し解析する。神経科学の研究手法の種類と用途や原理を学び、実験に使用するデバイスの作成を体験する（電子工作・3D プリンタなど）

《生化学》3 号館実習室(5 階)・M&D タワー18 階 病態代謝解析学分野
「実践・バルクRNAシークエンス解析　又は　シングルセルトランスクリプトーム解析」データベースに登録されているRNA-seqまたはシングルセル RNA-seq データから興味のあるデータセットを選ぶ。基本的な解析法を学び、実践する。

《薬理学》
未定（薬理学分野の新教授の着任後に決定する予定）

《分子遺伝学》M&D タワー25 階 システム発生再生医学分野
「糖尿病薬標的遺伝子のクローニング」糖尿病薬標的遺伝子をプラスミドへ導入するクローニングを行い、遺伝子導入実験の準備を行う。／「培養細胞への遺伝子導入と薬剤投与」ヒト培養細胞へプラスミドによる遺伝子導入及び糖尿病薬の薬剤投与を行う。／「遺伝子発現解析（qPCR 法）」細胞株から RNA の回収、逆転写法、qPCR 法を行い、遺伝子導入や薬剤投与による遺伝子発現変化を解析する。／「タンパク質発現の評価（ウェスタンブロット法）」細胞株からタンパク質の回収、ウェスタンブロット法を行い、遺伝子導入や薬剤投与によるタンパク質発現変化を解析する。／「糖尿病関連 RNA シークエンス解析」公共データベースから糖尿病関連 RNA シークエンスを入手し、トランスクリプトーム解析（GO 解析含）を行う。／「糖尿病疾患モデルマウスの作成及び治療」STZ 投与による糖尿病モデルマウスを作製し、糖尿病の病態を採血・尿検査等で検証する。さらに経口血糖降下薬の連日投与をこない、治療効果を検証する。

《衛生学》3 号館実習室(5 階)
「微生物を用いた変異原性物質試験」班ごとに菌培養、培地作成を含む変異原性物質試験(エームス試験)の全操作を行う。2週目は基礎編として様々な変異原性物質と代謝活性化作用を学ぶ。3週目は応用編として各班で身近な生活用品 （食品添加物や嗜好品など）や化学物質について話し合い、実際にそれらのエームス試験を行う。全員 PC 持参のこと。

《免疫学》3 号館実習室(5 階)・M&Dタワー17 階 免疫学分野
「疾患モデルマウスの個体の免疫学的解析」正常なマウスから免疫細胞が多く存在している臓器の回収・免疫細胞の調整・flow cytometerによる免疫学的解析を実施することにより、免疫細胞の基礎的解析を学ぶ。更にcell sorterを用いて目的の免疫細胞を回収後、定量性PCRにて免疫細胞の性質の変化を確認する。

《ウイルス学》3 号館実習室(5 階)・M&D タワー17 階　ウイルス制御学分野・ハイリスク感染症研究マネジメント学分野
「ウイルス感染実習・細菌学実習」ウイルスを複数の培養細胞に感染させ、結果を基にウイルス増殖を制御する宿主因子について考察する。また、手の常在菌の培養実験を行う。／「融合アッセイ」ウイルスタンパク質を培養細胞に一過性に発現させ、細胞融合を観察する。結果を基に膜融合の制御機構について考察する。／「ドライ解析」感染症に関するドライ解析を実施する。3班に分かれて3日間ごとに異なる実習細目を実施する。」

※実習場所、時間、持参するもの（実習テキスト、白衣、名札、筆記用具、ノートPC など）は事前に実習テキストで確認し、担当教員の指示に従うこと。実習テキストや白衣には記名しておくこと。
※担当教員の許可なく録画・録音したり、実験装置や試料に触れたりしないこと。
※実習で得た実験解析データは適正に管理し、成果発表やレポート作成に使用すること。

成績評価の方法
成績評価は応用実習(選択科目)の担当教員が課すレポートの作成内容を採点することにより実施する。実習全日程への参加がレポート提出の資格を得る前提であり、レポートの完成形を期限内に提出することが採点の対象となる前提である。レポートの難易度や分量は実

習科目間で過度の不公平が生じないように配慮する。なお、本人の出欠状況や最終日の発表状況を総合的に考慮し、教員協議のうえで評価を加減することがある。

※応用実習として研究実践プログラムの受け入れ研究室にて活動した者は、指導教員の承諾を得て当該研究課題に関するレポートを提出すること。

成績評価の基準

履修者本人が実習に参加したうえで、実習テキストや担当教員が指示するレポートの書き方に基づき、序論、方法、結果、考察、文献などの各項を適切に記述し、不備や不足がみられないことを合格の基準とする(評価「B」60 点／100 点満点)。レポートの内容が優れている場合や実習への顕著な積極性が認められる場合には「A」以上の高い評価を与える。実習中の実験解析の成否や先進性や新規性の有無は評価に直結するものではない。

※締切日を過ぎて提出されたレポートは、不可(不合格)または大幅な減点に処する場合がある。
※レポートの内容に大きな不備や不足が認められれば、当該レポートの再提出を課すことがある。
※他班や他学年の実習データを流用するなどの不正(捏造、改ざん、盗用)が発覚した場合には、不可に処すなど厳正に対処する。

準備学習等についての具体的な指示

事前に配布(WebClass に掲載)する実習テキストの実施内容と注意事項を熟読しておくこと。
初回の実習講義にて具体的な実施内容と注意事項を説明するので必ず出席すること。
各実習項目に関する実施内容を予め理解しておき、必要に応じて各科目の授業で得た基礎知識を教科書やノート等で十分に確認してから実習に参加すること。実習項目によっては特別な用具(ノートPCなど)の持参が必要なため事前に準備しておくこと。実習テキストや白衣などに記名し紛失を防ぐこと。

試験の受験資格

本科目では筆記試験は実施せず、実習期間後の期限内に提出されたレポート課題の作成内容により成績評価する。実習期間の全日程の参加をもってレポートを提出する資格が与えられる。

※正当な欠席の理由がない限り、すべての実習項目に本人が参加する必要がある。
※正当な理由により欠席した実習項目に関しては、担当教員に補講等の指示を仰ぐこと。
※欠席、遅刻、早退の状況は速やかに医学教務係と担当教員に連絡すること。
※なお、本科目の履修には事前に本学の基礎研究 ID 等の受講および修了が必要となる。

他科目との関連

本科目は、生理学、薬理学、生化学、分子遺伝学、感染学、免疫学などの基礎医学科目の授業で習得した知識を実習体験により再確認するものであり、その他の基礎医学科目(組織学、人体解剖学、神経科学、医動物学など)とも密接に関連する。また本科目で習得した知識と手技はあらゆる臨床科目と研究実習(プロジェクトセメスター・研究実践プログラム)に活かされるものである。

履修上の注意事項

本シラバスの各欄に記載した注意事項を十分に理解したうえで履修すること。

備考

本科目(2024 年度新規開講)では、履修者アンケートや担当教員の意見に基づいて改善点を整理し次年度以降に反映している。2025 年度は出欠の確認方法や遅刻欠席の取り扱いについて改定し周知する予定である。また新設の薬理学分野の教員も本科目の担当に加わる予定である。

連絡先(メールアドレス)

礒村　宜和:isomura.phy2@tmd.c.jp
大石　由美子:oishi.yumiko@tmd.ac.jp
武内　寛明:htake.molv@tmd.ac.jp
秋山　好光:yakiyama.monc@tmd.ac.jp
三枝　弘尚:h-saegusa.mphm@tmd.ac.jp
佐藤　荘:satoh.mbch@tmd.ac.jp
淺原　弘嗣:asahara.syst@tmd.ac.jp
田中　真二:tanaka.monc@tmd.ac.jp
白銀　勇太:shirogane.yuta@tmd.ac.jp

オフィスアワー

礒村　宜和:平日朝10時～夕方6時まで

※授業の内容に関する質問は、各回の担当教員に直接尋ねてください。
※試験・レポートに関することは、なるべく科目責任者(礒村)にまとめて問い合わせ、各担当教員に直接尋ねることは極力避けてください。
大石　由美子:事前にメールアドレスまでご連絡をお願いいたします
武内　寛明:毎週金曜日　AM. 11:00-PM.2:00
MD タワー17 階ハイリスク感染症研究マネジメント学分野教授室(N-1704)
e-mail: htake.molv@tmd.ac.jp
秋山　好光:事前に必ず連絡して下さい。
電話:03-5803-5184
場所:M&D タワー　18 階　南側　S1859
淺原　弘嗣:事前に下記アドレスまでご連絡をお願いいたします。
田中　真二:事前に必ず連絡して下さい。
電話:03-5803-5184
場所:M&D タワー　18 階　南側　S1859
白銀　勇太:メールにて事前に連絡ののち、M&D タワーの 17 階　ウイルス制御学分野の教授室にて

時間割番号	011400				
科目名	医療と AI･ﾋﾞｯｸﾞﾃﾞｰﾀ応用			**科目 ID**	
担当教員	中林 潤, 須藤 毅顕, 曹 日丹, 田畑 寛治[NAKABAYASHI Jun, SUDO Takeaki, CAO Ridan, TABATA Kanji]				
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	2	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業					

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表 2－1)

主な講義場所

同期型遠隔授業

授業の目的、概要等

AI･データサイエンスの価値を理解し、将来的に医療分野におけるデータサイエンスを活用した AI 技術研究を自らあるいは企業などと共同で推進するために必要な実践力を身に付ける

授業の到達目標

･データサイエンスを実践するために必要な数理モデルの理論的背景を概説できる
･データサイエンスを実践するために必要な AI モデルの理論的背景を概説できる
･データサイエンスを実践するために必要な前処理を行うことができる
･AI の基本的なモデルのプログラムを作成できる
･教師あり機械学習と教師なし機械学習の違いを説明できる
･機械学習を活用し、課題解決につなげることができる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標･学習方法･その他
1	4/24	10:45-11:30	遠隔授業(同期型)	データセットの読み込み	データセットの読み込みと画像データの理解	須藤 毅顕	″keras のデータセットを読み込むことができる MNIST の構成を理解し説明できる″
2	4/24	11:40-12:25	遠隔授業(同期型)	データセットの可視化と加工	画像データの可視化と学習の前処理	須藤 毅顕	″MNIST の画像を図示することができる 'モデルに入力するデータの前処理ができる″
3	5/8	10:45-11:30	遠隔授業(同期型)	データセットの可視化と加工 2	画像データの可視化と学習の前処理	須藤 毅顕	″MNIST の画像を図示することができる 'モデルに入力するデータの前処理ができる″
4	5/8	11:40-12:25	遠隔授業(同期型)	MLP(Multi layer perceptron)①	MLP 推論の基本的概念	須藤 毅顕	″MLP の概念を説明できる 'MLP の学習を実施できる″
5	5/15	10:45-11:30	遠隔授業(同期型)	MLP②	学習の基本的概念	須藤 毅顕	学習過程を理解し、MLP のモデルを改変できる

6	5/15	11:40-12:25	遠隔授業（同期型）	CNN(Convolutional Neural Network)	CNN の基本的概念	須藤 毅顕	CNN の概念を説明できる
7	5/29	10:45-11:30	遠隔授業（同期型）	CNN②	CNN の基本的演習	須藤 毅顕	″学習結果を可視化することができる '学習済みのモデルを評価できる″
8	6/19	10:45-11:30	遠隔授業（同期型）	データ拡張	画像処理におけるデータ拡張の基本的概念と基本演習	須藤 毅顕	″データ拡張の概念を説明できる 'データ拡張を実施できる″
9	6/19	11:40-12:25	遠隔授業（同期型）	画像分類(グループ演習)	CIFAR10 を用いたグループ演習	須藤 毅顕	″CIFAR10 の構成を理解し説明できる 'CIFAR10 を用いてデータの前処理、MLP、CNN が実践できる″
10	7/3	10:45-11:30	遠隔授業（同期型）	自然言語処理と ChatGPT	自然言語処理の概論と ChatGPT の導入	須藤 毅顕	″自然言語処理の基本的概念を説明できる 'ChatGPT を使い方を説明出来る″
11	7/3	11:40-12:25	遠隔授業（同期型）	言語モデル-生成 AI 概論(講義)	言語モデルの基本的概念(講義)	清水 秀幸	言語モデルの基本的概念を説明できる
12	7/10	10:45-11:30	遠隔授業（同期型）	自然言語処理演習(NLP)①	Transformers の pipeline による基本演習	須藤 毅顕	Transformers を用いて NLP の推論を実行できる
13	7/10	11:40-12:25	遠隔授業（同期型）	自然言語処理演習②	Transformers の Tokenizer による基本演習	須藤 毅顕	Transformers を用いて NLP の学習を実行できる
14	7/17	10:45-11:30	遠隔授業（同期型）	教師なし機械学習-次元削減	次元削減の概論と基本演習	須藤 毅顕	教師なし学習の次元削減について概念を説明できる
15	7/17	11:40-12:25	遠隔授業（同期型）	教師なし機械学習-クラスタリング	クラスタリングの概論と基本演習	須藤 毅顕	教師なし学習のクラスタリングについて概念を説明できる

授業方法

・講義と Python を用いたプログラミング演習を Zoom で行う。
・本科目の 1 コマでグループ演習を予定している。グループ演習は、非同期で受講する場合は 1 人で取り組んでも差し支えない。

なお、昨年の学生の授業評価にを踏まえて、授業の録画はできる限り授業当日のうちにアップロードし、1 週間の学習期間を確実に確保できるようにする。

授業内容

・AI 総論（医療 AI、最新 AI 技術
・データの読み込み（MNIST、load_data()、配列操作）

・データセットの理解と加工（繰り返し、one-hot encoding）
・多層パーセプトロン①（重み、ニューロン、活性化関数）
・多層パーセプトロン②（学習、エポック、正解率と誤差）
・多層パーセプトロン③（損失関数、誤差逆伝播法）
・畳み込みニューラルネットワーク①（畳み込み、プーリング）
・その他応用演習

成績評価の方法

・本科目は課題の提出をもって出席とみなす。
・課題が提出されない場合は、当該授業を欠席したこととして扱うのみならず、当該課題は 0 点として評価するので注意すること。
・最終回の課題提出期限までに、「M2 コース評価アンケート 2025」の「2025 年度「医療と AI・ビッグデータ応用」コース評価」に回答していることを最終評価の条件とする

成績評価の基準

本科目では試験を実施せず、各講義および演習後の課題によって成績評価を行う。
すべての課題を期限内に提出した場合は、基本的に 80 点以上となる。
（但し白紙もしくは白紙相当の課題内容は対象外とする）

準備学習等についての具体的な指示

・webclass にあげている動画教材を活用して予習・復習に役立てること。

試験の受験資格

試験は実施しないが、成績評価には講義の 2/3 の出席(課題提出)が必要である。

参考書

・Python で体感! 医療と AI はじめの一歩／宮野 悟, 中林 潤, 木下 淳博, 須藤 毅顕:羊土社
・東京大学のデータサイエンティスト育成講座 : Python で手を動かして学ぶデータ分析／中山浩太郎 監修,塚本邦尊, 山田典一, 大澤文孝 著,中山, 浩太郎,塚本, 邦尊,山田, 典一,大沢, 文孝, 1973-,:マイナビ出版, 2019
・データサイエンスの基礎／濵田悦生著 ; 狩野裕編,濵田, 悦生,狩野, 裕,講談社サイエンティフィク,:講談社, 2019
・Python3 スキルアップ教科書/辻真吾、小林秀幸、鈴木庸氏、細川康博/技術評論社
・新しい人工知能の教科書/多田智史、石井一夫/翔泳社
・医療 AI とディープラーニングシリーズ 医用画像ディープラーニング入門 /藤田広志/オーム社
・Python によるディープラーニング Francois Chollet/マイナビ出版

備考

課題は WebClass 上での提出のみを採点対象とし、授業担当者への個別メールでの対応は原則受け付けない

連絡先（メールアドレス）

中林 潤:nakab.las@tmd.ac.jp
須藤 毅顕:t-sudo.ioe@tmd.ac.jp

オフィスアワー

中林 潤:月曜～金曜
A.M.10:00 – P.M. 05:00
国府台キャンパス 4 階 教官研究室—9
須藤 毅顕:毎週火曜日 AM.11:00–PM.5:00 湯島キャンパス 1 号館東 3 階 教育メディア開発学分野研究室

時間割番号	011057Z1				
科目名	臨床医学導入			科目ID	
担当教員					
開講時期	2025 年度後期	対象年次	2	単位数	1
実務経験のある教員による授業					

主な講義場所

臨床検査医学に関する授業については、「臨床医学導入(臨床検査医学)」のページを参照
放射線医学に関する授業については、「臨床医学導入(放射線科)」のページを参照
のこと

授業の目的、概要等

臨床検査医学に関する授業については、「臨床医学導入(臨床検査医学)」のページを参照
放射線医学に関する授業については、「臨床医学導入(放射線科)」のページを参照
のこと

授業の到達目標

臨床検査医学に関する授業については、「臨床医学導入(臨床検査医学)」のページを参照
放射線医学に関する授業については、「臨床医学導入(放射線科)」のページを参照
のこと

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	1/19	08:50-10:20	遠隔授業(非同期型)	放射線診断総論	立石 宇貴秀	到達目標】1), 2), 3)【学習方法】非同期ビデオ
2	1/19	10:45-12:15	遠隔授業(非同期型)	IVR と消化管診断	岸野 充浩	到達目標】1), 2), 3)【学習方法】非同期ビデオ
3	1/19	13:30-15:00	遠隔授業(非同期型)	13:30-14:00 検査医学総論、14:00-15:00 血液学的検査、生化学検査(担当教員未定)	伊藤 真以	【到達目標】1), 2)【学習方法】非同期ビデオ、遠隔講義【その他】非同期ビデオはこの時間帯に視聴する必要はありません。
4	1/20	08:50-10:20	遠隔授業(同期型)	8:50-9:35 免疫学的検査、感染症検査、9:35-10:20 Reversed clinico-pathological conference (未定)(担当教員未定)		【到達目標】2), 3), 6)【学習方法】遠隔講義【その他】前半:講義。後半:事前に学習してきた症例の検査結果の解釈について、討論を行う。
5	1/20	10:45-12:15	遠隔授業(同期型)	輸血総論	梶原 道子	【到達目標】4)【学習方法】遠隔講義
6	1/20	13:30-15:00	遠隔授業(同期型)	生理検査	叶内 匡	【到達目標】5)【学習方法】遠隔

						講義
7	1/21	08:50-10:20	遠隔授業(同期型)	中枢神経画像診断	横山 幸太	到達目標】1), 2), 3)【学習方法】遠隔講義
8	1/21	10:45-12:15	遠隔授業(非同期型)	体幹部画像診断	土屋 純一	到達目標】1), 2), 3)【学習方法】非同期ビデオ
9	2/10	10:45-12:15	医学科講義室1	10:45-11:45 評価(筆記試験)臨床検査医学	伊藤 真以 足立 拓也	
10	2/10	13:30-15:00	医学科講義室1	評価(筆記試験)放射線診断学	立石 宇貴秀	

授業方法

臨床検査医学に関する授業については、「臨床医学導入(臨床検査医学)」のページを参照
放射線医学に関する授業については、「臨床医学導入(放射線科)」のページを参照
のこと

授業内容

臨床検査医学に関する授業については、「臨床医学導入(臨床検査医学)」のページを参照
放射線医学に関する授業については、「臨床医学導入(放射線科)」のページを参照
のこと

成績評価の方法

臨床検査医学に関する授業については、「臨床医学導入(臨床検査医学)」のページを参照
放射線医学に関する授業については、「臨床医学導入(放射線科)」のページを参照
のこと

成績評価の基準

100 点換算で 60 点以上を合格とする。60 点以上を B とし(評価 B GP3.0 レベル以上)、
得点の分布などを勘案し、点数に応じて、A、A+の評価を付する。

準備学習等についての具体的な指示

臨床検査医学に関する授業については、「臨床医学導入(臨床検査医学)」のページを参照
放射線医学に関する授業については、「臨床医学導入(放射線科)」のページを参照
のこと

試験の受験資格

臨床検査医学に関する授業については、「臨床医学導入(臨床検査医学)」のページを参照
放射線医学に関する授業については、「臨床医学導入(放射線科)」のページを参照
のこと

教科書

臨床検査医学に関する授業については、「臨床医学導入(臨床検査医学)」のページを参照
放射線医学に関する授業については、「臨床医学導入(放射線科)」のページを参照
のこと

参考書

臨床検査医学に関する授業については、「臨床医学導入(臨床検査医学)」のページを参照
放射線医学に関する授業については、「臨床医学導入(放射線科)」のページを参照
のこと

履修上の注意事項

臨床検査医学に関する授業については、「臨床医学導入(臨床検査医学)」のページを参照　放射線医学に関する授業については、「臨床医学導入(放射線科)」のページを参照　のこと

備考

臨床検査医学に関する授業については、「臨床医学導入(臨床検査医学)」のページを参照
放射線医学に関する授業については、「臨床医学導入(放射線科)」のページを参照
のこと

時間割番号	011062Z			
科目名	臨床医学導入(臨床検査医学)		**科目ID**	
担当教員				
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	2	
実務経験のある教員による授業				

主な講義場所

遠隔授業(同期型)、遠隔授業(非同期型)

授業の目的、概要等

臨床各ブロックの導入として、臨床検査に関する総論的な講義を中心に学習を進める。RCPC(Reversed Clinico-Pathological Conference)により、さまざまな検査結果を統合的に解釈し、討論する能力を養う。

授業の到達目標

文部科学省 HP 医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-02-05)03

PS-02-10)03

PS-03-06)01,02,03,04,05,06,07,08

CS-02-04)07,15,16

CM-02-01)01,02

CM-02-02)01

CM-02-03)01,02,03,04

1)検査の基準値、カットオフ値、感度、特異度の意味を説明できる。

2)血液学的検査、生化学検査、免疫学的検査、尿・便検査、遺伝子検査の結果を解釈できる。

3)感染症(細菌、ウイルス)検査の適応を説明し、結果を解釈できる。

4)輸血検査の結果の解釈と、血液製剤の種類と使い分け、副作用を説明できる。

5)心電図、呼吸機能検査、超音波検査、神経生理検査の結果を解釈できる。

6)臨床検査の所見を総合的に解釈できる。

授業方法

同期型遠隔授業

1)講義

2)提示症例の事前学習と討論(RCPC)によるアクティブラーニングを行う

非同期型遠隔授業

1)講義

授業内容

「臨床医学導入」の授業スケジュール表を参照

成績評価の方法

2/10(火)に筆記試験で評価する。臨床検査医学の全ての講義の中で、教員が話した内容(WebClass 上の資料に記載されていない内容も含むことがある)について、MCQ のマークシート方式で問う。1領域あたり 10 問前後で、合計約 75 問を出題する予定である。英文による問題も含まれる。

成績評価の基準

100 点換算で 60 点以上を合格とする。60 点以上を B とし、得点の分布などを勘案し、点数に応じて、A、A+の評価を付する。

準備学習等についての具体的な指示

これまでに学んだ基礎医学(生化学、免疫学、細菌・ウイルス学、生理学、解剖学など)のうち、臨床検査に関わる内容を復習しておく。

試験の受験資格

出席はとらないので、受験資格には関与しない。なお、授業中に、授業内容の理解を問う試問を行うことがあり、これを 2/10(火)に行う試験の成績の加点に用いることがある。

参考書

標準臨床検査医学 第5版／高木 康 監修,山田 俊幸 編集,大西 宏明 編集,高木 康,山田 俊幸,大西 宏明,:医学書院, 2023-02-13
臨床検査ガイド : これだけは必要な検査のすすめかた・データのよみかた／大西 宏明,矢崎 義雄,小池 和彦,小室 一成,須永 眞司,山内 敏正,須永 真司,大西 宏明／編,矢崎 義雄／編,小池 和彦／編,小室 一成／編,須永 眞司／編,山内 敏正／編:文光堂, 2024.12
今日の臨床検査／櫻林郁之介 監修,矢冨裕, 廣畑俊成, 山田俊幸, 石黒厚至 編集,池田均 [ほか] レビュアー,池田均 [ほか] 執筆,桜林, 郁之介, 1942-,矢冨, 裕,廣畑, 俊成,山田, 俊幸, 1960-,石黒, 厚至,:南江堂, 2021
ウィントローブ臨床血液学アトラス／ダグラス C.カチャック, ジャン V.ヒルシュマン編 ; 奈良信雄監訳・訳 ; 東田修二, 星百合子訳,Tkachuk, Douglas C.,Hirschmann, Jan V.,奈良, 信雄,東田, 修二,星, 百合子,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2008
臨床検査のガイドライン JSLM 2021 : 検査値アプローチ/症候/疾患／日本臨床検査医学会ガイドライン作成委員会 編集,日本臨床検査医学会,:日本臨床検査医学会, 2021
内科診断学／福井, 次矢, 1951-,奈良, 信雄, 1950-,松村, 正巳,福井次矢, 奈良信雄, 松村正巳 編集:医学書院, 2024.3
血液細胞アトラス／通山薫, 張替秀郎編,通山, 薫,張替, 秀郎,:文光堂, 2018
Reversed C.P.C.による臨床検査データ読み方トレーニング／熊坂一成 [ほか]編,熊坂, 一成, 1948-,:日本医事新報社, 2005

他科目との関連

基礎医学、臨床医学のすべての分野と関連するので、他科目の知識を応用して学習する。

履修上の注意事項

1)RCPC でアクティブラーニングを行うので、事前学習が必要である。 2)講義内容に対する質問があれば、担当者へメール連絡すること。

時間割番号	011063Z			
科目名	臨床医学導入(放射線科)		**科目ID**	
担当教員	立石　宇貴秀, 吉村　亮一, 岸野　充浩[TATEISHI Ukihide, YOSHIMURA Ryoichi, KISHINO Mitsuhiro]			
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	2	
実務経験のある教員による授業				

主な講義場所

基本は遠隔授業(非同期型)で実施。遠隔授業(非同期型)に変更となる場合もある。

授業の目的、概要等

臨床各ブロックの導入として、画像診断に関する総論的な講義を中心に学習を進める。

授業の到達目標

1)画像診断検査の意義と原理を説明できる
2)各モダリティー毎に臨床意義と検査適応や被ばくについて説明できる
3)各領域毎に代表的疾患の診断プロセスを理解できる

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-02-05)03
PS-02-10)03
PS-03-06)01,02,03,04,05,06,07,08
CS-02-04)07,15,16
CM-02-01)01,02
CM-02-02)01
CM-02-03)01,02,03,04

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[V-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる

[V-3-C]症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応／合併症／限界)を提示できる
[V-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる
[V-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[VI-8-D]臨床推論にもとづく診断過程を説明できる
[VI-9-D]患者から基本的情報を収集・統合し、病歴の標準書式にまとめることができる
[VI-11-C]成人の身体診察を、基本的要素ごとに行える
[VI-15-D]正常所見を説明できる

授業方法

原則として遠隔授業(非同期型)で実施

授業内容

「臨床医学導入」の授業スケジュール表を参照

成績評価の方法

画像診断に関して行った全ての講義において教員が話した内容(WebClass の資料に記載されていない内容も含む)について、金曜午後に筆記試験(MCQ のマークシート方式)で評価する。英文による問題も含まれる。

成績評価の基準

100 点換算で 60 点以上を合格とする。60 点以上をＢとし(評価Ｂ GP3.0 レベル以上)、得点の分布などを勘案し、点数に応じて、A、A＋の評価を付する。

準備学習等についての具体的な指示

放射線科の画像診断は学習範囲が広いため、参考図書などを用い予め予習をしておく。

試験の受験資格

出席はとらないので、受験資格には関与しない。なお、授業中に、授業内容の理解を問う小テスト(授業を聞いていれば答えられる程度の内容)を行うことがあり、これを最終日に行う試験の成績の加点に用いることがある。

構成ユニット

遠隔授業(非同期型)で全身の画像診断分野を網羅する。

教科書

医療系のための画像診断・核医学検査ベーシック／立石宇貴秀:イーサイトヘルスケア, 2018

参考書

医療系のための画像診断・核医学検査ベーシック／立石宇貴秀:イーサイトヘルスケア, 2018

履修上の注意事項

放射線科の画像診断は学習範囲が広いため、参考図書などを用い予め予習をしておく。

備考

放射線科の画像診断は学習範囲が広いため、参考図書などを用い事前学習が必要。質問等はメールにて連絡すること。アドレスは radiology.mrad@tmd.ac.jp。

連絡先(メールアドレス)

立石　宇貴秀:radiology.mrad@tmd.ac.jp
吉村　亮一:ysmrmrad@tmd.ac.jp

オフィスアワー

立石　宇貴秀:毎週月～金　9:30～16:00　M&D タワー9 階 S964 室 放射線科医局
吉村　亮一:設けていません。メールでお問い合わせ下さい。

時間割番号	011058Z1				
科目名	循環器			**科目ID**	
担当教員	笹野 哲郎, 田尾 進, 落田 美瑛, 前嶋 康浩, 江花 有亮, 工藤 敏文, 藤田 知之, 杉山 知代, 金子 英司, 米津 太志, 平澤 憲祐, 古川 哲史, 濱谷 陸太, 木村 彰方, 細川 奨, 高宮 智正[SASANO Tetsuo, TAO Susumu, OCHIDA Mie, MAEJIMA Yasuhiro, EBANA Yusuke, KUDO Toshifumi, FUJITA Tomoyuki, SUGIYAMA Tomoyo, KANEKO Eiji, YONETSU Taishi, HIRASAWA Kensuke, FURUKAWA Tetsushi, HAMAYA Rikuta, KIMURA AKINORI, HOSOKAWA SUSUMU, TAKAMIYA Tomomasa]				
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	2	**単位数**	3
実務経験のある教員による授業					

授業の到達目標

① 基礎医学の知識が、臨床医学においてどのように使われているのかを学ぶ
② 症候学、身体診察の基本について学ぶ
③ 各論において、各疾患の病態、検査や治療の具体的な方法について学ぶ

文部科学省 HP 医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

GE-01-01)01,02,03,04,05,06
GE-01-04)04,05
PS-01-03)14,33
PS-01-04)14
PS-02-06)01,02,03,04,05
PS-02-14)03
PS-03-02)03
PS-03-04)21
PS-03-05)02,04
IT-01-02)01
CS-01-01)01,02
CS-01-02)01,02,03,04,05
CS-02-01)01,02
CS-02-02)01,02
CS-02-03)01,02,03,04,05,06,07
CS-02-04)01,02,04,05,06,08,09,11,12,15,16,18
CS-03-01)01
CS-03-02)01
CS-03-03)01,02,05
CS-03-06)01,02
CS-05-04)02
CM-01-01)01,02
CM-02-02)01
IP-01-03)01

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる

[Ⅲ-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[Ⅲ-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[Ⅲ-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[Ⅲ-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[Ⅲ-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[Ⅲ-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[Ⅲ-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[Ⅲ-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[Ⅲ-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[Ⅲ-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[Ⅲ-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[Ⅳ-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる
[Ⅴ-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[Ⅴ-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる
[Ⅴ-3-C]症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応／合併症／限界)を提示できる
[Ⅴ-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる
[Ⅴ-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[Ⅵ-8-C]主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる
[Ⅵ-15-C]臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	1/22	13:30-15:00	医学科講義室1	循環器内科総論	笹野 哲郎	到達目標:①、② シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
2	1/22	15:25-16:55	医学科講義室1	身体診察	前嶋 康浩	到達目標:② シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
3	1/23	08:50-10:20	医学科講義室1	小児循環器外科 治療	川畑 拓也	到達目標:③ シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
4	1/23	10:45-12:15	医学科講義室1	心電図(臨床)	河村 岩成	到達目標:②、③ シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
5	1/23	13:30-15:00	医学科講義室1	循環器外科総論／病態生理と外科治療総論	藤田 知之	到達目標:② シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。

6	1/23	15:25-16:55	遠隔授業（非同期型）	虚血性心疾患Ⅰ(内科)	金子　英司	到達目標:①、②シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
7	1/23	17:15-18:45	遠隔授業（非同期型）	心筋疾患Ⅰ(原発性)	井原　健介	到達目標:①、②シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
8	1/26	08:50-10:20	医学科講義室１	心エコー検査	落田　美瑛	到達目標:②、③シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
9	1/26	10:45-12:15	医学科講義室１	虚血性心疾患Ⅱ(内科)	米津　太志	到達目標:③　シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
10	1/26	13:30-15:00	医学科講義室１	先天性心疾患Ⅰ	山口　洋平	到達目標:②、③シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
11	1/26	15:25-16:55	遠隔授業（非同期型）	心筋疾患Ⅱ(二次性)	前嶋　康浩	到達目標:①　シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
12	1/26	17:15-18:45	遠隔授業（非同期型）	心臓カテーテル検査、電気生理検査	滝川　正晃	到達目標:③　シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
13	1/27	08:50-10:20	医学科講義室１	不整脈Ⅰ(基礎)	古川　哲史	到達目標:①　シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
14	1/27	10:45-12:15	医学科講義室１	心不全	杉山　知代	到達目標:③　シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。

15	1/27	13:30-15:00	医学科講義室1	循環器領域の遺伝子疾患	江花 有亮	到達目標:① シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
16	1/27	15:25-16:55	遠隔授業(非同期型)	弁膜症 (内科)	平澤 憲祐	到達目標:③ シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
17	1/27	17:15-18:45	遠隔授業(非同期型)	感染性心内膜炎・心膜疾患	平澤 憲祐	到達目標:③ シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
18	1/28	08:50-10:20	医学科講義室1	虚血性心疾患Ⅲ(外科)	長岡 英気	到達目標:②、③ シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
19	1/28	10:45-12:15	医学科講義室1	先天性心疾患Ⅱ	山口 洋平	到達目標:③ シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
20	1/28	13:30-15:00	遠隔授業(非同期型)	弁膜症 外科治療	藤田 知之	到達目標:③ シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
21	1/28	15:25-16:55	遠隔授業(非同期型)	不整脈Ⅱ(徐脈)	山尾 一哉	到達目標:①、② シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
22	1/28	17:15-18:45	遠隔授業(非同期型)	循環生理基礎と心電図	笹野 哲郎	到達目標:① シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
23	1/29	13:30-15:00	医学科講義室1	大動脈疾患	梅本 朋幸	到達目標:③ シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。

24	1/29	15:25-16:55	遠隔授業（同期型）	循環器疾患と疫学	濱谷　陸太	到達目標:①　シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
25	1/29	17:15-18:45	遠隔授業（非同期型）	先天性心疾患Ⅲ 成人先天性心疾患	落田　美瑛	到達目標:②、③　シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
26	1/30	08:50-10:20	遠隔授業（同期型）	肺循環	篠岡　太郎	到達目標:③　シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
27	1/30	10:45-12:15	医学科講義室１	不整脈Ⅲ(頻脈)	宮﨑　晋介	到達目標:②、③　シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
28	1/30	13:30-15:00	医学科講義室１	静脈疾患・リンパ疾患	山本　洋平	到達目標:②、③　シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
29	2/3	08:50-10:20	医学科講義室１	CT、MRI、心筋シンチ、PET	田尾　進	到達目標:①　シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
30	2/3	10:45-12:15	医学科講義室１	先天性心疾患Ⅳ(心エコー、カテーテル治療)	石井　卓	到達目標:③　シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
31	2/3	13:30-15:00	医学科講義室１	体外循環、補助循環、人工心臓、心臓移植	藤原　立樹	到達目標:③　シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。
32	2/4	08:50-10:20	医学科講義室１	動脈疾患Ⅰ	工藤　敏文	到達目標:③　シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。

33	2/4	10:45-12:15	医学科講義室1	動脈疾患Ⅱ	工藤 敏文	到達目標:③ シラバスに記載した参考文献で予習をして臨むことが好ましい。	
34	2/13	10:45-12:15	医学科講義室1	評価 試験	河村 岩成		

授業方法

このコースは循環器疾患の具体的な症例を通じて、情報収集、検査、治療計画立案などの臨床的考え方を学び、もって問題探求、問題解決力を養うことを目的としている。臨床的な観点から循環器疾患の成り立ち、病態、診断法、治療法を講義する。後半は臨床講義として症例を通じて臨床的な考え方も含めて学ぶ。講義は対面による双方向性の講義と、オンデマンドで学習する講義によるアクティブラーニングを併用して行う。

授業内容

授業スケジュール参照

授業日程については、講師の都合により変更する可能性が十分あるので注意すること。

成績評価の方法

コース終了後に筆記試験を行う。

成績評価の基準

筆記試験の成績により合否を評価する。筆記試験にて60%以上の得点を得た場合に合格(B判定)とし、B以上の評価については点数に応じて行う。

準備学習等についての具体的な指示

循環器疾患に関連した解剖学、病理学、生理学、生化学、薬理学等に関する基礎的知識を再確認しておくこと。

試験の受験資格

授業明細に授業日程と内容の詳細を載せてある。ブロック全体で試験を行い、単位判定を行う。

出席は取らないが、すべての講義項目が試験範囲となるので、可能な限り講義に参加することが望ましい。

オンデマンドの講義もカリキュラムの一環で、試験の内容に含まれるので十分に学習すること。

構成ユニット

対面講義、遠隔授業(同期型)、オンデマンドの講義を組み合わせて行う。

教科書

Braunwald's heart disease : a textbook of cardiovascular medicine／edited by Douglas P. Zipes, Peter Libby, Robert O. Bonow, Douglas L. Mann, Gordon F. Tomaselli,founding editor and online editor Eugene Braunwald,Zipes, Douglas P,Libby, Peter,Bonow, Robert O,Mann, Douglas L,Tomaselli, Gordon F,Braunwald, Eugene, 192:Elsevier, 2019

Harrison's principles of internal medicine／editors, J. Larry Jameson ... [et al.],Jameson, J. Larry,Fauci, Anthony S.,Kasper, Dennis L,Hauser, Stephen L.,Longo, D. L.,Loscalzo, Joseph,:McGraw-Hill Education, 2018

参考書

心臓病の病態生理 : ハーバード大学テキスト／レオナルド S. リリー [編] ; 川名正敏, 川名陽子訳Lilly, Leonard S.,川名, 正敏,川名, 陽子,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2012

ハリソン内科学／ハリソン〔原編〕; ダンL ロンゴ ほか編 ; 福井次矢 日本語版監修 ; 黒川清 日本語版監修,ハリソン,ダン, L ロンゴ, 福井, 次矢,黒川, 清,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2013

内科學／矢崎義雄総編集 ; 伊藤貞嘉 [ほか] 編集,矢崎, 義雄,伊藤, 貞嘉,:朝倉書店, 2013

Pathophysiology of heart disease : a collaborative project of medical students and faculty／editor Leonard S. Lilly,Lilly, Leonard S.,:Wolters Kluwer Health/Lippincott Williams & Wilkins, 2011

Hurst's the heart／editors, Valentin Fuster, Richard A. Walsh, Robert A. Harrington ; associate editors, Sharon A. Hunt ... [et al.],Hurst, John Willis,Fuster, Valentin,Walsh, Richard A.,Harrington, Robert S.,:McGraw-Hill Medical, 2011

循環器病学 : 基礎と臨床 : カラー版／川名正敏 [ほか] 編,川名, 正敏,北風, 政史,小室, 一成,室原, 豊明,山崎, 力,山下, 武志,:西村書店, 2010

Beyond heart sounds(日本語版) : 音と動画による新しい身体診察トレーニング／John Michael Criley, David Gerard Criley, Stuart Ross Criley 著 ; 森 経春 訳Criley, J. Michael,Criley, David,Criley, Stuart Ross,森, 経春,:南江堂, 2001

Bates' guide to physical examination and history taking／Bickley, Lynn S.,Szilagyi, Peter G.,Bates, Barbara,:Wolters Kluwer Health/Lippincott Williams & Wilkins, 2013

Heart sounds 動画と心音による循環器疾患診断へのアプローチ : 日本語版／John Michael Criley, David Gerard Criley, Stuart Ross Criley 著,森経春 訳,Criley, J. Michael,Criley, David,Criley, Stuart Ross,森, 経春,:南江堂, 2006

備考

2024 年度のコース評価を受け、引き続きオンデマンドの講義を確保した。

連絡先(メールアドレス)

笹野 哲郎:sasano.cvm@tmd.ac.jp M&D タワー13 階南西角

古川 哲史:t_furukawa.bip@mri.tmd.ac.jp M&D・19F

金子 英司:eiji.vasc@tmd.ac.jp

工藤 敏文:t-kudo.srg1@tmd.ac.jp

江花 有亮:admbec@tmd.ac.jp

藤田 知之:office.cvsg@tmd.ac.jp

木村 彰方:akitis@mri.tmd.ac.jp M&D・22F

オフィスアワー

笹野 哲郎:オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること。

金子 英司:毎週火曜日・金曜日 AM.10:00-PM.4:00 1 号館 5 階 502

工藤 敏文:工藤 敏文:月曜日から金曜日、9:30-16:00、MD タワー10 階

江花 有亮:オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること

藤田 知之:Office hours: Monday to Friday, 9:30-16:00, MD Tower, 10F, S1052 (Southwest corner)

木村 彰方:オフィスアワーは特に定めないが、事前にメール等で連絡してから訪問すること。

時間割番号	011010			
科目名	医歯学基盤教育(臨床統計 I)		**科目 ID**	
担当教員	小池　竜司, 能登　洋, 木下　淳博, 徳永　伸一[KOIKE Ryuji, NOTO Hiroshi, KINOSHITA Atsuhiro, TOKUNAGA Shinichi]			
開講時期	2025 年度通年	**対象年次**	2	
実務経験のある教員による授業	該当する			

主な講義場所

オンラインによる遠隔講義 (非同期型)および対面式試験

授業の目的、概要等

医療・研究において必要とされる統計学の基礎と臨床的意義を学ぶ.基本的な概念や手法や臨床での活用を習得するほか統計学の思想や数学的原理の理解にも触れる. さらに, 問題解決において必須となる情報収集を適切に効果的に行う能力を習得するほか,情報セキュリティと著作権にも触れる.

実験デザインの基礎を学び,プロジェクトセメスターで臨床研究を行う際の研究基盤をつくる

授業の到達目標

1) エビデンスを正しく読解できる統計学的知識と臨床的技能を習得する.

2) 医療論文の批判的吟味・検定の選択と実践を習得する.

3) 統計学の基礎となる数学的理論を習得する.

4) 適正な情報管理を習得する.

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

GE-01-04)01,02,04

GE-02-02)05

GE-04-01)03

GE-04-02)01,02,03

GE-01-04)04

RE-03-02)01

RE-04-01)03

RE-05-02)01

IT-01-02)01

IP-02-03)02

IP-02-04)01

SO-01-01)03

SO-01-03)01,02

SO-02-01)02

SO-02-02)03,04,05

SO-02-03)02,03,04,05

SO-03-01)05

SO-04-01)01

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル

[I-2-B]世界的に注目されている医学/歯学/健康に関する主たるトピックについて、議論できる

[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる

[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる

[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる

[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる

[Ⅲ-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[Ⅲ-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[Ⅲ-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[Ⅲ-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[Ⅲ-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[Ⅲ-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[Ⅲ-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[Ⅲ-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[Ⅲ-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[Ⅲ-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[Ⅳ-4-C]多学科チームでの学習の場で、敬意を払って会話し、チームに貢献し学習できる
[Ⅵ-1-B]情報技術を利用し、関連する情報源/エビデンスを発見できる
[Ⅵ-2-B]臨床上の問題を明確化できる
[Ⅵ-3-B]研究デザインや統計的手法についての知識を提示できる
[Ⅵ-4-B]医学的介入(予防/治療)に関するエビデンス吟味に用いられる用語(NNT, NNH など)を説明できる
[Ⅵ-5-C]入手したエビデンスのレベルを正確に説明できる
[Ⅵ-6-B]診療ガイドラインにアクセスし、仮想症例の検討に活用できる
[Ⅵ-7-B]診断に関するエビデンス吟味に用いられる用語(感度、特異度、尤度比など)を説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/10	10:05-10:55	遠隔授業(非同期型)	臨床統計Ⅰ-1	統計学と医療(総論)	能登 洋	【到達目標】1), 2) 【学習方法】講義聴講 【その他】授業終了後 15 分以内に小テストの回答を能登にメール送信する.
2	4/10	11:10-12:00	遠隔授業(非同期型)	臨床統計Ⅰ-2	統計学と医療(統計の種類)	能登 洋	【到達目標】1), 2) 【学習方法】講義聴講 【その他】授業終了後 15 分以内に小テストの回答を能登にメール送信する.
3	4/17	10:05-10:55	遠隔授業(非同期型)	臨床統計Ⅰ-3	統計学と医療(相関)	能登 洋	【到達目標】1), 2) 【学習方法】講義聴講 【その他】授業終了後 15 分以内に小テストの回答を能登にメール送信する.
4	4/17	11:10-12:00	遠隔授業(非同期型)	臨床統計Ⅰ-4	統計学と医療(因果)	能登 洋	【到達目標】1), 2) 【学習方法】講義聴講 【その他】授業終了後 15 分以内に小テストの回答を能登にメール送信する.

5	5/22	10:05-10:55	遠隔授業（非同期型）	臨床統計Ⅰ－5	統計学と医療（検査特性）	能登　洋	【到達目標】1)、2) 【学習方法】講義聴講（授業時間内に聴講）【その他】授業終了後15分以内に小テストの回答を能登にメール送信する。
6	5/22	11:10-12:00	遠隔授業（非同期型）	臨床統計Ⅰ－6	統計学と医療（検査前後確率）	能登　洋	【到達目標】1), 2) 【学習方法】講義聴講 【その他】授業終了後15分以内に小テストの回答を能登にメール送信する.
7	6/12	10:05-10:55	遠隔授業（非同期型）	臨床統計Ⅰ－7	統計学と医療（事象と確率）	徳永　伸一	【到達目標】1), 3) 【学習方法】講義聴講, 演習【その他】授業後アンケートに回答
8	6/12	11:10-12:00	遠隔授業（非同期型）	臨床統計Ⅰ－8	統計学と医療（確率変数と確率分布）	徳永　伸一	【到達目標】1), 3) 【学習方法】講義聴講, 演習【その他】授業後アンケートに回答
9	6/24	10:05-10:55	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－9	応用演習（能登担当分）	能登　洋	【到達目標】1), 2) 【学習方法】演習
10	7/7	10:05-10:55	遠隔授業（非同期型）	臨床統計Ⅰ－10	統計学と医療（分布1）	徳永　伸一	【到達目標】1), 3) 【学習方法】講義聴講, 演習【その他】授業後アンケートに回答
11	7/7	11:10-12:00	遠隔授業（非同期型）	臨床統計Ⅰ－11	統計学と医療（分布2）	徳永　伸一	【到達目標】1), 3) 【学習方法】講義聴講, 演習【その他】授業後アンケートに回答
12	7/28	10:05-10:55	遠隔授業（非同期型）	臨床統計Ⅰ－12	統計学と医療（検定1）	徳永　伸一	【到達目標】1), 3) 【学習方法】講義聴講, 演習【その他】授業後アンケートに回答
13	7/28	11:10-12:00	遠隔授業（非同期型）	臨床統計Ⅰ－13	統計学と医療（検定2）	徳永　伸一	【到達目標】1), 3) 【学習方法】講義聴講, 演習【その他】授業後アンケートに回答
14	9/4	10:05-10:55	遠隔授業（非同期	臨床統計Ⅰ－14	統計学と医療（検定3）	徳永　伸一	【到達目標】1), 3) 【学習方法】講義

			型)				聴講, 演習【その他】授業後アンケートに回答
15	9/4	11:10-12:00	遠隔授業(非同期型)	臨床統計Ⅰ－15	統計学と医療(検定4)	徳永 伸一	【到達目標】1), 3) 【学習方法】講義 聴講, 演習【その他】授業後アンケートに回答
16	9/18	10:05-10:55	遠隔授業(非同期型)	臨床統計Ⅰ－16	情報セキュリティと情報倫理	木下 淳博	【到達目標】1), 4) 【学習方法】講義 聴講 【その他】学習評価テスト(多肢選択および事例に対する自身の判断とその根拠・考え方の記述)を行う
17	10/2	11:10-12:00	医学科講義室1	臨床統計Ⅰ－17	応用演習(徳永担当分)	徳永 伸一	【到達目標】1), 3) 【学習方法】演習 【その他】レポート課題を提出
18	10/7	10:05-10:55	遠隔授業(非同期型)	臨床統計Ⅰ－18	統計学と医療(治療・予防1)	能登 洋	【到達目標】1), 2) 【学習方法】講義 聴講 【その他】授業終了後15分以内に小テストの回答を能登にメール送信する.
19	10/7	11:10-12:00	遠隔授業(非同期型)	臨床統計Ⅰ－19	統計学と医療(治療・予防2)	能登 洋	【到達目標】1), 2) 【学習方法】講義 聴講 【その他】授業終了後15分以内に小テストの回答を能登にメール送信する.
20	10/9	10:05-10:55	遠隔授業(非同期型)	臨床統計Ⅰ－20	統計学と医療(治療・予防3)	能登 洋	【到達目標】1), 2) 【学習方法】講義 聴講 【その他】授業終了後15分以内に小テストの回答を能登にメール送信する.
21	10/9	11:10-12:00	遠隔授業(非同期型)	臨床統計Ⅰ－21	統計学と医療(治療・予防4)	能登 洋	【到達目標】1), 2) 【学習方法】講義 聴講 【その他】授業終了後15分以内に小テストの回答を能登にメール送信する.
22	10/16	11:10-12:00	医学科講	臨床統計Ⅰ－22	応用演習(能登担当分)	能登 洋	【到達目標】1), 2)

			義室1				【学習方法】演習

授業方法

非同期型遠隔授業(録画放映)を行う.

講義動画を WebClass にアップし, 視聴期間を設定する(授業スケジュール参照) . 期間内の視聴が確認できたら出席とする(アクセス記録の有無で判定).

講義動画を視聴後, 指示された課題レポートを期日内に提出する.

視聴期間後も講義録画を再視聴できる.

質問がある場合は, まずメールにて担当教員に連絡を取る. 担当教員は質問内容に応じた方式で回答する.

授業内容

・Evidence-Based Medicine

・統計の種類と研究の種類 ・相関・検査特性・治療/予防に関する統計学の基礎と応用法 ・統計学の思想や確率と確率分布を含む数学的原理

・情報セキュリティと情報倫理

成績評価の方法

応用演習(3回のテスト)とレポートを主として評価する(約 90%).具体的には, 能登担当分は前半および後半の計 2 回のテスト得点を合算し, 再試験対象者を選定する. 徳永担当分は 1 回のテスト得点およびレポートに基づいて再試験該当者を選定する. 木下担当分はレポートを採点する. その上で各テスト/レポート範囲の授業数や平均点に基づいて各担当者の得点を荷重合算する(ただし, [例年と比較した総合平均点の差]や, [試験ごとの平均点の乖離]が狭まるよう配分を適宜事後調整する). また, 小テスト回答や積極性や出席数についても適宜勘案する(約 10%).

授業中のクイズ・アンケートには回答投票しなくてよいが, その場で考えること. 授業後の小テストは出席点として加味したりZoomトラブル時の出席カウント代替法として利用したりする. 小テストは学生の理解度を把握する目的なのでその得点は成績に関係しない. なお, 能登担当講義での小テストは授業終了後 15 分以内に能登宛にメールで回答すること, 他の教官担当レポートの提出期日については講義時に指示する.

成績評価の基準

上記の応用演習・レポートによる得点および小テスト回答や積極性や出席数による得点を合計し, 100 点満点に換算して 60 点以上の場合に合格とする.

60 点以上の得点をそのまま当科目の最終評価点とする.

成績評価・追試・再試については, 上記成績評価(計 100%)に基づき, 原則として東京科学大学試験規則に従う.

レポート内容については電子的ツールでも分析し, 剽窃が判明した場合は減点対象とする.

準備学習等についての具体的な指示

教科書および Web Class 上にアップロードされる資料等を活用して予習・復習に役立てること.

生協での教科書販売については生協に直接問い合わせること. 教科書は授業前に購入しておくことが望ましい.

試験の受験資格

医学部・歯学部第 2 学年 (履修上の注意事項参照)

本学規定のとおり,ブロック全体で 2/3 以上の出席と試験での合格評価を履修要件とする.出席数の計算に関しては,視聴履歴(アクセス記録の有無で判定)と小テスト回答数を確認し,従来と同じ規定に基づいて出欠席を判定する.

特別に勘案すべき事情により指示が達成できない場合や授業を視聴できない場合には, その事情とともに締め切り期日前, ならびに授業の始まる前までに科目責任者または教務係にメールなどで日時の記録が残る形で連絡すること. 緊急の場合は電話でもよいが, その後メール連絡すること. 連絡ができないような特別な事情があったと後で判断された場合はその限りでない. これらの十分な対応が行われていたと判断された場合には, 事情に応じてレポートなどでの対応を行う.

教科書

スッキリわかる!臨床統計はじめの一歩 : 統計のイロハからエビデンスの読み解き方・活かし方まで／能登洋:羊土社, 2018

参考書

日常診療にすぐに使える臨床統計学 : ベストな診断と治療ができる!／能登洋:羊土社, 2011

数学/統計学／井川俊彦 [ほか]:医歯薬出版, 2005

やさしい医療系の統計学／佐藤敏雄,村松宰:医歯薬出版, 2002

入門統計解析／松原望:東京図書, 2007-10
誰でも分かる著作権 : 情報化・コンテンツ・教育関係者のために : この 1 冊で／岡本薫:全日本社会教育連合会, 2005

他科目との関連

グローバルコミュニケーション・生命倫理と相互関連した講義内容である.

履修上の注意事項

・予習課題について事前連絡することがあるため, Web Class を受講前に確認すること　・「応用演習」の回では到達度を測る目的で試験を実施する.　・進級条件は原則として東京科学大学試験規則に従う.　・各講義の遅刻・早退は原則的に認めない.また, 出席手続きなどの不正に対しては厳正に対処する.　・講義動画. 講義資料・参考資料などは著作権の問題があるため, 受講登録者以外に公開することを禁ずる.

備考

連絡先(メールアドレス)
能登 洋: hpnnytx@icloud.com

連絡先(メールアドレス)

徳永　伸一:tokunaga.las@tmd.ac.jp

オフィスアワー

徳永　伸一:前期:
火曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

後期:
木曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

＊いずれも計算機実習室で授業がある日なので、そちらにいることが多いです。
上記以外の時間帯でも、事前に E メールで連絡をもらえれば可能な限り対応します。

時間割番号	011059				
科目名	呼吸器			**科目ID**	
担当教員	宮﨑 泰成, 秋田 恵一, 大久保 憲一, 古澤 春彦, 白井 剛, 桐村 進, 石橋 洋則, 立石 知也, 岡本 師, 角 勇樹, 本多 隆行, 榊原 里江, 高澤 聖子, 本多 隆行, 板東 徹, 細川 奨, 柴田 翔, 明石 巧[MIYAZAKI Yasunari, AKITA Keiichi, OKUBO Kenichi, FURUSAWA Haruhiko, SHIRAI Tsuyoshi, KIRIMURA Susumu, ISHIBASHI Hironori, TATEISHI Tomoya, OKAMOTO Tsukasa, SUMI Yuki, HONDA Takayuki, SAKAKIBARA Rie, Takasawa Seiko, HONDA TAKAYUKI, Tohru Bandoh, HOSOKAWA SUSUMU, SHIBATA Shou, AKASHI TAKUMI]				
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	3	**単位数**	2
実務経験のある教員による授業	該当する				

呼吸器

主な講義場所

当ブロックのすべての講義、病理実習、TBL は、対面授業もしくはオンライン授業(同期または非同期)として行う。

授業の目的、概要等

総論的な知識として構造、機能、症候、画像、外科総論を学習し、各論として主要な成人呼吸器疾患および小児呼吸器疾患、肺移植を含む外科治療を学習する。また病理学的理解を深めるために腫瘍と非腫瘍について病理実習を行う。

授業の到達目標

①頻度の高い疾患について疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる。
②頻度の高い疾患/問題の原因評価において、評価法についての知識(適応/合併症/限界))を応用できる。
③頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる。
上記のうち、①を最低限の到達目標とする。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

GE-01-01)03,04
GE-01-04)05
PS-01-03)06,12,33
PS-02-02)01,02,03,05
PS-02-03)01,03,04
PS-02-04)03
PS-02-06)02,05
PS-02-07)01,02,03,05
PS-02-08)03,04
PS-02-09)01,05
PS-02-17)05
PS-03-02)01,02,05
PS-03-03)01,02,04,06,07,10,11,17,18
PS-03-04)01,04,05,06,07,08,13,23,24,25,26,27
PS-03-05)04
CS-02-02)01,02
CS-02-03)07
CS-02-04)01,10,12,13,17
CM-02-02)01

IP-01-03)01

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[IV-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる
[V-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[V-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる
[V-3-C]症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応／合併症／限界)を提示できる
[V-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる
[V-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[VI-8-C]主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる
[VI-15-C]臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる
[VI-25-B]患者隔離の必要な感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	6/9	08:50-10:20	医学科講義室2	外科(総論・肺癌)	到達目標:肺癌の外科的治療を理解する	大久保 憲一	到達度はTBLの結果で評価する
2	6/9	10:45-12:15	医学科講義室2	肺癌	到達目標:肺癌の診断および内科的治療を理解する	本多 隆行	到達度はTBLの結果で評価する
3	6/9	13:30-15:00	遠隔授業(非同期型)	呼吸器の臨床解剖学	到達目標:D6-1)①,②,③ 学習方法:講義(小テストまたはレポートあり): 呼吸器についての基本的な解剖学的事項の復習と、臨床的に重要と考えられる事項の確認	秋田 恵一	リアクションペーパーをWebClassにあげておくので、任意で回答すること。期限は当日の23時59分とする。到達度はTBLの結果で評価する
4	6/9	15:25-16:55	遠隔授業(非同期	胸部画像検査	到達目標:胸部レントゲンの基礎について理解する	角 勇樹	到達度はTBLの結果で評価する

			型)				
5	6/10	08:50-10:20	医学科講義室2	小児科領域の呼吸器疾患	到達目標:小児呼吸器疾患を幅広く学習する	石井 卓	到達度はTBLの結果で評価する
6	6/10	10:45-12:15	医学科講義室2	肺循環障害	到達目標:肺高血圧、肺血栓塞栓症について理解する	榊原 里江	到達度はTBLの結果で評価する
7	6/11	08:50-10:20	医学科講義室2	特発性間質性肺炎	到達目標:間質性肺炎とは何か学習する	古澤 春彦	到達度はTBLの結果で評価する
8	6/11	10:45-12:15	医学科講義室2	肉芽腫性疾患、その他	到達目標:おもに過敏性肺炎、サルコイドーシスについて学習する	岡本 師	到達度はTBLの結果で評価する
9-10	6/11	13:30-16:55	4階学生実習室	病理実習	到達目標:呼吸器疾患の代表的な病理を学習する	桐村 進, 小柳 杏莉	到達度はTBLの結果で評価する
11	6/13	08:50-10:20	医学科講義室2	二次性間質性肺炎・好酸球増多疾患	到達目標:二次性の間質性肺炎および好酸球増多疾患について学ぶ	望月 晶史	到達度はTBLの結果で評価する
12	6/13	10:45-12:15	医学科講義室2	肺炎・肺真菌症	到達目標:肺炎、肺真菌症について学ぶ	白井 剛	到達度はTBLの結果で評価する
13	6/13	13:30-15:00	遠隔授業(非同期型)	抗酸菌症・日和見感染	到達目標:おもに肺の抗酸菌感染症について学ぶ	園田 史朗	到達度はTBLの結果で評価する
14	6/13	15:25-16:55	遠隔授業(非同期型)	異常呼吸	到達目標:過換気症候群、睡眠時無呼吸症について学習する	立石 知也	到達度はTBLの結果で評価する
15	6/16	08:50-10:20	医学科講義室2	COPD・気腫性疾患	到達目標:おもにCOPDについて理解する	立石 知也	到達度はTBLの結果で評価する
16	6/16	10:45-12:15	医学科講義室2	気管支喘息	到達目標:気管支喘息について理解する	高澤 聖子	到達度はTBLの結果で評価する(担当は4月着任の青柳助教:現時点ではシステム未登録)
17	6/16	13:30-14:15	医学科講義室2	外科(縦隔腫瘍・胸膜疾患)	到達目標:縦郭、胸膜疾患について理解する	石橋 洋則	到達度はTBLの結果で評価する
18	6/16	15:25-16:55	遠隔授業(非同期型)	気道疾患	到達目標:気管支拡張症などについて学習する	石塚 聖洋	到達度はTBLの結果で評価する
19-20	6/17	08:50-12:15	医学科講義室2	TBL	授業内容について学習目標到達度を評価する。	宮﨑 泰成, 青木 光, 伊藤 優, 八巻 春那	知識確認問題を個人テストで、症例形式の応用問題にチーム回答テストで行う。携帯電話等の電子機器、記録媒体など試験情報の記録に繋がる物品の使用を禁じる。

授業方法

対面、および同期または非同期授業であるかは、授業明細を参照のこと。

〇非同期授業:特に視聴時間の指定はないが、全体の流れを理解しやすくするために日時を指定してある。

試験(TBL)についての個別の質問には答えることは出来ない。

〇対面授業：講義室により行われる。同期授業と同様、試験(TBL)についての質問などはその授業時間内に行うこと。試験についての個別の質問には答えることは出来ない。
〇アクティブラーニングとして、講義、病理実習のいずれについても TBL を行い、知識の再確認と学習達成度の評価・確認を行う。また、授業によっては、レポートや小テストによる学習達成度の確認を行う。

授業内容

授業明細も参照されたい。

成績評価の方法

原則として成績評価はTBLの点数(知識確認問題は個人テスト、症例問題はグループ討論後回答のテスト)にて行う。場合により小テスト、レポートの評価を加味する。TBL の点数にかかわらず、規定の出席数に満たない者は単位取得条件を満たさない。TBL の間、休憩時間を含めて、携帯電話などの電子機器、通信機器に触れた場合、問題の漏洩に関与が疑われた場合(配布された問題用紙を紛失した個人、班)は失格となることがある。

成績評価の基準

原則として、東京医科歯科大学試験規則に則り、1 週目、2 週目の TBL の点数を合計し、100 点満点で換算し 60 点以上を合格(GP における B判定以上)とし、特に優秀な者を A とする。また、小テストやレポートの内容も加味する。

準備学習等についての具体的な指示

第 1 学年で履修した医学導入、第 2 学年で履修した人体解剖学、生理学、組織学、薬理学、感染・基礎について、呼吸器を理解するという観点で見直し、関連すると思われる内容を復習すること。

試験の受験資格

成績は最終日(火曜日)に行われる TBL(個人問題およびグループ問題)を合算して評価する。出席日数は TBL 受験資格には関連しないが、非同期講義の視聴、TBL 参加を含めた出席数が規定を満たさない場合は、TBL 点数にかかわらず単位取得条件は満たさない。レポート・小テストが課された場合は担当教員の指示に従い提出する。

教科書

シンプル呼吸器学／興梠博次 編集,:南江堂, 2015
内科学 : カラー版／門脇孝, 永井良三 総編集,:西村書店, 2012
全部見える呼吸器疾患／玉置淳 監修,:成美堂出版, 2013
図解呼吸器内科学テキスト／長瀬隆英, 永田泰自 編著,:中外医学社, 2006
呼吸器病学／金澤實, 永田真, 前野敏孝 編集,:丸善出版, 2012

参考書

肺癌診療ガイドライン－悪性胸膜中皮腫・胸腺腫瘍含む－ 2022 年版／日本肺癌学会 編集,日本肺癌学会,:金原出版, 2022-12-07
COPD〈慢性閉塞性肺疾患〉診断と治療のためのガイドライン／日本呼吸器学会 COPD ガイドライン第 6 版作成委員会 編集,日本呼吸器学会,:日本呼吸器学会, 2022
喘息予防・管理ガイドライン = Asthma prevention and management guidelines／日本アレルギー学会喘息ガイドライン専門部会 監修,「喘息予防・管理ガイドライン 2021」作成委員 作成,日本アレルギー学会,:協和企画, 2021

履修上の注意事項

私語を慎み、講義の妨げとなる行為は行わないこと。質問がある場合講義時間内に質問すること。TBL 出題内容についての質問は回答しない。

備考

TBL は最終日に行う。

連絡先(メールアドレス)

宮﨑 泰成:miyazaki.pilm@tmd.ac.jp
秋田 恵一:akita.fana@tmd.ac.jp
明石 巧:akashi.path@tmd.ac.jp
角 勇樹:ysumi.pulm@tmd.ac.jp
大久保 憲一:office.thsr@tmd.ac.jp

オフィスアワー

宮﨑 泰成:毎週月～金曜日(平日) AM.8.30-PM.5.30 (内線 5950)
MD タワー13 階呼吸器内科教授室 呼吸器内科病棟・外来
秋田 恵一:メール等でアポイントメントを取ること。

明石　巧:月曜ー金曜　9:00-17:00　B棟 5 階　病理部
角　勇樹:毎週 月-金 曜日 AM.9:00-PM.17:00　3 号館 16 階 呼吸器・神経系解析学教授室
(来室の前にメールで予約してください)
大久保　憲一:毎週月-金曜日 AM.9:00-PM.5:00　M&D タワー20 階南　呼吸器外科学教室

時間割番号	011060				
科目名	消化器			**科目 ID**	
担当教員	岡本　隆一[OKAMOTO Ryuichi]				
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	3	**単位数**	3
実務経験のある教員による授業	該当する				

主な講義場所

授業日程を参照のこと

授業の目的、概要等

消化器疾患に関して Clinical Clerkship に対応しうる総合的な能力を磨き、信頼される医師となるための基礎を形成することを目標とする。学生自ら問題点を抽出し、科学的・理論的にその問題点を理解することによって、消化器系疾患の病因・病態生理を学習することを目的とする。また、理解した病因・病態生理をもとに、各疾患の診断・治療についても理解する。本ブロックでは扱う臓器の範囲が広いので、各種の対面講義・討論型学習・病理実習・非同期型授業を組み合わせて、内容を補完しあうようにした。扱う疾患としては消化器系疾患の全てを網羅する。その上で、関連した病理学、解剖学、生理学、生化学、薬理学、微生物学、画像診断学などに関しても含まれている。なお、各疾患の診断・治療に関しては、4年次以降の PCC、Clinical Clerkship でさらに詳しく学習し習得することになる。

授業の到達目標

1. 消化器系疾患の病態生理を理解し、説明できる。
2. 消化器系疾患の病態生理に基づいて、疾患の症候、経過、治療法について理解し、説明できる。

(目標到達に必要な条件)

・ 各講義で強調して扱った内容を理解し、説明できる。
・ 各講義で取り上げた疾患について、授業で強調された部分を中心として、病態生理の基礎知識、及び各種の全国共通試験でも問われるような基礎的知識について理解し、説明できる。
・ CBT で問われる内容と同程度の理解が得られている。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html
GE-01-04)03,05
PS-01-03)07
PS-02-08)01,02,03,05
PS-02-14)01
PS-03-01)02,03
PS-03-04)01,04,05,06,07,08,14,23,24,25,27
PS-03-05)15
CS-01-02)03
CS-02-02)01,02
CS-02-04)01,10,13,19,20,21,22,23,24,25,26,27
CS-03-02)01
CS-03-03)01
SO-02-02)05

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる

[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[IV-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる
[V-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[V-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる
[V-3-C]症候/問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応/合併症/限界)を提示できる
[V-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる
[V-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[VI-8-C]主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる
[VI-15-C]臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる
[VI-25-B]患者隔離の必要な感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる
[VI-26-C]針刺し事故、針刺切創等による感染症感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/2	08:50-10:20	医学科講義室2	胆膵良性疾患	胆膵良性疾患について【質問への対応】その場で対応する	伊藤 剛	到達目標:1及び2、 学習方法:グループ討論、その他:授業中に問題を出したり、症例の提示などを行う。
2	4/2	10:45-12:15		予備枠			
3	4/2	13:30-14:15	遠隔授業(非同期型)	肝胆膵解剖学	'基本的な解剖学的事項の復習と、臨床的に重要と考えられる事項の確認【質問への対応】WebClassに、リアクションペーパーを用意してあるので活用してください.	秋田 恵一	到達目標:1、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデオ視聴による自主学習
4	4/2	14:25-15:10	遠隔授業(非同期型)	非ウイルス性肝疾患	非ウイルス性肝疾患について【質問への対応】講義期間中メールで質問を受け付ける	金子 俊	到達目標:1及び2、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデオ視聴による自主学習
5	4/2	15:25-16:10	遠隔授業(非同期	肝硬変	肝硬変について【質問への対応】講義期間中メールで質問を受け付	中川 美奈	到達目標:1及び2、 学習方法:非

			型)		ける		同期ビデオ、学習方法:非同期ビデオ視聴による自主学習
6-7	4/3	08:50-12:15	4 階学生実習室	病理実習(肝胆膵)	主要疾患の病理について【質問への対応】実習中に各々質疑応答に対応します。	田村 一洋	到達目標:1、 学習方法:実習、その他:組織学実習室にて組織標本の検鏡と解説
8	4/3	13:30-14:15	遠隔授業(非同期型)	原発性肝癌・転移性肝癌	原発性肝癌・転移性肝癌について【質問への対応】講義期間中メールで質問を受け付ける	赤星 径一	到達目標:1及び2、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデオ視聴による自主学習
9	4/3	14:25-15:10	遠隔授業(非同期型)	肝臓の生理学	肝臓の生理学について【質問への対応】講義期間中メールで質問を受け付ける	松井 聡	到達目標:1及び2、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデオ視聴による自主学習
10	4/3	15:25-16:10	遠隔授業(非同期型)	膵臓癌/NEN その他の腫瘍	膵臓癌/NEN その他の腫瘍について【質問への対応】講義期間中メールで質問を受け付ける	勝田 絵里子	到達目標:1及び2、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデオ視聴による自主学習
11	4/4	08:50-10:20	医学科講義室 2	ウイルス性肝炎	ウイルス性肝炎ついて【質問への対応】その場で対応する	朝比奈 靖浩	到達目標:1及び2、 学習方法:対面講義 その他:授業中に問題を出したり、症例の提示などを行う。
12	4/4	10:45-12:15	医学科講義室 2	肝炎・肝硬変 ミニケース	症例を通じて検査や鑑別診断などをグループワークで学習する【質問への対応】その場で対応する	三好 正人, 北畑 富貴子	到達目標:1及び2、 学習方法:グループ討論、その他:授業中に問題を出したり、症例の提示などを行う。
13	4/4	13:30-14:15	遠隔授業(非同期型)	胆道癌	胆道癌について【質問への対応】講義期間中メールで質問を受け付ける	上田 浩樹	到達目標:1及び2、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデオ視聴による自主学習
14	4/4	14:25-15:10	遠隔授業(非同期型)	肝胆膵腫瘍の化学療法	肝胆膵腫瘍の化学療法について【質問への対応】講義期間中メールで質問を受け付ける	加納 嘉人	到達目標:1及び2、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデ

							オ視聴による自主学習
15	4/4	15:25-16:10	遠隔授業（非同期型）	薬物性肝障害	薬物性肝障害について【質問への対応】講義期間中メールで質問を受け付ける	村川　美也子	到達目標:1及び2、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデオ視聴による自主学習
16	4/7	08:50-10:20	医学科講義室２	下部消化管腫瘍1（大腸がん総論:疫学、発生、検査）	大腸癌に関する総論【質問への対応】講義の後、直接質問を受け付ける	山本　雄大	到達目標:1及び2、 学習方法:対面講義
17	4/7	10:45-12:15	遠隔授業（非同期型）	ストマ(人工肛門)について	人工肛門について【質問への対応】講義の後、直接質問を受け付ける	青柳　康子	到達目標:1及び2、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデオ視聴による自主学習
18	4/7	13:30-14:15	遠隔授業（非同期型）	下部消化管の臨床解剖学	'基本的な解剖学的事項の復習と、臨床的に重要と考えられる事項の確認【質問への対応】WebClassに、リアクションペーパーを用意してあるので活用してください.	秋田　恵一	到達目標:1、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデオ視聴による自主学習
19	4/7	14:25-15:10	遠隔授業（非同期型）	下部消化管の機能障害	下部消化管の機能障害【質問への対応】講義期間中メールで質問を受け付ける	河本　亜美	到達目標:1及び2、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデオ視聴による自主学習
20	4/8	08:50-10:20	医学科講義室２	下部消化管腫瘍2（大腸がんの治療について）	大腸癌の外科的治療についてグループワークで学習する【質問への対応】その場で対応する	山内　慎一	到達目標:1及び2、 学習方法:グループ討論、その他:グループワーク、事前にwebclass 掲載の動画を視聴すること
21	4/8	10:45-12:15	医学科講義室２	大腸癌の化学療法	大腸癌の化学療法について　事前に指定の youtube 動画「大腸がんセミナー　OMCE #73」https://www.youtube.com/live/429xO3-WB9o を視聴の上授業に参加すること。【質問への対応】講義の後、直接質問を受け付ける	浜本　康夫	到達目標:1及び2、 学習方法:対面講義、その他:事前に動画視聴の上授業に参加すること。https://www.youtube.com/live/429xO3-WB9o
22	4/9	08:50-10:20	遠隔授業（非同期型）	虫垂炎・痔瘻痔核・イレウス	虫垂炎・痔瘻痔核・イレウスの診断と治療について【質問への対応】講義の後、直接質問を受け付ける	花岡　まりえ	到達目標:1及び2、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデ

							オ視聴による自主学習
23	4/9	10:45–12:15	医学科講義室2	下部消化管疾患(ミニケース)	症例を通じて検査や鑑別診断などをグループワークで学習する【質問への対応】その場で対応する	日比谷 秀爾	到達目標:1及び2、 学習方法:グループ討論、その他:授業中に問題を出したり、症例の提示などを行う。
24	4/9	13:30–14:15	遠隔授業(非同期型)	下部消化管の画像検査	下部消化管の画像検査【質問への対応】講義期間中メールで質問を受け付ける	竹中 健人	到達目標:1及び2、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデオ視聴による自主学習
25	4/9	14:25–15:10	遠隔授業(非同期型)	多彩な腸疾患	多彩な腸疾患【質問への対応】講義期間中メールで質問を受け付ける	水谷 知裕	到達目標:1及び2、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデオ視聴による自主学習
26	4/10	13:30–15:00	医学科講義室2	炎症性腸疾患の病態	炎症性腸疾患の病態について【質問への対応】講義の後、直接質問を受け付ける	岡本 隆一	到達目標:1及び2、 学習方法:対面講義
27	4/10	15:25–16:55	4階学生実習室	病理実習(下部消化管)	主要疾患の病理について【質問への対応】実習中に各々質疑応答に対応します。	山本 くらら	到達目標:1、 学習方法:実習、その他:組織学実習室にて組織標本の検鏡と解説
28	4/11	08:50–10:20	医学科講義室2	炎症性腸疾患の臨床	炎症性腸疾患の臨床について【質問への対応】講義の後、直接質問を受け付ける	清水 寛路	到達目標:1及び2、 学習方法:対面講義
29	4/11	10:45–12:15	医学科講義室2	下部消化管の生理学的特性	下部消化管の生理学的特性について【質問への対応】講義の後、直接質問を受け付ける	根本 泰宏	到達目標:1及び2、 学習方法:対面講義
30	4/11	13:30–14:15	遠隔授業(非同期型)	小腸疾患	小腸疾患【質問への対応】講義期間中メールで質問を受け付ける	大塚 和朗	到達目標:1及び2、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデオ視聴による自主学習
31	4/11	14:25–15:10	遠隔授業(非同期型)	遺伝性大腸癌・GIST/NET	遺伝性大腸癌・GIST/NET【質問への対応】講義期間中メールで質問を受け付ける	加納 嘉人	到達目標:1及び2、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデオ視聴による自主学習
32	4/14	08:50–10:20	医学科講義室2	食道癌の病態生理	食道癌の病態生理【質問への対応】講義の後、直接質問を受け付	藤原 尚志	到達目標:1及び2、 学習方法:対

					ける		面講義
33	4/14	10:45-12:15	医学科講義室2	上部消化管の救急+ミニケース	上部消化管の救急をグループワークで学習する【質問への対応】その場で対応する	中堤 啓太	到達目標:1及び2、 学習方法:グループ討論、その他:授業中に問題を出したり、症例の提示などを行う。
34	4/14	13:30-14:15	遠隔授業(非同期型)	上部消化管の臨床解剖学	'基本的な解剖学的事項の復習と、臨床的に重要と考えられる事項の確認【質問への対応】WebClassに、リアクションペーパーを用意してあるので活用してください.	秋田 恵一	到達目標:1、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデオ視聴による自主学習
35	4/14	14:25-15:10	遠隔授業(非同期型)	胃癌の病態生理	胃癌の病態生理【質問への対応】【質問への対応】講義期間中メールで質問を受け付ける	奥野 圭祐	到達目標:1及び2、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデオ視聴による自主学習
36	4/14	15:25-16:10	遠隔授業(非同期型)	胃癌の集学的治療	胃癌の集学的治療【質問への対応】講義期間中メールで質問を受け付ける	奥野 圭祐	到達目標:1及び2、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデオ視聴による自主学習
37	4/15	08:50-10:20	医学科講義室2	食道癌の内視鏡治療	食道癌の内視鏡治療【質問への対応】講義の後、直接質問を受け付ける	川田 研郎	到達目標:1及び2、 学習方法:対面講義
38	4/15	10:45-12:15	医学科講義室2	ミニケース(食道・胃の良性疾患)	食道・胃の良性疾患をグループワークで学習する【質問への対応】その場で対応する	岡田 英理子	到達目標:1及び2、 学習方法:グループ討論、その他:授業中に問題を出したり、症例の提示などを行う。
39	4/16	08:50-10:20	医学科講義室2	食道癌の集学的治療	食道癌の集学的治療【質問への対応】講義の後、直接質問を受け付ける	小郷 泰一	到達目標:1及び2、 学習方法:対面講義
40	4/16	10:45-12:15	4階学生実習室	病理実習(上部消化管)	主要疾患の病理について【質問への対応】実習中に各々質疑応答に対応します。	山本 くらら	到達目標:1、 学習方法:実習、その他:組織学実習室にて組織標本の検鏡と解説

41	4/16	13:30–14:15	遠隔授業（非同期型）	胃癌の分子生物学	胃癌の分子生物学【質問への対応】講義期間中メールで質問を受け付ける	田中 真二	到達目標:1、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデオ視聴による自主学習
42	4/16	14:25–15:10	遠隔授業（非同期型）	食道・胃術後の栄養管理	食道・胃術後の栄養療法【質問への対応】講義期間中メールで質問を受け付ける	杉原 華織	到達目標:1及び2、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデオ視聴による自主学習
43	4/16	15:25–16:10	遠隔授業（非同期型）	胃癌の内視鏡治療	胃癌の内視鏡治療【質問への対応】講義期間中メールで質問を受け付ける	福田 将義	到達目標:1及び2、 学習方法:非同期ビデオ、学習方法:非同期ビデオ視聴による自主学習
44	4/17	13:30–15:00	医学科講義室2	外科診断学・症候学、肝胆膵悪性腫瘍 ミニケース	症例を通じて検査や鑑別診断などをグループワークで学習する【質問への対応】その場で対応する	伴 大輔	到達目標:1及び2、 学習方法:グループ討論、その他:授業中に問題を出したり、症例の提示などを行う。
45	5/12	10:45–12:15	医学科講義室2	試験		岡本 隆一	

授業方法

対面型講義、討論型アクティブラーニング、病理実習、非同期型授業により構成される。討論型アクティブラーニングにおいては、グループにより議論して回答する内容も含まれるので、学生各々が積極的に講義・討論へ参加し、自己学習を行うこと。

授業内容

授業スケジュール参照。ミニケース、病理実習、集中討論などの講義では討論主体のアクティブラーニングが実施される。各講義への積極的な参加によって、学習効率はより高くなるものと期待する。

成績評価の方法

知識を確かめるための筆記試験を最終日に実施する。

成績評価の基準

・ 最終日に行われる筆記試験において6割の得点を合格基準とする。

・ 筆記試験は各講義・自主学習資料で強調して扱った内容に関する問題が含まれ、全問題に均等に配点する。

(B より上の評価を受けるための基準)

筆記試験の合格基準に加え、講義への参加、アクティブラーニング、事後課題への対応を加味する。

準備学習等についての具体的な指示

消化器領域の解剖学・生理学について復習しておくこと。学生各々が積極的に講義・討論へ参加し、自己学習をすること。各々の自己学習の程度によって達成度が左右されるので、積極的・効率的な学習が達成できるよう期待する。教科書・参考書は内科学・外科学の一般的なものを下記に示すが、授業で直接用いるのではなく、これらは自己学習のために利用すること。

試験の受験資格

・ 出席の有無を確認しない。試験は対面型講義、討論型アクティブラーニング、病理実習、および webclass 掲載の非同期型授業の内容から出題する. このため、対面型講義、アクティブラーニング、病理実習に積極的に参加するとともに、非同期型授業資料を参照し学習すること。

・病気などの特別な事情がある場合は医学教務係及び科目責任者に連絡すること。

教科書

Harrison's principles of internal medicine (第 21 版)／editors, J. Larry Jameson ... [et al.],Jameson, J. Larry,Fauci, Anthony S.,Kasper, Dennis L,Hauser, Stephen L.,Longo, D. L.,Loscalzo, Joseph,:McGraw-Hill Education, 2022

内科學 = Asakura internal medicine (第 12 版)／矢﨑義雄, 小室一成 総編集,渥美達也, 神田隆, 神田善伸, 木下芳一, 須永眞司, 竹内靖博, 竹原徹郎, 南学正臣, 長谷川好規, 松本哲哉, 楽木宏実, 綿田裕孝 編集,矢崎, 義雄, 1938-,小室, 一成, 1957-,渥美, 達也,神田, 隆, 1956-,神田, 善伸, 1967-,木下, 芳一, 1955-,須永, 真司,竹内, 靖博,竹原, 徹郎, 1959-,南学, 正臣, 1964-,長谷川, 好規,松本, 哲哉, 1962-,楽木, 宏実,綿田, 裕孝,:朝倉書店, 2022

NEW 外科学 = NEW Surgery (改訂第 3 版)／出月康夫, 古瀬彰, 杉町圭蔵 編,出月, 康夫, 1934-,古瀬, 彰, 1936-,杉町, 圭蔵, 1938-,:南江堂, 2012

臨床外科学／森岡恭彦 編集 ; 川島康生 編集 ; 森昌造 編集 ; 水戸廸郎 編集,森岡, 恭彦,川島, 康生,森, 昌造,水戸, 廸郎,:朝倉書店, 2006

ハリソン内科学 第 5 版 Vol.2／ﾃﾞﾆｽ Lｶｽﾊﾟｰ ほか 編,福井次矢,黒川清 日本語版監,ﾃﾞﾆｽ.Lｶｽﾊﾟｰ,ﾌｸｲﾂｸﾞﾔ,ｸﾛｶﾜｷﾖｼ,:ﾒﾃﾞｨｶﾙ･ｻｲｴﾝｽ･ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ, 2017

注:教科書と下記に示す参考書の区別は特にしていない

参考書

Sleisenger and Fordtran's gastrointestinal and liver disease : pathophysiology, diagnosis, management／editors, Mark Feldman, Lawrence S. Friedman, Lawrence J. Brandt,Feldman, Mark,Friedman, Lawrence S. (Lawrence Samuel),Brandt, Lawrence J.,:Elsevier, 2021

標準外科学／田邉稔, 池田徳彦, 大木隆生編集,北野, 正剛,坂井, 義治,田邉, 稔(外科学),池田, 徳彦,大木, 隆生,:医学書院, 2022

新臨床外科学／武藤徹一郎, 幕内雅敏 監修,川崎誠治, 佐野俊二, 名川弘一, 野口眞三郎, 平田公一 編,:医学書院, 2006

Schiff's Diseases of the Liver 12th ed.／Eugene R. Schiff:Wiley, 2017

SCHWARTZ'S PRINCIPLES OF SURGERY 11TH edition／F. Charles Brunicardi:McGraw-Hill Education, 2019

Sabiston Textbook of Surgery: The Biological Basis of Modern Surgical Practice, 20th ed.／Courtney M. Townsend Jr:Saunders, 2016

TNM 悪性腫瘍分類カラーアトラス／Philip Rubin, John T.Hansen [著],杉原健一, 秋田恵一 監訳,Rubin, Philip, 1927-,Hansen, John T,杉原, 健一, 1938-,秋田, 恵一, 1962-,:丸善出版, 2014

食道アカラシア取扱い規約 日本食道学会 編 ISBN 978-4307203005 第 4 版

胃食道逆流症(GERD)診療ガイドライン 2021 改訂第 3 版 日本消化器病学会 編 ISBN 978-4-524-22741-9

食道癌診断・治療ガイドライン 日本食道学会編 金原出版 ISBN 978-4-307-20453-8 (2022)

臨床・病理食道癌取扱い規約 日本食道学会編 金原出版 ISBN 978-4-307-20461-3 (2022 年第 12 版)

H.pylori 感染の診断と治療のガイドライン 2024 改訂版 先端医学社 ISBN 978-4-86550-655-6

胃癌取扱い規約(第 15 版)日本胃癌学会編 ISBN 978-4307203753

胃癌治療ガイドライン 医師用 (2021 年 7 月改訂 第 6 版)日本胃癌学会編 ISBN 978-4307204286

炎症性腸疾患(IBD)診療ガイドライン 2020 改訂第 2 版 日本消化器病学会編 ISBN 978-4-524-22706-8

大腸癌治療ガイドライン医師用 2024 年版 大腸癌研究会 編 ISBN 978-4-307-20482-8

遺伝性大腸癌診療ガイドライン 2020 年版 大腸癌研究会 編 ISBN 978-4-307-20415-6

肝硬変診療ガイドライン 2020 日本消化器病学会編 ISBN 978-4524225453

科学的根拠に基づく肝癌診療ガイドライン 日本肝臓学会 編 ISBN 978-4307204408 (2021) 年版

エビデンスに基づいた胆道癌診療ガイドライン【改訂第 3 版】日本肝胆膵外科学会胆道癌診療ガイドライン作成委員会 編 ISBN 978-4865173239

科学的根拠に基づく膵癌診療ガイドライン 日本膵臓学会膵癌診療ガイドライン改訂委員会編 ISBN 978-4307204545(2022)

大腸癌取扱い規約【第 9 版】. 大腸癌研究会(編) 金原出版、2018 年 ISBN 978-4-307-20389-0

原発性肝癌取扱い規約 日本肝癌研究会編 金原出版 ISBN 978-4-307-20394-4 (2019 年第 6 版補訂版)

膵癌取扱い規約【第 8 版】. 日本膵臓学会(編) 金原出版、978-4-307-20473-6

胆道癌取扱い規約【第 7 版】. 日本肝胆膵外科学会(編) 金原出版、978-4-307-20426-2

その他、関連した解剖学、生理学、生化学、病理学、薬理学で用いられている教科書

他科目との関連

解剖学、生理学、生化学、病理学、薬理学、画像診断学

履修上の注意事項

学生各々が積極的に授業に参加し、自己学習をすること。各々の自己学習の程度によって達成度が左右されるので、積極的・効率的な学

習が達成できるよう期待します。

備考

2024 年度のコース評価を受け 2025 年度は授業方法の見直しなどの改定を行なった。

担当者連絡先は Webclass 参照のこと。

参照ホームページ

難治性疾患等政策研究事業　難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班

http://www.ibdjapan.org

連絡先（メールアドレス）

岡本　隆一:rokamoto.gast@tmd.ac.jp

オフィスアワー

岡本　隆一:毎週　月曜日 AM 10:00−14:00

時間割番号	011061				
科目名	腎臓・泌尿器			**科目 ID**	
担当教員					
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	3	**単位数**	3
実務経験のある教員による授業	該当する				

主な講義場所

対面講義については 3 号館「医学科講義室 2」にて行う。非同期講義は WebClass にて配信する。

授業の目的、概要等

腎臓内科領域においては、体液制御機構など腎臓機能の基礎から多様な腎疾患について病態生理を主として学ぶ。講義と病理実習により基本的知識を取得し、これらの知識をもとに実際の症例における病態生理を PBL（問題基盤型学習）、ミニケース（ケーススタディー）を通して学ぶ。

泌尿器科領域においては、主な領域（腫瘍、排尿生理、結石・感染、生殖生理等）についての系統講義、および泌尿器腫瘍の病理実習により、医学生として必要な知識を身につける。ミニケースにより、系統講義や病理実習で身につけた知識を統合させ、討論する力を養う。

授業の到達目標

1）腎、泌尿器領域疾患の病態生理を理解する。

2）病態生理に基づいて、疾患の症候、経過、治療法を理解する。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

腎臓内科

GE-01-01)01,02,03,04,05,06

GE-01-04)01,02,05

PS-01-04)14

PS-02-02)02,04,05

PS-02-03)05

PS-02-04)05

PS-02-06)01,02,05

PS-02-07)02,05

PS-02-09)01,02,03,04,05

PS-02-10)02

PS-02-14)01,03,05

PS-03-02)01,02,03,04,05

PS-03-05)02,03

CS-01-01)02

CS-01-02)04,05

CS-02-01)01,02

CS-02-02)01,02

CS-02-03)01,02,03,04,05,07

CS-02-04)01,41,42,43,44

CS-03-06)01,02

CM-02-02)01

IP-01-03)01

泌尿器科
PS-02-09)01,03,05
PS-02-10)01,05
PS-02-14)01,05
PS-03-03)01,02,04,06,07,18
PS-03-04)01,04,05,06,07,08,15,23,24,25,26,27
CS-02-02)01,02
CS-02-04)01

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[IV-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる
[V-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[V-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる
[V-3-C]症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応／合併症／限界)を提示できる
[V-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる
[V-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[VI-8-C]主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる
[VI-15-C]臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/18	08:50-09:35	医学科講義室 2	コース説明・基礎医学復習テスト	飯盛　聡一郎	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義 【事前学習】各自生理学教科書の体液制御に関する部分や腎・泌尿器に関する解剖学的知識

						をあらかじめ自習・復習しておくこと。
2	4/18	09:45–10:30	医学科講義室２	腎疾患症候・検査	池ノ内 健	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義 【事前学習】web class の事前配布資料
3	4/18	10:45–11:30	医学科講義室２	電解質制御1	森 崇寧	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義 【事前学習】web class の事前配布資料
4	4/18	11:40–12:25	医学科講義室２	電解質制御2	森 崇寧	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義 【事前学習】web class の事前配布資料
5	4/21	08:50–09:35	医学科講義室２	腎炎・ネフローゼ1	内藤 省太郎	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義 【事前学習】web class の事前配布資料
6	4/21	09:45–10:30	医学科講義室２	腎炎・ネフローゼ2	内藤 省太郎	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義 【事前学習】web class の事前配布資料
7	4/21	10:45–11:30	医学科講義室２	急性腎障害	萬代 新太郎	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義 【事前学習】web class の事前配布資料
8	4/21	11:40–12:25	医学科講義室２	酸・塩基平衡異常	森 雄太郎	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義 【事前学習】web class の事前配布資料
9	4/21	13:30–14:15	遠隔授業（非同期型）	腎炎・ネフローゼ3	内藤 省太郎	【到達目標】1), 2) 【学習方法】非同期型 【事前学習】web class の事前配布資料
10	4/22	08:50–09:35	医学科講義室２	二次性腎疾患1	飯盛 聡一郎	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義 【事前学習】web class の事前配布資料
11	4/22	09:45–10:30	医学科講	二次性腎疾患2	飯盛 聡一郎	【到達目標】1), 2)

			義室２			【学習方法】対面講義 【事前学習】web class の事前配布資料
12	4/22	10:45-11:30	医学科講義室２	慢性腎臓病1	蘇原 映誠	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義 【事前学習】web class の事前配布資料
13	4/22	11:40-12:25	医学科講義室２	血液浄化・腎移植	内藤 省太郎	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義 【事前学習】web class の事前配布資料
14	4/23	08:50-09:35	医学科講義室２	尿細管疾患・嚢胞性腎疾患	須佐 紘一郎	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義 【事前学習】web class の事前配布資料
15	4/23	09:45-10:30	医学科講義室２	輸液療法	安藤 史顕	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義 【事前学習】web class の事前配布資料
16	4/23	10:45-11:30	医学科講義室２	ミニケース1	藤木 珠美	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義 【事前学習】web class の事前配布資料
17	4/23	11:40-12:25	医学科講義室２	ミニケース2	菊池 寛昭	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義 【事前学習】web class の事前配布資料
18	4/23	13:30-14:15	遠隔授業（非同期型）	二次性腎疾患3	飯盛 聡一郎	【到達目標】1), 2) 【学習方法】非同期型 【事前学習】web class の事前配布資料
19	4/23	14:25-15:10	遠隔授業（非同期型）	慢性腎臓病2	蘇原 映誠	【到達目標】1), 2) 【学習方法】非同期型 【事前学習】web class の事前配布資料
20-21	4/24	13:30-16:55	医学科講義室２	病理実習	田口 登和子	【到達目標】1), 2) 【学習方法】実習 【事前学習】web class の事前配布資料

22	4/25	08:50–09:35	医学科講義室2	PBL	飯盛 聡一郎	【到達目標】1), 2)【学習方法】グループ討論 【事前学習】web classの事前配布資料
23	4/25	09:45–10:30	医学科講義室2	PBL	飯盛 聡一郎	【到達目標】1), 2)【学習方法】グループ討論 【事前学習】web classの事前配布資料
24	4/25	10:45–11:30	医学科講義室2	PBL	飯盛 聡一郎	【到達目標】1), 2)【学習方法】グループ討論 【事前学習】web classの事前配布資料
25	4/25	11:40–12:25	医学科講義室2	PBL	飯盛 聡一郎	【到達目標】1), 2)【学習方法】グループ討論 【事前学習】web classの事前配布資料
26	4/28	08:50–09:35	医学科講義室2	PBL 発表	飯盛 聡一郎	【到達目標】1), 2)【学習方法】課題発表 全体討論 【事前学習】web classの事前配布資料
27	4/28	09:45–10:30	医学科講義室2	PBL 発表	飯盛 聡一郎	【到達目標】1), 2)【学習方法】課題発表 全体討論 【事前学習】web classの事前配布資料
28	4/28	10:45–11:30	医学科講義室2	PBL 発表	飯盛 聡一郎	【到達目標】1), 2)【学習方法】課題発表 全体討論 【事前学習】web classの事前配布資料
29	4/28	11:40–12:25	医学科講義室2	PBL 総括	飯盛 聡一郎	【到達目標】1), 2)【学習方法】対面講義 【事前学習】web classの事前配布資料
30	4/30	08:50–09:35	遠隔授業（非同期型）	副腎腫瘍	安田 庸輔	【到達目標】1), 2)【学習方法】非同期ビデオ 【事前学習】泌尿器に関する生理学・解剖学についての自習・復習 【その

						他】質問は nakamura.uro@tmd.ac.jp
31	4/30	10:45-12:15	医学科講義室2	低侵襲手術、臓器温存治療	藤井 靖久	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義 【事前学習】泌尿器に関する生理学・解剖学についての自習・復習 【その他】質問は y-fujii.uro@tmd.ac.jp
32	4/30	13:30-15:00	遠隔授業(非同期型)	感染・結石・救急	早稲田 悠馬	【到達目標】1), 2) 【学習方法】非同期ビデオ 【事前学習】泌尿器に関する生理学・解剖学についての自習・復習 【その他】質問は wase.uro@tmd.ac.jp
33	4/30	15:25-16:55	遠隔授業(非同期型)	前立腺癌	福田 翔平	【到達目標】1), 2) 【学習方法】非同期ビデオ 【事前学習】泌尿器に関する生理学・解剖学についての自習・復習 【その他】質問は shouro@tmd.ac.jp
34	5/1	08:50-10:20	遠隔授業(非同期型)	蓄排尿 前立腺肥大・尿路閉塞	福島 啓司	【到達目標】1), 2) 【学習方法】非同期ビデオ 【事前学習】泌尿器に関する生理学・解剖学についての自習・復習 【その他】質問は fukuuro@tmd.ac.jp
35	5/1	10:45-12:15	遠隔授業(非同期型)	精巣腫瘍・陰茎癌	小林 正貴	【到達目標】1), 2) 【学習方法】非同期ビデオ 【事前学習】泌尿器に関する生理学・解剖学についての自習・復習 【その他】質問は kobauro@tmd.ac.jp

36	5/1	13:30–15:00	医学科講義室2	ミニケース(結石)	早稲田　悠馬	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義、全体討論 【事前学習】対応する非同期授業の Webclass 動画視聴
37	5/1	15:25–16:55	医学科講義室2	ミニケース(前立腺癌)	福田　翔平	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義、全体討論 【事前学習】対応する非同期授業の Webclass 動画視聴
38	5/2	08:50–09:35	医学科講義室2	ミニケース(蓄排尿)	福島　啓司	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義、全体討論 【事前学習】対応する非同期授業の Webclass 動画視聴
39	5/2	09:45–10:30	医学科講義室2	ミニケース(精巣腫瘍)	小林　正貴	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義、全体討論 【事前学習】対応する非同期授業の Webclass 動画視聴
40	5/2	10:45–11:30	医学科講義室2	ミニケース(副腎腫瘍)	安田　庸輔	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義、全体討論 【事前学習】対応する非同期授業の Webclass 動画視聴
41	5/2	13:30–15:00	遠隔授業(非同期型)	腎癌	田中　一	【到達目標】1), 2) 【学習方法】非同期ビデオ　【事前学習】泌尿器に関する生理学・解剖学についての自習・復習　【その他】質問は hjtauro@tmd.ac.jp
42	5/2	15:25–16:55	遠隔授業(非同期型)	尿路上皮癌	吉田　宗一郎	【到達目標】1), 2) 【学習方法】非同期ビデオ　【事前学習】泌尿器に関する生理学・解剖学についての自

						習・復習 【その他】質問は s-yoshida.uro@tmd.ac.jp
43	5/7	08:50-10:20	医学科講義室2	ミニケース(腎癌)	田中 一	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義、全体討論 【事前学習】対応する非同期授業の Webclass 動画視聴
44	5/7	10:45-12:15	医学科講義室2	ミニケース(尿路上皮癌)	吉田 宗一郎	【到達目標】1), 2) 【学習方法】対面講義、全体討論 【事前学習】対応する非同期授業の Webclass 動画視聴
45	5/7	13:30-15:00	4階学生実習室	病理実習	木脇 祐子	【到達目標】1), 2) 【学習方法】実習 【事前学習】web class の事前配布資料
46	5/9	08:50-10:20	遠隔授業(非同期型)	男性不妊・先天異常	石川 雄大	【到達目標】1), 2) 【学習方法】非同期ビデオ 【事前学習】泌尿器に関する生理学・解剖学についての自習・復習 【その他】質問は ishikawa.uro@tmd.ac.jp
47	5/9	10:45-12:15	遠隔授業(非同期型)	性機能	松本 峻弥	【到達目標】1), 2) 【学習方法】非同期ビデオ 【事前学習】泌尿器に関する生理学・解剖学についての自習・復習 【その他】質問は s-matsu.uro@tmd.ac.jp
48	5/14	10:45-12:15	医学科講義室2	腎臓内科・病理試験	飯盛 聡一郎	【到達目標】1), 2) 【事前学習】講義、ミニケース、PBL、実習内容
49	5/16	10:45-12:15	医学科講義室2	泌尿器科・病理試験	安田 庸輔	【到達目標】1), 2) 【事前学習】講義、ミニケース、実習

						内容	

授業方法

方法:講義、病理実習、PBL、ミニケース

腎臓内科の講義は対面講義と非同期型講義を行う。PBL ではグループ討論および全体討論を予定している。

泌尿器科の講義は、非同期での系統講義と、対面での講義およびミニケース(講義＋全体討論)にて行う。非同期講義は WebClass でのオンライン配信によって行い、原則 1 週間前までにアップロードされるビデオを各自閲覧して学習する。質問対応についてはそれぞれの担当教員にメールして質問する(授業明細にメールアドレスを記載)。対面でのミニケースの事前学習として、対応する非同期講義の学習を終えておくことが理解を深めるために必須である。

病理実習はバーチャルスライドをサーバー上で操作し行う。

PBL はグループディスカッションを行い、バーチャルスライドにて病理所見を確認する。

講義時に解説や質問への回答を行い、バーチャルスライドと実習資料は実習開始日から試験日まで公開する。

授業内容

授業スケジュール参照

成績評価の方法

腎臓内科領域は最終日の試験によって評価し、基礎医学復習確認テストの点数、ミニケースと PBL の出席や積極性を加点する。

泌尿器科領域は、講義・ミニケースでの学習状況を最終日の試験で評価する。

病理実習の内容は、各腎臓内科・泌尿器科の最終試験の中で試験を行う。

ブロック全体としての評価は腎臓内科 40 点、泌尿器科 40 点、病理 20 点とする。

不正が発覚した場合、アンプロフェッショナルな行為として懲戒の対象となるため、受験資格の取り消しも含め厳正に対処する。

成績評価の基準

60 点以上を合格とし、科目評価基準点として 60 点(評価 B)を与える。合格したなかで得点に応じて、A、A+などの評価を与える。

準備学習等についての具体的な指示

ブロック初日に基礎医学復習の確認テストを行うので、各自生理学教科書の体液制御に関する部分や腎・泌尿器に関する解剖学的知識をあらかじめ自習・復習しておくこと。

試験の受験資格

出席は試験の受験資格の要件としないが、試験問題は講義で取り扱った内容および PBL・ミニケースでの検討内容を中心に作成されるため、病気等でやむを得ず欠席した場合は、WebClass に掲載の講義スライドで自習すること。

教科書

専門医のための腎臓病学／内山, 聖, 1948-,富野, 康日己, 1949-,今井, 裕一, 1951-,柏原, 直樹,金子, 一成,南学, 正臣, 1964-,柳田, 素子, 内山聖, 富野康日己, 今井裕一 監修,柏原直樹, 金子一成, 南学正臣, 柳田素子 編集:医学書院, 2023.6

プロフェッショナル腎臓病学／南学, 正臣, 1964-,南学正臣 編著:中外医学社, 2020.9

Campbell-Walsh-Wein urology／Campbell, Meredith F. (Meredith Fairfax),Walsh, Patrick C.,Wein, Alan J.,Partin, Alan W,Dmochowski, Roger R.,Kavoussi, Louis R.,Peters, Craig (Craig Andrew),:Elsevier, 2021

ベッドサイド泌尿器科学 = Bedside Urology／吉田修 監修,小川修, 岡田裕作, 荒井陽一, 寺地敏郎, 松田公志, 筧善行, 羽渕友則 編集,吉田, 修, 1935-,小川, 修,岡田, 裕作, 1948-,荒井, 陽一, 1953-,:南江堂, 2013

WHO Classification of Tumours, 5th ed., Vol.8 Urinary & Male Genital Tumours／WHO Classification of Tumours Editorial Board:WORLD HEALTH ORGANIZATION, 2022

ISBN 9784885637315

書名　血液透析診療指針

著者名　岡田一義

出版社　東京医学社

出版年　2021

ISBN:9784883787203

書名:泌尿器病理診断アトラス : 臨床と病理の対話で学ぶ

著者名:賀本敏行, 都築豊徳　編著,賀本, 敏行,都築, 豊徳,

出版社:総合医学社

出版年:2021

参考書

エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン／日本腎臓学会,日本腎臓学会 編集:東京医学社, 2023.6
腎臓内科レジデントマニュアル／今井, 圓裕, 1955-,丸山, 彰一,猪阪, 善隆,今井圓裕, 丸山彰一, 猪阪善隆 編著:診断と治療社, 2024.1
腎生検病理アトラス = Kidney biopsy-atlas and text／日本腎病理協会,日本腎臓学会,日本腎病理協会, 日本腎臓学会編集:東京医学社, 2017.8
ロボット支援手術／土谷順彦担当編集委員 ; 荒井陽一 [ほか] 編集委員,土谷, 順彦,荒井, 陽一,高橋, 悟,山本, 新吾,:メジカルビュー社, 2018
腹腔鏡手術／荒井陽一担当編集委員,荒井, 陽一,:メジカルビュー社, 2018
オープンサージャリー／土谷順彦担当編集委員,土谷, 順彦,:メジカルビュー社, 2019
エンドウロロジー／山本新吾担当編集委員,山本, 新吾,:メジカルビュー社, 2018
尿失禁・女性泌尿器科手術／高橋悟担当編集委員,高橋, 悟,:メジカルビュー社, 2020
尿路変向・再建術／荒井陽一担当編集委員,荒井, 陽一,:メジカルビュー社, 2019
陰茎・陰嚢・アンドロロジーの手術／高橋悟担当編集委員,高橋, 悟,:メジカルビュー社, 2021
ISBN 9784830620652
書名 ケースで学ぶ 実践！水・電解質診療
著者名 和田健彦
出版社 文光堂
出版年 2022

ISBN 9784525258016
書名 ジョーシキ!腎病理診断エッセンシャル
著者名 城謙輔
出版社 南山堂
出版年 2020

ISBN 9784885637223
書名 腎生検ガイドブック 2020
著者名 日本腎臓学会腎生検ガイドブック改訂委員会
出版社 東京医学社
出版年 2020

過活動膀胱診療ガイドライン 第3版 日本排尿機能学会・日本泌尿器科学会 編 リッチヒルメディカル 2022年
泌尿器外傷診療ガイドライン 2022年版 日本泌尿器科学会 編 医学図書出版 2022年
尿路管理を含む泌尿器科領域における感染制御ガイドライン 第 2 版 日本泌尿器科学会尿路管理を含む泌尿器科領域における感染制御ガイドライン作成委員会 編 メディカルレビュー社 2022年
陰茎癌診療ガイドライン 2021年版 日本泌尿器科学会 編 医学図書出版 2021年
夜間頻尿診療ガイドライン 第2版 日本排尿機能学会・日本泌尿器科学会 編 リッチヒルメディカル 2020年
女性下部尿路症状診療ガイドライン 第2版 日本排尿機能学会・日本泌尿器科学会 編 リッチヒルメディカル 2019年
膀胱癌診療ガイドライン 2019年版 日本泌尿器科学会 編 医学図書出版 2019年
間質性膀胱炎・膀胱痛診療ガイドライン 2019年版 日本間質性膀胱炎研究会・日本泌尿器科学会 編 リッチヒルメディカル 2019年
前立腺がん検診ガイドライン 2018年版 日本泌尿器科学会 編 メディカルレビュー社 2018年
ED診療ガイドライン 日本性機能学会・日本泌尿器科学会 編 リッチヒルメディカル 2018年
腎癌診療ガイドライン 2017年版 日本泌尿器科学会 編 メディカルレビュー社 2018年
男性下部尿路症状・前立腺肥大症ガイドライン 日本泌尿器科学会 編 リッチヒルメディカル 2017年
前立腺癌診療ガイドライン 2016年版 日本泌尿器科学会 編 メディカルレビュー社 2016年
精巣腫瘍診療ガイドライン 2015年版 日本泌尿器科学会 編 金原出版 2015年
腎盂・尿管癌診療ガイドライン 2014年版 日本泌尿器科学会 編 メディカルレビュー社 2014年
尿路結石診療ガイドライン 第2版 2013年版 日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会・日本尿路結石症学会 編 金原出版 2013年

前立腺癌取扱い規約 第 5 版 日本泌尿器科学会・日本病理学会・日本医学放射線学会 編 メディカルレビュー社 2022 年 ISBN

978-4-7792-2657-1

腎盂・尿管・膀胱癌取扱い規約 第 2 版 日本泌尿器科学会・日本病理学会・日本医学放射線学会・日本臨床腫瘍学会 編 医学図書出版 2021 年 ISBN 978-4-86517-427-4

腎癌癌取扱い規約 第 5 版 日本泌尿器科学会・日本病理学会・日本医学放射線学会 編 メディカルレビュー社 2021 年 ISBN 978-4-7792-2289-4

精巣腫瘍取扱い規約 第 4 版 日本泌尿器科学会・日本病理学会・日本医学放射線学会・日本臨床腫瘍学会 編 金原出版 2018 年 ISBN 978-4-307-43061-6

副腎腫瘍取扱い規約 第 3 版 日本泌尿器科学会・日本病理学会・日本医学放射線学会・日本内分泌学会 編 金原出版 2015 年 ISBN 978-4-307-43056-2

備考

PBL に参加しない学生に対して、真面目に討論して発表資料を作成した学生より不公平という指摘があったため、PBL の出席と積極性については評価の対象としている。

時間割番号	011064				
科目名	内分泌・代謝			**科目 ID**	
担当教員					
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	3	**単位数**	2
実務経験のある教員による授業	該当する				

主な講義場所

オンラインによる遠隔講義/非同期授業

授業の目的、概要等

「ホルモン」の分泌・代謝・作用とエネルギー代謝調節機構、それらの破綻により発症する内分泌・代謝疾患の成因・診断・治療/予防について習得することを目的とする。

授業の到達目標

1)内分泌器官とホルモンに関する基本知識の習得
2)生体の恒常性維持機構に関する理解
3)内分泌疾患および代謝疾患の病態生理の把握
4)内分泌器官の形態学と画像診断学の基本原理の理解
5)ホルモンの生化学、生理学、薬理学、分子生物学に関する知識の習得
6)各臓器別内分泌疾患の特徴と治療法の理解
7)代謝疾患(糖尿病、脂質異常症など)の原因と治療法の把握

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

GE-01-04)05
GE-03-04)02,03,04
PS-02-03)01,02,03,04,05
PS-02-05)01,02,03
PS-02-06)02
PS-02-17)02,03,04,05
PS-03-01)02,03
PS-03-05)08,15
IT-01-02)01
CS-01-01)01,02,03
CS-01-02)01,02,03,04,05,
CS-02-01)01,02
CS-02-02)01,02,03,04
CS-02-03)04,07
CS-02-04)01,19,20,21,22,23,24,25,26,27,49
CS-03-02)01
CS-03-03)01,02
CS-03-06)01,02
CS-05-04)02
CM-01-01)01,02

CM-03-01)03

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[IV-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる
[V-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[V-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる
[V-3-C]症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識（適応／合併症／限界）を提示できる
[V-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法（薬物療法、非薬物療法の双方を含む）に関する知識を提示できる
[V-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[VI-8-C]主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる
[VI-15-C]臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	9/11	13:30-14:15	遠隔授業（同期型）	内分泌学総論	池田　賢司	
2	9/11	14:25-15:10	遠隔授業（同期型）	高血圧	池田　賢司	
3	9/11	15:25-16:10		自習		
4	9/11	16:20-17:05		自習		
5	9/12	08:50-09:35	遠隔授業（同期型）	糖尿病・代謝疾患総論 病態と増加の背景	山田　哲也	
6	9/12	09:45-10:30	遠隔授業（同期型）	糖尿病の成因・診断・病態解析・検査	山田　哲也	
7	9/12	10:45-11:30	遠隔授業（同期型）	ホルモン受容体異常症	杉山　徹	
8	9/12	11:40-12:25	遠隔授業（同期型）	多発性内分泌腫瘍とホルモン産生腫瘍	泉山　肇	
9	9/16	08:50-09:35		予備枠		
10	9/16	09:45-10:30	遠隔授業	骨カルシウム代謝	辻本　和峰	

			(非同期型)			
11	9/16	10:45-11:30	遠隔授業(同期型)	糖尿病の慢性合併症(細小血管障害)	山田 哲也	
12	9/16	11:40-12:25		予備枠		
13	9/17	08:50-09:35	遠隔授業(同期型)	糖尿病の治療法	山田 哲也	
14	9/17	09:45-10:30	遠隔授業(同期型)	糖尿病治療薬総論	山田 哲也	
15	9/17	10:45-11:30		自習		
16	9/17	11:40-12:25		自習		
17	9/17	13:30-14:15		予備枠		
18	9/17	14:25-15:10	遠隔授業(同期型)	骨代謝からみた内分泌代謝学	竹内 靖博	
19	9/18	13:30-14:15	遠隔授業(同期型)	肥満とやせ	菅波 孝祥	
20	9/18	14:25-15:10	遠隔授業(同期型)	臨床栄養学	南 勲	
21	9/18	15:25-16:10	遠隔授業(同期型)	副腎疾患 2	村上 正憲	
22	9/18	16:20-17:05	遠隔授業(同期型)	副腎疾患1	村上 正憲	
23	9/19	08:50-09:35		予備枠		
24	9/19	09:45-10:30	遠隔授業(同期型)	視床下部・下垂体疾患 1	池田 賢司	
25	9/19	10:45-11:30	遠隔授業(同期型)	視床下部・下垂体疾患 2	池田 賢司	
26	9/19	11:40-12:25	遠隔授業(同期型)	甲状腺疾患 1	橋本 貢士	
27	9/22	08:50-09:35	遠隔授業(同期型)	甲状腺疾患 2	橋本 貢士	
28	9/22	09:45-10:30	遠隔授業(同期型)	TBL	池田 賢司	TBL
29	9/22	10:45-11:30	遠隔授業(非同期型)	脂質代謝異常	小宮 力	
30	9/22	11:40-12:25	遠隔授業(同期型)	糖尿病の治療法:最先端研究と医師の両立	山田 哲也	
31-32	10/8	10:45-12:25	医学科講義室 2	筆記試験	山田 哲也	

授業方法

授業には、当該日に行われる内容に対応する参考書等を用いて、予習してから臨むことが望ましい。講義は、各回の中で重要なこと、発展的なことを中心に行う。基本的なことで、参考書等を見れば簡単にわかるようなことは自習に任せる。筆記試験に先立ち、TBL にて知識の確認を行い定着をはかる。

非同期型授業での質問については kikeda.mem@tmd.ac.jp にて受け付けを行い、返信にて回答を行う。

授業内容

別表(講義予定表)を参照

成績評価の方法

筆記試験(コアカリキュラムの内容に準じ、医師国家試験に準拠した出題形式)の結果に基づき、TBL の結果も考慮して総合的に合否判定

します。
成績評価の基準 筆記試験(コアカリキュラムの内容に準じ、医師国家試験に準拠した出題形式)の結果に基づき、TBL の結果も考慮し総合点で、6 割を B、7～8 割を A、9 割より上を A＋、と評価します。
準備学習等についての具体的な指示 講義の前に、少なくともひとつの下記参考書の該当する項を読んでおくこと。
試験の受験資格 特に出席は取りません。しかし、試験は全ての授業項目から出題されるため、病気等で やむを得ず欠席した場合は、WebClass に掲載の講義スライドで自習してください。
教科書 特に指定はないが、下記参考図書のうち少なくとも一つを所持してほしい。
参考書 病気がみえる vol3 糖尿病・代謝・内分泌／橋詰直孝、他/監修:メディックメディア, 2014 講義録内分泌・代謝学／寺本 民生/編集,片山 茂裕/編集,:メジカルビュー社, 2005 新臨床内科学／貫和敏博 [ほか]編,高久史麿, 尾形悦郎, 黒川清, 矢崎義雄 監修,:医学書院, 2009 内科学書 = Standard Textbook of Internal Medicine／小川聡 総編集,:中山書店, 2013
履修上の注意事項 内分泌・代謝学は基礎と臨床の距離が最も近い学問であり、生体情報伝達分子である「ホルモン」に関する生化学、生理学あるいは薬理学を意識して受講してほしい。講義では受け身ではなく、担当講師に積極的に疑問をぶつけて自らで解決してほしい。
備考 非同期授業の要望が多かったため、今期から増やすようにしています
参照ホームページ http://www.tmd.ac.jp/grad/cme/index.html

時間割番号	011065				
科目名	血液・腫瘍			**科目 ID**	
担当教員	森 毅彦, 磯田 健志, 梅澤 佳央, 佐藤 信吾, 山本 浩平, 野里 洵子, 吉藤 康太, 松原 大五郎, 雁金 大樹, 田中 圭祐, 篠村 一磨, 山下 知子, 髙木 正稔, 神谷 尚宏, 三浦 雅彦, 長野 拓也, 末永 光邦, 加納 嘉人, 池田 貞勝, 桑原 宏文, 浜本 康夫, 長尾 俊景[MORI Takehiko, ISODA Takeshi, UMEZAWA Yoshihiro, SATO Shingo, YAMAMOTO Kohei, NOZATO Junko, YOSHIFUJI Kota, MATSUBARA Daigoro, KARIGANE Daiki, TANAKA Keisuke, TAKAGI Masatoshi, KAMIYA Takahiro, MIURA Masahiko, NAGANO Takuya, SUENAGA Mitsukuni, KANO Yoshihito, IKEDA Sadakatsu, KUWABARA Hirofumi, HAMAMOTO Yasuo, NAGAO Toshikage]				
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	3	**単位数**	2
実務経験のある教員による授業	該当する				

教員によっては出席を取る可能性あり。
試験は全ての授業項目から出るため、欠席した場合は、WebClass に掲載の講義スライドで自習すること。
授業日程表には対面および遠隔同期のものみが示されており、それ以外にも多くの非同期動画があり、これらを「非同期講義視聴・自習」と記載されている時間等を使って、全て視聴して、その内容を習得する。
なお、「非同期講義視聴・自習」の欄の担当医はブロック責任者である森 毅彦となっているが、非同期動画は複数の教員が担当したものが用意されている。

主な講義場所
講義室あるいはオンラインによる遠隔講義(同期・非同期)

授業の目的、概要等
血液内科学(成人および小児)・放射線治療学・臨床腫瘍学・緩和ケア心身医療学・病理学において医師・専門医として活躍できる基礎的知識を習得すること。造血器全般の成り立ちと働きを理解する。

授業の到達目標

1)血算・凝固検査の見方とそこから想定される病態を理解する。
2)各血液疾患(成人および小児)の病態、診断、治療法を理解する。
3)悪性腫瘍(造血器腫瘍を含む)に対するがん薬物療法、がんゲノム診療を理解する。
4)悪性腫瘍(造血器腫瘍を含む)に対する放射線治療学の原理、効果、副作用などを理解する。
5)緩和ケアに関する基礎を習得する。
6)血液疾患・悪性腫瘍の病理学の知識を習得する。
7)悪性腫瘍患者における緩和ケア、心身医療の基礎を習得する。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

GE-01-06)01,02,03,04,05
GE-03-06)02,03,04,05,06
PS-02-02)01,02,03,04,05
PS-02-06)02
PS-02-07)01
PS-02-12)01,02,03,04
PS-02-14)05
PS-03-02)02,04
PS-03-04)01,04,05,06,07,08,09,23,24,25,26,27
CS-01-02)02
CS-02-02)01,02,03,04
CS-02-03)07
CS-02-04)01,09,10,12,13,15,41,44,49
CS-03-01)01
CS-03-03)01

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル

[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[IV-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる

[V-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[V-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる
[V-3-C]症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応／合併症／限界)を提示できる
[V-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる
[V-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[VI-8-C]主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる
[VI-15-C]臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	7/14	08:50-09:35	医学科講義室2	非同期講義視聴・自習	非同期講義視聴・自習	森 毅彦	【到達目標】1～7) 【学習方法】非同期動画視聴
2	7/14	09:45-10:30	医学科講義室2	血液疾患と遺伝子異常		雁金 大樹	【到達目標】1～3) 【学習方法】講義視聴
3	7/14	10:45-11:30	医学科講義室2	造血幹細胞とクローン造血		雁金 大樹	【到達目標】1～3) 【学習方法】講義視聴
4	7/14	11:40-12:25	医学科講義室2	非同期講義視聴・自習	非同期講義視聴・自習	森 毅彦	【到達目標】1～7) 【学習方法】非同期動画視聴
5	7/15	08:50-09:35	4階学生実習室	病理実習		山本 浩平	【到達目標】6) 【学習方法】講義視聴
6	7/15	09:45-10:30	4階学生実習室	病理実習		山本 浩平	【到達目標】6) 【学習方法】講義視聴
7	7/15	10:45-11:30	医学科講義室2	リンパ系疾患-1 多発性骨髄腫と類縁疾患等		吉藤 康太	【到達目標】1～3) 【学習方法】講義視聴
8	7/15	11:40-12:25	医学科講義室2	凝固・止血異常(成人)		山下 知子	【到達目標】1)2) 【学習方法】講義視聴
9	7/16	08:50-09:35	医学科講義室2	血液疾患概論・赤血球系疾患ー1 貧血(造血不全以外)		森 毅彦	【到達目標】1)2) 【学習方法】講義視聴
10	7/16	09:45-10:30	医学科講義室2	赤血球系疾患ー2 造血不全・MDS		田中 圭祐	【到達目標】1)2) 【学習方法】講義視聴
11	7/16	10:45-11:30	医学科講義室2	白血球系疾患-2 急性白血病		森 毅彦	【到達目標】1～3) 【学習方法】講義視聴
12	7/16	11:40-12:25	医学科講義室2	リンパ系疾患-2 悪性リンパ腫		森 毅彦	【到達目標】1～3) 【学習方法】講義視聴
13	7/18	08:50-09:35	遠隔授業(同期型)	放射線治療各論-1		松原 大五郎	【到達目標】4) 【学習方法】講義

							視聴
14	7/18	09:45–10:30	遠隔授業（同期型）	放射線治療各論-2		篠村 一磨	【到達目標】4）【学習方法】講義視聴
15	7/18	10:45–11:30	医学科講義室２	ケーススタディー（小児科）		磯田 健志	【到達目標】1～3）【学習方法】グループ議論あるいは全体議論
16	7/18	11:40–12:25	医学科講義室２	ケーススタディー（小児）		磯田 健志	【到達目標】1～3）【学習方法】グループ議論あるいは全体議論
17	7/22	08:50–09:35	遠隔授業（非同期型）	非同期講義視聴・自習		森 毅彦	【到達目標】1～7）【学習方法】非同期動画視聴
18	7/22	09:45–10:30	遠隔授業（同期型）	緩和ケア・心身医療科（1）		野里 洵子	【到達目標】5）7）【学習方法】講義視聴
19	7/22	10:45–11:30	遠隔授業（同期型）	緩和ケア・心身医療科（2）		佐藤 信吾	【到達目標】5）7）【学習方法】講義視聴
20	7/22	11:40–12:25	遠隔授業（非同期型）	非同期講義視聴・自習		森 毅彦	【到達目標】1～7）【学習方法】非同期動画視聴
21	7/23	08:50–09:35	医学科講義室２	造血幹細胞移植		森 毅彦	【到達目標】1～3）【学習方法】講義視聴
22	7/23	09:45–10:30	医学科講義室２	血液疾患の合併症		森 毅彦	【到達目標】1～3）【学習方法】講義視聴
23	7/23	10:45–11:30	医学科講義室２	ケーススタディー（成人）		森 毅彦	【到達目標】1～3）【学習方法】グループ議論あるいは全体議論
24	7/23	11:40–12:25	医学科講義室２	ケーススタディー（成人）		森 毅彦	【到達目標】1～3）【学習方法】グループ議論あるいは全体議論
25	7/24	13:30–14:15	遠隔授業（非同期型）	非同期講義視聴・自習		森 毅彦	【到達目標】1～7）【学習方法】非同期動画視聴
26	7/24	14:25–15:10	遠隔授業（非同期型）	非同期講義視聴・自習		森 毅彦	【到達目標】1～7）【学習方法】非同期動画視聴
27	7/25	08:50–09:35	遠隔授業（非同期型）	非同期講義視聴・自習		森 毅彦	【到達目標】1～7）【学習方法】非同期動画視聴
28	7/25	09:45–10:30	医学科講義室２	血液疾患に対する最新の治療		梅澤 佳央	【到達目標】1～3）【学習方法】講義

							視聴
29	7/25	10:45-11:30	遠隔授業（非同期型）	非同期講義視聴・自習		森 毅彦	【到達目標】1～7）【学習方法】非同期動画視聴
30	7/25	11:40-12:25	遠隔授業（非同期型）	非同期講義視聴・自習		森 毅彦	【到達目標】1～7）【学習方法】非同期動画視聴
31	8/6	13:30-14:30	医学科講義室 2	評価(60 分)	試験	森 毅彦	

授業方法

対面あるいは遠隔同期型の講義に加えて、非同期配信型(事前に録画した動画)で行う。
なお、病理実習前には病理講義の非同期動画、小児ケーススタディー前には小児疾患関連の非同期動画を必ず視聴して、その内容を習得してから望むこと。

講義によっては事前の課題提示を行うことで、アクティブラーニングの時間を設け、学生側からのプレゼン・説明を求め、教員がコメントを追加しながら理解を深める。

授業内容

成人および小児の良性血液疾患(再生不良性貧血、溶血性貧血、鉄欠乏性貧血、特発性血小板減少性紫斑病、先天性免疫不全症など)、血液悪性腫瘍(慢性白血病、急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群など)、止血・血栓に関わる疾患(先天性凝固異常症、DIC など)
臨床腫瘍学(がん化学療法、分子標的薬、がんゲノム診療)
(がんに対する)放射線治療
緩和ケア・心身医療
病理学(血液疾患・腫瘍)

成績評価の方法

試験の形式は以下の通り。
血液内科:マルチ・チョイス問題
放射線治療学:マルチ・チョイス問題
小児血液:マルチ・チョイス問題
臨床腫瘍学・がんゲノム診療:マルチ・チョイス問題
病理学:マルチ・チョイス問題
緩和ケア・心身医療学:マルチ・チョイス問題
教員により出席をとった場合には出席も評価対象とする。

成績評価の基準

試験合計得点により判定する。臨床実習を行う準備として、十分なレベルに到達していることが確認できたことをもって、合格(B 判定)とする。その上で、成績に応じて加点し、A あるいは A+判定とする。

準備学習等についての具体的な指示

各専門の教科書を読み予習する。授業に出席し、講義を聞き、知識を深める。教科書に立ち返り学んだことを復習し、知識を更に深める。

試験の受験資格

出席率は試験受験の要件とはしない。全員に受験資格あり。

モジュールの単位判定

下記の「成績評価」によって単位の取得の判定をする。

教科書

ハーバード大学テキスト血液疾患の病態　メディカルサイエンス社
造血器腫瘍診療ガイドライン 2018 年版補訂版　日本血液学会編　(オンライン有り)
小児血液・腫瘍学　日本小児血液・がん学会編　診断と治療社　2015 年初版

放射線治療計画ガイドライン 2020 年版(オンライン有り) 新版 がん緩和ケアガイドブック 日本医師会監修 専門家をめざす人のための緩和医療学(改訂第 2 版)(日本緩和医療学会)
備考 前年までからの改善点:ケーススタディーに対する評価が高かったため、その要素を増やす。講義スライドの upload のタイミングを早める、不具合のある動画の修正等を行う。

時間割番号	011066				
科目名	一般外科			**科目 ID**	
担当教員					
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	3	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業	該当する				

授業の目的、概要等

外科的諸疾患についての考え方と、診断と外科的治療の基本原則の理解をはかる。

● 病因・病態論、診断法、手術適応、手術術式、周術期管理を主として学ぶ。

● 外科学の歴史のほか、医の倫理、インフォームド・コンセント、生活の質(Quality of life: QOL)についても、外科の立場でふれる。

授業の到達目標

1) 外科系の臨床実習(clinical clerkship)に必要な知識を習得する。

2) 腹部所見の記載法など、外科診断学の基本的事項を説明できる

3) 周術期の生体反応(侵襲、代謝・栄養、創傷治癒など)について説明できる

4) 主な消化器・一般外科の疾患の外科的治療について説明できる

5) 主な消化器・一般外科の疾患の周術期管理について説明できる

6) 外科におけるインフォームド・コンセントの意義について説明できる

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

GE-01-04)03,04

PS-01-03)33

PS-02-02)01

PS-02-06)02,05

PS-02-08)01,02,03,04,05

PS-02-09)01

PS-02-10)05

PS-02-13)01,02,03,05

PS-02-14)05

PS-03-01)05,06,07,08

PS-03-03)02,07

PS-03-04)01,04,05,06,07,08,10,13,14,17,20,23,24,25,26,27

PS-03-05)15

CS-01-02)02,03

CS-02-02)01,02

CS-02-03)06,07

CS-02-04)01,05,10,13,14,19,20,21,22,23,24,25,26,27,34,35

CS-03-02)01

CS-03-03)01

SO-02-02)05

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[IV-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる
[V-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[V-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる
[V-3-C]症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応／合併症／限界)を提示できる
[V-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる
[V-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[VI-8-C]主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる
[VI-15-C]臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	5/19	08:50-09:35	医学科講義室2	ヘルニア	ヘルニア	谷岡 利朗	【到達目標】 4)【学習方法】対面講義 【その他】講義中に各々質疑応答に対応。質問は講義後もメールで受け付ける。
2	5/19	09:45-10:30	医学科講義室2	乳腺の外科	乳腺の外科	有賀 智之	【到達目標】 4)5)【学習方法】対面講義 【その他】講義中に各々質疑応答に対応。質問は講義後もメールで受け付ける。
3	5/19	10:45-11:30	医学科講義室2	小児の外科	小児の外科	岡本 健太郎	【到達目標】 4)5)【学習方法】対面講義 【その他】講義中に各々質

							疑応答に対応。質問は講義後もメールで受け付ける。
4	5/19	11:40–12:25	医学科講義室2	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントとコミュニケーション	佐藤 信吾	【到達目標】 6) 【学習方法】対面講義 【その他】講義中に各々質疑応答に対応。質問は講義後もメールで受け付ける。
5	5/19	13:30–14:15	医学科講義室2	肝臓・胆嚢・膵臓の外科（1）	肝胆膵悪性腫瘍の研究	田中 真二	【到達目標】 4) 【学習方法】対面講義 【その他】講義中に各々質疑応答に対応。質問は講義後もメールで受け付ける。
6	5/19	14:25–15:10	医学科講義室2	侵襲・代謝・栄養	侵襲・代謝・栄養	小郷 泰一	【到達目標】 3) 【学習方法】対面講義 【その他】講義中に各々質疑応答に対応。質問は講義後もメールで受け付ける。
7	5/20	08:50–09:35	医学科講義室2	血管の外科	止血・凝固、創傷治癒	山本 洋平	【到達目標】 3) 4) 5) 【学習方法】対面講義 【その他】講義中に各々質疑応答に対応。質問は講義後もメールで受け付ける。
8	5/20	09:45–10:30	医学科講義室2	食道・横隔膜の外科	食道・横隔膜の外科	藤原 尚志	【到達目標】 4) 5) 【学習方法】対面講義 【その他】講義中に各々質疑応答に対応。質問は講義後もメールで受け付ける。
9	5/20	10:45–11:30	遠隔授業（非同期型）	小腸・大腸の外科（1）	炎症性腸疾患の外科治療	花岡 まりえ	【到達目標】 4) 5) 【学習方法】対面講義 【その他】講義中に各々質疑応答に対応。質問は講義後もメ

							ールで受け付ける。
10	5/20	11:40–12:25	遠隔授業(非同期型)	胃・十二指腸の外科	手術合併症・術後障害	徳永 正則	【到達目標】 4) 5) 【学習方法】遠隔授業(非同期型) 【その他】質問はメールで受け付ける。
11	5/21	08:50–09:35	医学科講義室 2	肝臓・胆嚢・膵臓の外科(3)	肝胆膵ミニケース	松井 聡	【到達目標】 4) 5) 【学習方法】対面講義 【その他】講義中に各々質疑応答に対応。質問は講義後もメールで受け付ける。
12	5/21	09:45–10:30	医学科講義室 2	肝臓・胆嚢・膵臓の外科(2)	肝移植医療	伴 大輔	【到達目標】 4) 【学習方法】対面講義 【その他】講義中に各々質疑応答に対応。質問は講義後もメールで受け付ける。
13	5/21	10:45–11:30	医学科講義室 2	急性腹症	急性腹症	山本 雄大	【到達目標】 1) 2) 3) 4) 【学習方法】対面講義 【その他】講義中に各々質疑応答に対応。質問は講義後もメールで受け付ける。
14	5/21	11:40–12:25	遠隔授業(非同期型)	小腸・大腸の外科(2)	大腸癌の外科治療	絹笠 祐介	【到達目標】 4) 5) 【学習方法】遠隔授業(非同期型) 【その他】質問はメールで受け付ける。
15	5/21	13:30–14:15		予備枠			
16	5/21	14:25–15:10		予備枠			
17–18	6/2	10:45–12:25	医学科講義室 2	評価(筆記試験)	評価(筆記試験)	小郷 泰一	

授業方法

● 各テーマごとに講義 and/or ミニケース方式にて行う。

● 講義は対面、Zoom を使用した遠隔(同期型)講義、WebClass に講義動画を一定期間アップロードする遠隔(非同期型)講義のいずれかの方式で行う。特に対面では講義中に適宜質疑応答を行うことでアクティブラーニングを実施する。

● 同期型講義では、チャット機能を用いた質疑応答、個人課題の提出などにより講義内容の理解を深める。

● 非同期型講義では、動画視聴後に WebClass にて多肢選択式問題に回答することなどにより、講義内容の理解を深める。

● 各テーマの冒頭に基礎医学の復習を行う。

授業内容

(別表参照)

成績評価の方法

全受講範囲を対象とした試験を行う。講義、下記教科書、参考書の内容から出題される。

素点で 60 点以上(100 点満点)を合格とする。

成績評価の基準

講義の出席確認は行わないが、試験で厳しく評価する。素点で 60 点以上(100 点満点)を合格とする。

試験は主に講義内容から出題されるため、講義への積極的参加により、B 判定以上の評価(合格)を受けることが可能となる。

準備学習等についての具体的な指示

基礎医学の復習は各テーマ毎にその冒頭で行われるが、基礎医学カリキュラム及び消化器・循環器ブロックで履修した基礎医学部分を通読してから本ブロックを受講すること。

また、受講後には同日中に教科書・参考書の関連領域を通読し、復習・理解しておくことが望ましい。

試験の受験資格

すべての学生が、2025 年 6 月 2 日に行われる試験、ならびに追・再試験を受験する資格をもつ。

教科書

標準外科学／田邉, 稔,池田, 徳彦,大木, 隆生,猪股, 雅史,篠原, 尚,田邉稔 監修,池田徳彦 [ほか] 編集:医学書院, 2025.2

新臨床外科学 第 4 版／武藤徹一郎, 幕内雅敏 監修,川崎誠治, 佐野俊二, 名川弘一, 野口眞三郎, 平田公一 編,:医学書院, 2006

NEW 外科学 = NEW Surgery 第 3 版／出月康夫, 古瀬彰, 杉町圭蔵 編,:南江堂, 2012

臨床外科学1・2・3／森岡 恭彦／編集,川島 康生／編集,森 昌造／編集,水戸 廸郎／編集,:朝倉書店, 2006

TNM 悪性腫瘍分類カラーアトラス 原書 2 版／Philip Rubin, John T.Hansen [著],杉原健一, 秋田恵一 監訳:丸善出版, 2014

- 標準小児外科学【第 7 版】高松英夫、福澤正洋(監修)、医学書院、2017
- スタンダード小児外科手術 田口智章、岩中督(監修)、メジカルビュー社、2013
- ブラッシュアップ急性腹症【第 2 版】 窪田忠夫(著)、中外医学社、2018
- Sabiston Textbook of Surgery: The Biological Basis of Modern Surgical Practice 21th ed. Saunders, USA 2022
- Schwartz's Principles of Surgery 11th ed. McGraw-Hill Professional, USA 2019
- Clinical Oncology : A Multi- Disciplinary Approach for Physicians & Students 10th ed. Saunders, USA 2014

参考書

食道癌診療ガイドライン 2022 年版／日本食道学会 編,日本食道学会,:金原出版, 2022

胃癌治療ガイドライン : 医師用／日本胃癌学会編,日本胃癌学会,:金原出版, 2021

大腸癌治療ガイドライン : 医師用／大腸癌研究会,大腸癌研究会 編:金原出版, 2024.7

遺伝性大腸癌診療ガイドライン／大腸癌研究会,大腸癌研究会 編:金原出版, 2024.7

乳癌診療ガイドライン／日本乳癌学会,日本乳癌学会 編:金原出版, 2022.6

肝癌診療ガイドライン 2021 年版／日本肝臓学会 編,日本肝臓学会,:金原出版, 2021

エビデンスに基づいた胆道癌診療ガイドライン 改訂第 3 版／日本肝胆膵外科学会胆道癌診療ガイドライン作成委員会 編,:医学図書出版, 2019

膵癌診療ガイドライン 2022 年版／日本膵臓学会膵癌診療ガイドライン改訂委員会 編,日本膵臓学会,:金原出版, 2022

エビデンスに基づく IPMN 国際診療ガイドライン : 日本語版／国際膵臓学会,田中, 雅夫, 1949-,国際膵臓学会ワーキンググループ 著,田中雅夫 訳:医学書院, 2024.8

TNM 悪性腫瘍の分類 第 8 版 日本語版／L.H.Sobin, M.K.Gospodarowicz, Ch.Wittekind 編,UICC 日本委員会 TNM 委員会 訳,Sobin, L.H,Gospodarowicz, Mary K,Wittekind, Christian,国際対がん連合日本委員会,:金原出版, 2017

- 肝内胆管癌診療ガイドライン. 日本肝癌研究会(編) 金原出版、2021 年
- 十二指腸癌診療ガイドライン. 十二指腸癌診療ガイドライン作成委員会(編) 金原出版、2021 年
- 転移性肝がん診療ガイドライン. 日本肝胆膵外科学会(編) 医学図書出版、2021 年
- 食道癌取扱い規約【第 12 版】. 日本食道学会(編) 金原出版、2022 年
- 胃癌取扱い規約【第 15 版】. 日本胃癌学会(編) 金原出版、2017 年
- 大腸癌取扱い規約【第 9 版】. 大腸癌研究会(編) 金原出版、2018 年
- 乳癌取扱い規約【第 18 版】. 日本乳癌学会(編) 金原出版、2018 年
- 原発性肝癌取扱い規約【第 6 版補訂版】. 日本肝癌研究会(編) 金原出版、2019 年
- 膵癌取扱い規約【第 8 版】. 日本膵臓学会(編) 金原出版、2023 年
- 胆道癌取扱い規約【第 7 版】. 日本肝胆膵外科学会(編) 金原出版、2021 年

● 膵・消化管神経内分泌腫瘍(NEN)診療ガイドライン 2019 年 【第 2 版】. 日本神経内分泌腫瘍研究会(編) 金原出版、2019 年

履修上の注意事項

講義中に講義動画の撮影・録画を禁止する。講義資料や参考資料などは著作権の問題があるので、受講登録者以外に公開することを禁ずる。　　各授業の講義担当者は以下の通り。担当者は変更となる場合がある。　・田邉 稔　胆膵外科学分野 教授(肝胆膵外科)tana.msrg@tmd.ac.jp　・絹笠 祐介　消化管外科学分野 教授(大腸・肛門外科) kinugasa.srg1@tmd.ac.jp　・徳永 正則　消化管外科学分野(胃外科) tokunaga.srg1@tmd.ac.jp　・藤原 尚志　消化管外科学分野(食道外科)fujsrg1@tmd.ac.jp　・谷岡 利朗　消化管外科学分野(胃外科) tanioka.srg1@tmd.ac.jp　・花岡まりえ　消化管外科学分野(大腸・肛門外科) hanasrg1@tmd.ac.jp　・小郷 泰一　消化管外科学分野(食道外科) ogo.srg1@tmd.ac.jp　・小田 剛史　乳線外科 oda.srg2@tmd.ac.jp　・小野 宏晃　肝胆膵外科学分野(肝胆膵外科) ono.msrg@tmd.ac.jp　・岡本健太郎　総合外科学分野(小児外科) okasrg2@tmd.ac.jp　・山本 洋平　末梢血管外科 y-yamamoto.srg1@tmd.ac.jp

参照ホームページ

● Minds(マインズ)医療情報サービス http://minds.jcqhc.or.jp/n/top.php

● がん情報サービス http://ganjoho.jp/public/index.html

● REICIST ガイドライン改訂版 ver.1.1 http://www.jcog.jp/doctor/tool/recistv11.html

● Common Terminology Criteria for Adverse Events (CTCAE) ver. 4.0 http://www.jcog

● 世界医師会の主な宣言等 http://www.med.or.jp/jma/jma_infoactivity/jma_activity/000503.html

時間割番号	011067				
科目名	神経科学・臨床			**科目 ID**	
担当教員					
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	3	**単位数**	4
実務経験のある教員による授業	該当する				

主な講義場所

・同期型

医学科講義室など（各講義の詳細参照）

・非同期型

Webclass 動画閲覧が基本。他内容がある場合、各講義の詳細に記載する

授業の目的、概要等

神経解剖学、神経化学、神経生理学などの基礎的知識の復習に引き続き、臨床系教員（脳神経外科・脳神経内科・精神科）による講義を行う。同期型の講義においてはアクティブラーニングを交え、TBL や学生発表など、学生グループでディスカッションしながらすすめる形式の授業も含む。いずれも学生自身の自主的・積極的な参加が前提となっている。

本授業は単独で存在しているわけではなく、すでに学習した基礎神経科学からこれから学ぶクリニカル・クラークシップにいたる一連の授業の一つであり、修了時には主な神経疾患に対する基本的臨床能力を修得できていることを目指している。

授業の到達目標

1. 神経系と神経疾患の特徴について説明できる。
2. 診断と検査の基本（神経症状の診察方法）を説明できる。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

GE-01-04)05
GE-03-04)02,03,04
PS-02-03)01,02,03,04,05
PS-02-05)01,02,03
PS-02-06)02
PS-02-17)02,03,04,05
PS-03-01)02,03
PS-03-05)08,15
IT-01-02)01
CS-01-01)01,02,03
CS-01-02)01,02,03,04,05
CS-02-01)01,02
CS-02-02)01,02,03,04
CS-02-03)04,07
CS-02-04)01,19,20,21,22,23,24,25,26,27,49
CS-03-02)01
CS-03-03)01,02
CS-03-06)01,02
CS-05-04)02
CM-01-01)01,02
CM-03-01)03

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-7-C]ラポールについて説明できる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[IV-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる
[V-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[V-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる
[V-3-C]症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識（適応／合併症／限界）を提示できる
[V-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法（薬物療法、非薬物療法の双方を含む）に関する知識を提示できる
[V-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[VI-8-C]主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる
[VI-15-C]臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる
[VII-2-C]急性期、慢性期、および長期的ケアを含む医療の向上に向けた、様々な専門分野の協力にもとづくアプローチについて、説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	6/18	08:50-09:35	医学科講義室2	ブロックガイダンス	神経ブロックの3科での講義について概説する。	石黒 太郎, 原 祥子, 田村 赳紘	【到達目標】1, 2 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニングの種類】Q&A
2	6/18	09:45-10:30	医学科講義室2	基礎ミニテスト、復習（神経解剖）	基礎ミニテスト、復習:　提出された解答で出席を確認する。	原 祥子	【到達目標】1, 2 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニングの種類】ミニテスト、Q&A
3	6/18	10:45-11:30	医学科講義室2	脳神経外科 脳外科概説	脳神経外科学の疾患、検査、治療などを概説する。	前原 健寿	【到達目標】1, 2 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニングの

							種類】Q＆A
4	6/18	11:40–12:25	医学科講義室２	脳神経内科　脳神経内科概説	脳神経内科の疾患、検査、治療などを概説する。	服部　高明	【到達目標】1，２ 【学習方法】対面講義
5	6/20	08:50–09:35	医学科講義室２	検査⑴画像検査−１（形態画像）	脳神経外科で頻用される形態画像検査について概説する	清水　一秀	【到達目標】2 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニングの種類】Q＆A
6	6/20	09:45–10:30	医学科講義室２	脳神経外科　意識障害、頭部外傷	脳神経外科診療の基本である意識障害の評価法について学ぶ。また頭部外傷について概説する。	稲次　基希	【到達目標】1、２ 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニングの種類】Q＆A
7	6/20	10:45–11:30	医学科講義室２	血管内治療科　出血性脳血管障害の血管内治療	出血性脳血管障害の血管内治療を手術ビデオを交えて概説する。	壽美田　一貴	【到達目標】1、２ 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニングの種類】Q＆A
8	6/20	11:40–12:25	アクティブラーニング教室	血管内治療科　虚血性脳血管障害の血管内治療	虚血性脳血管障害の血管内治療を手術ビデオを交えて概説する。	平井　作京	【到達目標】1，２ 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニングの種類】Q＆A
9	6/20	13:30–14:15	オンデマンド	検査⑴画像検査−２（機能画像）	脳神経外科で頻用される機能画像検査について概説する	田中　洋次	【到達目標】2 【学習方法】非同期講義
10	6/20	14:25–15:10	オンデマンド	脳神経外科　未破裂脳動脈瘤・くも膜下出血	未破裂脳動脈瘤・くも膜下出血について概説する	河野　能久	【到達目標】1，２ 【学習方法】非同期講義
11	6/20	15:25–16:10	オンデマンド	脳神経外科　脳出血	脳出血について概説する	河野　能久	【到達目標】1，２ 【学習方法】非同期講義
12	6/20	16:20–17:05	オンデマンド	脳神経外科　内頚動脈狭窄症・もやもや病	虚血性脳血管障害の代表である内頚動脈狭窄症・もやもや病について概説する	阿部　大数	【到達目標】1，２ 【学習方法】非同期講義
13	6/23	08:50–09:35	医学科講義室１	基礎ミニテスト、復習（生理）	基礎ミニテストと神経生理の復習の講義。提出された解答で出席を確認する。	吉岡　耕太郎	【到達目標】1 【学習方法】対面講義
14	6/23	10:45–11:30	遠隔授業（同期型）	脳神経内科　診察と症候学		石黒　太郎	【到達目標】2 【学習方法】対面講義
15	6/23	11:40–12:25	医学科講義室２	脳神経内科　認知症１		三條　伸夫	【到達目標】1、２ 【学習方法】対面講義
16	6/23	13:30–14:15	医学科講義室２	検査⑵生理検査　（伝導検査、他）		赤座　実穂	【到達目標】2 【学習方法】対面講義
17	6/24	08:50–09:35	医学科講	脳神経外科　脳腫瘍概	脳腫瘍について、手術ビデオを交	田村　郁	【到達目標】1，２

			義室２	説	えながら概説する		【学習方法】対面講義 【アクティブラーニングの種類】Q＆A
18-20	6/24	09:45-12:25	4 階学生実習室	病理実習（脳腫瘍・血管障害）	脳腫瘍・血管障害における病理学的診断の実習を行う。	新宅 洋	【到達目標】1，２ 【学習方法】対面実習 【アクティブラーニングの種類】顕微鏡を用いた標本観察
21	6/24	13:30-14:15	オンデマンド	脳神経外科 脳腫瘍①	各種脳腫瘍について概説する	田村 郁	【到達目標】2 【学習方法】非同期講義
22	6/24	14:25-15:10	オンデマンド	脳神経外科 脳腫瘍②	各種脳腫瘍について概説する	田村 郁	【到達目標】2 【学習方法】非同期講義
23	6/25	08:50-09:35	医学科講義室１	脳神経外科 脳血管障害の開頭手術治療	脳血管障害の開頭手術治療について、手術ビデオを交えながら概説する	河野 能久	【到達目標】1，２ 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニングの種類】Q＆A
24-26	6/25	09:45-12:25	医学科講義室２	脳神経外科 TBL	個人テストのほか、グループで症例検討を行う。提出された解答で出席確認をする。	稲次 基希，阿部 大数	【到達目標】1，２ 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニングの種類】TBL、Q＆A
27	6/25	15:25-16:10	オンデマンド	脳神経外科 小児脳神経外科	脳神経外科治療対象となる先天性疾患・小児特有の疾患について概説する。	阿部 大数	【到達目標】1，２ 【学習方法】非同期講義
28	6/25	16:20-17:05	オンデマンド	脳神経外科 てんかん・不随意運動・慢性疼痛の外科治療	機能的脳神経外科とよばれる領域、てんかん・不随意運動・慢性疼痛の外科治療について概説する	稲次 基希	【到達目標】1，２ 【学習方法】非同期講義
29	6/26	13:30-14:15	医学科講義室２	脳神経内科 認知症２（AD 以外）		大久保 卓哉	【到達目標】1，２ 【学習方法】遠隔講義
30	6/26	16:20-17:05	オンデマンド	脳神経内科 脱髄性疾患		横手 裕明	【到達目標】1，２ 【学習方法】対面講義
31	6/26	18:10-18:55	医学科講義室２	脳神経内科 末梢神経障害		入岡 隆	【到達目標】1，２ 【学習方法】対面講義
32	6/27	08:50-09:35	医学科講義室２	精神科 精神科概説	精神科の疾患、検査、治療などを概説する。	髙橋 英彦	【到達目標】1，２ 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニングの種類】Q＆A
33-35	6/27	09:45-12:25	医学科講義室２	精神科 精神医学に必要な神経科学、基礎ミニテスト	ミニテストと神経生理の復習。提出された解答で出席を確認する。	塩飽 裕紀	【到達目標】1，２ 【学習方法】対面講義 【アクティ

							ブラーニングの種類】ミニテスト【注意】本講義の出席が最終試験の受験資格となる。ミニテストも成績評価の対象となる。
36	6/27	13:30-14:15	オンデマンド	精神科 統合失調症	統合失調スペクトラム症等について概説する。	髙木 俊輔	【到達目標】1, 2【学習方法】VOD【注意】後日行われる本項目のCBL に先立って必ず視聴し、自主学習をしておくこと。
37	6/27	14:25-15:10	オンデマンド	精神科 気分障害	気分障害(抑うつ症、双極症等)について概説する。	小林 七彩	【到達目標】1, 2【学習方法】VOD【注意】後日行われる本項目のCBL に先立って必ず視聴し、自主学習をしておくこと。
38	6/27	15:25-16:10	オンデマンド	精神科 物質依存と行動嗜癖	物質関連症と嗜癖症について概説する。	治徳 大介	【到達目標】1, 2【学習方法】VOD【注意】後日行われる本項目のCBL に先立って必ず視聴し、自主学習をしておくこと。
39	6/30	08:50-09:35	医学科講義室 2	脳神経内科 臨床講義2 (PD)	担当学生が指導医の指導の下で実際の症例を診察し、ビデオを用いてプレゼンテーションと疾患に関する考察を全体で行う。	服部 高明	【到達目標】1, 2【学習方法】臨床講義
40-42	6/30	09:45-12:25	4 階学生実習室	病理実習 (感染症、脱髄性疾患、神経変性疾患)	感染症、脱髄性疾患、神経変性疾患における病理学的診断の実習を行う。	新宅 洋	【到達目標】1, 2【学習方法】対面実習 【アクティブラーニングの種類】顕微鏡を用いた標本観察
43	6/30	13:30-14:15	医学科講義室 2	脳神経内科 錐体外路疾患		市川 忠	【到達目標】1, 2【学習方法】対面講義
44	6/30	18:10-18:55	医学科講義室 2	脳神経内科 臨床講義5 (認知症)	担当学生が指導医の指導の下で実際の症例を診察し、ビデオを用いてプレゼンテーションと疾患に関する考察を全体で行う。	西田 陽一郎	【到達目標】【学習方法】臨床講義
45-46	7/1	08:50-10:30	医学科講	精神科 CBL 統合失調	統合失調スペクトラム症の症例に	髙木 俊輔	【到達目標】1, 2

			義室２	症	関する CBL をおこなう。		【学習方法】CBL 【アクティブラーニングの種類】CBL、Q&A 【注意】本 CBL に先立って VOD を視聴し、自主学習をしておくこと。
47-48	7/1	10:45-12:25	医学科講義室２	精神科 CBL 気分障害	気分障害(抑うつ症、双極症等)の症例に関する CBL をおこなう。	小林 七彩	【到達目標】1，２ 【学習方法】CBL 【アクティブラーニングの種類】CBL、Q&A 【注意】本 CBL に先立って VOD を視聴し、自主学習をしておくこと。
49	7/1	16:20-17:05	医学科講義室２	脳神経内科 炎症性(自己免疫性)ニューロパチー GBS と CIDP		叶内 匡	【到達目標】1，２ 【学習方法】対面講義
50	7/1	17:15-18:00	医学科講義室２	脳神経内科 感染症		鈴木 基弘	【到達目標】1，２ 【学習方法】対面講義
51	7/1	18:10-18:55	医学科講義室２	脳神経内科 小脳障害		石川 欽也	【到達目標】1，２ 【学習方法】対面講義
52	7/2	15:25-16:10	医学科講義室２	脳神経内科 臨床講義3(脱髄)	担当学生が指導医の指導の下で実際の症例を診察し、ビデオを用いてプレゼンテーションと疾患に関する考察を全体で行う。	横手 裕明	【到達目標】1，２ 【学習方法】臨床講義
53	7/7	09:45-10:30	医学科講義室２	脳神経内科 臨床講義1(MND)	担当学生が指導医の指導の下で実際の症例を診察し、ビデオを用いてプレゼンテーションと疾患に関する考察を全体で行う。	永田 哲也	【到達目標】1，２ 【学習方法】対面講義(臨床講義)
54	7/7	10:45-11:30	医学科講義室２	脳神経内科:ALS		永田 哲也	【到達目標】1，２ 【学習方法】対面講義
55	7/7	11:40-12:25	医学科講義室２	脳神経内科 機能疾患①(頭痛、めまい)		鎌田 智幸	【到達目標】1，２ 【学習方法】対面講義
56	7/8	08:50-09:35	医学科講義室２	精神科 睡眠障害	睡眠・覚醒障害等について概説する。	平井 伸英	【到達目標】1，２ 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニングの種類】Q&A
57	7/8	09:45-10:30	医学科講義室２	精神科 パーソナリティー障害(パーソナリティ症)	パーソナリティ症等について概説する。	中村 啓信	【到達目標】1，２ 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニングの

							種類】Q＆A
58	7/8	10:45–11:30	医学科講義室2	精神科 ストレス関連障害	心的外傷およびストレス因関連症について概説する。	安藤 久美子	【到達目標】1，2 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニングの種類】Q＆A 【注意】受講後に、VOD で提供されている CBL を自主学習すること。
59	7/8	11:40–12:25	医学科講義室2	精神科 CBL 物質依存と行動嗜癖	物質関連症と嗜癖症の症例に関する CBL をおこなう。	治徳 大介	【到達目標】1，2 【学習方法】CBL 【アクティブラーニングの種類】Q＆A 【注意】本 CBL に先立って VOD を視聴し、自主学習をしておくこと。
60	7/8	15:25–16:10	医学科講義室2	脳神経内科 炎症性筋疾患・傍腫瘍性症候群・神経筋接合部疾患		冨滿 弘之	【到達目標】1，2 【学習方法】対面講義
61	7/8	16:20–17:05	医学科講義室2	脳神経内科 筋疾患		桑原 宏哉	【到達目標】1，2 【学習方法】対面講義
62	7/8	17:15–18:00	医学科講義室2	脳神経内科 虚血性脳血管障害2		鈴木 基弘	【到達目標】1，2 【学習方法】対面講義
63	7/8	18:10–18:55	医学科講義室2	脳神経内科 虚血性脳血管障害1		一條 真彦	【到達目標】1，2 【学習方法】対面講義
64	7/9	08:50–09:35	医学科講義室2	精神科 認知症(BPSD)	神経認知障害の行動心理症状 Behavioral and psychological symptoms of dementia について概説する。	古田 光	【到達目標】1，2 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニングの種類】Q＆A
65	7/9	09:45–10:30	医学科講義室2	精神科 神経症性障害	神経症圏の障害(不安症、強迫症、解離症、身体症状症、食行動症、摂食症等)について概説する	田村 赳紘	【到達目標】1，2 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニングの種類】Q＆A
66–67	7/9	10:45–12:25	医学科講義室2	精神科 児童精神科	児童精神科対象の精神障害、神経発達症(知的発達症、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症等)について概説する。	佐々木 祥乃	【到達目標】1，2 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニングの種類】Q＆A
68	7/9	13:30–14:15	オンデマンド	精神科 CBL 神経症性障害、ストレス関連障害	心的外傷およびストレス因関連症の症例に関する CBL をおこなう。	宮島 美穂	【到達目標】1，2 【学習方法】CBL、VOD 【注意】先行する同期型講

							義の復習として VOD で学習をする。
69	7/9	14:25–15:10	オンデマンド	精神科 精神科医療と法律	精神科医療における法律、制度について概説する。	岡田 幸之	【到達目標】1，2 【学習方法】VOD 【注意】この項目については VOD のみだが、試験の対象なので必ず視聴すること。
70	7/9	15:25–16:10	アクティブラーニング教室	脳神経内科 臨床講義4（筋疾患）	担当学生が指導医の指導の下で実際の症例を診察し、ビデオを用いてプレゼンテーションと疾患に関する考察を全体で行う。	桑原 宏哉	【到達目標】1，2 【学習方法】臨床講義
71	7/11	08:50–09:35	医学科講義室 2	精神科 症状精神病 リエゾン	症状精神病（身体疾患等による精神障害）、他科とのリエゾン、精神科コンサルテーション等について概説する。	竹内 崇	【到達目標】1，2 【学習方法】対面講義 【アクティブラーニングの種類】Q＆A
72–74	7/11	09:45–12:25	医学科講義室 2	精神科 学生発表	提出された資料で出席確認をする。	杉原 玄一	【到達目標】1，2 【学習方法】学生発表 【注意】本講義の出席が最終試験の受験資格となる。
75	7/11	15:25–16:10	医学科講義室 2	脳神経内科（TBL）	グループで症例検討を行う。提出された解答で出席確認をする。	佐野 達彦	【到達目標】1，2 【学習方法】TBL 対面講義
76	7/29	10:45–12:15	医学科講義室 2	精神科 最終試験	受験資格：全教科出欠確認講義の 6 割以上かつ精神科出欠確認講義の 5 割以上の出席（※詳細はシラバス参照）	岡田 幸之	
77	7/30	10:45–12:15	医学科講義室 2	脳神経外科 最終試験	受験資格：全教科出欠確認講義の 6 割以上かつ脳神経外科出欠確認講義の 5 割以上の出席（※詳細はシラバス参照）	原 祥子	
78	7/31	13:30–15:00	医学科講義室 2	脳神経内科 最終試験	受験資格：全教科出欠確認講義の 6 割以上かつ脳神経内科出欠確認講義の 5 割以上の出席（※詳細はシラバス参照）	西田 陽一郎	

授業方法

・同期型授業

講義、実習、TBL、学生発表など

非同期型授業では困難な動画の提示に加え、Q&A、模擬診察、グループディスカッションなどのアクティブラーニングを実施する。学生自身の自主的・積極的な参加が前提となっている。

・非同期型授業

Webclass の動画をオンデマンドで聴講する。非同期授業についての質問は、メールで担当教員に問い合わせること（担当教員からの回答は、原則として医学教務係を通じて全員に配信する）。

授業内容

授業スケジュール参照

成績評価の方法

前述のとおり、3 診療科の出欠確認講義の6割以上かつ各診療科の5割以上の出席を最終試験受験資格とするため、十分留意すること。

◆精神科

出席 30 点(ミニテスト、学生発表)

ミニテスト 20 点

学生発表 20 点

最終試験 30 点

◆脳神経外科

出席 20 点(ミニテスト、TBL)

ミニテスト 10 点

TBL 30 点

最終試験 40 点

◆脳神経内科

出席 25 点(臨床講義 1 回 5 点 x5 回)

ミニテスト 5 点

TBL 20 点

最終テスト 50 点

臨床講義発表(内容により＋αの加点)

「神経科学・臨床」の最終合格のためには、3 科目すべての本試験(または追試験、再試験)の受験および合格を必須とする。

合否は 3 科それぞれで判断し、100 点満点の 60 点以上を合格(B)とする。

これに加え、講義や実習の参加態度などに応じて A、A+の評価を与える。

60 点に満たない場合、また 60 点を超えていても講義中にアンプロフェッショナルな行動がみられた場合は、当該診療科での再試験やレポート提出が課される場合がある。再試験やレポートの必要性は診療科毎に判断する。

成績評価の基準

成績評価の方法を参照のこと

準備学習等についての具体的な指示

受講前に各科のシラバスを熟読し、内容を理解しておくこと。不明な点があったら、オフィス時間内に各科の担当者に質問をして、確認しておくこと。TBL の受講前には、指定項目を必ず予習すること。

試験の受験資格

各科下記の講義等で出席を確認している。3 診療科の出欠確認講義の6割以上かつ各診療科の5割以上の出席を最終試験受験資格とする。

◆精神科

ミニテスト(回答提出で出席を確認)

学生発表

◆脳神経外科

ミニテスト(回答提出で出席を確認)

TBL(回答提出で出席を確認)

◆脳神経内科

ミニテスト(回答提出で出席を確認)
TBL(回答提出で出席を確認)
臨床講義(授業内で担当教員が出席簿により確認)

特別に勘案すべき事情があるために出席できない場合(家庭の事情・感染症罹患・留学など)、その事情とともに、講義開始前に科目責任者または医学教務係にメールのように日時の記録が残る形で連絡し、かつその事情を証明する書類を事前または事後に提出すれば、当該講義については欠席とはみなさない。なお、緊急の場合には電話でもよいが、その後メールすること。連絡ができないような特別な事情があったと後で判断された場合には、その限りではない。

正当な理由なく講義を出欠確認講義を欠席した場合、または出席していても授業中にアンプロフェッショナルな行動がみられた場合、最終試験の受験資格を失う、または当該科目において再試験やレポート提出を科される場合がある。

出席確認方法については各講義の授業明細スケジュールを確認すること。

参考書

脳神経内科／神田, 隆, 1956-,神田隆 著:中外医学社, 2024.5
ベッドサイドの神経の診かた／田崎, 義昭,斎藤, 佳雄,坂井, 文彦,濱田, 潤一,飯塚, 高浩,田崎義昭, 斎藤佳雄著:南山堂, 2016.2
脳神経外科学 = Neurosurgery／太田富雄 原著,松谷雅生, 野崎和彦 編集,太田, 富雄, 1931-,松谷, 雅生, 1942-,野崎, 和彦, 1957-,:金芳堂, 2021
標準精神医学／尾崎, 紀夫,三村, 將, 1957-,水野, 雅文, 1961-,尾崎紀夫, 三村將, 水野雅文, 村井俊哉 編集:医学書院, 2018.3
カプラン臨床精神医学テキスト : DSM-5 診断基準の臨床への展開／Sadock, Benjamin J, 1933-,Sadock, Virginia A,Ruiz, Pedro, 1936-,井上, 令一, 1932-,四宮, 滋子,田宮, 聡, 1961-,ベンジャミン J.サドック, バージニア A.サドック, ペドロ ルイース 編著,井上令一 監修,四宮滋子, 田宮聡 監訳:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2016.5
DSM-5-TR 精神疾患の分類と診断の手引／米国精神医学会,日本精神神経学会,高橋, 三郎, 1930-,大野, 裕, 1950-,染矢, 俊幸, 1958-,神庭, 重信, 1954-,尾崎, 紀夫,三村, 將, 1957-,村井, 俊哉,中尾, 智博,American Psychiatric Association [編],日本精神神経学会 日本語版用語監修,高橋三郎, 大野裕 監訳,染矢俊幸, 神庭重信, 尾崎紀夫, 三村將, 村井俊哉, 中尾智博 訳:医学書院, 2023.9
神経内科ハンドブック : 鑑別診断と治療／水野, 美邦, 1941-,水野美邦 編集:医学書院, 2016.9
脳卒中治療ガイドライン 2021〔改訂 2023〕／日本脳卒中学会脳卒中ガイドライン委員会,日本脳卒中学会脳卒中ガイドライン委員会編集:協和企画, 2023.8
頭部外傷治療・管理のガイドライン 第 4 版／日本脳神経外科学会,日本脳神経外傷学会,日本脳神経外科学会, 日本脳神経外傷学会 監修,頭部外傷治療・管理のガイドライン作成委員会 編集:医学書院, 2019.10
Central Nervous System Tumours (WHO Classification of Tumours 5th Ed.)／WHO Classification of Tumours Editorial Board,世界保健機関,国際癌研究機関,:International Agency for Research on Cancer, World Health Organization, 2022

履修上の注意事項

授業を効率よく、効果的に受けるためには、基礎知識を復習し、予定の部分を予習したうえで授業に臨むことが必要である。また成績評価には TBL などのアクティブラーニングの成績も重要視している。学生自ら積極的に授業に参加することが必要である。

備考

本年度からの同期授業数コマ減に伴い、3 診療科の授業内容を大幅に変更した。同期型授業は非同期型ではむずかしいアクティブラーニングを含む内容に変更した。
学生アンケート結果を踏まえ、3 診療科それぞれで合否判定を行うこと、3 診療科すべての合格が神経科学全体の合格に必要であることを明記した。
また昨年の各科授業で学生のアンプロフェッショナルな行動が散見されたため、最終試験の受験資格および各科毎での再試レポート判断を行う旨を明確に記載した。

◆精神科
アクティブラーニングに関しては、グループ学習での発表を実施する。

◆脳神経外科
同期型講義ではアクティブラーニングを行うだけでなく、非同期型では提示が難しい手術ビデオなども数多く提示する。
アクティブラーニングを実施する TBL では実習態度も評価対象とする。予習への取り組みの評価と、講義内容の理解を深めることを目的とする。

◆脳神経内科

TBL 内テストおよび最終テストでは、講義で扱った内容に沿って出題する。コース評価に基づき、教科書レベルの問題も出題するが、講義を受講しなければ正解にたどり着きづらい問題も出題される。臨床講義は担当学生(募集します)が、指導医の指導の下で、実際の症例を診察し、プレゼンテーションをする(もし適した症例がない場合は診療録を参照の上作成することもある)。臨床講義の出席も評価対象となっており、担当学生にはさらに加点される。臨床講義では授業内で担当教員が出席簿により確認する。

参照ホームページ

脳神経内科情報ページ

日本神経学会 ガイドライン https://www.neurology-jp.org/guidelinem/als_2023.html

日本神経治療学会 ガイドライン https://www.jsnt.gr.jp/guideline/index.html

脳神経外科疾患情報ページ http://square.umin.ac.jp/neuroinf/index.html

精神科情報ページ 日本うつ病学会 http://www.secretariat.ne.jp/jsmd/

日本臨床精神神経薬理学会 http://www.jscnp.org/

時間割番号	011068				
科目名	骨･関節･脊椎			**科目 ID**	
担当教員					
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	3	**単位数**	2
実務経験のある教員による授業	該当する				

主な講義場所

医学科講義室2、オンラインによる遠隔講義

授業の目的、概要等

高齢社会を迎えて、健康寿命の重要性が知られるようになった。整形外科は身体の運動機能維持を目標とする診療科であり、高齢者の健康寿命延伸は総合診療的側面を持つことから、すべての医師が整形外科的素養を身に着ける必要性がある。また、そもそも整形外科の診療範囲は腰痛や外傷など非常に身近な症候から幅広くカバーしており、日常の外来診療や救急外来においては患者にとって最も身近な外科領域である。そこでは手術治療だけでなく保存治療も重要な手段であり、身体の運動機能を維持するためにやはりすべての医師がその基本を把握している必要がある。そして長寿高齢化がより進んでいく本邦においては、生命予後のみならず機能予後を改善する整形外科に対する社会的要求は今後一層高まっていく事が見込まれる。

そこで本学整形外科の授業では、まず一般整形外科の観点で基本的な診療が行える事を第一の目標とする。これを達成するために多岐にわたる整形外科の分野における授業を対面または非同期オンラインで行う。また知識をさらに深めるためにミニケースを行う。また、知識の確認とアクティブラーニングを目的に TBL を行う。

それぞれの領域における臨床的な基礎知識から最先端の研究に至るまで、幅広い講義を準備した。疾患概念･診断･治療の知識から、本学卒業生に相応しい先端知識･最新研究まで学習が出来ることを目標とする。

授業の到達目標

本授業では、

1.骨関節脊椎の機能と障害に関して、その背景から深く理解する、

2.基本的な整形外科疾患の診断から治療までの概略を把握する、

3.運動機能の維持･向上に対し高まる社会ニーズに応えられよう運動器領域の基礎的知識を身に着ける、

4.嚥下を含めた運動機能維持を目的とするリハビリテーション医学の基本的考え方を学ぶ、

事を目標とする。

到達目標は、ミニケースの課題に対する評価が 3 以上(4 段階)、TBL/本試験 60%以上の正答率とする。

文部科学省 HP　医学教育モデル･コア･カリキュラム(令和 4 年度改訂版)

https://www.mext.go.jp/content/20230207-mxt_igaku-000026049_00001.pdf

PS-02-03-01

PS-02-03-02

PS-02-03-03

PS-02-05-01

PS-02-05-02

PS-02-05-03

PS-02-05-04

PS-02-05-05

PS-02-06-02

PS-03-02-02

PS-03-04-12

PS-03-05-13

GE-03-01-03

GE-03-05-03

GE-03-05-04

GE-03-05-05
CS-02-02-01
CS-02-02-02
CS-02-04-01
CS-02-04-20
CS-02-04-45
CS-02-04-46
CS-02-04-47
CS-02-04-48
CS-03-02-01

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[IV-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる
[V-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[V-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる
[V-3-C]症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応／合併症／限界)を提示できる
[V-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる
[V-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[VI-8-C]主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる
[VI-15-C]臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる
[VII-2-C]急性期、慢性期、および長期的ケアを含む医療の向上に向けた、様々な専門分野の協力にもとづくアプローチについて、説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/1	08:50-10:30	医学科講義室 2	整形外科 概論／腰椎	吉井 俊貴	1.-4.に関する総論的講義、講義室で聴講し学習。その後、主に腰椎領域の 1.2.3.に関する講義。
3-4	9/1	10:45-12:25	医学科講義室 2	頚椎・脊髄腫瘍	平井 高志	主に頸椎領域の 1.2.3.に関する講

						義。講義室で聴講し学習。
5	9/1	13:30–14:15	遠隔授業（非同期型）	整形外科基礎科学 筋・靭帯の分子生物学	淺原 弘嗣	3.の基礎分野に関する講義。非同期オンラインで聴講し学習。
6	9/1	14:25–15:10	遠隔授業（非同期型）	末梢神経障害	黒岩 智之	主に末梢神経領域の 1.2.3.に関する講義。非同期オンラインで聴講し学習。
7–8	9/2	08:50–10:30	医学科講義室 2	脊椎(頚腰椎)ミニケース	松倉 遊, 江川 聡	脊椎領域の 1.–2.に関するオンサイトのミニケース。授業の最後に出席確認をかねた課題を与える。
9–10	9/2	10:45–12:25	医学科講義室 2	骨軟部腫瘍／骨転移	船内 雄生	主に骨軟部腫瘍領域の 1.2.3.に関する講義。オンサイトで聴講し学習。
11	9/2	13:30–14:15	遠隔授業（非同期型）	骨粗鬆症／高気圧酸素医学	柳下 和慶, 猪瀬 弘之, 小柳津 卓哉	主に骨粗鬆症領域の 1.2.3.に関する講義と高気圧酸素領域の 1.–3.に関する講義。非同期オンラインで聴講し学習。
12–13	9/3	08:50–10:30	医学科講義室 2	外傷	王 耀東	主に外傷領域の 1.2.3.に関する講義。オンサイトで聴講し学習。
14–15	9/3	10:45–12:25	医学科講義室 2	腫瘍・外傷ミニケース	船内 雄生, 加来 拓実	骨軟部腫瘍、転移性骨腫瘍、外傷領域に関するオンサイトのミニケース。授業の最後に出席確認をかねた課題を与える。
16	9/3	13:30–14:15	遠隔授業（非同期型）	整形外科基礎科学 解剖 骨・関節・脊椎	二村 昭元	1.–4.の基礎に存在する解剖学の講義。非同期オンラインで聴講し学習。
17	9/3	14:25–15:10	遠隔授業（非同期	感染症・炎症性疾患	中村 智祐	主に骨軟部感染・炎症性疾患領域

			型)			の 1.2.3.に関する講義。非同期オンラインで聴講し学習。
18-19	9/4	13:30-15:10	医学科講義室 2	足の外科／足の外科ミニケース	片倉 麻衣	主に足の外科領域の 1.2.3.に関する講義。オンサイトで聴講し学習。
20-21	9/5	08:50-10:30	医学科講義室 2	リハビリテーション医学	酒井 朋子	4.に関する講義。オンサイトで聴講し学習。
22-23	9/5	10:45-12:25	医学科講義室 2	リハビリテーション医学ミニケース	酒井 朋子	リハビリテーション医学に関するオンサイトのミニケース。授業の最後に出席確認をかねた課題を与える。
24-25	9/8	08:50-10:30	医学科講義室 2	整形外科基礎科学 軟骨代謝・再生医学	関矢 一郎	3.の基礎分野に関する講義。オンサイトで聴講し学習。
26-27	9/8	10:45-12:25	医学科講義室 2	膝関節 I(加齢性疾患)	中川 裕介	主に膝変性領域の 1.2.3.に関する講義。オンサイトで聴講し学習。
28	9/8	13:30-14:15	遠隔授業(非同期型)	膝関節 II(外傷性疾患)	古賀 英之	主に膝外傷領域の 1.2.3.に関する講義。非同期オンラインで聴講し学習。
29	9/8	14:25-15:10	遠隔授業(非同期型)	上肢	佐々木 亨	上肢領域に特化した 1.-4.の基礎に存在する解剖学の講義および手の外科領域の 1.2.3.に関する講義。非同期オンラインで聴講し学習。
30-31	9/9	08:50-10:30	医学科講義室 2	股関節・股関節ミニケース	高田 亮平	股関節・小児領域に関するオンサイトのミニケース。授業の最後に出席確認をかねた課題を与える。
32-33	9/9	10:45-12:25	医学科講義室 2	膝・上肢ミニケース	大関 信武, 黒岩 智之	膝関節・上肢領域に関するオンサ

						イトのミニケース。授業の最後に出席確認をかねた課題を与える。
34-35	9/10	08:50-10:30	医学科講義室 2	小児整形／小児ミニケース	山口　玲子	主に小児整形領域の 1.2.3.に関する講義と小児に関するオンサイトのミニケース。授業の最後に出席確認をかねた課題を与える。
36-37	9/10	10:45-12:25	医学科講義室 2	TBL	船内　雄生, 山口　玲子, 黒岩　智之, 橋本　泉智	全内容に関する TBL。個人試験の回答有無により出席を確認する。

授業方法

整形外科の傷病および骨・軟骨・神経などに関連する基礎科学については、対面または非同期オンラインで授業を行う。ミニケース、TBL は対面型授業で行い、最終日の試験と特別講義も大学で行う。詳細は時間割を確認すること。

ミニケースでは実際の臨床像に準じて病態を学び、身体機能評価に関する視点を身に着けることができる。

TBL では、それまでの授業で得た知識の確認をアクティブラーニングにて行う。

非同期型オンライン授業に対する質問は、担当教員にメールで送ること。学生からの質問を受けることは、教員にも大変有意義なことであり、遠慮なく質問を送っていただきたい。

授業内容

講義形式を基本とするが、ケースメソッドおよび診察手術動画の供覧を適宜行う。また、TBL では個人評価とともにグループでの討議時間を設け、アクティブラーニングを行う。

成績評価の方法

2回の TBL と最終日に行う試験の結果で判断する。出題は講義の範囲を超えることがあるので注意すること。

成績評価の基準

2 回の TBL の結果と、最終日の試験の結果を合計し、60%以上の正答率がある場合を合格(B)とする。

2 回の TBL 個人テストおよび最終日の試験のすべてで、それぞれ 80%以上の正答率がある場合、得点に応じて B 以上の評価(A,A+)を与える。

準備学習等についての具体的な指示

骨および筋骨格系と神経系の解剖の復習が必要である。

試験の受験資格

講義室での対面型授業のうち TBL/ミニケースを除いた講義に出席し必要な知識を得たうえ、すべてのミニケースと TBL に出席した場合に、定期試験ならびに追・再試験を受験する資格を与える。対面型講義では講義中に出席確認を兼ねたアンケートを手渡し、その提出をもって出席とする。ミニケースでは出席確認をかねた課題(個人での取り組み)を与え、各ミニケース終了時の課題提出をもって出席とする。TBL では個人試験の回答有無により出席を確認する。

特別に勘案すべき事情があるために達成できない場合は、その事情とともに、各セッションが始まる前までに、科目責任者または医学教務係に、メールのように日時の記録が残る形で連絡することを必須とする。なお、緊急の場合には電話でもよいが、その後メールを送ること。連絡ができないような特別な事情があったと後で判断された場合には、その限りではない。これらの十分な対応が行われていたと判断された場合には、事情などに応じてレポート等での対応を行う。

教科書

標準整形外科学 第 15 版／井樋 栄二 監修,津村 弘 監修,田中 栄 編集,高木 理彰 編集,松田 秀一 編集,井樋 栄二,津村 弘,田中 栄,高木 理彰,松田 秀一,:医学書院, 2023-02-06

リハビリテーション医学・医療コアテキスト／久保俊一総編集 ; 角田亘, 佐浦隆一, 三上靖夫編集 ; 徳永大作イラスト作画・編集,久保, 俊

一,角田, 亘,佐浦, 隆一,三上, 靖夫,徳永, 大作,日本リハビリテーション医学教育推進機構,日本リハビリテーション医学会,:医学書院, 2022

グレイ解剖学／Richard L. Drake, A. Wayne Vogl, Adam W.M. Mitchell [原著] ; 秋田恵一訳,Drake, Richard L. (Richard Lee),Vogl, Wayne,Mitchell, Adam W. M.,秋田, 恵一,Gray, Henry,:エルゼビア・ジャパン, 2019

体表からわかる人体解剖学 : ポケットチューター／Richard Tunstall, S. Ali Mirjalili [著] ; [大川淳ほか訳],Tunstall, Richard,Mirjalili, S. Ali,大川, 淳,秋田, 恵一,:南江堂, 2021

備考

ミニケースと TBL を通じて、アクティブラーニングを行う。

なお 2025 年度は 2024 年度のコース評価や講義時間の変更ふまえ、さらにミニケース・TBL を増枠し、双方向性の講義を増やして提供する。

参照ホームページ

当科ホームページ

https://tmdu-orth.jp/

時間割番号	011410				
科目名	膠原病、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・ｱﾚﾙｷﾞｰ(皮膚・ｱﾚﾙｷﾞｰ)			**科目 ID**	
担当教員					
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	3	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業	該当する				

主な講義場所

学生講義室または、その時の社会情勢により Zoom, WebClass で実施。また、元々、非同期として用意されている講義もあり。

授業の目的、概要等

(皮膚・アレルギー)

解剖学、病理組織学、生理学、生化学、そして免疫・アレルギー学などの基礎医学の知識を応用し、皮膚疾患・アレルギー疾患の病態生理の理解を目指す。皮膚疾患は、皮膚構造から皮膚科診断学、各論として免疫アレルギー疾患、遺伝性疾患、腫瘍、感染症、物理的障害などを網羅する。アレルギー疾患では、呼吸器・鼻・眼など他臓器のアレルギー疾患を併せて扱い、免疫アレルギー疾患を包括的に学習する。授業では適宜アンケート形式のアクティブラーニング(イマキクなどを活用)を行う。アレルギー疾患については、臨床例を通じたアンケート形式のアクティブラーニング(イマキクなどを活用)も行い、疾患についての基本的知識や、患者を診察するための考え方を習得することを目的とした授業を行う。

授業の到達目標

1) 皮膚疾患、アレルギー疾患の病態生理を理解すること。
2) 病態生理に基づいて、疾患の症候、経過、診断、治療について理解すること。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-02-02)05
PS-02-04)01,02,03,05
PS-02-05)02,03,05
PS-02-06)05
PS-02-07)02,05
PS-02-09)05
PS-02-16)05
PS-03-02)01,02,05
PS-03-05)02,03,04,12,13
CS-01-02)02
CS-02-02)01,02
CS-02-04)01
CS-03-03)04

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる

[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[IV-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる
[V-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[V-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる
[V-3-C]症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応／合併症／限界)を提示できる
[V-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる
[V-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[VI-8-C]主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる
[VI-15-C]臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	9/24	08:50-09:35	医学科講義室2	皮膚の構造・機能・役割	飯田 忠恒	【到達目標】1)
2	9/24	09:45-10:30	医学科講義室2	皮膚科診断学	沖山 奈緒子	【到達目標】1), 2) 【学習】ポイントとなるところの Q&A を交えたアクティブラーニング
3	9/24	10:45-11:30	医学科講義室2	皮膚病理学実習	三浦 圭子	【到達目標】1), 2)、アクティブラーニング
4	9/24	11:40-12:25	医学科講義室2	ダーモスコピーの診方	並木 剛	【到達目標】1)
5	9/24	13:30-14:15	医学科講義室2	色素性疾患	並木 剛	【到達目標】1), 2)
6	9/24	14:25-15:10	医学科講義室2	皮膚悪性腫瘍	並木 剛	【到達目標】1), 2)
7	9/24	15:25-16:10	遠隔授業(非同期型)	母斑と母斑症	西澤 綾	【到達目標】1), 2) 【学習】ポイントとなるところの Q&A を交えたアクティブラーニング
8	9/24	16:20-17:05	遠隔授業	皮膚良性腫瘍	西澤 綾	【到達目標】1), 2)

			(非同期型)			【学習】ポイントとなるところの Q&A を交えたアクティブラーニング
9	9/24	17:15-18:00	遠隔授業(非同期型)	免疫学復習	長谷川 温彦	【到達目標】1), 2)
10	9/25	13:30-14:15	医学科講義室 2	皮膚アレルギー疾患 I、食物・薬物アレルギー(アナフィラキシー)	沖山 奈緒子	【到達目標】1), 2) 【学習】Case-based のアクティブラーニングを含む
11	9/25	14:25-15:10	医学科講義室 2	薬疹・薬物障害	沖山 奈緒子	【到達目標】1), 2)
12	9/25	15:25-16:10	医学科講義室 2	皮膚自己免疫疾患(水疱症)	船積 雅登	【到達目標】1), 2) 【学習】ポイントとなるところの Q&A を交えたアクティブラーニング
13	9/25	16:20-17:05	医学科講義室 2	物理化学的障害	竹下 八菜	【到達目標】1), 2) 【学習】ポイントとなるところの Q&A を交えたアクティブラーニング
14	9/26	08:50-09:35	医学科講義室 2	肉芽腫症・代謝性疾患	並木 剛	【到達目標】1), 2)
15	9/26	09:45-10:30	医学科講義室 2	膠原病	沖山 奈緒子	【到達目標】1), 2) 【学習】ポイントとなるところの Q&A を交えたアクティブラーニング
16	9/26	10:45-11:30	医学科講義室 2	皮膚血管障害	沖山 奈緒子	【到達目標】1), 2) 【学習】ポイントとなるところの Q&A を交えたアクティブラーニング
17	9/26	11:40-12:25	医学科講義室 2	皮膚感染症 I・II	沖山 奈緒子	【到達目標】1), 2) 【学習】ポイントとなるところの Q&A を交えたアクティブラーニング
18	9/26	13:30-14:15	遠隔授業(非同期型)	皮膚感染症III	渡邊 京子	【到達目標】1), 2)
19	9/26	14:25-15:10	遠隔授業(非同期型)	角化のメカニズムと角化異常症	樋口 哲也	【到達目標】1), 2)
20	9/26	15:25-16:10	遠隔授業(非同期	皮膚アレルギー疾患 II	宇賀神 つかさ	【到達目標】1), 2)

			型)			
21	9/26	16:20-17:05	遠隔授業(非同期型)	鼻眼アレルギー	鈴木 康弘	【到達目標】1), 2)
22-23	10/10	08:50-10:30	医学科講義室2	試験(皮膚科学的疾患・アレルギー疾患)	並木 剛, 沖山 奈緒子, 竹下 八菜	【到達目標】1), 2)

授業方法

スライドを使った講義。講義室での対面もしくは、Zoom, WebClass で実施。講義中にイマキクなどのアンケート機能を用いた小問出題などにより理解を深める。

なお、非同期の講義に質問がある場合は、講義の担当教官にメールで質問可能です。

ただし、試験当日の質問は当日中に返答できない可能性が高いですので、質問は前日までにお願いします。

授業内容

(別表を参照)

成績評価の方法

学習到達度評価を試験を用いて行う。

成績評価の基準

成績評価の基準は以下の通りとする。

【B 判定】到達目標を概ね達成したと判断される場合:参考教科書と授業内容の基本的な事柄について試験を行い、概ね 6 割以上の正解

【A 判定】到達目標を全て達成したと判断される場合:参考教科書と授業内容の基本的な事柄について試験を行い、概ね 8 割以上の正解

【A+判定】 A 判定レベルにあり、さらに獲得した知識を用いて症例における診断的評価や治療法選択の提案、それらの妥当性の検討などを行えるレベルにあると判断される場合

準備学習等についての具体的な指示

基礎医学の免疫学にて学習した内容を確認しておくこと。

試験の受験資格

特に出席は取らない。ただし、試験は全て講義内容から出すため、可能な限り授業に参加することが望ましい。

教科書

皮膚科学／上野, 賢一, 1927-2012,大塚, 藤男, 1948-,藤本, 学,上野賢一 原著,大塚藤男, 藤本学 編集:金芳堂, 2022.6

あたらしい皮膚科学／清水, 宏, 1954-2021,清水宏 著:中山書店, 2018.2

(皮膚・アレルギー)

大塚藤男著、上野賢一原著「皮膚科学」金芳堂出版

清水宏著「あたらしい皮膚科学」中山書店

D.E.Elder (ed.)「Lever's Dermatopathology, 12th ed.- Histopathology of the Skin」WOLTERS KLUWER、南江堂

参考書

Lever's dermatopathology : histopathology of the skin／Lever, Walter F.,Elder, David E.,Elenitsas, Rosalie,Murphy, George F.,Rosenbach, Misha,Rubin, Adam I.,Seykora, John T.,Xu, Xiaowei,editor in chief, David E. Elder ; associate editors, Rosalie Elenitsas ... [et al.]:Wolters Kluwer, c2023

Rook's Textbook of Dermatology, 10th ed., in 4 vols.／C.Griffiths, J.Barker, T.Bleiker, et al.(eds.):WILEY-BLACKWELL, 2024

Fitzpatrick's dermatology.／Kang, Sewon.:McGraw-Hill Education, [2019]

(皮膚・アレルギー)

「Lever's Histopathology of the Skin」 WOLTERS KLUWER

「最新皮膚科学体系」中山書店

「Rook's Textbook of Dermatology」 John Wiley & Sons, Inc.

「Fitzpatrick's Dermatology in General Medicine」 MCGRAW-HILL EDUCATION

備考

【コース評価アンケートに基づく改善計画ならびに変更】

講義の中で症例問題を扱って欲しいとの意見があり、可能な範囲で講義の題材に具体的症例を取り込むようにした。

講義スライドをアップして欲しいという要望がありましたので、各講義担当者に、時期がきたら講義資料を web class に up するように周知します。

【アクティブラーニングについて】
講義中に担当教員から学生指名により口頭討議、イマキクのアンケート機能を用いた小問出題など

時間割番号	011420				
科目名	膠原病、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・ｱﾚﾙｷﾞｰ(膠原病)			**科目 ID**	
担当教員					
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	3	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業	該当する				

主な講義場所

学生講義室または、その時の社会情勢により Zoom, WebClass で実施。また、元々、非同期として用意されている講義もあり。

授業の目的、概要等

膠原病・リウマチ内科

学生が膠原病・リウマチ性疾患の臨床を学ぶにおいて、特に重要な膠原病・リウマチ性疾患または疾患群について、それらの病態生理／臨床免疫学的側面の理解、そしてプレクリニカルクラークシップにおける頻度の高い症候へのアプローチの学習の基盤となる考え方の習得を支援し、各膠原病・リウマチ性疾患または疾患群に関する概念・病因・症候・治療について概説し、学生が将来臨床に応用できる知識と考え方を自己主導的に習得するのを支援する。

授業の到達目標

1) 膠原病・リウマチ性疾患の病態生理を理解すること。

2) 病態生理に基づいて、疾患の症候、経過、診断、治療について理解すること。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-02-02)05

PS-02-04)01,02,03,05

PS-02-05)02,03,05

PS-02-06)05

PS-02-07)02,05

PS-02-09)05

PS-02-16)05

PS-03-02)01,02,05

PS-03-05)02,03,04,12,13

CS-01-02)02

CS-02-02)01,02

CS-02-04)01

CS-03-03)04

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル

[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる

[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる

[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる

[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる

[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる

[Ⅲ-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[Ⅲ-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[Ⅲ-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[Ⅲ-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[Ⅲ-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[Ⅲ-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[Ⅲ-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[Ⅲ-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[Ⅲ-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[Ⅲ-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[Ⅲ-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[Ⅳ-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる
[Ⅴ-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[Ⅴ-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる
[Ⅴ-3-C]症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応／合併症／限界)を提示できる
[Ⅴ-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる
[Ⅴ-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[Ⅵ-8-C]主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる
[Ⅵ-15-C]臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/29	08:50-10:30	医学科講義室2	多発性筋炎・皮膚筋炎	梅澤 夏佳	【到達目標】1), 2) 【学習】症例を用いた Q&A による双方向講義
3-4	9/29	10:45-12:25	医学科講義室2	小児膠原病	森 雅亮	【到達目標】1), 2) 【学習】症例を用いた Q&A による双方向講義
5-6	10/1	08:50-10:30	医学科講義室2	強皮症・混合性結合組織病	長谷川 久紀	【到達目標】1), 2) 【学習】症例を用いた Q&A による双方向講義
7-8	10/1	10:45-12:25	医学科講義室2	全身性エリテマトーデス	保田 晋助	【到達目標】1), 2) 【学習】症例を用いた Q&A による双方向講義
9-10	10/1	13:30-15:10	医学科講義室2	シェーグレン症候群・IgG4 関連疾患	細矢 匡	【到達目標】1), 2) 【学習】症例を用いた Q&A による双方向講義
11-12	10/2	15:25-17:05	医学科講義室2	血管炎	長坂 憲治	【到達目標】1), 2) 【学習】症例を用いた Q&A による双方向講義
13-14	10/3	08:50-10:30	医学科講義室2	関節リウマチ①	齋藤 鉄也	【到達目標】1), 2) 【学習】症例を用

						いた Q&A による双方向講義	
15-16	10/3	10:45-12:25	医学科講義室 2	関節リウマチ②	萩山 裕之	【到達目標】1), 2) 【学習】症例を用いた Q&A による双方向講義	
17-18	10/10	10:45-12:25	医学科講義室 2	試験	佐々木 広和, 岩井 秀之, 長谷川 久紀		

授業方法

スライドを使った講義。講義室での対面もしくは、Zoom, WebClass で実施。講義中に担当教員から学生指名により口頭討議、Zoom のアンケート機能を用いた小問出題などにより理解を深める。
なお、非同期の講義に質問がある場合は、講義の担当教官にメールで質問可能です。
ただし、試験当日の質問は当日中に返答できない可能性が高いため、質問は試験前日までにお願いします。

授業内容

(別表を参照)

成績評価の方法

学習到達度評価を試験を用いて行う。

成績評価の基準

成績評価の基準は以下の通りとする。
【B 判定】到達目標を概ね達成したと判断される場合:参考教科書と授業内容の基本的な事柄について試験を行い、概ね 6 割以上の正解
【A 判定】到達目標を全て達成したと判断される場合:参考教科書と授業内容の基本的な事柄について試験を行い、概ね 8 割以上の正解
【A+判定】 A 判定レベルにあり、さらに獲得した知識を用いて症例における診断的評価や治療法選択の提案、それらの妥当性の検討などを行えるレベルにあると判断される場合

準備学習等についての具体的な指示

基礎医学の免疫学にて学習した内容を確認しておくこと。

試験の受験資格

特に出席は取らない。ただし、試験は全て講義内容(非同期授業含む)から出すため、可能な限り授業に参加することが望ましい。

教科書

膠原病・リウマチ内科
ハリソン内科学第 5 版(原著第 19 版);メディカル・サイエンス・インターナショナル 発行年 2017 年

参考書

リウマチ病学テキスト改訂第 2 版、診断と治療社 発行年 2016 年
ワシントンマニュアル(WM)リウマチ科コンサルト;メディカル・サイエンス・インターナショナル 発行年 2006 年

備考

【コース評価アンケートに基づく改善計画ならびに変更】
講義の中で症例問題を扱って欲しいとの意見があり、可能な範囲で講義の題材に具体的症例を取り込むようにした。

講義スライドをアップして欲しいという要望がありましたので、各講義担当者に、時期がきたら講義資料を web class に up するように周知します。

【アクティブラーニングについて】
講義中に担当教員から学生指名により口頭討議、Zoom のアンケート機能を用いた小問出題など

時間割番号	011070				
科目名	感染・臨床			**科目ID**	
担当教員	具 芳明, 岡本 耕, 田頭 保彰, 栗田 崇史, 佐藤 ルブナ, 武内 寛明, 矢沢 知子, 大曲 貴夫, 塚田 訓久[GU Yoshiaki, OKAMOTO Kou, TAGASHIRA Yasuaki, KURITA Takashi, SATO Rubuna, TAKEUCHI Hiroaki, YAZAWA Tomoko, OMAGARI Norio, TSUKADA Kunihisa]				
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	3	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業	該当する				

授業の目的、概要等

感染症はあらゆる臓器に発生するものであり、臨床の場においては診療科や専門性に関わらず感染症のマネジメントが求められる。感染症の特徴や診断、治療を臓器横断的に理解し実践することが臨床医の基本的な素養として求められる。

感染・臨床ブロックでは、感染症の基本知識をオンデマンド教材で学習するとともに、アクティブラーニング（症例検討）を通じて、感染症診療の基本的な考え方を臓器横断的に理解する。

合わせて COVID-19、HIV 感染症などのトピックについて学内外の講師による対面講義を行う。講義を通じて、感染症マネジメントは基礎医学、臨床医学から公衆衛生まで広い領域が関連することを理解し学習する。

授業の到達目標

到達目標は以下のとおりである。

1）臨床感染症学の基本的な知識を身に付けること。

2）基本知識に基づいて自ら考え、調べて対処するプロセスを理解し実践すること。

3）感染症に関連する社会的な課題と臨床現場での取り組みを理解すること。

4）感染症診療の基本的な理解があらゆる診療科において必須であると理解すること。

5）臨床感染症学と基礎医学や公衆衛生との密接な連携を理解すること。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-01-03)06,12

PS-02-02)02

PS-02-07)05

PS-02-08)05

PS-03-02)02

PS-03-03)01,02,03,04,05,06,07,09,10,11,16,17,18

PS-03-05)02,03

CS-02-02)01,02

CS-02-03)07

CS-02-04)01,02

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル

[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる

[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[IV-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる
[V-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[V-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる
[V-3-C]症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応／合併症／限界)を提示できる
[V-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる
[V-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[VI-8-C]主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる
[VI-15-C]臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる
[VI-24-B]感染に対する標準予防策(Standard precaution)を説明できる
[VI-25-B]患者隔離の必要な感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる
[VI-26-C]針刺し事故、針刺切創等による感染症感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	8/25	08:50-09:35		感染症総論(ブロック全体の説明を含む)	具 芳明	【到達目標】1,3,4,5 【学習方法】対面講義
2	8/25	09:45-10:30		アクティブラーニング(症例検討)1	具 芳明, 田頭 保彰, 岡本 耕, 佐藤 ルブナ, 栗田 崇史	【到達目標】1,2,3,4 【学習方法】対面講義
3	8/25	10:45-11:30		アクティブラーニング(症例検討)1	具 芳明, 田頭 保彰, 岡本 耕, 佐藤 ルブナ, 栗田 崇史	【到達目標】1,2,3,4 【学習方法】対面講義
4	8/25	11:40-12:25		COVID-19と感染症危機管理	大曲 貴夫	【到達目標】1,3,4,5 【学習方法】対面講義
5	8/26	08:50-09:35		パンデミック制御とエイズ治癒	武内 寛明	【到達目標】1,3,4,5 【学習方法】対面

						講義
6	8/26	09:45-10:30		アクティブラーニング(症例検討)2	具 芳明, 田頭 保彰, 岡本 耕, 佐藤 ルブナ, 栗田 崇史	【到達目標】1,2,3,4 【学習方法】対面講義
7	8/26	10:45-11:30		アクティブラーニング(症例検討)2	具 芳明, 田頭 保彰, 岡本 耕, 佐藤 ルブナ, 栗田 崇史	【到達目標】1,2,3,4 【学習方法】対面講義
8	8/26	11:40-12:25		アクティブラーニング(症例検討)2	具 芳明, 田頭 保彰, 岡本 耕, 佐藤 ルブナ, 栗田 崇史	【到達目標】1,2,3,4 【学習方法】対面講義
9	8/27	08:50-09:35		HIV 感染症	塚田 訓久	【到達目標】1,3,4,5 【学習方法】対面講義
10	8/27	09:45-10:30		アクティブラーニング(症例検討)3	具 芳明, 田頭 保彰, 岡本 耕, 佐藤 ルブナ, 栗田 崇史	【到達目標】1,2,3,4 【学習方法】対面講義
11	8/27	10:45-11:30		アクティブラーニング(症例検討)3	具 芳明, 田頭 保彰, 岡本 耕, 佐藤 ルブナ, 栗田 崇史	【到達目標】1,2,3,4 【学習方法】対面講義
12	8/27	11:40-12:25		アクティブラーニング(症例検討)3	具 芳明, 田頭 保彰, 岡本 耕, 佐藤 ルブナ, 栗田 崇史	【到達目標】1,2,3,4 【学習方法】対面講義
13	8/29	08:50-09:35		法に基づく感染症対策	矢沢 知子	【到達目標】1,3,4,5 【学習方法】対面講義
14	8/29	09:45-10:30		アクティブラーニング(症例検討)4	具 芳明, 田頭 保彰, 岡本 耕, 佐藤 ルブナ, 栗田 崇史	【到達目標】1,2,3,4 【学習方法】対面講義
15	8/29	10:45-11:30		アクティブラーニング(症例検討)4	具 芳明, 田頭 保彰, 岡本 耕, 佐藤 ルブナ, 栗田 崇史	【到達目標】1,2,3,4 【学習方法】対面講義
16	8/29	11:40-12:25		アクティブラーニング(症例検討)4	具 芳明, 田頭 保彰, 岡	【到達目標】1,2,3,4 【学習方法】対面

					本 耕, 佐藤 ルブナ, 栗田 崇史	講義
17	8/29	13:30-14:15				
18	8/29	14:25-15:10				
19	8/29	15:25-16:10				
20	8/29	16:20-17:05				
21	10/6	10:45-12:15		試験	具 芳明	

授業方法

臨床的な課題について個人でまたはグループで検討し発表するアクティブラーニング(症例検討)を中心に行う。その予習のため関連したオンデマンド教材を指定し、その内容に基づいた課題を検討する。合わせて、学内外の講師による感染症に関連した講義を行う。
オンデマンド教材についての質問は、アクティブラーニング(症例検討)および WebClass 上で答える。その他の質問方法については講師が講義で示す場合がある。

授業内容

(別表を参照)変更の可能性があるため、最新版を必ず確認すること

成績評価の方法

対面講義(8%)
・出席状況を評価対象とする。出席状況はアンケートや小テストの形で確認する予定としている。

アクティブラーニング(症例検討)(32%)
・参加状況や発表の内容を評価対象とする。
・グループ発表の場合は、各グループでパワーポイントファイルを作成して提出する。
・各自のレポート提出は不要。

テスト(60%)
・多岐選択式問題
・オンデマンド教材および講義の内容に沿った問題とする。

アクティブラーニング(症例検討)に参加できない場合は、各回の開始までにその事情とともに医学教務係へのメールなど日時の記録が残る形で連絡することを必須とする。緊急の場合は電話でもよいが、その後メールはすること。連絡ができない特別な事情があったと後に判断された場合はその限りではない。これらの対応が行われていたと判断された場合は、事情に応じてレポート等での対応を行うこととする。

成績評価の基準

B 基準:上記評価で合計 60%以上を目安とする。
B より上の評価:上記評価で合計 80%以上を目安とする。

準備学習等についての具体的な指示

アクティブラーニング(症例検討)の内容に合わせてオンデマンド教材を指定する。あらかじめ視聴した上で参加することを推奨する。
講義の前に下記に示した教科書、参考書の該当する項目を読んでおくことが望ましい。

試験の受験資格

試験(2025 年 10 月 6 日)の受験資格は特に設けない。

教科書

ハリソン内科学／デニス Lカスパー ほか 編,福井次矢, 黒川清 日本語版監修,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2017

参考書

レジデントのための感染症診療マニュアル : Principles & Practice／青木眞 執筆,青木, 真(1953ー),:医学書院, 2020
The Washington manual infectious diseases subspecialty consult／editors, Nigar Kirmani, Michael J. Durkin, Stephen Y. Liang,Kirmani, Nigar,Durkin, Michael J. (Michael Joseph),Liang, Stephen Y,:Wolters Kluwer, 2020

プロの対話から学ぶ感染症／岩田健太郎［ほか］著,岩田, 健太郎,青柳, 有紀,岡, 秀昭,本田, 仁,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2020

研修医のための内科診療ことはじめ : 救急・病棟リファレンス／杉田陽一郎著,杉田, 陽一郎,塩尻, 俊明,:羊土社, 2022

感染症診療の掟／岡本, 耕,岡本耕 編集:中外医学社, 2024.7

今さらきけない疑問に答える学び直し風邪診療／具, 芳明,具芳明 編著:中外医学社, 2024.4

他科目との関連

内科系外科系を問わず、すべての臨床系科目と関連がある。疾患について理解を深めるためには病原体の知識が必要であり、細菌学、ウイルス学、寄生虫学の知識は随時遡って復習や再学習する必要がある。

備考

コース評価アンケートに基づく改善計画ならびに変更項目

・講義資料はあらかじめアップロードする

・講義時間は 45 分単位である。

時間割番号	011071				
科目名	頭頸部・臨床			**科目ID**	
担当教員	堤 剛, 大野 京子, 森 弘樹, 山口 久美子, 伊藤 卓, 本田 圭司, 川島 慶之, 田中 顕太郎, 西尾 綾子, 植村 法子, 石田 直也, 大野 十央, 秋田 恵一, 河野 能久, 朝蔭 孝宏, 有泉 陽介[TSUTSUMI Takeshi, ONO Kyoko, MORI Hiroki, YAMAGUCHI Kumiko, ITO Taku, HONDA Keiji, KAWASHIMA Yoshiyuki, TANAKA Kentaro, NISHIO Ayako, UEMURA Noriko, ISHIDA Naoya, ONO Kazuchika, AKITA Keiichi, KAWANO Yoshihisa, ASAKAGE Takahiro, ARIIZUMI Yosuke]				
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	3	**単位数**	4
実務経験のある教員による授業	該当する				
授業科目名英訳:Head and Neck Clinical Medicine					

主な講義場所

COVID-19 の感染状況により、オンラインで行う場合がある。

授業の目的、概要等

頭頸部にはいわゆる五感と総称される視覚、嗅覚、聴平衡覚、味覚、触覚や、呼吸、構音、咀嚼、嚥下、発声などの重要な機能を持つ臓器が多数存在している。これらの機能は複雑に絡み合っており、ひとつが障害をきたすとその他の機能も影響を受け、日常生活の質に重大な影響を及ぼす。そういった複雑な頭頸部領域に生ずる疾患について理解するためには、ブロック形式で一括して当該領域について集中的に学ぶ事が非常に効率的で、かつその理解や習得の程度も深まると考えられる。3 年次に行われる当ブロックにおいては、医歯学両学部を有する東京医科歯科大学の特徴を生かし、医学部と歯学部の学生が共に学習し、議論し、隣接領域の理解を深める事を目的とする。

授業の到達目標

①頭頸部領域の構造と機能の理解
②頭頸部領域の疾患の基本的な知識の理解
③頭頸部領域の疾患の診断と治療の理解
④これらを利用した臨床推論が可能となること

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-02-03)02
PS-02-08)01
PS-02-16)01,02,03,04,05
PS-03-04)19
CS-02-02)01,02
CS-02-04)01

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる

[Ⅲ-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[Ⅲ-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[Ⅲ-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[Ⅲ-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[Ⅲ-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[Ⅲ-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[Ⅳ-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる
[Ⅳ-4-B]多学科チームのすべてのメンバーと、敬意を払って効果的な議論ができる
[Ⅴ-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[Ⅴ-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる
[Ⅴ-3-C]症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応／合併症／限界)を提示できる
[Ⅴ-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる
[Ⅴ-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[Ⅴ-9-B]診療上必要な歯科医学の知識を提示できる
[Ⅴ-10-B]全身疾患と口腔疾患の関連を説明できる
[Ⅵ-8-C]主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる
[Ⅵ-15-C]臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	10/15	08:50-10:30	遠隔授業(同期型)	オリエンテーション　基礎医学復習テスト		山口　久美子,堤　剛	Zoom,Webclass で実施
3	10/15	10:45-11:30	遠隔授業(非同期型)				
4	10/15	11:40-12:25	遠隔授業(非同期型)				
5	10/16	13:30-14:15	遠隔授業(同期型)	頭頸部領域の臨床解剖1		秋田　恵一	
6	10/16	14:25-15:10	遠隔授業(同期型)	頭頸部領域の臨床解剖2		秋田　恵一	
7	10/16	15:25-16:10	遠隔授業(同期型)	上・中咽頭の腫瘍		野村　文敬	
8	10/16	16:20-17:05	遠隔授業(非同期型)	唾液腺の腫瘍		清川　佑介	
9	10/17	08:50-09:35	遠隔授業(同期型)	頭頸部外科学総論		朝蔭　孝宏	
10	10/17	09:45-10:30	遠隔授業(同期型)	口腔の腫瘍		朝蔭　孝宏	
11	10/17	10:45-11:30	遠隔授業(同期型)	下咽頭・喉頭の腫瘍		大野　十央	
12	10/17	11:40-12:25	遠隔授業(同期型)	甲状腺腫瘍		岡田　隆平	
13	10/21	08:50-09:35	遠隔授業(同期型)	鼻副鼻腔・頭蓋底の腫瘍		有泉　陽介	

14	10/21	09:45-10:30	遠隔授業（同期型）	頭頸部外科ミニケース		有泉 陽介	
15	10/21	10:45-11:30	遠隔授業（非同期型）	頭頸部癌の放射線治療		吉村 亮一	
16	10/21	11:40-12:25	遠隔授業（非同期型）	頭蓋底腫瘍・脳神経		河野 能久	
17	10/22	08:50-09:35	遠隔授業（同期型）	頭頸部病理実習		倉田 盛人	
18	10/22	09:45-10:30	遠隔授業（同期型）	頭頸部病理実習		倉田 盛人	
19	10/22	10:45-11:30	遠隔授業（同期型）				
20	10/22	11:40-12:25	遠隔授業（非同期型）				
21	10/23	13:30-14:15	遠隔授業（同期型）	耳鼻咽喉科 （総論・手術解剖）		堤 剛	Zoom で実施
22	10/23	14:25-15:10	遠隔授業（非同期型）	耳鼻咽喉科 （耳科解剖/生理）		堤 剛	Webclass で実施 レポート有
23	10/23	15:25-16:10	遠隔授業（非同期型）	耳鼻咽喉科 （めまい/平衡障害）		堤 剛	Webclass で実施 レポート有
24	10/23	16:20-17:05	遠隔授業（同期型）	耳鼻咽喉科 AL（めまい/平衡障害）		堤 剛	Active Learning（ケーススタディ） Zoom で実施
25	10/24	08:50-09:35	遠隔授業（非同期型）	耳鼻咽喉科 Prep.Time（聴覚障害）		川島 慶之	Webclass で実施 レポート有
26	10/24	09:45-10:30	遠隔授業（同期型）	耳鼻咽喉科 AL（聴覚障害）		川島 慶之	Active Learning（ケーススタディ） Zoom で実施
27	10/24	10:45-11:30	遠隔授業（非同期型）	耳鼻咽喉科（外耳・中耳・顔面神経）		伊藤 卓	Webclass で実施
28	10/24	11:40-12:25	遠隔授業（非同期型）	耳鼻咽喉科 （口腔・咽頭・唾液腺）		本田 圭司	Webclass で実施
29	10/24	13:30-14:15	遠隔授業（同期型）	耳鼻咽喉科 ミニケース		伊藤 卓	Active Learning（ケーススタディ） Zoom で実施
30	10/24	14:25-15:10	遠隔授業（非同期型）	耳鼻咽喉科 Prep.Time（喉頭）		丸山 絢子	Webclass で実施 レポート有
31	10/24	15:25-16:10	遠隔授業（同期型）	耳鼻咽喉科 AL（喉頭）		丸山 絢子	Active Learning（ケーススタディ） Zoom で実施

32	10/24	16:20-17:05	遠隔授業（非同期型）	耳鼻咽喉科 （鼻科学）		西尾 綾子	Webclass で実施
33	10/27	08:50-09:35	遠隔授業（非同期型）	耳鼻咽喉科 （嚥下・救急・気道管理）		堤 剛	Webclass で実施 レポート有
34	10/27	09:45-10:30	遠隔授業（同期型）	耳鼻咽喉科 AL（嚥下・救急・気道管理）		堤 剛	Active Learning （ケーススタディ） Zoom で実施
35-36	10/27	10:45-12:25	遠隔授業（同期型）	耳鼻咽喉科 試験		堤 剛	
37	10/28	08:50-09:35	遠隔授業（同期型）				
38	10/28	09:45-10:30	遠隔授業（同期型）	形成外科 頭頸部再建・頭蓋底再建		田中 顕太郎	Webclass で実施
39	10/28	10:45-11:30	遠隔授業（同期型）	形成外科 皮膚軟部腫瘍		田中 顕太郎	Webclass で実施
40	10/28	11:40-12:25	遠隔授業（同期型）	形成外科 手足・体幹の先天異常と外傷		石田 直也	Webclass で実施
41	10/29	08:50-09:35	遠隔授業（同期型）	形成外科 熱傷の局所治療と瘢痕ケロイド		植村 法子	Webclass で実施
42	10/29	09:45-10:30	遠隔授業（同期型）	形成外科 顔面・頭部領域の先天異常		植村 法子	Webclass で実施
43	10/29	10:45-11:30	遠隔授業（同期型）	形成外科 乳房再建・美容外科		森 弘樹	Webclass で実施
44	10/29	11:40-12:25	遠隔授業（同期型）	形成外科 ミニケース①		矢野 智之	Active Learning （班に分かれてのケーススタディ）
45	10/30	13:30-14:15	遠隔授業（同期型）	形成外科 ミニケース②		石田 直也	Active Learning （班に分かれてのケーススタディ）
46	10/30	14:25-15:10	遠隔授業（同期型）	眼科序論		杉澤 啓吾	
47	10/30	15:25-16:10	遠隔授業（同期型）	眼科検査方法・色覚		高橋 洋如	
48	10/30	16:20-17:05	遠隔授業（同期型）	ぶどう膜炎		鴨居 功樹	
49	10/31	08:50-09:35		予備枠			
50	10/31	09:45-10:30	遠隔授業（同期型）	眼症候学		堀江 真太郎	
51	10/31	10:45-11:30		予備枠			
52	10/31	11:40-12:25	遠隔授業（同期型）	救急疾患		髙橋 知成	
53	11/4	08:50-09:35	遠隔授業（同期型）	白内障		髙橋 知成	
54	11/4	09:45-10:30		予備枠			
55	11/4	10:45-11:30	遠隔授業（同期型）	屈折異常・調節障害		浦本 賢吾	
56	11/4	11:40-12:25	遠隔授業	小児眼科・未熟児眼		高橋 洋如	

			(同期型)				
57	11/5	08:50-09:35	遠隔授業 (同期型)	神経眼科		吉田 武史	
58	11/5	09:45-10:30	遠隔授業 (同期型)	緑内障		吉田 武史	
59	11/5	10:45-11:30	遠隔授業 (同期型)	斜視・弱視		大野 明子	
60	11/5	11:40-12:25	遠隔授業 (同期型)	角膜		佐野 研二	
61	11/5	13:30-14:15					
62	11/5	14:25-15:10					
63	11/5	15:25-16:10					
64	11/5	16:20-17:05					
65	11/6	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	網膜疾患		浦本 賢吾	
66	11/6	14:25-15:10	遠隔授業 (同期型)	網膜剥離・糖尿病網膜症		堀江 真太郎	
67	11/6	15:25-16:10	遠隔授業 (同期型)	眼科ミニケース	ケーススタディー	大野 京子	Active Learning (ケーススタディー)
68	11/6	16:20-17:05	遠隔授業 (同期型)	眼科ミニケース	ケーススタディー	鴨居 功樹	Active Learning (班に分かれてのケーススタディ)

授業方法

講義 68 回(基礎医学復習テスト、ミニケース、患者参加型講義、active learning 含む)
病理実習 1 回
試験 5 回)
耳鼻咽喉科の AL(active learning)と表記のある講義については、あらかじめ提示した query を予習(preparation time にて)し、講義はすべて班ごとの case study と discussion 形式で行う。query に対するレポート提出を受け付ける(任意だが試験後の救済に使用する)。
配信型の講義については WebClass からの視聴をすること。

授業内容

ブロック開始時に頭頸部領域全般についての基礎医学の復習テストを行い、これまで学んできた基礎的事項の理解度を再評価する。当ブロックの講義を行う主たる診療科は、耳鼻咽喉科(第 1 週)、頭頸部外科(第 2 週)、形成外科(第 2～3 週)、口腔外科・歯科(第 3 週)、眼科(第 4 週)であるが、適宜関連する他科、即ち、臨床解剖(第 2 週)、放射線科(第 2 週)、脳外科(第 2 週)といった他科の協力も得てこれらの領域の講義も複合的に取り入れ、理解を深める手助けとする。なお、形成外科については、その診療範囲は全身であるため、講義、試験とも、頭頸部領域のみでなく全身を対象としたものになる。また、第 2 週には医科歯科合同の病理実習を行い、各週の後半には主たる診療科のアクティブラーニングやミニケースを行い、臨床推論の基礎と実際を学んで行く。第2～4週の最終日(金曜日)には医歯学融合教育支援センターの協力を得て TBL を行って学習内容の理解の確認を行うと共に、知識の統合的な理解を深める。ただし本年度は試験会場の都合から通常の試験とする。

成績評価の方法

講義や実習の態度、基礎復習テストおよび 5 回の試験(英語での出題を含む)による総合成績で評価する。
耳鼻咽喉科の AL 講義については、レポート提出は任意だが成績判定に加味する場合がある。

成績評価の基準

5 回の試験の配点は均等とし、個々の試験において合格基準(60 点以上)を満たす事がブロック合格の条件となる。これを越えたものを B 評価以上とする。A+および A 評価は試験の点数にて行う。不合格の科に関して再試験を行う。不合格の場合の再試験は、当ブロック終了翌月の 3 月に行われる「頭頸部・臨床」再試験によって行う。「基礎医学復習テスト」についても成績判定に利用することがある。なお、試験の受験資格については講義の 7 割以上の出席を要件とするが、出席確認ができないため自己申告とする。

準備学習等についての具体的な指示

・頭頸部基礎の知識がある前提で講義を行う。頭頸部臨床ブロックの開始前には必ず頭頸部基礎の復習をすること。
・直前に講義に関する情報を追加することがあるので、教務課からのメールおよび WebClass 上の連絡事項を確認すること。
・時間割表で授業内容を確認し、教科書の関連項目に目を通して授業に出席すること

試験の受験資格

出席は確認しない。

教科書

新耳鼻咽喉科学／切替, 一郎, 1909-1989,野村, 恭也, 1932-,加我, 君孝, 1944-,切替一郎 原著,野村恭也 監修,加我君孝 編集:南山堂, 2022.4

標準形成外科学 第 8 版／鈴木 茂彦,岡崎 睦,森本 尚樹,鈴木 茂彦 監修,岡崎 睦 編集,森本 尚樹 編集:医学書院, 2025

最新口腔外科学 第 5 版／榎本昭二他:医歯薬出版, 2017

現代の眼科学／吉田晃敏, 谷原秀信 編,所敬 監修,:金原出版, 2012

参考書

イラスト手術手技のコツ耳鼻咽喉科・頭頸部外科／村上泰, 久育男 監修,小川郁, 河田了, 岸本誠司, 春名眞一 編集,村上, 泰, 1935-,久, 育男, 1949-,小川, 郁, 1955-,河田, 了,岸本, 誠司, 1948-,:東京医学社, 2017

がんを見逃さない : 頭頸部癌診療の最前線／岸本誠司 専門編集,:中山書店, 2013

Essentials of Plastic Surgery, 3rd ed.／Jeffrey E. Janis:GEORG THIEME VERLAG, 2022

Operative Oral and Maxillofacial Surgery／John D. Langdon, Peter A. Brennan:Hodder Education, 2011

動画でみるみるわかる眼科検査テクニック : 基本手順から疾患の捉え方まで、検査のすべてが、みえる、わかる、できる／松本長太 監修,前田裕子 編著,:メディカ出版, 2013

Clinical ophthalmology／Jack J. Kanski, Bradley Bowling:Elsevier Saunders, 2011

ENG アトラス = Atlas of Electronystagmography : めまい・平衡機能障害診断のために／小松崎篤 著,小松崎, 篤, 1933-,:医学書院, 2017

病気がみえる／医療情報科学研究所/編集,:メディックメディア, 2020-12

標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学／大森, 孝一,野中, 学,小島, 博己,大森孝一, 野中学, 小島博己 編集:医学書院, 2022.3

専門医のための耳鼻咽喉科検査法／鈴木, 雅明, 耳鼻咽喉科医,堤, 剛,鈴木雅明, 堤剛 編:金原出版, 2024.12

履修上の注意事項

講義、実習、試験は基本的に対面で実施するが、COVID-19 の感染状況によってはリモートとなる。大人数での講義・実習となるので、これらを円滑に進めるため、時間厳守とし、担当教員の業務遂行にも協力していただきたい。

備考

【科目責任者】堤 剛(耳鼻咽喉科学)、原田 浩之(顎口腔腫瘍外科学分野)

問い合わせ先(担当教員)を以下に記載します。

耳鼻咽喉科:川島 慶之:kawashima.oto@tmd.ac.jp

頭頸部外科:大野 十央:ohno.hns@tmd.ac.jp

形成外科:森 弘樹:moriplas@tmd.ac.jp

口腔外科:釘本 琢磨:kugimoto.osur@tmd.ac.jp

眼科:大野 京子:k.ohno.oph@tmd.ac.jp

人体病理:山本 浩平:yamamoto.pth2@tmd.ac.jp

口腔病理:布川 裕規:yfukawa.mpa@tmd.ac.jp

参照ホームページ

日本耳鼻咽喉科学会ホームページ http://www.jibika.or.jp/

日本頭頸部癌学会ホームページ http://www.jshnc.umin.ne.jp/

日本形成外科学会ホームページ http://www.jsprs.or.jp/

日本口腔外科学会ホームページ http://www.jsoms.or.jp/

日本眼科学会ホームページ http://www.nichigan.or.jp/index.jsp

http://lib.tmd.ac.jp/e-service/e-books.html

連絡先(メールアドレス)

堤 剛:tsutsumi.oto@tmd.ac.jp

朝蔭 孝宏:tasakage.hns@tmd.ac.jp

秋田 恵一:akita.fana@tmd.ac.jp

大野 京子:k.ohno.oph@tmd.ac.jp

森　弘樹:moriplas@tmd.ac.jp
山口　久美子:yamaguchi.fana@tmd.ac.jp
有泉　陽介:ariizumi.hns@tmd.ac.jp
大野　十央:ohno.hns@tmd.ac.jp
田中　顕太郎:生体組織再建外科学分野　教授　田中顕太郎　　E-mail　kenta.plas@tmd.ac.jp

オフィスアワー

堤　剛:オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること。
秋田　恵一:メール等でアポイントメントを取ること。
森　弘樹:月曜日～金曜日　8:00-20:00
山口　久美子:メール等でアポイントメントを取ること。
有泉　陽介:毎週金曜午後 15 時から 17 時　MD タワー9 階頭頸部外科医局
大野　十央:毎週金曜日　AM.09:00-PM.00:00　M&D タワー9 階頭頸部外科医局
田中　顕太郎:月曜～金曜　9:00-17:00
M&D タワー9 階　形成外科医局

時間割番号	011430				
科目名	膠原病、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・ｱﾚﾙｷﾞｰ(総合診療・地域医療・東洋医学)			**科目 ID**	
担当教員					
開講時期	2025 年度通年	**対象年次**	3	**単位数**	3
実務経験のある教員による授業	該当する				

主な講義場所

【総合診療・地域医療】

講義:対面及び Zoom-Webclass による授業(同期型・非同期型)

実習:大学内、その他

実習(early exposure):地域の医療機関に訪問、またはZOOMによるインターラクティブな会話

【東洋医学】

全ての講義は対面形式とします。授業は原則医学科講義室 2 にて実施しますが、変更のある場合は事前に連絡します。最新情報は WebClass を確認してください。

授業の目的、概要等

【総合診療・地域医療】

実際に地域で展開されている医療などを知り、地域住民のニーズに合致した医療や多職種連携(医科歯科連携を含む)を理解し、全人的医療を実現させる総合診療、地域包括ケア、そして地域共生社会の重要性を認識できるようにする。

【東洋医学】

本講義は、臨床実習及び臨床研修において必要となる東洋医学の基本的知識の修得を目指します。東洋医学は西洋医学とは根本的に異なる医学体系を持っていますが、本コースでは西洋医学との関連性に重点を置いて学修します。本コースを通じてさらに東洋医学体系に興味を持った学生には advanced コースも紹介します。

授業の到達目標

【総合診療・地域医療】

1.日本の医療の問題とその対策について説明できる。
2.総合診療やプライマリ・ケアの機能とその重要性を説明できる。
3.病院総合医の概要や役割について説明できる。
4.高齢者医療の全体像や重要な点について説明できる。
5.多職種連携の概要と医師の役割を説明できる
6.病診連携の概要を説明できる。
7.高齢者医療・老年医学の研究の概要を理解できる。
8.高齢者特有の症候(老年症候群・フレイルなど)の概要を説明できる
9.効果的な患者教育を説明できる。
10.臨床推論の手法の概要を理解し説明できる。
11.家庭医の役割を理解し概要を説明できる。
12.患者中心の医療の概要を説明できる。
13.臨床倫理の原則や実践の手法を説明できる。
14.地域住民が求めている医療やそのシステムを認識できる。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成 28 年度改訂版)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/033-2/toushin/1383962.htm

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる

[Ⅱ-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[Ⅱ-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[Ⅲ-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[Ⅲ-2-C]専門職にある者としての立場を理解している
[Ⅲ-8-C]患者との関係(情報漏洩、親密性、金品授受など)において適切な距離を維持する必要性を説明できる
[Ⅲ-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[Ⅲ-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[Ⅲ-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[Ⅲ-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[Ⅲ-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[Ⅲ-17-A]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
[Ⅲ-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[Ⅲ-21-A]患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる
[Ⅲ-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[Ⅲ-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[Ⅲ-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[Ⅲ-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[Ⅲ-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[Ⅳ-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる
[Ⅳ-4-B]多学科チームのすべてのメンバーと、敬意を払って効果的な議論ができる
[Ⅳ-6-B]患者の様々な背景や文化がどれだけ医者-患者間のコミュニケーションに影響するかを説明できる
[Ⅴ-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[Ⅴ-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる
[Ⅴ-3-C]症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応／合併症／限界)を提示できる
[Ⅴ-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる
[Ⅴ-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[Ⅴ-10-B]全身疾患と口腔疾患の関連を説明できる
[Ⅵ-8-C]主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる
[Ⅵ-12-A]高齢者の機能的評価を行える
[Ⅵ-15-C]臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる
[Ⅶ-2-B]多学科チームでの仮想症例を通したチーム医療学習の場で、多職種よりなるチーム医療を成立させる医療・福祉システムを活用できる。
[Ⅶ-3-B]仮想症例検討において、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関を活用できる
[Ⅶ-5-B]医療体制の主な構成要素(患者、多職種にわたる医療供給者、医療機関、保険者、行政、医療産業(製薬会社等)、診療報酬、薬価)について、役割・意義を説明できる
[Ⅶ-6-A]医療保険、コスト、医療の質、そして医療アクセスを考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる

【東洋医学】
到達目標は、以下である。
1. わが国の医療における代替医療としての東洋医学の位置づけを理解できる
2. 主な和漢薬(漢方薬)の適応、薬理作用を概説できる。
3. 東洋医学の基礎的な概念を概説できる。

文部科学省 HP 医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度版)
CS-02-04-05
CS-02-04-06
CS-02-04-07
CS-02-04-14
CS-02-04-25

CS-05-05-02
PS-01-03-32
PS-01-03-33
GE-01-01-01
GE-01-01-02
GE-01-01-03
GE-01-01-04
GE-01-01-05
GE-01-01-06
GE-01-01-07
GE-01-06-02

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-1-B]疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	5/26	08:50-09:35	医学科講義室2	漢方医学入門	石田和之教授(中央大)による東洋医学概論	山脇 正永	
2	5/26	09:45-10:30	医学科講義室2	漢方の基礎理論	新井 信教授(東海大学)による講義	山脇 正永	
3	5/26	10:45-11:30	医学科講義室2	脳神経内科と漢方	石田和之教授(中央大学)による講義	山脇 正永	
4	5/26	11:40-12:25	医学科講義室2	消化器疾患の漢方治療	新井 信教授(東海大学)による講義	山脇 正永	
5	5/26	13:30-14:15	医学科講義室2	漢方医学の基礎研究から臨床への応用まで		岡本 健太郎	
6	5/26	14:25-15:10	医学科講義室2	鍼灸治療	蛯子慶三講師(東京女子医科大学)による講義	山脇 正永	
7	5/27	08:50-09:35	医学科講義室2	女性と漢方	木村容子教授(東京女子医科大学)による講義	山脇 正永	
8	5/27	09:45-10:30		予備枠			

9	5/27	10:45-11:30		予備枠			
10	5/27	11:40-12:25		予備枠			
11	5/28	08:50-09:35		予備枠			
12	5/28	09:45-10:30		予備枠			
13	5/28	10:45-11:30		予備枠			
14	5/28	11:40-12:25		予備枠			
15	5/28	13:30-14:15		予備枠			
16	5/28	14:25-15:10		予備枠			
17	11/7	08:50-09:35	遠隔授業（同期型）	日本の総合診療のあり方		橋本 正良	到達目標:1、2 学習方法:遠隔講義
18	11/7	09:45-10:30	遠隔授業（同期型）	老年医学のエッセンスと研究		秋下 雅弘	到達目標:7 学習方法:遠隔講義
19-20	11/7	10:45-12:25					
21	11/7	13:30-14:15					
22	11/7	14:25-15:10	遠隔授業（同期型）	在宅歯科医からみた要介護高齢者の状況		猪原 健	
23	11/7	15:25-16:10	遠隔授業（同期型）	摂食嚥下リハビリテーション		中根 綾子	到達目標8
24	11/7	16:20-17:05					
25-31	11/10	08:50-16:10	外部病院等	学外実習（1回目）	※集合・終了時間は配属施設により異なる（別途周知する）	馬渕 卓	到達目標:4、14
32	11/10	08:50-09:35					
33	11/10	09:45-10:30					
34	11/10	10:45-11:30	遠隔授業（非同期型）	社会保障と医療と経済		相田 潤	
35	11/10	11:40-12:25	遠隔授業（同期型）	在宅医療の実践と研究		山中 崇	到達目標:4 学習方法:遠隔講義、グループ討論
36	11/10	13:30-14:15					
37	11/10	14:25-15:10					
38	11/10	15:25-16:10	遠隔授業（同期型）	病院総合医		山田 徹	到達目標:3
39	11/10	16:20-17:05	遠隔授業（同期型）	難しい診療方針をどう扱うか		山田 徹	到達目標:12、13
40	11/11	08:50-09:35	遠隔授業（同期型）	地域を診る		川越 正平	到達目標:14 学習方法:遠隔講義
41	11/11	09:45-10:30	遠隔授業（同期型）	地域医療構想		石田 岳史	到達目標:1、2、14
42	11/11	10:45-11:30	遠隔授業（同期型）	地域包括ケアシステム		石田 岳史	到達目標:1、2、14
43	11/11	11:40-12:25	遠隔授業（同期型）	高齢者の栄養管理		豊島 瑞枝	到達目標:9 学習方法:遠隔講義、グループ討論
44-50	11/12	08:50-16:10	外部病院等	学外実習（2回目）	※集合・終了時間は配属施設により異なる（別途周知する）	馬渕 卓	到達目標:4、14

51	11/12	08:50-09:35	遠隔授業（非同期型）	高齢者歯科		松尾 浩一郎	到達目標5
52	11/12	09:45-10:30	遠隔授業（非同期型）	周術期口腔管理		松尾 浩一郎	到達目標5
53	11/12	10:45-11:30	遠隔授業（同期型）	地方から考える総合診療の歩き方		市毛 博之	
54	11/12	11:40-12:25	遠隔授業（同期型）	地域社会と地域医療―認知機能低下への対応、意思決定支援―		大内 修司	
55	11/12	13:30-14:15	遠隔授業（同期型）	臨床推論①（診断方法・バイアスなど）		赤石 雄	到達目標:10
56	11/12	14:25-15:10	遠隔授業（同期型）	臨床推論②（症例ベースの実践）		赤石 雄	到達目標:10
57	11/12	15:25-16:10	遠隔授業（同期型）	家庭医療学総論		篠原 孝宏	到達目標:11
58	11/12	16:20-17:05					
59	11/13	13:30-14:15	遠隔授業（同期型）	高齢者医療総論		馬渕 卓	到達目標:4、8
60	11/13	14:25-15:10	遠隔授業（同期型）	患者教育		馬渕 卓	到達目標:9、12
61	11/13	15:25-16:10	遠隔授業（同期型）	在宅医療、介護保険/医療・介護・福祉の連携 生活と医療の橋渡し		木村 琢磨	到達目標:2、5、6、12、14
62	11/13	16:20-17:05	遠隔授業（同期型）	地域における多職種連携		木村 琢磨	到達目標:5、6
63-65	11/14	08:50-11:30	第1総合診療室，特別講堂（D棟4階）	口腔ケア実習		鈴木 瞳，吉田 直美	到達目標5
66-68	11/14	08:50-11:30	遠隔授業（同期型）	高齢者疑似体験実習		本村 一朗	到達目標8
69-71	11/14	13:30-16:10	第1総合診療室，特別講堂（D棟4階）	口腔ケア実習		鈴木 瞳，吉田 直美	到達目標5
72-74	11/14	13:30-16:10	遠隔授業（同期型）	高齢者疑似体験実習		本村 一朗	到達目標8
75	11/14	16:20-17:05					
76-78	11/17	08:50-11:30	遠隔授業（同期型）	病理実習		田口 登和子	
79	11/17	14:25-15:10	医学科講義室1，医学科講義室2	筆記試験		馬渕 卓，本村 一朗	
80-81	11/21	10:45-12:25	医学科講	筆記試験			

			義室 1, 医学科講 義室 2				

授業方法

【総合診療・地域医療】

対面での授業を基本とし、非常勤講師の先生方の授業は同期型(一部非同期型)の遠隔授業で知識を伝える。適宜、ブレインストーミング的に学生と対話する。また、実習によってその知識を技能として具備させる。さらに学外実習によってそれらの知識や技能を態度面にまで昇華させる。

【東洋医学】

・全て対面授業の予定です。

・各回授業終了後に確認用小テストを実施します。小テストをもって出席の確認としますが、その成績は教科の成績には影響しません。ただし、小テストの内容は最終試験にも関連するので、よく復習をしておいてください。

・小テストは、講義中に解答していただきます。授業中に Webclass にアクセスできる端末(パソコンなど)を持参してください。

・授業方法については、反転授業、バズセッション等を採用しアクティブラーニングを活用します。

授業内容

【総合診療・地域医療】

Ⅰ. 講 義

(1)総合診療総論

(2)医科歯科連携の基盤構築

・医療と経済、在宅歯科医から見た要介護高齢者の状況、摂食嚥下リハビリテーション、高齢者歯科、周術期口腔管理

(3)地域医療エッセンス

・高齢者医療総論、老年症候群・フレイル、高齢者の栄養管理、多職種連携・病診連携、
在宅診療と地域包括ケアシステム、家庭医

(4)総合診療のエッセンス

・臨床推論①②、カルテの書き方／プレゼンの方法、患者中心の医療
Hospitalist／病院総合医、難しい診療方針をどうするか
予防医療総論(1次予防/2次予防/ワクチン)、患者教育

(5)その他

老年医学研究

Ⅱ. 実 習

(1)口腔ケア実習

(2)高齢者体験実習

(3)病理実習

(4)学外実習

【東洋医学】

授業は下記のスケジュールにて実施します。各回の授業内容は授業明細に示してあります。

①2024.4.2.火曜日 5限

②2024.4.9.火曜日 5限

③2024.4.10.水曜日 5限

④2024.4.24.水曜日 5限

⑤2024.5.1.水曜日 3限

⑥2024.5.1.水曜日 4限

⑦2024.5.1.水曜日 5限

成績評価の方法

【総合診療・地域医療】

知識を確かめるための筆記試験を実施する。

【東洋医学】
・東洋医学の評価は、5 月 19 日金曜日 2 限目に実施する筆記試験によって行います。すべての問題は多肢選択式問題で構成します。確認用小テストをよく復習しておいてください。
・出席点も最終判定に加味します。

成績評価の基準

【総合診療・地域医療】
筆記試験で 60%の点数を取ることで合格(GP における B 基準)とする。
筆記試験で 80%の点数を取ることで合格(GP における A 基準)とする。
筆記試験で 90%の点数を取ることで合格(GP における A+基準)とする。

【東洋医学】
・出席点 30%、試験 70%の配分で最終成績とする。

準備学習等についての具体的な指示

【総合診療・地域医療】
各授業前までに下記書籍の該当場所を読んでおく事
新・総合診療医学　病院総合診療医学編　カイ書林
新・総合診療医学　診療所総合診療医学編　カイ書林

【東洋医学】
講義後にその内容を復習し理解を深めるために Webclass 上での小テストを行います。事前に教科書等で予習をしておいてください。確認用小テストについては、毎回復習用教材として活用するとともに、次回への予習教材としても使用できます。特に最終試験については、確認用小テストをよく復習しておいてください。
全ての講義終了後に確認用小テストをまとめた資料を webclass にアップする予定です。

試験の受験資格

【総合診療・地域医療】
出席の有無を確認する。試験はすべて授業項目から出題する。総合診療については、講義を受けないと、試験の解答は困難と考えてほしい。

【東洋医学】
以下が、5 月 17 日に行われる定期試験並びに追・再試験を受験する資格となります。
・講義の 2/3 以上出席(小テストの回答をもって出席とします)すること

教科書

病院総合診療医学編 : 初めて総合診療を学ぶ人のために／阿部智一 [ほか] 編集委員,阿部, 智一,徳田, 安春,:カイ書林, 2019
診療所総合診療医学編／栄原智文, 関口由希公, 山田歩美編集委員,藤沼, 康樹,栄原, 智文,関口, 由希公,山田, 歩美,:カイ書林, 2019
ベイツ診察法／リン S. ビックリー, ピーター G. シラギ著 ; 福井次矢, 井部俊子, 山内豊明監修,Bickley, Lynn S.,Szilagyi, Peter G.,石松, 伸一,岸本, 暢将,佐地, 勉,福井, 次矢,井部, 俊子,山内, 豊明,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2015
在宅医療バイブル : 家庭医療学,老年医学,緩和医療学の 3 領域からアプローチする／川越正平 編著,川越, 正平, 1966-,:日本医事新報社, 2018
基本がわかる漢方医学講義／日本漢方医学教育協議会,日本漢方医学教育協議会 編:羊土社, 2020.12

参考書

老年歯科医学 第 2 版／森戸光彦, 山根源之, 櫻井薫, 羽村章, 下山和弘, 柿木保明編集 ; 森戸光彦 [ほか] 執筆 = Gerodontology,森戸, 光彦,山根, 源之,櫻井, 薫(歯学),羽村, 章,下山, 和弘,柿木, 保明,:医歯薬出版, 2022
医学生のための漢方医学／安井, 広迪,安井廣迪 著:東洋学術出版社, 2021.2
実践漢方診察 : 脈診・舌診・腹診基本マスター／千福, 貞博,千福貞博 著:新興医学出版社, 2018.9

履修上の注意事項

学外実習では服装及び集合時間厳守の事。　遅刻や体調不良による出席不可の際は必ず連絡する事。

備考

アクティブラーニングを配慮し、講義は一部を除き同期型とし、また実習もできる限り参加型としている。

参照ホームページ

時間割番号	011671				
科目名	生殖・発達			**科目 ID**	
担当教員					
開講時期	2025 年度通年	**対象年次**	3	**単位数**	4
実務経験のある教員による授業	該当する				

Obstetrics and gynecology

Pediatrics

授業の目的、概要等

産科、婦人科【悪性腫瘍・生殖内分泌、女性医学+婦人科良性疾患+感染症】の基礎を講義形式で学ぶ。また産科、婦人科上記 3 領域について、アクティブラーニングにより深く学んでいく。

「小児疾患」の基礎を非同期授業で学ぶ。各専門分野についてアクティブラーニングで学ぶとともに、TBL にて小児の縦断・横断的疾患について総合討議をしながら学んでゆく。

授業の到達目標

1)小児の発達を理解できる。
2)小児科における主要な病気、病態を理解できる。
3)小児科を取り巻く社会的背景、小児科にかかわる先端医療の知識に触れる。

1)女性の生殖・内分泌機能、妊娠の成立過程についての基礎を確認・理解する。
2)月経異常・不妊症の原因について、原因検索のためのアプローチ・治療法を学び・理解する。
3)妊娠から分娩に至るまでの正常・異常な経過について理解・説明することができる。
4)女性生殖器における症性腫瘍・感染性疾患・女性特有の加齢性変化について病態を理解し、説明できる。
5)女性生殖器の悪性腫瘍について病態・検査方法・治療を理解し、説明できる。

文部科学省 HP 医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html
CS-01-02)03
CS-02-01)01,02
CS-02-02)01,02
CS-02-03)04,06,07
CS-02-04)01,20,21,22,23,24
CS-03-02)01
CS-03-03)01
CS-03-06)01,02
GE-01-01)02)03
GE-03-02)06
GE-03-03)01,02
GE-03-04)01,02,03,04
PS-01-03)06,12
PS-02-02)01,02,03,05
PS-02-03)05
PS-02-09)01,02,03,04,05
PS-02-10)01,02,03,05
PS-02-11)01,02,03,04,05

PS-03-02)02
PS-03-04)01,04,05,06,07,08,16,23,24,25,26
PS-03-05)02,03
SO-01-03)05)06

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[IV-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる
[V-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[V-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる
[V-3-C]症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応／合併症／限界)を提示できる
[V-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる
[V-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[VI-8-C]主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる
[VI-13-A]小児の成長／発達の評価を行える
[VI-15-C]臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる
[VI-25-B]患者隔離の必要な感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる
[VII-2-C]急性期、慢性期、および長期的ケアを含む医療の向上に向けた、様々な専門分野の協力にもとづくアプローチについて、説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	11/25	08:50-09:35	医学科講義室2	総論1：小児医療の現状	講義形式	髙木 正稔	【到達目標】1)3) 【学習方法】講義形式
2	11/25	09:45-10:30	医学科講義室2	遺伝疾患	講義形式	髙木 正稔	【到達目標】1)3) 【学習方法】講義形式
3	11/25	10:45-11:30	医学科講義室2	新生児①	講義形式	杉江 学	【到達目標】1)2) 【学習方法】講義形式
4	11/25	11:40-12:25	医学科講義室2	内分泌・代謝①	講義形式	高澤 啓	【到達目標】1)2) 【学習方法】講義形式

5	11/26	08:50-09:35	医学科講義室2	神経①	講義形式	水野 朋子	【到達目標】1)2) 【学習方法】講義形式
6	11/26	09:45-10:30	医学科講義室2	アレルギー①	講義形式	石川 史	【到達目標】1)2) 【学習方法】講義形式
7	11/26	10:45-11:30	医学科講義室2	感染症・免疫不全症 ①	講義形式	金兼 弘和	【到達目標】1)2) 【学習方法】講義形式
8	11/26	11:40-12:25	医学科講義室2	循環器 ①	講義形式	石井 卓	【到達目標】1)2) 【学習方法】講義形式
9	11/26	13:30-14:15	医学科講義室2	腎臓①	講義形式	金田 朋也	【到達目標】1)2) 【学習方法】講義形式
10	11/26	14:25-15:10	医学科講義室2	血液腫瘍・小児がん・終末期医療・AYA①	講義形式	磯田 健志	【到達目標】1)2) 【学習方法】講義形式
11	11/26	15:25-16:10	医学科講義室2	膠原病①	講義形式	清水 正樹	【到達目標】1)2) 【学習方法】講義形式
12	11/26	16:20-17:05	医学科講義室2	呼吸器・救急	講義形式	山口 洋平	【到達目標】1)2) 【学習方法】講義形式 【事前学習】11/28 実施アクティブラーニング課題提出締め切り日
13	11/27	13:30-14:15	遠隔授業(非同期型)	総論2:成長・発達・健診	講義形式(非同期オンデマンド)	鹿島田 彩子	【到達目標】1)2) 【学習方法】 WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
14	11/27	14:25-15:10	遠隔授業(非同期型)	総論3:小児の診察	講義形式(非同期オンデマンド)	神谷 尚宏	【到達目標】1)2) 【学習方法】 WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
15	11/27	15:25-16:10	遠隔授業(非同期型)	総論3:小児の検査	講義形式(非同期オンデマンド)	林 祐子	【到達目標】1)2) 【学習方法】 WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
16	11/27	16:20-17:05	遠隔授業(非同期型)	総論4:予防接種	講義形式(非同期オンデマンド)	星野 顕宏	【到達目標】1)3) 【学習方法】 WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答 【事前学習】12/1

							実施アクティブラーニング課題提出締め切り日
17	11/28	08:50-09:35	医学科講義室2	神経②	アクティブラーニング	水野 朋子	【到達目標】1)2)3) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答 【事前学習】事前課題を指定日までに提出、Webclass 動画視聴/小テスト全問回答
18	11/28	09:45-10:30	医学科講義室2	内分泌・代謝②	アクティブラーニング	髙澤 啓	【到達目標】1)2)3) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答 【事前学習】事前課題を指定日までに提出、Webclass 動画視聴/小テスト全問回答
19	11/28	10:45-11:30	遠隔授業(非同期型)	周産期ハイブリッド(小児科)	アクティブラーニング	杉江 学	【到達目標】1)2) 【学習方法】アクティブラーニング形式
20	11/28	11:40-12:25	遠隔授業(非同期型)	総論5:栄養、学校保健	講義形式(非同期オンデマンド)	辻 敦美	【到達目標】1)2) 【学習方法】WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
21	11/28	13:30-14:15	遠隔授業(非同期型)	総論5:IBD 以外の消化器疾患・肝胆膵・IBD	講義形式(非同期オンデマンド)	阿久津 裕子	【到達目標】1)2) 【学習方法】WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
22	11/28	14:25-15:10	遠隔授業(非同期型)	小児精神	講義形式(非同期オンデマンド)	佐々木 祥乃	【到達目標】1)2) 【学習方法】WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
23	11/28	15:25-16:10	遠隔授業(非同期型)	移行期医療	講義形式(非同期オンデマンド)	丸 光惠	【到達目標】1)2) 【学習方法】WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
24	11/28	16:20-17:05	遠隔授業(非同期型)	小児外科	講義形式(非同期オンデマンド)	岡本 健太郎	【到達目標】1)2) 【学習方法】WebClass 動画視

							聴/小テスト全問正解まで解答 【事前学習】12/2実施アクティブラーニング課題提出締め切り日
25	12/1	08:50-09:35	医学科講義室2	循環器②	アクティブラーニング	石井 卓	【到達目標】1)2)3) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答 【事前学習】事前課題を指定日までに提出、Webclass 動画視聴/小テスト全問回答
26	12/1	09:45-10:30	医学科講義室2	腎臓②	アクティブラーニング	金田 朋也	【到達目標】1)2)3) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答 【事前学習】事前課題を指定日までに提出、Webclass 動画視聴/小テスト全問回答
27	12/1	10:45-11:30	医学科講義室2	血液腫瘍・小児がん・終末期医療・AYA②	アクティブラーニング	磯田 健志	【到達目標】1)2)3) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答 【事前学習】事前課題を指定日までに提出、Webclass 動画視聴/小テスト全問回答
28	12/1	11:40-12:25	医学科講義室2	新生児② 胎児医療・DOHad	アクティブラーニング	杉江 学	【到達目標】1)2)3) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答 【事前学習】事前課題を指定日までに提出、Webclass 動画視聴/小テスト全問回答
29	12/1	13:30-14:15	医学科講義室2	感染症・免疫不全症②	アクティブラーニング	金兼 弘和	【到達目標】1)2)3) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答

							【事前学習】事前課題を指定日までに提出、Webclass 動画視聴/小テスト全問回答
30	12/1	14:25-15:10	遠隔授業（非同期型）	在宅医療	講義形式（非同期オンデマンド）	前田 浩利	【到達目標】1)3) 【学習方法】WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
31	12/1	15:25-16:10	遠隔授業（非同期型）	虐待	講義形式（非同期オンデマンド）	大森 多恵	【到達目標】1)3) 【学習方法】WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
32	12/1	16:20-17:05	遠隔授業（非同期型）	小児歯科	講義形式（非同期オンデマンド）	岩本 勉	【到達目標】1)2) 【学習方法】WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
33	12/2	08:50-09:35	医学科講義室 2	アレルギー②	アクティブラーニング	石川 史	【到達目標】1)2)3) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答 【事前学習】事前課題を指定日までに提出、Webclass 動画視聴/小テスト全問回答
34	12/2	09:45-10:30	医学科講義室 2	膠原病②	アクティブラーニング	清水 正樹	【到達目標】1)2)3) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答 【事前学習】事前課題を指定日までに提出、Webclass 動画視聴/小テスト全問回答
35	12/2	10:45-11:30	医学科講義室 2	TBL	TBL	磯田 健志	【到達目標】1)2) 【学習方法】20 問の知識問題（個人解答）、20 問の応用問題（グループ解答）
36	12/2	11:40-12:25	医学科講義室 2	TBL	TBL	磯田 健志	【到達目標】1)2) 【学習方法】20 問の知識問題（個人

							解答)、20 問の応用問題(グループ解答)
37-38	12/3	08:50-10:30	アクティブラーニング教室	病理実習(婦人科　悪性腫瘍)	アクティブラーニング	田中　陽典	【到達目標】1)4)5) 【学習方法】実習
39-40	12/3	10:45-12:25	アクティブラーニング教室	婦人科感染症　婦人科良性疾患	講義形式	岩原　由樹	【到達目標】 1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
41-42	12/3	13:30-15:10	医学科講義室 2	性周期と月経異常	講義形式	齊藤　和毅	【到達目標】 1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
43-44	12/4	13:30-15:10	医学科講義室 2	女性医学アクティブラーニング	アクティブラーニング	寺内　公一	【到達目標】 1)2)4)5) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答
45-46	12/5	08:50-10:30	医学科講義室 2	婦人科診断(症候・検査)	講義形式	吉木　尚之	【到達目標】 1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
47-48	12/5	10:45-12:25	医学科講義室 2	不妊1	講義形式	櫻井　香織	【到達目標】 1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
49-50	12/5	13:30-15:10	医学科講義室 2	分娩の異常1	講義形式	不殿　絢子	【到達目標】 1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
51	12/8	08:50-09:35	医学科講義室 2	子宮頸癌	講義形式	若菜　公雄	【到達目標】 1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
52	12/8	09:45-10:30	医学科講義室 2	子宮体癌	講義形式	若菜　公雄	【到達目標】 1)2)4)5) 【学習方

							法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
53	12/8	10:45-11:30	医学科講義室2	卵巣がん	講義形式	若菜 公雄	【到達目標】1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
54	12/8	11:40-12:25	オンデマンド	妊娠の異常	講義形式(非同期オンデマンド)	羅 こたい	【到達目標】1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
55-56	12/8	13:30-15:10	医学科講義室2	正常分娩・産褥・新生児	講義形式	廣瀬 明日香	【到達目標】1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
57-58	12/9	08:50-10:30	医学科講義室2	周産期ハイブリッド(産科)	講義形式	関口 将軌	【到達目標】1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
59-60	12/9	10:45-12:25	医学科講義室2	婦人科悪性腫瘍アクティブラーニング	アクティブラーニング	尾臺 珠美	【到達目標】1)2) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答
61-62	12/10	08:50-10:30	医学科講義室2	産科アクティブラーニング	アクティブラーニング	宮坂 尚幸	【到達目標】1)2) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答
63-64	12/10	10:45-12:25	医学科講義室2	生殖機能	講義形式	石川 智則	【到達目標】1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
65-66	12/10	13:30-15:10	医学科講義室2	生殖内分泌アクティブラーニング	アクティブラーニング	光井 潤一郎	【到達目標】1)2) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答
67	12/22	10:45-12:15	医学科講義室2	産婦人科 試験	試験	吉木 尚之	試験 対面
68	12/23	10:45-12:15	医学科講	小児科 試験	試験	髙木 正稔	試験 対面

			義室2			磯田 健志		

授業方法

産婦人科：対面授業による講義、アクティブラーニング、

【講義】産科、婦人科悪性腫瘍、生殖内分泌、女性ヘルスケアの 4 領域の対面授業による講義が行われる。

【周産期ハイブリッド】小児科と連携して（4 月中に）対面授業を行い、理解を深める。

【アクティブラーニング・症例発表などの授業】

授業の前に前もって症例、問題を配布し、学生主導で問題の解答をみつけていく授業。

・授業の流れ

全学年学生を 16 チームにわけ、各チームにチームリーダーが割り当てられる。

チーム分けとチームリーダーは、4 月初旬を目安に情報を伝える。

学生は各チームで協力し課題にとりくむ。3 領域で発表するチームが割り当てられる。

各分野で割り当てられなかったチームは授業に参加して質問があれば発表チームに対して質問する。チームリーダーはチームをとりまとめ、期限までに発表スライドを完成させ、担当教官に送付する。

（1）婦人科悪性腫瘍症例（アクティブラーニング）（A から E チームが発表）

婦人科悪性腫瘍症例の詳細を、4 月中頃をめどに webClass に掲載もしくはメールでチームリーダーに送付する。期日までにスライドを完成させ、担当教員メールあてに送付する。

（2）生殖内分泌症例（アクティブラーニング）（F～K チームが発表）

不妊患者症例の詳細を、4 月中頃をめどに webClass に掲載もしくはメールでチームリーダーに送付する。期日までにスライドを完成させ、担当教員メールあてに送付する。

（3）女性医学症例（アクティブラーニング）（L～P チームが発表）

女性医学症例の詳細を、4 月中頃をめどに webClass に掲載もしくはメールでチームリーダーに送付する。期日までにスライドを完成させ、教員メールあてに送付する。

（4）産科症例

産科の症例の詳細を、4 月中頃をめどに webclass に掲載もしくはメールで送付する。

チームリーダーはグループで話し合い、期日までに解答を準備し、必要あればスライドを完成させ、必要あれば期日までに教員メールあてに送付する（スライド作成は必須ではない）。

・アクティブラーニング担当教員連絡先

腫瘍：尾臺珠美先生　odycrm@tmd.ac.jp

生殖内分泌：光井潤一郎先生　jmticrm@tmd.ac.jp

女性医学：寺内公一先生　m.terauchi.gyne@tmd.ac.jp

産科：宮坂尚幸教授 n.miyasaka.gyne@tmd.ac.jp

【質問の受付方法】

質問は対面授業のため、授業終了後に担当教官に直接質問してもらう。

授業後に質問できなかった場合は、授業担当教官にメールで連絡をとり質問する。

小児科

（1）非同期型授業、（2）対面授業によるアクティブラーニング（AL）、（3）対面授業によるチーム基盤型学習（TBL）

（1）非同期型授業

非同期講義の授業を視聴し、講義後小テストを全問正解まで解答することで受講資格とする。

非同期講義は割り当てられた時間に実施するか、小児科講義終了日（12/2）までに視聴を完了することで受講資格とする。

自習のための動画・資料の閲覧は定期試験のある 12/23 までとする。

⑵アクティブラーニング（AL）（対面）
対面授業は講義室内にて AL 形式で行う。
各専門領域は①新生児、②内分泌・代謝、③神経、④感染症・免疫不全症、⑤血液腫瘍・小児がん、⑥循環器、⑦腎、⑧膠原病、⑨アレルギーとなる。1 回目の対面講義内で課題について触れる。
① から⑨の各専門領域のアクティブラーニング課題を締め切り日までに提出を行う。

受講学生を 9-10 人の 11 グループに分ける。
① 新生児、②内分泌・代謝、③神経、④感染症・免疫不全症、⑤血液腫瘍・小児がん、⑥循環器、⑦腎、⑧膠原病、⑨アレルギーの AL では提出課題の記載・発表内容を評価する。
各グループで各専門領域①～⑦の課題担当者を決定すること。必ず各自が 1 課題を担当できるよう割り振りをお願いします。10 名の斑では相談の上、お二人で 1 課題を協力して作成ください。

例
A グループ
a さん①新生児
b さん②内分泌・代謝
c さん③神経
d さん④感染症・免疫不全症
e さん⑤血液腫瘍・小児がん
f さん⑥循環器
g さん⑦腎
h さん⑧膠原病
i さん⑨アレルギー

各専門領域の講義では 4 つの課題を用意する。
PPT スライドに記載を行い、提出をする。
AL 内で発表の機会があった場合に各課題担当者がプレゼンテーションできるように準備をしておくこと。

AL の事前課題は Webclass 内に掲示する。

各専門領域①～⑨事前課題の提出期限と開催日は以下の通りとする。
提出期限 ―― 開催日
11/26（水） ―― 11/28（金）
11/27（木） ―― 12/1（月）
11/28（金） ―― 12/2（火）

⑶チーム基盤型学習（TBL）
グループセッションは 16 グループに分ける。
アクティブラーニング教室にて対面で行う。
20 問の知識問題（個人解答）
20 問の応用問題（グループ解答）
各々20 点満点で採点し合計点が TBL の点数となる。

・質問の受付方法
非同期授業で質問が生じた場合には、Webclass の質問掲示板を介して終了後 1 週間ないしは（12/9）まで受け付ける。
アクティブラーニング、TBL で生じた質問は適宜挙手で受け付ける。終了後に生じた質問は Webclass の質問掲示板を介して 12/9 まで受け付ける。

学内講師の担当分野を以下に示す（敬称略）。
高木正稔：小児科総論、遺伝疾患
辻敦美：栄養・学校保健
神谷尚宏：小児の診察
林祐子：小児の検査
星野顕宏：予防接種
石川史：アレルギー
高澤啓：内分泌・代謝
水野朋子：神経
鹿島田彩子：成長・発達・健診
金田朋也：腎臓
磯田健志：血液腫瘍、小児がん・終末期医療・AYA
石井卓：循環器
杉江学：新生児、胎児医療・DOHaD
阿久津裕子：消化器疾患・炎症性腸疾患
山口洋平：呼吸器・救急
金兼弘和：細菌感染症、ウィルス感染症
金兼弘和：免疫不全症
清水正樹：腎・膠原病
岡本健太郎：小児外科
佐々木祥乃：児童精神
岩本勉：小児歯科

授業内容

（別表を参照）

成績評価の方法

産婦人科：
アクティブラーニングでの発言と授業態度、ブロック定期試験の総合成績で評価する。

小児科：
非同期授業の受講後に小テストを行う、アクティブラーニング、TBL、ブロック定期試験
アクティブラーニングの提出物・発表内容を評価する。
アクティブラーニング、TBL 授業における積極性と内容を加味する。
筆記試験の成績を総合して評価する。

成績評価の基準

産婦人科：
ブロック定期試験の点数が 60 点以上を履修要項とする。
ブロック定期試験の点数に加えアクティブラーニングでの発言と授業態度が良のものを B 判定とする。
ブロック定期試験の点数に加えアクティブラーニングでの発言と授業態度が非常によいと評価されたものを A 判定とする。

小児科：
非同期授業の受講と小テスト（5%）、アクティブラーニング（前半 10%、後半 15%　計 25%）、TBL（10%）、ブロック定期試験（60%）の成績で評価する
非同期型授業と小テスト、アクティブラーニングの提出物及び参加、TBL への参加、ブロック定期試験の点数が基準に達していたらB 判定となる。
A 以上の点数は非同期授業、アクティブラーニング、TBL、ブロック定期試験を総合して評価する。

準備学習等についての具体的な指示

講義開始前に、これまで学習した基礎医学の分野で「生殖・発達」と特に関連の深い「生命と遺伝」について復習をしておくこと。また、「解剖学」「生理学」等の各分野についても、「生殖・発達」と関連する部分の復習をしておくことが望ましい。

小児科
小児は「小さい大人」ではない。内科疾患と対比してその相違につき予習しておくとよい。また、講義を受けるにあたり、教科書に出てくる疾患名だけでも目を通し、内科学では学習しない小児特有の疾患があることを理解し、当日の講義に臨むこと。
講義では数多くある小児のすべての疾患については触れない。自主学習によって卒業までに習得しておくべきすべての知識を学ぶ必要がある。ブロック定期試験は卒業までに習得しておくべきすべての知識を対象とするので、自習時間を活用し、非同期講義で行われる小テスト、アクティブラーニング用の提出課題の準備、ブロック定期試験のための学習を行うこと。
なおアクティブラーニング課題、および動画・講義資料について、Webclass(遅くとも 11 月中旬)に提示する。

試験の受験資格

ブロック全体で試験を行い、単位判定を行う。

原則として、ブロック全体で授業時間数の 2/3 以上の履修(本学試験細則による定期試験の受験資格)、および試験での合格評価を履修要件とする。
授業時間数の履修をどのように評価するかは、科目責任者に一任される。

産婦人科は、出席を試験の受験資格の要件としないが、試験はすべての授業項目から出題されるので病気などでやむを得ず欠席した場合は、Webclass 掲載の講義スライドで自習をすること。

小児科は、非同期型授業は講義後の小テストを全問正解となるまで解答することで受講資格とする(成績評価の 5%を占める)。同期型授業は、対面の総論・遺伝学講義への出席、各論の対面授業を受講し(成績評価の 10%を占める)、事前課題を提出し、対面のアクティブラーニング(AL)に出席することで受講資格とする(成績評価の 15%を占める)。チーム基盤型学習(TBL)に参加することで受講資格とする(成績評価の 10%を占める)。45 分の講義は 1 コマとして計算し、本試験は出席数にカウントしない。

上記の機械的計算で出席数が 2/3 に満たない場合、履修とみなすには下記の課題要件を満たすことを求める。
課題要件:欠席した全ての授業に関して、教官が指定する論述課題の提出を求める。全ての課題を提出し、かつ、課題の内容を採点し、講義担当分野で構成するブロック成績判定会議でこれらの結果に基づき、課題を提出できたと判定されること。

教科書

小児科学／加藤元博 編集:文光堂, 2023.4
標準小児科学／原寿郎 監修,高橋孝雄, 細井創, 齋藤昭彦 編集,高橋孝雄 [ほか] 執筆,原, 寿郎, 1953-,高橋, 孝雄, 1957-,細井, 創,齋藤, 昭彦,:医学書院, 2022
ネルソン小児科学／Robert Kliegman, MD and Joseph W. St. Geme Ⅲ, MD:エルゼビア・ジャパン, 2025
Rudolph's pediatrics／editor-in-chief, Mark W. Kline,Kline, Mark W.,:McGraw-Hill Education, 2018
標準産科婦人科学／綾部琢哉, 板倉敦夫編,綾部, 琢哉,板倉, 敦夫,:医学書院, 2021

参考書

プリンシプル産科婦人科学／武谷雄二, 上妻志郎, 藤井知行, 大須賀穣 監修,武谷, 雄二, 1947-,上妻, 志郎, 1953-,藤井, 知行, 1957-,:メジカルビュー社, 2014
:医学書院
産婦人科の参考書:
「産婦人科研修の必修知識 」 日本産科婦人科学会 編
「臨床研修イラストレイテッド 3. 基本手技[診察と検査]」 奈良信雄 編 羊土社 2011 年
「女性診療科 最新超音波診断」 関谷隆夫・石原楷輔 著 永井書店
「婦人科疾患の MRI 診断」 富樫かおり 著 医学書院
「産科婦人科用語集・用語解説集」 日本産科婦人科学会 編 金原出版
「産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020」 日本産科婦人科学会 編
「産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編 2020」 日本産科婦人科学会 編
「新生児蘇生法テキスト 改訂第 2 版」 田村正徳 著 メジカルビュー社
「MFICU マニュアル」 メディカ出版

「生殖医療の必須知識」 日本生殖医学会
「子宮頸癌治療ガイドライン」 日本婦人科腫瘍学会 編　金原出版
「子宮頸癌取り扱い規約」 日本産科婦人科学会 編 金原出版
「子宮体癌治療ガイドライン」 日本婦人科腫瘍学会 編 金原出版
「子宮体癌取り扱い規約」 日本産科婦人科学会 編 金原出版
「卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療治療ガイドライン」 日本婦人科腫瘍学会編 金原出版
「卵巣腫瘍取り扱い規約」 日本産科婦人科学会 編 金原出版
「遺伝性乳癌卵巣癌症候群診療ガイドライン」 JOHBOC 編 金原出版

"WHO Classification Tumors of the Breast and Female Genital Organs" A. Tavassoli & Peter Devilee
"Clinical Gynecologic Oncology" Di Saia
"Principles and Practice of Gynecologic Oncology, 5th ed." Richard R. Baraket, Maurie Markman, Marcus E. Randall

小児科：総論、各論について、下記の参考サイトを参照のこと

履修上の注意事項

教科書などの成書に書かれていることは自学自習可能である。従って当ブロックでは誕生（出生）からの発達過程の生理的病的過程を成長という視点で捉え、性的成熟過程および妊娠出産という生命の一連の流れのダイナミズムを理解するうえでの見方・考え方を修得するよう心がけ、教科書では把握できないことがらに対して問題意識をもって学習に当たってほしい。

備考

産婦人科
産婦人科の主要4領域（産科、婦人科腫瘍、生殖内分泌、女性ヘルスケア）を広く学んでもらえるよう工夫しました。
産科、婦人科 3 領域にアクティブラーニングをとりいれ、4 月中頃をめどに教務から詳細連絡（チーム分け、チームリーダーなど）があります。
チームリーダーは必要があればアクティブラーニング担当教官に連絡をしてください。
（詳細は授業方法参考）

・アクティブラーニング担当教員連絡先
腫瘍：尾臺珠美先生　odycrm@tmd.ac.jp
生殖内分泌：光井潤一郎先生　jmticrm@tmd.ac.jp
女性医学：寺内公一先生　m.terauchi.gyne@tmd.ac.jp
産科：宮坂尚幸教授　n.miyasaka.gyne@tmd.ac.jp

参照ホームページ

産婦人科診療ガイドライン　産科編　2020 PDF （書籍は 2023 年が最新です。）
https://minds.jcqhc.or.jp/docs/gl_pdf/G0001189/4/pregnancy_delivery_and_neonates.pdf

産婦人科診療ガイドライン　婦人科外来編　2020　PDF （書籍は 2023 年が最新です。）
https://minds.jcqhc.or.jp/docs/gl_pdf/G0001188/4/gynecologic_disease.pdf

http://www.jsog.or.jp/activity/guideline.html
http://www.jsgo.gr.jp/
http://www.cancer.gov/
http://www.nccn.org/index.asp

http://www.uptodate.com/home/clinicians/specialties/pediatrics.html

【小児科参考サイト】
ワクチン：　http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=263　日本小児科学会
　　https://www.know-vpd.jp/　know VPD
感染症：　https://www.niid.go.jp/niid/ja/　国立感染症研究所

https://www.cdc.gov/ CDC

疾患総論: https://www.shouman.jp/ 小児慢性特定疾病情報センター

https://www.uptodate.com/contents/search UpToDate

OMIM: https://www.omim.org/ あらゆる遺伝性疾患の検索が可能

救急: http://kodomo-qq.jp/ 日本小児科学会

https://www.convention-axcess.com/jsep/special_page/2020_manual.html 日本小児救急医学会

原発性免疫不全症候群: https://csl-info.com/e-meneki/pid/

小児血液・腫瘍ガイドライン: https://www.jspho.org/journal/guideline.html

NationalCancer Institute: https://www.cancer.gov/publications/pdq/information-summaries/pediatric-treatment

内分泌: http://jspe.umin.jp/medical/gui.html 日本小児内分泌学会

神経: https://www.childneuro.jp/modules/general/index.php?content_id=4 日本小児神経学会

新生児: https://www.ncpr.jp/e-learning.html NCPR(新生児蘇生法)

https://www.ncpr.jp/pdf/elearning-release.pdf NCPR ログイン PW

http://jsnhd.or.jp/info/INFORMATION.html 新生児成育医学会

循環器: https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2020/02/JCS2018_Yasukochi.pdf 日本循環器学会(特に p16-26 の総論部分は、先天性心疾患の病態理解の一助になると思います)

リウマチ性疾患: https://www.printo.it/pediatric-rheumatology/JP/info/JP 小児リウマチ国際研究機関

小児外科: http://www.jsps.or.jp/disease-to-treat 日本小児外科学会

時間割番号	011440				
科目名	救急・麻酔・集中治療			**科目 ID**	
担当教員					
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	3	**単位数**	2
実務経験のある教員による授業	該当する				

主な講義場所

最終日の試験は対面式でおこなう。

＜集中治療部＞

非同期授業は各自実施すること。同期授業と試験は対面で実施する。場所は授業日程を参照。

授業の目的、概要等

＜救急科＞

近年はジェネラルな臨床能力よりも、専門に特化した質の高い診療が求められる傾向にあるが、どの患者に対しても初期対応ができること、全身管理の基礎を理解していることは全ての臨床医において必須の能力といえる。

このブロック講義では、救急医学、麻酔学、集中治療学の授業を通して、救急診療、全身管理の基礎を習得することを第一の目的としている。実臨床に直結する知識の習得を目指す。

それぞれが現時点で思い描く目標とする臨床医像とリンクさせながら、積極的に参加する姿勢を期待する。

＜麻酔領域＞

麻酔医学を実践するのに必要な基礎知識を習得し、周術期管理や集中治療領域における診療を理解できるようになることが本ブロックの目的である。

＜集中治療領域＞

ICU での重症患者の管理には、救急科、麻酔科の講義で取り扱われた内容が関係するだけでなく、人工呼吸管理や、二次性脳障害を予防するための神経集中治療への理解が求められる。また、予後不良患者への終末期医療といった倫理的課題への対処や、ICU 退室患者の社会復帰の妨げとなる集中治療後症候群についても十分に理解しておく必要がある。加えて近年、小児を専門的に扱う Pediatric Intensive Care Unit (PICU)や術後超急性期の患者管理を専門的に行う Post Anesthesia Care Unit (PACU)といった専門性の高いユニットや、病棟患者の重症化の兆候を早期に察知・介入し ICU への入室を防ぐ Risk Assessment System (RAS)/Rapid Response System (RRS)といった取り組みが発展している。

集中治療領域の講義では、救急科、麻酔科の講義で扱わないが集中治療において重要な事柄を講義テーマとし、最後に反転授業として症例をもとに患者の全身管理の整理の仕方を学習する。この内容は臨床実習に進んだ際に実地で行われている内容が良く理解できるようになることを目的とし、ICU で治療を受けている重症患者のみならず、一般病棟での患者診療にも活かせる内容である。

授業の到達目標

＜救急科＞

到達目標は以下の通りである。

生命や機能的予後に係わる、緊急を要する病態や疾病、外傷に対して適切な対応を学ぶ。

・バイタルサインの把握ができる。

・重症度及び緊急度の把握ができる。

・初期介入(ABCDE アプローチ)を理解する。

・心肺蘇生の理論的背景と実践について理解する。

・ショックの診断と治療を理解する。初期輸液を含む初期対応を学ぶ。

・中毒・熱傷を含む頻度の高い救急疾患の初期治療を学ぶ。

・全ての医療者に必要な災害時の救急医療体制を理解する。

・外傷初期診療について学ぶ。

＜麻酔領域＞

①麻酔薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項について理解している
②全身麻酔を行うために必要な解剖、薬剤、医療機器について理解している
③気管挿管を含む気道確保法を理解している
④区域麻酔について適応、禁忌となる合併症について理解している
⑤循環を構成する臓器の生理学的特徴を理解し、それを麻酔管理へ応用できる
⑥血液製剤および血漿分画製剤の種類と適応について理解し、輸血療法の概要を把握する
⑦麻酔を行う上で必要な手術についての理解を深める
⑧周術期における全身管理の必要性と実際について学習する

＜集中治療領域＞
到達目標は以下のとおりである。
1) 全身状態を ABCD で説明でき、介入方法がわかる。
2) ABCDEF バンドルがわかる。
3) 人工呼吸と自然呼吸の違いがわかる。
4) 人工呼吸器設定の基本がわかる。
5) ARDS の定義と呼吸管理の原則が説明できる。
6) 二次性脳障害を予防するための神経集中治療の原則が説明できる。
7) 小児集中治療の特殊性及び成人集中治療との共通点がわかる。
8) PACU の役割、術後急性期患者の診療上の注意点を説明できる。
9) 集中治療症候群の概要を理解し、その予防策をあげることができる。
10) 急性期患者に求められる終末期医療がわかる。
11) 倫理的事柄を多職種で話し合うための基本知識がわかる。

＜救急＞
文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html
CM-01-01)01,02
CM-02-02)01
CS-01-01)01,02
CS-01-02)01,02,03,04,05
CS-02-01)01,02
CS-02-02)01,02
CS-02-03)01,02,03,04,05,06,07
CS-02-04)01,02,04,05,06,07,08,09,10,11,12,13,14,15,16,17,18,21,22,23,24,25,26,27,28,29,30,31,32,33,34,35,36,38,39,40,45,46,47,48
CS-03-01)01
CS-03-02)01
CS-03-03)01,02,03,04,05
CS-03-05)02
CS-03-06)01,02
CS-05-04)02
GE-01-01)01,02,03,04,05,06,07
GE-01-04)01,02,03,04,05
GE-01-06)01,02,03,04,05
GE-02-03)02
GE-02-04)01,02
GE-03-05)05,07
GE-03-06)01,03,04,05
IP-01-03)01
IT-01-02)01
PS-01-03)06,12,14,33

PS-02-02)02,04
PS-02-03)02,05
PS-02-04)01
PS-02-05)02,05
PS-02-06)01,02,05
PS-02-07)02,05
PS-02-08)02,04,05
PS-02-09)01,05
PS-02-10)02
PS-02-11)02
PS-02-15)02
PS-02-16)05
PS-03-02)02,03
PS-03-03)01,02,03,04,05,06,07,09,10,11,16,17,18
PS-03-05)02,03,04,05,06,07,08,09,10,11,12,13,15
SO-01-04)04
SO-02-02)05

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[IV-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる
[V-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[V-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる
[V-3-C]症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応／合併症／限界)を提示できる
[V-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる
[V-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[VI-8-C]主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる
[VI-15-C]臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる
[VI-25-B]患者隔離の必要な感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる
[VI-26-C]針刺し事故、針刺切創等による感染症感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる
[VII-2-C]急性期、慢性期、および長期的ケアを含む医療の向上に向けた、様々な専門分野の協力にもとづくアプローチについて、説明できる

＜麻酔・集中治療領域＞

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-01-03)32,33
PS-01-04)07,13,14
PS-02-09)01,02,03,04,05
PS-02-11)01,02,04,05
PS-02-12)03
PS-02-14)02,05
PS-03-05)02,03,04,05,12
IT-01-02)01
CS-01-02)03
CS-02-03)01,02,03,04,05,06,07
CS-02-04)04,05,06,07,08,09,12,21,22,23,24,25,26,27,28,29,30,31,32,33,36,38,40
CS-03-03)01
CS-05-04)02

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[IV-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる
[V-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[V-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる
[V-3-C]症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識（適応／合併症／限界）を提示できる
[V-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法（薬物療法、非薬物療法の双方を含む）に関する知識を提示できる
[V-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[VI-8-C]主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる
[VI-15-C]臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる
[VI-25-B]患者隔離の必要な感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる
[VI-26-C]針刺し事故、針刺切創等による感染症感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる
[VII-2-C]急性期、慢性期、および長期的ケアを含む医療の向上に向けた、様々な専門分野の協力にもとづくアプローチについて、説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方

							法・その他
1	12/11	13:30-14:15	医学科講義室2	導入と救急初期診療1	救急医学を概説する。 救急初期診療の講義とその周辺知識を、講師と学生の双方向性のやりとりの中で確認する。また実際の現場での知識の応用についても学習する。	森下 幸治, 藤江 聡, 白石 淳, 小寺 輝	
2	12/11	14:25-15:10	医学科講義室2	救急初期診療2	救急初期診療における、バイタルサインの把握、初期介入(ABCDEアプローチ)と臨床推論について学習する。	藤江 聡, 白石 淳, 小寺 輝	
3	12/11	15:25-16:10	医学科講義室2	ACP	救急医療現場では、限られた情報や時間のなかで、重大な意思決定を迫られる場面に遭遇する。緊急ACPの紹介やスキルの実践を行う。	関谷 宏祐	
4	12/11	16:20-17:05	医学科講義室2	TBL(初期診療)	講義で学んだ内容について TBL 形式による試験を行い、知識の定着を図る。	藤江 聡, 白石 淳, 小寺 輝	
5	12/11	17:15-18:00	遠隔授業(非同期型)	課題作成時間	4/23 の 3-5 限の内容を踏まえて課題を作成する時間。作成した課題は 4/24 の 5-6 限で発表してもらいます。	内田 篤治郎	
6	12/11	18:10-18:55	遠隔授業(非同期型)	予備枠	※講義が入る可能性あり	内田 篤治郎	
7	12/12	08:50-09:35	遠隔授業(非同期型)	熱傷	緊急を要する感染症と体温異常を学習する。	森 周介	
8	12/12	09:45-10:30		外傷総論	外傷初期診療について、特に primary survey である生理学的外傷重症度の把握と初期介入について学習する。	森下 幸治	
9	12/12	10:45-11:30		外傷各論・Acute Care Surgery	外傷初期診療について、特に secondary survey である解剖学的外傷重症度の把握と治療について学習する。	小島 光暁	
10	12/12	11:40-12:25		心肺蘇生	心肺蘇生の解剖生理学的な理論的背景と、実践について学習する。	藤江 聡	
11	12/12	13:30-14:15		敗血症	敗血症診療の歴史、及び最新のガイドラインに基づいた敗血症の診断・治療の考え方とその実践について学習する。	松井 宏樹	
12	12/12	14:25-15:10		環境障害・溺水	環境が影響する救急疾患である熱中症、低体温症、減圧症、凍傷、溺水などにつき病態生理、診断、治療について学習する。	古口 葉月	
13	12/12	15:25-16:10	その他	予備枠		内田 篤治郎	

			(医学科)				
14	12/12	16:20-17:05		課題発表	4/23 の 6 限および 4/24 の 4 限で作成した課題を発表するための時間です。	内田 篤治郎	
15	12/12	17:15-18:00		課題発表	4/23 の 6 限および 4/24 の 4 限で作成した課題を発表するための時間です。	内田 篤治郎	
16	12/12	18:10-18:55	遠隔授業(非同期型)	課題作成時間	4/23 の 3-5 限の内容を踏まえて課題を作成する時間。作成した課題は 4/24 の 5-6 限で発表してもらいます。	内田 篤治郎	
17	12/15	08:50-09:35	医学科講義室 2	災害医療	全ての医療者に必要な災害医療の基本的知識を学ぶ。	赤星 昂己	
18	12/15	09:45-10:30	医学科講義室 2	TBL(心肺蘇生・外傷)	講義で学んだ内容について TBL 形式による試験を行い、知識の定着を図る。 活発な議論を期待している。	森下 幸治, 谷澤 秀, 高山 渉, 藤江 聡, 中堤 啓太	
19	12/15	10:45-11:30		多臓器不全	重症傷病における多臓器不全の概念について理解する.	安達 朋宏	
20	12/15	11:40-12:25		災害トリアージ	災害時におけるトリアージについて、実技形式の課題を行う。	大友 康裕, 植木 穣, 藤江 聡, 沼沢 益行	
21	12/15	13:30-14:15		ショック	生理学的な緊急事態であるショックの原因と分類と、輸液療法を含む初期対応を学習する。	高山 渉	
22	12/15	14:25-15:10		中毒	中毒について、安全に配慮した初期対応と、トキシドロームから特異的治療に至るまでの診療の流れを学習する。	冨田 夏子	
23	12/15	15:25-16:10	遠隔授業(非同期型)	人工呼吸器・ARDS	ARDS・急性呼吸不全に対する人工呼吸器管理と適応について学習する。	増田 孝広	【到達目標】1)人工呼吸と自然呼吸の違いがわかる。2)人工呼吸器設定の基本がわかる。3)ARDS の定義と呼吸管理の原則が説明できる。【学習方法】非同期ビデオ【備考】動画視聴/小テスト回答
24	12/15	16:20-17:05	遠隔授業(非同期型)	神経集中治療	ICU における神経集中治療について学習する。	野田 浩太郎	【到達目標】1)二次性脳障害を予防するための神経集中治療の原則が説明できる。【学習方法】非同

							期ビデオ【備考】動画視聴/小テスト回答
25	12/15	17:15-18:00	遠隔授業（非同期型）	小児集中治療	小児患者を対象とした集中治療について学習する。	壹岐　陽一	【到達目標】1)小児集中治療の特殊性及び成人集中治療との共通点がわかる。【学習方法】非同期ビデオ【備考】動画視聴/小テスト回答
26	12/15	18:10-18:55	遠隔授業（非同期型）	Rapid Response System/Rapid Assessment System	Rapid Response System/Rapid Assessment System による、院内急変防止への取り組みを学ぶ。	三島　有華	【到達目標】RRS/RAS の概要を理解し、その活用方法を説明できる。【学習方法】非同期ビデオ【備考】動画視聴/小テスト回答
27	12/16	08:50-09:35		輸液	輸液製剤や、救急外来での基本的な使用方法について学習する。	中堤　啓太	
28	12/16	09:45-10:30		麻酔総論	1.麻酔学の概要	内田　篤治郎	
29	12/16	10:45-11:30	遠隔授業（非同期型）	全身麻酔に用いる薬	1.吸入麻酔薬	阿久根　翼	【到達目標】① 麻酔薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項について理解している
30	12/16	11:40-12:25	遠隔授業（非同期型）	区域麻酔	1. 脊柱管ブロックに関連する解剖 2. 脊髄くも膜下麻酔および硬膜外麻酔の原理、適応、生理学的変化、副作用 3. 末梢神経ブロック	北條　亜樹子	【到達目標】①麻酔薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項について理解している④区域麻酔について適応、禁忌となる合併症について理解している
31	12/17	08:50-09:35	遠隔授業（非同期型）	気道確保と呼吸管理	1. 気道確保のリスク評価 2. 用手的気道確保とマスク換気 3. 気管挿管 4. 気道確保困難とその対応 5. 気道確保の合併症 6. 人工呼吸の基礎	竹本　彩	【到達目標】③気管挿管を含む気道確保法を理解している⑤循環を構成する臓器の生理学的特徴を理解し、それを麻酔管理へ応用できる
32	12/17	09:45-10:30	遠隔授業（非同期型）	循環生理・輸血・血液凝固	循環を構成する心臓・血液・血管などの周術期における生理学的特徴や術中管理における考え方に	内田　篤治郎	【到達目標】⑤循環を構成する臓器の生理学的特

					ついて学習する。		徴を理解し、それを麻酔管理へ応用できる⑥血液製剤および血漿分画製剤の種類と適応について理解し、輸血療法の概要を把握する
33	12/17	10:45-11:30	遠隔授業（非同期型）	課題作成時間		仙頭 佳起	
34	12/17	11:40-12:25		課題発表		仙頭 佳起	
35	12/17	13:30-14:15		課題発表		仙頭 佳起	
36	12/17	14:25-15:10	遠隔授業（非同期型）	成人における麻酔各論	心臓手術、呼吸器外科手術、脳外科手術の麻酔管理において考慮すべき重要なポイントを解説する。	山本 雄大	【到達目標】②全身麻酔を行うために必要な解剖、薬剤、医療機器について理解している⑤循環を構成する臓器の生理学的特徴を理解し、それを麻酔管理へ応用できる
37	12/17	15:25-16:10		集中治療対面講義	冒頭に講義及び症例に基づいた課題提示を行う。授業の後半に課題の発表を行う。	野坂 宜之	【到達目標】1)全身状態を ABCD で説明でき、介入方法がわかる。2)ABCDEF バンドルがわかる。【学習方法】グループワーク【事前学習】4/26 1-4 限のビデオ
38	12/17	16:20-17:05		集中治療対面講義	冒頭に講義及び症例に基づいた課題提示を行う。授業の後半に課題の発表を行う。	野坂 宜之	【到達目標】1)全身状態を ABCD で説明でき、介入方法がわかる。2)ABCDEF バンドルがわかる。【学習方法】グループワーク【事前学習】4/26 1-4 限のビデオ
39	12/17	17:15-18:00	遠隔授業（非同期型）	術後 ICU 管理	術後患者特有の集中治療管理上の注意点について学習する。	仙頭 佳起	【到達目標】1)PACU の役割、術後急性期患者の診療上の注意点を説明できる。

							【学習方法】非同期ビデオ【備考】動画視聴/小テスト回答
40	12/17	18:10-18:55	遠隔授業（非同期型）	ICU における合併症予防・PICS-F	ICU で生じる合併症を解説するとともに、PICS-F を含む予防法について学習する。	野坂 宜之	【到達目標】集中治療後症候群の概要を理解し、その予防策をあげることができる。【学習方法】非同期ビデオ【備考】動画視聴/小テスト回答
41	12/18	13:30-14:15	遠隔授業（非同期型）	ICU における終末期医療・緩和ケア	ICU で終末期に至った患者に対する考え方と緩和ケアについて学習する。	塩田 修玄	【到達目標】1)急性期患者に求められる終末期医療がわかる。2)倫理的事柄を多職種で話し合う基本知識がわかる。【学習方法】非同期ビデオ【備考】動画視聴/小テスト回答
42	12/18	14:25-15:10		集中治療医学総論	集中治療医学の概要を学習する。	若林 健二	【到達目標】医学・医療において集中治療医学が果たす役割が理解できる。【学習方法】対面授業
43	12/18	15:25-16:10		集中治療対面講義	冒頭に講義及び症例に基づいた課題提示を行う。授業の後半に課題の発表を行う。	若林 健二	【到達目標】1)全身状態を ABCD で説明でき、介入方法がわかる。2)ABCDEF バンドルがわかる。【学習方法】グループワーク【事前学習】4/26 及び 4/28 1-4 限のビデオ
44	12/18	16:20-17:05		集中治療対面講義	冒頭に講義及び症例に基づいた課題提示を行う。授業の後半に課題の発表を行う。	若林 健二	【到達目標】1)全身状態を ABCD で説明でき、介入方法がわかる。2)ABCDEF バンドルがわかる。【学習方法】グループワーク【事前学習】4/26 及び

							4/28 1-4 限のビデオ
45	12/19	08:50-09:35	遠隔授業（非同期型）	術中緊急事態への対応	術中の緊急事態についての考え方をまとめ、対処の基本を学習する。	内田 篤治郎	【到達目標】⑤循環を構成する臓器の生理学的特徴を理解し、それを麻酔管理へ応用できる⑥血液製剤および血漿分画製剤の種類と適応について理解し、輸血療法の概要を把握する
46	12/19	09:45-10:30	遠隔授業（非同期型）	周術期管理/Postanesthesia Care Unit	術前・術中・術後・社会復帰を包括する周術期の管理とPostanesthesia Care Unit の役割について学習する。	仙頭 佳起	【到達目標】⑧周術期における全身管理の必要性と実際について学習する
47	12/19	10:45-11:30	遠隔授業（非同期型）	小児麻酔	小児を対象とした麻酔管理において考慮すべき重要なポイントを解説する。	遠山 悟史	【到達目標】②全身麻酔を行うために必要な解剖、薬剤、医療機器について理解している⑦麻酔を行う上で必要な手術についての理解を深める【学習方法】非同期ビデオ
48	12/19	11:40-12:25	遠隔授業（非同期型）	産科麻酔	妊婦を対象とした麻酔管理において考慮すべき重要なポイントを解説する。	遠山 悟史	【到達目標】④区域麻酔について適応、禁忌となる合併症について理解している⑦麻酔を行う上で必要な手術についての理解を深める【学習方法】非同期ビデオ
49	12/24	10:45-12:15	医学科講義室 2	試験（救急）	対面式で、各講義の内容に沿った択一式の試験を行う。	森下 幸治	
50	12/26	10:45-12:15	医学科講義室 2	試験（麻酔・集中治療）	妊婦を対象とした麻酔管理において考慮すべき重要なポイントを解説する。	内田 篤治郎,若林 健二	【到達目標】④区域麻酔について適応、禁忌となる合併症について理解している⑦麻酔を行う上で必要な手術についての理解を深め

							る 【学習方法】 非同期ビデオ

授業方法

同期型講義(遠隔もしくは対面)、もしくは非同期型遠隔講義を行う。

＜救急＞

基本的にはすべての講義を対面授業とする。

一部の講義を除き、同期型の講義を予定している。一般的な講義形式で行うものや、双方向型のもの、TBL などが含まれる。積極的な発言や質問、グループ内での活発な議論など、諸君らの能動的な参加を期待している。具体的な課題内容や評価方法などについては、それぞれの授業説明などを参照のこと。

なお、非同期型で行うものに関しては、指定された動画や講義資料、参考資料などを閲覧し、指定された課題に答えること。具体的な課題内容や提出方法等に関しては別途記載するのでそちらを参照されたい。質問等に関しては、Webclass 上の質問掲示板などでも受け付けるが、回答が少し遅くなる可能性に関しては了承頂きたい。

〈麻酔科領域〉

講義:各テーマごとに重要なことを中心に構成されている。特に重要な項目については、理解のきっかけとなる事例などの内容を提示するので、自分たちで学習を深めるべく議論を行い、整理をすることが求められる。

非同期講義:知っておくべき知識について、解説し、それぞれについて理解を深める

同期講義:知識に関する解説も行うが、フリーディスカッションの時間を設け、そこまでに履修した授業内容に関するディスカッションを行う。重要な項目について、学生側からの解説を求め、教員がコメントを追加しながら理解を深める。

アクティブラーニング:上記フリーディスカッションで、反転授業の要素を取り入れる。

＜集中治療領域＞

・非同期型講義:前半 4 コマは指定された動画を閲覧し、小テストに回答する。後半 2 コマの同期型講義は、非同期型講義の内容を理解しているものとして行うため、事前に動画閲覧、小テストを実施しておくこと。小テストは理解のため繰り返し行い満点をとっておくことが望ましいが、成績には含まないため必須ではない。

・同期型講義:後半 2 コマを用いてアクティブ・ラーニングを行い、集中治療領域を通じた反転授業を実施する。1 コマにつき 1 症例を題材とし、履修した授業内容の重要な項目についてグループディスカッション及び発表を行う。ディスカッションの内容はスライド形式にまとめ、全グループから提出する。提出方法は授業時に説明する。

・質問方法:講義内容に質問がある場合は、質問担当教員の、壹岐陽一(yikiccm@tmd.ac.jp)へ連絡する。回答は webclass 上、もしくは個別メールで回答する。

授業内容

授業明細を参照

成績評価の方法

＜救急＞

筆記試験と一部の TBL、トリアージの成績で評価する。

筆記試験(本試験)は多肢選択式で行う。

＜麻酔・集中治療領域＞

記述式試験:80～100 問程度の記述式試験を行う。

成績評価の基準

＜救急＞

試験と TBL、トリアージでの合格評価 60 点以上を履修要件とする。

＜麻酔・集中治療領域＞

試験成績により評価する。試験問題は授業の到達目標に達しているかを評価するもので、臨床実習を行う準備として、十分なレベルに到達していることが確認できたことをもって、合格とする。上記記述式試験にて 6 割以上の正解率を基準とする。それを上回る場合には加点が行われる。B の基準は 7 割、B より上の評価は 8 割とする。

設問に対する回答は正確なものでないと減点の対象とする。

準備学習等についての具体的な指示

＜救急＞
指定した教科書の基本的な内容について理解しておくこと

＜麻酔＞
学習に関連した生理学・薬理学に関する内容など、すでに授業が行われているものについては、学習済みのものとして扱う。
麻酔学の臨床においては、実践入門書的な書籍も多数出ているので、教科書・参考書リストを参考にするなどして、準備学習をしておくことが望ましい。

＜集中治療領域＞
指定した教科書の他、以下のウェブページを参考に準備学習をすすめていただきたい。
・当科が作成した非集中治療医向けの重症管理マニュアル：
https://www.tmdu-icu.jp/covid19tmduicu
新型コロナウイルス感染症を題材にしているが、集中治療管理の基本をまとめている。
・重症患者管理教育ツール（集中治療を専門としない医療者用）（集中治療医療安全協議会作成）：
https://ccpat.net/9845-2/
米国集中治療医学会が作成したツールの日本語版。動画やセルフチェック問題が掲載されており、さらに理解を深めたい場合に閲覧すると良い。

試験の受験資格

出席は特に試験の受験資格の要件としないが、試験はすべての授業項目から出すので、病気等でやむを得ず欠席した場合は、WebClass に掲載の講義スライドで自習すること。

教科書

標準救急医学 第5版／有賀徹 [ほか] 編,有賀, 徹,坂本, 哲也,嶋津, 岳士,山口, 芳裕,横田, 裕行,日本救急医学会,:医学書院, 2014
ミラー麻酔科学／ロナルド・D.ミラー 編,武田純三 監修,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2007
Miller's anesthesia／edited by Ronald D. Miller,associate editors, Neal H. Cohen, Lars I. Eriksson, Lee A. Fleisher, Jeanine P. Wiener-Kronish, William L. Young,:Elsevier/Saunders, 2015
集中治療医学／一般社団法人日本集中治療医学会 編集,一般社団法人日本集中治療医学会,:Gakken, 2023-04-03
ICU ブック／ポール L.マリノ 著,稲田英一 監訳,Marino, Paul L,稲田, 英一, 1954-,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2015

参考書

外傷初期診療ガイドライン JATEC 改訂第6版／日本外傷学会, 日本救急医学会 監修,日本外傷学会外傷初期診療ガイドライン改訂第5版編集委員会 編集,:へるす出版, 2021
救急診療指針 改訂第5版／日本救急医学会 監,日本救急医学会指導医・専門医制度委員会,日本救急医学会専門医認定委員会 編,ﾆﾎﾝｷｭｳｷｭｳｲｶﾞｸｶｲ,ﾆﾎﾝｷｭｳｷｭｳｲｶﾞｯｶｲｼﾝﾃｲｾﾝﾓﾝｲｾｲﾄﾞｲｲﾝｶｲ,ﾆﾎﾝｷｭｳｷｭｳｲｶﾞｯｶｲｾﾝﾓﾝｲﾆﾝﾃｲｲｲﾝｶｲ,:へるす出版, 2018
JRC 蘇生ガイドライン／日本蘇生協議会 監修,日本蘇生協議会,:医学書院, 2020
ICU 実践ハンドブック : 病態ごとの治療・管理の進め方／清水敬樹 編,清水, 敬樹,:羊土社, 2019
PFCCS プロバイダーマニュアル／米国集中治療医学会 編,FCCS 運営委員会, JSEPTIC 監修,米国集中治療医学会,日本集中治療教育研究会,:FCCS 運営委員会, 2015
MGH 麻酔の手引／ピーターF.ダン ほか編,稲田英一 監訳,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2010
ビジュアル麻酔の手引／アーサー アチャバヒアン, ルチル グプタ 編,大畑めぐみ, 本田完 監訳,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2015
小児の麻酔／ロバート・ホルツマン, トーマス・マンキュソ, デイビッド・ポラナー 編,蔵谷紀文 監訳,蔵谷紀文 [ほか]訳,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2011
麻酔科医として必ず知っておきたい周術期の循環管理 : 循環モニタリングの原理、各種測定法から手術別循環管理の実際とトラブルシューティングまで／国沢卓之 編,:羊土社, 2016
麻酔科医として必ず知っておきたい周術期の呼吸管理 : 解剖生理から気道評価・管理、抜管トラブル、呼吸器系合併症の対策まで／磯野史朗 編,:羊土社, 2017
ISBN 978-4880039077
書名 ペインクリニック治療指針 改訂第5版
著者 日本ペインクリニック学会治療指針検討委員会 (編集)
出版社 真興交易医書出版部
出版年 2016

ISBN 1975174216
書名　Rogers' Textbook of Pediatric Intensive Care
著者　Donald H. Shaffner MD
出版社　LWW
出版年　2023 年

ISBN 9784815701277
書名　FCCS プロバイダーマニュアル
著者名　米国集中治療医学会 編,集中治療医療安全協議会 監修,米国集中治療医学会,集中治療医療安全協議会,
出版社　集中治療医療安全協議会
出版年　2018

備考

コース評価アンケートに基づく改善計画ならびに変更項目

ガイドラインとの齟齬が一部にみられた為、講義内容を再考し編集した。
シラバスを救急・麻酔ロックで統合し、1 科目のシラバスとした。
集中治療領域では、非同期型講義の内容、同期型講義の内容を昨年度より更新した。

授業日程が変更される可能性があるため、最新情報は WebClass やメーリングリストより確認してください。

時間割番号	011047				
科目名	法医学			**科目ID**	
担当教員	鵜沼　香奈[UNUMA Kana]				
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	3	**単位数**	1.5
実務経験のある教員による授業	該当する				

主な講義場所

講義は、対面、ライブ（遠隔講義・同期型）、オンデマンド（遠隔講義・非同期型）のいずれかで行います。

授業の目的、概要等

授業内容は、基礎法医学と臨床法医学の 2 つの領域に分かれています。

基礎法医学:
死体現象（例: 硬直、死斑、腐敗など）
損傷の種類とその機序
法医学における中毒（法中毒）
血液型や DNA 型の解析

臨床法医学:
死因の判断
異状死届出制度の概要と運用
死体検案書、死亡診断書の書き方
虐待（児童虐待、高齢者虐待など）の判断とその対応策

授業の到達目標

1)基礎的な法医学についての知識の習得・理解
死体現象、損傷の種類と機序、中毒のメカニズム、血液型や DNA 解析の基礎知識などを理解する。
2)異状死についての理解
異状死の定義を正しく理解し、異状死の判断基準や届出制度についての知識を身につける。
3)死体検案書、死亡診断書の書き方の理解
死体検案書・死亡診断書の各項目の記載内容を理解し、正確に記載できるようにする。
4)最新・応用的な法医学の理解
最新の法医学的技術や成果を学び、それらを応用するための考え方を習得する。

＜参考＞
文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成 28 年度改訂版）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/033-2/toushin/1383962.htm

B-1-8)⑥
B-2-1)①②③④⑤
B-2-2)③
B-3-1)④

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[II-4-B]実習実験を実施して結果を得ることができる

[II-5-B]実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-8-C]患者との関係(情報漏洩、親密性、金品授受など)において適切な距離を維持する必要性を説明できる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-17-A]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-19-B]情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-5-B]社会医学の知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	1/7	08:50-09:35	遠隔授業(非同期型)	損傷(1)	損傷総論、生活反応	上村 公一	【到達目標】1) 【学習方法】非同期ビデオ(第2回の講義の後に視聴した方がよい) 【事前学習】 Webclas にて多肢選択式問題に回答 (上村先生は非常勤講師)
2	1/7	09:45-10:30	医学科講義室2	法医学総論 死体現象	法医学の歴史、意義 早期・晩期・特殊死体現象	上村 公一	【到達目標】1) 【学習方法】対面 【事前学習】 法医学の授業全体の説明あり。
3	1/7	10:45-11:30	遠隔授業(非同期型)	窒息	窒息総論・各論(縊頸、絞頸、扼頚、溺死、その他)	鵜沼 香奈	【到達目標】1) 【学習方法】非同期ビデオ 【事前学習】 Webclas にて多肢選択式問題に回答
4	1/7	11:40-12:25	遠隔授業(非同期型)	環境異常(焼死、凍死、その他)、性	(焼死、凍死、その他) (胎児・嬰児、性犯罪)	鵜沼 香奈	【到達目標】1) 【学習方法】非同期ビデオ 【事前学習】 Webclas にて多肢選択式問題に回答

5	1/8	13:30–14:15	遠隔授業（非同期型）	銃創、虐待(小児、老人)		鵜沼 香奈	【到達目標】1) 【学習方法】非同期ビデオ 【事前学習】WebClass 動画視聴 多肢選択式問題に回答
6	1/8	14:25–15:10	遠隔授業（非同期型）	損傷(2)	鋭器・鈍器損傷・交通外傷	上村 公一	【到達目標】1) 【学習方法】非同期ビデオ 【事前学習】WebClass 動画視聴 多肢選択式問題に回答
7	1/8	15:25–16:10	医学科講義室２	法医画像診断(死後CT、レントゲン） 担当教員:槇野陽介 非常勤講師	死後 CT,レントゲン Autopsy Imaging	槇野 陽介	【到達目標】1)4) 【学習方法】対面 【事前学習】（槇野先生は非常勤講師）
8	1/8	16:20–17:05	医学科講義室２	法歯学(歯科法医学)	法歯学(歯科法医学)の研究領域および身元確認のための基礎的な歯の解剖学的知識・治療所見	櫻田 宏一	【到達目標】1)4) 【学習方法】対面 【事前学習】（櫻田先生は本学歯学部所属）
9	1/15	13:30–14:15	医学科講義室２	個人識別	骨からの物体検査	宇都野 創	【到達目標】1)4) 【学習方法】対面 【事前学習】（宇都野先生は本学歯学部所属）
10	1/15	14:25–15:10	医学科講義室２	損傷(3)	頭部外傷	新井 信隆	【到達目標】1)4) 【学習方法】対面 【事前学習】（新井先生は非常勤講師）
11	1/15	15:25–16:10	遠隔授業（非同期型）	臨床法医学	生体の傷の鑑定	鵜沼 香奈	【到達目標】1)4) 【学習方法】非同期ビデオ 【事前学習】WebClass 動画視聴 多肢選択式問題に回答
12	1/15	16:20–17:05	遠隔授業（非同期型）	死因究明制度	異状死体の取扱 死因究明基本法	上村 公一	【到達目標】1,2),3) 【学習方法】非同期ビデオ 【事前学習】WebClass 動画視聴 多肢選択式問題に回答
13	1/23	08:50–09:35	医学科講義室２	中毒学(1)	総論(中毒学一般と乱用薬物)	秋 利彦	【到達目標】1) 【学習方法】対面 【事前学習】

14	1/23	09:45–10:30	医学科講義室 2	中毒学(2)	各論(薬物分析)	船越 丈司	【到達目標】1) 【学習方法】対面 【事前学習】
15	1/23	10:45–11:30	医学科講義室 2	中毒学(3)	依存性薬物 トピック	秋 利彦, 船越 丈司	【到達目標】1)4) 【学習方法】対面 【事前学習】
16	1/23	11:40–12:25	遠隔授業(非同期型)	中毒学(4)	各論(アルコール医学)	上村 公一	【到達目標】1)4) 【学習方法】非同期ビデオ 【事前学習】WebClass 動画視聴 多肢選択式問題に回答 (上村先生は非常勤講師)
17	2/13	10:45–12:15	医学科講義室 2	法医学試験		秋 利彦, 鵜沼 香奈, 船越 丈司	筆記試験

授業方法

・系統的講義
・出席は確認しません。
・原則として対面講義を実施します。
・適宜ライブ(遠隔講義・同期型)、オンデマンド(遠隔講義・非同期型)を実施します。
ライブ:Zoom 等を用い、アクティブラーニングとして、班分けによる討議やブレイクアウトルームを活用します。
オンデマンド:Webclass 上の設問に回答するなどの方法で実施します。

授業内容

法医学分野教員の他、外部講師による講義が行われます。
各回の授業内容については、授業スケジュールに記載されています。

成績評価の方法

試験成績(120 分間の筆記試験)を基本としますが、講義、実習への参加及び受講態度なども加点の評価対象となります。

筆記試験の配点内訳:
選択式問題:45 点
記述式問題:45 点
死体検案書/死亡診断書作成問題:10 点

成績評価の基準

講義の成績評価基準は、**筆記試験(100 点満点)**を基本とします。
原則として、筆記試験の点数は素点で評価します。60～69 点は GP における「0.5～1.4」に相当し、当該科目の到達目標のうち最低限を達成した場合の評価基準となります。

また、授業に対する取り組みが熱心である場合(例:質問、法医学的な問題点の提起、発表・発言などの積極的な参画状況を基に評価)、当該評価基準より高く評価することがあります。

総合評価
成績評価のウェイトは以下の通りです:

筆記試験: 70%
実習のレポート評価: 30%

これらを基に総合的な評価を行います。

準備学習等についての具体的な指示

1. 事前に解剖学や生理学の基礎知識を復習・確認する

解剖学や生理学の基本用語や人体の構造を復習しておくこと。

例: 呼吸器や循環器の基本的な構造と機能。

2. 関連するトピックの予習を行う

WebClass や指定された資料を確認し、次回の講義内容に関連するトピックについて事前に学習する。

例: 中毒の基礎知識(アルコール、薬物、毒物)や異状死の定義。

3. 関連法規や制度について調査する

死因究明制度や解剖制度などの関連法制度について補足情報を調べる。

推奨資料として指定された参考書などを活用すること。

試験の受験資格

出席は取りません。ただし、試験では講義内容の理解度と知識の応用力が問われます。やむを得ない理由(病気など)で欠席する場合は、WebClass に掲載されている講義スライドや動画を活用して、各自で学習してください。

出席を取らない分、試験は厳正に採点します。

参考書

Knight's forensic pathology／Saukko, Pekka J,Knight, Bernard,Pekka Saukko, Bernard Knight:CRC Press, c2016

法医学／福島, 弘文, 1946-,舟山, 眞人, 1958-,齋藤, 一之, 1960-,福島弘文 監修,舟山眞人, 齋藤一之 編集:南山堂, 2022.1

神経病理インデックス／新井, 信隆,新井信隆 著:医学書院, 2023.7

隠された真相を暴け!クイズなるほど the 法医学／岩瀬, 博太郎,石原, 憲治,岩瀬博太郎, 石原憲治 編:金芳堂, 2017.12

アトラス臨床法医学／佐藤, 喜宣, 1949-,岩原, 香織,都築, 民幸,佐藤喜宣 監修,岩原香織, 都築民幸 編集:中外医学社, 2018.5

厚生労働省　令和 6 年度版死亡診断書(死体検案書)記入マニュアル

下記のアドレスからダウンロードできます

https://www.mhlw.go.jp/toukei/manual/

他科目との関連

「6 年生　包括医療統合教育」で 3 コマの講義(臨床法医学、最新の法律改正を含む)があります(現行カリキュラム)。

履修上の注意事項

授業で使用する解剖症例の写真や内容については、外部への流出を防ぐため、厳重に秘密を保持してください。また、スクリーンショットの撮影や保存は禁止します。

備考

連絡先(メールアドレス)

鵜沼　香奈:unumlegm@tmd.ac.jp

オフィスアワー

鵜沼　香奈:毎週日曜日～木曜日 AM.9:00-PM.5:00　MD タワー19階北側

※金曜・土曜・祝日は休み

時間割番号	011460				
科目名	衛生学			**科目 ID**	
担当教員	田中　真二[TANAKA Shinji]				
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	3	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業	該当する				

主な講義場所

3 号館 3 階　医学科講義室 2

授業の目的、概要等

衛生学は、医学を基礎医学、臨床医学、社会医学に大別すると社会医学に入り、臨床医学を治療医学と考えれば、衛生学は予防医学と考えることができる。すなわち、衛生学は　人間をとりまく自然的、社会的環境要因と健康との関連を考究し、疾病の予防、早期発見および健康の維持推進に役立てようとする学問である。衛生学では単に疾病を治療するだけでなく、疾病の背後にある種々の自然的・社会的要因をも考察して対応できる能力を養成することを目標とする。

授業の到達目標

衛生学は常に新たな内容が付加されるため、最新のデータを常に把握する必要がある。講義は総論のみならず、その分野の最先端の研究および教育を行なっている先生を非常勤講師として招いて行われるため、最新の知識を得ることができる。講義資料は WebClass に掲示するため、授業前に予習しておくことが望ましい。

到達到達目標として、以下の点をあげる。

1）衛生学の基礎的知識を習得できる。

2）がんの原因になりやすい生活習慣要因について説明できる

3）環境要因とがんの関係および職業がんについて説明できる

4）環境要因が健康に及ぼす影響を説明できる。

5）感染症、食品衛生、生活習慣病、放射線影響、スポーツ医学など多岐に渡って最新の知見を習得できる。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

GE-02-02)05

GE-03-01)02

GE-04-01)03,04,06

PS-03-03)18

SO-01-01)03

SO-01-03)01,02

SO-01-04)03

SO-01-05)02

SO-02-02)02

SO-05-02)02,03

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル

[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる

[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる

[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる

[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる

[II-4-B]実習実験を実施して結果を得ることができる

[II-5-B]実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-8-C]患者との関係(情報漏洩、親密性、金品授受など)において適切な距離を維持する必要性を説明できる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-17-A]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-19-B]情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-5-B]社会医学の知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	1/19	13:20-14:50	医学科講義室2	衛生学序論、生活習慣とがん、職業がん	Webclassに資料がある。	田中 真二	【到達目標】1), 2), 3) 【学習方法】対面講義 【その他】講義の最後にテーマ研究と実習の説明を行う。
2	1/19	15:10-16:40	医学科講義室2	感染症と実地疫学	Webclassに資料がある。	砂川 富正	【到達目標】1), 5) 【学習方法】対面講義 【その他】非常勤講師(国立感染症研究所・応用疫学研究センター センター長)。講義時に質疑応答の時間を設ける。
3	1/21	13:20-14:50	医学科講義室2	食品衛生	Webclassに資料がある。	上間 匡	【到達目標】1), 5) 【学習方法】対面講義 【その他】非常勤講師(国立医薬品食品衛生研究所・食品衛生管理部 部長)。講義時に質疑応答の時間を設ける。
4	1/21	15:10-16:40	医学科講義室2	環境放射線・原子力災害医療	Webclassに資料がある。	中村 和正	【到達目標】1),4), 5) 【学習方法】対

							面講義 【その他】非常勤講師（浜松医科大学放射線腫瘍学講座 教授）。講義時に質疑応答の時間を設ける。
5	1/22	13:20–14:50	医学科講義室 2	生活習慣と動脈硬化	Webclass に資料がある。	大石 由美子	【到達目標】1), 4), 5) 【学習方法】対面講義 【その他】東京科学大学病態代謝解析学分野 教授。講義時に質疑応答の時間を設ける。
6	1/22	15:10–16:40	医学科講義室 2	スポーツ医学と予防	Webclass に資料がある。	柳下 和慶	【到達目標】1), 5) 【学習方法】対面講義 【その他】東京科学大学リベラルアーツ研究教育院 教授。講義時に質疑応答の時間を設ける。
7	1/29	13:20–14:50	医学科講義室 2	アクティブラーニング	テーマ研究ー環境とがん 1	田中 真二, 秋山 好光, 波多野 恵, 島田 周	【到達目標】1), 2), 3), 4), 5) 【学習方法】アクティブラーニング 【その他】班に分け、発表会を行う。
8	1/29	15:10–16:40	医学科講義室 2	アクティブラーニング	テーマ研究ー環境とがん 2	田中 真二, 秋山 好光, 波多野 恵, 島田 周	【到達目標】1), 2), 3), 4), 5) 【学習方法】アクティブラーニング 【その他】班に分け、発表会を行う。
9	2/9	10:40–12:10	医学科講義室 2				

授業方法

1. 衛生学講義は全て対面授業として行われ、その内容は総論的講義と、学内外の第一人者による講義からなる。
アクティブラーニングとして講義期間中に「環境とがん」を対象としたテーマ研究の課題を与える。学生はグループに別れて、各課題について調査・研究を行い、発表内容をスライドにまとめて発表する。テーマ研究の最後に総合討論と総括を行う。学生間での質疑応答を活発に行うため、原則として全てに出席することとする。テーマ研究の課題に関する具体的な内容は、Webclass に掲載する。

2. 担当者（講義内容とキーワード）
教授：田中真二（生活習慣とがんおよび職業がん）
講師：秋山好光（テーマ研究：環境とがん）
助教：島田 周（テーマ研究：環境とがん、衛生学実習）
助教：波多野 恵（テーマ研究：環境とがん、衛生学実習）

非常勤講師:砂川富正(感染症)、上間 匡(食品衛生)、中村和正(環境放射線・原子力災害医療)、大石由美子(生活習慣と動脈硬化)、柳下和慶(スポーツ医学と予防)

授業内容

授業スケジュール参照(後日掲載)

成績評価の方法

衛生学の評価は筆答試験によって行う。筆答試験は、授講義内容を理解し、そのなかで衛生学として重要と思われることを説明できることを必要とする。試験はすべての授業項目が対象となり、基本多肢選択問題、記述式問題および応用記述問題からなる。テーマ研究発表内容と授業への出席状況も評価の対象となる。

成績評価の基準

筆答試験は 60 点以上を合格とし、それに満たない場合は再試験の対象となる。試験の成績およびテーマ研究発表内容などを加えて総合評価し、60%に達すれば GP における B 成績基準達成とみなす。また 80%以上は A、90%以上は A+とする。

準備学習等についての具体的な指示

WebClass に掲載した講義資料で予習しておく。また指定した教科書、参考書を読んでおく。
次回の講義の担当者の専門とその関連するキーワードをもとに、基本的な事項を理解しておく。

授業のキーワード:悪性腫瘍、環境発がん、職業がん、生活習慣要因、環境リスク、感染症、食品衛生、化学物質、循環器病、放射線影響、予防医学、スポーツ医学

試験の受験資格

定期試験ならびに追・再試験を受験する資格は、次のすべてを満たすものとする。
衛生学は対面授業6コマとアクティブラーニング2コマからなる。対面授業では出欠をとり、2／3以上の出席に受験資格を認める。講義開始 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。

アクティブラーニング2コマは班員との共同作業であるため、原則として授業開始から全てに出席すること。やむを得ない事情により欠席や遅刻がある場合、その事情とともにアクティブラーニングに科目責任者または医学教務係にメールで連絡すること。十分な対応が行われたと判断された場合には、レポートなどで対応を行うこととする。正当な理由なくアクティブラーニングを欠席した者は衛生学定期試験の受験資格を失うので注意すること。

構成ユニット

教授:田中真二
講師:秋山好光
助教:島田 周
助教:波多野 恵

教科書

国民衛生の動向 2024/2025, 厚生労働統計協会

参考書

NEW 予防医学・公衆衛生学／岸玲子 監修,小泉昭夫, 馬場園明, 今中雄一, 武林亨 編集,岸, 玲子, 1947–,小泉, 昭夫, 1952–,馬場園, 明,今中, 雄一, 1961–,:南江堂, 2018
「がん生物学イラストレイテッド」第2版 渋谷正史、湯浅保仁編集、羊土社、2019

他科目との関連

「公衆衛生学」および「社会医学」と最も強く関連するが、その他の基礎・社会医学科目とも関連する。

履修上の注意事項

講義中のスクリーンの撮影は禁止する。教材、参考資料および実習書は全て著作物であるため、著作権の関係上、外部に流出することがないように注意すること。

備考

全て対面授業とする。各講義の先生方は衛生学分野で最先端の研究および教育を行なっている。より専門的かつ最新の知見を習得でき

る良い機会であるので、出席すること。講義の最後にも質疑応答の時間を設けるようにした。
またテーマ研究発表会では他の班の内容についての理解が浅かったという意見があり、発表スライドの webclass 登録の締め切りを早め、予習できるようにした。また最後に全体の討論時間を設けるようにした。講義に関する質問は、Webclass に記載の連絡先を窓口とする。

参照ホームページ

厚生労働省:http://www.mhlw.go.jp/
国立感染症研究所:http://www.nih.go.jp/niid/ja/

連絡先(メールアドレス)

田中 真二:tanaka.monc@tmd.ac.jp

オフィスアワー

田中 真二:事前に必ず連絡して下さい。
電話:03-5803-5184
場所:M&D タワー 18 階 南側 S1859

時間割番号	011470				
科目名	公衆衛生学			**科目 ID**	
担当教員	藤原　武男[FUJIWARA Takeo]				
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	3	**単位数**	1.5
実務経験のある教員による授業	該当する				

主な講義場所

3 号館 3 階　医学科講義室 1&2

授業の目的、概要等

人々の健康に寄与する要因が多岐にわたることを理解すること。

人間集団を対象として、健康ないし疾病の決定要因について研究し、健康問題のコントロールに応用する学問である疫学の原理・研究方法について学び、理解すること。

科学論文を読み、「クリティカル・アプレイザル」(批判的吟味)をする能力を獲得すること。

臨床症例において社会的背景の存在を認識し、それに関する知識を獲得すること。

これらの知識を活用し、臨床現場における本質的な問題解決能力を獲得すること。

授業の到達目標

1) 人々の健康に寄与する要因が多岐にわたることを理解する。

2) 疫学の原理・研究方法について学び、説明できる。

3) 健康問題のコントロールに関する知識を獲得する。

4) 科学論文を読み、クリティカル・アプレイザル(批判的吟味)ができる。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PR-01-02)01

GE-01-04)01,02,03,04,05

GE-01-05)01

GE-02

GE-02-01)01,02

GE-02-02)01,04,05

GE-02-03)02

GE-02-04)01,02

GE-03-01)02

GE-03-05)01,02,03,04,05,06,07

GE-04-01)01,03,04,05,06,07

GE-04-02)01,02,03

RE-03-02)01

RE-04-01)03

PS-03-03)18

CS-05-03)01

IP-02-03)02

IP-02-04)01

SO-01-01)03

SO-01-02)02,03

SO-01-03)01,02,03,04,05,06

SO-01-04)01,02,03

SO-01-05)02,03

SO-02-01)01,02
SO-02-02)02,03,04,05
SO-03-01)05
SO-04-01)01,02
SO-04-02)01
SO-04-06)01
SO-05-01)01,02,03,04,06
SO-05-02)01,02,03
SO-06-01)01,02

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[II-4-B]実習実験を実施して結果を得ることができる
[II-5-B]実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-8-C]患者との関係(情報漏洩、親密性、金品授受など)において適切な距離を維持する必要性を説明できる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-13-B]医学生としての健康管理(予防接種を含む)の重要性を説明できる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-17-A]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-19-B]情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
[III-21-A]患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[IV-9-C]患者中心の医療について説明できる
[V-5-B]社会医学の知識を提示できる
[V-6-B]世界の保健・医療関連事象の推移と地域分布を説明できる
[V-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[V-8-B]様々な集団や場に特有の健康問題を説明できる
[VI-3-B]研究デザインや統計的手法についての知識を提示できる
[VI-25-C]感染患者隔離の対応に関する法的根拠を説明できる
[VII-5-B]医療体制の主な構成要素(患者、多職種にわたる医療供給者、医療機関、保険者、行政、医療産業(製薬会社等)、診療報酬、薬価)について、役割・意義を説明できる
[VII-6-B]医療アクセス、コスト、資源分配など、医療政策の重要な概念とそれらの関係、そして診療への影響を説明できる
[VII-7-B]医療制度や医療提供体制が、医療の質と量へ与える影響(特に異なる背景の患者間の格差、例:地域、年齢、医師の配置)を、説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	1/5	08:50-10:20	医学科講義室2	ケーススタディ	Case study;「社会疫学」上下巻	藤原 武男	【到達目標】1) 【学習方法】グループ討論/対面講義
2	1/5	10:45-12:15	医学科講義室2	疫学	「社会疫学」上下巻	谷 友香子	【到達目標】1)2)4) 【学習方法】グループ討論/対面講義
3	1/5	13:30-15:00	医学科講義室2	歯科疫学	「社会疫学」上下巻	相田 潤	【到達目標】1)3) 【学習方法】対面講義
4	1/14	08:50-10:20	医学科講義室2	Critical appraisal 1		藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 山岡 祐衣, 西村 久明	【到達目標】1)2)4) 【学習方法】グループ討論/対面講義
5	1/14	10:45-12:15	医学科講義室2	空間疫学とGIS		髙橋 邦彦	【到達目標】1)3) 【学習方法】対面講義
6	1/14	13:30-15:00	医学科講義室2	気候変動	DPC;「社会疫学」上下巻	西村 久明	【到達目標】1)3) 【学習方法】対面講義
7	1/20	08:50-10:20	医学科講義室2	母子保健	「社会疫学」上下巻	藤原 武男	【到達目標】1) 【学習方法】対面講義
8	1/20	10:45-12:15	医学科講義室2	国際保健	「社会疫学」上下巻	近藤 哲生	【到達目標】1) 【学習方法】対面講義
9	1/28	08:50-10:20	医学科講義室2	Critical appraisal 2		藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 山岡 祐衣, 西村 久明	【到達目標】1)2)4) 【学習方法】グループ討論/対面講義
10	1/28	10:45-12:15	医学科講義室2	医療行政		岡田 就将	【到達目標】1)3) 【学習方法】対面講義
11	1/28	13:30-15:00	医学科講義室2	ライフコース疫学		藤原 武男	【到達目標】1)3) 【学習方法】対面講義
12	1/28	15:25-16:55	医学科講義室2	質的研究		那波 伸敏	【到達目標】1)3) 【学習方法】対面講義

授業方法

全日程同期型対面授業を行う。

1 月 5 日、14 日、28 日は、講義室にて講義とグループワークを実施する。
1 月 14 日、28 日のグループワークでは、1 月 5 日の講義内容(谷友香子:疫学)を把握している必要があるため、講義内容を復習してから望むこと。

質問やコメントについては講義中に答えるか、メールにて対応する。

<レポート課題>
下記の授業のうち、1/5 の講義のうち1つ、1/14 の講義のうち 1 つ、1/20 の講義のうち 1 つ、1/28 の講義のうち 1 つ(合計 4 つ)を選び、講義で良かったところ、講義の中で興味を持ち、さらに聞きたいと思った内容についてその理由とともにレポートを400字以上で作成し、それぞれの講義実施日より 5 日以内に提出すること。なお、講義内容をまとめただけのレポートは認めない。

1/5 以下 3 つの講義のうち 1 つ
1. 藤原 武男:ケーススタディ
2. 谷 友香子:疫学
3. 相田 潤:歯科疫学

1/14 以下 2 つの講義のうち 1 つ
1. 高橋 邦彦:空間疫学と GIS
2. 西村 久明:気候変動(環境保健含む)

1/20 の講義 以下 2 つの講義のうち 1 つ
1. 藤原 武男:母子保健
2. 近藤 哲:国際保健

1/28 以下 3 つの講義のうち 1 つ
1. 岡田就将:医療行政
2. 藤原武男:ライフコース疫学
3. 那波伸敏:質的研究

授業内容
授業スケジュールに各回の授業内容は示してある。

成績評価の方法
レポート課題および最終日に実施される筆記試験によって行う

1)レポート課題 20 点

2)筆記試験 80 点
(記述式問題)

筆記試験は辞書・電子辞書持ち込み可。

成績評価の基準
レポート課題ならびに筆記試験の結果から、次のように行う。

1)と2)の合計が 60 点以上の場合に合格とし、合計点をこの科目の評価とする。

準備学習等についての具体的な指示
事前に Webclass にアップした資料(論文、著作、教科書のチャプター等)がある場合、しっかり読んでおくこと。

試験の受験資格
以下が、定期試験ならびに追・再試験を受験する資格となる。

・1 月 5 日、14 日、20 日、28 日の講義に参加し、課されたレポートを提示された期限までに提出すること。

特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合は、その事情とともに、締め切り期日が過ぎる前までに科目責任者または医学教務係にメールのように日時の記録が残る形で連絡することを必須とする。連絡できないような特別な事情があったとあとで判断された場合はその限りではない。これらの十分な対応がおこなわれていたと判断された場合には、事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。

教科書

社会疫学　上／リサ・F.バークマン,Berkman, Lisa F.,河内, 一郎,Glymour, M. Maria,高尾, 総司,藤原, 武男,近藤, 尚己,：大修館書店, 2017-09

社会疫学　下／リサ・F.バークマン,Berkman, Lisa F.,河内, 一郎,Glymour, M. Maria,高尾, 総司,藤原, 武男,近藤, 尚己,：大修館書店, 2017-09

参考書

Oxford Textbook of Public Health (5 ed.)／Roger Detels, Robert Beaglehole, Mary Ann Lansang, and Martin Gulliford：Oxford University Press, 2011

Maxey-Rosenau-Last Public Health and Preventive Medicine (15 ed.)／Robert Wallace：McGraw-Hill Medical, 2007

A Dictionary of Epidemiology. 6th ed.／International Epidemiological Association：Oxford University Press, 2014

厚生の指標 増刊 国民衛生の動向／厚生労働統計協会：厚生労働統計協会

厚生労働白書／厚生労働省：日経印刷, 毎年

医学からみた「幸福は人に伝わる」／藤原武男：潮出版社

他科目との関連

公衆衛生学は典型的な社会医学であるから、基礎医学、臨床医学の各科目と深く関係する。系別講義「行動科学」、「衛生学」、「医動物学」、「法医学」とは特に密接に関連する。

備考

参考資料等、教材はすべて著作物であり、著作権の関係上、外部に流出することのないように十分気を付けること。

最新の講義案内は webclass を参照すること。

昨年のアンケートよりの改善点

システマティックレビューはレポート課題を無くし、解説のみとした。

連絡先（メールアドレス）

藤原　武男:fujiwara.hlth@tmd.ac.jp

時間割番号	011480				
科目名	行動科学			**科目 ID**	
担当教員	岡田　幸之[OKADA Takayuki]				
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	3	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業	該当する				

主な講義場所

医学科講義室 2

授業の目的、概要等

行動科学とは、人間の個人・社会行動、あるいは人間の心の働きである知性・感情・意思（知・情・意）に焦点を当てながら、人間を全人的により深く理解しようと試みる学際的な理論体系の学問領域である。行動科学は医歯学教育の中の「臨床系」と「基礎系」という分類の枠を超えた、横断的、学際的な領域を形成。人間の医学生物学的側面を扱う基礎学問と同様、行動科学は人間特有の心理・社会的側面を重視しており、人間を理解しなければならない医療者にとっては必須の学科目といえる。

授業の到達目標

到達目標は以下の通りである。

1）人の行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方を学ぶ。

2）臨床現場において実践できる、人の行動変容に関する理論・因子・技法について学ぶ。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

GE-01-05)01,02

GE-03-01)01,03

GE-03-02)02

GE-03-05)01

GE-04-02)03

CM-01-01)01,02,03,04,05

CM-02-02)01

IP-02-02)02

SO-04-01)01

SO-06-01)03

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル

[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる

[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる

[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる

[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる

[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる

[III-4-C]患者の、文化、人種、年齢、社会経済的状況、性別、性嗜好、信仰、障害、その他の多様性に配慮した対応を説明できる

[III-4-C]文化的信条や慣習が専門職としての対人関係に与えうる影響を説明できる

[III-8-C]患者との関係（情報漏洩、親密性、金品授受など）において適切な距離を維持する必要性を説明できる

[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる

[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる

[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる

[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる

[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる

[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる

[III-21-B]守秘義務と患者プライバシーに関して説明できる

[Ⅲ-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[Ⅲ-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[Ⅲ-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[Ⅲ-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[Ⅲ-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[Ⅳ-6-B]患者の様々な背景や文化がどれだけ医者-患者間のコミュニケーションに影響するかを説明できる
[Ⅳ-7-B]重大で繊細な難しいトピック(sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど)について患者や患者家族と議論する際に、配慮すべき点や重要な点を説明できる
[Ⅳ-9-C]患者中心の医療について説明できる
[Ⅴ-5-B]社会医学の知識を提示できる
[Ⅴ-6-B]世界の保健・医療関連事象の推移と地域分布を説明できる
[Ⅵ-27-B]医薬品、医療機器の安全管理体制を説明できる
[Ⅶ-2-C]急性期、慢性期、および長期的ケアを含む医療の向上に向けた、様々な専門分野の協力にもとづくアプローチについて、説明できる
[Ⅶ-3-C]病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関の役割を説明できる
[Ⅶ-5-B]医療体制の主な構成要素(患者、多職種にわたる医療供給者、医療機関、保険者、行政、医療産業(製薬会社等)、診療報酬、薬価)について、役割・意義を説明できる
[Ⅶ-6-B]医療アクセス、コスト、資源分配など、医療政策の重要な概念とそれらの関係、そして診療への影響を説明できる
[Ⅶ-7-B]医療制度や医療提供体制が、医療の質と量へ与える影響(特に異なる背景の患者間の格差、例:地域、年齢、医師の配置)を、説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	1/9	13:30-14:15	医学科講義室2	行動の脳科学と理論	髙橋　英彦	【到達目標】1, 2 【学習方法】対面講義【アクティブラーニングの種類】なし
2	1/9	14:25-15:10	医学科講義室2	ストレス(心理)	安藤　久美子	【到達目標】1, 2 【学習方法】対面講義【アクティブラーニングの種類】なし
3	1/9	15:25-16:10	医学科講義室2	ストレス(環境)と健康	布施　泰子	【到達目標】1, 2 【学習方法】対面講義【アクティブラーニングの種類】なし
4	1/9	16:20-17:05	医学科講義室2	個人差	中村　啓信	【到達目標】1, 2 【学習方法】対面講義【アクティブラーニングの種類】なし
5-6	1/16	08:50-10:30	医学科講義室2	ヘルスコミュニケーション	土井　理美	【到達目標】1, 2 【学習方法】対面講義【アクティブラーニングの種類】Q&A、ロールプレイ

7	1/16	10:45–11:30	遠隔授業（同期型）	異文化対応力：文化と行動	上里　彰仁	【到達目標】1，2 【学習方法】遠隔授業（同期型）【アクティブラーニングの種類】講義内調査（個人回答システム）とフィードバック
8	1/16	11:40–12:25	医学科講義室２	社会と健康	藤原　武男	【到達目標】1，2 【学習方法】遠隔授業（非同期型） 【アクティブラーニングの種類】なし
9	1/21	08:50–09:35	医学科講義室２	動機付け	竹林　裕直	【到達目標】1，2 【学習方法】対面講義【アクティブラーニングの種類】なし
10	1/21	09:45–10:30	医学科講義室２	対人関係	田村　赳紘	【到達目標】1，2 【学習方法】対面講義【アクティブラーニングの種類】Q&A
11	1/21	10:45–11:30	医学科講義室２	行動変容の技法	布施　泰子	【到達目標】1，2 【学習方法】対面講義【アクティブラーニングの種類】グループディスカッション、ロールプレイ
12	1/21	11:40–12:25	医学科講義室２	生涯発達	佐々木　祥乃	【到達目標】1，2 【学習方法】対面講義【アクティブラーニングの種類】なし
13	1/27	08:50–09:35	遠隔授業（非同期型）	行動のアセスメント	藤野　純也	【到達目標】1，2 【学習方法】録画講義【アクティブラーニングの種類】なし
14	1/27	09:45–10:30				
15	1/27	10:45–11:30				
16	1/27	11:40–12:25				
17	2/12	13:30–15:00	医学科講義室２	試験	岡田　幸之	

授業方法

講義室での対面講義、ならびにZoomを用いた同期型のWEB講義を併用する。Web講義ではアクティブラーニングは制限されるが、可能な範囲で実施していく（備考欄を参照）。

授業内容

（別表を参照）

成績評価の方法

選択肢形式の紙ベースの最終試験で行う。

成績評価の基準

最終試験における（100 点満点の）60 点以上を以て B 基準を満たしたと判定、すなわち合格とする。B より上の評価については、聴講態度や最終試験の点数などを参照し、総合的に判断する。

準備学習等についての具体的な指示

受講前に各科のシラバスを熟読し、内容を理解しておくこと。不明な点があったら、オフィス時間内に（9:00–17:00）担当者に質問をして、確認しておくこと。

試験の受験資格

出席を取ります。試験はすべての授業項目から出題します。病気等でやむを得ず欠席した場合は、Webclass に掲載の講義スライド・動画で自習してください。欠席が目立つ場合は、試験では厳しく評価します。

教科書

行動医学テキスト : behavioral medicine／日本行動医学会編,日本行動医学会,野村, 忍,堤, 明純,島津, 明人,中尾, 睦宏,吉内, 一浩,：中外医学社, 2015

参考書

さらに勉強したい方は、米国の定番の教科書の日本語訳版である

健康行動学　その理論、研究、実践の最新動向
木原雅子ら訳　メディカル・サイエンス・インターナショナル

を参考書にあげる

履修上の注意事項

授業を効率良く、かつ効果的に受けるために、基礎知識の復習および当該領域を予習した上でその授業に臨むことが必要である。行動科学の学習目標は知識の獲得ではなく、態度変容にある。そのため、学生が自ら“積極的に”授業に臨むことが望ましい。

備考

2024 年度のコース評価を受けての変更点：特になし
学生からの質問窓口：精神科_田村赳紘（tamupsyc@tmd.ac.jp）

連絡先（メールアドレス）

岡田　幸之:takayukiok.psyc@tmd.ac.jp

オフィスアワー

岡田　幸之:毎週火曜日 PM.5:00–PM.9：00　M&D タワー25 階 精神行動医科学（犯罪精神医学研究室）

時間割番号	011490				
科目名	生物統計学			**科目ID**	
担当教員	髙橋　邦彦[TAKAHASHI Kunihiko]				
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	3	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業					

主な講義場所

M&Dタワー 情報検索室

授業の目的、概要等

臨床試験をはじめ生物・医学・薬学・保健医療分野で用いられる生物統計学の基礎を概観し、特に問題に応じた的確な検定・推定手法の適用について学習する。

授業の到達目標

1. 生物統計学における基本的な検定・推定手法に関して、解析の目的や研究デザイン、データの特性に応じた適切な手法の選択、結果の正しい解釈を行い、利用方法について批判的に評価できるようになる。
2. 基本的な解析手法について、統計ソフトウエア(R、STATA 等)を利用して実際のデータを用いたデータ解析を行い、その結果を読み取ることができるようになる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	1/6	08:50-10:20	情報検索室1	生物統計学概論～統計的推測と検定	無作為抽出、無作為割り付けの役割、標本サイズ、α、1-β、医学的有意差と統計学的　有意差、検定、推定	髙橋　邦彦
2	1/6	10:45-12:15	情報検索室1	データの要約	ヒストグラム、box plot、平均値、標準偏差、パーセント点、標準誤差、分割表、割合、リスク比、オッズ比	髙橋　邦彦, 安齋　達彦
3	1/13	08:50-10:20	情報検索室1	平均値の比較(1)	t検定、対応のあるt検定、Wilcoxon 順位和検定、Wilcoxon 符号付順位検定	髙橋　邦彦, 安齋　達彦
4	1/13	10:45-12:15	情報検索室1	平均値の比較(2)	分散分析、多重比較	髙橋　邦彦, 安齋　達彦
5	1/19	08:50-10:20	情報検索室1	頻度の比較	研究デザイン、カイ 2 乗検定、Fisher exact 検定、McNemer 検定、多重比較	髙橋　邦彦, 安齋　達彦
6	1/19	10:45-12:15	情報検索室1	相関と回帰	Pearson の相関係数、Spearman の相関係数、回帰直線	髙橋　邦彦, 安齋　達彦
7	1/26	08:50-10:20	情報検索室1	交絡調整のための多変量解析	共分散分析、重回帰、Mantel-Haenszel 法、ロジスティック回帰	髙橋　邦彦, 安齋　達彦
8	1/26	10:45-12:15	情報検索室1	生存時間解析	Kaplan-Meier 法、log rank 検定、ハザード比、Cox 回帰	髙橋　邦彦, 安齋　達彦
9	2/18	10:45-12:15	医学科講義室2	試験	試験	髙橋　邦彦, 安齋　達彦

授業方法

全日程同期型対面授業を行う。

授業内容

講義中、データ解析の実習も含める。

成績評価の方法

レポート課題および最終日に実施される筆記試験によって行う。

準備学習等についての具体的な指示

試験の受験資格

3分の2以上の出席を必要とする。

参考書

医学への統計学／古川, 俊之, 1931-,丹後, 俊郎, 1950-,古川俊之 監修,丹後俊郎 著:朝倉書店, 2013.11

連絡先(メールアドレス)

髙橋　邦彦:biostat.dsc@tmd.ac.jp

オフィスアワー

髙橋　邦彦:平日・随時。ただし事前にメールで日時相談。

M&D データ科学センター生物統計学分野(E-mail: biostat.dsc@tmd.ac.jp)

時間割番号	011500				
科目名	選択社会医学実習			**科目 ID**	
担当教員					
開講時期	2025 年度後期	**対象年次**	3	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業	該当する				

主な講義場所

① Forensic Medicine Practice

実習室(3 号館 6 階　学生実習室)

講義室(3 号館 3 階　医学科講義室 2)

② Public Health Practice

情報検索室 1

アクティブラーニング室

授業の目的、概要等

①法医学実習

1 法医解剖への理解・見学

2 法医学的な骨の見方の習得

3 薬毒物の毒性の理解

4 DNA 多型分析の習得

②公衆衛生学実習

公衆衛生の実践にかかわる情報に接し、公衆衛生の実践に必要な知識と技術を深める。

公衆衛生の研究の実践に役立つスキルを学ぶ。

授業の到達目標

1) 社会の問題を把握し、問題解決方法を考える力を獲得する。

2) 疫学の研究方法について学び、実践する。

授業の到達目標

①法医学実習

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

CS-03-03)01

CS-03-04)01

SO-03-01)02,03

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル

[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる

[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる

[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる

[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる

[II-4-B]実習実験を実施して結果を得ることができる

[II-5-B]実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる

[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる

[Ⅲ-8-C]患者との関係(情報漏洩、親密性、金品授受など)において適切な距離を維持する必要性を説明できる
[Ⅲ-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[Ⅲ-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
[Ⅲ-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[Ⅲ-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[Ⅲ-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[Ⅲ-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[Ⅲ-17-A]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
[Ⅲ-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[Ⅲ-19-B]情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
[Ⅲ-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[Ⅲ-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[Ⅲ-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[Ⅲ-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[Ⅲ-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-5-B]社会医学の知識を提示できる

②公衆衛生学実習
文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html
CS-05-03)01
GE-01-04)01,02,03,04,05
GE-01-05)01
GE-02
GE-02-01)01,02
GE-02-02)01,04,05
GE-02-03)02
GE-02-04)01,02
GE-03-01)02
GE-03-05)01,02,03,04,05,06,07
GE-04-01)01,03,04,05,06,07
GE-04-02)01,02,03
IP-02-03)02
IP-02-04)01
PR-01-02)01
PS-03-03)18
RE-03-02)01
RE-04-01)03
SO-01-01)03
SO-01-02)02,03
SO-01-03)01,02,03,04,05,06
SO-01-04)01,02,03
SO-01-05)02,03
SO-02-01)01,02
SO-02-02)02,03,04,05
SO-02-03)02,03,04,05
SO-03-01)05
SO-04-01)01,02
SO-04-02)01

SO-04-06)01
SO-05-01)01,02,03,04,06
SO-05-02)01,02,03
SO-06-01)01,02

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[II-4-B]実習実験を実施して結果を得ることができる
[II-5-B]実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-8-C]患者との関係(情報漏洩、親密性、金品授受など)において適切な距離を維持する必要性を説明できる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-13-B]医学生としての健康管理(予防接種を含む)の重要性を説明できる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-17-A]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-19-B]情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
[III-21-A]患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[IV-9-C]患者中心の医療について説明できる
[V-5-B]社会医学の知識を提示できる
[V-6-B]世界の保健・医療関連事象の推移と地域分布を説明できる
[V-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[V-8-B]様々な集団や場に特有の健康問題を説明できる
[VI-3-B]研究デザインや統計的手法についての知識を提示できる
[VI-25-C]感染患者隔離の対応に関する法的根拠を説明できる
[VII-5-B]医療体制の主な構成要素(患者、多職種にわたる医療供給者、医療機関、保険者、行政、医療産業(製薬会社等)、診療報酬、薬価)について、役割・意義を説明できる
[VII-6-B]医療アクセス、コスト、資源分配など、医療政策の重要な概念とそれらの関係、そして診療への影響を説明できる
[VII-7-B]医療制度や医療提供体制が、医療の質と量へ与える影響(特に異なる背景の患者間の格差、例:地域、年齢、医師の配置)を、説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	2/2	08:50-10:20	アクティブラーニング教室,	②公衆衛生学実習　調査実習グループ(調査票の作成方法の説明)	藤原　武男, 那波　伸敏, 森田　彩子,	②公衆衛生学実習　【到達目標】1)2)【学習方法】

			情報検索室1	データ分析グループ(調査票の説明、仮説の設定、使用する変数のリストアップ)	谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 山岡 祐衣, 西村 久明	実習
2	2/2	10:45-12:15	アクティブラーニング教室, 情報検索室1	②公衆衛生学実習 調査実習グループ(調査票の作成方法の説明) データ分析グループ(調査票の説明、仮説の設定、使用する変数のリストアップ)	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 山岡 祐衣, 西村 久明	②公衆衛生学実習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習
3	2/2	13:30-15:00	アクティブラーニング教室, 情報検索室1	②公衆衛生学実習 調査実習グループ(調査票の作成方法の説明) データ分析グループ(調査票の説明、仮説の設定、使用する変数のリストアップ)	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 山岡 祐衣, 西村 久明	②公衆衛生学実習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習
4	2/2	15:25-16:55	アクティブラーニング教室, 情報検索室1	②公衆衛生学実習 調査実習グループ(調査票の作成方法の説明) データ分析グループ(調査票の説明、仮説の設定、使用する変数のリストアップ)	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 山岡 祐衣, 西村 久明	②公衆衛生学実習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習
5	2/2	17:15-18:45	アクティブラーニング教室, 情報検索室1	②公衆衛生学実習 調査実習グループ(調査票の作成方法の説明) データ分析グループ(調査票の説明、仮説の設定、使用する変数のリストアップ)	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 山岡 祐衣, 西村 久明	②公衆衛生学実習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習
6	2/3	08:50-10:20	アクティブラーニング教室, 情報検索室1	②公衆衛生学実習 調査実習グループ(質問票の作成、調査実施) 統計解析グループ(データクリーニング、変数作成)	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 山岡 祐衣, 西村 久明	②公衆衛生学実習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習
7	2/3	10:45-12:15	アクティブラーニング教室, 情報検索室1	②公衆衛生学実習 調査実習グループ(質問票の作成、調査実施) 統計解析グループ(データクリーニング、変数作	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 伊角 彩, 土	②公衆衛生学実習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習

				成)	井 理美, 山岡 祐衣, 西村 久明	
8	2/3	13:30-15:00	アクティブラーニング教室, 情報検索室1	②公衆衛生学実習 調査実習グループ(質問票の作成、調査実施) 統計解析グループ(データクリーニング、変数作成)	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 山岡 祐衣, 西村 久明	②公衆衛生学実習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習
9	2/3	15:25-16:55	アクティブラーニング教室, 情報検索室1	②公衆衛生学実習 調査実習グループ(質問票の作成、調査実施) 統計解析グループ(データクリーニング、変数作成)	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 山岡 祐衣, 西村 久明	②公衆衛生学実習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習
10	2/3	17:15-18:45	アクティブラーニング教室, 情報検索室1	②公衆衛生学実習 調査実習グループ(質問票の作成、調査実施) 統計解析グループ(データクリーニング、変数作成、記述統計)	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 山岡 祐衣, 西村 久明	②公衆衛生学実習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習
11	2/4	08:50-10:20	アクティブラーニング教室, 情報検索室1	②公衆衛生学実習 調査実習グループ(調査結果の集計、解析) 統計解析グループ(中間発表)	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 山岡 祐衣, 西村 久明	②公衆衛生学実習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習
12	2/4	10:45-12:15	アクティブラーニング教室, 情報検索室1	②公衆衛生学実習 調査実習グループ(調査結果の集計、解析) 統計解析グループ(中間発表)	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 山岡 祐衣, 西村 久明	②公衆衛生学実習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習
13	2/4	13:30-15:00	アクティブラーニング教室, 情報検索室1	②公衆衛生学実習 調査実習グループ(調査結果の集計、解析) 統計解析グループ(回帰分析、交互作用)	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 山岡 祐衣, 西	②公衆衛生学実習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習

					村 久明	
14	2/4	15:25-16:55	アクティブラーニング教室,情報検索室1	②公衆衛生学実習　調査実習グループ(調査結果の集計、解析)　統計解析グループ(回帰分析、交互作用)	藤原 武男,那波 伸敏,森田 彩子,谷 友香子,伊角 彩,土井 理美,山岡 祐衣,西村 久明	②公衆衛生学実習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習
15	2/4	17:15-18:45	アクティブラーニング教室,情報検索室1	②公衆衛生学実習　調査実習グループ(調査結果の集計、解析)　統計解析グループ(回帰分析、交互作用)	藤原 武男,那波 伸敏,森田 彩子,谷 友香子,伊角 彩,土井 理美,山岡 祐衣,西村 久明	②公衆衛生学実習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習
16	2/5	13:30-15:00	アクティブラーニング教室,情報検索室1	②公衆衛生学実習　調査実習グループ(調査結果の集計、解析)　統計解析グループ(回帰分析、交互作用)	藤原 武男,那波 伸敏,森田 彩子,谷 友香子,伊角 彩,土井 理美,山岡 祐衣,西村 久明	②公衆衛生学実習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習
17	2/5	15:25-16:55	アクティブラーニング教室,情報検索室1	②公衆衛生学実習　調査実習グループ(調査結果の集計、解析)　統計解析グループ(回帰分析、交互作用)	藤原 武男,那波 伸敏,森田 彩子,谷 友香子,伊角 彩,土井 理美,山岡 祐衣,西村 久明	②公衆衛生学実習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習
18	2/5	17:15-18:45	アクティブラーニング教室,情報検索室1	②公衆衛生学実習　調査実習グループ(調査結果の集計、解析)　統計解析グループ(単変量回帰分析)	藤原 武男,那波 伸敏,森田 彩子,谷 友香子,伊角 彩,土井 理美,山岡 祐衣,西村 久明	②公衆衛生学実習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習
19	2/6	08:50-10:20	アクティブラーニング教室,情報検索室1	②公衆衛生学実習　プレゼンテーション	藤原 武男,那波 伸敏,森田 彩子,谷 友香子,伊角 彩,土井 理美,山岡 祐衣,西村 久明	②公衆衛生学実習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習
20	2/6	10:45-12:15	アクティ	②公衆衛生学実習　プ	藤原 武男,	②公衆衛生学実

			ブラーニング教室, 情報検索室1	レゼンテーション	那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 山岡 祐衣, 西村 久明	習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習
21	2/6	13:30-15:00	アクティブラーニング教室, 情報検索室1	②公衆衛生学実習 プレゼンテーション	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 山岡 祐衣, 西村 久明	②公衆衛生学実習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習
22	2/6	15:25-16:55	アクティブラーニング教室, 情報検索室1	②公衆衛生学実習 プレゼンテーション	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 山岡 祐衣, 西村 久明	②公衆衛生学実習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習
23	2/6	17:15-18:45	アクティブラーニング教室, 情報検索室1	②公衆衛生学実習 プレゼンテーション	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 山岡 祐衣, 西村 久明	②公衆衛生学実習 【到達目標】1)2)【学習方法】実習

授業方法

「法医学実習」と「公衆衛生学実習」はいずれかの選択実習である。学年全体を半分に分けて行う。

①法医学実習

法医学実習選択者をさらに 2 班(A 班、B 班)に分け、それぞれの班で実習を行う。

法医学実習の内容

1)解剖見学

実施場所: 東京都監察医務院

東京都文京区大塚 4 丁目 21-18

丸の内線新大塚駅徒歩 3 分、JR 大塚駅徒歩 15 分

集合場所:大塚公園 大噴水前

東京都文京区大塚 4-49

集合時刻:午後0時30分

現地集合・現地解散

注意事項:

遅刻した場合は見学できません。帰宅してください。

最寄りの大塚公園での昼食は禁止です。

見学中のスマホのチェック、写真撮影、録画、録音などは禁止です。

2)法骨学実習
実施場所: 実習室
特別講師: 国立科学博物館の研究員を招いて実施。
3)薬毒物実習
実施場所: 実習室
事前準備: 一部実習手順が weblass に動画でアップロードされます。実習までに視聴・理解しておくこと。
4)DNA 多型実習
実施場所: 実習室
事前準備: 一部実習手順が weblass に動画でアップロードされます。実習までに視聴・理解しておくこと。

②公衆衛生学実習
学生はフィールド調査、または統計学的分析のいずれかを選択する。
フィールド調査を選んだ学生は、学外実習＋グループ討議＋レポート提出を行う。
統計学的分析を選んだ学生は、疫学調査、または疫学データ分析のいずれかを選択する。
疫学調査を選んだ学生は、調査の立案、実施、解析を行い、レポートを提出する。
疫学データ分析を選んだ学生は、既存の疫学データを用いて演習を実施し、レポートを提出する。

授業内容
①法医学実習
全体を 2 班(A,B)に分ける。班ごとの実習。
(1)解剖見学 → 東京都監察医務院の解剖見学。解剖前にビデオを見てから開始。
(2) 法医学的な骨の見方の習得→ 国立科学博物館の研究員をお招きして実際の骨を用い傷の見方や性差の見方などを学ぶ。
(3) 薬毒物の毒性の理解 → 血痕検査、CO-Hb 測定、界面活性剤検査、薬物検査など。
(4) DNA 多型の理解・習得→ アルコール代謝関連遺伝子としてすでに機能が知られている遺伝子の一塩基多型への理解・習得をする。

②公衆衛生学実習
授業スケジュール参照

成績評価の方法
①法医学実習
実習への出席(全出席が必須)。
実習レポート提出。

②公衆衛生学実習
実習への出席・参加
レポート提出

成績評価の基準
①法医学実習
出席数、実習参加態度、レポートの内容、レポート提出期限の遵守。

全回出席の上、レポート等を提出し、レポートの内容が指示された事項について記載されていれば「B」とする。レポート内容、実習態度が優れているものは「B」より上の評価とする。

②公衆衛生学実習
1) 実習への出席・参加 30 点
2) レポート 70 点
個人ごとにレポートを提出する。
成績評価の基準

第一段階として、出席要件を満たすことが必要である。
出席要件を満たした上で、1)～2)の合計が 60 点以上の場合に合格とし(評価 B 以上とする)、合計点をこの科目の評価とする。

準備学習等についての具体的な指示

①法医学実習

(1) 解剖見学

事前準備:解剖学や生理学の基礎知識を復習。

例: 呼吸器系、循環器系の基本構造と機能。

死体現象に関する基礎的な知識を学習。

例: 死後硬直、死斑、腐敗の進行過程。

東京都監察医務院における見学の目的や意義を事前に理解する。

(2) 薬毒物の毒性の理解

事前準備:

WebClass にアップロードされた以下の動画を視聴する:

薬毒物の取り扱いに関する手順

分析機器の使用方法

中毒の基本(アルコール、薬物、毒物)の知識を予習。

実習手順を確認し、理解を深めておく。

(3) 法医学的な骨の見方の習得

骨の見方、個人識別の手順や基礎知識を学習。

事前に骨学実習のテキストを見直し、骨の名称を復習する。

→ 国立科学博物館の研究員をお招きして実際の骨を用い傷の見や性差の見方などを学ぶ。(4) DNA 多型の習得

WebClass にアップロードされた動画を視聴し、理解を深めておく。

②公衆衛生学実習

事前に Webclass にアップした資料(論文、著作、教科書のチャプター等)がある場合、しっかり読んでおくこと。

教科書

教科書 1 ISBN 4469268291

書名 社会疫学 上

著者名 リサ・F.バークマン,Berkman, Lisa F.,河内, 一郎,Glymour, M. Maria,高尾, 総司,藤原, 武男,近藤, 尚己, 出版社 大修館書店 出版年 2017-09

教科書 2 ISBN 4469268305

書名 社会疫学 下

著者名 リサ・F・バークマン, イチロー・カワチ, M・マリア・グリモール 編,高尾総司, 藤原武男, 近藤尚己 監訳,Berkman, Lisa F,Kawachi, Ichirō,Glymour, M. Maria,高尾, 総司,藤原, 武男,近藤, 尚己, 出版社 大修館書店 出版年 2017

試験の受験資格

選択社会医学実習(法医学実習/公衆衛生学実習)のすべてに出席していることが必須。

構成ユニット

①法医学実習

1 東京都監察医務院での解剖見学

2 法医学的な骨の鑑定

3 薬物分析

4 DNA 多型分析

を行う。

②公衆衛生学実習

フィールド調査、または統計学的分析のいずれかを行う。

参考書

厚生労働省　令和 6 年度版死亡診断書(死体検案書)記入マニュアル

下記のアドレスからダウンロードできます

https://www.mhlw.go.jp/toukei/manual/

履修上の注意事項

①法医学実習　(1)解剖見学　→　スーツ着用。東京都監察医務院の見学においては、見学した内容を口外しないでください。遅刻した場合は見学できません。見学中体調が不良になった場合引率教員にすぐに伝えてください。　(2)　臨床法医学(骨学)→　白衣着用。(3)　薬毒物の毒性の理解　→　白衣着用。　(4)DNA 多型の理解　→　白衣着用。　②公衆衛生学実習　実習手順、参考資料等、教材はすべて著作物であり、著作権の関係上、外部に流出することのないように十分気を付けること。　フィールド調査選択者は、実習先で知りえた情報を実習外で口外しないこと。

備考

①法医学実習

東京都監察医務院見学にあたっては以下の遵守が必須です。

必ず読み、理解の上見学をしてください。

私は、監察医務院での研修・実習にあたっては、死者及び遺族に対する礼を失しないよう、十分努めるとともに、下記の事項を遵守することを誓約します。遵守しなかった場合、研修・実習の承認が取り消しおよび中止されうることを理解します。

1　研修・実習で知り得た全ての情報(個人情報を含む)を漏らしたり、インターネット上に公開したりしない。

2　カメラやスマートフォン等での撮影行為は禁止する。また、知り得た情報を私物パソコン、USB メモリや外付けハードディスク等の持ち運びが可能なメディア、オンラインストレージ等に保存しない。

3　媒体に関わらず、個人情報を含んだ書類を院外に持ち出してはならない。

4　個人情報の紛失、行方不明、流出、盗難の可能性が発生した場合、事態を隠蔽せず、速やかに当院庶務担当に届け出る。

＊個人情報の定義

個人情報とは、個人に関する情報であって、氏名、住所、電話番号、マイナンバー等、単独もしくは他の情報との照合により特定の個人を識別できる情報を含むものを指す。

時間割番号	011510				
科目名	生命倫理			**科目ID**	
担当教員					
開講時期	2025 年度通年	**対象年次**	3	**単位数**	2
実務経験のある教員による授業	該当する				

主な講義場所

おもに同期で行う

授業の目的、概要等

なぜ人は後で倫理的問題になるとは気付かずに、行動をおこなってしまうのか、あるいはするべき事に気付かず(あるいは気付いても)おこなわないままにしてしまうのか。

医学生、歯学生、医師、歯科医師をはじめとした医療者には、医療を担うにふさわしい倫理感覚を持つことが期待される。医療現場では、倫理的問題に対して組織的に対処するシステムがある程度構築されており、個人の資質による倫理的問題が生じる余地は減っている。しかし、わが国の医療関連法は基本的には性善説で成り立っており、個人の資質による倫理的問題が生じる余地は大きく残されている。また、システム自体が暴走した場合には、最後の砦になるのは個人の倫理感覚のみである。したがって、生命倫理においてはシステムについて学ぶだけでなく、これまでに培った自らの個別的倫理感覚をシステムとの関係の中で、どのように生かすのか、あるいは抑えるのかを考察・構築する必要がある。

第2学年においては、医療者としての視点および倫理観について導入と総論的事項について学習する。第3学年および第4学年において、医療および研究における具体的事例とともにその倫理的問題点とシステム的対応について学習し、医療チームの一員たるプロフェッショナルとして持つべき視点とそれにふさわしい倫理的思考を構築する。

授業の到達目標

医学生、歯学生、医師あるいは歯科医師として求められる実践的倫理判断の養成を図る。これまでに培った個別的文献型倫理学から発展させ、医療チームの一員たるプロフェッショナルとして持つべき視点を構築する。すなわち、将来実際に経験することになる医療や研究の現場の具体的事例について、単に批評するだけでは済まされず、実際に判断し、指示を出し、さらにその責任を取らなければならない立場にある医師および歯科医師の持つべき倫理的思考過程について学習し、応用し自ら考えることでそれを構築・実践する。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成 28 年度改訂版)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/033-2/toushin/1383962.htm

A-1-1)①②③
A-1-2)①②③④
A-1-3)①②③④⑤
A-3-1)⑥⑦⑧
A-4-1)③
A-4-2)①③④⑥⑦
A-5-1)①②③
A-6-1)①③④⑤
A-6-2)③
A-8-1)①②③④

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる

[Ⅲ-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[Ⅲ-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[Ⅲ-17-B]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動する必要性を理解している
[Ⅲ-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[Ⅲ-21-B]守秘義務と患者プライバシーに関して説明できる
[Ⅲ-22-C]インフォームドコンセントの重要性およびその過程を説明できる
[Ⅲ-23-B]著作権侵害にあたる行動を列挙できる
[Ⅲ-24-B]利益相反および回避するための行動を説明できる
[Ⅲ-25-B]企業との関係における倫理的な側面につき説明できる
[Ⅲ-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[Ⅲ-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[Ⅲ-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[Ⅲ-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[Ⅳ-4-C]多学科チームでの学習の場で、敬意を払って会話し、チームに貢献し学習できる
[Ⅳ-6-B]患者の様々な背景や文化がどれだけ医者-患者間のコミュニケーションに影響するかを説明できる
[Ⅳ-7-B]重大で繊細な難しいトピック(sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど)について患者や患者家族と議論する際に、配慮すべき点や重要な点を説明できる
[Ⅳ-9-C]患者中心の医療について説明できる
[Ⅵ-3-B]研究デザインや統計的手法についての知識を提示できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/24	10:45-12:25	遠隔授業(同期型)	生命倫理 1	総論「生命倫理総論(導入)」	吉田 雅幸	①倫理の概要 配布資料を参照のこと
3-4	5/8	10:45-12:25	遠隔授業(同期型)	生命倫理 2	総論「倫理問題の考え方」	江花 有亮	①倫理の概要 配布資料を参照のこと
5-6	5/15	10:45-12:25	遠隔授業(同期型)	生命倫理 3	医の倫理「医療倫理規範」	江花 有亮	②医療倫理 配布資料を参照のこと
7-8	5/29	10:45-12:25	遠隔授業(同期型)	生命倫理 4	医の倫理「医科診療に潜む倫理的問題」	江花 有亮, 石井 秀人	②医療倫理 配布資料を参照のこと
9-10	6/5	10:45-12:25	遠隔授業(同期型)	生命倫理 5	医の倫理「歯科診療に関わる倫理的事項」	濵 洋平	②医療倫理 配布資料を参照のこと
11-12	6/12	10:45-12:25	遠隔授業(同期型)	生命倫理 6	「医療経済を考える」	井伊 雅子, 江花 有亮	②医療倫理 配布資料を参照のこと
13-14	6/19	10:45-12:25	遠隔授業(同期型)	生命倫理 7	医の倫理「保険診療・診療報酬と倫理的問題」	藍 真澄	②医療倫理 配布資料を参照のこと
15-16	6/26	10:45-12:25	遠隔授業(同期型)	生命倫理 8	医の倫理「インフォームド・コンセント」	江花 有亮	②医療倫理 配布資料を参照のこと
17-18	7/3	10:45-12:25	遠隔授業(同期型)	生命倫理 9	「宗教と倫理」	小川 有閑, 江花 有亮	②医療倫理 配布資料を参照の

							こと
19-20	7/10	10:45-12:25	遠隔授業（同期型）	生命倫理 10	医の倫理「個人情報の取り扱い」	江花 有亮	②医療倫理 配布資料を参照のこと
21-22	7/17	10:45-12:25	医学科講義室1	評価	「到達度評価・甲」	江花 有亮	1学期範囲内
23-24	8/28	10:45-12:25	遠隔授業（同期型）	生命倫理 11	生命倫理・ガイド	江花 有亮	
25-26	9/4	10:45-12:25	遠隔授業（同期型）	生命倫理 12	医の倫理「生殖医療に関わる倫理的問題」	江川 真希子	②医療倫理 配布資料を参照のこと
27-28	9/11	10:45-12:25	遠隔授業（同期型）	生命倫理 13	医の倫理「医療事故と法的問題」	横野 恵, 江花 有亮	②医療倫理 配布資料を参照のこと
29-30	9/18	10:45-12:25	遠隔授業（同期型）	生命倫理 14	医の倫理「終末期医療と倫理(亜急性型の終末期、がん等)」	佐藤 信吾	②医療倫理 配布資料を参照のこと
31-32	9/25	10:45-12:25	遠隔授業（同期型）	生命倫理 15	医の倫理「終末期医療と倫理(慢性型の終末期)」	阿部 庸子	②医療倫理 配布資料を参照のこと
33-34	10/2	10:45-12:25	遠隔授業（同期型）	生命倫理 16	医の倫理「救命救急と医療倫理(トリアージ等)」	森下 幸治, 江花 有亮	②医療倫理 配布資料を参照のこと
35-36	10/9	10:45-12:25	遠隔授業（同期型）	生命倫理 17	医の倫理「輸血に関連した倫理的問題」	梶原 道子, 江花 有亮	②医療倫理 配布資料を参照のこと
37-38	10/16	10:45-12:25	遠隔授業（同期型）	生命倫理 18	医の倫理「小児領域の特殊性」	我有 茉希	
39-40	10/23	10:45-12:25	遠隔授業（同期型）	生命倫理 19	医の倫理「医療現場における多職種の連携」	甲畑 宏子	
41-42	10/30	10:45-12:25	遠隔授業（同期型）	生命倫理 20	研究倫理「臨床治験と倫理的問題」	小池 竜司	③研究倫理 配布資料を参照のこと
43-44	11/6	10:45-12:25	遠隔授業（同期型）	生命倫理 21	研究倫理「医学系研究デザイン・実際」	江花 有亮	③研究倫理 配布資料を参照のこと
45-46	11/13	10:45-12:25	遠隔授業（同期型）	生命倫理 22	研究倫理「ゲノム研究に関する倫理的問題」	江花 有亮	③研究倫理 配布資料を参照のこと
47-48	11/20	10:45-12:25	遠隔授業（同期型）	生命倫理 23	研究倫理「再生医療と倫理的問題」	片野 尚子	③研究倫理 配布資料を参照のこと
49-50	11/27	10:45-12:25	遠隔授業（同期型）	生命倫理 24	研究倫理「研究不正」	江花 有亮	③研究倫理 配布資料を参照のこと
51-52	12/4	10:45-12:25	遠隔授業（同期型）	生命倫理 25	医の倫理・研究倫理まとめ	江花 有亮	
53-54	12/11	10:45-12:25	医学科講義室1	評価	「到達度評価・乙」	江花 有亮	全範囲

授業方法

動画教材・講義・グループワーク

同期授業と非同期授業を組み合わせて実施する。事前に配布した資料(スライドや動画など)をもとに学習し、同期授業では非同期授業で得た知識を用いて、積極的に問題解決に取り組む形式で実施する。

またアクティブラーニングとしては、自分が実際に考えることが重要であるため、グループワーク、討論、発表といった、単なる座学ではなく、参加型の講義形式も予定している。諸君の積極的な参加を期待している。

授業内容

詳細は別授業日程表のとおり。担当講師は、医療のさまざまな領域で活動する専門医、専門職の講師をはじめとして、医療以外の分野で活動している実務者にもそれぞれの立場からみた医療や研究について、すなわち他職種や医療者以外の倫理観を含めて問題提起あるいは情報提供を得て、医療者・研究者の倫理について実践的な講義を展開する。

成績評価の方法

講義への出席を単位取得の必要条件とし、第3学年前期と第4学年前期の2回実施する到達度評価甲・乙の点数を中心に、適宜実施する小テストおよび小レポート、プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加、素行等をもとにあわせて総合的に評価する。

成績評価の基準

第3学年前期と第4学年前期の2回実施する到達度評価甲・乙の点数、適宜実施する小テストおよび小レポートの点数(医師および歯科医師の持つべき視点と倫理的思考過程について習得し、応用し自ら考えることができているかどうか)が 70 点以上の場合に合格(A+、A, B)とする。プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加の教員評価(積極的に参加しているか、適切な関与をおこなっているか)等を合計し、尚、試験を受けない場合や反プロフェッショナル行為(不正なコピペ、試験の不正、出席の不正)がみられた場合は成績に関わらず不合格とする(F)。

準備学習等についての具体的な指示

あらかじめ講義のトピックスについて配布資料や動画、参考図書、インターネット等で調べて、そのトピックスに関連する倫理的問題に対して自分なりの見解をもって講義に臨むことが好ましい。

試験の受験資格

講義への出席が、講義時間数の 3 分の 2 以上であること。第3学年前期の到達度評価甲については、第2学年から第3学年前期の到達度評価甲前までの全 9 回の講義のうち(生命倫理 I-1 から生命倫理 I-9 まで)、6 回以上の出席であること。第4学年前期の到達度評価乙については、第3学年前期の到達度評価甲後から第4学年前期の到達度評価乙までの全 13 回(生命倫理 I-11 から生命倫理 II-6 まで)のうち、8 回以上の出席であること。各回の講義についての出席の要件は、小レポートを通して確認する。

教科書

教科書は使用せず、レジュメ・資料等をそのつど配布する。

参考書

The Oxford textbook of clinical research ethics／Emanuel, Ezekiel J.,edited by Ezekiel J. Emanuel ... [et al.]:Oxford University Press, 2008

Principles and practice of clinical research／Gallin, John I.,Ognibene, Frederick P.,edited by John I. Gallin, Frederick P. Ognibene:Elsevier/AP, 2012

入門・医療倫理／赤林, 朗, 1958-,赤林朗 編:勁草書房, 2005.10

生命医学倫理／Beauchamp, Tom L,Childress, James F,立木, 教夫, 1947-,足立, 智孝,トム・Lビーチャム, ジェイムズ・F.チルドレス 著,立木教夫, 足立智孝 監訳:麗澤大学出版会, 2009.6

授業責任者からの連絡は、WebClass で行うので確認すること。

「到達度評価甲」「到達度評価乙」の回では、到達度を測る。

定期試験は実施しないが、進級のためには全授業回数(2限連続は2回)の2／3以上の出席が必要であり、到達度評価は必須である。

医師、歯科医師といった医療者に期待される倫理観を培うために、それぞれの講義時に自ら系統的に考えることが最も重要である。各回の講義について遅刻、早退は系統的に問題に対処する趣旨に反するため、原則的に認めない。また、出席等の手続きについての不正に対しては、医療者に

履修上の注意事項

授業責任者からの連絡は、WebClass で行うので確認すること。　「到達度評価甲」「到達度評価乙」の回では、到達度を測る。　進級のためには全授業回数(2限連続は2回)の2／3以上の出席が必要であり、到達度評価は必須である。　医師、歯科医師といった医療者に期待される倫理観を培うために、それぞれの講義時に自ら系統的に考えることが最も重要である。各回の講義について遅刻、早退は系統的に問題に対処する趣旨に反するため、原則的に認めない。

時間割番号	011520				
科目名	多職種連携Ⅱ			**科目ID**	
担当教員	山脇　正永, 中川　美奈[YAMAWAKI Masanaga, NAKAGAWA Mina]				
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	3	**単位数**	0.5
実務経験のある教員による授業	該当する				

多職種連携Ⅱ

授業の目的、概要等

医療・歯科医療において活躍する保健・医療・福祉の専門職について知り、共通する職業倫理や仕事に対する姿勢、多職種連携の重要性を学び、それぞれの将来像を共有する。患者の講演をとおして患者の気持ちを想像し、患者や利用者、家族、地域の重要な課題について議論する。他学科学生との協働学習を通して、自他の役割や思考・行為・感情・価値観を踏まえて協働する学生同士での信頼関係を構築し、時に生じる葛藤にも適切に対応し、互いの意見交換を円滑に進めるために必要な課題を認識することを目指す。

授業の到達目標

1. 自らの知識や価値観を、他学科の学生に共有することができる。
2. 他学科学生の役割や意見を尊重した説明や返答、問いかけができる。
3. 自らの価値観や言動について、他学科の学生との関係性の中で、相対化できる。
4. 自分の職種の役割を他職種及び他の医療系学部の学生に説明できる。
5. 病院・診療所・施設等の職場環境やチームや部門等の所属に応じた他職種の役割を理解している。
6. 他学科学生との演習活動の中で、円滑な協働を進めるために、自らの役割を果たすことができる。

授業方法

演習(講義、討論)

全学での取り組み(医・歯・口工:3 年、看護・検査・口衛:2 年)で、グループに分かれて討論を行う。

課題の提出を WebClass にて行うこと。

成績評価の方法

成績はピア評価・チューター評価によるグループワークへの参加態度(50%)、レポート等の提出物(50%)により評価する。

成績評価の基準

・合計点数が 60%以上のものを合格とする。

・授業態度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。

参加態度は、司会や書記を務め、積極的に発言しただけではなく、グループメンバーの話しやすい雰囲気を作るなど、聞く姿勢も評価の対象となる。

・期日までに提出された課題を採点対象とし、講演で聞いた内容やグループワークで話し合った内容が含まれているか、自分自身の考えが描かれているかについて授業の到達目標の達成度に応じて採点する。

準備学習等についての具体的な指示

事前の資料配付および e-learning 上へのアップロードがあった場合には、予習をして授業に臨むこと。E-learning(Web Class)を連絡等に利用するので、チェックを怠らず、指示に従って課題および予習を行うこと。

試験の受験資格

試験は実施しない

・出席を基本とし、演習に参加する。

・演習発表資料などの課題を提示された期限までに提出すること。

・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。

参考書

へこんでも : 25 歳ナツコの明るいガン闘病記／多和田, 奈津子, 1972-,多和田奈津子 著:新潮社, 2002.4

・総合的な思春期・若年成人(AYA)世代のがん対策のあり方に関する研究(厚労科研)文献番号 201708005A

・がんノート (URL: https://gannote.com/)

他科目との関連

多職種連携Ⅰを基盤とし、多職種連携と医療者としてのプロフェッショナリズムを養成するための科目である。

履修上の注意事項

積極的に参加すること。レポートを提出すること。

備考

旧カリキュラムのチーム医療導入を基礎とし、新カリキュラムにおいてさらに発展させた科目である。

責任者 山脇正永:myammerd@tmd.ac.jp

実務担当教員 中川美奈:mnakgast@tmd.ac.jp、山口久美子:yamaguchi.fana@tmd.ac.jp

質問等は、上記教員までメールで随時行うこと。

連絡先(メールアドレス)

山脇 正永:myamawaki.merd@tmd.ac.jp

オフィスアワー

山脇 正永:毎週金曜日 12 時～13 時、その他でも随時受け付けます。事前にメールで連絡してください。

中川 美奈:毎週火曜日 AM.10:00-PM.2:00 1 号館 5 階 ヘルスケア教育機構教員室

授業に関する質問は科目責任者または山脇または中川、山口に行うこと。

時間割番号	011077				
科目名	救急・麻酔			**科目 ID**	
担当教員	内田　篤治郎[UCHIDA Tokujiro]				
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	4	**単位数**	2
実務経験のある教員による授業	該当する				

主な講義場所

非同期授業は各自実施すること。同期授業と試験は対面で実施する。場所は授業日程を参照。最終日の試験は対面式でおこなう。

授業の目的、概要等

＜救急科＞

近年はジェネラルな臨床能力よりも、専門に特化した質の高い診療が求められる傾向にあるが、どの患者に対しても初期対応ができること、全身管理の基礎を理解していることは全ての臨床医において必須の能力といえる。

このブロック講義では、救急医学、麻酔学、集中治療学の授業を通して、救急診療、全身管理の基礎を習得することを第一の目的としている。実臨床に直結する知識の習得を目指す。

それぞれが現時点で思い描く目標とする臨床医像とリンクさせながら、積極的に参加する姿勢を期待する。

＜麻酔領域＞

麻酔医学を実践するのに必要な基礎知識を習得し、周術期管理や集中治療領域における診療を理解できるようになることが本ブロックの目的である。

＜集中治療領域＞

ICU での重症患者の管理には、救急科、麻酔科の講義で取り扱われた内容が関係するだけでなく、人工呼吸管理や、二次性脳障害を予防するための神経集中治療への理解が求められる。また、予後不良患者への終末期医療といった倫理的課題への対処や、ICU 退室患者の社会復帰の妨げとなる集中治療後症候群についても十分に理解しておく必要がある。加えて近年、小児を専門的に扱う Pediatric Intensive Care Unit (PICU)や術後超急性期の患者管理を専門的に行う Post Anesthesia Care Unit (PACU)といった専門性の高いユニットや、病棟患者の重症化の兆候を早期に察知・介入し ICU への入室を防ぐ Risk Assessment System (RAS)/Rapid Response System (RRS)といった取り組みが発展している。

集中治療領域の講義では、救急科、麻酔科の講義で扱わないが集中治療において重要な事柄を講義テーマとし、最後に反転授業として症例をもとに患者の全身管理の整理の仕方を学習する。この内容は臨床実習に進んだ際に実地で行われている内容が良く理解できるようになることを目的とし、ICU で治療を受けている重症患者のみならず、一般病棟での患者診療にも活かせる内容である。

授業の到達目標

＜救急科＞

到達目標は以下の通りである。

生命や機能的予後に係わる、緊急を要する病態や疾病、外傷に対して適切な対応を学ぶ。

1)バイタルサインの把握ができる。

2)重症度及び緊急度の把握ができる。

3)初期介入(ABCDE アプローチ)を理解する。

4)心肺蘇生の理論的背景と実践について理解する。

5)ショックの診断と治療を理解する。初期輸液を含む初期対応を学ぶ。

6)中毒・熱傷を含む頻度の高い救急疾患の初期治療を学ぶ。

7)全ての医療者に必要な災害時の救急医療体制を理解する。

8)外傷初期診療について学ぶ。

＜麻酔領域＞

1)麻酔薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項について理解している

2)全身麻酔を行うために必要な解剖、薬剤、医療機器について理解している

3)気管挿管を含む気道確保法を理解している

4)区域麻酔について適応、禁忌となる合併症について理解している
5)循環を構成する臓器の生理学的特徴を理解し、それを麻酔管理へ応用できる
6)血液製剤および血漿分画製剤の種類と適応について理解し、輸血療法の概要を把握する
7)麻酔を行う上で必要な手術についての理解を深める
8)周術期における全身管理の必要性と実際について学習する

＜集中治療領域＞
到達目標は以下のとおりである。
1) 全身状態を ABCD で説明でき、介入方法がわかる。
2) ABCDEF バンドルがわかる。
3) 人工呼吸と自然呼吸の違いがわかる。
4) 人工呼吸器設定の基本がわかる。
5) ARDS の定義と呼吸管理の原則が説明できる。
6) 二次性脳障害を予防するための神経集中治療の原則が説明できる。
7) 小児集中治療の特殊性及び成人集中治療との共通点がわかる。
8) PACU の役割、術後急性期患者の診療上の注意点を説明できる。
9) 集中治療症候群の概要を理解し、その予防策をあげることができる。
10) 急性期患者に求められる終末期医療がわかる。
11) 倫理的事柄を多職種で話し合うための基本知識がわかる。

＜救急＞
文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html
CM-01-01)01,02
CM-02-02)01
CS-01-01)01,02
CS-01-02)01,02,03,04,05
CS-02-01)01,02
CS-02-02)01,02
CS-02-03)01,02,03,04,05,06,07
CS-02-04)01,02,04,05,06,07,08,09,10,11,12,13,14,15,16,17,18,21,22,23,24,25,26,27,28,29,30,31,32,33,34,35,36,38,39,40,45,46,47,48
CS-03-01)01
CS-03-02)01
CS-03-03)01,02,03,04,05
CS-03-05)02
CS-03-06)01,02
CS-05-04)02
GE-01-01)01,02,03,04,05,06,07
GE-01-04)01,02,03,04,05
GE-01-06)01,02,03,04,05
GE-02-03)02
GE-02-04)01,02
GE-03-05)05,07
GE-03-06)01,03,04,05
IP-01-03)01
IT-01-02)01
PS-01-03)06,12,14,33
PS-02-02)02,04
PS-02-03)02,05
PS-02-04)01

PS-02-05)02,05
PS-02-06)01,02,05
PS-02-07)02,05
PS-02-08)02,04,05
PS-02-09)01,05
PS-02-10)02
PS-02-11)02
PS-02-15)02
PS-02-16)05
PS-03-02)02,03
PS-03-03)01,02,03,04,05,06,07,09,10,11,16,17,18
PS-03-05)02,03,04,05,06,07,08,09,10,11,12,13,15
SO-01-04)04
SO-02-02)05

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[IV-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる
[V-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[V-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる
[V-3-C]症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応／合併症／限界)を提示できる
[V-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる
[V-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[VI-8-C]主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる
[VI-15-C]臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる
[VI-25-B]患者隔離の必要な感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる
[VI-26-C]針刺し事故、針刺切創等による感染症感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる
[VII-2-C]急性期、慢性期、および長期的ケアを含む医療の向上に向けた、様々な専門分野の協力にもとづくアプローチについて、説明できる

＜麻酔・集中治療領域＞
文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年度改訂版)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

PS-01-03)32,33
PS-01-04)07,13,14
PS-02-09)01,02,03,04,05
PS-02-11)01,02,04,05
PS-02-12)03
PS-02-14)02,05
PS-03-05)02,03,04,05,12
IT-01-02)01
CS-01-02)03
CS-02-03)01,02,03,04,05,06,07
CS-02-04)04,05,06,07,08,09,12,21,22,23,24,25,26,27,28,29,30,31,32,33,36,38,40
CS-03-03)01
CS-05-04)02

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[IV-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる
[V-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[V-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる
[V-3-C]症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応／合併症／限界)を提示できる
[V-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる
[V-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[VI-8-C]主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる
[VI-15-C]臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる
[VI-25-B]患者隔離の必要な感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる
[VI-26-C]針刺し事故、針刺切創等による感染症感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる
[VII-2-C]急性期、慢性期、および長期的ケアを含む医療の向上に向けた、様々な専門分野の協力にもとづくアプローチについて、説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/14	09:00-10:20	医学科講義室1	導入と救急初期診療1	救急医学を概説する。 救急初期診療の講義とその周辺知識を、講	森下 幸治, 白石 淳, 藤	緊急室(ER)では、医療従事者と患

					師と学生の双方向性のやりとりの中で確認する。また実際の現場での知識の応用についても学習する。	江 聡, 小寺 輝	者のいずれにも危険が生じうる。医療従事者は患者は感染症などの危険に曝露される可能性がある。患者の一部は生命徴候が不安定で即時の介入を要する。
2	4/14	10:30-11:50	医学科講義室 1	救急初期診療 2	救急初期診療における、バイタルサインの把握、初期介入(ABCDE アプローチ)と臨床推論について学習する。	白石 淳, 藤江 聡, 小寺 輝	救急初期診療について学ぶ、理解する。講義型。
3	4/14	12:50-14:10	医学科講義室 1	ACP	救急医療現場では、限られた情報や時間のなかで、重大な意思決定を迫られる場面に遭遇する。緊急 ACP の紹介やスキルの実践を行う。	関谷 宏祐	①救急分野における ACP の重要性を理解する。②患者や家族に対する talk skill を学習する。③roll play を通して、実際に talk skill を用いた緊急 ACP を実践する。
4	4/14	14:20-15:40	医学科講義室 2	TBL(初期診療)	講義で学んだ内容について TBL 形式による試験を行い、知識の定着を図る。	白石 淳, 藤江 聡, 小寺 輝	救急初期診療について学ぶ、理解する。TBL で議論できる。
5	4/14	15:50-17:10	医学科講義室 2	熱傷	緊急を要する感染症と体温異常を学習する。	山路 文範	【到達目標】 熱傷の初期対応、重症度評価、集中治療、手術加療について理解している。 【学習方法】 同期 対面講義
6	4/15	09:00-10:20	アクティブラーニング教室	外傷総論	外傷初期診療について、特に primary survey である生理学的外傷重症度の把握と初期介入について学習する。	森下 幸治	
7	4/15	10:30-11:50	アクティブラーニング教室	外傷各論・Acute Care Surgery	外傷初期診療について、特に secondary survey である解剖学的外傷重症度の把握と治療について学習する。	小島 光暁	
8	4/15	12:50-14:10	アクティブラーニング教室	輸液	輸液製剤や、救急外来での基本的な使用方法について学習する。	中堤 啓太	1. 輸液に関する基本的知識の習得 2. ICU を中心とした実臨床における輸液治療の概論の取得

9	4/15	14:20–15:40	アクティブラーニング教室	敗血症	敗血症診療の歴史、及び最新のガイドラインに基づいた敗血症の診断・治療の考え方とその実践について学習する。	松井 宏樹	
10	4/15	15:50–17:10	アクティブラーニング教室	環境障害・溺水	環境が影響する救急疾患である熱中症、低体温症、減圧症、凍傷、溺水などにつき病態生理、診断、治療について学習する。	古口 葉月	到達目標:熱中症、低体温症をはじめとした環境障害の診断、治療等について理解を深める。その上で、初期診療に携われるようになる。
11	4/16	09:00–10:20	アクティブラーニング教室	災害医療	全ての医療者に必要な災害医療の基本的知識を学ぶ。	赤星 昂己	
12	4/16	10:30–11:50	情報検索室 1	災害トリアージ	災害時におけるトリアージについて、実技形式の課題を行う。	大友 康裕, 植木 穣, 藤江 聡, 沼沢 益行	災害におけるトリアージを実践できるようになる
13	4/16	12:50–14:10	アクティブラーニング教室	心肺蘇生	心肺蘇生の解剖生理学的な理論的背景と、実践について学習する。 市民の心肺蘇生教育の歴史を理解し、世界、アジアと日本の立ち位置を理解する。	藤江 聡	BLS については実技は PCC で行うが理解しておくことが望ましい。ニ次救命救急処置について理解し、実習に先んじて把握しておくことが望ましい。
14	4/16	14:20–15:40	アクティブラーニング教室	多臓器不全	重症傷病における多臓器不全の概念について理解する. 個別臓器における臓器不全の評価方法および治療法について理解する.	安達 朋宏	多臓器不全の概念および各臓器不全に対する基本的な評価方法について理解する。
15	4/16	15:50–17:10		予備枠	※講義が入る可能性があるため、他の予定を入れないこと。		
16	4/17	12:50–14:10	医学科講義室 2	ショック	生理学的な緊急事態であるショックの原因と分類と、輸液療法を含む初期対応を学習する。	高山 渉	病院実習への前段階として、基本的な知識を身につけることが目標。本講義では、ショックの基本病態、鑑別疾患、治療方針について一通りの説明ができることを目指す。
17	4/17	14:20–15:40	医学科講義室 2	中毒	中毒について、安全に配慮した初期対応と、トキシドロームから特異	世良 俊樹	

					的治療に至るまでの診療の流れを学習する。		
18	4/17	15:50-17:10	医学科講義室2	TBL(心肺蘇生・外傷)	講義で学んだ内容についてTBL形式による試験を行い、知識の定着を図る。 活発な議論を期待している。	森下 幸治, 高山 渉, 中堤 啓太, 藤江 聡, 谷澤 秀	到達目標 外傷初期診療実践の基本を学ぶ。TBL形式でそれぞれの知識を臨床応用できるようにすること。学習方法 外傷総論、各論の授業で学んだ知識を整理しておくことが望ましい。
19-23	4/18	09:00-17:10		予備枠	※講義が入る可能性があるため、他の予定を入れないこと。		
24	4/21	09:00-10:20	アクティブラーニング教室	麻酔総論	1.麻酔学の概要 2.周術期管理の概要 3. コースにおける到達目標の概説	内田 篤治郎	
25	4/21	10:30-11:50	遠隔授業(非同期型)	全身麻酔に用いる薬	1.吸入麻酔薬 2.静脈麻酔薬 3. 筋弛緩薬と拮抗薬	阿久根 翼	【到達目標】① 麻酔薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項について理解している【学習方法】非同期ビデオ
26	4/21	12:50-14:10	遠隔授業(非同期型)	区域麻酔	1. 脊柱管ブロックに関連する解剖 2. 脊髄くも膜下麻酔および硬膜外麻酔の原理、適応、生理学的変化、副作用 3. 末梢神経ブロック	北條 亜樹子	【到達目標】①麻酔薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項について理解している④区域麻酔について適応、禁忌となる合併症について理解している【学習方法】非同期ビデオ
27	4/21	14:20-15:40	遠隔授業(非同期型)	気道確保と呼吸管理	1. 気道確保のリスク評価 2. 用手的気道確保とマスク換気 3. 気管挿管 4. 気道確保困難とその対応 5. 気道確保の合併症 6. 人工呼吸の基礎	竹本 彩	【到達目標】③気管挿管を含む気道確保法を理解している⑤循環を構成する臓器の生理学的特徴を理解し、それを麻酔管理へ応用できる 【学習方法】非同期ビデオ
28	4/21	15:50-17:10	遠隔授業	循環生理・輸血・血液凝	循環を構成する心臓・血液・血管な	内田 篤治郎	【到達目標】⑤循

			（非同期型）	固	どの周術期における生理学的特徴や術中管理における考え方について学習する。		環を構成する臓器の生理学的特徴を理解し、それを麻酔管理へ応用できる⑥血液製剤および血漿分画製剤の種類と適応について理解し、輸血療法の概要を把握する 【学習方法】非同期ビデオ
29	4/22	09:00-10:20	遠隔授業（非同期型）	課題作成時間	4/21 の 2-5 限の内容を踏まえて課題を作成する時間。作成した課題は 4/22 の 2-3 限で発表してもらいます。	仙頭 佳起	
30	4/22	10:30-11:50	アクティブラーニング教室	課題発表	4/22 の 1 限で作成した課題を発表するための時間です。	仙頭 佳起	
31	4/22	12:50-14:10	アクティブラーニング教室	課題発表	4/22 の 6 限で作成した課題を発表するための時間です。	仙頭 佳起	
32	4/22	14:20-15:40	遠隔授業（非同期型）	成人における麻酔各論	心臓手術、呼吸器外科手術、脳外科手術の麻酔管理において考慮すべき重要なポイントを解説する。	山本 雄大	【到達目標】②全身麻酔を行うために必要な解剖、薬剤、医療機器について理解している⑤循環を構成する臓器の生理学的特徴を理解し、それを麻酔管理へ応用できる 【学習方法】非同期ビデオ
33	4/22	15:50-17:10	遠隔授業（非同期型）	術中緊急事態への対応	術中の緊急事態についての考え方をまとめ、対処の基本を学習する。	内田 篤治郎	【到達目標】⑤循環を構成する臓器の生理学的特徴を理解し、それを麻酔管理へ応用できる⑥血液製剤および血漿分画製剤の種類と適応について理解し、輸血療法の概要を把握する 【学習方法】非同期ビデオ
34	4/23	09:00-10:20	遠隔授業（非同期型）	周術期管理 /Postanesthesia Care Unit	術前・術中・術後・社会復帰を包括する周術期の管理と Postanesthesia Care Unit の役割に	仙頭 佳起	【到達目標】⑧周術期における全身管理の必要性

					ついて学習する。		と実際について学習する 【学習方法】非同期ビデオ
35	4/23	10:30-11:50	遠隔授業（非同期型）	課題作成時間	4/22 の 4-5 限、4/23 の 1 限の内容を踏まえて課題を作成する時間。作成した課題は 4/24 の 4-5 限で発表してもらいます。	内田 篤治郎	
36	4/23	12:50-14:10	遠隔授業（非同期型）	小児麻酔	小児を対象とした麻酔管理において考慮すべき重要なポイントを解説する。	遠山 悟史	【到達目標】②全身麻酔を行うために必要な解剖、薬剤、医療機器について理解している⑦麻酔を行う上で必要な手術についての理解を深める 【学習方法】非同期ビデオ
37	4/23	14:20-15:40	遠隔授業（非同期型）	産科麻酔	妊婦を対象とした麻酔管理において考慮すべき重要なポイントを解説する。	遠山 悟史	【到達目標】④区域麻酔について適応、禁忌となる合併症について理解している⑦麻酔を行う上で必要な手術についての理解を深める 【学習方法】非同期ビデオ
38	4/23	15:50-17:10		予備枠	※講義が入る可能性あり		
39	4/24	12:50-14:10	遠隔授業（非同期型）	課題作成時間	4/23 の 3-4 限の内容を踏まえて課題を作成する時間。作成した課題は 4/23 の 4-5 限で発表してもらいます。	内田 篤治郎	
40	4/24	14:20-15:40	アクティブラーニング教室	課題発表	4/22 の 4-5 限および 4/23 の 1 限、3-4 限で作成した課題を発表するための時間です。	内田 篤治郎	
41	4/24	15:50-17:10	アクティブラーニング教室	課題発表	4/23 の 6 限および 4/24 の 4 限で作成した課題を発表するための時間です。	内田 篤治郎	
42	4/28	09:00-09:50	遠隔授業（非同期型）	人工呼吸器・ARDS	ARDS・急性呼吸不全に対する人工呼吸器管理と適応について学習する。	増田 孝広	【到達目標】1)人工呼吸と自然呼吸の違いがわかる。2)人工呼吸器設定の基本がわかる。3)ARDS の定義と呼吸管理の原則が説明できる。【学習方法】非同期ビデオ

							【備考】動画視聴/小テスト回答
43	4/28	10:00-10:50	遠隔授業（非同期型）	神経集中治療	ICU における神経集中治療について学習する。	野田　浩太郎	【到達目標】1)二次性脳障害を予防するための神経集中治療の原則が説明できる。【学習方法】非同期ビデオ【備考】動画視聴/小テスト回答
44	4/28	11:00-11:50	遠隔授業（非同期型）	小児集中治療	小児患者を対象とした集中治療について学習する。	壹岐　陽一	【到達目標】1)小児集中治療の特殊性及び成人集中治療との共通点がわかる。【学習方法】非同期ビデオ【備考】動画視聴/小テスト回答
45	4/28	12:50-13:40	遠隔授業（非同期型）	Rapid Response System/Rapid Assessment System	Rapid Response System/Rapid Assessment System による、院内急変防止への取り組みを学ぶ。	三島　有華	【【到達目標】RRS/RAS の概要を理解し、その活用方法を説明できる。【学習方法】非同期ビデオ【備考】動画視聴/小テスト回答
46	4/28	13:50-14:40	アクティブラーニング教室	集中治療対面講義	冒頭に講義及び症例に基づいた課題提示を行う。授業の後半に課題の発表を行う。	野坂　宜之	【到達目標】1)全身状態を ABCD で説明でき、介入方法がわかる。2)ABCDEF バンドルがわかる。【学習方法】グループワーク【事前学習】4/28 1-4 限のビデオ
47	4/28	14:50-15:40	アクティブラーニング教室	集中治療対面講義	冒頭に講義及び症例に基づいた課題提示を行う。授業の後半に課題の発表を行う。	野坂　宜之	【到達目標】1)全身状態を ABCD で説明でき、介入方法がわかる。2)ABCDEF バンドルがわかる。【学習方法】グループワーク【事前学習】4/28 1-4 限のビデオ
48	4/30	09:00-09:50	遠隔授業（非同期型）	術後 ICU 管理	術後患者特有の集中治療管理上の注意点について学習する。	仙頭　佳起	【到達目標】1)PACU の役割、術後急性期患者

							の診療上の注意点を説明できる。【学習方法】非同期ビデオ【備考】動画視聴/小テスト回答
49	4/30	10:00-10:50	遠隔授業（非同期型）	ICU における合併症予防・PICS-F	ICU で生じる合併症を解説するとともに、PICS-F を含む予防法について学習する。	野坂 宜之	【到達目標】集中治療後症候群の概要を理解し、その予防策をあげることができる。【学習方法】非同期ビデオ【備考】動画視聴/小テスト回答
50	4/30	11:00-11:50	遠隔授業（非同期型）	ICU における終末期医療・緩和ケア	ICU で終末期に至った患者に対する考え方と緩和ケアについて学習する。	塩田 修玄	【到達目標】1)急性期患者に求められる終末期医療がわかる。2)倫理的事柄を多職種で話し合う基本知識がわかる。【学習方法】非同期ビデオ【備考】動画視聴/小テスト回答
51	4/30	12:50-13:40	アクティブラーニング教室	集中治療医学総論	集中治療医学の概要を学習する。	若林 健二	【到達目標】医学・医療において集中治療医学が果たす役割が理解できる。【学習方法】対面授業
52	4/30	13:50-14:40	アクティブラーニング教室	集中治療対面講義	冒頭に講義及び症例に基づいた課題提示を行う。授業の後半に課題の発表を行う。	若林 健二	【到達目標】1)全身状態を ABCD で説明でき、介入方法がわかる。2)ABCDEF バンドルがわかる。【学習方法】グループワーク【事前学習】4/28 及び 4/30 1-4 限のビデオ
53	4/30	14:50-15:40	アクティブラーニング教室	集中治療対面講義	冒頭に講義及び症例に基づいた課題提示を行う。授業の後半に課題の発表を行う。	若林 健二	【到達目標】1)全身状態を ABCD で説明でき、介入方法がわかる。2)ABCDEF バンドルがわかる。【学習方法】グループ

							ワーク【事前学習】4/28 及び 4/30 1-4 限のビデオ
54	5/2	09:00-10:20	医学科講義室 1	試験(救急)	対面式で、各講義の内容に沿った択一式の試験を行う。	森下 幸治	
55	5/2	10:30-11:50	医学科講義室 1	試験(麻酔、集中治療)	対面式で、各講義の内容に沿った記述式の試験を行う。	内田 篤治郎 若林 健二	
56-58	5/2	12:50-17:10		予備枠	予備枠		

授業方法

同期型講義(遠隔もしくは対面)、もしくは非同期型遠隔講義を行う。

＜救急＞

基本的にはすべての講義を対面授業とする。

一部の講義を除き、同期型の講義を予定している。一般的な講義形式で行うものや、双方向型のもの、TBL などが含まれる。積極的な発言や質問、グループ内での活発な議論など、諸君らの能動的な参加を期待している。具体的な課題内容や評価方法などについては、それぞれの授業説明などを参照のこと。

なお、非同期型で行うものに関しては、指定された動画や講義資料、参考資料などを閲覧し、指定された課題に答えること。具体的な課題内容や提出方法等に関しては別途記載するのでそちらを参照されたい。質問等に関しては、Webclass 上の質問掲示板などでも受け付けるが、回答が少し遅くなる可能性に関しては了承頂きたい。

〈麻酔科領域〉

講義:各テーマごとに重要なことを中心に構成されている。特に重要な項目については、理解のきっかけとなる事例などの内容を提示するので、自分たちで学習を深めるべく議論を行い、整理をすることが求められる。

非同期講義:知っておくべき知識について、解説し、それぞれについて理解を深める

同期講義:知識に関する解説も行うが、フリーディスカッションの時間を設け、そこまでに履修した授業内容に関するディスカッションを行う。重要な項目について、学生側からの解説を求め、教員がコメントを追加しながら理解を深める。

アクティブラーニング:上記フリーディスカッションで、反転授業の要素を取り入れる。

＜集中治療領域＞

・非同期型講義:前半 4 コマは指定された動画を閲覧し、小テストに回答する。後半 2 コマの同期型講義は、非同期型講義の内容を理解しているものとして行うため、事前に動画閲覧、小テストを実施しておくこと。小テストは理解のため繰り返し行い満点をとっておくことが望ましいが、成績には含まないため必須ではない。

・同期型講義:後半 2 コマを用いてアクティブ・ラーニングを行い、集中治療領域を通じた反転授業を実施する。1 コマにつき 1 症例を題材とし、履修した授業内容の重要な項目についてグループディスカッション及び発表を行う。ディスカッションの内容はスライド形式にまとめ、全グループから提出する。提出方法は授業時に説明する。

・質問方法:講義内容に質問がある場合は、質問担当教員の壹岐陽一(yikiccm@tmd.ac.jp)及び久保俊裕(toshi.90.kubo@gmail.com)へ連絡する。回答は webclass 上、もしくは個別メールで回答する。

授業内容

授業明細を参照

成績評価の方法

＜救急＞

筆記試験と一部の TBL、トリアージの成績で評価する。

筆記試験(本試験)は多肢選択式で行う。

＜麻酔・集中治療領域＞

記述式試験:80～100 問程度の記述式試験を行う。

成績評価の基準

＜救急＞

筆記試験と TBL、トリアージでの合格評価 60 点以上を履修要件とする。

＜麻酔・集中治療領域＞
試験成績により評価する。試験問題は授業の到達目標に達しているかを評価するもので、臨床実習を行う準備として、十分なレベルに到達していることが確認できたことをもって、合格とする。上記記述式試験にて 6 割以上の正解率を基準とする。それを上回る場合には加点が行われる。B の基準は 7 割、B より上の評価は 8 割とする。
設問に対する回答は正確なものでないと減点の対象とする。

準備学習等についての具体的な指示

＜救急＞
指定した教科書の基本的な内容について理解しておくこと

＜麻酔＞
学習に関連した生理学・薬理学に関する内容など、すでに授業が行われているものについては、学習済みのものとして扱う。
麻酔学の臨床においては、実践入門書的な書籍も多数出ているので、教科書・参考書リストを参考にするなどして、準備学習をしておくことが望ましい。

＜集中治療領域＞
指定した教科書の他、以下のウェブページを参考に準備学習をすすめていただきたい。
・当科が作成した非集中治療医向けの重症管理マニュアル:
https://www.tmdu-icu.jp/covid19tmduicu
新型コロナウイルス感染症を題材にしているが、集中治療管理の基本をまとめている。
・重症患者管理教育ツール(集中治療を専門としない医療者用)(集中治療医療安全協議会作成):
https://ccpat.net/9845-2/
米国集中治療医学会が作成したツールの日本語版。動画やセルフチェック問題が掲載されており、さらに理解を深めたい場合に閲覧すると良い。

試験の受験資格

出席は特に試験の受験資格の要件としないが、試験はすべての授業項目から出すので、病気等でやむを得ず欠席した場合は、WebClass に掲載の講義スライドで自習すること。

教科書

標準救急医学 第 5 版／有賀徹 [ほか] 編,有賀, 徹,坂本, 哲也,嶋津, 岳士,山口, 芳裕,横田, 裕行,日本救急医学会,:医学書院, 2014
ミラー麻酔科学／ロナルド・D.ミラー 編,武田純三 監修,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2007
Miller's anesthesia／edited by Ronald D. Miller,associate editors, Neal H. Cohen, Lars I. Eriksson, Lee A. Fleisher, Jeanine P. Wiener-Kronish, William L. Young,:Elsevier/Saunders, 2015
集中治療医学／一般社団法人日本集中治療医学会 編集,一般社団法人日本集中治療医学会,:Gakken, 2023-04-03
ICU ブック／ポール L.マリノ 著,稲田英一 監訳,Marino, Paul L,稲田, 英一, 1954-,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2015

参考書

外傷初期診療ガイドライン JATEC 改訂第 6 版／日本外傷学会, 日本救急医学会 監修,日本外傷学会外傷初期診療ガイドライン改訂第 5 版編集委員会 編集,:へるす出版, 2021
救急診療指針改訂第 6 版 上下巻／日本救急医学会,日本救急医学会 監修,日本救急医学会指導医・専門医制度委員会, 日本救急医学会専門医認定委員会 編集:へるす出版, 2024.4
JRC 蘇生ガイドライン 2020／日本蘇生協議会 監修,日本蘇生協議会,:医学書院, 2020
ICU 実践ハンドブック : 病態ごとの治療・管理の進め方／清水敬樹 編,清水, 敬樹,:羊土社, 2019
PFCCS プロバイダーマニュアル／米国集中治療医学会 編,FCCS 運営委員会, JSEPTIC 監修,米国集中治療医学会,日本集中治療教育研究会,:FCCS 運営委員会, 2015
MGH 麻酔の手引／ピーターF.ダン ほか編,稲田英一 監訳,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2010
ビジュアル麻酔の手引／アーサー アチャバヒアン, ルチル グプタ 編,大畑めぐみ, 本田完 監訳,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2015
小児の麻酔／ロバート・ホルツマン, トーマス・マンキュソ, デイビッド・ポラナー 編,蔵谷紀文 監訳,蔵谷紀文 [ほか]訳,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2011
麻酔科医として必ず知っておきたい周術期の循環管理 : 循環モニタリングの原理、各種測定法から手術別循環管理の実際とトラブルシューティングまで／国沢卓之 編,:羊土社, 2016

麻酔科医として必ず知っておきたい周術期の呼吸管理 : 解剖生理から気道評価・管理、抜管トラブル、呼吸器系合併症の対策まで／磯野史朗 編,:羊土社, 2017
ISBN 978-4880039077
書名 ペインクリニック治療指針 改訂第 5 版
著者 日本ペインクリニック学会治療指針検討委員会 (編集)
出版社 真興交易医書出版部
出版年 2016

ISBN 1975174216
書名 Rogers' Textbook of Pediatric Intensive Care
著者 Donald H. Shaffner MD
出版社 LWW
出版年 2023 年

ISBN 9784815701277
書名 FCCS プロバイダーマニュアル
著者名 米国集中治療医学会 編,集中治療医療安全協議会 監修,米国集中治療医学会,集中治療医療安全協議会,
出版社 集中治療医療安全協議会
出版年 2018

備考

コース評価アンケートに基づく改善計画ならびに変更項目

ガイドラインとの齟齬が一部にみられた為、講義内容を再考し編集した。
シラバスを救急・麻酔ロックで統合し、1 科目のシラバスとした。

時間割番号	011076				
科目名	生殖・発達			**科目 ID**	
担当教員	宮坂　尚幸[MIYASAKA Naoyuki]				
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	4	**単位数**	4
実務経験のある教員による授業	該当する				

Obstetrics and gynecology

Pediatrics

授業の目的、概要等

産科、婦人科【悪性腫瘍・生殖内分泌、女性医学+婦人科良性疾患+感染症】の基礎を講義形式で学ぶ。また産科、婦人科上記 3 領域について、アクティブラーニングにより深く学んでいく。

「小児疾患」の基礎を非同期授業で学ぶ。各専門分野についてアクティブラーニングで学ぶとともに、TBL にて小児の縦断・横断的疾患について総合討議をしながら学んでゆく。

授業の到達目標

1)小児の発達を理解できる。
2)小児科における主要な病気、病態を理解できる。
3)小児科を取り巻く社会的背景、小児科にかかわる先端医療の知識に触れる。

1)女性の生殖・内分泌機能、妊娠の成立過程についての基礎を確認・理解する。
2)月経異常・不妊症の原因について、原因検索のためのアプローチ・治療法を学び・理解する。
3)妊娠から分娩に至るまでの正常・異常な経過について理解・説明することができる。
4)女性生殖器における症性腫瘍・感染性疾患・女性特有の加齢性変化について病態を理解し、説明できる。
5)女性生殖器の悪性腫瘍について病態・検査方法・治療を理解し、説明できる。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html
CS-01-02)03
CS-02-01)01,02
CS-02-02)01,02
CS-02-03)04,06,07
CS-02-04)01,20,21,22,23,24
CS-03-02)01
CS-03-03)01
CS-03-06)01,02
GE-01-01)02)03
GE-03-02)06
GE-03-03)01,02
GE-03-04)01,02,03,04
PS-01-03)06,12
PS-02-02)01,02,03,05
PS-02-03)05
PS-02-09)01,02,03,04,05
PS-02-10)01,02,03,05
PS-02-11)01,02,03,04,05

PS-03-02)02
PS-03-04)01,04,05,06,07,08,16,23,24,25,26
PS-03-05)02,03
SO-01-03)05)06

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[IV-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる
[V-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[V-2-B]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる
[V-3-C]症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応／合併症／限界)を提示できる
[V-4-B]頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる
[V-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[VI-8-C]主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる
[VI-13-A]小児の成長／発達の評価を行える
[VI-15-C]臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる
[VI-25-B]患者隔離の必要な感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる
[VII-2-C]急性期、慢性期、および長期的ケアを含む医療の向上に向けた、様々な専門分野の協力にもとづくアプローチについて、説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/1	09:00-10:20	医学科講義室1	総論1:小児医療の現状	講義形式	髙木 正稔	【到達目標】1)3) 【学習方法】講義形式
2	4/1	10:30-11:50	医学科講義室1	遺伝疾患	講義形式	髙木 正稔	【到達目標】1)2) 【学習方法】講義形式
3	4/1	12:50-14:10	遠隔授業(非同期型)	総論2:小児の診察・検査・予防接種	講義形式(非同期オンデマンド)	神谷 尚宏, 林 祐子, 星野 顕宏	【到達目標】1)2) 【学習方法】 WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
4	4/1	14:20-15:40	遠隔授業	総論3:成長・発達・健	講義形式(非同期オンデマンド)	鹿島田 彩子,	【到達目標】1)2)

			(非同期型)	診、学校保健		辻 敦美	【学習方法】WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
5	4/1	15:50-17:10	遠隔授業(非同期型)	神経①	講義形式(非同期オンデマンド)	水野 朋子	【到達目標】1)2)【学習方法】WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
6	4/2	09:00-10:20	遠隔授業(非同期型)	内分泌・代謝 ①	講義形式(非同期オンデマンド)	髙澤 啓	【到達目標】1)2)【学習方法】WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
7	4/2	10:30-11:50	遠隔授業(非同期型)	新生児①	講義形式(非同期オンデマンド)	杉江 学	【到達目標】1)2)【学習方法】WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
8	4/2	12:50-14:10	遠隔授業(非同期型)	血液腫瘍・小児がん・終末期医療・AYA①	講義形式(非同期オンデマンド)	磯田 健志	【到達目標】1)2)【学習方法】WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
9	4/2	14:20-15:40	遠隔授業(非同期型)	感染症・免疫不全症①	講義形式(非同期オンデマンド)	金兼 弘和	【到達目標】1)2)【学習方法】WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
10	4/2	15:50-17:10	遠隔授業(非同期型)	循環器①	講義形式(非同期オンデマンド)	石井 卓	【到達目標】1)2)【学習方法】WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
11	4/3	12:50-14:10	遠隔授業(非同期型)	膠原病①	講義形式(非同期オンデマンド)	清水 正樹	【到達目標】1)2)【学習方法】WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
12	4/3	14:20-15:40	遠隔授業(非同期型)	呼吸器・救急	講義形式(非同期オンデマンド)	山口 洋平	【到達目標】1)2)【学習方法】WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
13	4/3	15:50-17:10	遠隔授業(非同期型)	腎臓①	講義形式(非同期オンデマンド)	金田 朋也	【到達目標】1)2)【学習方法】WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答

							講義担当者:金田朋也
14	4/4	09:00-10:20	遠隔授業(非同期型)	アレルギー①	講義形式(非同期オンデマンド)	石川 史	【到達目標】1)2) 【学習方法】 WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
15	4/4	10:30-11:50	遠隔授業(非同期型)	消化器	講義形式(非同期オンデマンド)	辻 敦美, 阿久津 裕子	【到達目標】1)2) 【学習方法】 WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
16	4/4	12:50-14:10	遠隔授業(非同期型)	小児外科	講義形式(非同期オンデマンド)	岡本 健太郎	【到達目標】1)2) 【学習方法】 WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
17	4/4	14:20-15:40	遠隔授業(非同期型)	移行期医療	講義形式(非同期オンデマンド)	丸 光恵	【到達目標】1)2) 【学習方法】 WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
18	4/4	15:50-17:10	アクティブラーニング教室	自習	自習		アクティブラーニング課題のまとめと提出(4/08 実施分締め切り日)
19	4/7	09:00-10:20	アクティブラーニング教室	周産期ハイブリッド(産科)	講義形式	関口 将軌	【到達目標】3) 【学習方法】講義形式
20	4/7	10:30-11:50	アクティブラーニング教室	内分泌・代謝②	アクティブラーニング	髙澤 啓	【到達目標】1)2)3) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答 【事前学習】事前課題を指定日までに提出、 Webclass 動画視聴/小テスト全問回答
21	4/7	12:50-14:10	遠隔授業(非同期型)	小児精神	講義形式(非同期オンデマンド)	佐々木 祥乃	【到達目標】1)2) 【学習方法】 WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
22	4/7	14:20-15:40	遠隔授業(非同期型)	在宅医療	講義形式(非同期オンデマンド)	前田 浩利	【到達目標】1)3) 【学習方法】 WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答

23	4/7	15:50–17:10	アクティブラーニング教室	自習	自習		アクティブラーニング課題のまとめと提出(4/09 実施分締め切り日)
24	4/8	09:00–10:20	アクティブラーニング教室	循環器②	アクティブラーニング	石井 卓	【到達目標】1)2)3) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答 【事前学習】事前課題を指定日までに提出、Webclass 動画視聴/小テスト全問回答
25	4/8	10:30–11:50	アクティブラーニング教室	周産期ハイブリッド(小児科)	アクティブラーニング	杉江 学	【到達目標】1)2) 【学習方法】アクティブラーニング形式
26	4/8	12:50–14:10	遠隔授業(非同期型)	虐待	講義形式(非同期オンデマンド)	大森 多恵	【到達目標】1)3) 【学習方法】 WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
27	4/8	14:20–15:40	遠隔授業(非同期型)	小児歯科	講義形式(非同期オンデマンド)	岩本 勉	【到達目標】1)2) 【学習方法】 WebClass 動画視聴/小テスト全問正解まで解答
28	4/8	15:50–17:10	アクティブラーニング教室	自習	自習		アクティブラーニング課題のまとめと提出(4/10 実施分締め切り日)
29	4/9	09:00–10:20	アクティブラーニング教室	神経②	アクティブラーニング	水野 朋子	【到達目標】1)2)3) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答 【事前学習】事前課題を指定日までに提出、Webclass 動画視聴/小テスト全問回答
30	4/9	10:30–11:50	アクティブラーニング教室	アレルギー②	アクティブラーニング	石川 史	【到達目標】1)2)3) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答 【事前学習】事前課題を指定日までに提出、Webclass 動画視

							聴/小テスト全問回答
31	4/9	12:50-14:10	アクティブラーニング教室	感染症・免疫不全症②	アクティブラーニング	金兼 弘和	【到達目標】1)2)3) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答 【事前学習】事前課題を指定日までに提出、Webclass 動画視聴/小テスト全問回答
32-33	4/9	14:20-17:10	アクティブラーニング教室	自習	自習		・アクティブラーニング課題のまとめと提出(4/11 実施分締め切り日) ・Webclass 動画視聴
34	4/10	12:50-14:10	アクティブラーニング教室	腎臓②	アクティブラーニング	金田 朋也	【到達目標】1)2)3) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答 【事前学習】事前課題を指定日までに提出、Webclass 動画視聴/小テスト全問回答
35	4/10	14:20-15:40	アクティブラーニング教室	血液腫瘍・小児がん・終末期医療・AYA②	アクティブラーニング	磯田 健志	【到達目標】1)2)3) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答 【事前学習】事前課題を指定日までに提出、Webclass 動画視聴/小テスト全問回答
36	4/10	15:50-17:10	アクティブラーニング教室	自習	自習		アクティブラーニング課題のまとめ TBL 事前学習
37	4/11	09:00-10:20	アクティブラーニング教室	新生児②(胎児医療・DOHaD)	アクティブラーニング	杉江 学	【到達目標】1)2)3) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答 【事前学習】事前課題を指定日までに提出、Webclass 動画視

							聴/小テスト全問回答
38	4/11	10:30-11:50	アクティブラーニング教室	膠原病②	アクティブラーニング	清水 正樹	【到達目標】1)2)3) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答 【事前学習】事前課題を指定日までに提出、Webclass 動画視聴/小テスト全問回答
39	4/11	12:50-14:10	アクティブラーニング教室	TBL	TBL	磯田 健志	【到達目標】1)2) 【学習方法】20 問の知識問題(個人解答)
40	4/11	14:20-15:40	アクティブラーニング教室	TBL	TBL	磯田 健志	【到達目標】1)2) 【学習方法】20 問の応用問題(グループ解答)
41	4/11	15:50-17:10	アクティブラーニング教室	自習	自習		生殖・発達ブロックの小児領域学習のまとめ 4/11 までにすべての Webclass 動画視聴/小テスト全問回答しておく
42	5/7	09:00-10:20	4 階学生実習室	病理実習　婦人科悪性腫瘍	講義形式	小柳 杏莉	【到達目標】1)4)5) 【学習方法】実習
43	5/7	10:30-11:50	4 階学生実習室	病理実習　婦人科悪性腫瘍	講義形式	小柳 杏莉	【到達目標】1)4)5) 【学習方法】実習
44	5/7	12:50-14:10	アクティブラーニング教室	婦人科感染症	講義形式	廣瀬 明日香	【到達目標】 1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
45	5/7	14:20-15:40	アクティブラーニング教室	性周期と月経異常	講義形式	齊藤 和毅	【到達目標】 1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
46	5/7	15:50-17:10	アクティブラーニング教室	受精と着床	講義形式	齊藤 和毅	【到達目標】 1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める

47	5/8	12:50-14:10	アクティブラーニング教室	妊娠の生理と検査	講義形式	関口 将軌	【到達目標】1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
48	5/8	14:20-15:40	アクティブラーニング教室	婦人科診断(症候・検査)	講義形式	吉木 尚之	【到達目標】1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
49	5/8	15:50-17:10	アクティブラーニング教室	婦人科治療(薬物・手術)	講義形式	吉木 尚之	【到達目標】1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
50	5/9	09:00-10:20	アクティブラーニング教室	正常分娩・産褥・新生児1	講義形式	宮坂 尚幸	【到達目標】1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
51	5/9	10:30-11:50	アクティブラーニング教室	正常分娩・産褥・新生児2	講義形式	宮坂 尚幸	【到達目標】1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
52	5/9	12:50-14:10	アクティブラーニング教室	自習	自習		生殖・発達ブロックの産婦人科領域学習のまとめ アクティブラーニングのまとめ
53	5/9	14:20-15:40	アクティブラーニング教室	分娩の異常1	講義形式	不殿 絢子	【到達目標】1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
54	5/9	15:50-17:10	アクティブラーニング教室	分娩の異常2	講義形式	不殿 絢子	【到達目標】1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
55	5/12	09:00-10:20	アクティブラーニング教室	婦人科悪性腫瘍 1(子宮頸癌)	講義形式	大島 乃里子	【到達目標】1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、

							講義後は参考図書を使用して理解を深める
56	5/12	10:30-11:50	アクティブラーニング教室	婦人科悪性腫瘍 3(卵巣癌)	講義形式	大島 乃里子	【到達目標】1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
57	5/12	12:50-14:10	アクティブラーニング教室	婦人科悪性腫瘍 2(子宮体癌)	講義形式	若菜 公雄	【到達目標】1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
58	5/12	14:20-15:40	アクティブラーニング教室	妊娠の異常1	講義形式	羅 こてい	【到達目標】1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
59	5/12	15:50-17:10	アクティブラーニング教室	妊娠の異常2	講義形式	羅 こてい	【到達目標】1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
60	5/13	09:00-10:20	アクティブラーニング教室	婦人科悪性腫瘍アクティブラーニング	アクティブラーニング	尾臺 珠美	【到達目標】1)2) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答
61	5/13	10:30-11:50	アクティブラーニング教室	婦人科良性腫瘍	講義形式	岩原 由樹	【到達目標】1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
62	5/13	12:50-14:10	アクティブラーニング教室	不妊1	講義形式	櫻井 香織	【到達目標】1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
63-64	5/13	14:20-17:10	アクティブラーニング教室	不妊2	講義形式	櫻井 香織	【到達目標】1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める

65	5/14	09:00-10:20	アクティブラーニング教室	自習	自習		生殖・発達ブロックの産婦人科領域学習のまとめ アクティブラーニングのまとめ
66	5/14	10:30-11:50	アクティブラーニング教室	生殖補助医療	講義形式	岩原 由樹	【到達目標】 1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
67	5/14	12:50-14:10	アクティブラーニング教室	更年期障害	講義形式	廣瀬 明日香	【到達目標】 1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
68-69	5/14	14:20-17:10	アクティブラーニング教室	産科アクティブラーニング	アクティブラーニング	宮坂 尚幸	【到達目標】1)2) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答
70-71	5/15	09:00-11:50	アクティブラーニング教室	生殖機能	講義形式	石川 智則	【到達目標】 1)2)4)5) 【学習方法】講義を受け、講義後は参考図書を使用して理解を深める
72	5/15	12:50-14:10	アクティブラーニング教室	生殖内分泌アクティブラーニング	アクティブラーニング	光井 潤一郎	【到達目標】1)2) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答
73-74	5/15	14:20-17:10	アクティブラーニング教室	女性医学アクティブラーニング	アクティブラーニング	寺内 公一	【到達目標】 1)2)4)5) 【学習方法】事前に作成した資料を発表、質疑応答
75	5/16	09:00-10:20	医学科講義室1	産婦人科 試験	試験	吉木 尚之	試験 対面
76	5/16	10:30-11:50	医学科講義室1	試験(小児科)	試験	髙木 正稔 磯田 健志	試験 対面
77-79	5/16	12:50-17:10		自習	自習		生殖・発達ブロックの産婦人科領域学習のまとめ アクティブラーニングのまとめ

授業方法

産婦人科:対面授業による講義、アクティブラーニング、

【講義】産科、婦人科悪性腫瘍、生殖内分泌、女性ヘルスケアの 4 領域の対面授業による講義が行われる。

【周産期ハイブリッド】小児科と連携して(4 月中に)対面授業を行い、理解を深める。

【アクティブラーニング・症例発表などの授業】
授業の前に前もって症例、問題を配布し、学生主導で問題の解答をみつけていく授業。
・授業の流れ
全学年学生を 16 チームにわけ、各チームにチームリーダーが割り当てられる。
チーム分けとチームリーダーは、4 月初旬を目安に情報を伝える。
学生は各チームで協力し課題にとりくむ。3 領域で発表するチームが割り当てられる。
各分野で割り当てられなかったチームは授業に参加して質問があれば発表チームに対して質問する。チームリーダーはチームをとりまとめ、期限までに発表スライドを完成させ、担当教官に送付する。

(1)婦人科悪性腫瘍症例(アクティブラーニング)(A から E チームが発表)
婦人科悪性腫瘍症例の詳細を、4 月中頃をめどに webClass に掲載もしくはメールでチームリーダーに送付する。期日までにスライドを完成させ、担当教員メールあてに送付する。

(2)生殖内分泌症例(アクティブラーニング)(F～K チームが発表)
不妊患者症例の詳細を、4 月中頃をめどに webClass に掲載もしくはメールでチームリーダーに送付する。期日までにスライドを完成させ、担当教員メールあてに送付する。

(3)女性医学症例(アクティブラーニング)(L～P チームが発表)
女性医学症例の詳細を、4 月中頃をめどに webClass に掲載もしくはメールでチームリーダーに送付する。期日までにスライドを完成させ、教員メールあてに送付する。

(4)産科症例
産科の症例の詳細を、4 月中頃をめどに webclass に掲載もしくはメールで送付する。
チームリーダーはグループで話し合い、期日までに解答を準備し、必要あればスライドを完成させ、必要あれば期日までに教員メールあてに送付する(スライド作成は必須ではない)。

・アクティブラーニング担当教員連絡先
腫瘍:尾臺珠美先生　odycrm@tmd.ac.jp
生殖内分泌:光井潤一郎先生　jmticrm@tmd.ac.jp
女性医学:寺内公一先生　m.terauchi.gyne@tmd.ac.jp
産科:宮坂尚幸教授 n.miyasaka.gyne@tmd.ac.jp

【質問の受付方法】
質問は対面授業のため、授業終了後に担当教官に直接質問してもらう。
授業後に質問できなかった場合は、授業担当教官にメールで連絡をとり質問する。

小児科
(1)非同期型授業、(2)対面授業によるアクティブラーニング(AL)、(3)対面授業によるチーム基盤型学習(TBL)

(1)非同期型授業
非同期講義の授業を視聴し、講義後小テストを全問正解まで解答することで受講資格とする。
各専門領域は①新生児、②内分泌・代謝、③神経、④感染症・免疫不全症、⑤血液腫瘍・小児がん、⑥循環器、⑦腎、⑧膠原病、⑨アレルギーとなる。
① から⑨の各専門領域のアクティブラーニング課題提出日までに視聴を済ませておく。
その他の非同期講義は割り当てられた時間に実施するか、小児科講義終了日(4/11)までに視聴を完了することで受講資格とする。
自習のための動画・資料の閲覧は定期試験のある 5/16 までとする。

(2)アクティブラーニング(AL)(対面)
対面授業は講義室内にて AL 形式で行う。

受講学生を 9–10 人の 11 グループに分ける。
① 新生児、②内分泌・代謝、③神経、④感染症・免疫不全症、⑤血液腫瘍・小児がん、⑥循環器、⑦腎、⑧膠原病、⑨アレルギーの AL では提出課題の記載・発表内容を評価する。
各グループで各専門領域①～⑨の課題担当者を決定すること。必ず各自が 1 課題を担当できるよう割り振りをお願いします。10 名の斑では相談の上、お二人で 1 課題を協力して作成ください。

例
A グループ
a さん①新生児
b さん②内分泌・代謝
c さん③神経
d さん④感染症・免疫不全症
e さん⑤血液腫瘍・小児がん
f さん⑥循環器
g さん⑦腎
h さん⑧膠原病
i さん⑨アレルギー

各専門領域の講義では 4 つの課題を用意する。
PPT スライドに記載を行い、提出をする。
AL 内で発表の機会があった場合に各課題担当者がプレゼンテーションできるように準備をしておくこと。

AL の事前課題は Webclass 内に掲示する。

各専門領域①～⑨事前課題の提出期限と開催日は以下の通りとする。
提出期限 ── 開催日
4/4（金） ── 4/7（月）4/8（火）
4/7（月） ── 4/9（水）
4/8（火） ── 4/10（木）
4/9（水） ── 4/11（金）

(3)チーム基盤型学習（TBL）
グループセッションは 16 グループに分ける。
アクティブラーニング教室にて対面で行う。
20 問の知識問題（個人解答）
20 問の応用問題（グループ解答）
各々20 点満点で採点し合計点が TBL の点数となる。

・質問の受付方法
非同期授業で質問が生じた場合には、Webclass の質問掲示板を介して終了後 1 週間ないしは（4/18）まで受け付ける。
アクティブラーニング、TBL で生じた質問は適宜挙手で受け付ける。終了後に生じた質問は Webclass の質問掲示板を介して 4/18 まで受け付ける。

学内講師の担当分野を以下に示す（敬称略）。
高木正稔：小児科総論、遺伝疾患
辻敦美：栄養・学校保健（2024 年度髙木先生）
神谷尚宏：小児の診察
林祐子：小児の検査（2024 年度高澤先生）

星野顕宏:予防接種
石川史:アレルギー
高澤啓:内分泌・代謝
水野朋子:神経
鹿島田彩子:成長・発達・健診
金田朋也:腎臓
磯田健志:血液腫瘍、小児がん・終末期医療・AYA
石井卓:循環器
杉江学:新生児、胎児医療・DOHaD
阿久津裕子消化器疾患・炎症性腸疾患
山口洋平:呼吸器・救急
金兼弘和:細菌感染症、ウィルス感染症
金兼弘和:免疫不全症
清水正樹:膠原病
岡本健太郎:小児外科
佐々木祥乃:児童精神
岩本勉:小児歯科

授業内容

(別表を参照)

成績評価の方法

産婦人科:
アクティブラーニングでの発言と授業態度、ブロック定期試験の総合成績で評価する。

小児科:
非同期授業の受講後に小テストを行う、アクティブラーニング、TBL、ブロック定期試験
アクティブラーニングの提出物・発表内容を評価する。
アクティブラーニング、TBL 授業における積極性と内容を加味する。
筆記試験の成績を総合して評価する。

成績評価の基準

産婦人科:
ブロック定期試験の点数が 60 点以上を履修要項とする。
ブロック定期試験の点数に加えアクティブラーニングでの発言と授業態度が良のものを B 判定とする。
ブロック定期試験の点数に加えアクティブラーニングでの発言と授業態度が非常によいと評価されたものを A 判定とする。

小児科:
非同期授業の受講と小テスト(10%)、アクティブラーニング(20%)、TBL(10%)、ブロック定期試験(60%)の成績で評価する
非同期型授業と小テスト、アクティブラーニングの提出物及び参加、TBL への参加、ブロック定期試験の点数が基準に達していたらB判定となる。
A 以上の点数は非同期授業、アクティブラーニング、TBL、ブロック定期試験を総合して評価する。

準備学習等についての具体的な指示

講義開始前に、これまで学習した基礎医学の分野で「生殖・発達」と特に関連の深い「生命と遺伝」について復習をしておくこと。また、「解剖学」「生理学」等の各分野についても、「生殖・発達」と関連する部分の復習をしておくことが望ましい。

小児科
小児は「小さい大人」ではない。内科疾患と対比してその相違につき予習しておくとよい。また、講義を受けるにあたり、教科書に出てくる疾患名だけでも目を通し、内科学では学習しない小児特有の疾患があることを理解し、当日の講義に臨むこと。

講義では数多くある小児のすべての疾患については触れない。自主学習によって卒業までに習得しておくべきすべての知識を学ぶ必要がある。ブロック定期試験は卒業までに習得しておくべきすべての知識を対象とするので、自習時間を活用し、非同期講義で行われる小テスト、アクティブラーニング用の提出課題の準備、ブロック定期試験のための学習を行うこと。
なおアクティブラーニング課題、および動画・講義資料について、Webclass(遅くとも3月下旬)に提示する。

試験の受験資格

ブロック全体で試験を行い、単位判定を行う。

原則として、ブロック全体で授業時間数の 2/3 以上の履修(本学試験細則による定期試験の受験資格)、および試験での合格評価を履修要件とする。
授業時間数の履修をどのように評価するかは、科目責任者に一任される。

産婦人科は、出席を試験の受験資格の要件としないが、試験はすべての授業項目から出題されるので病気などでやむを得ず欠席した場合は、Webclass 掲載の講義スライドで自習をすること。

小児科は、非同期型授業は講義後の小テストを全問正解となるまで解答することで受講資格とする(成績評価の 10%を占める)。同期型授業は、対面の総論・遺伝学講義への出席、各論の非同期授業を受講し、事前課題を提出し対面のアクティブラーニング(AL)に出席することで受講資格とする(成績評価の 20%を占める)。チーム基盤型学習(TBL)に参加することで受講資格とする(成績評価の 10%を占める)。80 分の講義は 1 コマとして計算し、本試験は出席数にカウントしない。

上記の機械的計算で出席数が 2/3 に満たない場合、履修とみなすには下記の課題要件を満たすことを求める。
課題要件:欠席した全ての授業に関して、教官が指定する論述課題の提出を求める。全ての課題を提出し、かつ、課題の内容を採点し、講義担当分野で構成するブロック成績判定会議でこれらの結果に基づき、課題を提出できたと判定されること。

教科書

小児科学／加藤元博 編集:文光堂, 2023.4
標準小児科学／原寿郎 監修,高橋孝雄, 細井創, 齋藤昭彦 編集,高橋孝雄 [ほか] 執筆,原, 寿郎, 1953-,高橋, 孝雄, 1957-,細井, 創,齋藤, 昭彦,:医学書院, 2022
ネルソン小児科学／Robert Kliegman, MD and Joseph W. St. Geme Ⅲ, MD:エルゼビア・ジャパン, 2025
Rudolph's pediatrics／editor-in-chief, Mark W. Kline,Kline, Mark W.,:McGraw-Hill Education, 2018
標準産科婦人科学／綾部琢哉, 板倉敦夫編,綾部, 琢哉,板倉, 敦夫,:医学書院, 2021

参考書

プリンシプル産科婦人科学／武谷雄二, 上妻志郎, 藤井知行, 大須賀穣 監修,武谷, 雄二, 1947-,上妻, 志郎, 1953-,藤井, 知行, 1957-,:メジカルビュー社, 2014
標準産科婦人科学／綾部, 琢哉,板倉, 敦夫,綾部琢哉, 板倉敦夫 編集:医学書院, 2021.3
産婦人科の参考書:
「産婦人科研修の必修知識 」 日本産科婦人科学会 編
「臨床研修イラストレイテッド 3. 基本手技[診察と検査]」 奈良信雄 編 羊土社 2011 年
「女性診療科 最新超音波診断」 関谷隆夫・石原楷輔 著 永井書店
「婦人科疾患の MRI 診断」 富樫かおり 著 医学書院
「産科婦人科用語集・用語解説集」 日本産科婦人科学会 編 金原出版
「産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020」 日本産科婦人科学会 編
「産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編 2020」 日本産科婦人科学会 編
「新生児蘇生法テキスト 改訂第 2 版」 田村正徳 著 メジカルビュー社
「MFICU マニュアル」 メディカ出版
「生殖医療の必須知識」 日本生殖医学会
「子宮頸癌治療ガイドライン」 日本婦人科腫瘍学会 編 金原出版
「子宮頸癌取り扱い規約」 日本産科婦人科学会 編 金原出版
「子宮体癌治療ガイドライン」 日本婦人科腫瘍学会 編 金原出版
「子宮体癌取り扱い規約」 日本産科婦人科学会 編 金原出版
「卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療治療ガイドライン」 日本婦人科腫瘍学会編 金原出版

「卵巣腫瘍取り扱い規約」 日本産科婦人科学会 編 金原出版
「遺伝性乳癌卵巣癌症候群診療ガイドライン」 JOHBOC 編 金原出版

"WHO Classification Tumors of the Breast and Female Genital Organs" A. Tavassoli & Peter Devilee
"Clinical Gynecologic Oncology" Di Saia
"Principles and Practice of Gynecologic Oncology, 5th ed." Richard R. Baraket, Maurie Markman, Marcus E. Randall

小児科:総論、各論について、下記の参考サイトを参照のこと

履修上の注意事項

教科書などの成書に書かれていることは自学自習可能である。従って当ブロックでは誕生(出生)からの発達過程の生理的病的過程を成長という視点で捉え、性的成熟過程および妊娠出産という生命の一連の流れのダイナミズムを理解するうえでの見方・考え方を修得するよう心がけ、教科書では把握できないことがらに対して問題意識をもって学習に当たってほしい。

備考

産婦人科
産婦人科の主要4領域(産科、婦人科腫瘍、生殖内分泌、女性ヘルスケア)を広く学んでもらえるよう工夫しました。
産科、婦人科 3 領域にアクティブラーニングをとりいれ、4 月中頃をめどに教務から詳細連絡(チーム分け、チームリーダーなど)があります。
チームリーダーは必要があればアクティブラーニング担当教官に連絡をしてください。
(詳細は授業方法参考)

・アクティブラーニング担当教員連絡先
腫瘍:尾臺珠美先生 odycrm@tmd.ac.jp
生殖内分泌:光井潤一郎先生 jmticrm@tmd.ac.jp
女性医学:寺内公一先生 m.terauchi.gyne@tmd.ac.jp
産科:宮坂尚幸教授 n.miyasaka.gyne@tmd.ac.jp

参照ホームページ

産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023 PDF
https://www.jsog.or.jp/activity/pdf/gl_sanka_2023.pdf

産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編 2023 PDF
https://www.jsog.or.jp/activity/pdf/gl_fujinka_2023.pdf

http://www.jsog.or.jp/activity/guideline.html
http://www.jsgo.gr.jp/
http://www.cancer.gov/
http://www.nccn.org/index.asp

http://www.uptodate.com/home/clinicians/specialties/pediatrics.html

【小児科参考サイト】
ワクチン: http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=263 日本小児科学会
https://www.know-vpd.jp/ know VPD
感染症: https://www.niid.go.jp/niid/ja/ 国立感染症研究所
https://www.cdc.gov/ CDC
疾患総論: https://www.shouman.jp/ 小児慢性特定疾病情報センター
https://www.uptodate.com/contents/search UpToDate
OMIM: https://www.omim.org/ あらゆる遺伝性疾患の検索が可能
救急: http://kodomo-qq.jp/ 日本小児科学会
https://www.convention-axcess.com/jsep/special_page/2020_manual.html 日本小児救急医学会

原発性免疫不全症候群： https://csl-info.com/e-meneki/pid/

小児血液・腫瘍ガイドライン： https://www.jspho.org/journal/guideline.html

NationalCancer Institute: https://www.cancer.gov/publications/pdq/information-summaries/pediatric-treatment

内分泌： http://jspe.umin.jp/medical/gui.html 日本小児内分泌学会

神経： https://www.childneuro.jp/modules/general/index.php?content_id=4 日本小児神経学会

新生児： https://www.ncpr.jp/e-learning.html NCPR(新生児蘇生法)

https://www.ncpr.jp/pdf/elearning-release.pdf NCPR ログイン PW

http://jsnhd.or.jp/info/INFORMATION.html 新生児成育医学会

循環器： https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2020/02/JCS2018_Yasukochi.pdf 日本循環器学会(特に p16-26 の総論部分は、先天性心疾患の病態理解の一助になると思います)

リウマチ性疾患： https://www.printo.it/pediatric-rheumatology/JP/info/JP 小児リウマチ国際研究機関

小児外科： http://www.jsps.or.jp/disease-to-treat 日本小児外科学会

時間割番号	011083			
科目名	公衆衛生学(M4)		**科目 ID**	
担当教員	藤原　武男[FUJIWARA Takeo]			
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	4	
実務経験のある教員による授業	該当する			

英文名:Public Health in Practice

授業の目的、概要等

公衆衛生の実践にかかわる情報に接し、公衆衛生の実践に必要な知識と技術を深める。
公衆衛生の研究の実践に役立つスキルを学ぶ。

授業の到達目標

1) 社会の問題を把握し、問題解決方法を考える力を獲得する。
2) 疫学の研究方法について学び、実践する。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html
CS-05-03)01
GE-01-04)01,02,03,04,05
GE-01-05)01
GE-02
GE-02-01)01,02
GE-02-02)01,04,05
GE-02-03)02
GE-02-04)01,02
GE-03-01)02
GE-03-05)01,02,03,04,05,06,07
GE-04-01)01,03,04,05,06,07
GE-04-02)01,02,03
IP-02-03)02
IP-02-04)01
PR-01-02)01
PS-03-03)18
RE-03-02)01
RE-04-01)03
SO-01-01)03
SO-01-02)02,03
SO-01-03)01,02,03,04,05,06
SO-01-04)01,02,03
SO-01-05)02,03
SO-02-01)01,02
SO-02-02)02,03,04,05
SO-02-03)02,03,04,05
SO-03-01)05
SO-04-01)01,02
SO-04-02)01
SO-04-06)01
SO-05-01)01,02,03,04,06

SO-05-02)01,02,03
SO-06-01)01,02

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
[II-1-A]医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる
[II-4-B]実習実験を実施して結果を得ることができる
[II-5-B]実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる
[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[III-8-C]患者との関係(情報漏洩、親密性、金品授受など)において適切な距離を維持する必要性を説明できる
[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[III-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[III-13-B]医学生としての健康管理(予防接種を含む)の重要性を説明できる
[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[III-17-A]常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[III-19-B]情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
[III-21-A]患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる
[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[III-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[IV-9-C]患者中心の医療について説明できる
[V-5-B]社会医学の知識を提示できる
[V-6-B]世界の保健・医療関連事象の推移と地域分布を説明できる
[V-7-B]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる
[V-8-B]様々な集団や場に特有の健康問題を説明できる
[VI-3-B]研究デザインや統計的手法についての知識を提示できる
[VI-25-C]感染患者隔離の対応に関する法的根拠を説明できる
[VII-5-B]医療体制の主な構成要素(患者、多職種にわたる医療供給者、医療機関、保険者、行政、医療産業(製薬会社等)、診療報酬、薬価)について、役割・意義を説明できる
[VII-6-B]医療アクセス、コスト、資源分配など、医療政策の重要な概念とそれらの関係、そして診療への影響を説明できる
[VII-7-B]医療制度や医療提供体制が、医療の質と量へ与える影響(特に異なる背景の患者間の格差、例:地域、年齢、医師の配置)を、説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-5	5/19	09:00-17:10	アクティブラーニング教室,情報検索	公衆衛生学実習	調査実習グループ(調査票の作成方法の説明)　データ分析グループ(調査票の説明、仮説の設定、使用する変数のリストアップ)	藤原 武男,那波 伸敏,森田 彩子,谷 友香子,	【到達目標】1)2) 【学習方法】実習

			室1			伊角 彩, 土井 理美, 西村 久明, 山岡 祐衣	
6-10	5/20	09:00-17:10	アクティブラーニング教室, 情報検索室1	公衆衛生学実習	調査実習グループ(質問票の作成、調査実施)　統計解析グループ(データクリーニング、変数作成)	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 西村 久明, 山岡 祐衣	【到達目標】1)2) 【学習方法】実習
11-15	5/21	09:00-17:10	アクティブラーニング教室, 情報検索室1	公衆衛生学実習	調査実習グループ(調査結果の集計、解析)　統計解析グループ(記述統計)	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 西村 久明, 山岡 祐衣	【到達目標】1)2) 【学習方法】実習
16-20	5/22	09:00-17:10	アクティブラーニング教室, 情報検索室1	公衆衛生学実習	調査実習グループ(調査結果の集計、解析)統計解析グループ(単変量回帰分析)	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 伊角 彩, 土井 理美, 西村 久明, 山岡 祐衣	【到達目標】1)2) 【学習方法】実習
21-25	5/23	09:00-17:10	アクティブラーニング教室	公衆衛生学実習	プレゼンテーション	藤原 武男, 那波 伸敏, 森田 彩子, 谷 友香子, 伊角 彩, 西村 久明, 土井 理美, 山岡 祐衣	【到達目標】1)2) 【学習方法】実習

授業方法

全日程について、対面型の授業を実施する。

学生は疫学調査、または疫学データ分析のいずれかを選択する。

前者を選んだ学生は、調査の立案、実施、解析を行い、レポートを提出する。

後者を選んだ学生は、既存の疫学データを用いて演習を実施し、レポートを提出する。

授業内容

授業スケジュール参照

成績評価の方法

公衆衛生学実習の評価は、実習への参加、レポートによって行う

1）実習への出席・参加　30 点

2）レポート　70 点

個人ごとにレポートを提出する。

成績評価の基準

第一段階として、出席要件を満たすことが必要である。

出席要件を満たした上で、1)～2)の合計が 60 点以上の場合に合格とし(評価 B 以上とする)、合計点をこの科目の評価とする。

準備学習等についての具体的な指示

事前に Webclass にアップした資料(論文、著作、教科書のチャプター等)がある場合、しっかり読んでおくこと。

試験の受験資格

公衆衛生学実習の事前説明会に出席すること。

実習は原則として出席すること。(8割以上の出席が必要)

特別に勘案すべき事情があるために出席できない場合は、その事情とともに、実習開始前までに科目責任者または医学教務係にメールのように日時の記録が残る形で連絡することを必須とする。連絡できないような特別な事情があったとあとで判断された場合はその限りではない。これらの十分な対応がおこなわれていたと判断された場合には、事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。

教科書

社会疫学 上／リサ・F.バークマン,Berkman, Lisa F.,河内, 一郎,Glymour, M. Maria,高尾, 総司,藤原, 武男,近藤, 尚己,:大修館書店, 2017-09

社会疫学 下／リサ・F・バークマン, イチロー・カワチ, M・マリア・グリモール 編,高尾総司, 藤原武男, 近藤尚己 監訳,Berkman, Lisa F,Kawachi, Ichirō,Glymour, M. Maria,高尾, 総司,藤原, 武男,近藤, 尚己,:大修館書店, 2017

他科目との関連

公衆衛生学は典型的な社会医学であるから、基礎医学、臨床医学の各科目と深く関係する。系別講義「行動科学」、「衛生学」、「医動物学」、「法医学」とは特に密接に関連する。

備考

実習手順、参考資料等、教材はすべて著作物であり、著作権の関係上、外部に流出することのないように十分気を付けること。

連絡先(メールアドレス)

藤原 武男:fujiwara.hlth@tmd.ac.jp

森田 彩子:morita.hlth@tmd.ac.jp

谷 友香子:fujiwara.hlth@tmd.ac.jp

西村 久明:nishimura.hlth@tmd.ac.jp

那波 伸敏:nawa.ioe@tmd.ac.jp

土井 理美:doi.hlth@tmd.ac.jp

山岡 祐衣:yamaoka.hlth@tmd.ac.jp

オフィスアワー

谷 友香子:オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること。

山岡 祐衣:平日9～17 時、MD タワー16 階 S1665

時間割番号	011080			
科目名	医歯学基盤教育(生命倫理Ⅱ)		**科目ID**	
担当教員	吉田　雅幸, 江花　有亮, 小池　竜司, 片野　尚子[YOSHIDA Masayuki, EBANA Yusuke, KOIKE Ryuji, KATANO Hisako]			
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	4	
実務経験のある教員による授業	該当する			

授業の目的、概要等

なぜ人は後で倫理的問題になるとは気付かずに、行動をおこなってしまうのか、あるいはするべき事に気付かず(あるいは気付いても)おこなわないままにしてしまうのか。

医学生、歯学生、医師、歯科医師をはじめとした医療者には、医療を担うにふさわしい倫理感覚を持つことが期待される。医療現場では、倫理的問題に対して組織的に対処するシステムがある程度構築されており、個人の資質による倫理的問題が生じる余地は減っている。しかし、わが国の医療関連法は基本的には性善説で成り立っており、個人の資質による倫理的問題が生じる余地は大きく残されている。また、システム自体が暴走した場合には、最後の砦になるのは個人の倫理感覚のみである。したがって、生命倫理においてはシステムについて学ぶだけでなく、これまでに培った自らの個別的倫理感覚をシステムとの関係の中で、どのように生かすのか、あるいは抑えるのかを考察・構築する必要がある。

第2学年においては、医療者としての視点および倫理観について導入と総論的事項について学習する。第3学年および第4学年において、医療および研究における具体的事例とともにその倫理的問題点とシステム的対応について学習し、医療チームの一員たるプロフェッショナルとして持つべき視点とそれにふさわしい倫理的思考を構築する。

授業の到達目標

医学生、歯学生、医師あるいは歯科医師として求められる実践的倫理判断の養成を図る。これまでに培った個別的文献型倫理学から発展させ、医療チームの一員たるプロフェッショナルとして持つべき視点を構築する。すなわち、将来実際に経験することになる医療や研究の現場の具体的事例について、単に批評するだけでは済まされず、実際に判断し、指示を出し、さらにその責任を取らなければならない立場にある医師および歯科医師の持つべき倫理的思考過程について学習し、応用し自ら考えることでそれを構築・実践する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/3	10:00-10:50	遠隔授業(同期型)	生命倫理Ⅱ－1	研究倫理「臨床治験と倫理的問題」	小池　竜司, 江花　有亮	③研究倫理　配布資料を参照のこと
2	4/3	11:00-11:50	遠隔授業(同期型)	生命倫理Ⅱ－2	研究倫理「ゲノム研究に関する倫理的問題」	江花　有亮	③研究倫理　配布資料を参照のこと
3	4/10	10:00-10:50	遠隔授業(同期型)	生命倫理Ⅱ－3	研究倫理「再生医療と倫理的問題」	片野　尚子, 江花　有亮	③研究倫理　配布資料を参照のこと
4	4/10	11:00-11:50	遠隔授業(同期型)	生命倫理Ⅱ－4	研究倫理「研究不正」	江花　有亮	③研究倫理　配布資料を参照のこと
5	5/8	09:00-09:50	医学科講義室1	評価	到達度評価・乙	江花　有亮	③研究倫理　配布資料を参照のこと
6	5/8	10:00-10:50	医学科講義室1	生命倫理Ⅱ－5	研究倫理演習	吉田　雅幸, 甲畑　宏子, 我有　茉希	③研究倫理　配布資料を参照のこと
7	5/8	11:00-11:50	特別講堂(D棟4階)	生命倫理Ⅱ－6	研究倫理演習	吉田　雅幸, 甲畑　宏子, 我有　茉希	③研究倫理　配布資料を参照のこと

授業方法

講義はZOOM配信、あるいは昨年度の講義内容をWebClassで配信する。内容について小レポートで確認する。

講義・グループワーク 自分が実際に考えることが重要であるため、グループワーク、討論、発表といった、単なる座学ではなく、参加型の講義形式も予定している。諸君の積極的な参加を期待している。

授業内容

詳細は別授業日程表のとおり

臨床の課題はより現実的に考えることが重要であるため、できる限り当該臨床科目の履修時期にあわせて講義予定を組んでいる。

担当講師は、医療のさまざまな領域で活動する専門医、専門職の講師をはじめとして、医療以外の分野で活動している実務者にもそれぞれの立場からみた医療や研究について、すなわち他職種や医療者以外の倫理観を含めて問題提起あるいは情報提供を得て、医療者・研究者の倫理について実践的な講義を展開する。

成績評価の方法

講義への出席を単位取得の必要条件とし、第3学年前期と第4学年前期の2回実施する到達度評価甲・乙(70%)、適宜実施する小テストおよび小レポート、プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加、素行等(30%)をもとにあわせて総合的に評価する。

成績評価の基準

第3学年前期と第4学年前期の2回実施する到達度評価甲・乙の点数、適宜実施する小テストおよび小レポートの点数(医師および歯科医師の持つべき視点と倫理的思考過程について習得し、応用し自ら考えることができているかどうか)、プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加の教員評価(積極的に参加しているか、適切な関与をおこなっているか)等を合計し、60点未満を不合格とする。尚、反プロフェッショナル行為(不正なコピペ、試験の不正、出席の不正)がみられた場合は成績に関わらず不合格とする。

準備学習等についての具体的な指示

あらかじめ講義のトピックスについて少しインターネット等で調べて、そのトピックスに関連する倫理的問題に対して自分なりの見解をもって講義に臨むことが好ましい。

試験の受験資格

講義への出席が、講義時間数の 3 分の 2 以上であること。各回の講義についての出席の要件は、小レポートを通して確認する。

教科書

教科書は使用せず、レジュメ・資料等をそのつど配布する。

参考書

The Oxford textbook of clinical research ethics／edited by Ezekiel J. Emanuel ... [et al.],Emanuel, Ezekiel J.,:Oxford University Press, 2008

Principles and practice of clinical research／edited by John I. Gallin, Frederick P. Ognibene,Gallin, John I.,Ognibene, Frederick P.,:Elsevier/AP, 2012

履修上の注意事項

授業責任者からの連絡は、WebClass で行うので確認すること。 「到達度評価甲」「到達度評価乙」の回では、到達度を測る。 定期試験は実施しないが、進級のためには全授業回数(2限連続は2回)の2／3以上の出席が必要。 医師、歯科医師といった医療者に期待される倫理観を培うために、それぞれの講義時に自ら系統的に考えることが最も重要である。各回の講義について遅刻、早退は系統的に問題に対処する趣旨に反するため、原則的に認めない。また、出席等の手続きについての不正に対しては、医療者に期待される倫理観から著しく外れることから、厳正に対処する。

備考

〇問い合わせ先(講義担当教員)

(教員名) (診療科・分野)

江花有亮 生命倫理研究センター ebnysk.bec@tmd.ac.jp

【コース評価アンケートに基づく改善計画ならびに変更項目】

昨年度の評価を受けて、到達度評価で使用する問題を単に知識の有無を問うものではなく、より本質的なものを中心とする。

連絡先(メールアドレス)

吉田 雅幸: masa.vasc@tmd.ac.jp

小池 竜司:koike.rheu@tmd.ac.jp

江花 有亮:admbec@tmd.ac.jp

オフィスアワー

吉田　雅幸: オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること。
小池　竜司:授業内容の問い合わせに関しては、電子メールで連絡を取ることにより、適宜これに対応する。

江花　有亮:オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡してから訪問すること

時間割番号	011081			
科目名	医歯学基盤教育(臨床統計 Ⅲ)		**科目 ID**	
担当教員	小池 竜司, 能登 洋, 佐藤 宏征, 須藤 毅顕, 中林 潤, 相田 潤[KOIKE Ryuji, NOTO Hiroshi, SATO Hiroyuki, SUDO Takeaki, NAKABAYASHI Jun, AIDA Jun]			
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	4	
実務経験のある教員による授業	該当する			

主な講義場所

オンラインによる遠隔授業

授業の目的、概要等

臨床統計 Ⅰ･Ⅱ で学習した統計学の臨床的意義と応用法をもとに実臨床･臨床研究につながる発展学習を行う.具体的には, 実データを解析して統計学的･臨床的解釈をする演習を行う.

臨床統計 Ⅲ 終了時までに,実験デザインの基礎を学び,プドジェクトセメスターで臨床研究を行う際の研究基盤をつくる.

授業の到達目標

1) 臨床的データを適切に解析･活用できる実践技能を習得する.

2) 具体的な臨床研究の作り方の理解ができる.

3) 数理･データサイエンス･AI教育の応用基礎レベルの習得をする.

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル

[I-2-B]世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる

[I-3-B]科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる

[II-3-B]臨床的あるいは科学的問題提起ができる

[III-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる

[III-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる

[III-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる

[III-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる

[III-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる

[III-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる

[III-18-A]他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる

[III-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる

[III-26-A]自身の知識･能力･振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる

[III-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる

[III-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる

[III-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習･自己研鑽できる

[IV-4-C]多学科チームでの学習の場で、敬意を払って会話し、チームに貢献し学習できる

[VI-1-B]情報技術を利用し、関連する情報源/エビデンスを発見できる

[VI-2-B]臨床上の問題を明確化できる

[VI-3-B]研究デザインや統計的手法についての知識を提示できる

[VI-4-B]医学的介入(予防/治療)に関するエビデンス吟味に用いられる用語(NNT, NNH など)を説明できる

[VI-5-C]入手したエビデンスのレベルを正確に説明できる

[VI-6-B]診療ガイドラインにアクセスし、仮想症例の検討に活用できる

[VI-7-B]診断に関するエビデンス吟味に用いられる用語(感度、特異度、尤度比など)を説明できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標･学習方法･その他
1	4/10	09:00-09:50	遠隔授業	臨床統計Ⅲ－1	臨床研究の計画	能登 洋	【到達目標】1)、2)

			(同期型)				【学習方法】講義聴講 【その他】授業中にZoom投票機能を利用してクイズに答える。また、授業終了時にWebClassにて小テストに解答する。
2-4	4/17	09:00-12:00	遠隔授業(同期型)	臨床統計Ⅲ－2･3･4	データ解析･解釈演習1･2･3	中林 潤, 相田 潤, 佐藤宏征, 須藤毅顕, 能登洋, 田畑寛治	【到達目標】1)、2)、3) 【学習方法】講義聴講、実習 【その他】実習中にZoomチャット機能で質疑応答に対応する。実習後も遠隔相談窓口を設ける。休憩は各自自由に取ること。
5-7	4/24	09:00-12:00	遠隔授業(同期型)	臨床統計Ⅲ－5･6･7	データ解析･解釈演習4･5･6	中林 潤, 相田 潤, 佐藤宏征, 須藤毅顕, 能登洋, 田畑寛治	【到達目標】1)、2)、3) 【学習方法】講義聴講、実習 【その他】実習中にZoomチャット機能で質疑応答に対応する。実習後も遠隔相談窓口を設ける。休憩は各自自由に取ること。
8-10	5/1	09:00-12:00	遠隔授業(同期型)	臨床統計Ⅲ－8･9･10	データ解析･解釈演習7･8･9	中林 潤, 相田 潤, 佐藤宏征, 須藤毅顕, 能登洋, 田畑寛治	【到達目標】1)、2)、3) 【学習方法】講義聴講、実習 【その他】実習中にZoomチャット機能で質疑応答に対応する。実習後も遠隔相談窓口を設ける。休憩は各自自由に取ること。

授業方法

医歯学融合の講義･演習による .

Zoom を使用したオンラインによる遠隔講義(同期型)を行い, 視聴確認(アクセス記録の有無で判定)とともに演習課題レポート提出によって出席と見なす.レポート提出期限は各授業や Webclass にて通達する.

いずれの講義も授業後に録画を再視聴できる.

授業中にクイズやアンケートを Zoom の投票機能を利用して行う.

授業中の質疑応答は Zoom チャット機能を利用する. 授業後の質疑応答はメールを利用したり Zoom による相談窓口を設置したりして行う.

Webclass にはオンラインリアクションペーパーとして講義の小テストの解答や感想・質問・コメント等を記入するページを用意する. 質問は匿名で扱い, 次回授業や Webclass にて回答する. 授業内容以外のことを記載してもよく, 有効活用して欲しい.

授業内容

臨床研究法について

オープンデータを利用したデータ管理・データ処理・データ加工・モデリングと評価・統計学的および臨床的解釈の仕方(TBL)

希望者を対象に, 少人数ゼミも授業時間の一部を利用して開催する. AI・機械学習・多変量解析応用・論文の読み方書き方の注意点などの hands-on 学習とディスカッションを行う.

成績評価の方法

科目責任者がレポートを主として評価する(約 90%). 小テスト回答や積極性についても勘案する(約 10%).

成績評価の基準

統計学的解析・解釈のみならず, 臨床的解釈・評価についても判定する. 具体的には授業中に説明する.

上記の応用演習・レポートによる得点および小テスト回答や積極性による得点を合計し, 100 点満点に換算して 60 点以上の場合に合格とする.

60 点以上の得点をそのまま当科目の最終評価点とする.

レポート内容については電子的ツールでも分析し, 剽窃が判明した場合は減点対象とする.

成績評価・追試・再試については, 上記成績評価(計 100%)に基づき, 原則として東京科学大学試験規則に従う.

準備学習等についての具体的な指示

教科書および Web Class 上にアップロードされる資料等を活用して予習・復習に役立てること.

生協での教科書販売については生協に直接問い合わせること. 教科書は授業前に購入しておくことが望ましい.

試験の受験資格

臨床統計 I・II 単位取得済みであること.(履修上の注意事項参照)

本学規定のとおり,ブロック全体で 2/3 以上の出席とレポートでの合格評価を履修要件とする.出席数の計算に関しては,視聴履歴(アクセス記録の有無で判定)と小テスト回答数を確認し,従来と同じ規定に基づいて出欠席を判定する.4/17,4/24,5/1 の実習では, 視聴履歴があればそれぞれ 3 コマ全出席とし, なければ 3 コマ欠席とする.

特別に勘案すべき事情により指示が達成できない場合や授業に出席できない場合には, その事情とともに締め切り期日前, ならびに授業の始まる前までに科目責任者または教務係にメールなどで日時の記録が残る形で連絡すること. 緊急の場合は電話でもよいが, その後メール連絡すること. 連絡ができないような特別な事情があったと後で判断された場合はその限りでない. これらの十分な対応が行われていたと判断された場合には, 事情に応じてレポートなどでの対応を行う.

教科書

スッキリわかる!臨床統計はじめの一歩 : 統計のイロハからエビデンスの読み解き方・活かし方まで／能登, 洋,能登洋 著:羊土社, 2018.5

参考書

みんなの医療統計 : 12 日間で基礎理論と EZR を完全マスター!／新谷, 歩,新谷歩著:講談社, 2016.3-2017.5

みんなの医療統計 多変量解析編 : 10 日間で基礎理論と EZR を完全マスター!／新谷, 歩,新谷歩著:講談社, 2017

日常診療にすぐに使える臨床統計学 : ベストな診断と治療ができる!／能登, 洋,能登洋 著:羊土社, 2011.7

他科目との関連

グローバルコミュニケーション・生命倫理と相互関連した講義内容である。

履修上の注意事項

・予習課題について事前連絡することがあるため, Web Class を受講前に確認すること ・遠隔授業法が変更になることがあるため, Web Class を受講前に確認すること ・進級条件は原則として東京科学大学試験規則に従う. ・各講義の遅刻・早退は原則的に認めない.また, 出席手続きやレポート内容などの不正に対しては厳正に対処する. ・講義動画. 講義資料・参考資料などは著作権の問題があるため, 受講登録者以外に公開することを禁ずる.

備考

昨年からの改善点:データを一新する. 発展コースを自由参加にする.

連絡先(メールアドレス)

能登 洋: hpnnytx@icloud.com

連絡先(メールアドレス)

小池 竜司:koike.rheu@tmd.ac.jp

中林　潤:nakab.las@tmd.ac.jp

相田　潤:aida.ohp@tmd.ac.jp

佐藤　宏征:h-sato.crc@tmd.ac.jp

須藤　毅顕:t-sudo.ioe@tmd.ac.jp

能登　洋:hironoto@luke.ac.jp

オフィスアワー

小池　竜司:授業内容の問い合わせに関しては、電子メールで連絡を取ることにより、適宜これに対応する。

中林　潤:月曜～金曜

A.M.10:00 – P.M. 05:00

国府台キャンパス 4 階　教官研究室―9

相田　潤:歯科公衆衛生学分野　教授　相田潤

aida.ohp@tmd.ac.jp

毎週火曜日　PM.4:30-5:30　歯科棟北　10 階　歯科公衆衛生学分野

須藤　毅顕:毎週火曜日 AM.11:00-PM.5:00 湯島キャンパス 1 号館東 3 階　教育メディア開発学分野研究室

時間割番号	011105			
科目名	包括医療統合教育①		**科目 ID**	
担当教員	山脇　正永[YAMAWAKI Masanaga]			
開講時期	2025 年度通年	**対象年次**	5	
実務経験のある教員による授業	該当する			

主な講義場所

すべて対面講義とする。医学科講義室、アクティブラーニング教室または医学科実習室が中心だが、受講場所および、時間等は変更となる可能性もあるので、最新の時間割表を確認すること。

授業の目的、概要等

医学部の最終学年となる前の時間的余裕のある時期に、卒業後の医師・医学者のキャリアについて、様々な先輩たちの体験談等をもとに自身のオリエンテーションをつけることを目的とする。将来において自身が希望しているキャリアのみならず、様々なキャリア選択について視野を広げるとともに、キャリア実現に向けての課題、バリア等についても考察する。本授業のトピックとして、諸君が将来遭遇するであろう様々なライフイベントについても取り上げる。自らの将来を考察し自分自身と向き合う機会として本授業を活用していただきたい。

授業の到達目標

1. 医師のキャリア形成の概要について理解し、考察できる。
2. 臨床研修制度、専門研修制度について概説できる。
3. 大学院・留学・医局制度など自らのキャリア形成に寄与する情報を得て、考察する。
4. 今後求められる医療について認識し、体得すべき医師の思考や技術等について考察できる。
5. 海外での臨床医、臨床医以外の生き方など多様なキャリアを知り考察することができる。
6. 自らの姿を客観的に理解し、将来のキャリア目標を考察することができる。
7. 将来のライフイベントを認識し、それらに対して準備や心構えができる。
8. 医師が知っておくべき、基本的なお金のリテラシーを学ぶ。

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html
LL-01-01)01,02
LL-01-02)01

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[Ⅲ-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[Ⅲ-2-B]専門職にある者として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動を説明できる
[Ⅲ-3-B]専門職務非遂行時においても専門職種にふさわしい振舞いを説明できる
[Ⅲ-4-B]患者の、文化、人種、年齢、社会経済的状況、性別、性嗜好、信仰、障害、その他の多様性に配慮した対応が行える
[Ⅲ-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[Ⅲ-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
[Ⅲ-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[Ⅲ-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[Ⅲ-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[Ⅲ-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[Ⅲ-18-A]他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[Ⅲ-20-A]他人による職務上の不正を認識し、省察やメンターや指導・監督者からの助言を得て倫理的に適切な対応を計画し、説明・遂行できる
[Ⅲ-21-B]守秘義務と患者プライバシーに関して説明できる
[Ⅲ-22-C]インフォームドコンセントの重要性およびその過程を説明できる
[Ⅲ-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[Ⅲ-24-B]利益相反および回避するための行動を説明できる
[Ⅲ-25-B]企業との関係における倫理的な側面につき説明できる

[Ⅲ-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[Ⅲ-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[Ⅲ-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[Ⅲ-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[V-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[V-5-A]社会医学の知識を、医療・保健活動に応用できる
VI-4-A]適切な用語を用いて、医学的介入の利点と欠点を説明できる
VII-5-A]医療体制の主な構成要素の役割・意義を理解・考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる
[VII-6-A]医療保険、コスト、医療の質、そして医療アクセスを考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	5/20	16:00-17:00	医学科講義室1	キャリア形成の考え方1（総論・初期研修総論）	山脇正永先生総論、初期研修を振り返って;臨床医学教育開発学吉田尚子先生　質疑応答	山脇　正永, 吉田　尚子	1.2.4.6.対面講義
2	6/17	16:00-17:00	医学科講義室1	キャリア形成の考え方2（専門研修制度について）	専門研修制度の概要と専門研修を終了した先輩からの話	岡田　英理子	1.2.4.6.対面講義
3	7/15	16:00-17:00	大学院特別講義室	キャリア形成の考え方3（医局とは何か/大学院・留学）	医局制度についての解説と、医師のキャリア形成について医局運営の経験のある先生から、具体的な事例なども交えながら学ぶ	岡田　英理子, 根本　泰宏	1.2.3.4.対面講義
4	9/16	16:00-17:00	医学科講義室1	キャリア形成の考え方4（基礎研究 Clinical Scientist について）	理化学研究所研究員の山下基先生から Clinician Scientist としての魅力を学ぶ	鹿島田　彩子, 山下　基	1.4.5 対面講義
5	10/21	16:00-17:00	共用講義室1	キャリア形成の考え方5（臨床医以外の生き方）	厚生労働省医系技官　佐野隆一郎先生から、政策から医療を支える魅力について学ぶ	佐野　隆一郎	1.3.4.5 対面講義
6	12/16	16:00-17:00	共用講義室1	キャリア形成の考え方6（海外で臨床をする）	海外での臨床キャリア University of Hawaii 現役 Resident 中田徹先生から USA でのキャリアについて学ぶ	岡田　英理子, 中田　徹	1.3.4.5 対面講義
7	1/20	16:00-17:00	医学科講義室1	キャリア形成の考え方7（全学生に向けたライフイベントと医師の仕事）	ライフイベントについて	鹿島田　彩子, 山口　洋平, 金森　眸	1.3.6.7 講義プラス小グループ討論
8	2/17	16:00-17:00	医学科講義室1	キャリア形成の考え方8（ライフプラン FP・総括）	FP　小川浩子先生、山脇正永	山脇　正永, 小川　浩子	1.6.7.8 講義プラス小グループ討論

授業方法

講義室での対面講義合計 8 回の講義と討論。Buzz セッションなどを用いたアクティブラーニング形式も取り入れる。
期間:2025 年 5 月 20 日(火)から各月第 3 週目の火曜日 16 時 00 分から 17 時 00 分、2026 年 2 月 17 日(火)までの予定。(8 月と 11 月は休講)
ただし、変更の可能性もあるので最新の講義予定を必ず確認すること。

授業内容

卒業後の医師人生をいくつかのステージ、場面に分けて講義をおこなう。
1)キャリア選択の考え方:キャリア形成の基本的な考え方を学ぶ
2)卒後 5 年:臨床研修、専門研修プログラム制度の仕組みや大学病院・一般病院の具体例について先輩医師から得る。
3)卒後 10 年:キャリア支援組織としての大学医局について、専門研修後のキャリアを本学教員より実際の事例や留学なども交えながら学

ぶ。
4)海外で臨床医を行う先輩医師の姿を知る。
5)大学院から基礎研究領域での研究者を目指す Clinician Scientist/Scientific Clinician としての姿を知る。
6)厚生労働省で社会の基盤を作る:少子高齢化と AI の進歩や高度な情報化社会による医療制度の変化などの具体例を知り、医師として社会基盤を作る臨床医以外の生き方についても学ぶ。
7)ライフイベント:出産・子育て・介護など男女とも直面する重大な影響を与えるライフイベントについて、環境を知り、経験談などを元に考察し解決方法を考えていく。
8)資産形成:仕事を開始するにあたり、医師人生に詳しいファイナンシャルプランナーから、お金の基本的リテラシーを学ぶ。

成績評価の方法

包括医療統合教育①にて3分の2以上の出席(8 回中 6 回)が必要。
また、包括医療統合教育①および②をあわせて3分の2以上の出席が必須。

提出課題:"自分のキャリアに関する、今後 10 年間の目標とそれを達成するための方法について"を最終日に課す。提出されたレポートを評価する。
例)レポートでは今後1年間、その後 2 年間、その後の 7 年など、ステージ毎に目標を記し、その達成方法について述べること。
字数制限は 600 字以上 1000 字以内。

締め切りを過ぎたものは追加のレポートを課す。別課題で3000字の追加レポートを提出しないものは留年になることがあるので注意すること。
包括医療統合教育全体の成績は、次年度受講する包括医療統合教育②と合わせて評価する。

成績評価の基準

評価の大部分は課題提出で行う。
レポートでは基準以上記載されていれば B 以上とする。
期日までに課題を提出する自己管理能力が求められる。

準備学習等についての具体的な指示

講義の前には授業内容を確認すること。
将来の自らのキャリアについて、具体的に考え講義に臨むことが望ましい。

試験の受験資格

8 回中 6 回の講義に出席することが求められる。
講義の際の小テストで出席を確認する。
臨床実習の関係で参加できない場合は個別に対応するので、事前にその旨申し出、欠席届を医学教務グループに提出すること。

参考書

選択の科学 : コロンビア大学ビジネススクール特別講義／Iyengar, Sheena,櫻井, 祐子, 1965-,シーナ・アイエンガー 著,櫻井祐子 訳:文藝春秋, 2010.11
君たちに伝えたい 3 つのこと : 仕事と人生について科学者からのメッセージ／中山, 敬一, 1961-,中山敬一 著:ダイヤモンド社, 2010.7
デュアルキャリア・カップル : 仕事と人生の 3 つの転換期を対話で乗り越える／Petriglieri, Jennifer,高山, 真由美,ジェニファー・ペトリリエリ著,高山真由美 訳:英治出版, 2022.3
キャリア・アンカー : 自分のほんとうの価値を発見しよう／Schein, Edgar H,金井, 寿宏, 1954-,エドガー・H.シャイン 著,金井壽宏 訳:白桃書房, 2003.6
難しいことはわかりませんが、お金の増やし方を教えてください!／山崎, 元, 1958-,大橋, 弘祐,山崎元, 大橋弘祐 著:文響社, 2023.12

備考

講義では海外で臨床を行う医師、男性育休取得に関する男性医師からの講演は高評価であり、2025 年度も継続する。

連絡先(メールアドレス)

山脇 正永:myamawaki.merd@tmd.ac.jp

オフィスアワー

山脇 正永:毎週金曜日 12 時～13 時、その他でも随時受け付けます。事前にメールで連絡してください。

時間割番号	011106			
科目名	包括医療統合教育②		**科目 ID**	
担当教員	山脇　正永[YAMAWAKI Masanaga]			
開講時期	2025 年度前期	**対象年次**	6	
実務経験のある教員による授業	該当する			

主な講義場所

Zoom での遠隔講義および対面での講義・実習とする。
最新情報は WebClass を確認すること。

授業の目的、概要等

わが国の高齢化に伴う疾病構造、医療構造の変化の中で、現代の医療・歯科医療は、様々な専門職種が連携したチームで実施されている。本授業は本学の医学部及び歯学部の学生が参加する多職種連携教育(Inter-Professional Education: IPE)として実施する。医療・歯科医療において協働する保健・医療・福祉の専門職とその役割を相互に理解するとともに、共通する職業倫理や仕事に対する姿勢、多職種連携の重要性を学び、多職種連携の将来像を考察できることを目的とする。また、演習を通して医療者のプロフェッショナリズムについて考察しその自覚を持つことも期待される。

口腔医療、全身医療は飛躍的に進歩し複雑化しており、一方で高齢化に伴う口腔・歯科領域も含む多疾患併存(multimorbidity)や複雑な社会的背景(社会的フレイル等)を抱える患者の医療には、医療者、歯科医療者をはじめとする多職種間で協同する包括的医療が必要とされる。この観点から、本学では医療系総合大学の特性を生かし、学科横断的、講座横断的、及び学年縦断的な医歯学融合教育の礎を作る以下の 7 つの目的を掲げる。

授業の到達目標

① 診療において、他の専門職、患者および患者家族に配慮し良好な関係を築くとともに、専門職種にふさわしい振る舞いができる。
② 基礎医学の知識をもとに疾患の病因・病態・臨床徴候などを十分理解し、臨床医学の知識をもとに頻度の高い疾患や重篤な病態などに対する評価・診断および治療計画の立案を適切に行える。
③ 全身疾患と口腔疾患の関連を考慮した診断および治療計画の立案ができる。
④ 高齢者包括的評価をおこなうことができる。
⑤ 医療を取り巻く制度、資源や社会における医療福祉制度を理解する。
⑥ 医学の様々な分野でフロンティアを切り開く創造能力を養う。
⑦ メンタルストレスに直面した際の適切な自己管理、通常時の自己研鑽、自己学習ができる

文部科学省 HP　医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html
LL-01-01)01,02
LL-01-02)01

医学科コンピテンシーよりこの科目で身につけるレベル
[Ⅲ-1-A]他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
[Ⅲ-2-B]専門職にある者として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動を説明できる
[Ⅲ-3-B]専門職務非遂行時においても専門職種にふさわしい振舞いを説明できる
[Ⅲ-4-B]患者の、文化、人種、年齢、社会経済的状況、性別、性嗜好、信仰、障害、その他の多様性に配慮した対応が行える
[Ⅲ-9-A]個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
[Ⅲ-10-A]自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
[Ⅲ-12-A]メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる
[Ⅲ-14-A]時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
[Ⅲ-15-A]文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
[Ⅲ-16-A]本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
[Ⅲ-18-A]他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
[Ⅲ-20-A]他人による職務上の不正を認識し、省察やメンターや指導・監督者からの助言を得て倫理的に適切な対応を計画し、説明・遂行

できる
[Ⅲ-21-B]守秘義務と患者プライバシーに関して説明できる
[Ⅲ-22-C]インフォームドコンセントの重要性およびその過程を説明できる
[Ⅲ-23-A]記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
[Ⅲ-24-B]利益相反および回避するための行動を説明できる
[Ⅲ-25-B]企業との関係における倫理的な側面につき説明できる
[Ⅲ-26-A]自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
[Ⅲ-27-A]自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
[Ⅲ-28-A]他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
[Ⅲ-29-A]ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
[Ⅳ-1-B]書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる
[Ⅳ-4-B]多学科チームのすべてのメンバーと、敬意を払って効果的な議論ができる
[Ⅴ-1-A]基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる
[Ⅴ-2-A]頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後の知識を診療に応用できる
[Ⅴ-3-A]様々な症候／問題の原因評価において、適切な評価法を選定し、所見を適切に解釈できる
[Ⅴ-4-A]様々な疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を診療に応用できる
[Ⅴ-5-A]社会医学の知識を、医療・保健活動に応用できる
[Ⅴ-7-A]頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を診療に応用できる
[Ⅴ-8-A]住民の健康状態を把握し、その向上及び増進のために必要な医療および保健指導を説明できる
[Ⅴ-9-A]歯科医学的側面を考慮した診療ができる
[Ⅴ-10-A]全身疾患と口腔疾患の関連を考慮した診療ができる
[Ⅵ-4-A]適切な用語を用いて、医学的介入の利点と欠点を説明できる
[Ⅵ-5-A]監督・指導のもとで、臨床判断に際し、関連するエビデンスの質を判断し、個々の患者への適用可能性を判断できる
[Ⅵ-6-A]診療ガイドラインにアクセスし、診療に活用できる
[Ⅵ-7-A]適切な用語を用いて、患者の疾患可能性にもとづく診断的検査の意義を検討できる
[Ⅵ-8-B]仮想症例の診断的評価に際し、臨床推論を行い、得られた情報から適切で漏れのない鑑別疾患を挙げられ、適切な診断的検査法を選定でき、適切に検査所見を解釈でき、適切な臨床診断に到達することができる
[Ⅵ-12-A]高齢者の機能的評価を行える
[Ⅵ-15-A]診察において異常所見を認識・説明・記録でき、必要な病歴・診察を追加し、適切な鑑別疾患を列挙することができる
[Ⅵ-17-A]初診時診療録/入院時要約/週間要約/退院時要約を、適切なフォーマットに沿って、適切なプロブレムリスト構築のもと、臨床推論を SOAP 形式で反映させ、正確に記載できる
[Ⅵ-18-A]日々の診療録を、適切なフォーマットに沿って、日々の変化、適切な優先順位に配列したプロブレムリスト、そして臨床推論を SOAP 形式で反映させ、正確に記載できる
[Ⅵ-19-A]再来受診の際の診療録を、適切なフォーマットに沿って、前回受診時からの変化、適切な優先順位に配列したプロブレムリスト、そして臨床推論を SOAP 形式で反映させ、正確に簡潔に記載できる
[Ⅵ-23-A]診療の引き継ぎに際して、情報を効果的に伝えることができる
[Ⅵ-27-A]医療機関における医療安全管理体制の在り方を説明できる
[Ⅶ-2-B]多学科チームでの仮想症例を通したチーム医療学習の場で、多職種よりなるチーム医療を成立させる医療・福祉システムを活用できる。
[Ⅶ-3-B]仮想症例検討において、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関を活用できる
[Ⅶ-4-A]様々な情報源(かかりつけ医、家族、地域の福祉職員や、入院および外来診療録など)から関連する情報を効果的に取得し、診療に活用することができる
[Ⅶ-5-A]医療体制の主な構成要素の役割・意義を理解・考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる
[Ⅶ-6-A]医療保険、コスト、医療の質、そして医療アクセスを考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	6/23	09:00-10:20	遠隔授業	高齢者包括評価	金子　英司	④動画とクイズ

			（非同期型）			
2	6/23	10:30-11:50	遠隔授業（同期型）	メンタルヘルスを保つために	安藤 久美子	①②③⑤講義とクイズ
3	6/23	12:50-14:10	アクティブラーニング教室	B 型肝炎-感染被害拡大と再発防止について考える-（患者講演あり）	中川 美奈, 山口 久美子	①⑤講演、グループ討論
4	6/23	14:20-15:40	アクティブラーニング教室	チーム医療入門 事前討論	中川 美奈, 金子 英司, 山口 久美子	②③⑤グループ討論
5	6/24	09:00-16:00	遠隔授業（同期型）	チーム医療入門 ワークショップ	赤石 雄, 岡田 英理子, 鹿島田 彩子, 金子 英司, 中川 美奈, 沼沢 益行, 山口 久美子, 山脇 正永, 若林 健二	①②③④⑤グループ討論
6	6/25	09:00-16:30	遠隔授業（同期型）	チーム医療入門 ワークショップ	山脇 正永, 金子 英司, 中川 美奈, 山口 久美子, 岡田 英理子, 鹿島田 彩子, 沼沢 益行, 赤石 雄, 吉田 尚子, 若林 健二	①②③④⑤グループ討論
7	6/26	09:00-10:20	アクティブラーニング教室	チームで臨床試験を計画しよう	長堀 正和	⑤⑥グループ討論
8	6/26	10:30-11:50	アクティブラーニング教室	チームで臨床試験を計画しよう	長堀 正和	⑤⑥グループ討論
9	6/26	12:50-14:10	アクティブラーニング教室	臨床法医学1 損傷の見方	鵜沼 香奈	⑤講義、クイズ
10	6/26	14:20-15:40	アクティブラーニング教室	臨床法医学2 異状死体の取扱い 死体検案書の書き方	鵜沼 香奈	⑤講義、クイズ
11	6/27	09:00-10:20	アクティブラーニング教室	regulatory science1	GEARY ED WARD STEWART	⑥講義、途中クイズに答える
12	6/27	10:30-11:50	アクティブラーニング教室	regulatory science2	GEARY ED WARD STEWART	⑥講義、途中クイズに答える
13-14	6/27	12:50-15:40	5 階学生実習室, 6	医歯学連携実習	鶴田 潤, 中川 美奈	①②③グループ内で発表・討論を

			階学生実習室			行う	
15	6/30	12:50-14:10	アクティブラーニング教室	医療保険	藍 真澄		
16	6/30	14:20-15:40	アクティブラーニング教室	プライマリ・ケア	和田 忠志		

授業方法

Zoom による同期型/非同期型授業、対面での講義・グループワーク・実習とする。
講義・グループ討論・自己学習とプレゼンテーションほか授業によってさまざまな方法を用いる。

成績評価の方法

包括医療統合教育①および②をあわせて3分の2以上の出席が必須。

1)講義終了後の課題(50%、時間数に応じて配分)
2)チーム医療入門終了後の課題(10%)
3)チーム医療入門グループ課題(5%)
4)チーム医療入門のチューターからの評価(5%)
5)医歯学連携実習の事前及び終了後課題(5%)
6)B 型肝炎 ー感染被害拡大と再発防止について考えるー(患者講演あり)の課題(5%)

包括医療統合教育の成績としては、前年度提出したキャリア形成のレポート提出課題の成績(20%)と合わせて評価する。ただし()内の%は最終成績における%を示す。

成績評価の基準

提出された課題を採点し、チューターからの評価と合わせ、60%を超えれば B 以上の評価とし、評価は点数に応じて行う。
キャリア形成のレポートが未提出の場合は他の点数で 60%を超えていても不合格とする。
期日までに課題を提出する、自己管理能力が求められる。

準備学習等についての具体的な指示

・講義・講演の前には授業内容を確認し、予習してくること。
・チーム医療入門の前には WebClass「チーム医療入門」に用意された要項およびシナリオに目を通し、必要に応じて参考資料、補助教材を用い予習をおこなうこと。
・医歯学連携実習は WebClass「医歯学連携実習」に用意された事前学習資料に目を通し、期日までに「医歯学連携実習」のコースにて事前課題を提出すること。

試験の受験資格

以下の1)2)3)を達成した学生について、提出課題の内容に応じて成績判定を行う。

1)2 日間のチーム医療入門に参加し、期日までに課題を提出する。
2)医歯学連携実習に参加し、期日までに課題を提出する。
3)「B 型肝炎 ー感染被害拡大と再発防止について考えるー(患者講演あり)」の講義に出席し、期日までに課題を提出する。

1)2)の出席確認はチューターが行う。長時間にわたりカメラオフミュートで応答がない場合は欠席とみなすことがある。
3)の出席は課題提出をもって確認する。
やむを得ず欠席する場合は、事前に教務グループにメールで連絡をすること。欠席した時限数に応じて追加の実習及び試験形式の課題を課す。

教科書

患者中心の医療の方法／Moira Stewart [ほか] 原著 ; 若手医師によるグローバルにプライマリ・ケアを考えるための翻訳研究会訳,Stewart, Moira,Brown, Judith Belle,Weston, W.Wayne,McWhinney, Ian R.,McWilliam, Carol L,Freeman, Thomas R.,葛西, 龍樹,若手医師によるグローバルにプライマリ・ケアを考えるための翻訳研究会,:羊土社, 2021

履修上の注意事項

グループワークにおける遅刻や中座はグループメンバーおよび本人の学習の大きな妨げとなるので、正当な理由のない遅刻や中座は欠席とみなす。

備考

5 年次および 6 年次に行われる本科目は、2 つをあわせて 1 つの科目として評価する。

2024 年度のチーム医療入門のアンケートで長時間の zoom 授業が負担になるという意見があったので、一部内容を非同期型とした。

参照ホームページ

- チーム医療. 全日本病院協会. chromextension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.ajha.or.jp/guide/pdf/080821.pdf
- 東京医科歯科大学版 口腔機能管理マニュアル. https://www.tmd.ac.jp/medhospital/topics/180905/index.html

研究実践プログラム

時間割番号	011095				
科目名	研究実践プログラムⅠ～Ⅴ				
担当教員					
開講時期	前期	対象年次	2～6	単位数	10
英文名：Research Training Program					

授業の目的、概要等

第 2 学年開始時に、講義形式の教室（研究室）紹介を行い、その後配属先を登録する。
配属先分野で、授業時間外を利用して研究を実践する。
定期的に開催されるリサーチミーティングに参加して、学生同士で議論する。

授業の到達目標

基礎医学分野のみならず、臨床医学分野に進んだ場合でも、医学者として研究を行う機会は多い。いわゆるトランスレーショナルリサーチを行うにも、強力な基礎研究力が必要である。そのためには、研究に興味がある学生は在学中から積極的に研究に触れることが大切である。本プログラムは医学科基礎系研究室、歯学系基礎研究室、生体材料工学研究所研究室、難治疾患研究所研究室が責任を持って学生を受け入れ、通常カリキュラムの時間外に実際の研究を指導する選択実習科目である。

成績評価の方法

「研究実践プログラム」を選択科目として履修したい場合は，５月上旬（５日間程度）
に設定された履修登録期間内に，医学教務係にて履修登録を行ってください。
「研究実践プログラム」は第2学年から第6学年まで履修することができますが，履修
登録は毎年度行う必要があります。前年度履修していても翌年度履修登録を行わなければ
辞退したものとみなします。
「研究実践プログラム」は毎年履修しても，一旦中断し，翌年度以降再度履修しても構
いません。単位認定は毎年度末に行います（1 年間の履修は 2 単位に相当）。

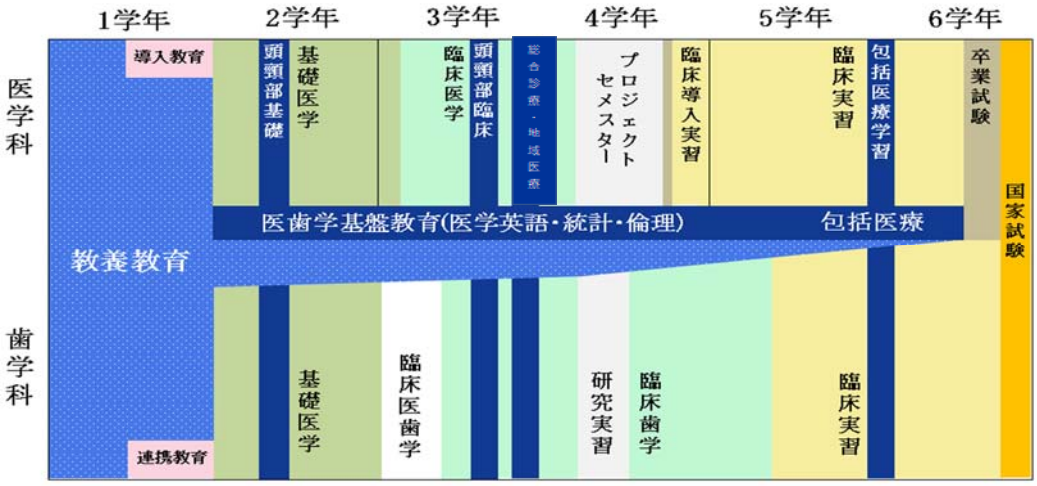
準備学習などについての具体的な指示

それぞれの指導教員の指示に従う。

【2022年度以前入学生のみ】

● **医歯学融合教育**

ますます進む高齢化や医療の進歩および複雑化により、これからの医療には多職種間で連携・協調のとれた包括的医療が必要とされます。そこで本学では、医学部と歯学部を併せ持つ医療系総合大学としての特色を活かし、複数学科の学生がともに共通目標に向かって学ぶ融合教育カリキュラムを開発しました。具体的には、複数学科、特に医学科と歯学科の学生が卒業時に獲得しておくべき知識・技能・態度のうち、共通するものであり共同で学ぶことにより学習効果が高まるもの、そして将来の連携・協調のもとの包括的医療提供のための基盤となるものを教育対象とし、以下のように 6 年間を通して様々な学習段階でともに教え合いながら学ぶ機会を創出しました。



● **医歯学基盤教育(2 年次～4 年次まで)**

医学歯学を学ぶ上で基盤となる「英語」「臨床統計」「生命倫理」に関し、2 年次から 4 年次にわたってともに学びます。従来「統計」「倫理」は医歯学専門教育の始まる前に行われていましたが、今回それらを関連する内容の専門教育と並行して配置し、そして内容をリンクさせることにより、学習効果を高める工夫を行いました。

● **頭頸部ブロック(2 年次:頭頸部基礎(7 月)　3 年次：頭頸部臨床(1 月))**

頭頸部領域は、医師・歯科医師ともに診療にかかわる領域であり、医歯学生の両者にとっても非常に重要な領域です。医科および歯科の教員がそれぞれの得意分野を生かし、両学科の学生に同一の教育を行い、両学科の学生のより充実した学習につなげます。

2 年次に行われる頭頸部基礎ブロックでは、頭頸部(頚から上の脳を除いた領域)に関する正常な構造・機能に関して、両学科の解剖学・生理学の教員が講義を行います。並行して 2 学科合同の実習を行い、知識の定着につなげます。

3 年次に行われる頭頸部臨床ブロックでは、主として眼科・耳鼻咽喉科・頭頸部外科・形成外科・口腔外科の臨床 5 科の教員が臨床講義を行います。講義の形態として、患者参加型講義や症例基盤型学習機会なども用意される予定です。頭頸部領域の疾患を理解するうえで必要となる歯科・脳神経外科の講義の一部や頭頸部領域の病理実習もこの期間に含まれます。

● **総合診療・地域医療（旧老年医学）ブロック(3 年次(2 月))**

高齢化が進む我が国の未来社会において、「高齢者」とその生理的変化、および、高齢者によくみられる病態を知ることは、医学科・歯学科両学生共に必須のこととなります。3 年次に 2 週間で行われる総合診療・地域医療（旧老年医学）ブロックでは、医学科・歯学科合同の講義・実習を通じて高齢者について学びます。

● **包括医療学習(6 年次)**

6 年次の最初に行わる包括医療学習では、専門知識・技能習得が進んだ医学部・歯学部の各学科最終学年の学生が一同に会し、各学科学生の混在する少人数グループ教育を行います。ここでは、症例シナリオをもとに、各学生がそれまでに学んだ知識・技能を振り返りながら統合・応用してグループとして共通の目標にむけて問題解決に取り組み、多職種間で連携・協調のとれた包括的医療を提供できる医療人となるための資質を養います。

【2022年度以前入学生のみ】

科目を履修して得られる能力
医学系コンピテンシーより

大領域	小領域	レベル	細目	レベル	細目	医歯学基盤教育			頭頸部・基礎	頭頸部・臨床	総合診療・地域医療
						生命倫理	臨床統計	グローバル・コミュニケーション			
国際人としての基盤	国際感覚/国際的視点	B	世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる			B	B	B	B	B	B
	国際言語（英語）の運用力	B	科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる			B	B	B	B	B	B
医学/科学の発展への貢献	科学的探求	A	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる						A	A	A
		C	基礎的および臨床的研究の倫理的事項を説明できる			C					
		B	臨床的あるいは科学的問題提起ができる			B	B	B	B	B	B
		B	実習実験を実施して結果を得ることができる						B		
		B	実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる						B		
プロフェッショナリズム	品位、礼儀	A	他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる			A	A	A	A	A	A
		C	専門職にある者としての立場を理解している								C
	自己管理	A	メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消を処置をとれる			A	A	A	A	A	A
	患者との関係、職務上の優先性	C	患者との関係（情報漏洩、親密性、金品授受など）において適切な距離を維持する必要性を説明できる					C			C
		A	個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる			A	A	A	A	A	A
		A	自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる						A		
	勤労習慣	A	時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる			A	A	A	A	A	A
		A	文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる			A	A	A	A	A	A
	法規、機関内規、専門職社会内規範	A	本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる			A	A	A	A	A	A
	倫理	A	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる	B	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動する必要性を理解している	B			A		A
		A	他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる			A	A	A	A	A	A
		A	患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる	B	守秘義務と患者プライバシーに関して説明できる	B		B			A
		C	インフォームドコンセントの重要性およびその過程を説明できる			C					
		A	記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる	B	著作権侵害にあたる行動を列挙できる	BA	A	A	A	A	A
		B	利益相反および回避するための行動を説明できる			B		B			
		B	企業との関係における倫理的な側面につき説明できる			B		B			
	振返りを通した自己研鑽/生涯学習	A	自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる			A	A	A	A	A	A
		A	自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる			A	A	A	A	A	A
		A	他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる			A	A	A	A	A	A
		A	ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる			A	A	A	A	A	A

【2022年度以前入学生のみ】

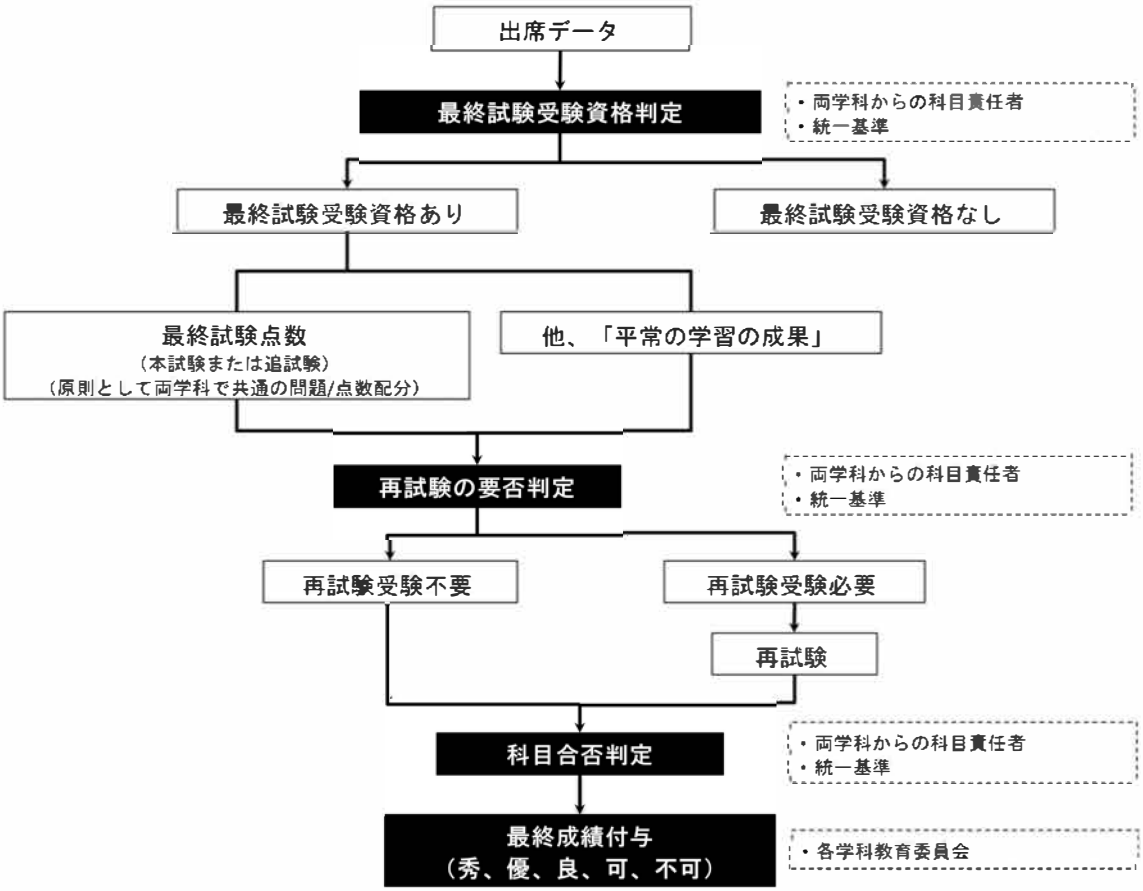
科目を履修して得られる能力
医学系コンピテンシーより

大領域	小領域	レベル	細目	レベル	細目	医歯学基盤教育 生命倫理	医歯学基盤教育 臨床統計	医歯学基盤教育 グローバル・コミュニケーション	頭頸部・基礎	頭頸部・臨床	総合診療・地域医療
コミュニケーション	医療チーム内/間コミュニケーション	B	書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる							B	B
		B	多学科チームのすべてのメンバーと、敬意を払って効果的な議論ができる	C	多学科チームでの学習の場で、敬意を払って会話し、チームに貢献し学習できる	C	C	C	C	B	B
	患者および家族とのコミュニケーション	B	患者の様々な背景や文化がどれだけ医者-患者間のコミュニケーションに影響するかを説明できる			B		B			B
		B	重大で繊細な難しいトピック（sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど）について患者や患者家族と議論する際に、配慮すべき点や重要な点を説明できる			B		B			
		C	患者中心の医療について説明できる			C		C			
知識とその応用	医学知識（基礎）	A	基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる	B	疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる				B	A	A
	医学知識（臨床）	B	頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる							B	B
		C	症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識（適応／合併症／限界）を提示できる							C	C
		B	頻度の高い疾患に対する治療法（薬物療法、非薬物療法の双方を含む）に関する知識を提示できる							B	B
	医療と社会	B	世界の健康の向上および増進のため、国際機関等の活動に参加する					B			
	予防と健康管理・増進	B	頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる							B	B
	歯科医学関連知識	B	診療上必要な歯科医学の知識を提示できる	C	歯科医学的側面を考慮した診療ができる				C	B	
		B	全身疾患と口腔疾患の関連を説明できる							B	B
診療の実践	EBM/臨床推論	B	診療上必要な歯科医学の知識を提示できる				B				
		A	臨床上の問題を明確化し、解決のために最適な情報源を選定できる	B	臨床上の問題を明確化できる		BA				
		A	臨床研究の吟味において、研究デザインや統計的手法についての知識を応用できる	B	研究デザインや統計的手法についての知識を提示できる	B	BA				
		A	適切な用語を用いて、医学的介入の利点と欠点を説明できる	B	医学的介入（予防/治療）に関するエビデンス吟味に用いられる用語(NNT, NNHなど)を説明できる		BA				
		B	仮想症例の臨床判断に際し、関連するエビデンスの質を判断できる	C	入手したエビデンスのレベルを正確に説明できる		CB				
		B	診療ガイドラインにアクセスし、仮想症例の検討に活用できる				B				
		A	適切な用語を用いて、患者の疾患可能性にもとづく診断的検査の意義を検討できる	B	診断に関するエビデンス吟味に用いられる用語(感度、特異度、尤度比など)を説明できる		BA				
		C	主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる							C	C
	身体診察	A	高齢者の機能的評価を行える								A
		C	臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる							C	C
	医療・福祉制度の理解と応用	B	多学科チームでの仮想症例を通したチーム医療学習の場で、多職種よりなるチーム医療を成立させる医療・福祉システムを活用できる。								B
		B	仮想症例検討において、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関を活用できる								B
		B	医療体制の主な構成要素（患者、多職種にわたる医療供給者、医療機関、保険者、行政、医療産業（製薬会社等）、診療報酬、薬価）について、役割・意義を説明できる								B
		A	医療保険、コスト、医療の質、そして医療アクセスを考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる	B	医療アクセス、コスト、資源分配など、医療政策の重要な概念とそれらの関係、そして診療への影響を説明できる			B			A
		S	費用対効果研究、比較効果研究に関するエビデンスの批判的吟味ができ、診療への影響を説明できる				(S)				

【2022年度以前入学生のみ】

医歯学融合教育科目における成績評価判定について

- 医歯学融合教育科目の受験資格判定、採点および合否判定は科目責任者が行う。
- 原則として、試験問題、採点および合否判定は両学科共通とする。
- 医学科・歯学科の各教育委員会で成績の判定をする。



コンピテンシー

大領域	小領域	細目（レベルS）	細目（レベルA=卒業時レベル）	細目（レベルB）	細目（レベルC）	細目（レベルD）
国際人としての基盤	一般教養		健康/医療/歯科医療に貢献する者として必要な、幅広い教養と豊かな感性を持つ			
	国際感覚/国際的視点	国際的視野を持った上で、実際に海外での活動（留学を含む）に参加する	世界的に注目されている医学/歯学/健康に関する主たるトピックについて精通するよう情報収集する習慣を有し、議論できる	世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる	世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、説明できる。	
	国際言語（英語）の運用力	海外での研究・臨床実習に参加することができる英語力を有する	医学/歯学における最新の情報を入手し、また発信できる英語力を有する	科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる	非専門的（一般的）英語表現・英単語の表記・発音等ができる	
医学/科学の発展への貢献	科学的探求		医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる			
			基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して研究を実施できる	基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える	基礎的および臨床的研究の倫理的事項を説明できる	
			未解決の臨床的あるいは科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる	臨床的あるいは科学的問題提起ができる		
			臨床や科学の興味ある領域での研究を、指導・監督のもとで実施できる	実習実験を実施して結果を得ることができる		
			自由研究で明らかになった新しい知見を、口頭および書面で明確に説明できる	実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる		
プロフェッショナリズム	品位、礼儀		他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる			
			専門職にある者として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動をとることができる	専門職にある者として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動を説明できる	専門職にある者としての立場を理解している	
			専門職務非遂行時においても、専門職種にふさわしい振舞いができる	専門職務非遂行時においても専門職種にふさわしい振舞いを説明できる		
	専門職としての対人関係		患者側要素に配慮した最適なアプローチにて、常に良好な医師・患者関係を築くことができる	患者の、文化、人種、年齢、社会経済的状況、性別、性嗜好、信仰、障害、その他の多様性に配慮した対応が行える	患者の、文化、人種、年齢、社会経済的状況、性別、性嗜好、信仰、障害、その他の多様性に配慮した対応を説明できる	
					文化的信条や慣習が専門職としての対人関係に与えうる影響を説明できる	
			患者および家族と、共感、敬意、思いやりをもって接することができる			
			医療における他の専門職との交流に際して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示すことができる			
			診療において、患者や患者家族とのラポール構築のために必要な行動をとることができる	患者や患者家族とのラポール構築のために必要な行動を説明でき、同僚らに提示できる	ラポールについて説明できる	
	患者との関係、職務上の優先性		患者との関係（情報漏洩、親密性、金品授受など）における適切な距離を維持することが困難な場合あるいは維持できなかった場合に、それを認識でき、相談し、解決策や予防策を立てることができる	患者との関係（情報漏洩、親密性、金品授受など）において適切な距離を維持することができる	患者との関係（情報漏洩、親密性、金品授受など）において適切な距離を維持する必要性を説明できる	
			個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる			

大領域	小領域	細目（レベルS）	細目（レベルA=卒業時レベル）	細目（レベルB）	細目（レベルC）	細目（レベルD）
プロフェッショナリズム	患者との関係、職務上の優先性		自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる			
			臨床実習において、技能、知識、患者情報の欠如を認識し、必要に応じて援助を求めることができる			
	自己管理		メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる	メンタルストレスやその対処法を説明できる		
			医療従事者の健康管理（予防接種を含む）を実践できる	医学生としての健康管理（予防接種を含む）の重要性を説明できる		
	勤労習慣		時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる			
			文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる			
	法規、機関内規、専門職社会内規範		本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる			
	倫理		常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動する必要性を理解している		
			他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる			
			医療過誤、患者情報収集におけるエラーや、データの誤った説明などを、指導・監督者に報告できる	情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる		
			他人による職務上の不正を認識し、省察やメンターや指導・監督者からの助言を得て倫理的に適切な対応を計画し、説明・遂行できる			
			患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる	守秘義務と患者プライバシーに関して説明できる		
			臨床実習において、適切なインフォームドコンセントの取得に関与することができる	模擬患者から、インフォームドコンセントを取得することができる	インフォームドコンセントの重要性およびその過程を説明できる	
			記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる	著作権侵害にあたる行動を列挙できる		
			利益相反が生じる可能性を認識し、適切に対処できる	利益相反および回避するための行動を説明できる		
			企業とは倫理的に適切な関係を保つことができる	企業との関係における倫理的な側面につき説明できる		
	振返りを通した自己研鑽/生涯学習		自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる			
			自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる	フィードバックの意義を説明でき、受容できる		

大領域	小領域	細目（レベルS）	細目（レベルA=卒業時レベル）	細目（レベルB）	細目（レベルC）	細目（レベルD）
プロフェッショナリズム	振返りを通した自己研鑽/生涯学習		他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる			
			ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる			
コミュニケーション	医療チーム内/間コミュニケーション		口頭および書面にて、患者に関する全ての臨床情報を統合し、わかりやすく要約することができる	書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる		
			様々な状況において、問題解決のための適切なアプローチ法を用いて、患者情報を系統的に、正確に、かつ論理的に提示でき、関連する情報にもとづきアセスメント・プランを考察し提示できる	様々な状況（回診か、症例検討会か）（網羅的なプレゼンテーションが求められているのか、的を絞ったプレゼンテーションか）に即した形式で、患者情報を系統的に、正確に、かつ論理的に提示することができる	患者情報を系統的に、正確に、かつ論理的に提示することができる	
			診療録、指示書、処方箋などの書類を、正確で読みやすく、期限に遅れることなく作成することができる）	診療録、指示書、処方箋の意義、記載内容、記載方法を説明できる		
			多職種チームのすべてのメンバーと、敬意を払って効果的な議論ができる	多学科チームのすべてのメンバーと、敬意を払って効果的な議論ができる	多学科チームでの学習の場で、敬意を払って会話し、チームに貢献し学習できる	
			診療の引き継ぎ（ローテイション終了時、転科、転院等）に際して、引き継ぐ診療チーム・診療提供者に、臨床情報を包括的、効果的かつ正確に提供することができる	外来/病棟勤務終了時に、完了したもの、中途のものを含めたすべての臨床情報と業務について、診療チームに効果的に報告することができる		
	患者および家族とのコミュニケーション		患者や患者家族と、誠実で、常に患者/患者家族をサポートする姿勢を保ちながら、コミュニケーションをとることができる	患者の様々な背景や文化がどれだけ医者-患者間のコミュニケーションに影響するかを説明できる		
			重大で繊細な難しいトピック（sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど）についての患者や患者家族との議論に、診療チームの一員として参加する	重大で繊細な難しいトピック（sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど）について患者や患者家族と議論する際に、配慮すべき点や重要な点を説明できる		
			監督・指導のもとに、患者や患者家族に提示すべき臨床所見/情報を列挙・整理し、診療計画を作成し、指導教員に説明することができる			
			患者の病いの捉え方や、患者がケアにおいて最も重要だと考える案件を理解し対処できる	患者の病いの捉え方や、患者がケアにおいて最も重要だと考える案件を、患者から会話において聞き出すために効果的な技能を提示できる	患者中心の医療について説明できる	
知識とその応用	医学知識（基礎）		基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる	疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる		
	医学知識（臨床）		頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後の知識を診療に応用できる	頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる		
			様々な症候／問題の原因評価において、適切な評価法を選定し、所見を適切に解釈できる	頻度の高い症候／問題の原因評価において、評価法についての知識（適応／合併症／限界）を応用できる	症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識（適応／合併症／限界）を提示できる	
			様々な疾患に対する治療法（薬物療法、非薬物療法の双方を含む）に関する知識を診療に応用できる	頻度の高い疾患に対する治療法（薬物療法、非薬物療法の双方を含む）に関する知識を提示できる		
	医療と社会		社会医学の知識を、医療・保健活動に応用できる	社会医学の知識を提示できる		
		世界の健康の向上および増進のため、国際機関等の活動に参加する	世界の保健・医療課題を、疾病の発生状況、資源、制度、環境の視点から説明できる	世界の保健・医療関連事象の推移と地域分布を説明できる		

大領域	小領域	細目（レベルS）	細目（レベルA=卒業時レベル）	細目（レベルB）	細目（レベルC）	細目（レベルD）
知識とその応用	予防と健康管理・増進		頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を診療に応用できる	頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる		
		地域および行政機関等において、人々の健康の向上および増進のための活動に参加する	住民の健康状態を把握し、その向上及び増進のために必要な医療および保健指導を説明できる	様々な集団や場に特有の健康問題を説明できる		
	歯科医学関連知識		歯科医学的側面を考慮した診療ができる	診療上必要な歯科医学の知識を提示できる	顎・口腔領域の構造と機能を説明できる	
			全身疾患と口腔疾患の関連を考慮した診療ができる	全身疾患と口腔疾患の関連を説明できる		
診療の実践	EBM/臨床推論		臨床において、情報技術を利用し、適切な情報源/エビデンスを活用できる	情報技術を利用し、関連する情報源/エビデンスを発見できる	E-learning, 文献検索エンジンなどを利用できる	
			臨床上の問題を明確化し、解決のために最適な情報源を選定できる	臨床上の問題を明確化できる		
			臨床研究の吟味において、研究デザインや統計的手法についての知識を応用できる	研究デザインや統計的手法についての知識を提示できる		
			適切な用語を用いて、医学的介入の利点と欠点を説明できる	医学的介入（予防/治療）に関するエビデンス吟味に用いられる用語(NNT, NNHなど)を説明できる		
			監督・指導のもとで、臨床判断に際し、関連するエビデンスの質を判断し、個々の患者への適用可能性を判断できる	仮想症例の臨床判断に際し、関連するエビデンスの質を判断できる	入手したエビデンスのレベルを正確に説明できる	情報の信頼性および有用性について、批判的視点を持つ
			診療ガイドラインにアクセスし、診療に活用できる	診療ガイドラインにアクセスし、仮想症例の検討に活用できる		
			適切な用語を用いて、患者の疾患可能性にもとづく診断的検査の意義を検討できる	診断に関するエビデンス吟味に用いられる用語（感度、特異度、尤度比など）を説明できる		
			実際の症例の診断的評価に際し、臨床推論を行い、得られた情報から適切で漏れのない鑑別疾患を挙げられ、適切な診断的検査法を選定でき、適切に検査所見を解釈でき、適切な臨床診断に到達することができる	仮想症例の診断的評価に際し、臨床推論を行い、得られた情報から適切で漏れのない鑑別疾患を挙げられ、適切な診断的検査法を選定でき、適切に検査所見を解釈でき、適切な臨床診断に到達することができる	主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる	臨床推論にもとづく診断過程を説明できる
	病歴聴取		臨床実習の学習項目に挙げられる特定の状況（例、急性疼痛、高齢、小児、術前など）に応じた病歴を聴取できる	病歴聴取において、必要に応じて、患者/家族以外の情報源（プライマリケア提供医や、患者の診療に携わる他の医師・ケア提供者）も利用できる	病歴を網羅的に、系統立てて聴取し、標準書式にまとめることができる	患者から基本的情報を収集・統合し、病歴の標準書式にまとめることができる
			救急診療やコンサルテーション等に際して、臨床推論にもとづき、聴取すべき病歴要素を選定/調整し、的を絞った病歴聴取ができる			
	身体診察		身体診察を網羅的に、系統立てて、適切な順序で滑らかに効率よく行える	身体診察を網羅的に、系統立てて、適切な順序で行える	成人の身体診察を、基本的要素ごとに行える	
			高齢者の機能的評価を行える			
			小児の成長／発達の評価を行える			

大領域	小領域	細目（レベルS）	細目（レベルA=卒業時レベル）	細目（レベルB）	細目（レベルC）	細目（レベルD）
診療の実践	身体診察		状況に応じた、的を絞った身体診察を、効率よく行える	臨床推論にもとづき、実施すべき身体診察要素を選定し、行える		
			診察において異常所見を認識・説明・記録でき、必要な病歴・診察を追加し、適切な鑑別疾患を列挙することができる	臨床実習の学習項目に含まれる異常所見を認識し、口頭で説明し、記録できる	臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる	正常所見を説明できる
	臨床手技		コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技を実施できる	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技を呈示できる（シミュレータ/模擬患者などで）	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技の方法/適応/合併症を説明できる	
	診療録記載		初診時診療録/入院時要約/週間要約/退院時要約を、適切なフォーマットに沿って、適切なプロブレムリスト構築のもと、臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる	初診時診療録/入院時要約/週間要約/退院時要約を、適切なフォーマットに沿って、SOAP形式で、記載できる		
			日々の診療録を、適切なフォーマットに沿って、日々の変化、適切な優先順位に配列したプロブレムリスト、そして臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる	日々の診療録を、SOAP形式で記載できる		
			再来受診の際の診療録を、適切なフォーマットに沿って、前回受診時からの変化、適切な優先順位に配列したプロブレムリスト、そして臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に簡潔に記載できる	再来受診の際の診療録を、SOAP形式で記載できる		
	患者管理		監督・指導のもとで、急性・慢性疾患を患う患者の、外来・病棟診療での管理ができる			
			安全で質の高い医療の提供の為に、状況に応じて指導医による監督・指導の必要性を適切に判断でき、求めることができる			
			監督・指導のもとで、退院計画や患者教育を含めた疾患管理・予防計画の策定ができる			
			診療の引き継ぎに際して、情報を効果的に伝えることができる	様々なセッティングにおける診療の引き継ぎに際して、伝えるべき情報とその形を説明できる		
	医療安全		感染に対する標準予防策（Standard precaution）にしたがい、清潔操作を行うことができる	感染に対する標準予防策（Standard precaution）を説明できる		
			感染患者隔離の必要な状況、および対処方法を説明できる	患者隔離の必要な感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる	感染患者隔離の対応に関する法的根拠を説明できる	
			針刺し事故、針刺切創等を予防でき、かつ遭遇した際に適切に対処できる	針刺し事故、針刺切創等の予防および遭遇した際の対処を説明できる	針刺し事故、針刺切創等による感染症感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる	
			医療機関における医療安全管理体制の在り方を説明できる	医薬品、医療機器の安全管理体制を説明できる		
様々な制度・資源を考慮した診療	医療機関内の制度・資源の理解と活用		医療機関内インフラ（医療情報、医学情報、様々な診療部門、運営/管理業務）を活用できる	医療機関内インフラ（医療情報、医学情報、様々な診療部門、運営/管理業務）を説明できる		

大領域	小領域	細目（レベルS）	細目（レベルA=卒業時レベル）	細目（レベルB）	細目（レベルC）	細目（レベルD）
様々な制度・資源を考慮した診療	医療・福祉制度の理解と応用		多職種よりなるチーム医療を成立させる医療・福祉制度を、指導/監督のもと、活用できる	多学科チームでの仮想症例を通したチーム医療学習の場で、多職種よりなるチーム医療を成立させる医療・福祉システムを活用できる。	急性期、慢性期、および長期的ケアを含む医療の向上に向けた、様々な専門分野の協力にもとづくアプローチについて、説明できる	診療チームを構成するメンバーを同定し、彼らの役割を説明できる
			臨床実習において、指導/監督のもとで、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関を活用できる	仮想症例検討において、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関を活用できる	病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関の役割を説明できる	
			様々な情報源（かかりつけ医、家族、地域の福祉職員や、入院および外来診療録など）から関連する情報を効果的に取得し、診療に活用することができる			
			医療体制の主な構成要素の役割・意義を理解・考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる	医療体制の主な構成要素（患者、多職種にわたる医療供給者、医療機関、保険者、行政、医療産業（製薬会社等）、診療報酬、薬価）について、役割・意義を説明できる		
			医療保険、コスト、医療の質、そして医療アクセスを考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる	医療アクセス、コスト、資源分配など、医療政策の重要な概念とそれらの関係、そして診療への影響を説明できる		
		費用対効果研究、比較効果研究に関するエビデンスの批判的吟味ができ、診療への影響を説明できる	医療政策の有効性が吟味でき、診療への影響を説明できる	医療制度や医療提供体制が、医療の質と量へ与える影響（特に異なる背景の患者間の格差、例：地域、年齢、医師の配置）を、説明できる	医療政策形成過程を説明できる	

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第1学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	医学導入
国際人としての基盤	国際感覚/国際的視点	世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる	B
	国際言語（英語）の運用力	非専門的（一般的）英語表現・英単語の表記・発音等ができる	C
医学/科学の発展への貢献	科学的探求	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる	A
		臨床的あるいは科学的問題提起ができる	B
プロフェッショナリズム	品位、礼儀	他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる	A
		専門職にある者としての立場を理解している	C
	専門職としての対人関係	医療における他の専門職との交流に際して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示すことができる	A
		ラポールについて説明できる	C
	患者との関係、職務上の優先性	患者との関係（情報漏洩、親密性、金品授受など）において適切な距離を維持する必要性を説明できる	C
		個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる	A
		自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる	A
	自己管理	メンタルストレスやその対処法を説明できる	B
		医学生としての健康管理（予防接種を含む）の重要性を説明できる	B
	勤労習慣	時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる	A
		文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる	A
	法規、機関内規、専門職社会内規範	本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる	A
	倫理	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動する必要性を理解している	B
		他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる	A
		患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる	A
		記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる	A
	振返りを通した自己研鑽/生涯学習	自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる	A
		フィードバックの意義を説明でき、受容できる	B
プロフェッショナリズム	振返りを通した自己研鑽/生涯学習	他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる	A
		ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる	A
コミュニケーション	患者および家族とのコミュニケーション	患者の様々な背景や文化がどれだけ医者-患者間のコミュニケーションに影響するかを説明できる	B
		重大で繊細な難しいトピック（sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど）について患者や患者家族と議論する際に、配慮すべき点や重要な点を説明できる	B
		患者中心の医療について説明できる	C
知識とその応用	医療と社会	世界の保健・医療関連事象の推移と地域分布を説明できる	B
診療の実践	EBM/臨床推論	E-learning, 文献検索エンジンなどを利用できる	C
		情報の信頼性および有用性について、批判的視点を持つ	D
		臨床推論にもとづく診断過程を説明できる	D
	病歴聴取	患者から基本的情報を収集・統合し、病歴の標準書式にまとめることができる	D
様々な制度・資源を考慮した診療	医療機関内の制度・資源の理解と活用	医療機関内インフラ（医療情報、医学情報、様々な診療部門、運営/管理業務）を説明できる	B
	医療・福祉制度の理解と応用	診療チームを構成するメンバーを同定し、彼らの役割を説明できる	D
		病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関の役割を説明できる	C
		医療政策形成過程を説明できる	C

医学科第2学年　科目を履修して得られる能力

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第2学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細　目	学習方法	レベル	人体構造総論	細胞生物学	神経生理導入	生理学	組織学	人体解剖学	薬理学	生化学	分子遺伝学	神経解剖学	免疫学	神経科学・基礎	感染・基礎	東洋医学	病理学	医動物学
国際人としての基盤	国際感覚/国際的視点	世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる	講義	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	国際言語（英語）の運用力	科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる	講義	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
医学/科学の発展への貢献	科学的探求	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える	実習	B				B	B	B	B			B	B	B	B		B	
		臨床的あるいは科学的問題提起ができる	講義・実習	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
		実習実験を実施して結果を得ることができる	実習	B				B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		B	B
		実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる	実習	B				B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		B	B
プロフェッショナリズム	品位、礼儀	他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	患者との関係、職務上の優先性	患者との関係（情報漏洩、親密性、金品授受など）において適切な距離を維持する必要性を説明できる	実習	C						C										
		個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる	実習	A				A	A	A	A	A	A	A	A	A	A		A	A
	自己管理	メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		医学生としての健康管理（予防接種を含む）の重要性を説明できる	講義	B											B		B			
	勤労習慣	時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	法規、機関内規、専門職社会内規範	本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	倫理	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる	講義・実習	A				A	A	A	A	A	A	A	A	A	A		A	A
		情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる	講義・実習	B				B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		B	B
		他人による職務上の不正を認識し、省察やメンターや指導・監督者からの助言を得て倫理的に適切な対応を計画し、説明・遂行できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	振返りを通した自己研鑽/生涯学習	自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
知識とその応用	医学知識（基礎）	疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる	講義・実習	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
診療の実践	EBM/臨床推論	E-learning, 文献検索エンジンなどを利用できる	講義・実習	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
	医療安全	患者隔離の必要な感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる	講義	B													B			
		針刺し事故、針刺切創等による感染症感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる	講義	C													C			

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第3学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	レベル	腫瘍学	法医学	行動科学	衛生学	公衆衛生学	臨床医学導入	循環器	呼吸器	消化器	体液制御・泌尿器	内分泌・代謝	血液・腫瘍	一般外科	神経科学・臨床	骨・関節・脊椎	皮膚・アレルギー・膠原病	感染・臨床
国際人としての基盤	国際感覚/国際的視点	世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	国際言語（英語）の運用力	科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
医学/科学の発展への貢献	科学的探求	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える	B	B																
		臨床的あるいは科学的問題提起ができる	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
		実習実験を実施して結果を得ることができる	B	B	B		B	B												
		実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる	B	B	B		B	B												
プロフェッショナリズム	品位、礼儀	他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	専門職としての対人関係	患者の、文化、人種、年齢、社会経済的状況、性別、性嗜好、信仰、障害、その他の多様性に配慮した対応を説明できる	C			C														
		文化的信条や慣習が専門職としての対人関係に与えうる影響を説明できる	C			C														
		ラポールについて説明できる	C														C			
	患者との関係、職務上の優先性	患者との関係（情報漏洩、親密性、金品授受など）において適切な距離を維持する必要性を説明できる	C		C	C	C	C												
		個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる	A	A	A		A	A												
	自己管理	メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		医学生としての健康管理（予防接種を含む）の重要性を説明できる	B					B												
	勤労習慣	時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	法規、機関内規、専門職社会内規範	本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	倫理	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる	A	A	A		A	A												
		他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる	B	B	B		B	B												
		B :守秘義務と患者プライバシーに関して説明できる A:: 患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる	BA			B		A												
		記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	振返りを通した自己研鑽/生涯学習	自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第3学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	レベル	腫瘍学	法医学	行動科学	衛生学	公衆衛生学	臨床医学導入	循環器	呼吸器	消化器	体液制御・泌尿器	内分泌・代謝	血液・腫瘍	一般外科	神経科学・臨床	骨・関節・脊椎	皮膚・アレルギー・膠原病	感染・臨床
プロフェッショナリズム	振返りを通した自己研鑽/生涯学習	他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
コミュニケーション	医療チーム内/間コミュニケーション	書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる	B							B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	患者および家族とのコミュニケーション	患者の様々な背景や文化がどれだけ医者-患者間のコミュニケーションに影響するかを説明できる	B			B														
		重大で繊細な難しいトピック（sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど）について患者や患者家族と議論する際に、配慮すべき点や重要な点を説明できる	B			B														
		患者中心の医療について説明できる	C			C		C												
知識とその応用	医学知識（基礎）	B: 疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる A: 基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる	BA	B					A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	医学知識（臨床）	頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる	B						B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
		症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識（適応／合併症／限界）を提示できる	C						C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
		頻度の高い疾患に対する治療法（薬物療法、非薬物療法の双方を含む）に関する知識を提示できる	B						B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	医療と社会	社会医学の知識を提示できる	B		B	B	B	B												
		B: 世界の保健・医療関連事象の推移と地域分布を説明できる A: 世界の保健・医療課題を、疾病の発生状況、資源、制度、環境の視点から説明できる	BA			BA		BA												
	予防と健康管理・増進	頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる	B					B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
		様々な集団や場に特有の健康問題を説明できる	B					B												
診療の実践	EBM/臨床推論	E-learning, 文献検索エンジンなどを利用できる	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
		研究デザインや統計的手法についての知識を提示できる	B					B												
		D: 臨床推論にもとづく診断過程を説明できる C: 主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる	DC						D	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
	病歴聴取	患者から基本的情報を収集・統合し、病歴の標準書式にまとめることができる	D						D											
	身体診察	成人の身体診察を、基本的要素ごとに行える	C						C											
		D: 正常所見を説明できる C: 臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる	DC						D	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
	医療安全	感染に対する標準予防策（Standard precaution）を説明できる	B																	B
		C: 感染患者隔離の対応に関する法的根拠を説明できる B: 患者隔離の必要な感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる	CB					C			B	B								B
		C: 針刺し事故、針刺切創等による感染症感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる B: 針刺し事故、針刺切創等の予防および遭遇した際の対処を説明できる	CB									C								CB
診療の実践	医療安全	医薬品、医療機器の安全管理体制を説明できる	B			B														
		急性期、慢性期、および長期的ケアを含む医療の向上に向けた、様々な専門分野の協力にもとづくアプローチについて、説明できる	C			C											C	C		

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第3学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	レベル	腫瘍学	法医学	行動科学	衛生学	公衆衛生学	臨床医学導入	循環器	呼吸器	消化器	体液制御・泌尿器	内分泌・代謝	血液・腫瘍	一般外科	神経科学・臨床	骨・関節・脊椎	皮膚・アレルギー・膠原病	感染・臨床
様々な制度・資源を考慮した診療	医療・福祉制度の理解と応用	病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関の役割を説明できる	C			C														
		医療体制の主な構成要素（患者、多職種にわたる医療供給者、医療機関、保険者、行政、医療産業（製薬会社等）、診療報酬、薬価）について、役割・意義を説明できる	B			B		B												
		医療アクセス、コスト、資源分配など、医療政策の重要な概念とそれらの関係、そして診療への影響を説明できる	B			B		B												
		医療制度や医療提供体制が、医療の質と量へ与える影響（特に異なる背景の患者間の格差、例：地域、年齢、医師の配置）を、説明できる	B			B		B												

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第4学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	レベル	生殖・発達	救急・麻酔	自由選択学習	臨床導入実習
国際人としての基盤	国際感覚/国際的視点	A:世界的に注目されている医学/歯学/健康に関する主たるトピックについて精通するよう情報収集する習慣を有し、議論できる B:世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる	BA	B	B	A	
	国際言語（英語）の運用力	A:医学/歯学における最新の情報を入手し、また発信できる英語力を有する B:科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる	BA	B	B	A	
医学/科学の発展への貢献	科学的探求	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる	A	A	A	A	
		基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して研究を実施できる	A			A	
		A:未解決の臨床的あるいは科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる B:臨床的あるいは科学的問題提起ができる	BA	B	B	A	
		臨床や科学の興味ある領域での研究を、指導・監督のもとで実施できる	A			A	
		自由研究で明らかになった新しい知見を、口頭および書面で明確に説明できる	A			A	
プロフェッショナリズム	品位、礼儀	他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる	A	A	A	A	A
		専門職にある者として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動を説明できる	B				B
		専門職務非遂行時においても専門職種にふさわしい振舞いを説明できる	B				B
	専門職としての対人関係	患者の、文化、人種、年齢、社会経済的状況、性別、性嗜好、信仰、障害、その他の多様性に配慮した対応が行える	B				B
		患者および家族と、共感、敬意、思いやりをもって接することができる	A				A
		医療における他の専門職との交流に際して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示すことができる	A				A
		患者や患者家族とのラポール構築のために必要な行動を説明でき、同僚らに提示できる	B				B
プロフェッショナリズム	患者との関係、職務上の優先性	患者との関係（情報漏洩、親密性、金品授受など）において適切な距離を維持することができる	B				B
		個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる	A	A	A	A	A
		自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる	A			A	A
		臨床実習において、技能、知識、患者情報の欠如を認識し、必要に応じて援助を求めることができる	A				A
	自己管理	メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる	A	A	A	A	A
		医学生としての健康管理（予防接種を含む）の重要性を説明できる	B				B
	勤労習慣	時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる	A	A	A	A	A
		文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる	A	A	A	A	A
プロフェッショナリズム	法規、機関内規、専門職社会内規範	本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる	A	A	A	A	A
	倫理	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる	A			A	A
		他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる	A	A	A	A	A
		情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる	B			B	
		他人による職務上の不正を認識し、省察やメンターや指導・監督者からの助言を得て倫理的に適切な対応を計画し、説明・遂行できる	A			A	
		守秘義務と患者プライバシーに関して説明できる	B				
		模擬患者から、インフォームドコンセントを取得することができる	B				B
		記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる	A	A	A	A	A
		企業とは倫理的に適切な関係を保つことができる	A			A	
	振返りを通した自己研鑽/生涯学習	自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる	A	A	A	A	A
		自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる	A	A	A	A	A
		他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる	A	A	A	A	A
		ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる	A	A	A	A	A
コミュニケーション	医療チーム内/間コミュニケーション	書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる	B	B	B		B
		患者情報を系統的に、正確に、かつ論理的に提示することができる	C				C

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第4学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	レベル	生殖・発達	救急・麻酔	自由選択学習	臨床導入実習
コミュニケーション	医療チーム内/間コミュニケーション	診療録、指示書、処方箋などの書類を、正確で読みやすく、期限に遅れることなく作成することができる）	B				B
	患者および家族とのコミュニケーション	患者や患者家族と、誠実で、常に患者/患者家族をサポートする姿勢を保ちながら、コミュニケーションをとることができる	A				A
		重大で繊細な難しい下ピック（sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど）について患者や患者家族と議論する際に、配慮すべき点や重要な点を説明できる	B				B
		患者の病いの捉え方や、患者がケアにおいて最も重要だと考える案件を、患者から会話において聞き出すために効果的な技能を提示できる	B				B
知識とその応用	医学知識（基礎）	基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる	A	A	A	(A)	A
	医学知識（臨床）	頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる	B	B	B		B
		B:頻度の高い症候／問題の原因評価において、評価法についての知識（適応／合併症／限界）を応用できる C:症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識（適応／合併症／限界）を提示できる	CB	C	C		B
		頻度の高い疾患に対する治療法（薬物療法、非薬物療法の双方を含む）に関する知識を提示できる	B	B	B		B
	医療と社会	社会医学の知識を提示できる	B				B
	予防と健康管理・増進	頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる	B	B	B		B
		様々な集団や場に特有の健康問題を説明できる	B				B
	歯科医学関連知識	診療上必要な歯科医学の知識を提示できる	B				B
		全身疾患と口腔疾患の関連を説明できる	B				B
診療の実践	EBM/臨床推論	情報技術を利用し、関連する情報源/エビデンスを発見できる	B				B
		臨床上の問題を明確化し、解決のために最適な情報源を選定できる	A				A
		臨床研究の吟味において、研究デザインや統計的手法についての知識を応用できる	A				A
		適切な用語を用いて、医学的介入の利点と欠点を説明できる	A				A
		仮想症例の臨床判断に際し、関連するエビデンスの質を判断できる	B				B
		診療ガイドラインにアクセスし、仮想症例の検討に活用できる	B				B
		適切な用語を用いて、患者の疾患可能性にもとづく診断的検査の意義を検討できる	A				A
		B:仮想症例の診断的評価に際し、臨床推論を行い、得られた情報から適切で漏れのない鑑別疾患を挙げられ、適切な診断的検査法を選定でき、適切に検査所見を解釈でき、適切な臨床診断に到達することができる C:主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる	CB	C	C		CB
	病歴聴取	A:臨床実習の学習項目に挙げられる特定の状況（例、急性疼痛、高齢、小児、術前など）に応じた病歴を聴取できる B:病歴聴取において、必要に応じて、患者/家族以外の情報源（プライマリケア提供医や、患者の診療に携わる他の医師・ケア提供者）も利用できる C:病歴を網羅的に、系統立てて聴取し、標準書式にまとめることができる	CBA				CBA
		救急診療やコンサルテーション等に際して、臨床推論にもとづき、聴取すべき病歴要素を選定/調整し、的を絞った病歴聴取ができる	A				A
診療の実践	身体診察	B:身体診察を網羅的に、系統立てて、適切な順序で行える C:成人の身体診察を、基本的要素ごとに行える	CB				CB
		高齢者の機能的評価を行える	A				A
		小児の成長／発達の評価を行える	A	A			A
		臨床推論にもとづき、実施すべき身体診察要素を選定し、行える	B				B
		B:臨床実習の学習項目に含まれる異常所見を認識し、口頭で説明し、記録できる C:臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる	CB	C	C		B
	臨床手技	B:コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技を呈示できる（シミュレータ/模擬患者などで） C:コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技の方法/適応/合併症を説明できる	CB				CB
	診療録記載	初診時診療録/入院時要約/週間要約/退院時要約を、適切なフォーマットに沿って、SOAP形式で、記載できる	B				B
		日々の診療録を、SOAP形式で記載できる	B				B
		再来受診の際の診療録を、SOAP形式で記載できる	B				B
	患者管理	様々なセッティングにおける診療の引き継ぎに際して、伝えるべき情報とその形を説明できる	B				B
診療の実践	医療安全	感染に対する標準予防策（Standard precaution）にしたがい、清潔操作を行うことができる	A				A
		患者隔離の必要な感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる	B	B	B		B

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第4学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	レベル	生殖・発達	救急・麻酔	自由選択学習	臨床導入実習
診療の実践	医療安全	B:針刺し事故、針刺切創等の予防および遭遇した際の対処を説明できる C:針刺し事故、針刺切創等による感染症感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる	CB		C		B
		A:医療機関における医療安全管理体制の在り方を説明できる B:医薬品、医療機器の安全管理体制を説明できる	BA				BA
様々な制度・資源を考慮した診療	医療機関内の制度・資源の理解と活用	医療機関内インフラ（医療情報、医学情報、様々な診療部門、運営/管理業務）を説明できる	B				B
	医療・福祉制度の理解と応用	急性期、慢性期、および長期的ケアを含む医療の向上に向けた、様々な専門分野の協力にもとづくアプローチについて、説明できる	C	C	C		
		仮想症例検討において、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関を活用できる	B				B
		医療体制の主な構成要素の役割・意義を理解・考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる	A			（A）	
		医療保険、コスト、医療の質、そして医療アクセスを考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる	A			（A）	
		費用対効果研究、比較効果研究に関するエビデンスの批判的吟味ができ、診療への影響を説明できる	S			（S）	

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第5･6学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	レベル	（医歯融）包括医療統合教育	臨床実習
国際人としての基盤	国際感覚/国際的視点	世界的に注目されている医学/歯学/健康に関する主たるトピックについて精通するよう情報収集する習慣を有し、議論できる	A		A
	国際言語（英語）の運用力	医学/歯学における最新の情報を入手し、また発信できる英語力を有する	A		A
医学/科学の発展への貢献		基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える	B		B
プロフェッショナリズム	品位、礼儀	他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる	A	A	A
		B:専門職にある者として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動を説明できる A:専門職にある者として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動をとることができる	BA	B	A
		B:専門職務非遂行時においても専門職種にふさわしい振舞いを説明できる A:専門職務非遂行時においても、専門職種にふさわしい振舞いができる	BA	B	A
	専門職としての対人関係	B:患者の、文化、人種、年齢、社会経済的状況、性別、性嗜好、信仰、障害、その他の多様性に配慮した対応が行える A:患者側要素に配慮した最適なアプローチにて、常に良好な医師･患者関係を築くことができる	BA	B	A
			BA	B	A
		患者および家族と、共感、敬意、思いやりをもって接することができる	A	A	A
		医療における他の専門職との交流に際して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示すことができる	A	A	A
		診療において、患者や患者家族とのラポール構築のために必要な行動をとることができる	A		A
	患者との関係、職務上の優先性	患者との関係（情報漏洩、親密性、金品授受など）における適切な距離を維持することが困難な場合あるいは維持できなかった場合に、それを認識でき、相談し、解決策や予防策を立てることができる	A		A
		個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる	A	A	A
		自立と監督･指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる	A	A	A
		臨床実習において、技能、知識、患者情報の欠如を認識し、必要に応じて援助を求めることができる	A		A
	自己管理	メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる	A	A	A
		医療従事者の健康管理（予防接種を含む）を実践できる	A		A
	勤労習慣	時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる	A	A	A
		文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる	A	A	A
	法規、機関内規、専門職社会内規範	本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる	A	A	A
	倫理	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる	A		A
		他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる	A	A	A
		医療過誤、患者情報収集におけるエラーや、データの誤った説明などを、指導･監督者に報告できる	A	A	A
		他人による職務上の不正を認識し、省察やメンターや指導･監督者からの助言を得て倫理的に適切な対応を計画し、説明･遂行できる	A	A	A
		B:守秘義務と患者プライバシーに関して説明できる A:患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる	BA	B	A
		C:インフォームドコンセントの重要性およびその過程を説明できる A:臨床実習において、適切なインフォームドコンセントの取得に関与することができる	CA	C	A
		記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる	A	A	A
		B:利益相反および回避するための行動を説明できる A:利益相反が生じる可能性を認識し、適切に対処できる	BA	B	A
		B:企業との関係における倫理的な側面につき説明できる A:企業とは倫理的に適切な関係を保つことができる	BA	B	A
	振返りを通した自己研鑽/生涯学習	自身の知識･能力･振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる	A	A	A
		自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる	A	A	A
		他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる	A	A	A
		ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習･自己研鑽できる	A	A	A
コミュニケーション	医療チーム内/間コミュニケーション	B:書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる A:口頭および書面にて、患者に関する全ての臨床情報を統合し、わかりやすく要約することができる	BA	B	A

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第5･6学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	レベル	（医歯融）包括医療統合教育	臨床実習
コミュニケーション	医療チーム内/間コミュニケーション	B:様々な状況（回診か、症例検討会か）（網羅的なプレゼンテーションが求められているのか、的を絞ったプレゼンテーションか）に即した形式で、患者情報を系統的に、正確に、かつ論理的に提示することができる A:様々な状況において、問題解決のための適切なアプローチ法を用いて、患者情報を系統的に、正確に、かつ論理的に提示でき、関連する情報にもとづきアセスメント･プランを考察し提示できる	BA		BA
		診療録、指示書、処方箋などの書類を、正確で読みやすく、期限に遅れることなく作成することができる）	A		A
		B:多学科チームのすべてのメンバーと、敬意を払って効果的な議論ができる A:多職種チームのすべてのメンバーと、敬意を払って効果的な議論ができる	BA	B	A
		B:外来/病棟勤務終了時に、完了したもの、中途のものを含めたすべての臨床情報と業務について、診療チームに効果的に報告することができる A:診療の引き継ぎ（ローテイション終了時、転科、転院等）に際して、引き継ぐ診療チーム･診療提供者に、臨床情報を包括的、効果的かつ正確に提供することができる	BA		BA
	患者および家族とのコミュニケーション	患者や患者家族と、誠実で、常に患者/患者家族をサポートする姿勢を保ちながら、コミュニケーションをとることができる	A		A
		B:重大で繊細な難しいトピック（sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど）について患者や患者家族と議論する際に、配慮すべき点や重要な点を説明できる A:重大で繊細な難しいトピック（sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど）についての患者や患者家族との議論に、診療チームの一員として参加する	BA		BA
		監督･指導のもとに、患者や患者家族に提示すべき臨床所見/情報を列挙･整理し、診療計画を作成し、指導教員に説明することができる	A		A
		患者の病いの捉え方や、患者がケアにおいて最も重要だと考える案件を理解し対処できる	A		A
知識とその応用	医学知識（基礎）	基礎医学の知識を疾患の病因･病態･臨床徴候などの理解に応用できる	A	A	A
	医学知識（臨床）	頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後の知識を診療に応用できる	A	A	A
		様々な症候／問題の原因評価において、適切な評価法を選定し、所見を適切に解釈できる	A	A	A
		様々な疾患に対する治療法（薬物療法、非薬物療法の双方を含む）に関する知識を診療に応用できる	A	A	A
	医療と社会	社会医学の知識を、医療･保健活動に応用できる	A	A	A
		世界の保健･医療課題を、疾病の発生状況、資源、制度、環境の視点から説明できる	A		A
	予防と健康管理･増進	頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を診療に応用できる	A	A	A
		住民の健康状態を把握し、その向上及び増進のために必要な医療および保健指導を説明できる	A	A	A
	歯科医学関連知識	歯科医学的側面を考慮した診療ができる	A	A	A
		全身疾患と口腔疾患の関連を考慮した診療ができる	A	A	A
診療の実践	EBM/臨床推論	臨床において、情報技術を利用し、適切な情報源/エビデンスを活用できる	A		A
		臨床上の問題を明確化し、解決のために最適な情報源を選定できる	A		A
		臨床研究の吟味において、研究デザインや統計的手法についての知識を応用できる	A		A
		適切な用語を用いて、医学的介入の利点と欠点を説明できる	A	A	A
		監督･指導のもとで、臨床判断に際し、関連するエビデンスの質を判断し、個々の患者への適用可能性を判断できる	A	A	A
		診療ガイドラインにアクセスし、診療に活用できる	A	A	A
		適切な用語を用いて、患者の疾患可能性にもとづく診断的検査の意義を検討できる	A	A	A
		B:仮想症例の診断的評価に際し、臨床推論を行い、得られた情報から適切で漏れのない鑑別疾患を挙げられ、適切な診断的検査法を選定でき、適切に検査所見を解釈でき、適切な臨床診断に到達することができる A:実際の症例の診断的評価に際し、臨床推論を行い、得られた情報から適切で漏れのない鑑別疾患を挙げられ、適切な診断的検査法を選定でき、適切に検査所見を解釈でき、適切な臨床診断に到達することができる	BA	B	A
	病歴聴取	臨床実習の学習項目に挙げられる特定の状況（例、急性疼痛、高齢、小児、術前など）に応じた病歴を聴取できる	A		A
		救急診療やコンサルテーション等に際して、臨床推論にもとづき、聴取すべき病歴要素を選定/調整し、的を絞った病歴聴取ができる	A		A
	身体診察	身体診察を網羅的に、系統立てて、適切な順序で滑らかに効率よく行える	A		A
		高齢者の機能的評価を行える	A	A	A

別表　科目を履修して得られる能力（医学科第5･6学年）
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	レベル	（医歯融）包括医療統合教育	臨床実習
診療の実践	身体診察	小児の成長／発達の評価を行える	A		A
		状況に応じた、的を絞った身体診察を、効率よく行える	A		A
		診察において異常所見を認識･説明･記録でき、必要な病歴･診察を追加し、適切な鑑別疾患を列挙することができる	A	A	A
	臨床手技	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技を実施できる	A		A
	診療録記載	初診時診療録/入院時要約/週間要約/退院時要約を、適切なフォーマットに沿って、適切なプロブレムリスト構築のもと、臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる	A	A	A
		日々の診療録を、適切なフォーマットに沿って、日々の変化、適切な優先順位に配列したプロブレムリスト、そして臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる	A	A	A
		再来受診の際の診療録を、適切なフォーマットに沿って、前回受診時からの変化、適切な優先順位に配列したプロブレムリスト、そして臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に簡潔に記載できる	A	A	A
	患者管理	監督･指導のもとで、急性･慢性疾患を患う患者の、外来･病棟診療での管理ができる	A		A
		安全で質の高い医療の提供の為に、状況に応じて指導医による監督･指導の必要性を適切に判断でき、求めることができる	A		A
		監督･指導のもとで、退院計画や患者教育を含めた疾患管理･予防計画の策定ができる	A		A
		診療の引き継ぎに際して、情報を効果的に伝えることができる	A	A	A
	医療安全	感染に対する標準予防策（Standard precaution）にしたがい、清潔操作を行うことができる	A		A
		感染患者隔離の必要な状況、および対処方法を説明できる	A		A
		針刺し事故、針刺切創等を予防でき、かつ遭遇した際に適切に対処できる	A		A
		医療機関における医療安全管理体制の在り方を説明できる	A	A	A
様々な制度･資源を考慮した診療	医療機関内の制度･資源の理解と活用	医療機関内インフラ（医療情報、医学情報、様々な診療部門、運営/管理業務）を活用できる	A		A
	医療･福祉制度の理解と応用	B:多学科チームでの仮想症例を通したチーム医療学習の場で、多職種よりなるチーム医療を成立させる医療･福祉システムを活用できる。 A:多職種よりなるチーム医療を成立させる医療･福祉制度を、指導/監督のもと、活用できる	BA	B	A
		B:臨床実習において、指導/監督のもとで、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム･機関を活用できる A:仮想症例検討において、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム･機関を活用できる	BA	B	A
		様々な情報源（かかりつけ医、家族、地域の福祉職員や、入院および外来診療録など）から関連する情報を効果的に取得し、診療に活用することができる	A	A	A
		医療体制の主な構成要素の役割･意義を理解･考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる	A	A	A
		医療保険、コスト、医療の質、そして医療アクセスを考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる	A	A	A
		A:医療政策の有効性が吟味でき、診療への影響を説明できる S:費用対効果研究、比較効果研究に関するエビデンスの批判的吟味ができ、診療への影響を説明できる	(S)A	(S)	A

令和4年度

医学部医学科

学生周知事項

※2024年度までの参考です。

詳細は医学教務グループまでお尋ねください。

学 生 周 知 事 項

１．連絡・通知

すべての告示、通知、連絡（試験関係、休講、講義室変更、奨学金関係、健康診断、授業料の納付、呼び出し等）は、Webclass（電子掲示板）により行います。

新たに掲示があった場合はメーリングリストで周知するので、１日に１回はメールを確認するよう心がけ、見落として不利益を被らないよう十分注意してください。

２．電話等による学生の呼び出し

電話等による学生の呼び出しは、緊急かつ重大な場合以外は行わないので、各関係者に説明しておいてください。

３．学生証

学生証は、本学の学生であることを証明するものです。

入学時に交付したものを６年間使用しますので、紛失や破損等しないよう大切に取り扱ってください。

なお、学生証は、定期試験受験時や通学定期券の購入時に提示を求められたら速やかに提示できるよう、常に携帯してください。

（１）再交付手続

学生証を紛失または破損した場合は、学務企画課（1 号館西 1 階）に申し出て、再交付の手続きをとってください。再交付には費用を徴収し、再発行までに約 １ ヶ月近くかかりますので注意してください。

（２）返却

卒業、退学または除籍となった場合は、直ちに学生証を学務企画課へ返却してください。なお、返却できない場合は、再交付時と同様に実費を徴収します。

４．証明書等

証明書等は、医学部医学教務掛にて発行するものと、自動発行機にて発行するものがあります。

（１）医学教務係（受付時間　８：３０～１７：１５）

次に掲げるものは、医学教務係で発行しますので証明書交付願を提出してください。（交付は④を除き原則として交付願を受理した日の明後日となります。）

①成績証明書

②卒業見込証明書（第６学年在籍者のみ。）

③調査書

④英文の在学証明書（交付に１週間程度要します。）

⑤通学証明書（交通機関から請求された場合に限る。）

鉄道やバスの通学定期券を購入する場合は、住居の最寄り駅または大学の最寄り駅にて学生証を提示し、直接購入してください。

（２）自動発行機（利用時間　８：３０～２１：００）

在学証明書は、学生談話室（５号館４階）に設置されている「自動発行機」にて発行します。（問い合わせ先）学務企画課企画調査係（０３－５８０３－５０７４）

５．学生旅客運賃割引証（学割証）

（１）学生が課外活動や帰省などでJR線を利用する場合、乗車区間が片道１００ｋｍを超えるときに旅客運賃の割引（２割）受けることができるものです。

この制度は、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的とするものなので、計画的に使用すること。（年間使用限度は１人１０枚、１回につき２枚までです。）

（２）次に掲げる行為があったときは、普通運賃の２倍の追徴金を徴収されるばかりでなく、本学の全学生に対する学割証の発行が停止されることがありますので、乱用または不正使用のないよう注意してください。

①他人名義の学割証を使って乗車券を購入したとき。

②名義人が乗車券を購入し、それを他人に使用させたとき。

③使用有効期間を経過したものを使用したとき。

（３）学割証は、学生談話室（５号館４階）に設置されている「自動発行機」にて発行します。（利用時間　８：３０～２１：００）

（問い合わせ先）学生支援事務室学生支援総括係（０３－５８０３－５０７７）

６．氏名・住所等の変更

本人または正副保証人の氏名または住所等（電話番号を含む。）に変更が生じた場合は、速やかに医学教務掛へ申し出て所定の手続きをとってください。

この手続きを怠った場合、大学から本人または保証人へ緊急に連絡する必要が生じても、連絡が取れなくなる恐れがあるので注意してください。

７．欠席、休学、復学、退学

（１）授業の欠席

病気または家庭の事情等で授業を欠席する（した）場合は、欠席届を医学教務係へ提出してください。（病気の場合は、必ず医師の診断書を添付してください。）

（２）休学

病気その他の事由により、引き続き３ヶ月以上休学する場合は、休学願（保証人連署）を医学教務係へ提出し、学長の許可を受けてください。（病気の場合は、必ず医師の診断書を添付してください。）

なお、休学するにあたっては、事前に担任教員等と面談し、休学事由および休学によって生じる修学上の諸問題について十分相談してください。

また、休学を許可される期間は、通算して２年以内です。

（特別の事情があるときは、更に１年以内の休学が許可されることがあります。）

（３）復学

休学している学生が、休学許可期間の途中または満了時に復学を希望する場合は、復学願（保証人連署）を医学教務掛へ提出し、学長の許可を受けてください。（病気を理由に休学した場合は、復学可能である旨の医師の診断書を添付してください。）

疾病のため休学中の者が復学しようとするときは、保健管理センターを受診しなければなりません。

（４）退学

病気その他の事由により、学業を継続することが困難となり、退学しようとする場合は、退学願（保証人連署）を医学教務係へ提出し、学長の許可を受けてください。なお、退学するにあたっては、事前に担任教員等と面談し、退学事由等について十分相談してください。

８．ロッカーの貸与

各人にロッカーを貸与します。（1 年生は湯島キャンパスでの貸与はありません）

ロッカーでの盗難が多発していますので、貴重品等の管理は厳重にしてください。

また、各人の責による破損等については、各人の負担により原状に復してください。

９．授業中（大学行事、課外授業を含む。）の事故等

入学時に加入した「学校教育災害傷害保険」（学研災）および「学生賠償責任保険」の対象となります。（詳細は「学生生活の手引き」を参照してください。）

なお、針刺し事故（Ｂ型・Ｃ型肝炎）が起こった場合は、医学教務係（０３－５８０３－５１２０）へ連絡のうえ指示を受けた後、事故報告書を提出してください。

他人に対する針刺し事故については、上記の「学生賠償責任保険」保険の対象となります。

１０．遺失物および拾得物

学内での遺失物に関する問い合わせまたは拾得物の届け出は、下記のとおりです。

（１）講義室、実習室、ロッカー室・・・・・医学部医学教務係

（０３－５８０３－５１２０）

（２）上記（１）以外・・・・・・・・・・・・医学部総務課

（０３－５８０３－５０９６）

１１．その他

（１）クラブ、サークル等宛の郵便物等は、学生支援課の窓口で保管していますので、責任者は適宜確認してください。

なお、個人宛の郵便物等は、大学に配達されることがないようお願いします。

（２）事務の窓口

教務事務・・・・・・・医学部医学教務係

（３号館６階・０３－５８０３－５１２０）

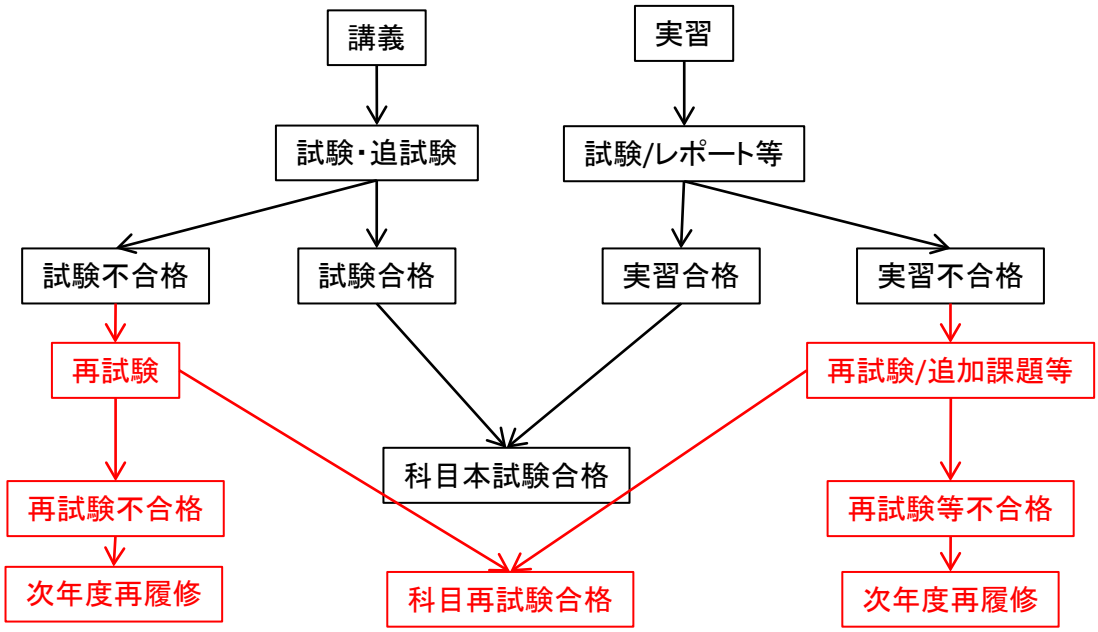
授業料の納入・・・・・財務部資金課収入管理係

（１号館西３階・０３－５８０３－５０４８）

奨学金・授業料免除・・学生支援事務室学生支援総括係

（1 号館西１階・０３－５８０３－５０７７）

第１学年進級判定（2023年度以降入学者）



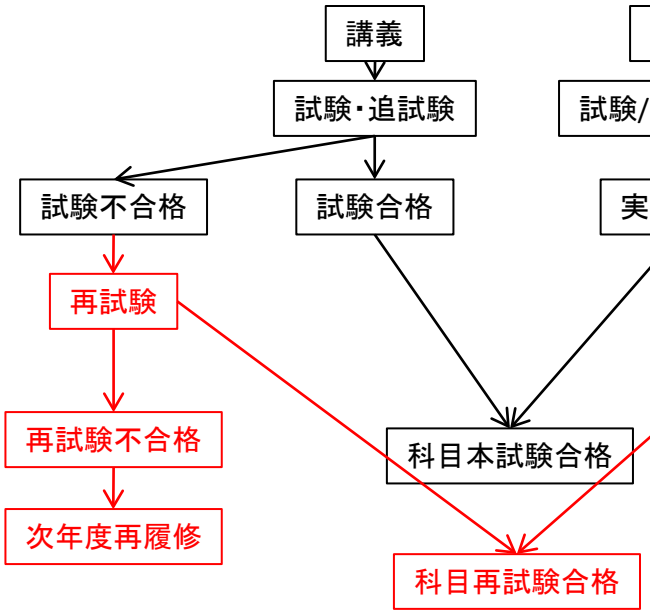
必修科目(8):
- 多職種連携Ⅰ
- 医学導入
- 匠講話
- AI・ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽのための数学
- 医療とAI・ﾋﾞｯｸﾞﾃﾞｰﾀ入門
- ｱｶﾃﾞﾐｯｸ・ﾘﾃﾗｼｰ
- 人体構造総論
- 細胞生物学

科目の合格には現在発表されている学科試験のみの合格ではなく、実習の合格も必要である。
再試験の合格判定を得るためには、上記8科目のうち5科目以上合格していることが必要になる。
＊科目本試験の不合格科目数が4科目以上になった時点で、当該年度の再試験はすべて無効となる。

進級には8科目すべての合格が必要になる。
ただし、不合格の原因に特別な事情があり、次年度の科目に加えて再履修科目も履修できると教育委員会によって判断された学生は、仮進級が認められることがある。

第２学年進級判定（2023年度以降入学者）

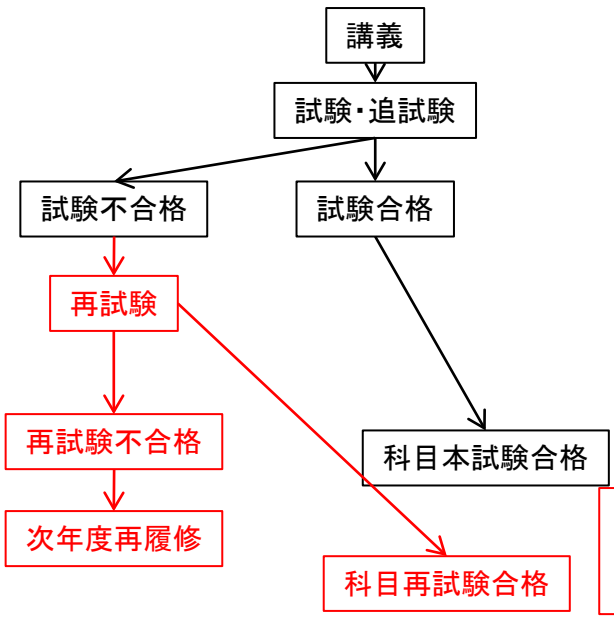
実習がある科目



実習あり(5):
- 神経解剖学
- 人体解剖学
- 組織学
- 医動物学
- 基礎医学実習

実習なし(12):
- 生理学
- 薬理学
- 生化学
- 分子遺伝学
- 免疫学
- 神経科学・基礎
- 感染・基礎
- 病理学
- 腫瘍学
- 医療とAI・ﾋﾞｯｸﾞﾃﾞｰﾀ応用
- 臨床医学導入
- 循環器

実習がない科目



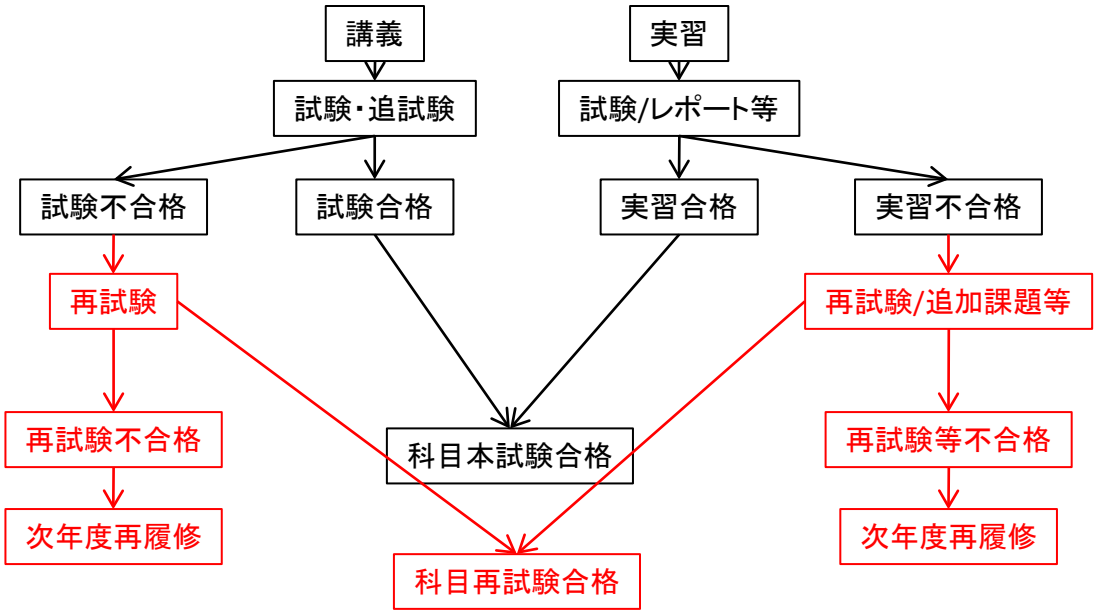
（注）英語Ⅱ（1単位）は、第2学年から第6学年のいずれかで単位修得しなければ卒業できません。
但し、過半数規定の授業科目にはカウントしません。

科目の合格には現在発表されている学科試験のみの合格ではなく、実習の合格も必要である。
再試験の合格判定を得るためには、上記17科目のうち10科目以上合格していることが必要になる。
＊科目本試験の不合格科目数が9科目以上になった時点で、当該年度の再試験はすべて無効となる。

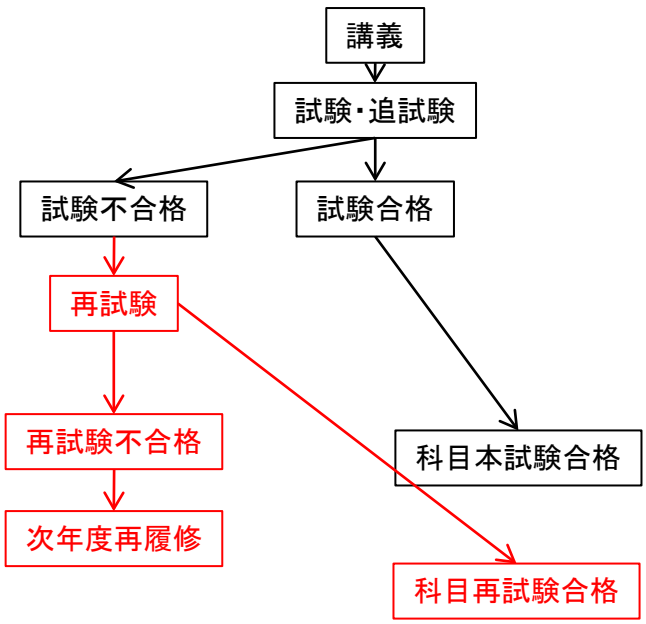
進級には17科目すべての合格が必要になる。
ただし、不合格の原因に特別な事情があり、次年度の科目に加えて再履修科目も履修できると教育委員会によって判断された学生は、仮進級が認められることがある。

第２学年進級判定（2022年度入学者）

実習がある科目



実習がない科目



実習あり(9):
- 神経解剖学
- 感染・基礎
- 人体解剖学
- 組織学
- 頭頸部・基礎
- 生理学
- 生化学
- 薬理学
- 医動物学

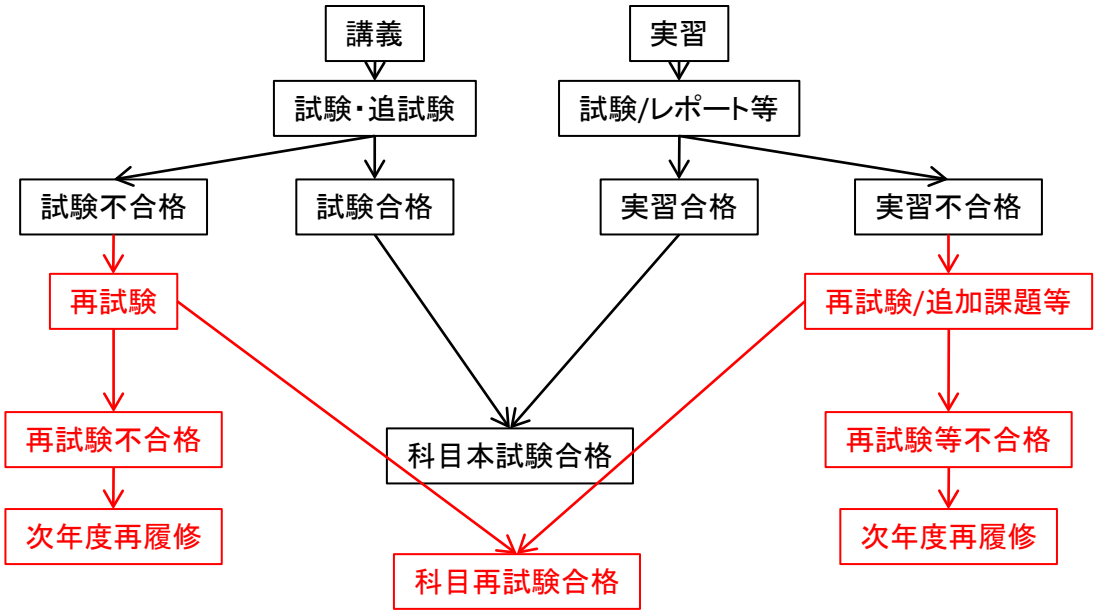
実習なし(10):
- 医歯学基盤教育（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ）
- 医歯学基盤教育（臨床統計Ⅰ）
- 医歯学基盤教育（医療とAIビッグデータ応用）
- 神経科学・基礎
- 免疫学
- 細胞生物学
- 人体構造総論
- 神経生理導入
- 病理学
- 分子遺伝学

科目の合格には現在発表されている学科試験のみの合格ではなく、実習の合格も必要である。
再試験の合格判定を得るためには、上記19科目のうち9科目以上合格していることが必要になる。
＊科目本試験の不合格科目数が10科目以上になった時点で、当該年度の再試験はすべて無効となる。

進級には19科目すべての合格が必要になる。
ただし、不合格の原因に特別な事情があり、次年度の科目に加えて再履修科目も履修できると教育委員会によって判断された学生は、仮進級が認められることがある。

第２学年進級判定（2021年度以前入学者）

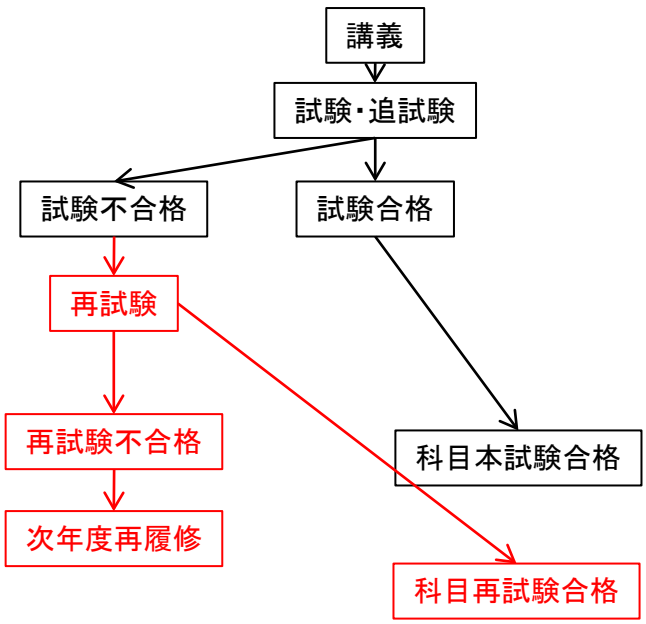
実習がある科目



実習あり(9):
- 神経解剖学
- 感染・基礎
- 人体解剖学
- 組織学
- 頭頸部・基礎
- 生理学
- 生化学
- 薬理学
- 医動物学

実習なし(9):
- 医歯学基盤教育（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ）
- 医歯学基盤教育（臨床統計Ⅰ）
- 神経科学・基礎
- 免疫学
- 細胞生物学
- 人体構造総論
- 神経生理導入
- 病理学
- 分子遺伝学

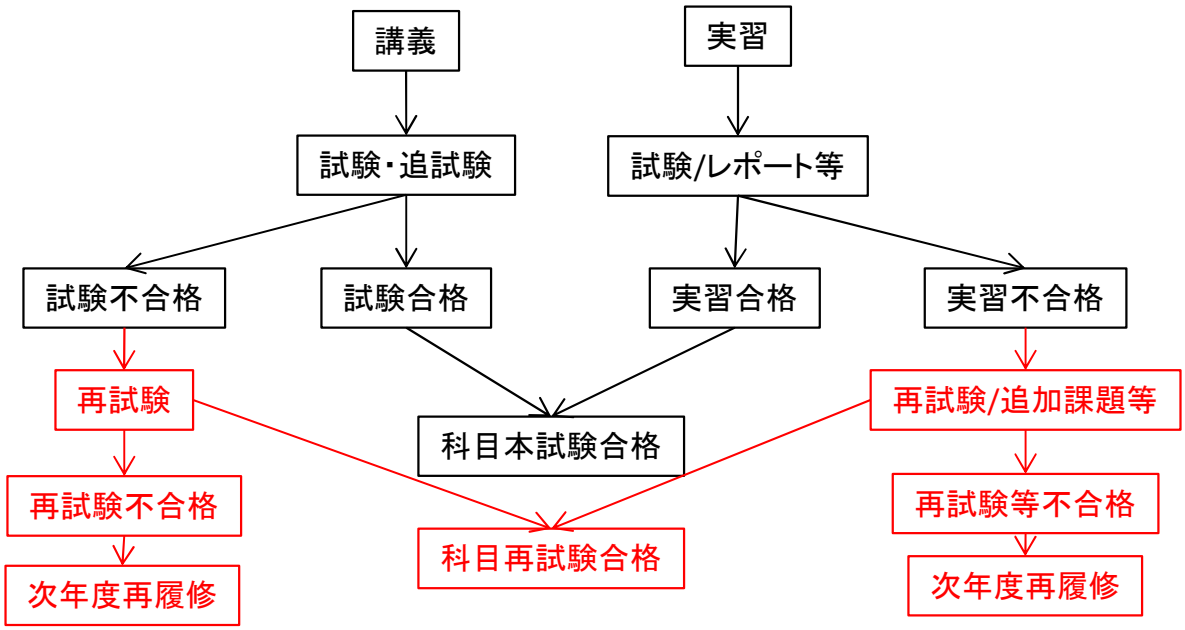
実習がない科目



科目の合格には現在発表されている学科試験のみの合格ではなく、実習の合格も必要である。
再試験の合格判定を得るためには、上記18科目のうち10科目以上合格していることが必要になる。
＊科目本試験の不合格科目数が9科目以上になった時点で、当該年度の再試験はすべて無効となる。

進級には18科目すべての合格が必要になる。
ただし、不合格の原因に特別な事情があり、次年度の科目に加えて再履修科目も履修できると教育委員会によって判断された学生は、仮進級が認められることがある。

第３学年進級判定（2023年度以降入学者）



必修科目(25):

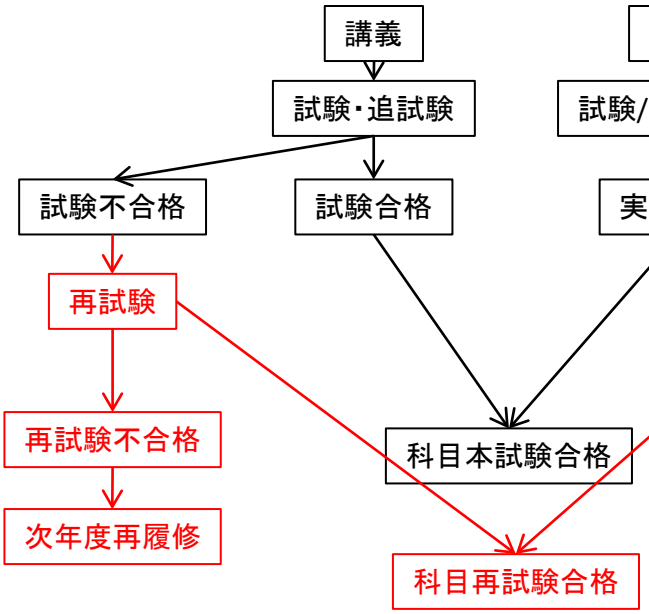
- System-based medical terminology Ⅰ
- System-based medical terminology Ⅱ
- 呼吸器
- 消化器
- 腎臓・泌尿器
- 内分泌・代謝
- 血液・腫瘍
- 一般外科
- 神経科学・臨床
- 骨・関節・脊椎
- 膠原病、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・ｱﾚﾙｷﾞｰ（皮膚・ｱﾚﾙｷﾞｰ）
- 膠原病、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・ｱﾚﾙｷﾞｰ（膠原病）
- 感染・臨床
- 頭頸部・臨床
- 膠原病、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・ｱﾚﾙｷﾞｰ（総合診療・地域医療・東洋医学）
- 生殖・発達
- 救急・麻酔・集中治療
- 法医学
- 衛生学
- 公衆衛生学
- 行動科学
- 生物統計学
- 選択社会医学実習
- 生命倫理
- 多職種連携Ⅱ

科目の合格には現在発表されている学科試験のみの合格ではなく、実習の合格も必要である。
再試験の合格判定を得るためには、上記25科目のうち13科目以上合格していることが必要になる。
＊科目本試験の不合格科目数が12科目以上になった時点で、当該年度の再試験はすべて無効となる。

進級には25科目すべての合格が必要になる。
ただし、不合格の原因に特別な事情があり、次年度の科目に加えて再履修科目も履修できると教育委員会によって判断された学生は、仮進級が認められることがある。

第３学年進級判定（2022年度以前入学者）

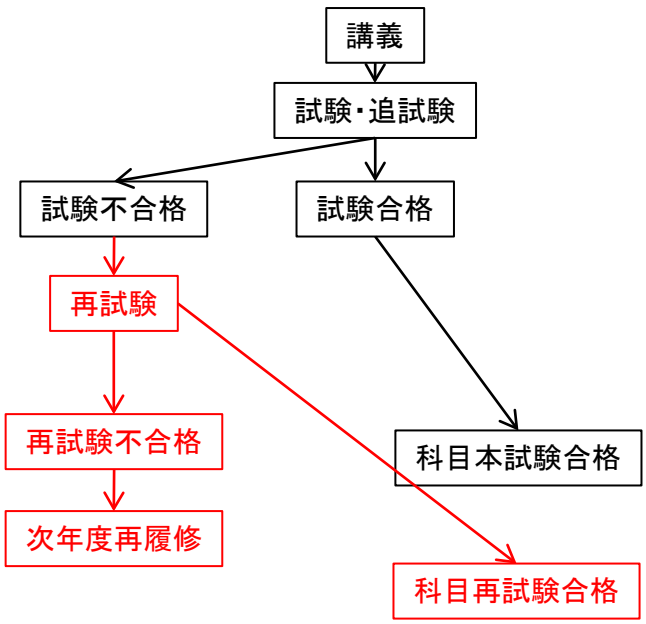
実習がある科目



実習あり(2):
- 法医学
- 衛生学

実習なし(21):
- 医歯学基盤教育（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ）
- 医歯学基盤教育（臨床統計Ⅱ）
- 医歯学基盤教育（生命倫理Ⅰ）
- 公衆衛生学（講義）
- 腫瘍学
- 神経科学・臨床
- 感染・臨床
- 循環器
- 消化器
- 呼吸器
- 体液制御・泌尿器
- 内分泌・代謝
- 血液・腫瘍
- 行動科学
- 頭頸部・臨床
- 総合診療・地域医療
- 皮膚・アレルギー・膠原病
- 一般外科
- 骨・関節・脊椎
- 東洋医学
- 臨床医学導入

実習がない科目

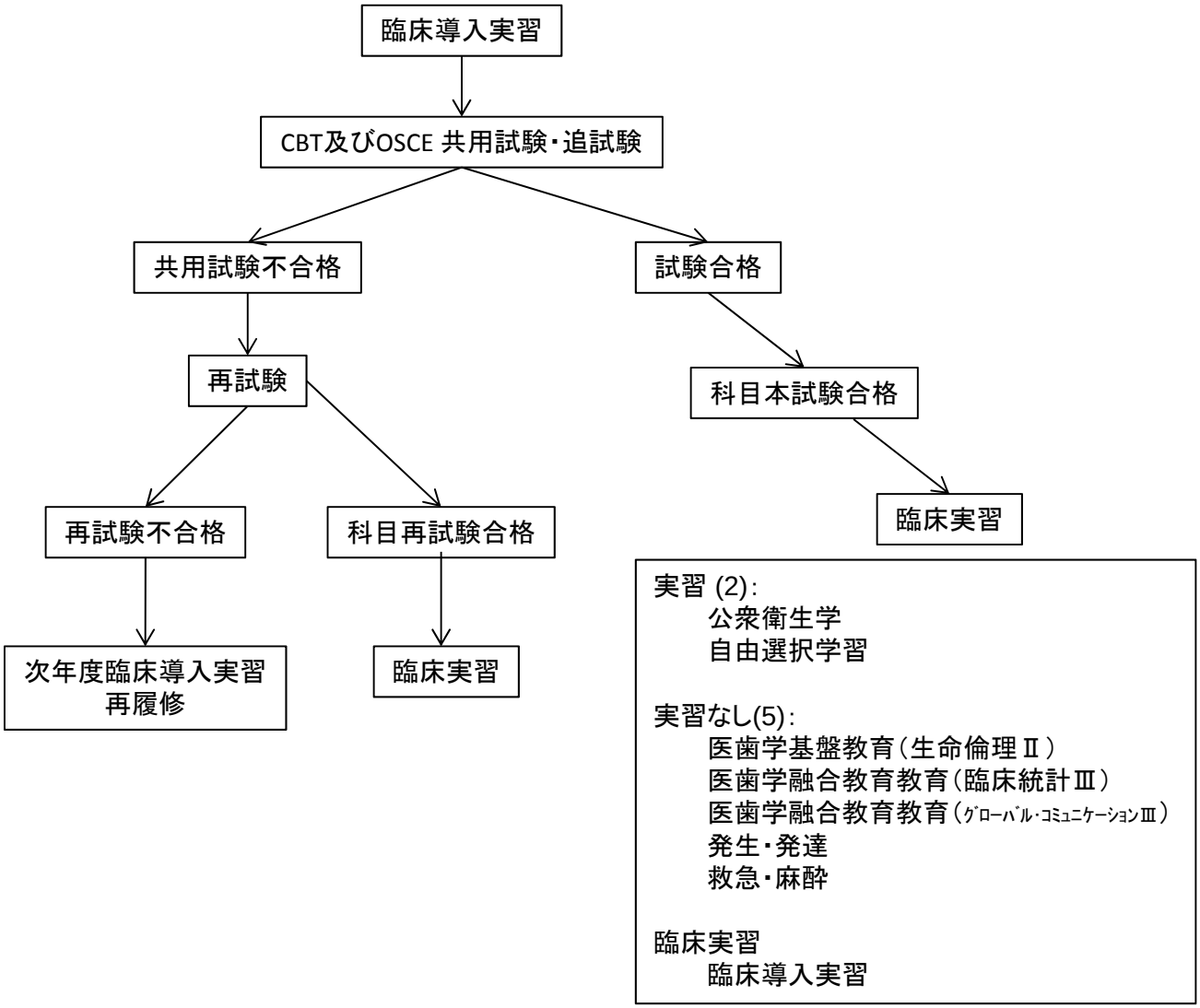


科目の合格には現在発表されている学科試験のみの合格ではなく、実習の合格も必要である。
再試験の合格判定を得るためには、上記23科目のうち12科目以上合格していることが必要になる。
＊科目本試験の不合格科目数が13科目以上になった時点で、当該年度の再試験はすべて無効となる。

進級には23科目すべての合格が必要になる。
ただし、不合格の原因に特別な事情があり、次年度の科目に加えて再履修科目も履修できると教育委員会によって判断された学生は、仮進級が認められることがある。

第４学年進級判定

臨床導入実習



実習 (2):
　公衆衛生学
　自由選択学習

実習なし(5):
　医歯学基盤教育（生命倫理Ⅱ）
　医歯学融合教育教育（臨床統計Ⅲ）
　医歯学融合教育教育（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ）
　発生・発達
　救急・麻酔

臨床実習
　臨床導入実習

科目の合格には現在発表されている学科試験のみの合格ではなく、実習の合格も必要である。
再試験の合格判定を得るためには、上記7科目のうち4科目以上合格していることが必要になる。
＊科目本試験の不合格科目数が4科目以上になった時点で、当該年度の再試験はすべて無効となる。

臨床導入実習に進むためには 7科目すべての合格が必要になり、進級には7科目すべての合格と
臨床導入実習及び共用試験（CBT・OSCE）の合格が必要になる。
臨床導入実習が不合格になった場合には、翌年、臨床導入実習を再履修し、共用試験を受験する必要がある。

湯島キャンパス・駿河台キャンパス

1	1 号館西 【1 号館・管理棟】	8	旧 3 号館	15	8 号館南 【共同研究棟】
2	2 号館 【2 号館・附属教育施設等】	9	医科 A 棟 【医科新棟】	16	8 号館北 【RI 実験施設棟】
3	1 号館東 【歯科研究棟】	10	医科 B 棟 【医科新棟】	17	生体材料工学研究所
4	7 号館 【歯学部校舎棟】	11	3 号館 【医歯学総合研究棟（I 期棟)】	18	難治疾患研究所駿河台棟
5	歯科棟北 【歯科棟】	12	M&D タワー 【医歯学総合研究棟（II 期棟)】	19	12 号館 【駿河台臨床研究棟】
6	歯科棟南 【歯科外来事務棟】	13	5 号館	20	看護師宿舎 （レジデンス茗芳）
7	10 号館 【総合教育研究棟】	14	6 号館		